岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集

沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道（山田道路）関連遺跡発掘調査

第一分冊（一～三次調査）

（財）岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸縦貫自動車道（山田道路）関連遺跡発掘調査

第一分冊（一～三次調査）

遺 跡 調 査 区 全 景

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことでありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明があたるのも事実であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、（財）岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置を取って参りました。

三陸縦貫自動車道は、宮古市と宮城県仙台市を結ぶ自動車専用道路で、延長距離は約220kmあります。国道45号を使うと７時間あまりかかっていたものを約３時間で結ぶものです。 時間の短縮のみならず、地域間交流の拡大、地域経済の発展・活性化、安全確実な交通の確保などが期待されています。

工事は1988（昭和63）年度に事業着手され、それに先立つ1987年から岩手県教育委員会文化課による遺跡の分布調査や試掘が行われ、路線変更の不可能な遺跡を順次発掘調査して参りました。

山田町沢田Ｉ遺跡もその一貫として調査することになりました。今回の調査は平成６年から９年の四カ年に亘り行われました。その結果縄文時代前期から平安時代までの集落跡の資料を提供することになりました。特に大平洋側では初めてといわれる縄文時代前期の大型住居跡群、弥生時代の集落跡、隣接する房の沢Ⅳ遺跡の古墳群と関連が考えられる古代の集落跡など東北地方や日本の歴史解明に寄与できるものと思われます。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解あるいは啓蒙普及の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力賜りました建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所・山田町教育委員会をはじめとする関係者各位に心より謝意を表します。

平成１１年３月

財団法人岩手県文化振興事業団
理事長　船　越　昭　治

例　言

1　この報告書は三陸縦貫自動車道山田道路建設に伴う沢田Ⅰ遺跡の緊急発掘調査の報告である。

2　調査は平成6年8月1日～11月11日、平成7年6月15日～8月4日、平成8年8月1日～8月30日、平成9年4月7日～11月13日の四次に亘って行われた。

3　一次調査は渡辺洋一・高橋佐知子・木戸口俊子が、二次調査は佐々木清文・大場慎也が、三次調査は佐々木清文・佐藤良和が、四次調査は千葉正彦・川向聖子・星雅之・佐藤良和がそれぞれ担当した。

4　整理は一次調査は渡辺が、二次調査は佐々木が、三次調査は佐々木・佐藤が、四次調査は千葉・星・川向が担当し、執筆は一次から三次は佐々木が、四次は千葉・星・佐々木が、編集は佐々木が担当した。

5　調査面積は一次調査が2,000㎡、二次調査が2,500㎡、三次調査980㎡、四次調査6,200㎡の合計11,680㎡で、遺構の平面位置は一次調査を除き平面直角座標第Ⅹ系で表示した。

6　グリッドの配置は4mメッシュで区切り、南北をアルファベット・東西を数字で表し、その組み合わせをグリッド名とした。

7　高さは標高値をそのまま使用している。

8　土層の観察にあたっては「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄(1967)）を参考にした。

9　沢田Ⅰ遺跡の遺構名称は、住居跡はRA、土坑はRD、焼土・炉跡はRF、溝跡はRG、墓壙はRT、鍛冶炉はRW、その他はRZとを冠し、検出順に通しナンバーとした。ただし住居跡のうち縄文時代は100番台～、奈良時代以降のものは500番台～とした。しかし数次に亘る調査で多少の混乱や欠番が生じている。

10　報告は各年次毎に分けて行い一～三次調査は第一分冊、四次調査は第二分冊とした。

11　石材の鑑定は、一～三次調査は佐藤二郎氏に、四次調査は花崗岩研究会に依頼した。

12　鉄製品の分析は、川鉄テクノリサーチ株式会社に委託した。

13　炭化材の樹種同定は木工舎「ゆい」に委託した。

14　火山灰の鑑定は（株）古環境研究所に依頼した。

15　土壌の脂質分析は八戸工業高等専門学校　大久保惠氏・千葉憲一氏に依頼した。

16　金属製品の保存処理は、(株)ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石文化財保存処理センターに委託した。

17　羽口や土器の胎土分析は奈良教育大学三辻利一教授に依頼した。

18　現地での調査や整理作業にあたり以下の方々のご指導を得た（敬称略）。

工藤雅樹　高橋信雄　佐藤嘉広　佐々木　務　熊谷常正　佐々木　勝　三浦謙一　女鹿潤哉　鎌田裕二
竹下将男　高田一徳　中村良幸　高橋憲太郎　小向裕明　佐藤正彦　熊谷　賢　日下和寿

19　使用した地形図は建設省国土地理院発行の5万分の1「大槌」の一部である。

20　遺構の図版は原則として50分の1の縮尺とし、スケールと方位を付した。

21　遺物の図版は、器種により縮尺が異なるので、スケールを付した。

22　図版に使用したスクリーントーンは以下の内容を示す。

焼土・赤色変化部分　炭化物

羽口熔融部分　地山　方位

礫　S　土器　P　鉄滓　I

23　土師器・須恵器の表現図は整理法方のところに記載した。

24　写真図版の縮尺は不定である。

25　野外調査や室内整理に伴う出土遺物及び諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

目　　次

巻頭カラー
序
例言
Ⅰ　調査と整理の方法……1
　1　調査に至る経過および調査経過……1
　2　調査方法……1
　3　整理方法……2
Ⅱ　遺跡の位置と環境……4
　1　遺跡の位置……4
　2　地理的環境……4
　3　地形と周辺の遺跡……7
Ⅲ　第一次調査の報告……11
Ⅳ　第二次調査の報告……149
Ⅴ　第三次調査の報告……331
Ⅵ　第四次調査の報告……第二分冊
（Ⅶ　まとめと考察）

第　一　次　調　査　目　次

1　基本土層……15
2　遺構と遺物……15
（1）縄文時代……15
竪穴住居跡　RA101・RA102……15
RA103～RA106……20
RA107～109……25
竪穴状遺構　RE01……25
RE02……28
焼土遺構　RF01～03……28
（2）古代……28
竪穴住居跡　RA501……28
RA502～504……32
RA505……38
RA506～508……39
RA509～512……40
竪穴状遺構　RE03……40
土坑　RD01……43
RD02～RD06……46
RD07・RD08……48
焼土遺構　RF04・RF05……48
鍛冶遺構　RW01……48
（3）時期不明遺構……51
竪穴状遺構　RE04……51
土坑　RD09～13……51
RD14・RD15……52
RD16～21……53
RD22～27……55
RD28～34……57
RD35～41……59
RD42・RD43……60
RD44……61
焼土遺構　RF06・RF07……61
溝跡　RG01・RG02……61
墓壙　RT01……63
3　遺構外の出土遺物……63
（1）土器……63
（2）石器……66
（3）鉄製品……66
4　山田町沢田Ⅰ遺跡出土品の分析・調査……69
5　まとめ……91
表1　遺跡一覧表……8
表2～4　遺構一覧表……92
表5　土器観察表……95
表6　石器一覧表……98
表7　鉄製品一覧表……99

第　二　次　調　査　目　次

1　基本土層……154
2　遺構と遺物……154
(1) 縄文時代……154
竪穴住居跡……154
RA110・111……154
RA112・113……159
RA114・115……162
RA116……170
RA117・118……171
RA119・120……177
RA121～123……184
RA124～127……187
RA128～131……190
竪穴状遺構……192
RE04……192
土坑……192
RD31・33・34・36……192
RD37・39・41・44・45……195
RD47～49・51……198
焼土遺構……198
RF08……198
RF09・10……201
その他の遺構……201
RZ19落とし穴……201
(2) 古代……203
竪穴住居跡……203
RA513・514……203
RA515……207
RA516～518……208
RA519……218
RA520・521……219
RA522……226
竪穴状遺構……226
RE05……226
土坑……229
RD32・40……229
(3) 時期不明遺構……230
土坑……230
RD35・38・42・43・46……230
RD50……232
3　遺構外の出土遺物……233
土器……233
鉄製品……239
石器……239
鉄滓……243
4　まとめ……248
遺構一覧表……249
土器観察表……251
鉄製品一覧表……259
石器一覧表……260

第　三　次　調　査　目　次

1　基本土層……335
2　遺構と遺物……335
(1) 縄文時代……335
竪穴住居跡……335
RA116……335
RA132……341
RA133・134・135……343
RA136・137・138・139……348
土坑……353
RD75・52・53・54・55……353
RD56・57・58・59……356
焼土遺構……358
RF11・12・13・14・15・16……358
RF17・18・19……360
その他の遺構……360
RZ01落とし穴……360
(2) 古代……360
住居跡……360
RA523……360
RA524……363
RA525……364
3　遺構外の出土遺物……366
土器……366
鉄製品……366
石器……366
4　まとめ……371

遺構一覧表……373
土器観察表……374
石器一覧表……377
鉄製品一覧表……379

Ⅰ　調査と整理の方法

1　調査に至る経過および調査経過

三陸縦貫自動車道は、宮城県仙台市と岩手県宮古市を結ぶ延長約220kmの一般国道の自動車専用道路であり、八戸・久慈自動車道とともに、昭和62年に指定された全国約14,000kmの高規格幹線道路網の一部をなすものである。

山田道路は山田町関谷と船越の間約7.8kmの区間である。一般国道45号山田市街地の増大する交通需要に対応するため、山田バイパスとして昭和62年度に事業化したものであるが、同年6月に三陸縦貫自動車道の一部に指定されたことにより、昭和63年度に新たに南側延長部も合わせて事業に着手したもので、高規格幹線道路として事業の促進を図っている。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が分布調査と一部の試掘調査を昭和62年度から実施し、これまでに、14遺跡、103,225㎡が確認されている。その後、岩手県教育委員会は建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

これにより、平成２年度より織笠地区の細浦Ⅱ遺跡を手始めに順次調査が行われた。調査対象遺跡は工事施工の急がれる地区や用地買収の進捗状況に合わせて行われたため、沢田Ⅰ遺跡の調査は四年次にまたがるものになった。一次調査は平成6年8月1日～11月11日に2,000㎡が、二次調査は平成7年6月15日～8月4日に2,500㎡が、三次調査は平成8年8月1日～8月30日に980㎡が、四次調査は平成9年4月7日～11月13日に6,200㎡の合計11,680㎡が行われた。

山田道路関連の発掘調査は、平成2年に細浦Ⅱ遺跡・細浦Ⅰ遺跡・湾台Ⅲ遺跡が行われ、平成3年には湾台Ⅱ遺跡が、平成4年には上村遺跡・大畑Ⅱ遺跡が行われた。平成5年度には大畑Ⅰ遺跡・大畑Ⅱ遺跡の継続部分・山ノ内Ⅲ遺跡が調査され、平成6年度には山ノ内Ⅲ遺跡の継続部分・沢田Ⅰ遺跡が調査された。平成7年には沢田Ⅰ遺跡の継続部分・山ノ内Ⅱ遺跡・山ノ内Ⅲ遺跡の継続部分の調査が行われたが、山ノ内Ⅲ遺跡の調査は岩手県教育委員会文化課が対応した。平成8年度は沢田Ⅱ遺跡と沢田Ⅰ遺跡の継続部分・房の沢Ⅳ遺跡の調査が行われ、沢田Ⅰ遺跡と房の沢Ⅳ遺跡は平成9年度も継続調査され、終了した。

2　調査方法

(1)　グリッド設定と遺構名

三陸自動車道・山田道路に関連する発掘調査は、平成２年度から始まり、当遺跡のほかにも山ノ内Ⅱ遺跡や上村遺跡・大畑遺跡などで行われている。また周辺に沢田Ⅱ遺跡や房の沢Ⅳ遺跡など多くの遺跡が存在するので、将来の調査を考慮し、遺構の位置を明確にしておくために公共座標の第Ｘ系に合わせた基準点を設定した。基準にした座標は基準点１（Ｘ：-57,370.000・Ｙ： 96,280.000・Ｈ：16.022)、基準点２（Ｘ：-57,440.000・Ｙ：96,280.000・Ｈ：12.363）である。基準点Ⅰと基準点Ⅱを結ぶ直線とこれに直交する直線を座標の基軸線とし、遺跡全体を覆う4mメッシュのグリッドとした。グリッドの名称は遺構配置図のように、西から東に二桁の数字で、北から南にかけてアルファベットで表し、その組み合わせで表示した。

実測図には必ず座標値を記入し、グリッド名もできるだけ記入するようにした。

しかし、一次調査の時設定した基準杭（(1)X:-57,491.863、Y:96,377.439、H:15.301、(2)X:-57,378.194、Y:96,267.610、H:16.720）が表土除去の際消失したとのことで、二次調査の際に基準杭を設定し直した。

その結果、渡辺の計算して設定したグリッドと二次調査以降のグリッドに数十cmのずれがあることが判明した。しかし補正が困難であったため、図版にはそのまま使用した。

(2) 粗堀・遺構検出と精査

グリッドの設定に並行して数カ所に試掘トレンチを入れ、それらの土層を参考にし表土除去を行い、順次遺構検出を行い、精査・実測を行った。しかし一次調査では予想以上に遺構が多く検出されたので、部分的な遺構精査に終わった。表土の除去及び排土の移動は重機（バックホー）を使用し、その他は人力による調査を原則として行った。多量の排土は、調査地に隣接する買収済みの路線内や調査終了部分に移動した。

(3) 記録方法

遺構は、土層断面および平面を写真撮影と実測で記録しながら調査した。原則として地形の傾斜にあわせた土層観察用のベルトを遺構の大きさに合わせて、単数ないしは複数設定したが、調査の進行上土層断面の写真や実測を省略した遺構もある。遺物は遺構に伴うものは遺構名と出土層位を、遺構に伴わないものはグリッド毎に層位を記して取り上げた。

記録にはポラロイドカメラを多用し、フィールドカードに観察メモと共に整理した。

遺構の調査終了後、空中写真撮影を行い、その後で炉跡や貼り床を剥がし、だめ押しの調査を行った。

遺構の名称は、住居跡はRA、土坑はRD、焼土・炉跡はRF、溝跡はRG、土壙墓はRT、鍛冶炉はRW、その他はRZを冠し、検出順に通しナンバーとした。住居跡の縄文時代のものは100番台～奈良時代以降のものは500番台～とした。

各年次の調査の終了時や場合によっては調査中に土砂流出の防止処置や危険防止処置を実施した。

しかし一次調査を担当した渡辺が平成７年４月の人事異動で大川中学校に転出したため、調査方法や遺構の解釈や座標のずれ等についての引継がなされていない。

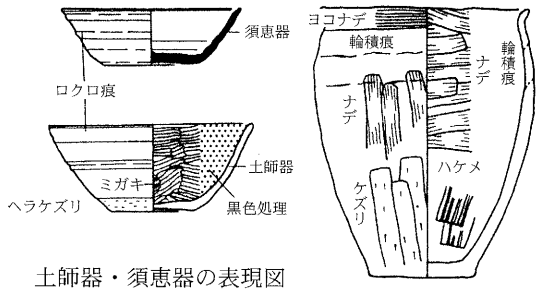
3 整理方法

(1) 作業手順

遺物の洗浄・注記や図面の点検・写真の整理は、原則として現場で野外調査と並行して行った。

遺構の図面は、点検後必要に応じて合成・分解を行い、トレースした。図面に使用したスクリーン・トーンや記号は凡例に示した。

原稿の執筆は、これら整理された図面と写真・フィールドカードを元に調査者が行うことを原則とした。しかし、一次調査の責任者渡辺は転出したため、残された図面・写真・高橋佐知子の作成した少量のフィールドカードを元に佐々木が執筆した。そのため、一次調査と二次調査以後の報告の形態は多少異なる。



土師器・須恵器の表現図

(2) 遺物の扱い

鉄製品は蒸留水に長時間浸け脱塩後、エチルアルコールに浸けて脱水した。その後簡単な錆落としをし、パラロイドB72アセトン溶液を塗布し仮強化し、簡単な実測・計測を行ってから、乾燥剤入りの袋やタッパーに保管した。その後、株式会社ニッテツ・ファイン・プロダクツに依頼して保存処理を行った。保存処理の終わった遺物は、実測と写真撮影を行った後、乾燥状態を保持するよう考慮して収納した。

また、風化した石器や劣化した羽口片には、石材強化剤やパラロイドB72アセトン溶液を含浸させ強化した。

洗浄・注記を終えた遺物は、報告書掲載用のものを選び出し、台帳に記載した。土器片は極力接合復元し、実測・写真撮影を行った。土器片は、遺構に伴出するものを主として拓本・写真撮影を行った。小破片の中には写真撮影だけのものもある。石器・鉄製品は実測・写真撮影・計測を行った。鉄滓・羽口破片も報告書掲載用のものについては実測・写真撮影・計測を行った。

胎土分析に供する試料は、電動カッターを使い、遺物の復元に支障の無いように最小限の切断をし、奈良教育大学三辻利一先生に送った。

(3) 資料の収納

撮影したフィルムは遺構・遺物ともネガアルバムにベタ焼き写真とともに整理した。カラースライドはスライドファイルに撮影順に整理した。

遺物・図面・アルバム類は報告書作成後、資料課の台帳に記載して所定の場所に収納した。遺物は報告書に記載した分とそれ以外のものでは収納場所が異なる。

(4) 調査成果の概要

一次調査から四次調査までに調査された遺跡数は、建て替え住居跡の数え方で多少異なるが、概ね次のような数字になった。縄文時代早期2棟・前期66棟・中期42棟・不明10棟・弥生時代7棟、奈良時代25棟・平安時代18棟・不明1棟、建物跡1棟、竪穴状遺構11棟、土坑122基、落とし穴4基、焼土遺構23カ所、鍛冶工房跡1、墓壙1、木炭窯2、溝跡1条

各調査年次毎の調査遺構数は以下のようになる。

一次調査

縄文時代住居跡9棟（前期5・中期4）、竪穴状遺構2棟、焼土遺構2カ所、古代住居跡12棟（奈良4、平安7、不明1）、竪穴状遺構1棟、土坑8基、焼土1カ所、鍛冶工房1ヵ所

時期不明竪穴状遺構1、土坑36基、溝2条、焼土遺構2ヵ所、墓穴1基

二次調査

縄文時代住居跡22棟（前期9・中期3・不明10）、竪穴状遺構1棟、土坑13基、焼土遺構3ヵ所、落とし穴1基、古代住居跡10棟（奈良5・平安5）、竪穴状遺構1棟、土坑2基、

時期不明土坑6基

三次調査

縄文時代住居跡9棟（前期6・中期3）、土坑9基、焼土遺構9カ所、落とし穴1基、

古代住居跡3棟（奈良時代2・平安？1）

四次調査

縄文時代住居跡80棟（早期2・前期46・中期32）、竪穴状遺構4棟、土坑18基、焼土遺構1カ所、落とし穴1基

弥生時代住居跡7棟

古代住居跡19棟（奈良時代14・平安5）、建物跡1棟、土坑8基、焼土遺構1カ所

時期不明竪穴状遺構2棟、土坑32基、焼土遺構2カ所、溝跡1条

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置

沢田Ⅰ遺跡は、岩手県下閉伊郡山田町山田4地割10ほかに所在し、ＪＲ山田線陸中山田駅の北約2kmの山田北小学校の北に広がっている。国土地理院発行の５万分の１地形図「大槌」(NJ-54-13-4)の図に含まれ、遺跡の中心付近は北緯39°28′39″、東経141°57′9″の位置である。

本遺跡の所在する山田町は岩手県の大平洋側に面したほぼ中央部にあり、宮古市と釜石市のほぼ中間に位置する。東側には海の十和田湖と呼ばれる山田湾と隣の船越湾をかかえ、西部は北上山地の支脈が延び山岳地帯を形成している。荒川川・豊間根川・関口川・織笠川が支脈の間を流れ、前の二河川は津軽石川となり宮古湾に、後の二河川は山田湾に注いでいる。

津軽石湾からブナ峠を越えて町内の海岸沿いを南北に縦断する一般国道45号が主要幹線となり、それと交差する3本の県道や多くの町道が町内各地を連絡している。またJR山田線が豊間根から関口を迂回して、国道45号と平行するように通じており、町内には豊間根・陸中山田・織笠・岩手船越の4駅がある。

沢田地区は山田町の中央部付近に位置し、町の中心街から北側の関口川左岸の地域である。山田北小学校や鮭の人工孵化場などがあり、水田が広がり、宅地が散在している。

2　地理的環境

陸中海岸のほぼ中央に位置する山田町は、北部は宮古市、西部は川井村と大槌町、南部は大槌町、東部は大平洋に面している。面積は263.40km²に及ぶが、平地部はきわめて少なく、面積の大半は山林原野が占めている。船越半島亀ヶ鼻は、東経142°3′54″にあり、本州最東端の鮭ヶ崎にわずかに50数秒及ばない。

1889年（明治22）の町村合併で、山田・飯岡が合併して山田町に、豊間根・荒川・石峠が合併して豊間根村となり、1955年（昭和30）に旧山田町と織笠・船越・豊間根・大沢の4村が合併して山田町となり、現在に至っている。

東部・南東部は典型的なリアス式海岸で、波静かな山田湾と船越湾を擁している。また、沖合いは親潮と黒潮が交差して世界でも有数な三陸漁場を形成し、豊富な漁業資源に恵まれている。

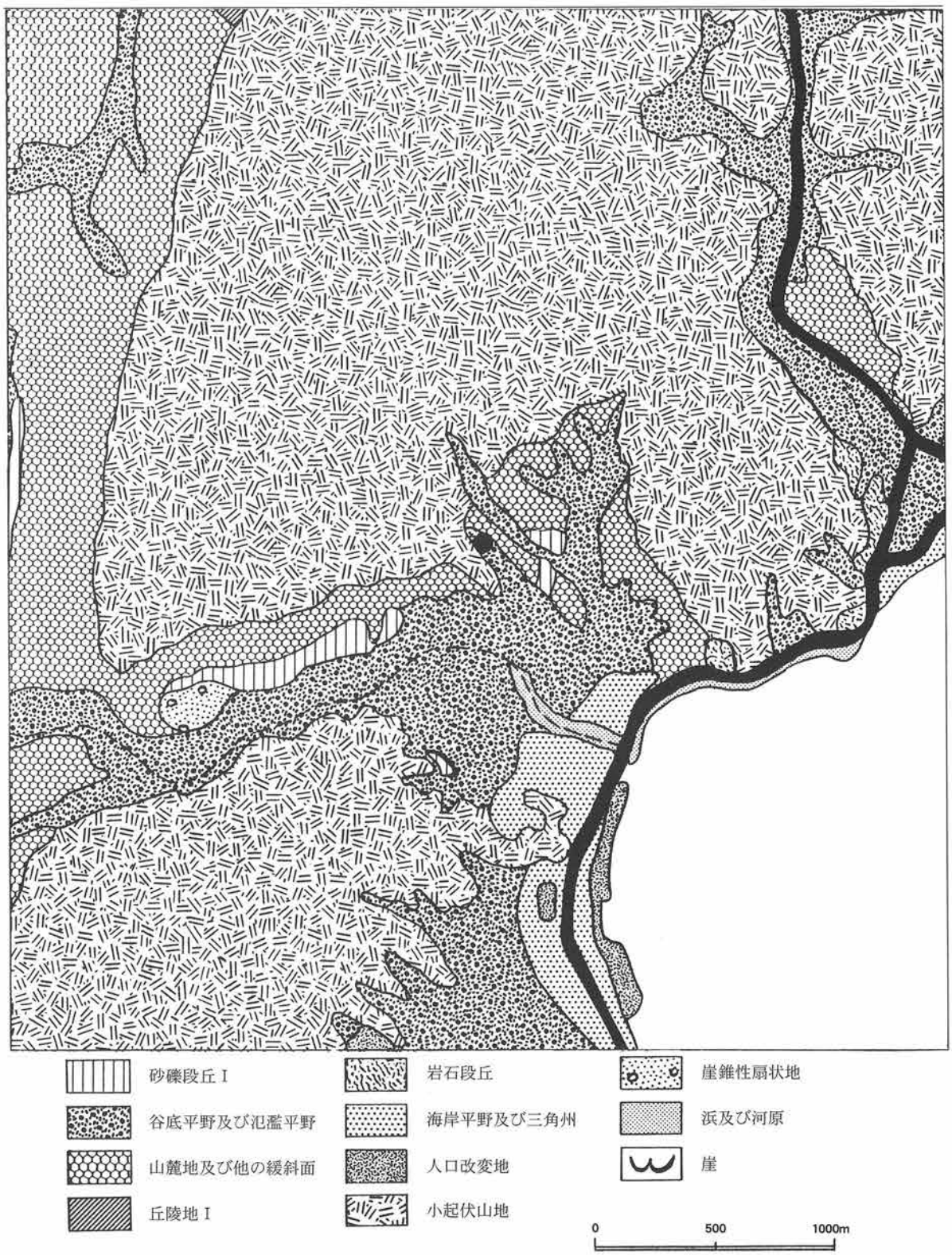
船越半島は、昭和30年に国立公園の指定を受けた陸中海岸国立公園の中央に位置し、断崖・磯・赤松などの海岸性原生自然の景観に優れ、学術的にも価値が高く、本州に残された唯一最後の秘境とも言われている。

気候は、沖合いで交差する寒流系の親潮と暖流系の黒潮などの海流と、西方を縦走する急峻な北上山地の影響を強く受け、一般的には降雪量が少なく、冬暖かく夏涼しい過ごしやすい温暖な気候である。年平均気温は昭和62年から平成3年の5年間で10.1℃、平成4年から8年までの5年間でも10.1℃である。年平均の降水量は昭和62年から平成3年までは約1,612mmであるが、その後平成4年から8年までは1,193mmと少なくなっており、平成8年のように1000mmを切っている年もある。

一方、三陸海岸は記録上は貞観11(869)年以来現在に至るまで幾度となく津波に襲われ、その都度大きな被害を受け、多くの尊い人命財産を失ってきた。山田町もその例外ではなく、明治29年の大津波では沿岸部総人口の約30％が死亡・流失損壊家屋66％の大損害を受けている。船越湾から押し寄せた津波は、当時前須賀にあった集落を飲み込み、地峡部を越えて山田湾に流れ込み、大沢で跳ね返り、さらに川向・織笠・大浦まで及んでいる。

昭和になってからも昭和8年3月3日の三陸大津波、昭和35年5月24日のチリ地震津波、昭和43年5月16日

第1図　遺跡位置図（地形図は1：25000）


砂礫段丘Ⅰ
谷底平野及び氾濫平野
山麓地及び他の緩斜面
丘陵地Ⅰ
岩石段丘
海岸平野及び三角州
人口改変地
小起伏山地
崖錐性扇状地
浜及び河原
崖
0
500
1000m

第2図　地形分類図

の十勝沖地震津波と記憶に新しいものもある。三陸大津波とチリ地震津波の時も津波は地峡部を越えて山田湾に流れ込み、被害を大きくしている。

昭和8年の三陸大津波を教訓に、田老町の大防潮堤とともに山田町でも防潮堤の建設や高台への建物移転など各地で防災対策が進められたが、チリ地震津波では充分な効果が認められず、さらに改良拡充された施設づくりが進められている。

3　地形と周辺の遺跡

北上山地沿岸部に面するこの地域は、西側に北上山地隆起準平原を示す地形が残っている。この隆起準平原は海岸側が強く侵食されており、海岸に沿って南北に分布する宮古花崗岩類から成る地域は、低くなだらかな山形を作り、古生層（変成岩）との境が地形に明瞭に現れている。霞露ヶ岳(504m)や多々羅山(364m)を擁する船越半島は、中生代の火山岩類から成る山地で、かなりけわしい地形を呈し、海岸は絶壁を作っており、霞露ヶ岳東方の赤平金剛付近では、150mに及ぶ断崖が見られる。

海岸線はかなり複雑に湾入し、いわゆる陸中海岸のリアス式海岸を形成している。海岸段丘はほとんど発達していない。

北上山地はかつて侵食により準平原となった平坦な地形が、土地の隆起のために侵食が復活し、開析が進んでいる。侵食の程度を表す起伏量が400mより大の大起伏山地、400～200mの中起伏山地、200mより小の小起伏山地の３つに大別されるが、さらに山地の山麓には山麓緩斜面が付随的に認められる。

丘陵地は開析の度合いが小起伏山地と同程度で、面積は狭い。海岸段丘が著しく開析されたと考えられる地形も海岸に沿って分布している。

低地の中で代表的な地形は谷底平野で、関口川・織笠川の川沿いに見られる。氾濫源の幅はごく狭い。船越の低地はごく新しく、埋積により霞露ヶ岳の部分が連繋したとされている。

関口川下流域の低平地は山田湾周辺最大の平地であり、稲作農業の中心地域であった。この低平地は縄文海進の最大水位期には全面が海水に満たされ、現在の汀線になる部分は5～6m、平均的には3mほどの浅い水域であったと考えられている。

遺跡周辺の山稜も150～200m程度のものが南北に延びており、山容もなだらかである。地形面上は低位丘陵や山麓緩斜面に相当する。遺跡は関口川に沿って形成された谷底平野に張り出す山麓の緩斜面上に立地し、東側は関口川の支流である沢田の沢に開析されている。この緩斜面はかつて果樹園や畑が西側の丘陵際まであり、北側は水田として利用されたり、一部は宅地として利用されていた。ここはそのころから縄文時代や古代の遺物が多く見られることで有名な遺跡であった。

周辺の遺跡としては、東側に縄文時代・古代の集落や中世城館跡のある沢田Ⅱ遺跡が、その南東には連続して同時期と見られる八幡館跡がある。西側の丘陵上には房の沢Ⅳ遺跡の古墳群がある。

山田町内の遺跡は、岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧（岩手県教育委員会）によると平成9年4月現在で165カ所登録されている。本報告で図示したのはそのうちの130遺跡である。一覧表と対比させてみると、縄文時代の遺跡が圧倒的に多いが、土師器や鉄滓を出土する遺跡も少なくなく、古代の遺構も多くありそうである。沿岸近くから丘陵上まで各時代の遺跡が分布するが、いずれも標高10m以上の旧汀線より上の位置である。

＜参考文献＞
山田町史編纂委員会，1986：山田町史　上巻，山田町教育委員会.
山田町津波誌編纂委員会，1982：山田町津波誌，山田町教育委員会.
岡崎セツ子，1975：北上山系開発地域土地分類基本調査　大槌・霞露ヶ岳，岩手県企画開発室.
小岩清水，1995：陸中海岸最東端域山田湾周辺の自然地形環境誌，専修大学付属高等学校紀要.
　　1993：山田町統計書第４号，山田町.
　　1995：気象月報，盛岡気象台.
佐々木信一，1994：山田町文化財調査報告書第１集，猿神遺跡発掘調査報告書，岩手県山田町教育委員会.
佐々木清文，1997：岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集（沢田Ⅱ遺跡）
　　，1997：岩手県遺跡基本図，岩手県教育委員会.
　　，1997：岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧，岩手県教育委員会.

表1　遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	種　別	時　代	遺　構　遺　物	所　在　地
2138	内野	集落跡、製鉄跡	縄文	縄文土器、土師器、羽口、鉄滓	山田町第20地割内野
1194	山谷	散布地	縄文	縄文土器	大沢山谷
2097	間木戸Ⅳ	集落跡、一里塚	縄文・近世	縄文土器、一里塚	山田第３地割
2098	間木戸Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	山田第３地割
2146	新開地Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	大沢新開地
2155	川向Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	大沢川向
2165	川向Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	大沢川向
2168	新開地Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	大沢新開地
2186	川向Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	大沢川向
2272	大沢館	城館跡	中世	主郭、腰郭、二重・三重空堀	大沢７地割
2273	紅山Ｂ	集落跡	縄文	縄文土器	大沢紅山
2281	新開地	散布地	縄文	縄文土器、石鏃	大沢新開地
2293	紅山Ａ	集落跡	縄文	縄文土器	大沢紅山
2352	浜川目沢田Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器	大沢浜川目
2377	多門	製鉄跡	縄文？	スラッグ	大沢浜川目
2381	浜川目沢田Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器	大沢浜川目
2393	浜川目沢田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後・晩期）	大沢浜川目
157	関口Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器・土師器	山田第19地割関屋
173	関口Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	山田第19地割関屋
195	上野畑	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）	山田第19地割関屋
299	関谷Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	山田第17地割
359	房の沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	山田第14地割
368	房の沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	山田第14地割
376	房の沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	山田第14地割
391	関谷Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	山田第15地割
1115	上野台Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、土師器、須恵器	山田第18地割関口
1137	上野台Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	山田第18地割関口
1158	上野台Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	山田第18地割関口
1207	山田館	城館跡	中近世	主郭、二の郭、腰郭、空堀	山田17地割
1389	長崎Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第９地割
2309	長崎Ⅲ	城館跡	中世		飯岡第８地割
2316	小沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第７地割
2318	長崎Ⅳ	城館跡	中世		飯岡第８地割
2327	小沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第７地割
2345	大畑Ⅱ	散布地	不明		飯岡第６地割
2354	大畑Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第６地割
2358	飯岡Ⅰ（飯岡館）	城館跡	中世	主郭、腰郭、空堀	飯岡第６地割
2367	飯岡Ⅳ	散布地	縄文		飯岡第６地割
2374	長野Ⅰ	散布地	縄文		飯岡第６地割
2378	飯岡Ⅱ	城館跡	中世		飯岡第５地割
2383	長野Ⅱ	散布地	縄文		飯岡第６地割
5	間木戸Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	山田第３地割
7	間木戸Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	山田第３地割
25	間木戸Ⅲ	散布地	縄文		山田第３地割
32	沢田Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器、土師器	山田第14地割
33	沢田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	山田第４地割
44	沢田Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	山田第４地割
47	柳沢Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	山田第１地割
50	房の沢Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	山田第14地割
54	沢田Ⅳ（沢田館）	散布地・城館跡	縄文中世	縄文土器、主郭、腰郭、空堀	山田第４地割
58	柳沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	山田第１地割
79	柳沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	山田第１地割
136	袴田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	大沢袴田
1157	袴田Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	大沢袴田
170	柳沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	山田第１地割
1000	関谷Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第９地割

No.	遺　跡　名	種　別	時　代	遺　構　遺　物	所　在　地
1031	関谷Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第９地割
1062	関谷Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	
1071	八幡館	城館跡	中世	主郭、腰郭、空堀	八幡町７地割
1080	長崎Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	飯岡第10地割
2063	飯岡Ⅲ	散布地	縄文		飯岡第２地割
303	赤松Ⅰ	散布地	縄文		飯岡第６地割
305	赤松Ⅱ	散布地	縄文		飯岡第６地割
398	龍泉寺一里塚	一里塚	近世		織笠礼堂
1127	白石Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	織笠白石
1133	田茂沢	集落跡	縄文	縄文土器・土師器・灰釉	織笠白石
1163	日当Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	織笠白石
1165	白石Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	織笠白石
1167	白石Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	織笠白石
1170	日当Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器、弥生土器、鉄滓	織笠白石
1276	猿神	集落跡	縄文	縄文土器（前期）、土師器	織笠猿神
1280	廻立	集落跡	縄文	縄文土器、鉄滓	織笠廻立
1307	礼堂	散布地	縄文	縄文土器	織笠礼堂
1350	織笠館	城館跡	中世	主郭、二の郭、腰郭、空堀など	織笠礼堂
2100	日陰	散布地	縄文	縄文土器	織笠礼堂
2219	轟木	集落地	縄文	縄文土器（中期）、土師器	織笠轟木
30	細浦Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	織笠細浦
32	細浦Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、弥生土器、土師器	織笠細浦
37	細浦Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	織笠細浦
39	細浦Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	織笠細浦
48	細浦Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	織笠細浦
52	細浦Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
60	後山Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器、弥生土器、土師器	織笠
63	後山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、土師器、石斧	織笠
68	上	集落跡	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器	織笠
71	後山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	織笠細浦
86	上村	散布地	縄文	縄文土器	織笠
121	跡浜Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	織笠
131	跡浜Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	織笠
1052	坊主山Ⅱ（一館）	城館跡	中世	主郭、腰郭、堀	織笠新田
1055	越田	城館跡・貝塚	縄文	縄文土器、土師器、貝類	織笠新田
1091	坊主山Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器	織笠坊主山
1121	草木	散布地	縄文	縄文土器	
1280	長林	散布地	縄文	縄文土器	船越長林
2012	根井沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器・土師器	織笠新田
2024	根井沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	織笠新田
2054	根井沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	織笠新田
2275	船越館	城館跡	縄文	縄文土器、主郭、帯郭	織笠細浦
2281	船越Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	船越
2292	船越Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	船越
2295	湾台Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器	船越湾台
2320	新道貝塚	貝塚	縄文	縄文土器、鉄滓	船越入江田
63	大浦崎	貝塚、生産跡	縄文	縄文土器、焼石、灰	大浦
2157	萩野平Ⅰ	集落地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器	織笠馬指野
186	萩野平Ⅱ	集落地	縄文	縄文土器	織笠馬指野
386	天王平	集落跡	縄文	縄文土器、弥生土器、鉄滓	織笠新田
388	猿喰沢	散布地	縄文	縄文土器	織笠新田
1086	萩野平Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器（後期）	織笠馬指野
2	山波	散布地	縄文	縄文土器（早・末期）	織笠新田
16	新田Ⅰ	集落跡	近世・縄文	縄文土器、土師器、中世陶器	織笠新田
35	新田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、土師器	織笠新田
77	豊面沢	散布地	縄文	縄文土器	織笠新田
81	大石平	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石斧	織笠新田
202	船越西館	城館跡	中世	主郭、腰郭、空堀、砦	船越４地割
204	湾台Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）	船越湾台
205	湾台Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	船越湾台
206	湾台Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	船越湾台
215	湾台Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	船越湾台
223	山ノ内Ⅰ	城館跡	中世		船越山の内
230	山ノ内Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	船越山の内
280	山ノ内Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	船越山の内
281	滝の沢	散布地	縄文	縄文土器	船越山の内
310	船越御所	城館地	中世	主郭、腰郭、空堀、砦	船越10地割
323	岩ヶ沢	集落跡	縄文	縄文土器	船越岩ヶ沢
365	早川	集落跡	縄文	縄文土器	船越早川
385	田の浜館	城館地	中世	主郭、腰郭、空堀、砦	船越12地割
397	大洞貝塚	貝塚、集落跡	縄文	縄文土器	船越田の浜
1119	家の沢				
1364	小田の御所	城館跡	中世	主郭、二の郭、腰郭、空堀	船越田の浜
165	大沢川	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）	船越大沢川

別称　1052：坊主山館　310：船越東館　385：早川館

第3図　遺跡分布図（岩手県遺跡基本図1997より）

第一次調査の報告

野外調査　　平成６年８月１日～１１月１１日

調査面積　　２,０００㎡

調査担当者　渡辺洋一　高橋佐知子　木戸口俊子

第　一　次　調　査　目　次

1　基本土層 ……15
2　遺構と遺物 ……15
(1) 縄文時代 ……15
竪穴住居跡　RA101・RA102 ……15
RA103～RA106 ……20
RA107～109 ……25
竪穴状遺構　RE01 ……25
RE02 ……28
焼土遺構　RF01～03 ……28
(2) 古代 ……28
竪穴住居跡　RA501 ……28
RA502～504 ……32
RA505 ……38
RA506～508 ……39
RA509～512 ……40
竪穴状遺構　RE03 ……40
土坑　RD01 ……43
RD02～RD06 ……46
RD07・RD08 ……48
焼土遺構　RF04・RF05 ……48
鍛冶遺構　RW01 ……48
(3) 時期不明遺構 ……51
竪穴状遺構　RE04 ……51
土坑　RD09～13 ……51
RD14・RD15 ……52
RD16～21 ……53
RD22～27 ……55
RD28～34 ……57
RD35～41 ……59
RD42・RD43 ……60
RD44 ……61
焼土遺構　RF06・RF07 ……61
溝跡　RG01・RG02 ……61
墓壙　RT01 ……63
3　遺構外の出土遺物 ……63
(1) 土器 ……63
(2) 石器 ……66
(3) 鉄製品 ……66
4　山田町沢田Ⅰ遺跡出土品の分析・調査 ……69
5　まとめ ……91
表1　遺跡一覧表 …… 8
表2　縄文時代竪穴住居一覧表 ……92
表3　古代竪穴住居一覧表 ……92
表4　土坑一覧表 ……93
表5　土器観察表 ……94
表6　石器一覧表 ……98
表7　鉄製品一覧表 ……99

図　版　目　次

第1図　遺跡位置図 …… 5
第2図　地形分類図 …… 6
第3図　遺跡分布図 ……10
第4図　第一次調査遺構配置図 ……16
第5図　RA101遺構 ……17
第6図　RA101・RA102遺構遺物 ……18
第7図　RA102遺構遺物 ……19
第8図　RA102・RA103遺構遺物 ……21
第9図　RA104・RA105遺構遺物 ……22
第10図　RA105・RA106遺構遺物 ……23
第11図　RA106～108遺構遺物 ……24
第12図　RA109遺構遺物 ……26
第13図　RE01・RE02遺構遺物 ……27
第14図　RE02,RF01～03遺構遺物 ……29
第15図　RA501遺構遺物 ……30
第16図　RA501遺物 ……31
第17図　RA502・RA503遺構遺物 ……33
第18図　RA503・RA504遺構遺物 ……34
第19図　RA504遺構 ……35
第20図　RA504・RA505遺構遺物 ……36

第21図　RA505・RA506・RW01遺構 ……37
第22図　RA506遺物 ……38
第23図　RA507遺構遺物 ……41
第24図　RA508遺構 ……42
第25図　RA508・RA509遺構遺物 ……43
第26図　RA510遺構遺物 ……44
第27図　RA512・RE03遺構遺物 ……45
第28図　RD01～04遺構遺物 ……47
第29図　RD05～08遺構遺物 ……49
第30図　RF04・RF05・RE04・RD08・RD09
遺構遺物 ……50
第31図　RD10～13遺構遺物 ……52
第32図　RD14～21遺構遺物 ……54
第33図　RD22～28遺構遺物 ……56
第34図　RD29～37遺構 ……58
第35図　RD38～44・RF06・RF07遺構 ……60
第36図　RG01・RG02・RT01遺構 ……62
第37～40図　遺構外出土遺物 ……64

写　真　図　版　目　次

写真図版 1　遺跡全景 ……103
写真図版 2　RA101遺構 ……104
写真図版 3　RA102遺構 ……105
写真図版 4　RA103遺構 ……106
写真図版 5　RA104遺構 ……107
写真図版 6　RA105遺構 ……108
写真図版 7　RA106遺構 ……109
写真図版 8　RA107・RA108遺構 ……110
写真図版 9　RA109遺構 ……111
写真図版10　RE01・RE02・RF01～03遺構 …112
写真図版11　RA501遺構 ……113
写真図版12　RA502遺構 ……114
写真図版13　RA503・RA505遺構 ……115
写真図版14　RA504(1)遺構 ……116
写真図版15　RA504(2)遺構 ……117
写真図版16　RA506遺構 ……118
写真図版17　RA507遺構 ……119
写真図版18　RA508遺構 ……120
写真図版19　RA509遺構 ……121
写真図版20　RA510遺構 ……122
写真図版21　RA511・RA512遺構 ……123
写真図版22　RE03・RD01～05 ……124
写真図版23　RD06～08・RF04.05・RW01遺構 125
写真図版24　RE04・RD09～13遺構 ……126
写真図版25　RD14～20遺構 ……127
写真図版26　RD21～23・25～29遺構……128
写真図版27　RD30～36遺構 ……129
写真図版28　RD37～40遺構 ……130
写真図版29　RD41～44・RF06.07遺構 ……131
写真図版30　RG01・RG02・RT01遺構 ……132
写真図版31　RA101・RA102遺物 ……133
写真図版32　RA102遺物 ……134
写真図版33　RA103・RA105遺物 ……135
写真図版34　RA106遺物 ……136
写真図版35　RA109・RE01遺物 ……137
写真図版36　RE02・RA501遺物 ……138
写真図版37　RA501～RA504遺物 ……139
写真図版38　RA504・RA506遺物 ……140
写真図版39　RA507・RA508・RA512・
RA510・RD02遺物 ……141
写真図版40　RD05・RD08遺物 ……142
写真図版41　RE04・RD10.19.22.23遺物 ……143
写真図版42　遺構外遺物（土器）1 ……144
写真図版43　遺構外遺物（土器）2 ……145
写真図版44　遺構外遺物（石器）1 ……146
写真図版45　遺構外遺物（石器）2 ……147
写真図版46　遺構外遺物（石器）3・鉄製品 …148

Ⅲ　一次調査の報告

1　基本土層

実測図やフィールドカードも確認できないので不明であるが、二次調査以降の土層を参考にすると以下のようになると思われる。

Ⅰ層　暗褐色土　表土・耕作土　層厚は20～30cm　粘性弱　締まりやや疎

Ⅱ層　黒色土　層厚20～30cm　東側は薄い　粘性弱　締まりやや疎

Ⅲ層　鈍い褐色土　砂質土　層厚0～10cm　沢川には見られない　粘性無し　締まりやや疎

Ⅳ層　橙色砂礫層　層厚0～30cm　花崗岩風化物多量混入　粘性無し　締まりやや疎

Ⅴ層　黄褐色土　層厚30～100cm　花崗岩風化礫混入　粘性中　締まり密

2　遺構と遺物

第一次調査は主に西側の緩斜面部を対象にして行い、縄文時代と古代・時期不明の遺構が検出された。縄文時代は竪穴住居跡9棟、竪穴状遺構2棟、焼土遺構3カ所である。古代は竪穴住居跡12棟、竪穴状遺構1棟、土坑8基、焼土遺構2カ所、鍛冶遺構1カ所である。 時期不明のものは竪穴状遺構1棟、土坑36基、焼土遺構2カ所、溝跡2カ所、土壙墓1基である。なお遺構の時期は調査者（渡辺）の区分による。

(1)　縄文時代

竪穴住居跡

RA101（第5・6図，写真図版2・31）

調査地北西寄りに位置し、Ⅴ層上で検出されている。RA102住居跡が西側に接し、北側は平安時代のRA504に重複している。南北にやや長い隅丸長方形状を呈している。壁は45°程の外傾ないしは外反気味に立ち上がる。規模は長軸6.3m・短軸4.5mで、壁高は斜面上位の西側で50cm・東側で5～10cmである。床面はほぼ平坦で西から東に少し傾斜する。西側の壁際に1m間隔で5本の柱穴状土坑と中央に16本の柱穴状土坑がある。柱穴状土坑は開口部径15～25cmで、深さ30～70cmである。壁溝がないので建て替えがあったかどうかわからない。一時期の柱穴とするには数が多い。

埋土は主に炭化物を含む黒褐色土で構成され、締まっている。床面付近には黄褐色土も混入している。

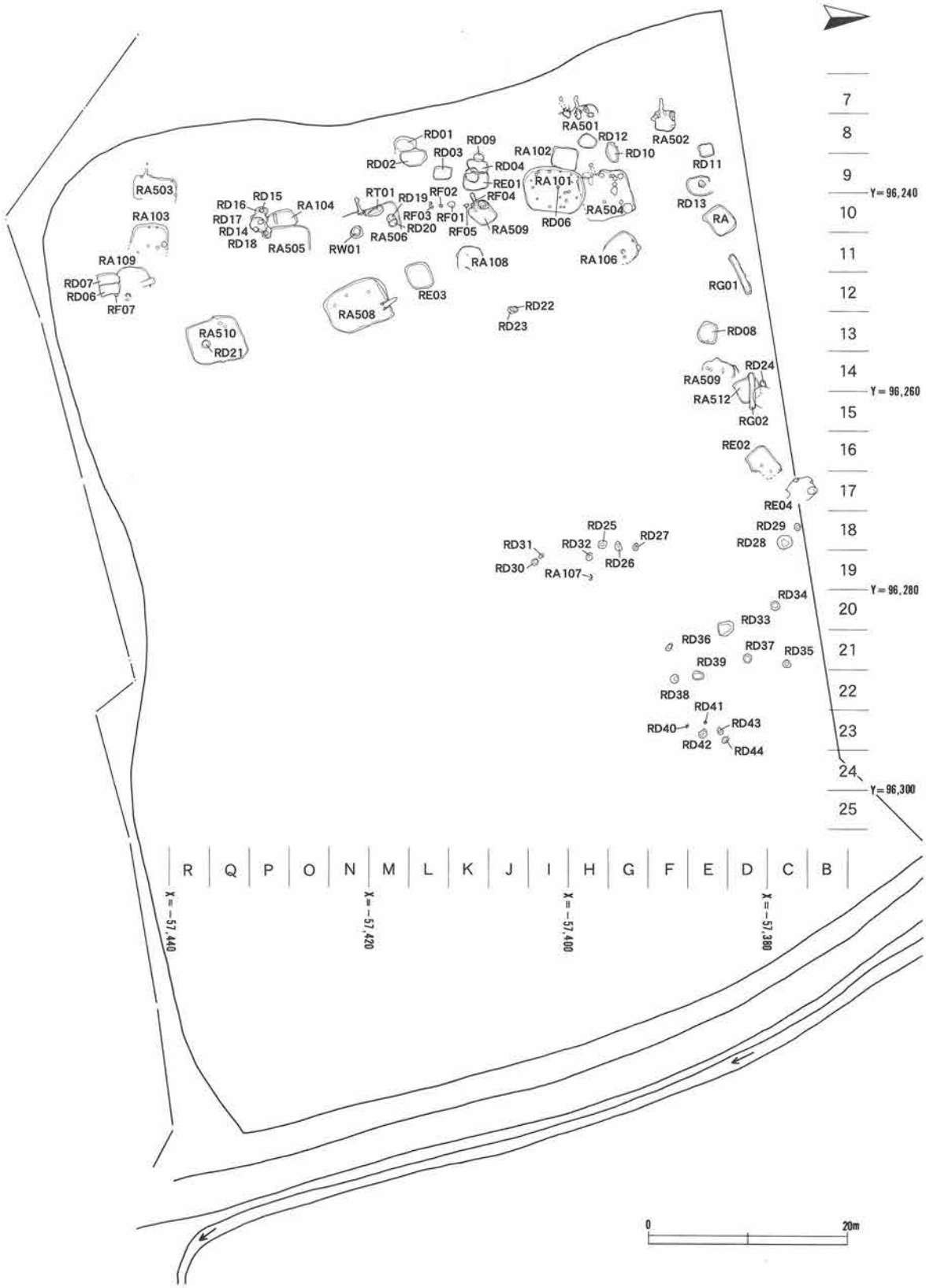
炉跡は検出されていない。

出土遺物は、縄文土器片十数点石鏃1点がある。縄文土器片は前期前葉のもので、石鏃は二等辺三角形状で凹基で、基部寄りの縁辺が両側ともくびれている。時期は縄文時代前期前葉と思われる。

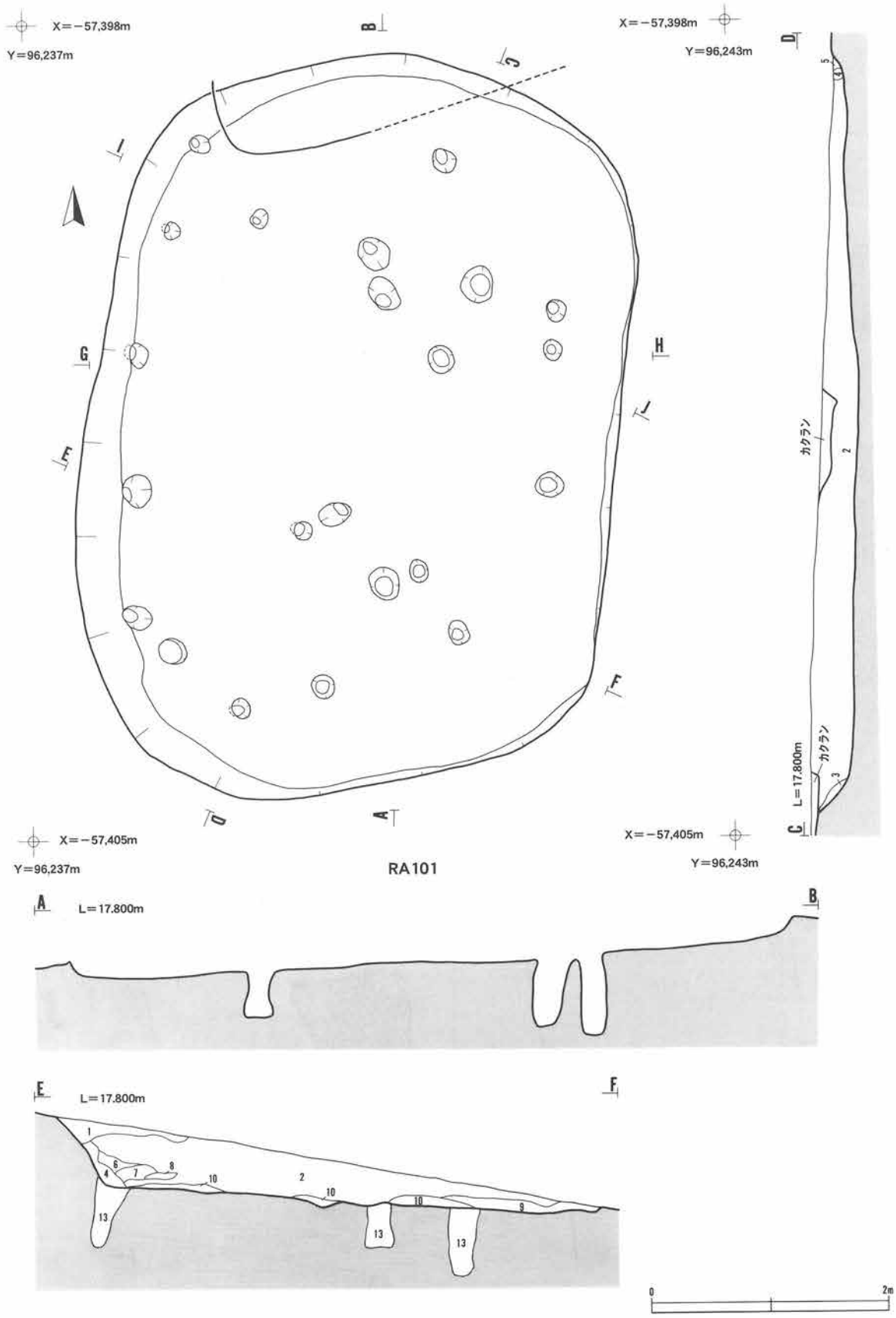
RA102（第6～8図，写真図版3・31・32）

調査地北西寄りに位置し、Ⅳ層上で検出されている。東側にRA101住居跡が接するが、新旧関係は不明である。隅丸長方形状を呈している。壁は西側がほぼ直立し、ほかは外傾ないしは内湾気味に外傾して立ち上がる。規模は長軸2.6m・短軸2.2mで、壁高は西側で60cm・東側で25cmである。床面はほぼ平坦で、締まりは密である。壁際に溝が断続して巡り、所々に柱穴状の小土坑がある。

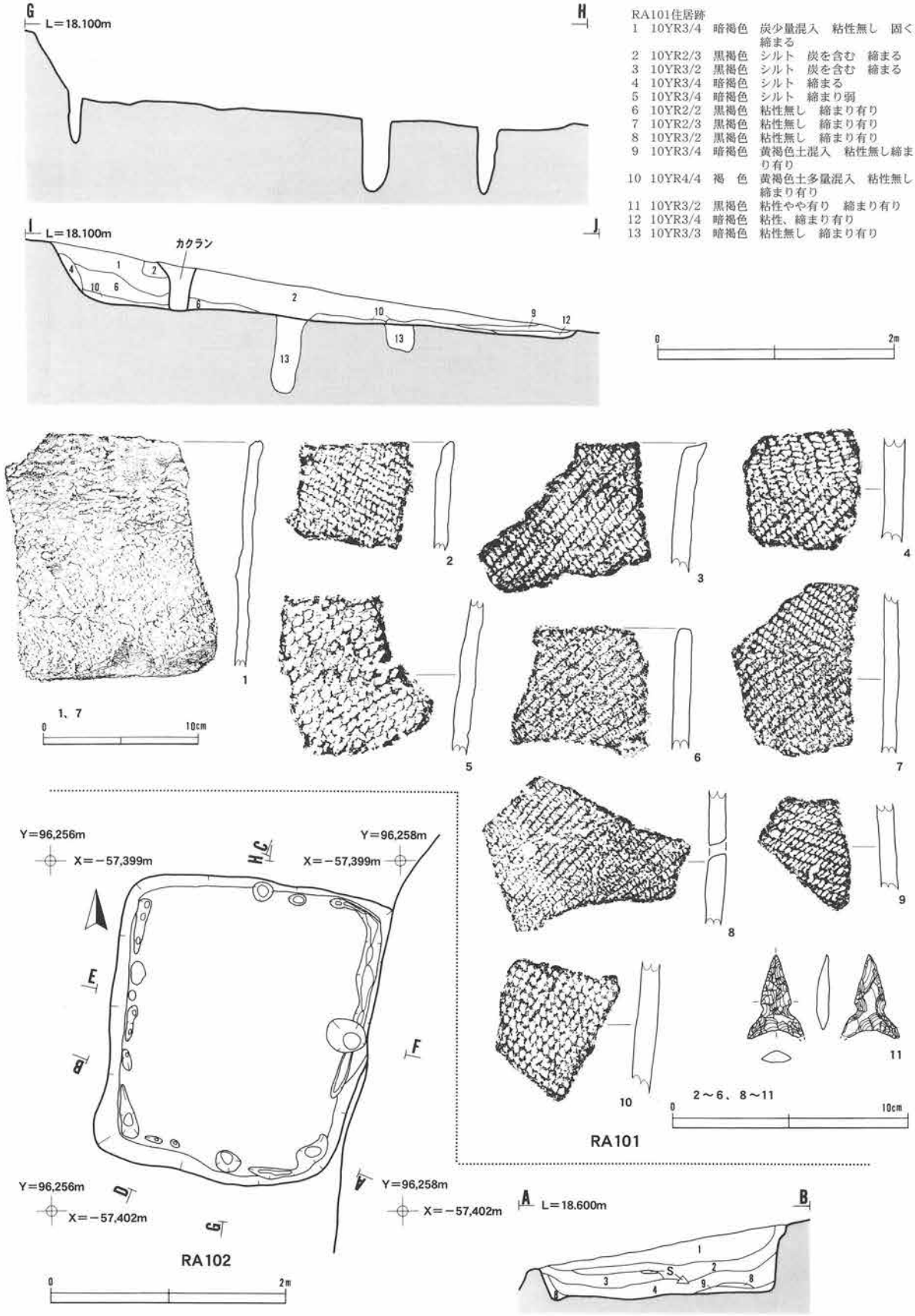
埋土は上位が炭化物や花崗岩風化礫を混入する暗褐色土、下位が褐色土で構成される。下位ほど締まりは密である。



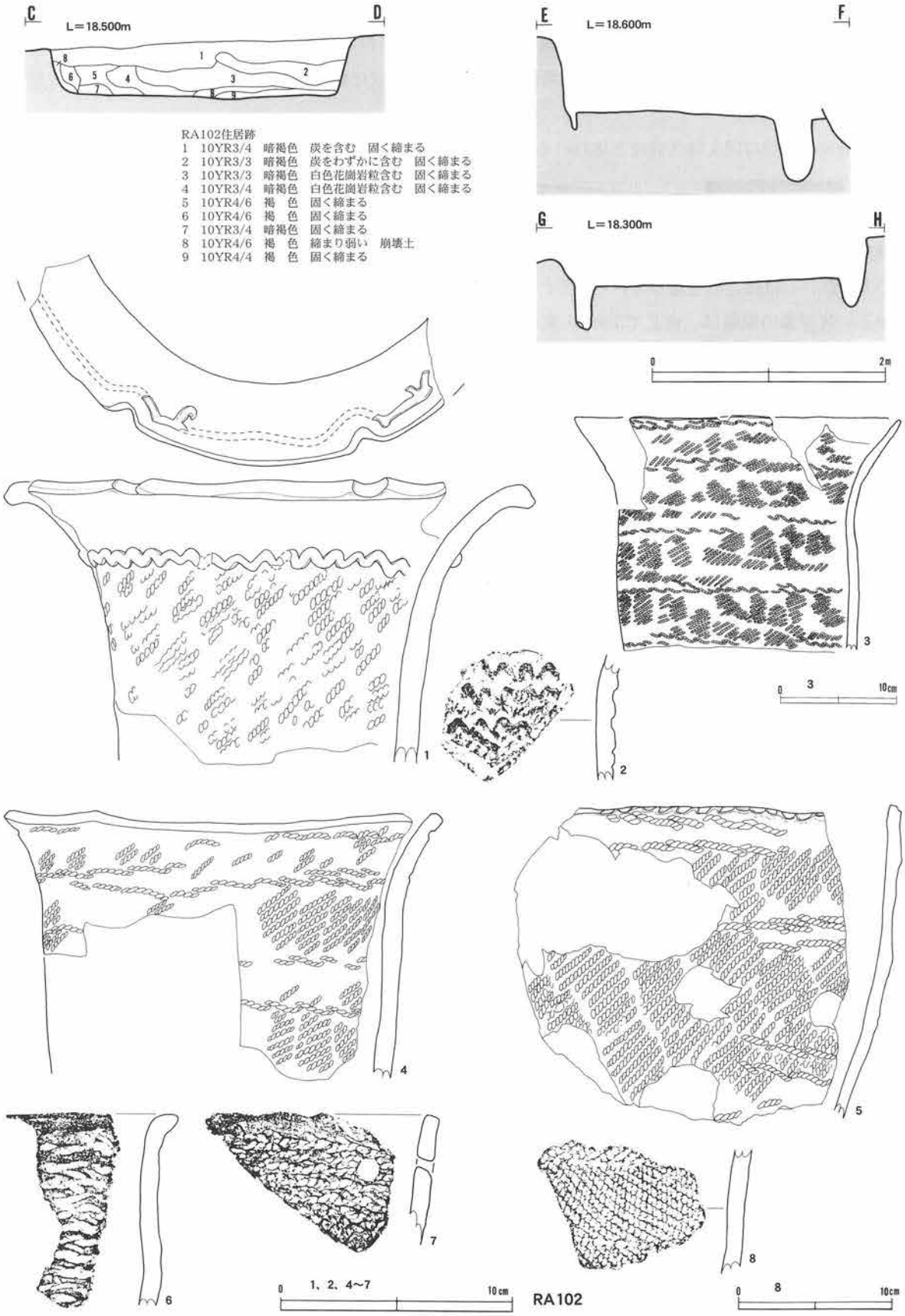
第4図　第一次調査遺構配置図



第5図　RA101（1）住居跡



第6図 RA101（2）、102（1）住居跡・RA101出土遺物



第7図 RA102（2）住居跡・RA102（1）出土遺物

炉跡は検出されていない。

出土遺物は埋土より縄文土器3個体と石鏃・石匙各1点、床面から磨石1点が得られている。縄文土器片は前期前葉から中葉のものである。7-1は口頸部に粘土紐が鋸歯状に貼り付けられており、内面にも粘土紐が貼り巡らされている。

この遺構の時期は縄文時代前期と思われる。

RA103（第8図，写真図版4・33）

調査地南西寄りに位置する。東側にはRA109住居跡がある。東側は斜面のため壁と床が残存しない。隅丸の方形ないしは長方形を呈していたと思われる。壁は北側が直立気味、西と南は内湾気味に外傾して立ち上がる。残存部の規模は、南北で3.9m・東西3m以上である。西側の壁高は約40cmである。底面はほぼ平坦で、壁際と西寄りに浅い柱穴状の小土坑がある。北側壁際には径60cm・深さ10cmほどの土坑がある。

埋土は主に黒褐色土で構成され、締まりは密である。炉は検出されていない。

出土遺物は埋土から縄文時代前期前葉と中期の土器片が得られている。

時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA104（第9図，写真図版5）

調査地南西寄りに位置し、東側を平安時代のRA505住居跡に切られている。南側はRD15土坑に切られている。隅丸長方形または楕円形を呈していたと思われる。残存部の壁は内湾気味に立ち上がる。残存部の規模は南北方向で3m・東西方向で1.7mである。西側の壁高は、約20cmである。床面はほぼ平坦で、東側に緩く傾斜している。西側壁寄りに柱穴状の小土坑が2基ある。

埋土は主に黒褐色土で構成され、東側の壁際には褐色土も堆積している。

調査地内には炉跡は検出されていない。

出土遺物は無いようだが、遺構の形状・埋土の情況から縄文時代前期と思われる。

RA105（第9・10図，写真図版6・33）

調査地北西寄りに位置している。西にはRD12土坑が、東側にはRG01溝がある。隅丸の長方形状を呈す。規模は長軸3m・短軸2.4mである。壁は西側で60°程に外傾し、ほかは内湾気味に40～50°で外傾し立ち上がる。壁高は西側で50cm・東側で30cmほどである。床面はほぼ平坦で、中央に柱穴状の土坑が1基ある。

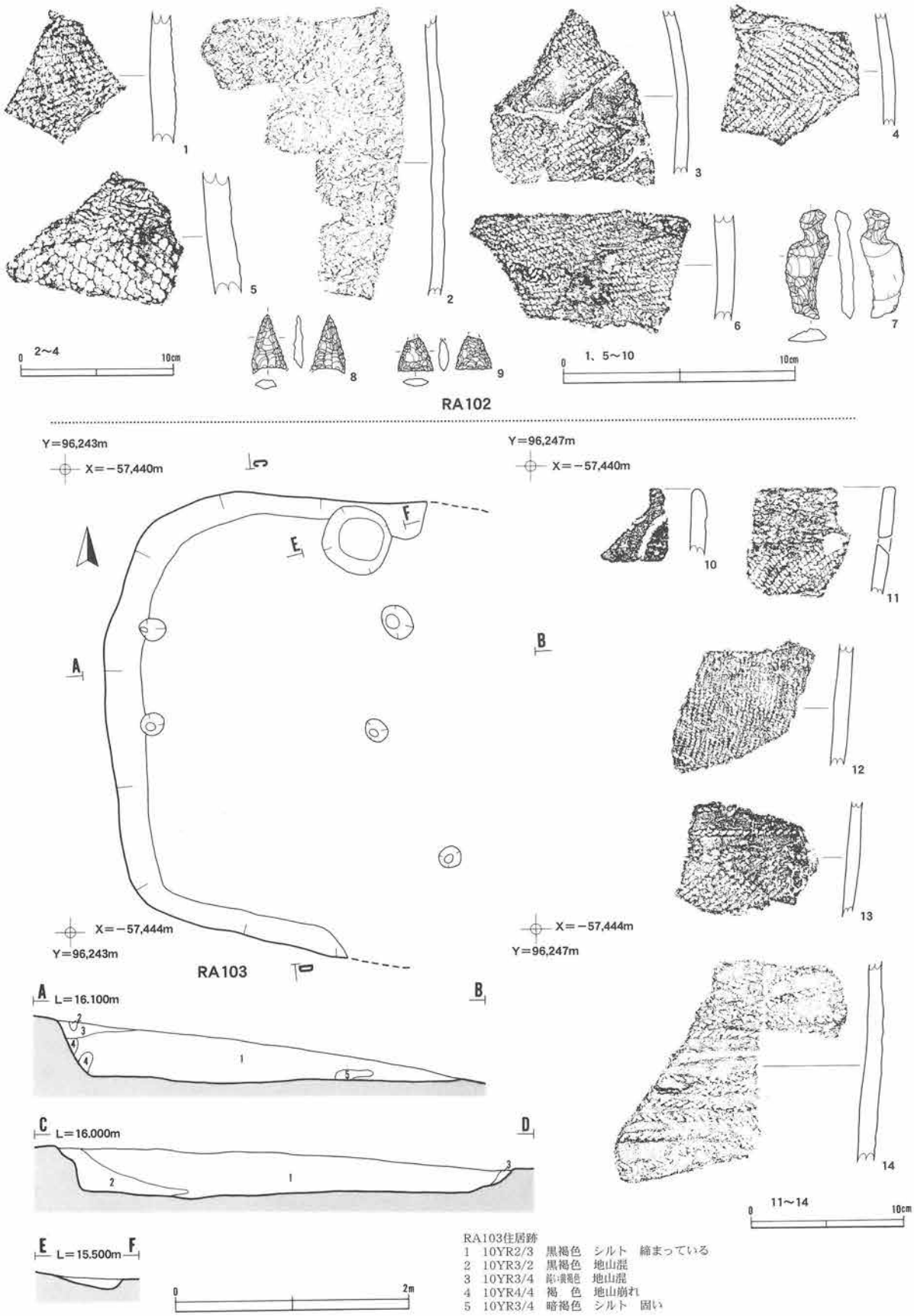
埋土は主に炭粒や黄褐色土を含む暗褐色土で構成され、底面近くほど締まりが密である。黄褐色土は十和田中掫浮石（安家火山灰）と思われる。炉跡は検出されていない。

出土遺物は埋土から縄文時代前期前葉の土器片と石匙の破損品1点、縁辺を使用した磨石の破損品が出土している。

この遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

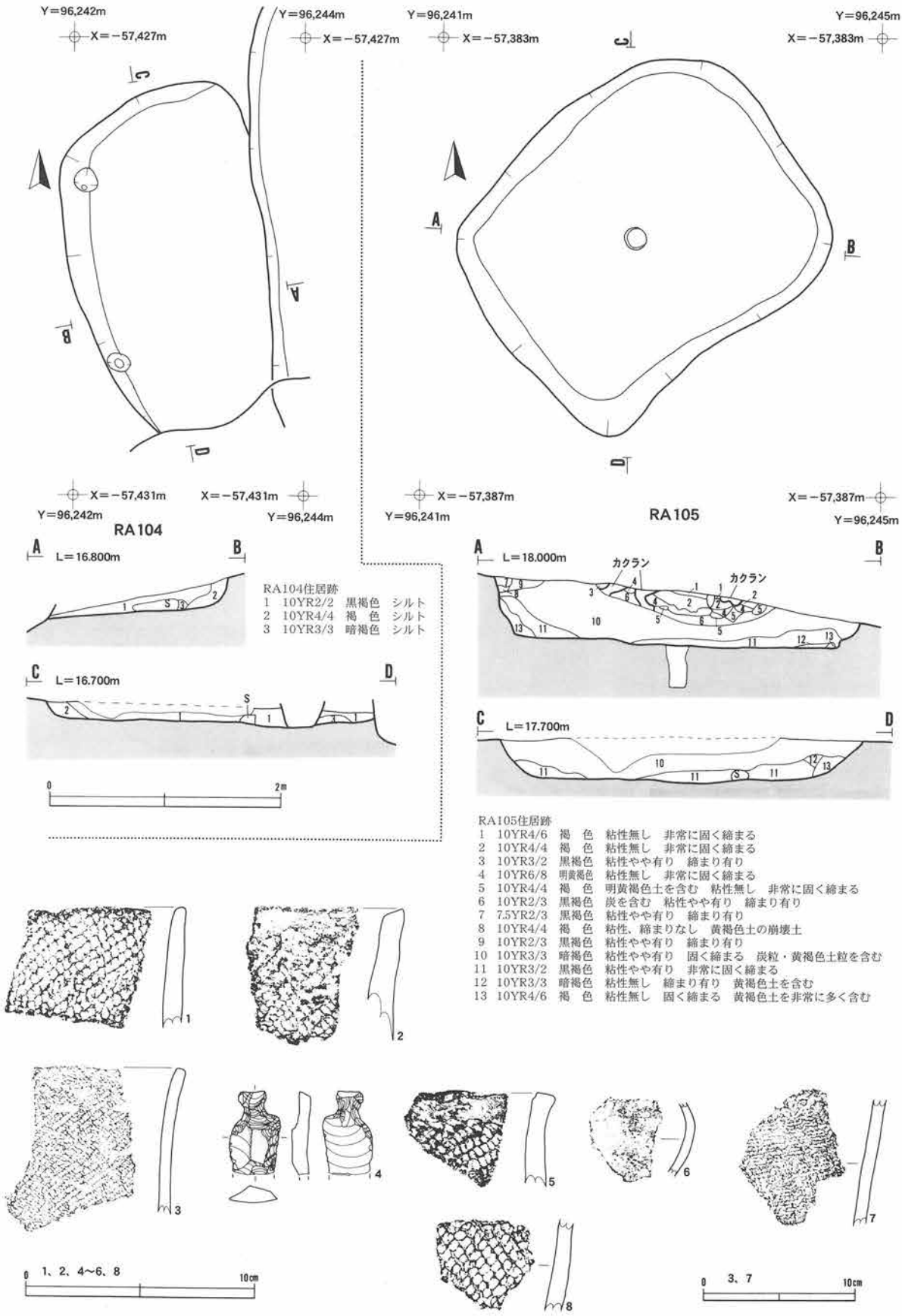
RA106（第10・11図，写真図版7・34）

調査地北西に位置している。西には平安時代の住居跡RA504がある。楕円形状を呈するが南東側は壁や床が欠損している。壁は直立気味のところもあるが、内湾気味に外傾して立ち上がる。規模は長軸約3.5m・短軸3m・壁高は10～20cmである。床面はほぼ平坦で中央付近に石囲炉がある。炉は東側の一部が

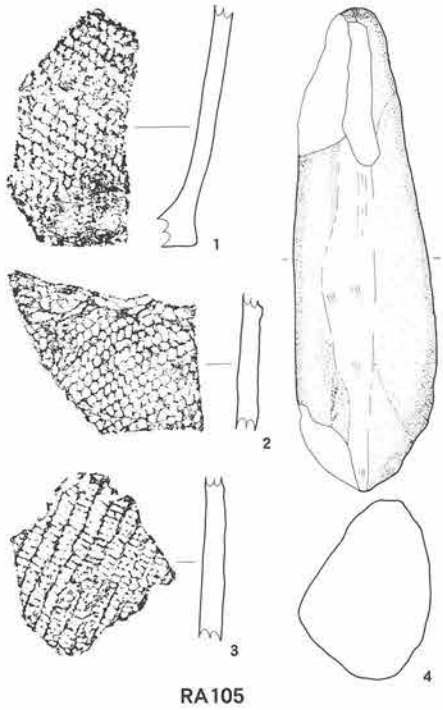


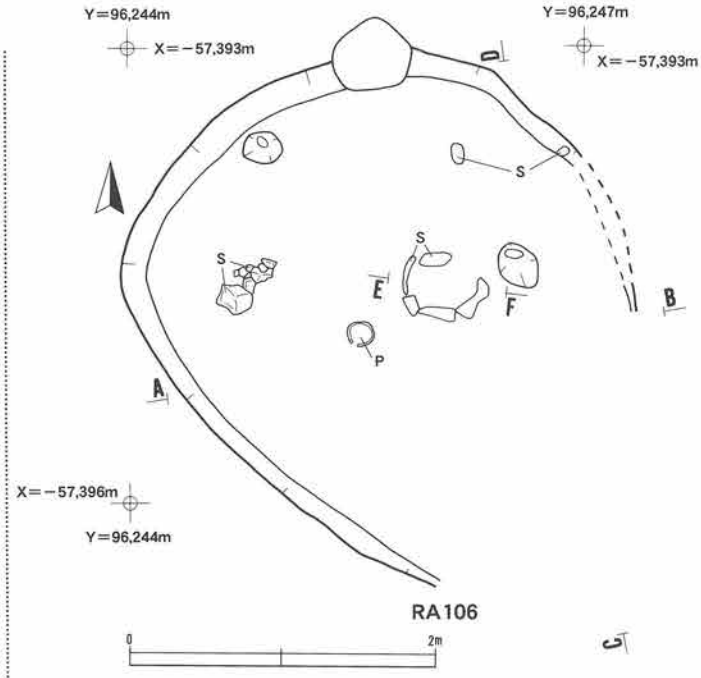
RA103住居跡
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まっている
2　10YR3/2　黒褐色　地山混
3　10YR3/4　暗黄褐色　地山混
4　10YR4/4　褐　色　地山崩れ
5　10YR3/4　暗褐色　シルト　固い

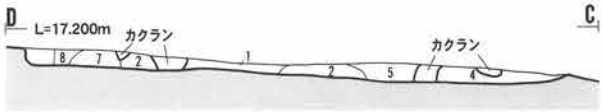
第8図　RA102（2）出土遺物・RA103住居跡、出土遺物

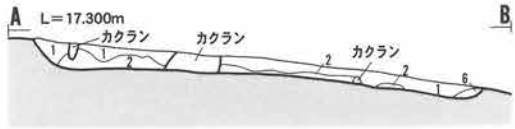


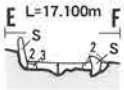
第9図 RA104、105住居跡・RA105（1）出土遺物





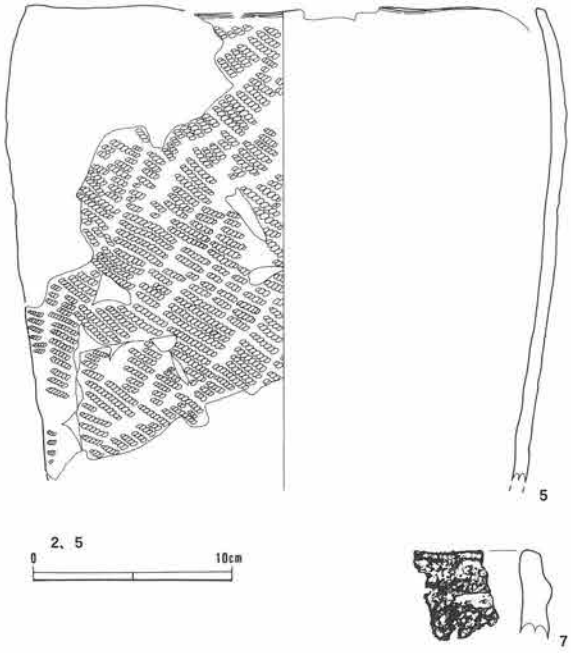


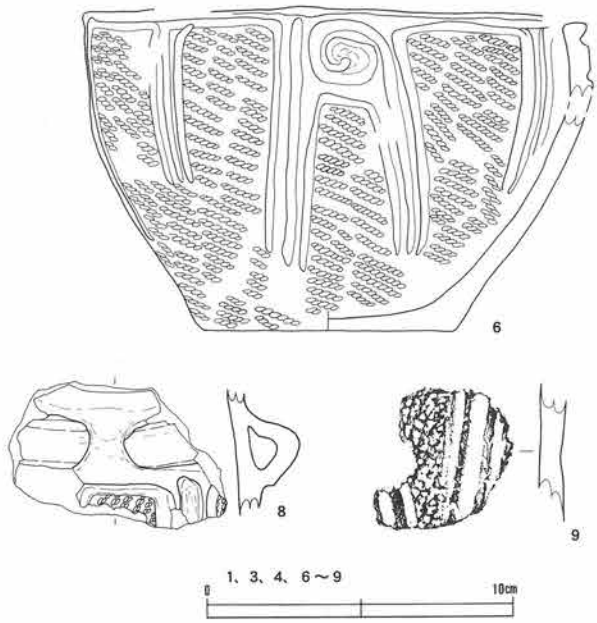




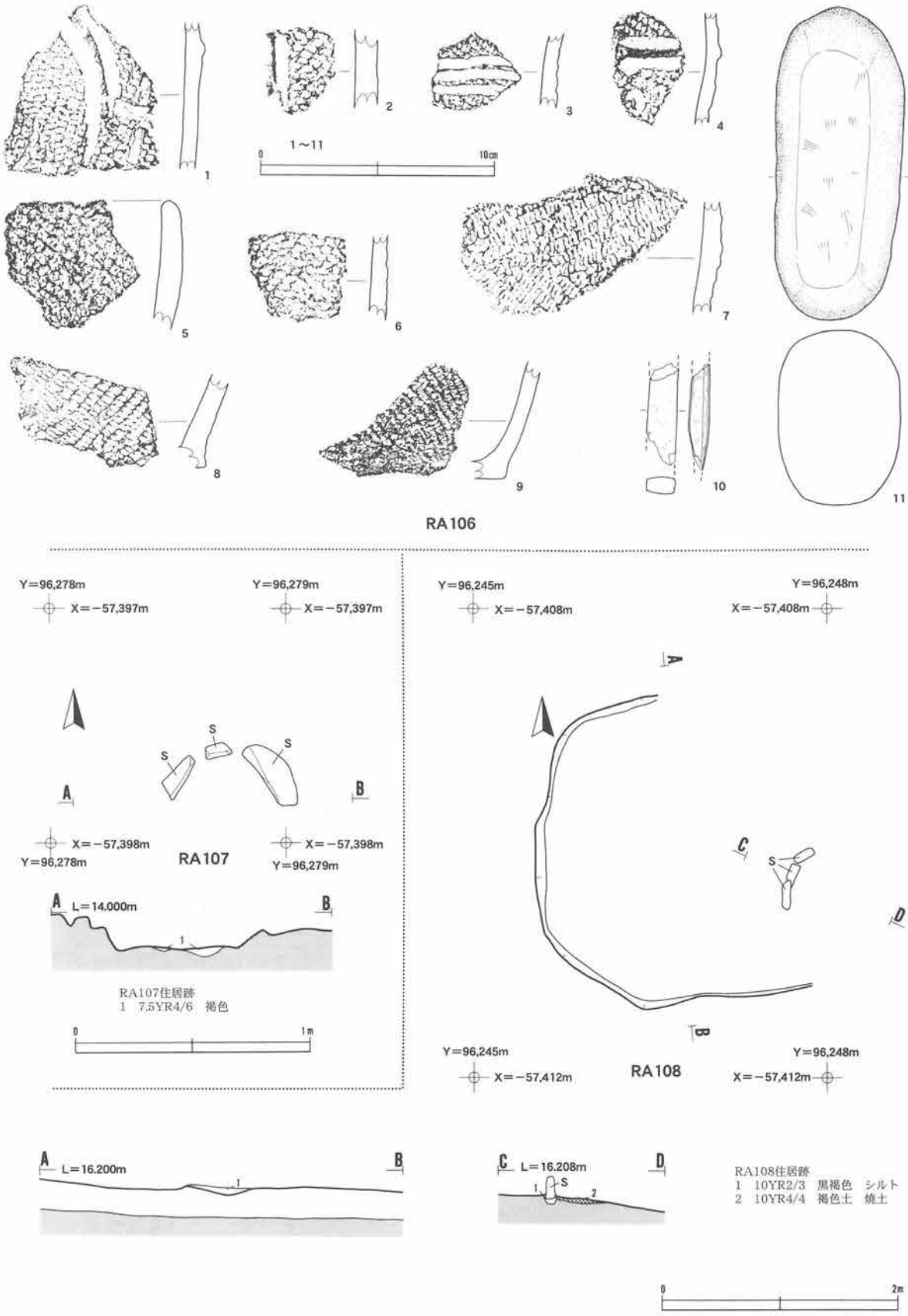
石囲炉
1　10YR5/6　黄褐色　粘性やや有り　締まりなし　炭、焼土含む
2　10YR3/4　暗褐色　粘性　締まりなし

RA106住居跡
1　7.5YR2/2　黒褐色　粘性無し　締まり有り　炭を含む
2　10YR3/2　黒褐色　粘性無し　締まり有り
3　10YR4/3　暗褐色　粘性無し　締まり有り
4　10YR2/2　黒褐色　2より暗い
5　5YR3/1　黒褐色　粘性無し　締まりなし
6　5YR3/1　黒褐色　黄褐色ブロック少し含む　粘性無し　締まりなし
7　10YR4/4　褐　色　粘性無し　締まり有り
8　10YR2/2　黒褐色　粘性無し　締まりなし





第10図　RA105（2）出土遺物
RA106住居跡・RA106（1）出土遺物



第11図 RA106（2）出土遺物・RA107、108住居跡

欠落しているが細長い石を組み合わせて東西55cm・南北45cmの長方形状に作られていたようである。

埋土は主に炭化物を含む黒褐色土で構成されているが、撹乱を受けている部分もある。検出面付近の埋土には巨礫や土器片が混入している。炉の埋土には炭化物と焼土が混じっている。

出土遺物は埋土から縄文時代中期中葉の鉢、深鉢・破片数点が出土している。また板状の石製品と磨石が各1点出土している。磨石は角の丸い直方体状で二面に磨面が形成されている。

時期は縄文時代中期中葉と思われる。

RA107（第11図，写真図版8）

調査地北寄りの中央付近に位置している。石囲炉のみが検出されているが、その規模や周辺の検出面の平坦さから住居としたようである。石組みは長さ20cm～60cmの長い石が北側に３個弧状に配置されている。石組みの内側は火熱を受けたようで褐色がかっている。

出土遺物はない。

時期は縄文時代中期と思われる。

RA108（第11図，写真図版8）

調査地西寄りの中央付近に位置している。東側の壁は残存しない。南東寄りに石囲炉の一部が残り、楕円形状または隅丸方形の平面形が予測される。残存部の規模は長軸2.5m以上・短軸2.6m程である。壁は痕跡程度に残り、立ち上がりは明瞭ではない。

石組炉は長さ20cmほどの煉瓦状の亜角礫が弧状に３個並べられている。炉の内側は厚さ3cm程の焼土が形成されている。

出土遺物はない。

時期は縄文時代中期と思われる。

RA109（第12図，写真図版9・35）

調査地南西寄りに位置している。東側の壁は残存せず、南北を別遺構の土坑により撹乱を受けているが、円形ないしは楕円形状の平面形を呈していたと思われる。床面はほぼ平坦で、東寄りに石組み炉がある。規模は直径4m以上のようである。残存する西側の壁は直立し、高さ25cmである。埋土は炭化物を微量に混入する黒褐色土で構成されている。

石組炉は東側の一部の礫が欠落するが、10～30cmの亜角礫を長方形状に並べて作られていたようである。炉内には厚さ6cmの焼土が形成されている。

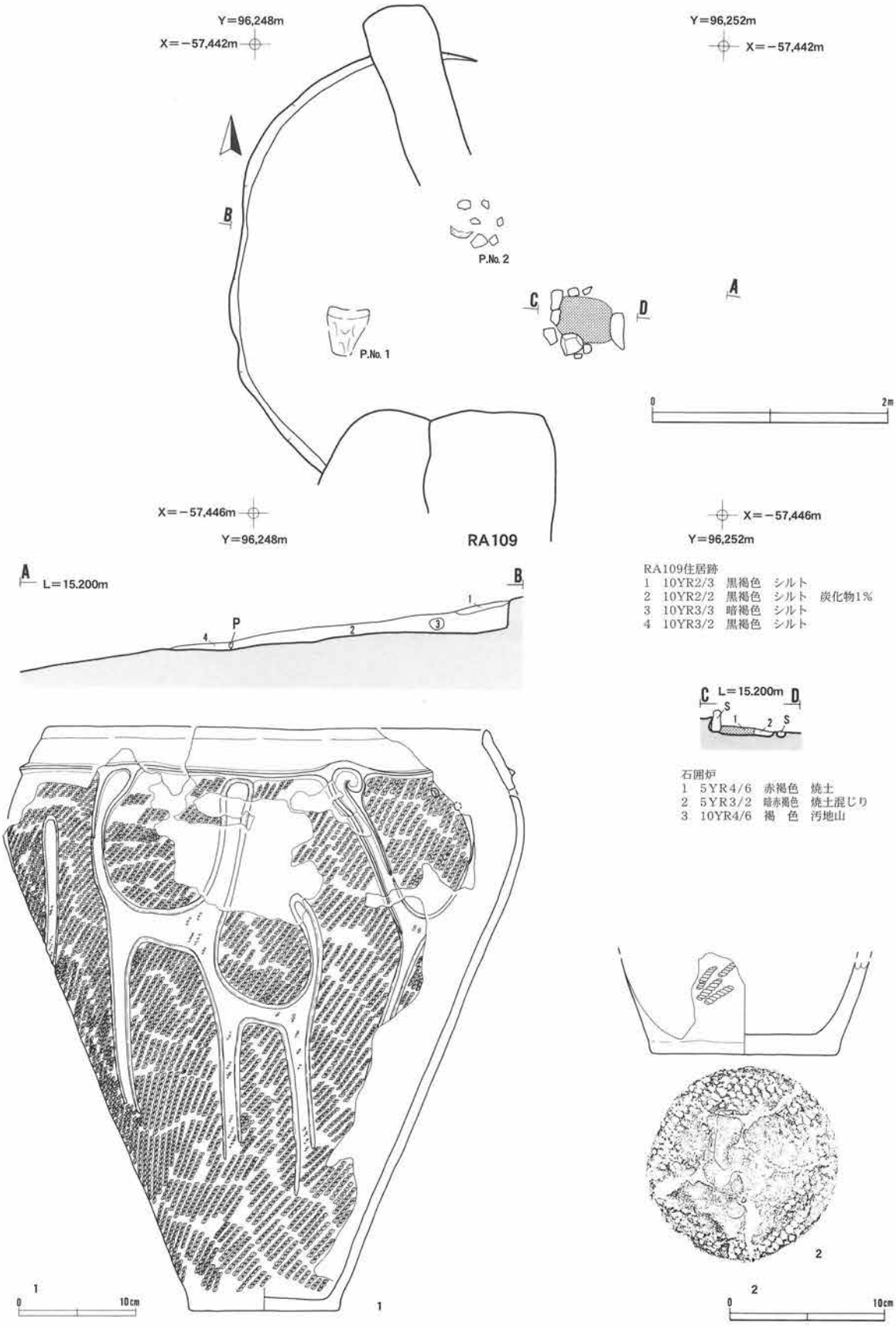
出土遺物は埋土上位から土圧で潰れた状態の土器が2個体出土している。12-1はキャリパー形をした大型深鉢で、沈線と磨消による「U」字状の施文がなされている。12-2は底部付近の破損品で底部に網代痕が施文されている。

遺構の時期は縄文時代中期後葉と思われる。

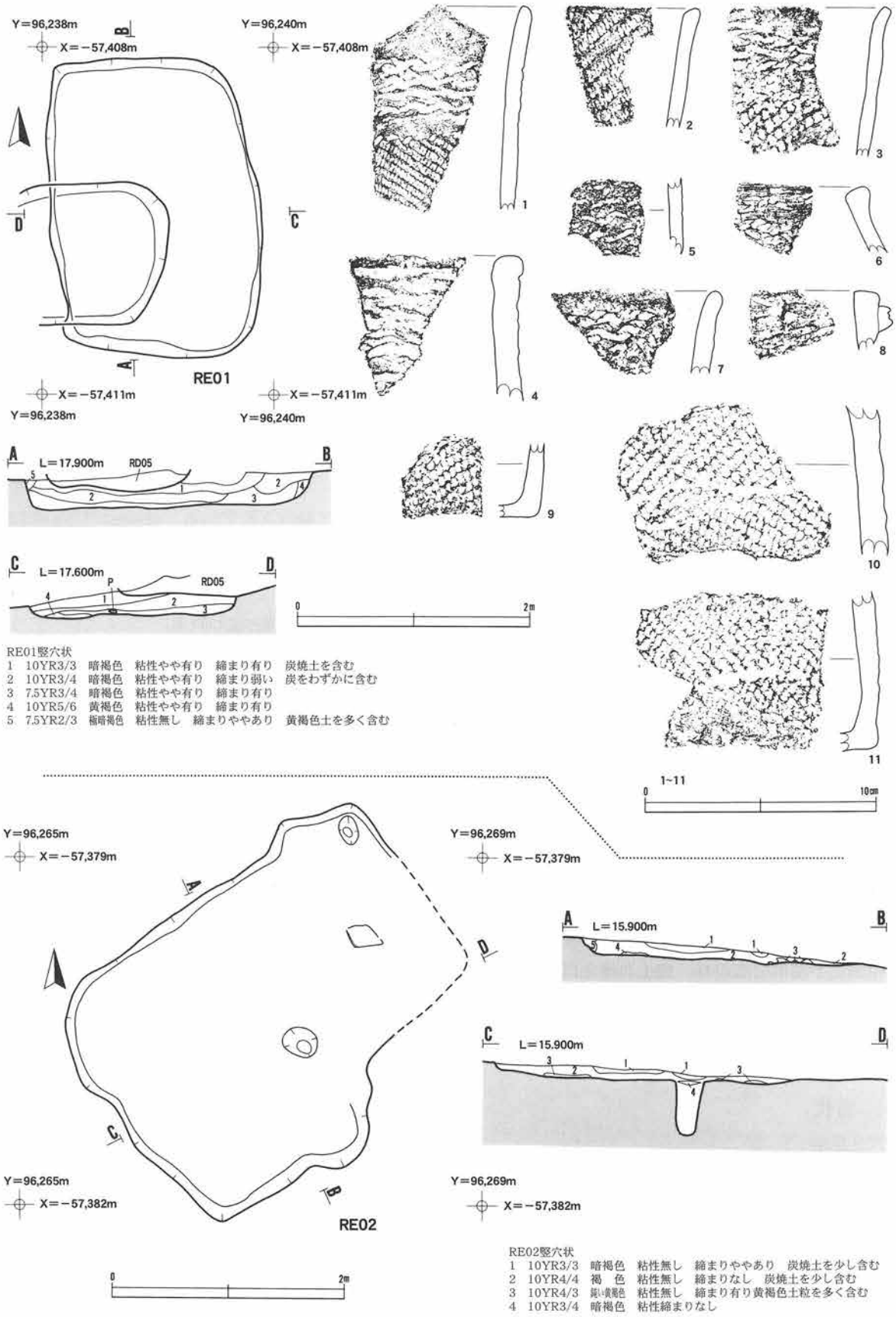
竪穴状遺構

RE01（第13図，写真図版10・35）

調査地中央西寄りに位置している。西側をRD05土坑に切られている。隅丸長方形状の平面形を呈し、壁



第12図 RA109住居跡・出土遺物



RE01竪穴状
1　10YR3/3　暗褐色　粘性やや有り　締まり有り　炭焼土を含む
2　10YR3/4　暗褐色　粘性やや有り　締まり弱い　炭をわずかに含む
3　7.5YR3/4　暗褐色　粘性やや有り　締まり有り
4　10YR5/6　黄褐色　粘性やや有り　締まり有り
5　7.5YR2/3　極暗褐色　粘性無し　締まりややあり　黄褐色土を多く含む

RE02竪穴状
1　10YR3/3　暗褐色　粘性無し　締まりややあり　炭焼土を少し含む
2　10YR4/4　褐　色　粘性無し　締まりなし　炭焼土を少し含む
3　10YR4/3　鈍い黄褐色　粘性無し　締まり有り黄褐色土粒を多く含む
4　10YR3/4　暗褐色　粘性締まりなし

第13図　RE01、02竪穴状遺構・RE01出土遺物

は直立気味ないしやや内湾して立ち上がる。規模は長軸2.5m・短軸1.8m・壁高は約25cmである。埋土は炭化物を含む暗褐色土で構成され、下位ほど締まっている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は縄文時代前期前葉の土器片が得られている。

この遺構の時期も縄文時代前期前葉と思われる。

RE02（第13・14図，写真図版10・36）

調査地中央北側付近に位置している。南東側が欠損するが、南側の一部が張り出す長方形状を呈する。壁は45°程に傾斜したり内湾気味に立ち上がる。規模は長軸3.3m・短軸2.7m・壁高は最大15cmである。埋土は炭化物や暗褐色土を混入する褐色土で構成され、締まりはない。底面はほぼ平坦で、中央付近と北東隅に柱穴状の土坑がある。柱穴状土坑は径20cm・深さ40cmほどである。

出土遺物は縄文時代前期や中期の土器片と石匙1点が得られている。

時期は縄文時代と思われる。

焼土遺構

RF01（第14図，写真図版10）

調査地西寄り中央付近に位置し、RF02・RF03焼土遺構と隣接して検出されている。150cm×130cmほどの楕円形状に広がり、焼土の厚さは最大25cmほどに形成されている。焼土の周辺は西から東に傾斜しており、周囲に住居跡の床面や壁は見られない。

出土遺物は無いが、縄文時代の層位で検出されているので縄文時代の遺構と思われる。

RF02（第14図，写真図版10）

調査地西寄り中央付近に位置し、RF01・RF03焼土遺構と隣接して検出されている。75cm×65cmほどの楕円形状に広がり、焼土の厚さは最大8cmほどに形成されている。焼土の周辺は西から東に傾斜しており、周囲に住居跡の床面や壁は見られない。

出土遺物は無いが、検出層位から縄文時代の遺構と考えられる。

RF03（第14図，写真図版10）

調査地西寄り中央付近に位置し、RF01・RF02焼土遺構と隣接して検出されている。125cm×65cmほどの範囲に不整形に広がり、焼土の厚さは最大15cmほどに形成されている。焼土の周辺は西から東に傾斜しており、周囲に住居跡の床面や壁は見られない。

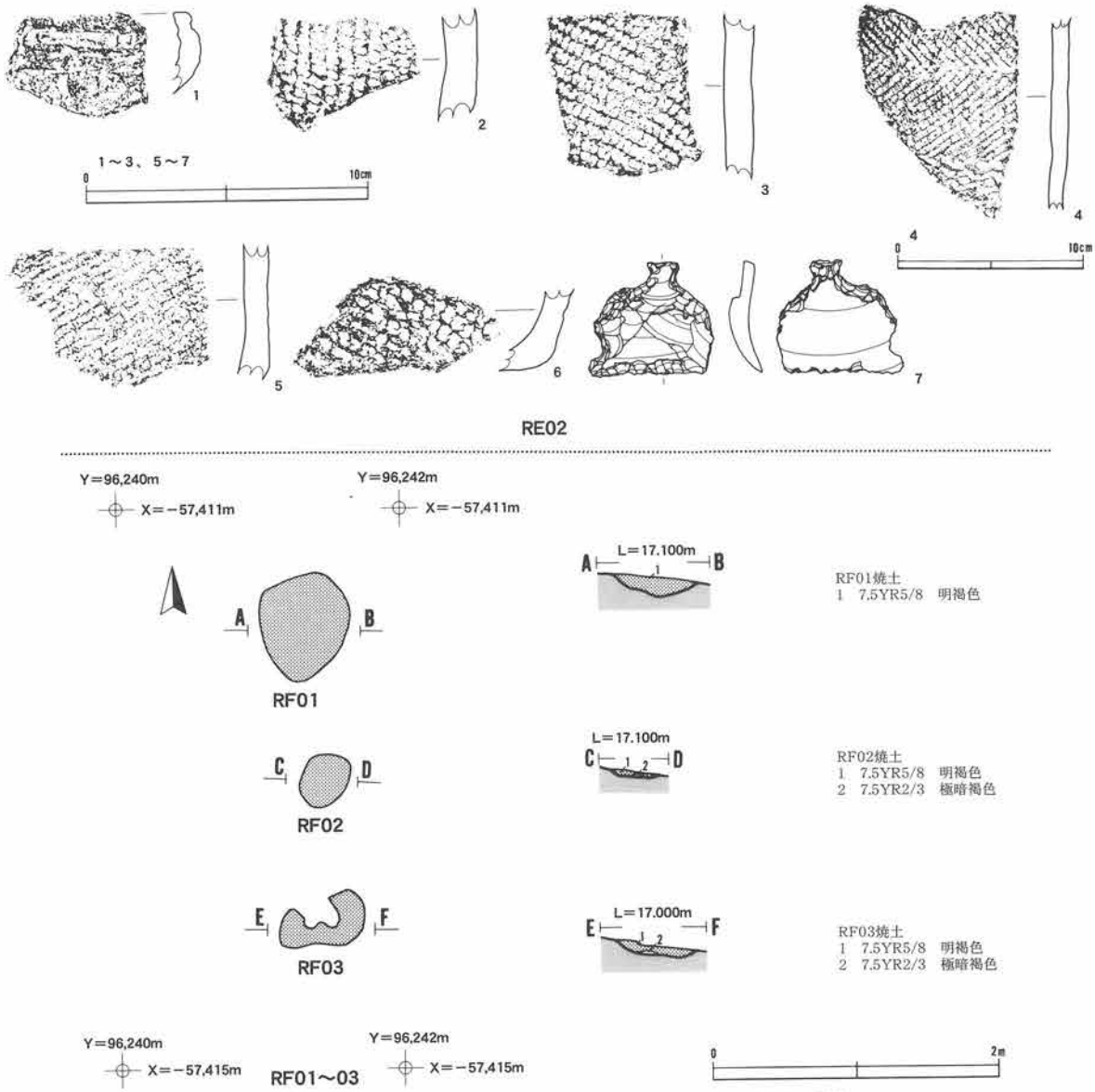
出土遺物は無いが、検出層位から縄文時代の遺構と考えられる。

(2) 古代

竪穴住居跡

RA501（第15・16図，写真図版11・36・37）

調査地北西端に位置し、黄褐色土の基盤層で検出された。西寄りの壁とカマドが残存する。カマドは西側に2基検出されており、2棟の住居跡の重複の可能性もあるが、残存部の埋土が少なく不明である。壁は直立していたようである。残存部の規模は南北3.8m・東西1.7mほどである。壁高は西側で30cmである。埋土



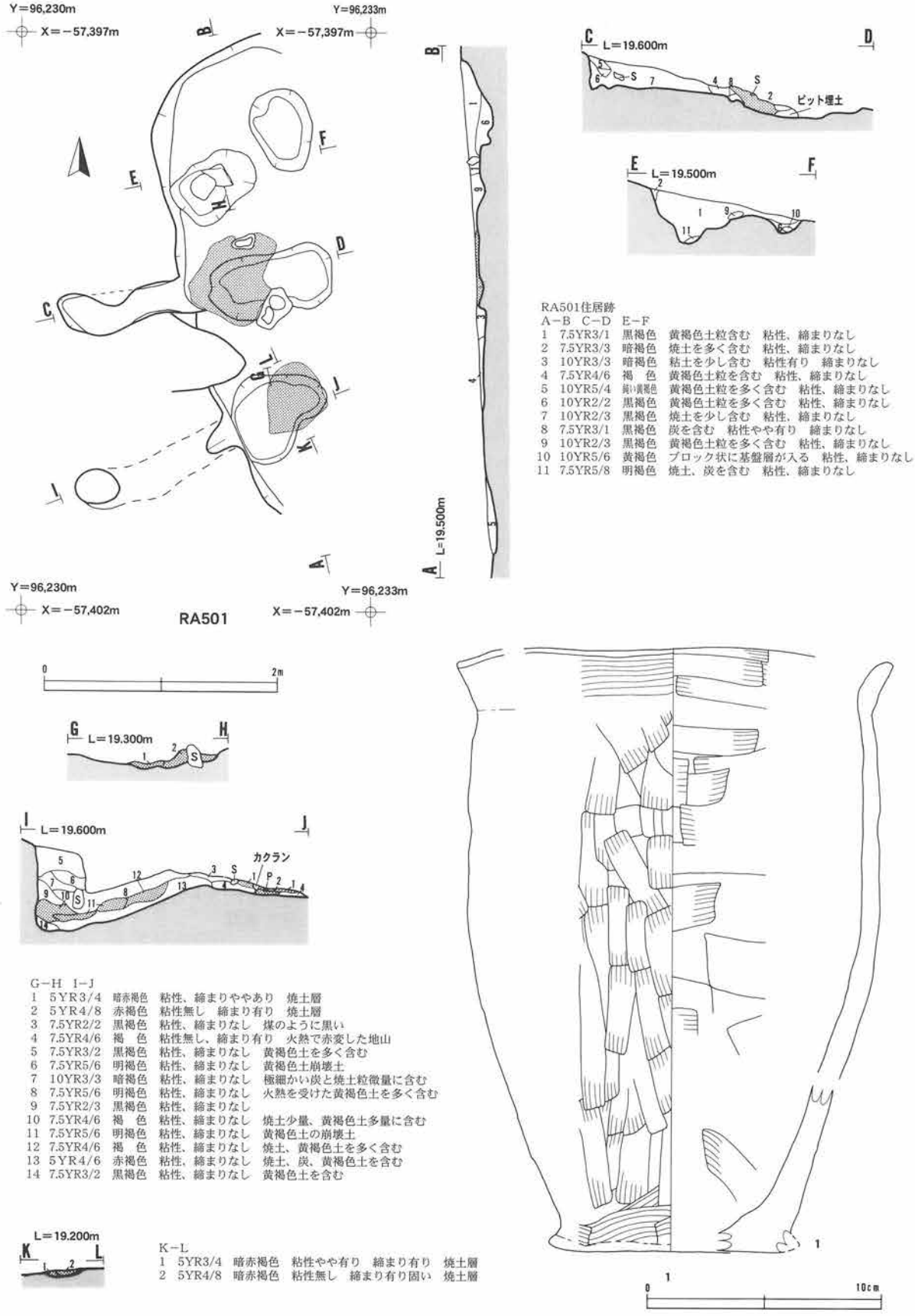
第14図　RE02竪穴状遺構出土遺物・RF01～03焼土遺構

は主に黄褐色土粒や炭化物を含む黒褐色土で構成され、締まりはない。

底面はやや凹凸があり、北西側の壁に土坑が2基検出されている。土坑は2基とも長軸70cm・短軸50cmほどの楕円形状を呈している。土坑の底面は西壁寄りのものは凹凸があり、最深40cm、中央寄りは平坦で、深さ20cmほどである。

南側のカマドは、袖が無く、燃焼部の焼土とトンネル状にくり貫いた煙道が残る。燃焼部の焼土は径約50cmの範囲に広がり厚さは3cmである。煙道は20°ほどの勾配で約1.5m下った後70cm直立する。北側のカマドは袖の芯にした礫が残り、くり貫き式と思われる煙道は崩落している。煙道はやや蛇行している。燃焼部から焚き口付近は浅い窪みとなっており、埋土に焼土や炭化物を含んでいる。

出土遺物は土師器の甕3点と甕や坏の破片・須恵器破片・羽口破片2点・砥石1点が得られている。坏はロクロ整形で、内面が黒色処理されている。16-3の甕には「Λ」「+」の刻線がある。16-4は底部付近に木葉



RA501住居跡

A−B　C−D　E−F

1	7.5YR3/1	黒褐色	黄褐色土粒含む	粘性、締まりなし
2	7.5YR3/3	暗褐色	焼土を多く含む	粘性、締まりなし
3	10YR3/3	暗褐色	粘土を少し含む	粘性有り　締まりなし
4	7.5YR4/6	褐　色	黄褐色土粒を含む	粘性、締まりなし
5	10YR5/4	鈍い黄褐色	黄褐色土粒を多く含む	粘性、締まりなし
6	10YR2/2	黒褐色	黄褐色土粒を多く含む	粘性、締まりなし
7	10YR2/3	黒褐色	焼土を少し含む	粘性、締まりなし
8	7.5YR3/1	黒褐色	炭を含む	粘性やや有り　締まりなし
9	10YR2/3	黒褐色	黄褐色土粒を多く含む	粘性、締まりなし
10	10YR5/6	黄褐色	ブロック状に基盤層が入る	粘性、締まりなし
11	7.5YR5/8	明褐色	焼土、炭を含む	粘性、締まりなし

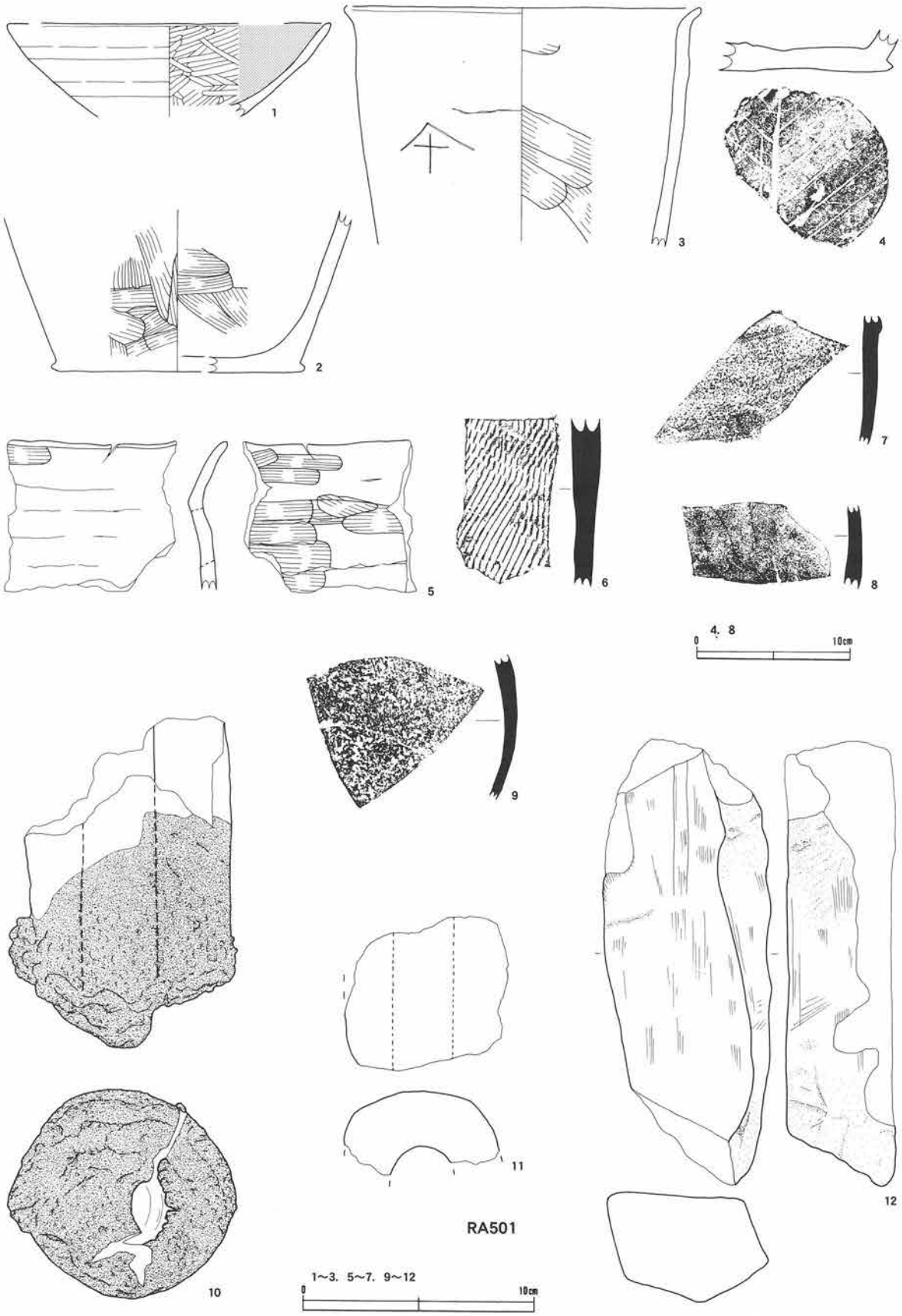
G−H　I−J

1	5YR3/4	暗赤褐色	粘性、締まりややあり	焼土層
2	5YR4/8	赤褐色	粘性無し　締まり有り	焼土層
3	7.5YR2/2	黒褐色	粘性、締まりなし	煤のように黒い
4	7.5YR4/6	褐　色	粘性無し、締まり有り	火熱で赤変した地山
5	7.5YR3/2	黒褐色	粘性、締まりなし	黄褐色土を多く含む
6	7.5YR5/6	明褐色	粘性、締まりなし	黄褐色土崩壊土
7	10YR3/3	暗褐色	粘性、締まりなし	極細かい炭と焼土粒微量に含む
8	7.5YR5/6	明褐色	粘性、締まりなし	火熱を受けた黄褐色土を多く含む
9	7.5YR2/3	黒褐色	粘性、締まりなし	
10	7.5YR4/6	褐　色	粘性、締まりなし	焼土少量、黄褐色土多量に含む
11	7.5YR5/6	明褐色	粘性、締まりなし	黄褐色土の崩壊土
12	7.5YR4/6	褐　色	粘性、締まりなし	焼土、黄褐色土を多く含む
13	5YR4/6	赤褐色	粘性、締まりなし	焼土、炭、黄褐色土を含む
14	7.5YR3/2	黒褐色	粘性、締まりなし	黄褐色土を含む

K−L

1	5YR3/4	暗赤褐色	粘性やや有り　締まり有り	焼土層
2	5YR4/8	暗赤褐色	粘性無し　締まり有り固い	焼土層

第15図　RA501住居跡・RA501（1）出土遺物



第16図　RA501（2）住居跡出土遺物

痕がある。

時期は平安時代と思われる。

RA502（第17図，写真図版12・37）

調査地北西に位置し、表土直下で検出された。隅丸方形状を呈し西側にカマドを持つ。壁は西側では直立し、東側は痕跡程度しか残らない。規模は1辺約2m、壁高は西側で25cmである。埋土は主に黄褐色土を多く含む黒褐色土で構成され、締まりはない。床面は東側に緩く傾斜して下がる。北側と南側の壁際に小土坑がある。西寄りの2基が柱穴の可能性もある。

カマドは西壁の南寄りに位置し、袖の芯として立てられていた礫の抜き取り痕らしいものの間に燃焼部の焼土が見られ、煙道は水平に長さ1.2m程掘り込まれた後直立している。燃焼部は浅い窪み状になり焼土を含む明褐色土や黒色土が堆積している。

出土遺物は土師器甕の破片が1点ある(17-1)。カマドの位置から平安時代と思われる。

RA503（第17・18図，写真図版13）

調査地南西に位置している。中央付近には住居跡より古い土坑がある。東側は傾斜地のため、壁や床面は残存しないが、隅丸方形状の平面形を呈すると思われる。壁は内湾気味に立ち上がる。残存部の規模は南北4.4m・東西2.4m・壁高は西側で10cmである。埋土は極暗褐色土で、粘性・締まり共にない。床面は緩く湾曲しながら東側に傾斜する。壁際に柱穴状の小土坑が3基見られる。

カマドは西側壁際に燃焼部の焼土と一部崩落したくり貫き式の煙道が残る。燃焼部は固く焼け締まり、最大厚5cmの焼土が形成されている。煙道は、燃焼部から20cm高いところから緩く傾斜して1.5m下がった後、直立する。

出土遺物は土師器甕1点が得られている。口縁部は短く「く」字状に外反し、頸部に沈線が巡る。外面は削り、内面はハケメ調整が施されている。時期は、カマドの位置や出土遺物から平安時代と思われる。

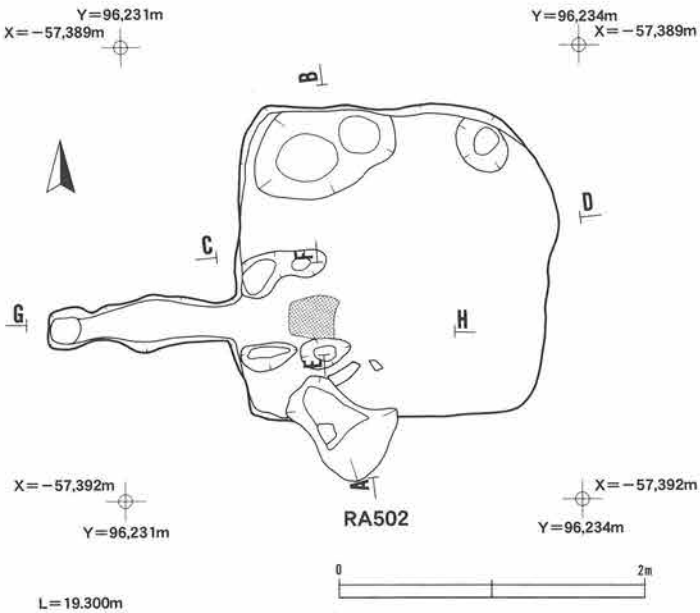
RA504（第18～20図，写真図版14・15・37・38 ）

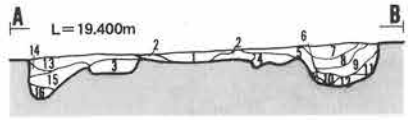
調査地中央西寄りに位置し、表土直下の黄褐色土の基盤層で検出された。西側にカマドが残り、南側の壁の一部は残存しない。ややいびつであるが隅丸方形を呈する。残存する壁は直立気味ないしは内湾気味に立ち上がる。規模は一辺約5m・西側の壁高約30cmである。埋土は主に焼土や炭粒を含む黒色土で構成され、締まりはない。

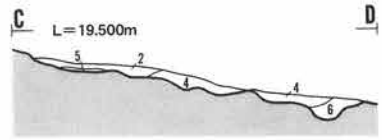
床面はほぼ平坦で、東側に緩く傾斜する。柱穴状土坑は南側壁寄りに2基、北寄りに2基の計4基が確認されている。柱穴状土坑は径30cm・深さ50～70cmである。その他にも大小の土坑が検出されている。また東側や南側の一部を掘り込んで固く締まった貼り床がなされている。北東隅の土坑は直径90cm・深さ約60cmで、埋土は黄褐色土を多く含む黒褐色土や黒色土で構成される。締まりはない。

カマドは西側壁の南寄りに袖の痕跡や芯としたと思われる礫・燃焼部と思われる焼土があり、西側にくり貫き式の煙道が作られている。煙道は緩く傾斜して1.2mほど下がった後、直立する。

出土遺物は、土師器甕2個体と破片数点・羽口片1点・砥石1点が得られている。20-1・4は口縁部が短く「く」字状に外反し、胴部は少し膨らむ。20-1は内外面がナデ調整、20-4は外面ハケメ調整が施されている。20-2は須恵器甕の破片と思われる。20-3は底部に木葉痕がある。20-6の羽口はフイゴ側の方で、一端がラ

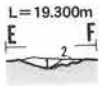




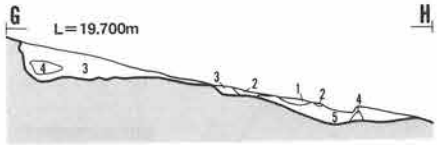


RA502
A−B C−D

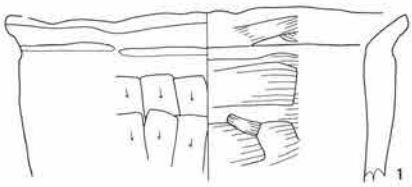
1	10YR2/1	黒 色	焼土位混入	粘性やや弱 締まり疎
2	10YR6/6	明黄褐色	粘性中 締まりやや疎	
3	10YR4/4	褐 色	炭化物・焼土混入 粘性疎	
4	10YR5/6	黄褐色	粘性無し 黒色土混入	
7	10YR1.7/1	黒 色	黄褐色土混入 粘性やや弱 締まり中	
8	10YR1.7/1	黒 色	黄褐色土混入 粘性弱 締まり中	
9	10YR1/2	黒 色	黄褐色土混入 粘性弱 締まり疎	
10	10YR2/2	黒 色	黄褐色土混入 粘性弱 締まり疎	
11	10YR2/2	黒褐色	黄褐色土多量混入 粘性中 締まり疎	
12	10YR5/2	黄褐色	黄褐色崩壊土 粘性やや弱 締まり中	
13	10YR2/2	黒褐色	黄褐色土混入 粘性中 締まりやや疎	
14	10YR4/4	褐 色	褐色土ブロック 粘性中 締まりやや疎	
15	10YR1/2	黒 色	黄褐色土多量混入 粘性弱 締まり疎	
16	10YR5/6	黄褐色	黄褐色崩壊土 粘性弱 締まり疎	

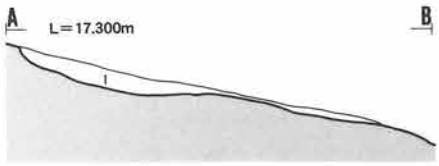


E−F
1 7.5YR5/6 明褐色 焼土多く含む 粘性有り
2 7.5YR2/1 黒 色 焼土含む 粘性有り 締まりし



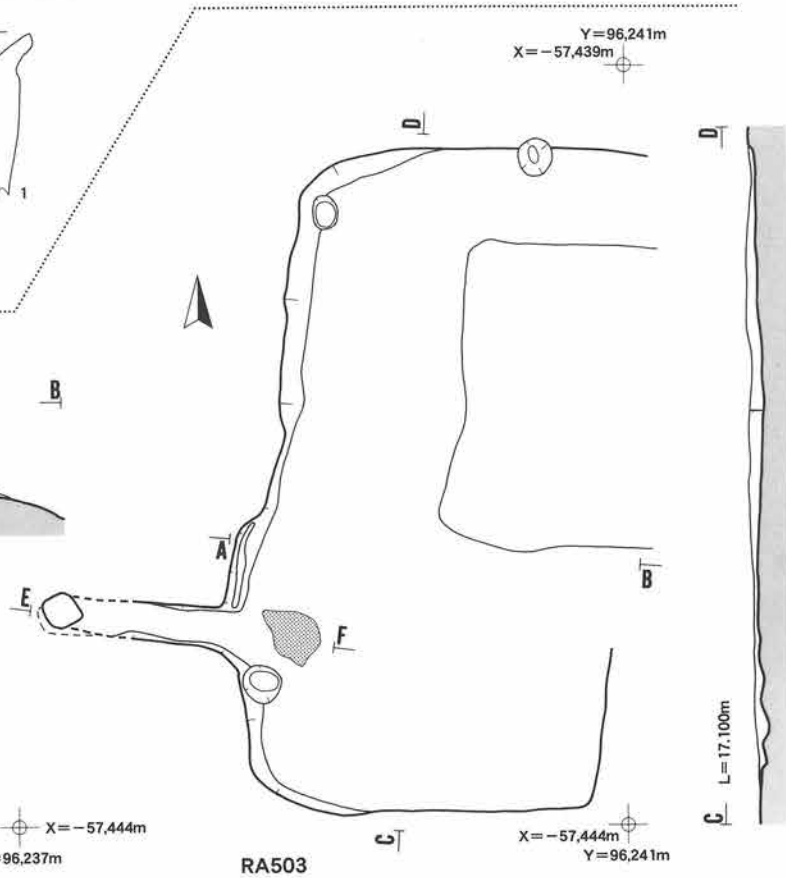
G−H
1 10YR3/4 暗褐色 焼土を多く含む 薄い焼土層
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土を少し含む 粘性有り 締まりなし
3 7.5YR3/2 黒褐色 黄褐色土を多く含む 粘性有り 締まりなし
4 7.5YR2/2 黒褐色 黄褐色土を含む 粘性有り 締まりなし
5 7.5YR5/6 明褐色 褐色土かなり混じる

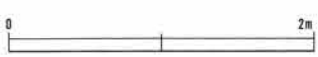




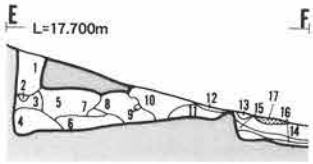
RA503
A−B
1 7.5YR2/3 極暗褐色 粘性、締まりなし

C−D
1 10YR2/3 黒褐色 粘性、締まりなし



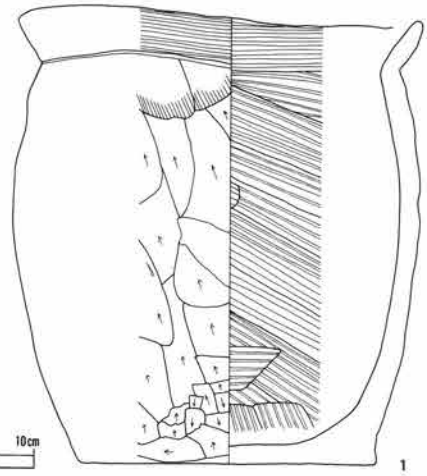


第17図 RA502、503（1）住居跡・RA502出土遺物

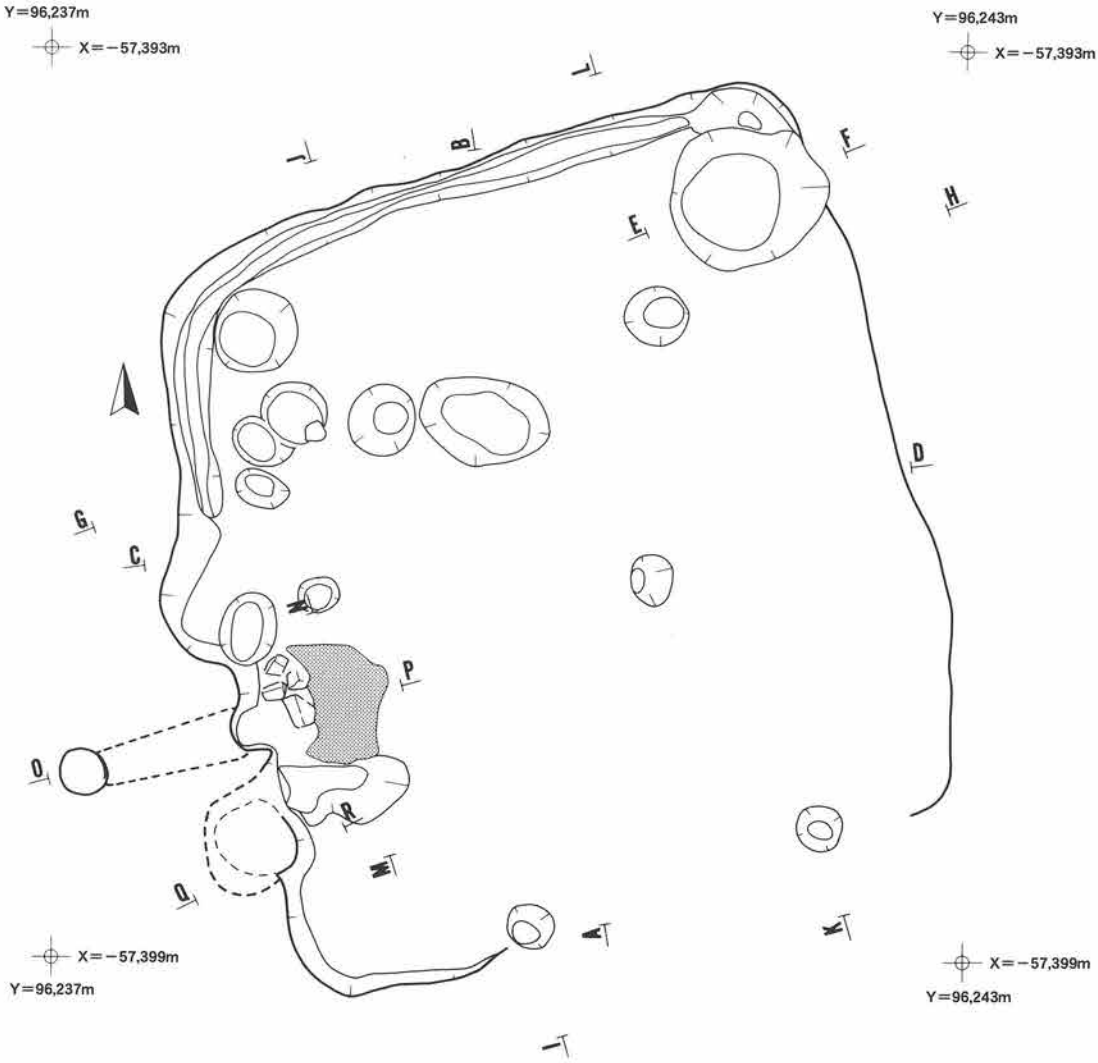


E−F

1	5YR1.7/1	黒　色	軟らかい
2	7.5YR6/6	橙　色	地山
3	5YR2/2	黒褐色	地山混入　軟らかい
4	5YR3/2	暗褐色	地山　焼土混入　軟らかい
5	5YR2/3	暗褐色	地山　炭化粒混入　軟らかい
6	5YR2/2	黒褐色	地山　炭化粒混入　軟らかい
7	7.5YR2/2	黒褐色	汚れ地山
8	5YR2/3	暗赤褐色	地山，焼土，炭化物混入
9	5YR6/4	赤褐色	7と同じ
10	5YR4/3	暗赤褐色	地山，焼土層
11	5YR3/3	暗赤褐色	地山，焼土層
12	5YR3/2	極暗赤褐色	シルト
13	5YR3/8	暗赤褐色	焼土混入
14	5YR2/2	黒 褐 色	締まっている
15	5YR2/3	暗赤褐色	硬い
16	5YR3/3	暗赤褐色	硬い
17	5YR5/8	明赤褐色	カマド焼土
18	7.5YR6/6	橙　色	地山

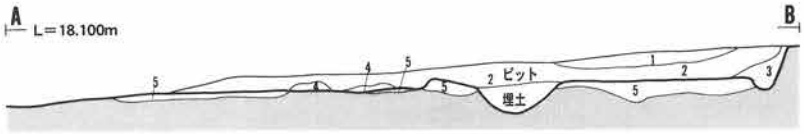


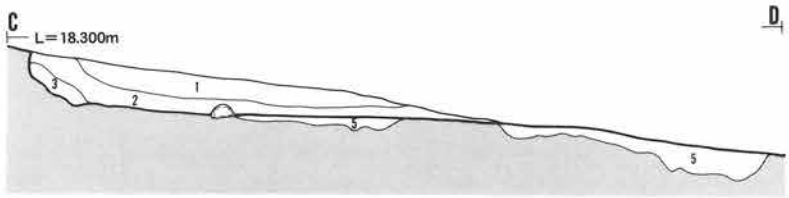
RA503



RA504

第18図　RA503（2）、RA504（1）住居跡・RA503出土遺物

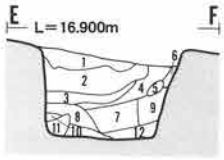




RA504住居跡

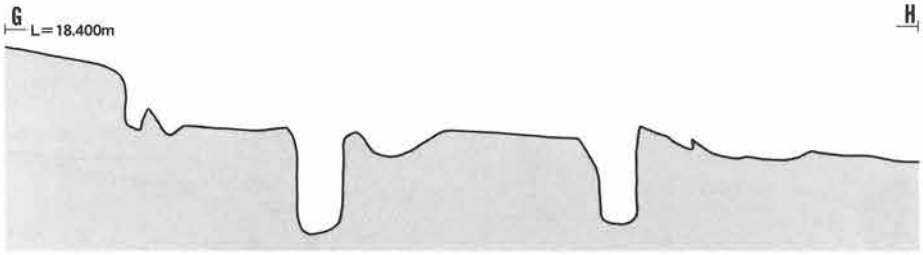
A−B　C−D

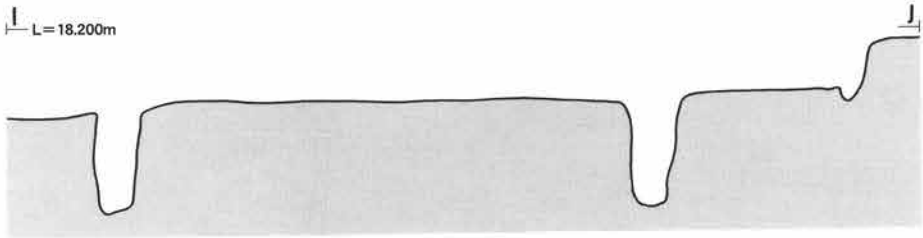
1　7.5YR3/1　黒　色　粘性有り　締まりややあり　焼土、炭粒を含む
2　10YR2/1　黒　色　粘性やや有り　締まりなし　黄褐色土粒を多く含む
3　7.5YR2/1　黒　色　粘性有り　締まりなし　黄褐色土粒を含む
4　10YR2/2　黒褐色　黄褐色土の崩壊土　粘性有り　締まりなし
5　10YR3/4　暗褐色　黄褐色土粒を多く含む　粘性無し　固く締まる

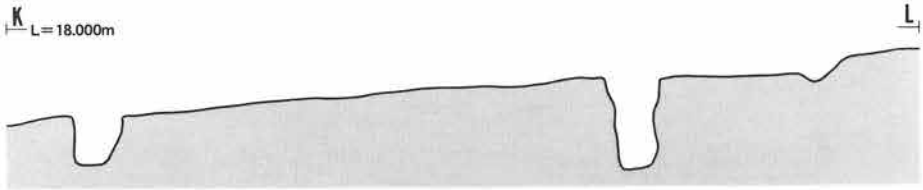


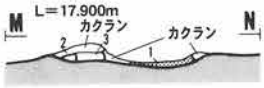
E−F

1　7.5YR2/2　黒褐色　粘性締まりなし　黄褐色土を多く含む
2　7.5YR2/1　黒　色　粘性有り　締まりなし　黄褐色土を含む
3　7.5YR3/3　暗褐色　粘性締まりなし　黄褐色土を非常に多く含む
4　7.5YR1.7/1　黒　色　粘性やや有り　締まりなし
5　10YR5/6　黄褐色　壁の崩壊土ブロック状に入る
6　10YR2/1　黒　色　粘性やや有り　締まりなし
7　7.5YR3/1　黒褐色　粘性やや有り　締まりなし　黄褐色土を多く含む
8　7.5YR5/6　明褐色　粘性やや有り　締まりなし　黄褐色土を非常に多く含む
9　7.5YR7/8　黄橙色　粘性やや有り　締まりなし　黄褐色土を非常に多く含む
10　7.5YR4/6　褐　色　粘性やや有り　締まりなし　ほとんど黄褐色土
11　7.5YR6/6　橙　色　粘性やや有り　締まりなし　壁の崩壊土ブロック状
12　7.5YR4/3　褐　色　粘性やや有り　締まりなし　黄褐色土を非常に多く含む



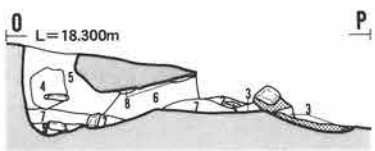






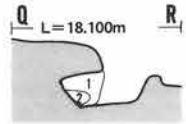
M−N

1　5YR5/8　明褐色　焼土層　粘性無し　締まり有り
2　7.5YR3/2　黒褐色　黄褐色土を含む　粘性有り　締まりなし
3　7.5YR3/4　暗褐色　固く締まる　粘性無し　袖土



O−P

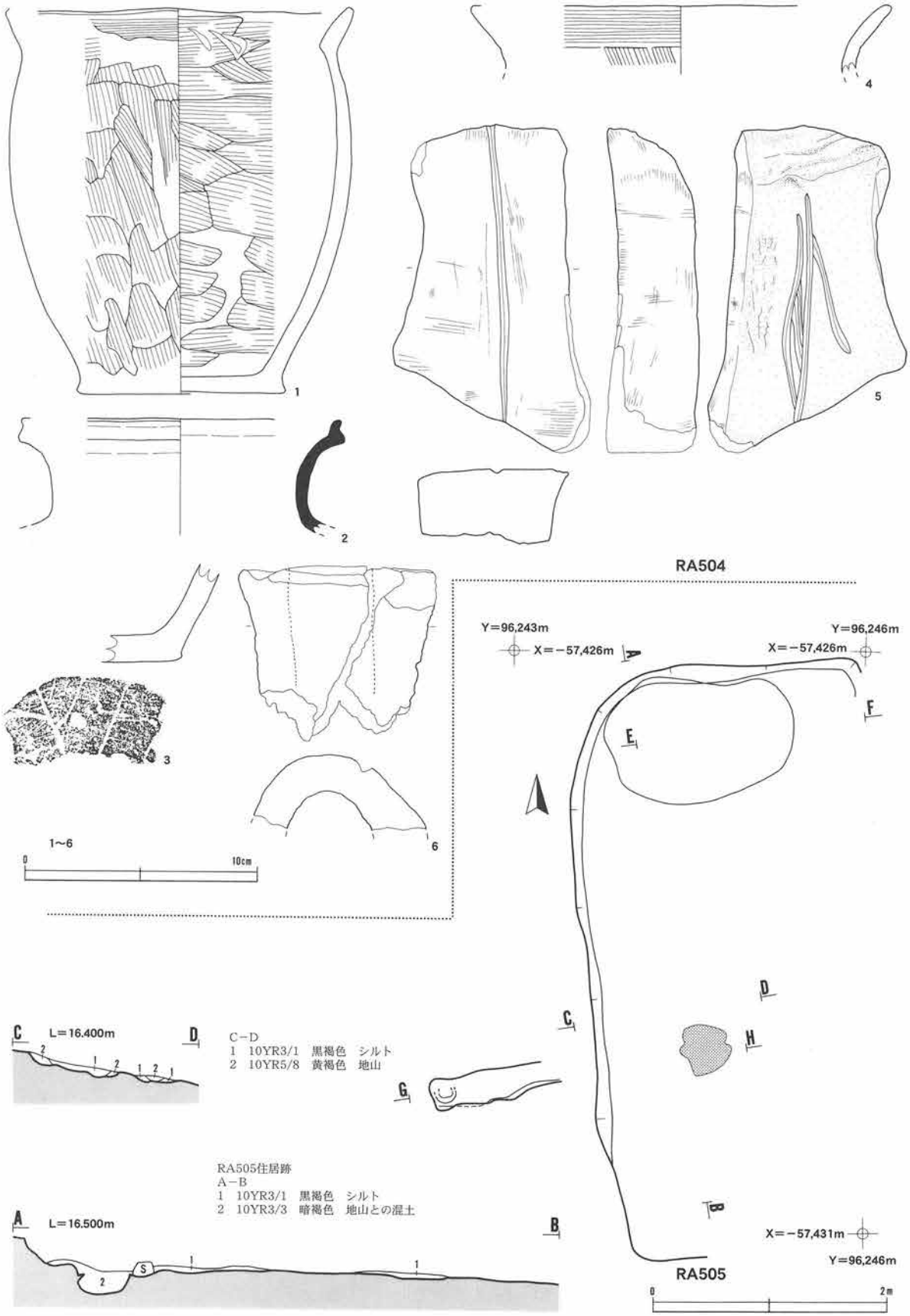
1　5YR5/8　明褐色　焼土層　粘性無し　締まり有り
2　7.5YR3/2　黒褐色　黄褐色土を含む　粘性有り　締まりなし
3　7.5YR4/3　褐　色　粘性締まりなし　焼土を極多量に含む
4　10YR5/6　黄褐色　粘性締まりなし　黄褐色土ブロックを多量に含む
5　10YR3/2　黒褐色　粘性締まりなし　焼土少量、黄褐色土を多量に含む
6　7.5YR3/2　黒褐色　粘性締まりなし　焼土少量、黄褐色土を含む
7　10YR3/3　暗褐色　粘性やや有り　焼土を含む
8　10YR4/6　褐　色　粘性無し　固く締まる　焼けている
9　10YR3/2　黒褐色　粘性締まりなし　焼土炭を少し含む



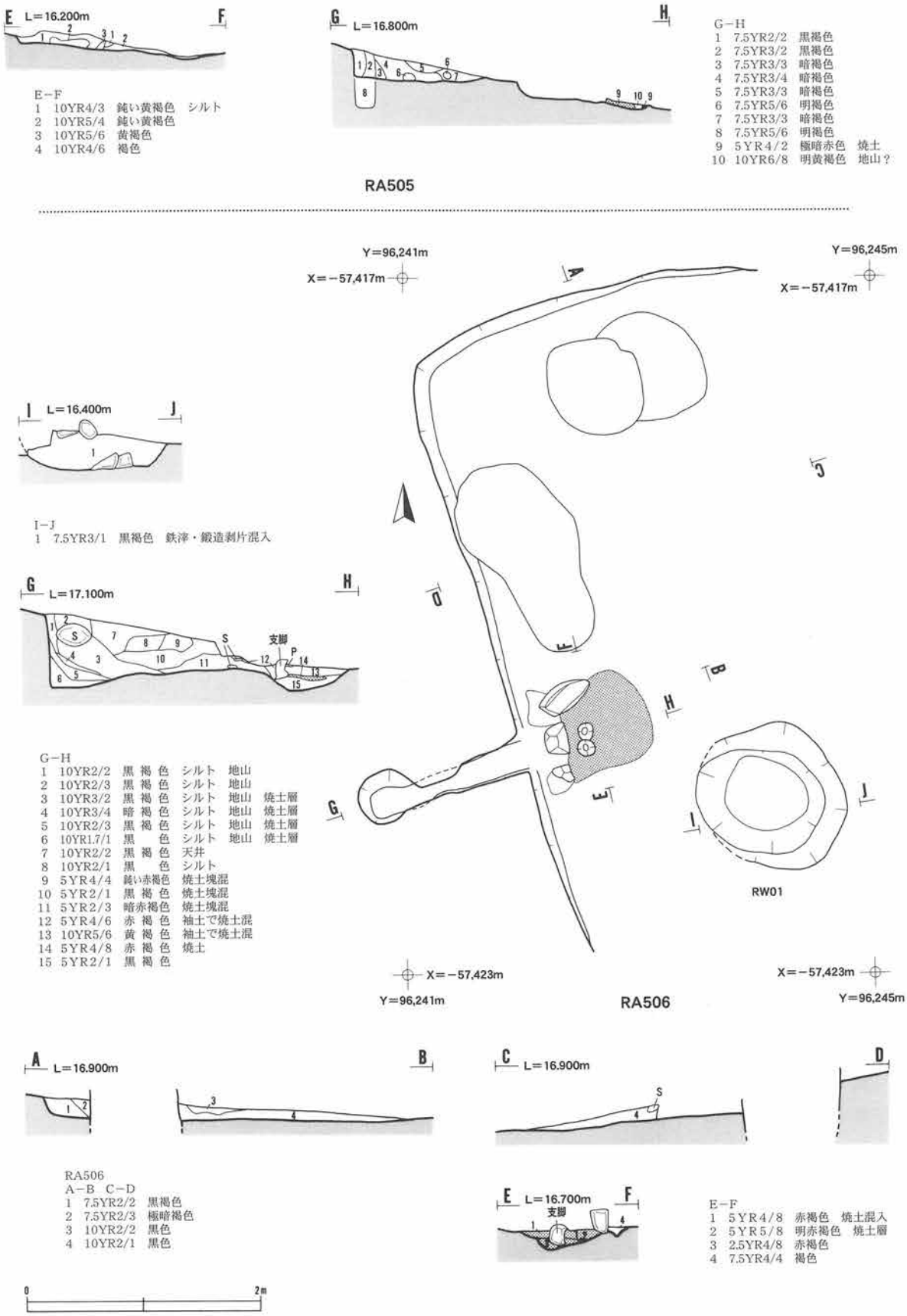
Q−R

1　10YR2/2　黒褐色　焼土混入　粘性弱　締まり疎
2　10YR5/6　黄褐色　ブロック状崩壊土　粘性無し　締まり中

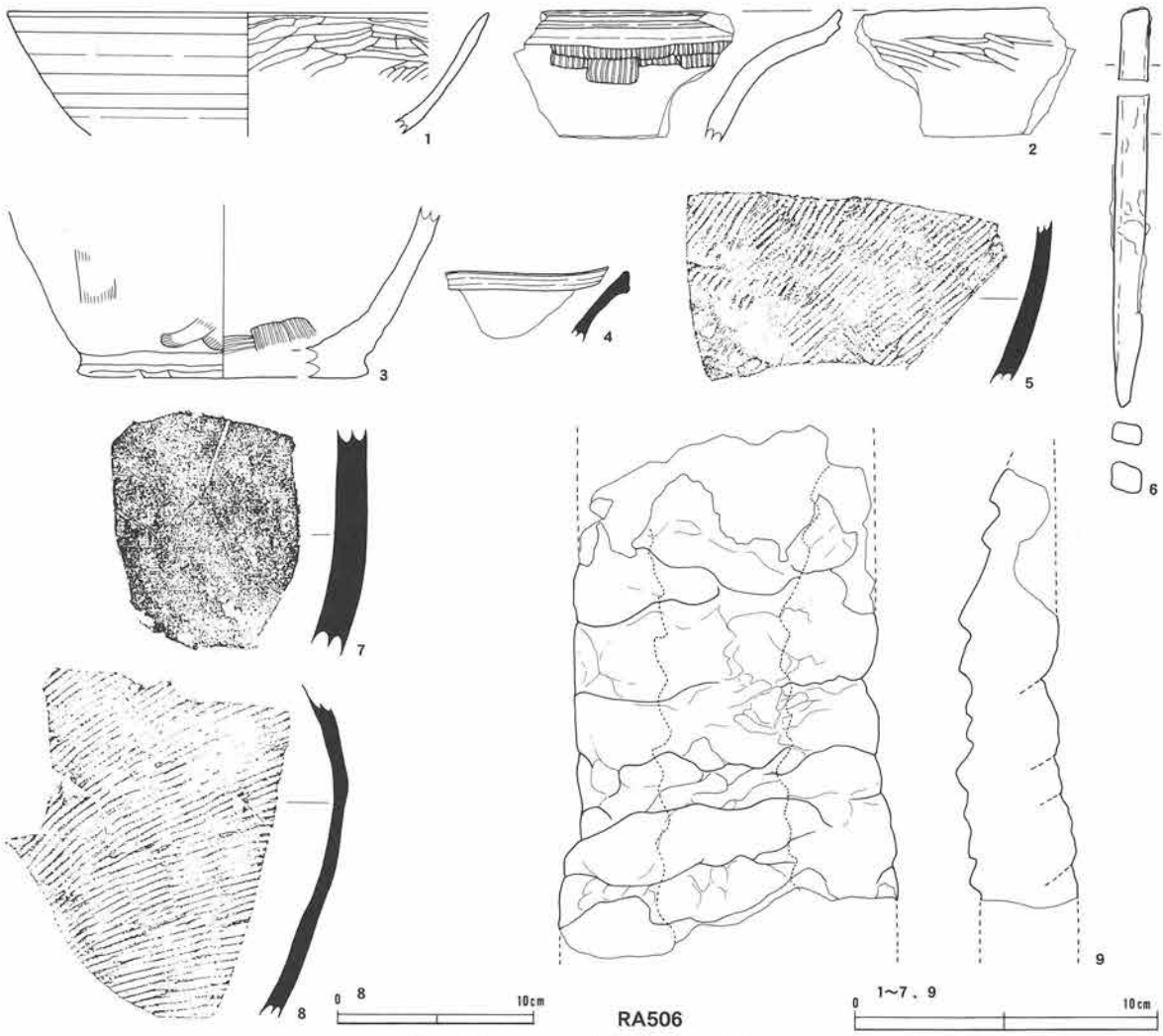
第19図　RA504（2）住居跡



第20図 RA504出土遺物・RA505（1）住居跡



第21図 RA505（2）・506住居跡
RW01鍛冶遺構



第22図　RA506住居跡出土遺物

ッパ状に広がる。20-5の砥石は煉瓦状で、両面・両側縁に研ぎ面が形成されている。また、両面には縦方向の条痕がある。

遺構の時期は、カマドの位置や出土遺物から平安時代と思われる。

RA505（第20・21図，写真図版13）

調査地中央西寄りに位置し、RA504の南側に検出された。西側にカマドの一部が残るが、南東側は壁や床は残存しない。平面形は隅丸長方形状を呈しているようである。壁は内湾気味に立ち上がる。残存する規模は南北5m・東西2.5mで、壁高は最大30cmである。埋土は主に黒褐色土で構成されている。

床面は緩やかな凹凸があり、東側に傾斜している。北側には土坑があるようだが不明である。

カマドは西側の南寄りに燃焼の痕跡と見られる焼土と壁の西側に煙道の底部と見られる溝が1.5m残る。焼土は痕跡程度で、黒褐色土が薄く堆積している。煙道は水平に掘り込まれた後直立するようで、煙出穴の直下は煙道底部より25cm深く掘り込まれている。

出土遺物はないが、カマドの位置から平安時代の遺構と思われる。

RA506（第21・22図，写真図版16・38）

調査地中央西寄りに位置し、RA505住居跡の北側に検出された。西側にカマドがあり、南東側の壁は残存しない。カマドの北にRT01墓壙が、カマドの南東にRW01鍛冶遺構が検出されている。RT01墓壙は住居跡より新しいが、RW01鍛冶遺構は住居跡との新旧関係は不明である。住居跡は方形ないしは長方形の平面形を呈すると思われ、壁は内湾気味に直立している。残存部の規模は南北5.5m・東西3.2m・壁高は西側で20cm程である。埋土は注記が無く不明である。床面はほぼ平坦である。

カマドは袖の芯に使用された角礫と支脚と思われる礫、くり貫き式の煙道の一部が残る。燃焼部は掘りくぼめて黒褐色土を貼って作られているようで、その上に厚さ3cmほどの焼土が形成されている。煙道はほぼ水平に1.5mほどくり貫かれ、煙出し穴直下付近はやや低く掘りくぼめられている。

RW01鍛冶遺構は独立した遺構名で登録されているが、周囲に鍛造剥片も見られたようなので、この遺構に伴う可能性がある。しかし、フィールドカードもなく詳細は不明である。

出土遺物は土師器片・須恵器片・支脚1点・棒状鉄製品1点である。22-1はロクロ整形の坏で、内面は丁寧なミガキ調整が施されている。須恵器片にはタタキメも見られる。22-9の支脚は粘土紐を輪積みにして作られている。22-6の鉄製品は横断面形が長方形で、一端が尖っている。

この遺構の時期は、カマドの位置や出土遺物から平安時代と思われる。

RA507（第23図，写真図版17・39）

調査地中央西寄りに位置し、RA506住居跡の北側に検出された。いびつな隅丸方形状を呈し、西側にカマドを持つ。壁はやや外傾して立ち上がる。規模は東西方向で2.5m・南北方向で2～2.5m・壁高は最大20cmである。埋土は焼土や袖土が少量混入する黒褐色土で構成される。床面はほぼ平坦である。西側にはカマドの袖を切る土坑がある。土坑の規模は直径1m・深さ40cmほどで、底部は凹凸がある。埋土は焼土の混入する黒褐色土で構成されている。柱穴状の土坑は検出されていない。

カマドは西側壁の中央付近にあり、南側の袖の一部と煙道が残る。袖の石を固定した黒褐色土の内側には厚さ5cmほどの焼土が形成されている。煙道は1.2mほどの長さで、煙出部に向かって20°ほどの傾斜で下った後、直立している。

出土遺物は土師器甕と甕の破片が得られている。いずれも口縁部は短く、外反している。外面ナデ、内面ハケメやナデの調整が施されている。

遺構の時期は、カマドの位置や伴出遺物から平安時代と思われる。

RA508（第24・25図，写真図版18・39）

調査地中央西寄りに位置し、RA506の東に検出された。南東隅が丸いややいびつな長方形状の平面形を呈し、北側壁にカマドがある。規模は南北6.2m・東西4.8mである。壁の高さやカマドの状況については実測図やフィールドカードが残っておらず不明である。床面も同様不明である。西寄りに柱穴状の土坑が3基検出されている。

出土遺物は縄文土器片と土師器高坏脚部各1点が出土している。脚にはロクロまたは回転台に伴うような段が三段有り、内面はナデ調整されている。また、坏部の内側は丁寧に磨かれ、黒色処理されている。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが、カマドの位置から奈良時代の可能性が高い。

RA509（第25図，写真図版19）

調査地北寄りの中央付近に位置している。東側にある遺構と重複しているようであるが、記録は残っていない。西側しか壁が残存しないが、隅丸方形状を呈しているようである。カマドは確認されないが北東側の床面に焼土がある。壁は緩く傾斜して立ち上がる。残存部の規模は南北3.5m・東西2mほどである。壁高は最大5cmである。埋土は焼土や炭化物を含む黒褐色土で構成されている。

床面は平坦で、東側に傾斜している。西寄りに柱穴状の土坑が5基検出されている。

焼土は直径45cmほどの浅い窪みに形成されている。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが奈良時代の可能性もある。

RA510（第26図，写真図版20・39）

調査地西寄り南側に位置している。遺構配置図はあるが、平面実測図はなく、断面図のみが残る。一辺4mほどの隅丸方形状を呈し、北側壁のやや東寄りにカマドがあるようである。写真では北西側に別遺構が重複しているようである。断面図によると南寄りをRD21土坑に切られている。壁は50～70°で外傾して立ち上がる。埋土は黒色土や黒褐色土から構成されている。

床面はほぼ平坦で、貼り床がなされている。

出土遺物は棒状の鉄製品が1点得られている。長さ26cm・直径1cmほどで、両端が尖っている。

遺構の時期は調査者は古代としているが、カマドの位置から奈良時代の可能性が高い。

RA511（写真図版21）

遺構配置図に写213とあるのみで、実測図・フィールドカードは残っていないので不明。調査地中央北寄り付近に位置している。全景写真でも複数の遺構の重複があり、形状は不明である。

出土遺物も無く、遺構の時期は不明である。

RA512（第27図，写真図版21・39）

調査地中央北端に位置し、RG02溝に切られている。また北東をほかの遺構に切られているようである。平面形は隅丸方形状を呈し、壁は内湾気味に直立する。規模は軸長約2.5mである。壁高は10～20cmである。埋土は主に黄褐色土粒を含む黒褐色土で構成され、やや締まる。

床面はほぼ平坦である。カマドや炉については記録が無く不明である。

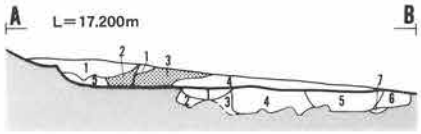
出土遺物は土師器甕1点と石鏃1点がある。27-1は口縁部が外反して大きく開いた後、口唇部付近が直立する。外面はハケメ・内面はナデとハケメの調整が施されている。

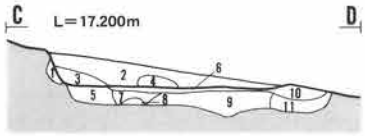
遺構の時期は、調査者は古代としているが、奈良時代の可能性がある。

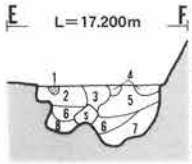
竪穴状遺構

RE03（第27図，写真図版22）

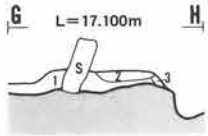
調査地中央付近西寄りに位置しRA508住居跡の北に検出された。やや菱形がかった隅丸方形の平面形を呈し、壁は西側が直立、ほかは湾曲して立ち上がる。規模は軸長約2.6mである。壁高は西側で30cmである。



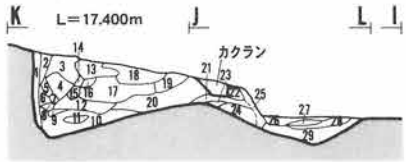


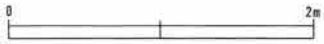


E−F
1 5YR4/8 赤褐色 焼土
2 2.5Y3/2 黒褐色 焼土混じり
3 2.5Y3/1 黒褐色 シルト
4 7.5YR3/2 黒褐色 焼土混じり
5 7.5YR2/2 黒褐色 シルト
6 10YR3/2 黒褐色 地山
7 10YR2/3 黒褐色 シルト
8 10YR5/6 黄褐色 汚地山



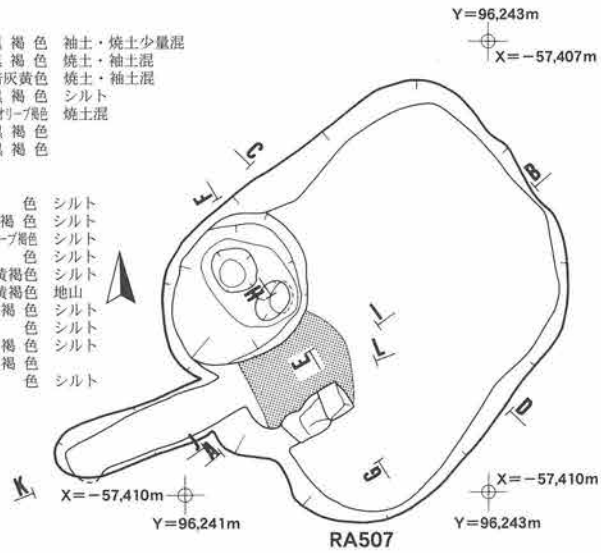
G−H
1 10YR2/3 黒褐色 貼り床の土と同じ
2 5YR4/8 赤褐色
3 7.5YR5/6 明褐色



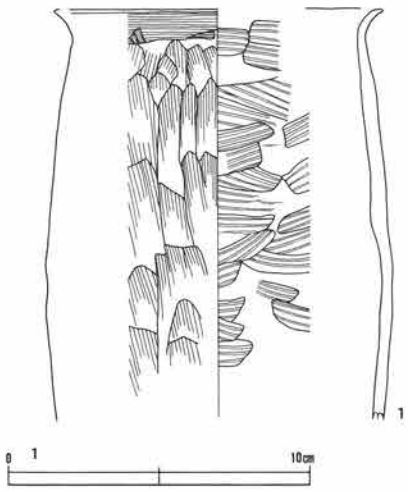


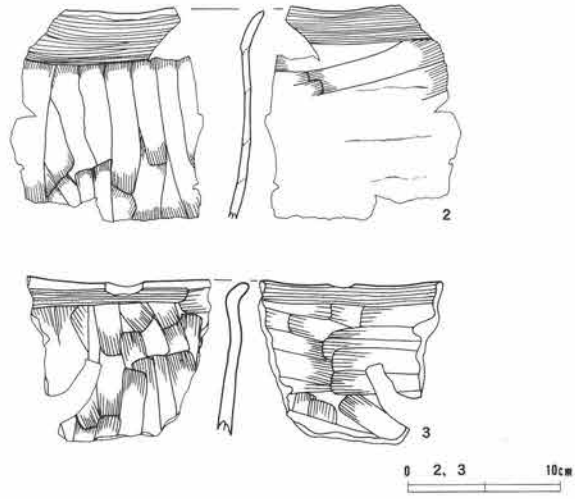
RA507住居跡
A−B
1 2.5Y3/1 黒 褐 色 袖土・焼土少量混
2 5YR1/3 黒 褐 色 焼土・袖土混
3 2.5YR2/4 暗灰黄色 焼土・袖土混
4 2.5Y1/3 黒 褐 色 シルト
5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 焼土混
6 10YR2/2 黒 褐 色
7 10YR3/2 黒 褐 色

C−D
1 5Y1/4 灰 色 シルト
2 2.5Y1/3 黒 褐 色 シルト
3 5Y1/3 オリーブ褐色 シルト
4 5Y1/2 黒 色 シルト
5 10YR4/2 灰黄褐色 シルト
6 10YR4/2 灰黄褐色 地山
7 10YR3/1 黒 褐 色 シルト
8 10YR4/4 褐 色 シルト
9 10YR3/2 黒 褐 色 シルト
10 10YR3/1 黒 褐 色
11 10YR2/1 黒 色 シルト

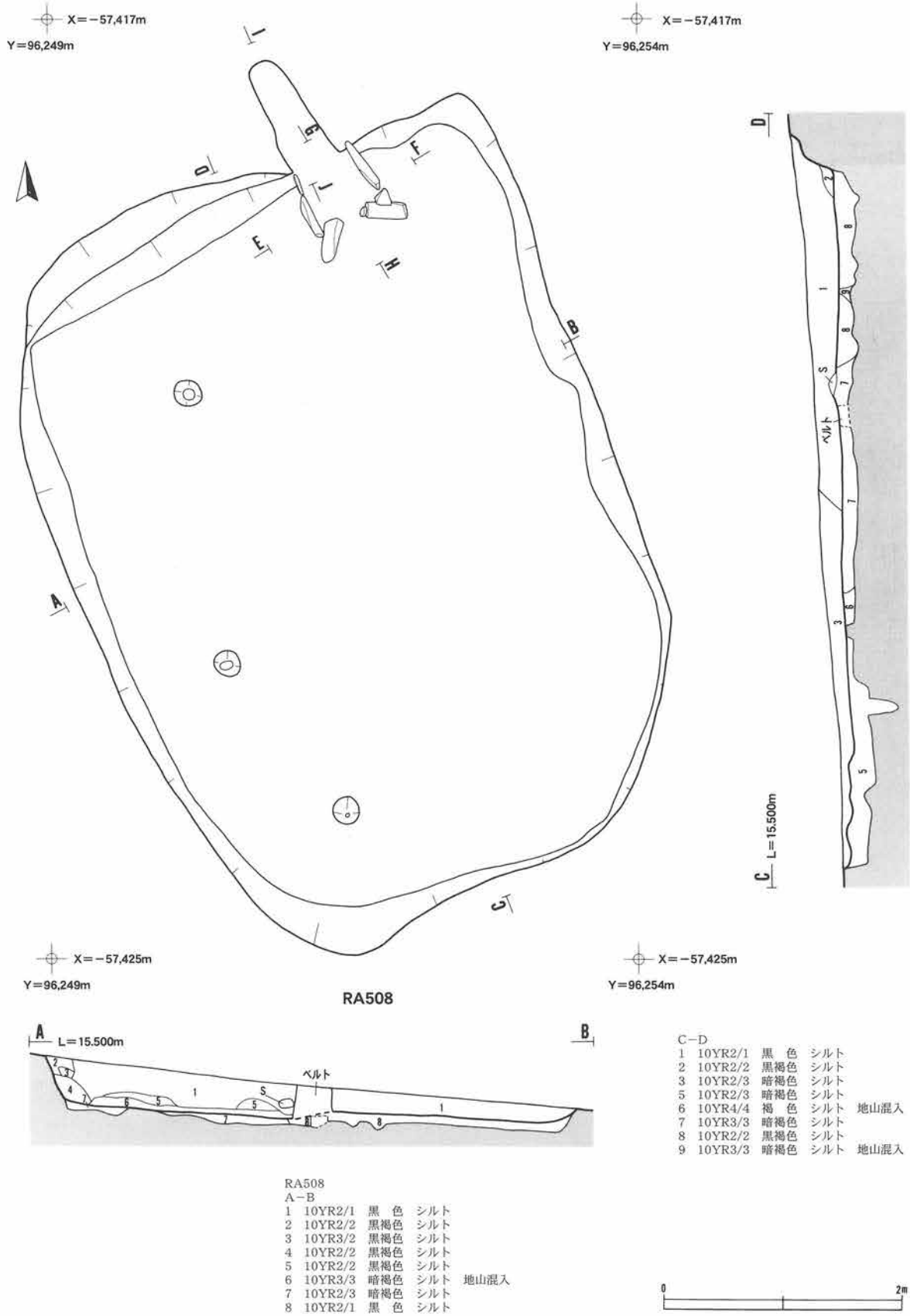


I-J K-L
1 10YR8/8 黄橙色
2 10YR3/2 黒褐色
3 10YR5/4 鈍い黄褐色
4 10YR3/2 黒褐色
5 10YR6/6 明黄褐色
6 10YR3/2 黒褐色
7 10YR4/6 褐 色
8 10YR3/4 明褐色
9 10YR6/3 鈍い黄橙色
10 10YR2/1 黒 色
11 5YR3/3 暗赤褐色
12 10YR6/4 鈍い黄橙色
13 10YR2/2 黒褐色
14 7.5YR4/6 褐 色
15 7.5Y3/1 黒褐色
16 7.5YR5/4 鈍い黄褐色
17 7.5YR6/6 橙 色
18 7.5YR3/1 黒褐色
19 7.5YR2/2 黒褐色
20 7.5YR2/3 極暗褐色
21 5YR3/6 暗赤褐色
22 2.5Y8/6 黄 色
23 7.5YR8/4 浅黄橙色
24 10YR5/4 鈍い黄褐色
25 10YR2/3 黒褐色 貼り床の土と同じ
26 5YR4/8 赤褐色
27 7.5YR5/6 明褐色
28 5YR4/8 赤褐色 焼土混入
29 10YR2/3 黒褐色 貼床的





第23図 RA507住居跡、出土遺物

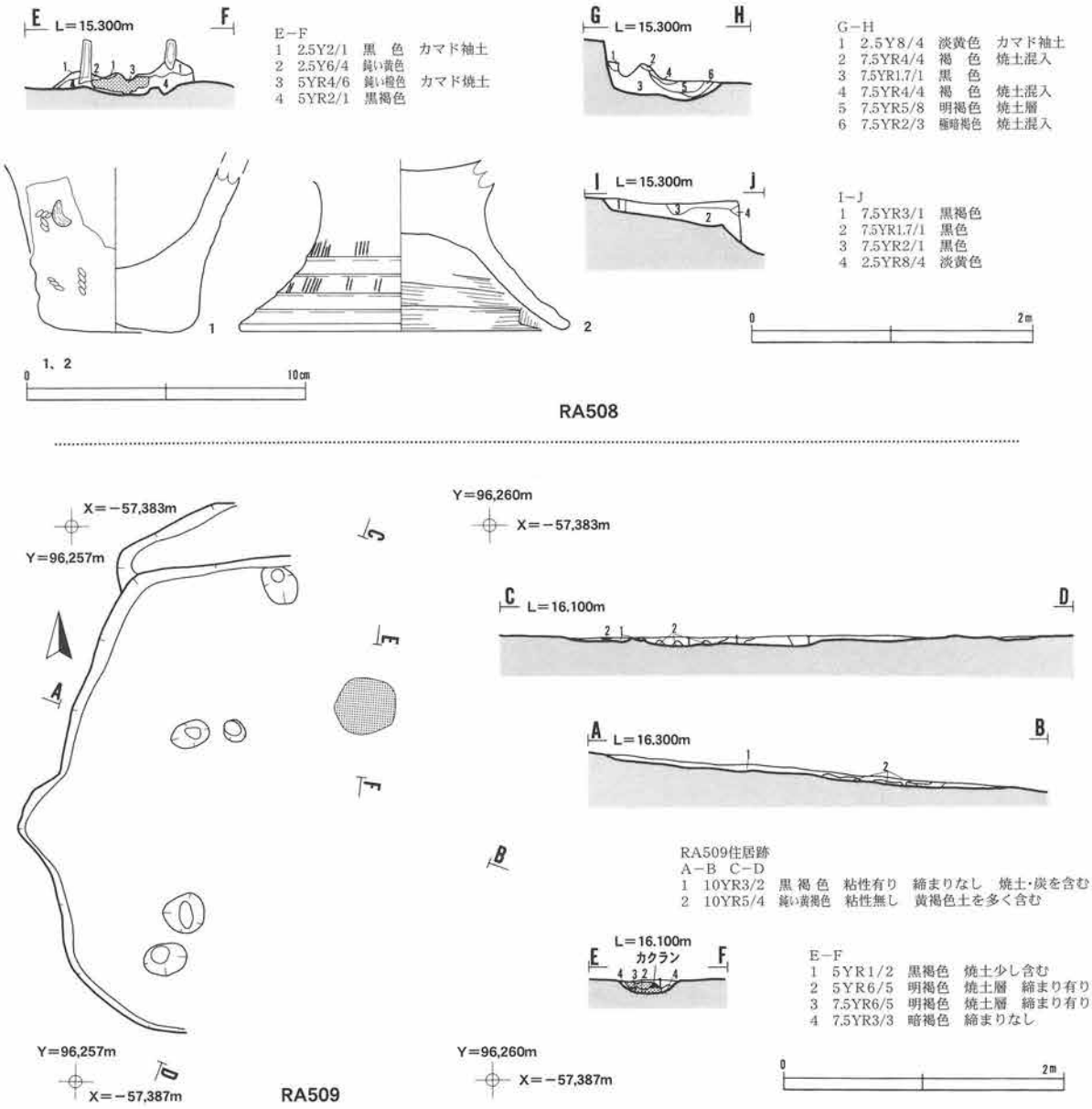


C−D
1 10YR2/1 黒 色 シルト
2 10YR2/2 黒褐色 シルト
3 10YR2/3 暗褐色 シルト
5 10YR2/3 暗褐色 シルト
6 10YR4/4 褐 色 シルト 地山混入
7 10YR3/3 暗褐色 シルト
8 10YR2/2 黒褐色 シルト
9 10YR3/3 暗褐色 シルト 地山混入

RA508
A−B
1 10YR2/1 黒 色 シルト
2 10YR2/2 黒褐色 シルト
3 10YR3/2 黒褐色 シルト
4 10YR2/2 黒褐色 シルト
5 10YR2/2 黒褐色 シルト
6 10YR3/3 暗褐色 シルト 地山混入
7 10YR2/3 暗褐色 シルト
8 10YR2/1 黒 色 シルト

0 2m

第24図 RA508（1）住居跡



第25図 RA508（2）・RA509住居跡・RA508出土遺物

埋土は暗褐色土や黒褐色土で形成されている。

底面はほぼ平坦である。炉はない。

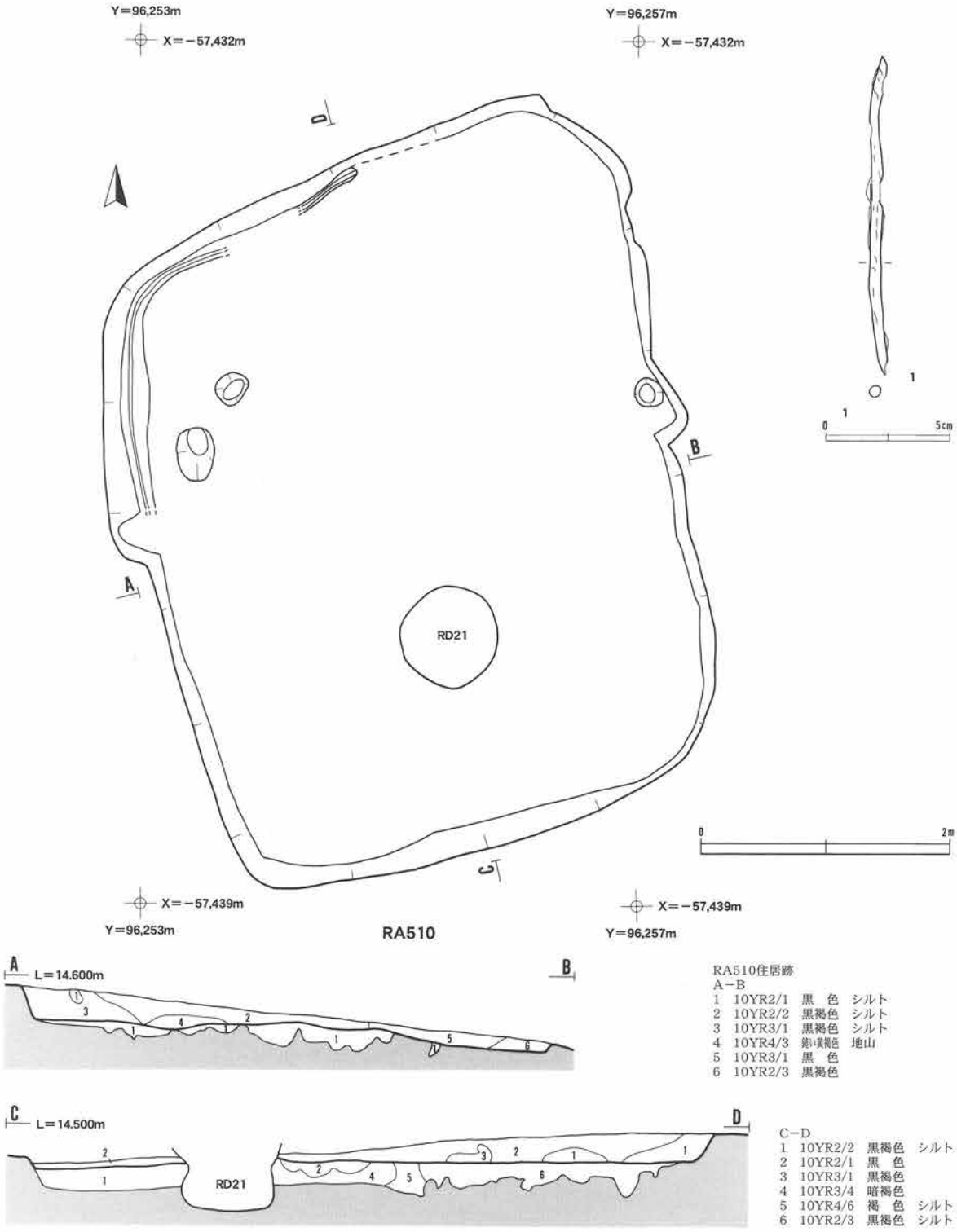
出土遺物はない。

土坑

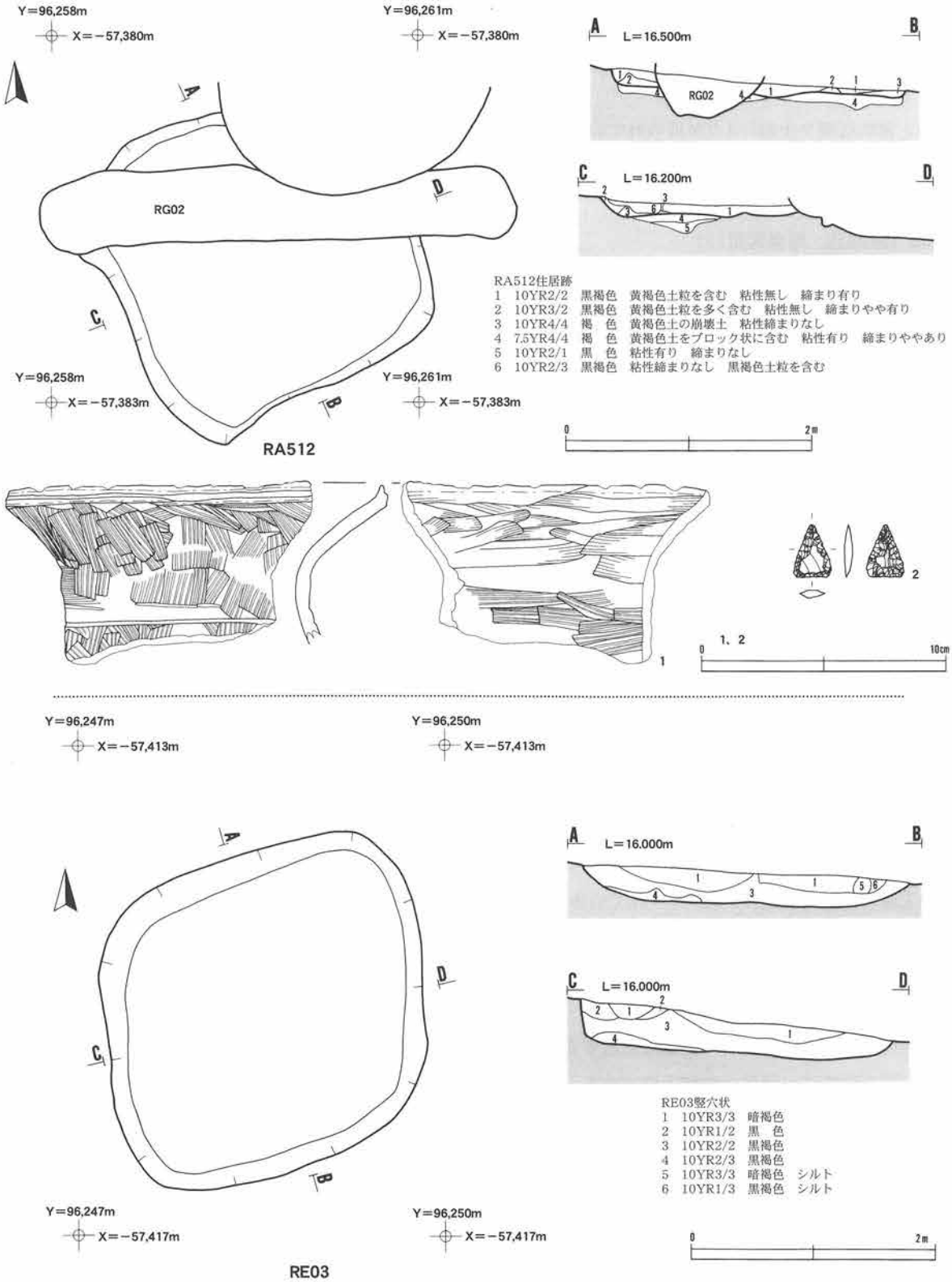
RD01（第28図，写真図版22）

調査地中央西寄りに位置し、Ⅴ層黄褐色土層～漸移層上で検出されている。東側をRD02土坑に切られている。円形または楕円形を呈していたようで、壁は緩く傾斜して立ち上がる。規模は推定径2m20cm・深さ5～10cmである。埋土は黄褐色土粒を含む黒褐色土で構成される。底面は緩くくぼみ中央付近が低くなる。

出土遺物はない。



第26図　RA510 住居跡・出土遺物



第27図 RA512住居跡、出土遺物・RE03竪穴状遺構

RD02（第28図，写真図版22・39）

調査地中央西寄りに位置し、Ｖ層黄褐色土層～漸移層上で検出されている。西側のRD01土坑を切っている。西側が直線の「Ｄ」字状の楕円形を呈している。壁は緩く傾斜して立ち上がる。規模は長軸2.8m・短軸1.7m・深さ5～10cmである。埋土は黄褐色土粒を含む黒色または黒褐色土で構成される。底面は緩くくぼみ中央付近が低くなる。

出土遺物は縄文土器片4点が得られている。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。

RD03（第28図，写真図版22）

調査地中央西寄りに位置している。平面形は隅丸長方形状を呈し、壁はほぼ直立する。規模は長軸1.8m・短軸1.3m・深さ約30cmである。埋土は黄褐色土を含む黒褐色土や黒色土で構成される。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。

RD04（第28図，写真図版22）

調査地中央北寄りに位置し、Ｖ層黄褐色土層で検出された。東側の下位にはRD05土坑があり、西側は別の遺構に切られている。平面形は不整な隅丸長方形状を呈し、壁は緩く傾斜して立ち上がる。規模は長軸2.3m・短軸1.4m・深さ10cmほどである。埋土は黒色土である。底面はほぼ平坦で、東側に傾斜している。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。

RD05（第29図，写真図版22・40）

調査地中央北寄りに位置する。西側の上位にはRD04土坑がある。平面形は隅丸長方形状を呈し、壁は緩く傾斜して立ち上がる。規模は長軸1.5m・短軸1.2m・深さ20cmほどである。埋土は主に炭化物や焼土を含む暗褐色土で構成される。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は縄文土器片2点が得られている。

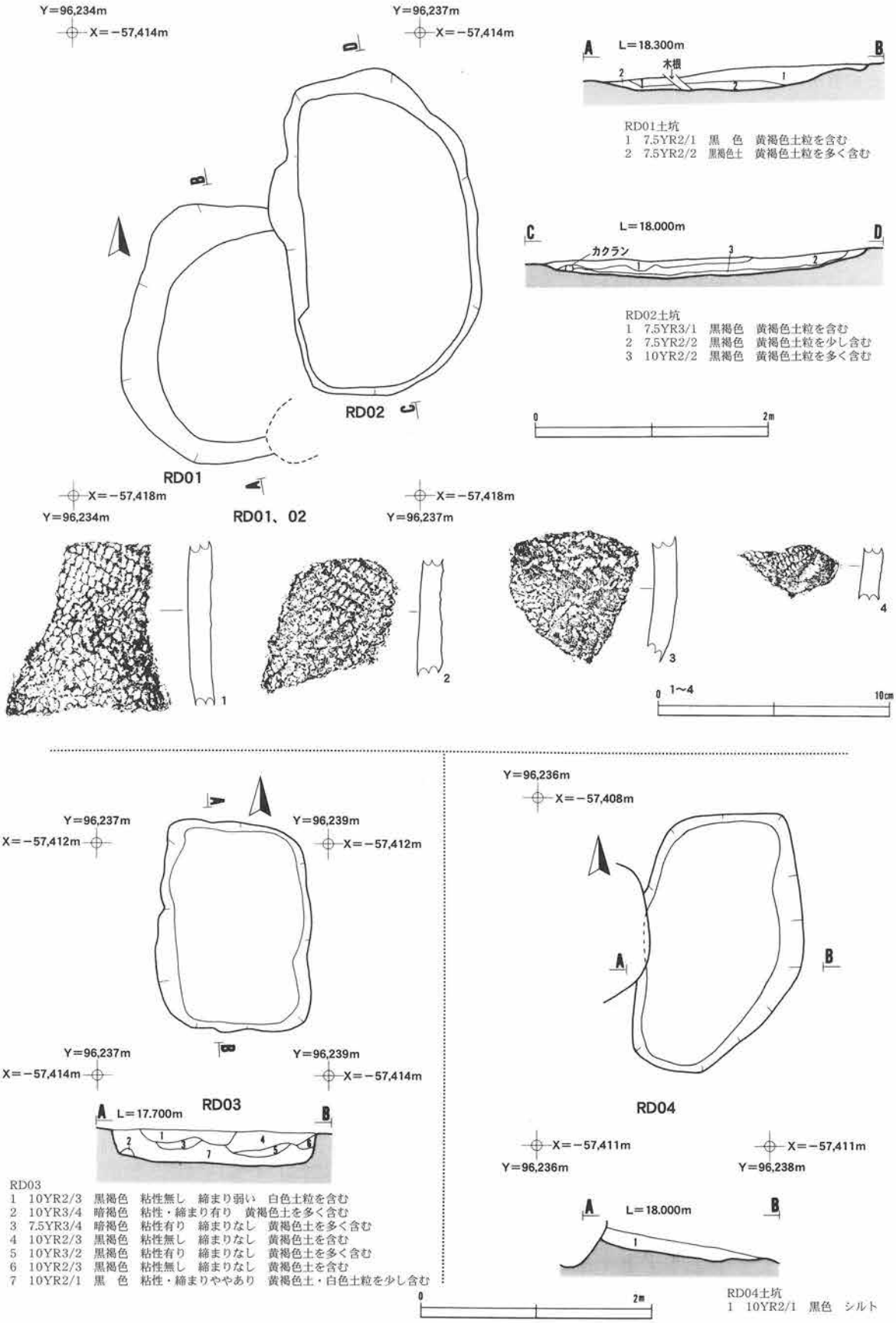
遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。

RD06（第29図，写真図版23）

調査地南西寄りに位置し、西側に重複するRD07土坑と共にRA109住居跡の南側を切っている。RD07土坑との重複関係は当遺構の方が上位にある。平面形はほぼ長方形状を呈し、壁は湾曲して立ち上がる。規模は長軸2.3m・短軸1.1m・深さ10cmほどである。埋土は黒褐色土と暗褐色土で構成されている。底面はほぼ平坦で、東に傾斜している。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。



第28図 RD01～04土坑・RD02出土遺物

RD07（第29図，写真図版23）

調査地南西寄りに位置し、東側に重複するRD06土坑と共にRA109住居跡の南側を切っている。RD06土坑との重複関係は当遺構の方が下位にある。平面形はほぼ長方形状を呈し、壁は湾曲して立ち上がる。規模は長軸2.1m・短軸1.1m・深さ10cmほどである。埋土は黒色土である。底面はほぼ平坦で、東に傾斜している。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。

RD08（第29・30図，写真図版23・40）

調査地北側の中央西寄りに位置する。平面形は北側が直線のD字状を呈し、壁は40度ほどに傾斜して立ち上がる。規模は長軸2.2m・短軸2m・深さ20cmほどである。埋土は炉壁や焼土・炭を含む黒色土や暗褐色土で構成される。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は底面から鉄滓が、埋土から縄文土器片や鉄製品が得られている。30-9は刀子状であるが、刃部が外側に曲折している。30-10・11は釘と思われる鉄製品である。

遺構の時期は、調査者はこれらの出土遺物から平安時代としている。

焼土遺構

RF04（第30図，写真図版23）

調査地の西寄り中央付近に位置する。南側にはRF05焼土遺構がある。焼土の広がりは長軸75cm・短軸65cmの楕円形状で、厚さは最大15cmである。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は古代としている。

RF05（第30図，写真図版23）

調査地の西寄り中央付近に位置する。北側にはRF04焼土遺構がある。焼土の広がりは長軸110cm・短軸80cmの不整形状で、厚さは最大20cmである。

出土遺物はない。

遺構の時期は、調査者は古代としている。

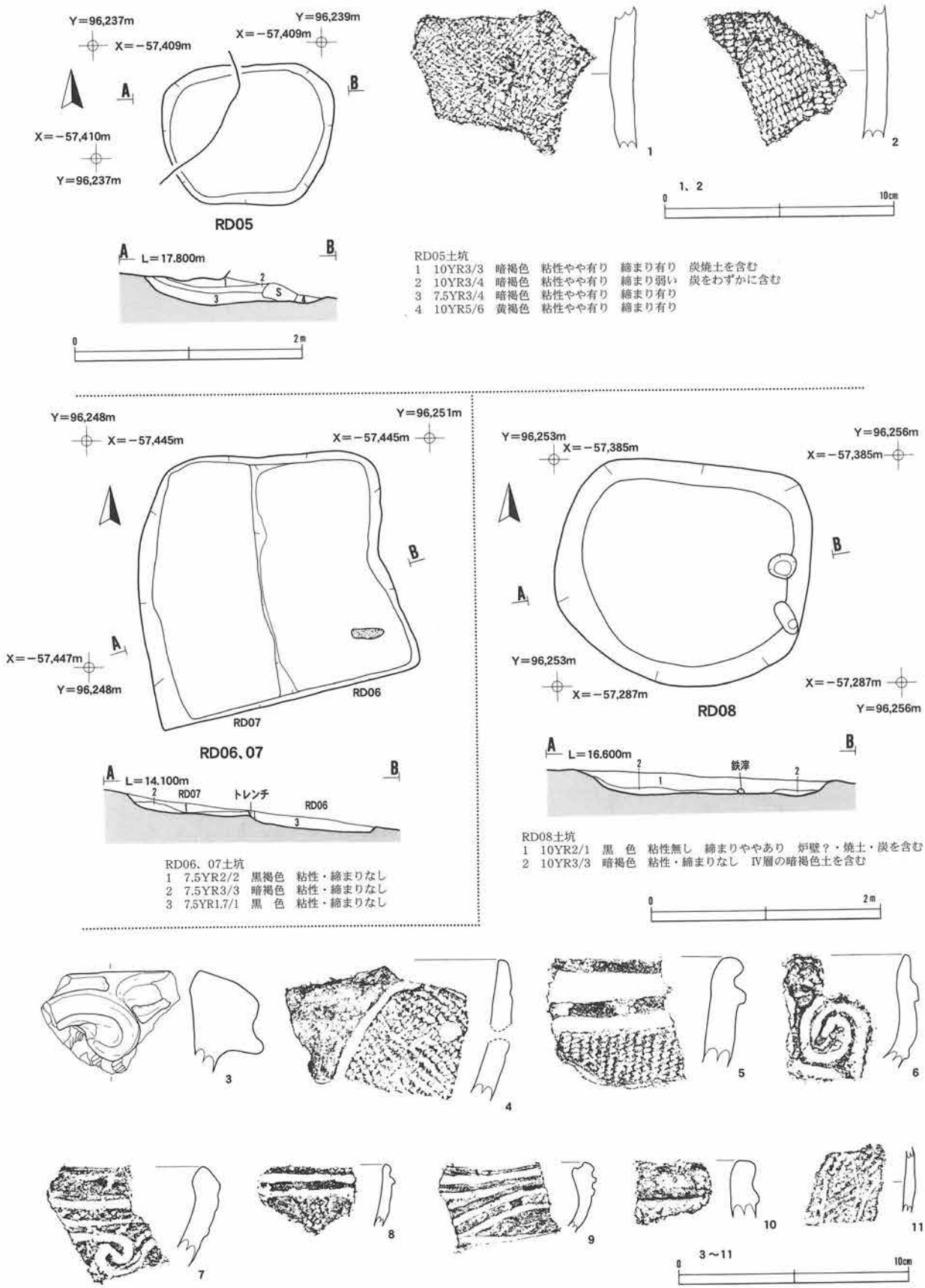
鍛冶遺構

RW01（第21図，写真図版23）

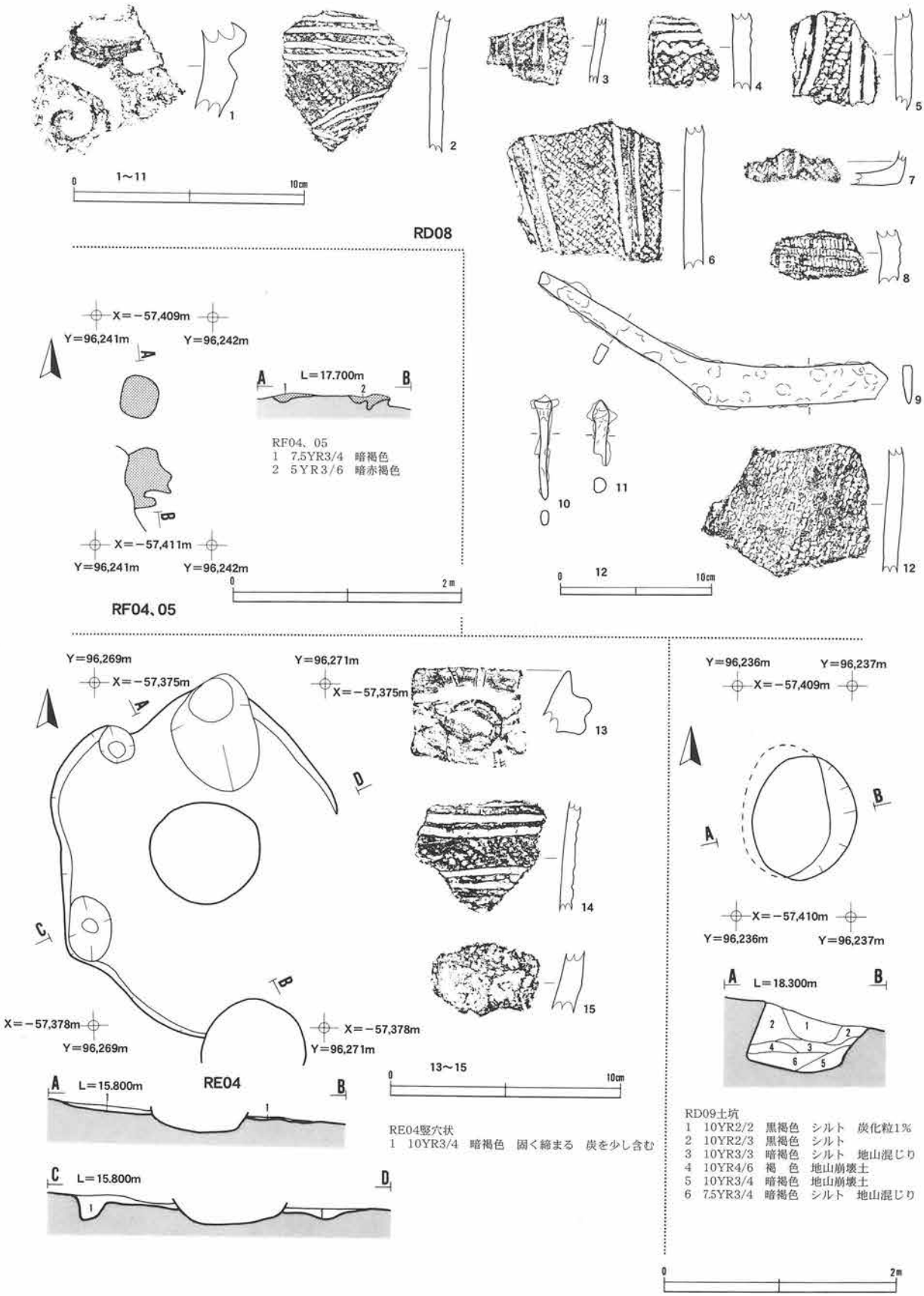
RA506住居跡のカマド南東に位置している。住居跡との新旧関係や鍛造剥片の検出状況などの詳細についてはフィールドカードも残存しないので不明である。図面に残る遺構は直径1.3m・深さ25cmほどの土坑で、内部に礫が混入している。埋土についても記録が残っておらず不明である。

出土遺物は、鍛造剥片が出土しているようだが、記録が残っておらず、詳細不明である。

遺構の時期は、調査者は平安時代としているが詳細は不明である。



第29図　RD05～08土坑・RD05、08（1）出土遺物



第30図 RF04、05焼土遺構・RE04竪穴状遺構
RD09土坑・RD08、RE04出土遺物

(3) 時期不明遺構

竪穴状遺構

RE04（第30図，写真図版24・41）

調査地北側の中央付近に位置する。中央や南側をほかの土坑に切られている。南東側の壁は欠損するが、平面形は楕円形状を呈するようである。壁は緩く傾斜して立ち上がる。規模は長軸2.8m以上・短軸2.6m・深さ10cmほどである。埋土は炭を少し含む暗褐色土で構成される。

底面はほぼ平坦だったようである。北と西の壁際に柱穴状の土坑がある。

出土遺物はない。

土坑

RD09（第30図，写真図版24）

調査地北西寄りに位置している。平面形は楕円形状を呈し、西側に傾斜して掘り込まれ、西側はオーバーハングする。規模は長軸1.1m・短軸0.9m・深さ約50cmである。埋土は黒褐色土で構成され、下位ほど炭化物の混じる黒褐色土や地山混じりの暗褐色土で構成される。底面は緩く湾曲し中央がくぼむ。

出土遺物は縄文土器片数点がある。

RD10（第31図，写真図版24・41）

調査地北側西寄りに位置し、Ⅴ層黄褐色土上で検出された。平面形は楕円形状を呈し、壁は45度程に外傾する。規模は長軸2.1m・短軸1.3m・深さ20cmである。埋土は黒褐色土で構成され、下位ほど黄褐色土が増え、締まりも密になる。底面はほぼ平坦で、東側に傾斜する。

出土遺物はない。

RD11（第31図，写真図版24）

調査地北側の西寄りに位置し、Ⅴ層黄褐色土上で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、壁は直立する。規模は軸長約1.3m・深さ5cmである。埋土は黒褐色土で構成される。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

RD12（第31図，写真図版24）

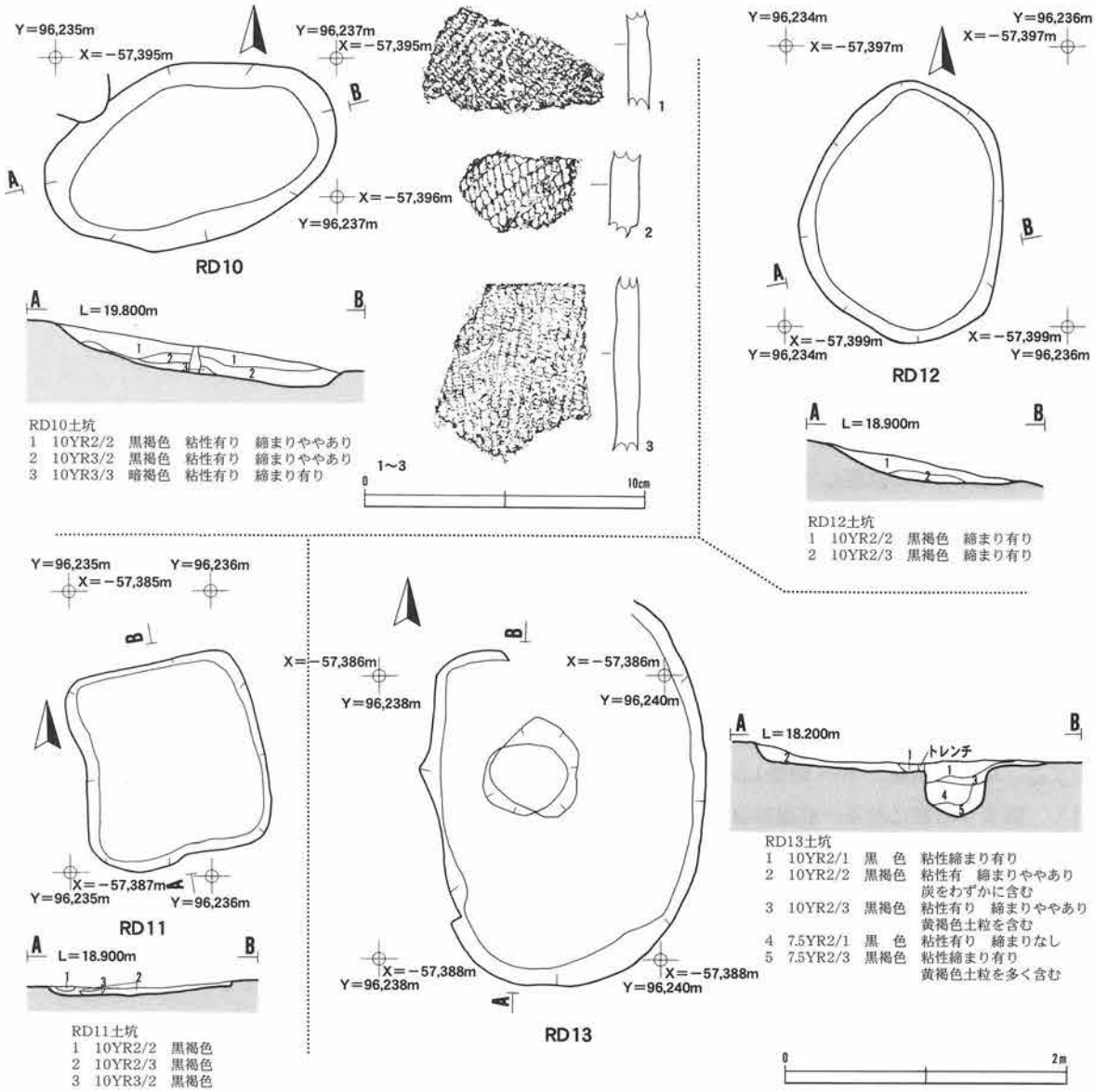
調査地北側西寄りに位置する。平面形は不整な楕円形状を呈し、壁は緩く傾斜している。規模は長軸1.9m・短軸1.5m・深さ15cmである。埋土は黒褐色土で構成され、締まる。底面は壁から連続して、ほぼ平坦になる。

出土遺物はない。

RD13（第31図，写真図版24）

調査地北側の西寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し、壁は内湾気味に外傾する。規模は長軸2.7m・短軸約2m・深さ10cmである。埋土は主に炭をわずかに含む黒褐色土で構成される。底面はほぼ平坦で、中央付近に径60cm・深さ40cmの土坑がある。

出土遺物はない。



第31図　RD10〜13土坑・RD10出土遺物

RD14（第32図，写真図版25）

RA505住居跡の南側にRD16・17・18と共に検出された。RD17土坑の東側に重複し、RD17に切られている。平面形はほぼ円形で、壁は直立気味である。底面はほぼ平坦である。規模は直径60cm・深さ40cmである。埋土は明黄褐色土の混じる暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD15（第32図，写真図版25）

RA505住居跡の南側にRD16・17・18土坑と共に検出された。埋土断面図は東側に隣接するRD16土坑を切っている。平面形は楕円形状で、壁は内湾気味である。底面中央がくぼみ湾曲する。規模は長径1.3m・深さ50cmである。埋土は地山の明黄褐色土ブロックの混じる極暗褐色土から黒色土で構成される。

出土遺物はない。

RD16（第32図，写真図版25）

RA505住居跡の南側にRD15・17・18土坑と共に検出された。埋土断面図は西側に隣接するRD15土坑に切られている。東側のRD17土坑と埋土が連続するようで、新旧関係は不明である。平面形は円形状で、壁は内湾気味である。底面は湾曲し、東側のRD17土坑に向かい下がっている。規模は長径1.7m・深さ30～40cmである。埋土は明黄褐色土を主とし暗褐色土が混入する。

出土遺物はない。

RD17（第32図，写真図版25）

RA505住居跡の南側にRD15・16・18土坑などと共に検出された。埋土断面図は西側に隣接するRD16土坑に連続し、東側に隣接するRD14土坑を切っている。平面形は楕円形状で、壁は内湾気味である。底面は湾曲し、西寄りに径50cmほどの小土坑がある。規模は長径1.8m・短径1.5m・深さ40cmである。埋土は褐色土の混じる暗褐色土を主とする。

出土遺物はない。

RD18（第32図，写真図版25）

RA505住居跡の南側にRD15・16・17土坑などと共に検出された。埋土断面図は西側に隣接するRD17土坑に切られている。平面形は楕円形状で、壁は内湾気味である。底面は湾曲し、中央付近がくぼむ。規模は長径1.2m・短径1m・深さ40cmである。埋土は褐色土と黒褐色土の互層である。

出土遺物はない。

RD19（第32図，写真図版25・41）

RA506住居跡の床面北寄りに位置している。南側にはRD20土坑があり、住居跡との新旧関係は不明である。平面形は円形を呈し、壁は外傾気味である。底面はほぼ平坦である。規模は直径80cm・深さ65cmである。埋土は上位が貝混じりの黒色土、下位が明褐色土で構成される。

出土遺物は土師器甕の破片が1点ある。口縁部が短く「く」字状に外反する。内外面ともにナデ調整が行われている。

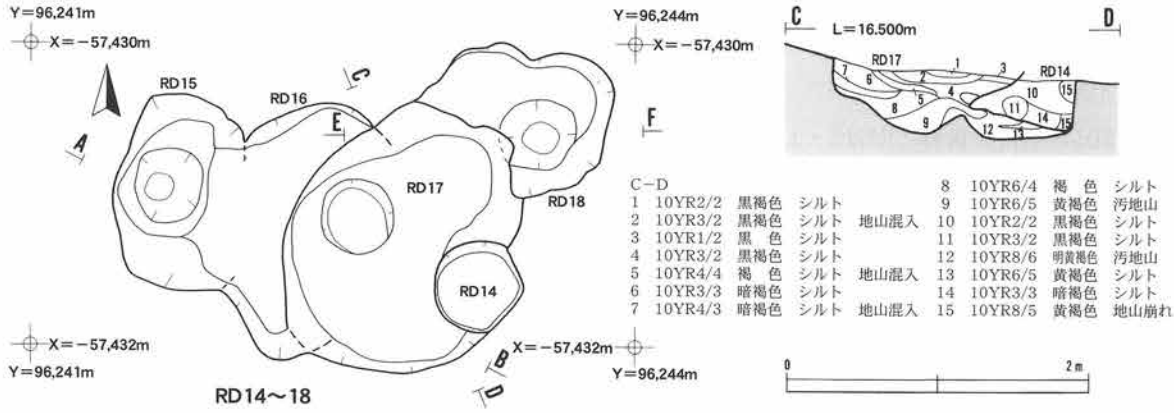
RD20（第32図，写真図版25）

RA506住居跡の床面北寄りに位置している。北側のRD19土坑に切られているようである。住居跡との新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈し、壁は外傾気味である。底面はほぼ平坦である。規模は長径1m・深さ40cmである。埋土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。

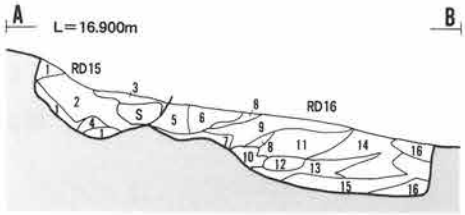
RD21（第32図，写真図版26）

RA510住居跡の床面南側に位置している。断面図のみの残存であるが、埋土の状況は住居跡に連続するようである。平面形は円形と思われ、壁は直立気味で一部垂下する。底面はほぼ平坦である。規模は直径



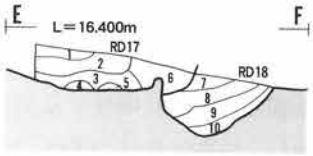
C−D

1	10YR2/2	黒褐色	シルト		8	10YR6/4	褐	色	シルト
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	地山混入	9	10YR6/5	黄褐色		汚地山
3	10YR1/2	黒	色	シルト	10	10YR2/2	黒褐色		シルト
4	10YR3/2	黒褐色	シルト		11	10YR3/2	黒褐色		シルト
5	10YR4/4	褐	色	シルト 地山混入	12	10YR8/6	明黄褐色		汚地山
6	10YR3/3	暗褐色	シルト		13	10YR6/5	黄褐色		シルト
7	10YR4/3	暗褐色	シルト	地山混入	14	10YR3/3	暗褐色		シルト
					15	10YR8/5	黄褐色		地山崩れ



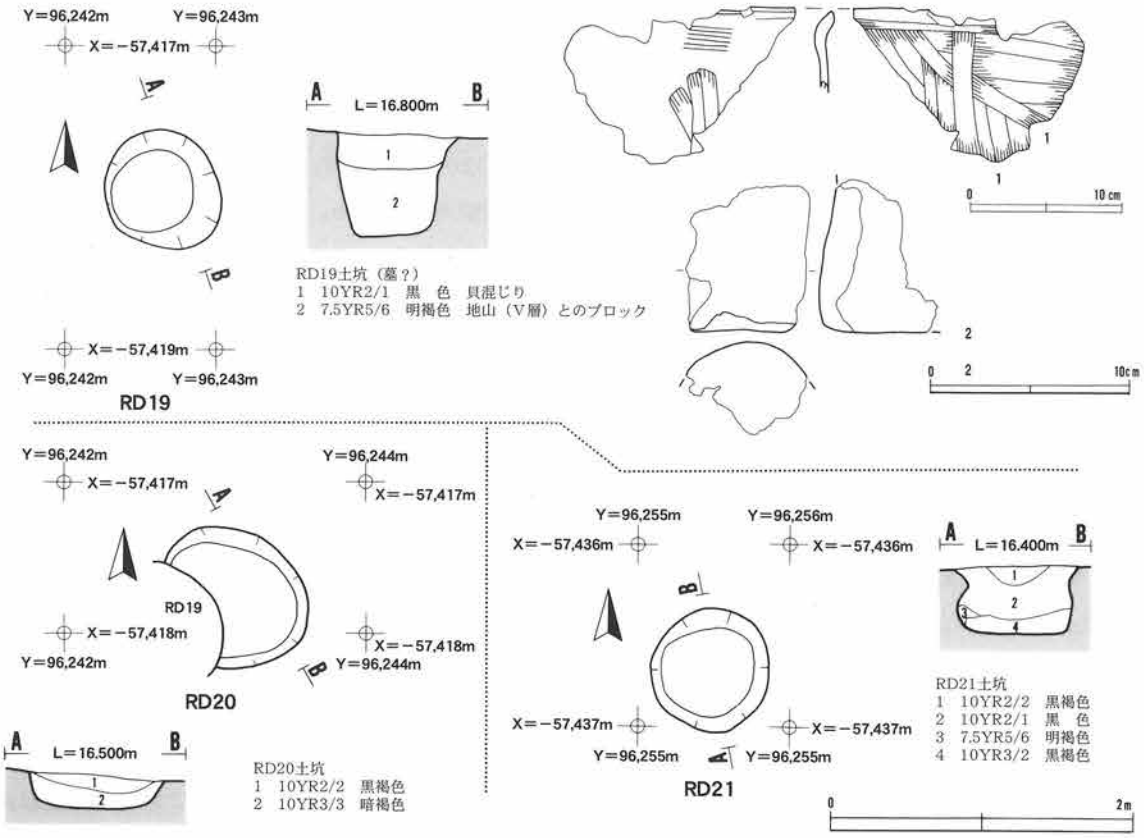
RD14～RD18
A−B

1	10YR6/6	明黄褐色	地山崩れ		9	10YR3/2	黒褐色		シルト
2	7.5YR3/2	極暗褐色	シルト		10	7.5YR3/4	褐	色	シルト
3	10YR2/3	黒褐色	シルト		11	10YR2/3	黒褐色		シルト
4	7.5YR1/2	黒	色	シルト 軟らかい	12	10YR6/5	黄褐色		シルト
5	10YR6/6	明黄褐色	地山崩れ		13	10YR6/4	褐	色	シルト
6	7.5YR3/2	極暗褐色	シルト		14	10YR2/3	黒褐色		シルト
7	10YR6/5	黄褐色	シルト		15	7.5YR2/2	黒褐色		地山崩れ混入
8	10YR6/6	明黄褐色	地山崩れ		16	10YR6/4	褐	色	地山崩れ



E−F

1	10YR3/2	黒褐色	シルト		6	10YR2/3	黒褐色	シルト	地山混入
2	10YR2/3	黒褐色	シルト	地山混入	7	10YR1/2	黒	色	シルト
3	10YR3/2	黒褐色	シルト		8	10YR6/4	褐	色	地山多量混入
4	10YR6/4	褐	色	汚地山	9	10YR2/2	黒褐色		シルト
5	10YR4/3	暗褐色		汚地山	10	10YR4/4	褐	色	地山崩れ



第32図　RD14～21土坑・RD19出土遺物

70cm・深さ45cmである。埋土は壁際に明褐色土の混じる黒色土や黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD22（第33図，写真図版26・41）

RA108住居跡の北東に位置している。平面形は不整な楕円形を呈し、壁は外反気味である。底面は凹凸がある。規模は長軸75cm・短軸60cm・深さ35cmである。埋土は褐色土ブロックの混じる黒色土で構成され、締まりはない。

出土遺物は、縄文時代前期と中期の土器片が出土している。

RD23（第33図，写真図版26・41）

RD22土坑同様にRA108住居跡の北東に位置している。ほかの遺構に重複しているようだが不明である。平面形は楕円形状を呈し、断面は動物の巣穴のように斜めに下り尻すぼみとなる。規模は長軸90cm・短軸65cm・深さ35cmである。埋土はおもに下位に礫が混じる黒褐色土で構成される。

出土遺物は、土師器甕の底部付近の破片1点と石匙1点が得られている。土師器片は内外面にハケメが見られる。

時期不明となっているが、RD22土坑より新しく、古代の可能性がある。

RD24（第33図，写真図版26）

RA512住居跡に隣接して、住居跡に切られているようだが、残された図だけでは不明である。楕円形状を呈し底部から壁は湾曲して立ち上がる。規模は長軸80cm・短軸60cm・深さ15cmである。埋土は黒褐色土で構成され、粘性・締まりはない。

出土遺物はない。

RD25（第33図，写真図版26）

調査地中央付近にRD26・27土坑と共に検出された。それぞれ重複関係はない。平面形は開口部が円形状を呈し、底部は楕円形状を呈する。壁は湾曲する底部から外傾して立ち上がる。規模は直径80cm・深さ50cmである。埋土は黒褐色土や灰黄褐色土のブロックの混入する黒色土で構成される。

出土遺物はない。

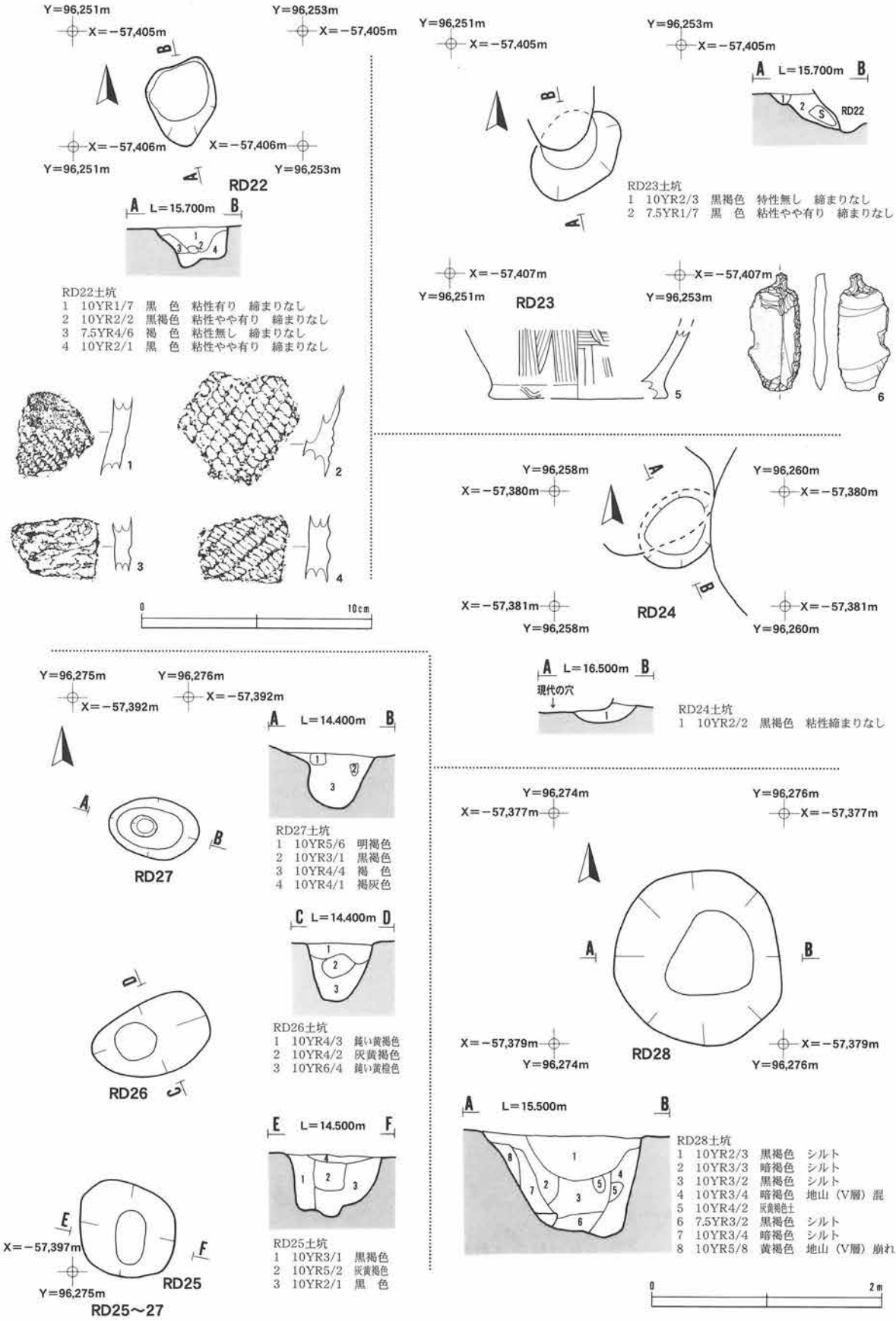
RD26（第33図，写真図版26）

調査地中央付近にRD25・27土坑と共に検出された。それぞれ重複関係はない。平面形は楕円形状を呈し、壁は外傾ぎみに立ち上がる。底部は緩く湾曲する。規模は長軸1m・短軸65cm・深さ50cmである。埋土は鈍い黄褐色土から鈍い黄橙色土で構成される。

出土遺物はない。

RD27（第33図，写真図版26）

調査地中央付近にRD25・26土坑と共に検出された。それぞれ重複関係はない。平面形は楕円形状を呈し、壁は外傾ないしは外反ぎみに立ち上がる。底部には浅い窪みがある。規模は長軸80cm・短軸50cm・深さ55



第33図 RD22〜28土坑
RD22、23出土遺物

cmである。埋土は上位に褐灰色土があり、その下に明褐色や褐色土が有り、中央付近に黒褐色土が見られる。
出土遺物はない。

RD28（第33図，写真図版26）

調査地中央北側に位置し、北側にはRD29土坑がある。平面形は円形状を呈し壁は外傾して立ち上がる。底面は東側が低く凹凸がある。規模は開口部径1.5m・深さ85cmである。埋土は主に黒褐色土や暗褐色土で、黄褐色土や灰黄褐色土が混入する。
出土遺物はない。

RD29（第34図，写真図版26）

調査地中央北側に位置し、南側にはRD28土坑がある。平面形は円形を呈し、壁は丸底の底部から湾曲して立ち上がる。規模は開口部径70cm・深さ30cmである。埋土は上位が黄褐色土、中位が黒色土、下位が黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

RD30（第34図，写真図版27）

調査地中央北寄りに位置し、北側にはRD31土坑がある。平面形は円形を呈し、壁は丸底の底部から湾曲して立ち上がる。規模は開口部径75cm・深さ10cmである。埋土は鈍い黄褐色土で構成される。
出土遺物はない。

RD31（第34図，写真図版27）

調査地中央北寄りに位置し、南側にはRD30土坑がある。平面形は円形を呈し、壁は直立ないしは外傾して立ち上がる。規模は開口部径45cm・深さ45cmである。埋土は黒褐色土と褐色土で構成される。
出土遺物はない。

RD32（第34図，写真図版27）

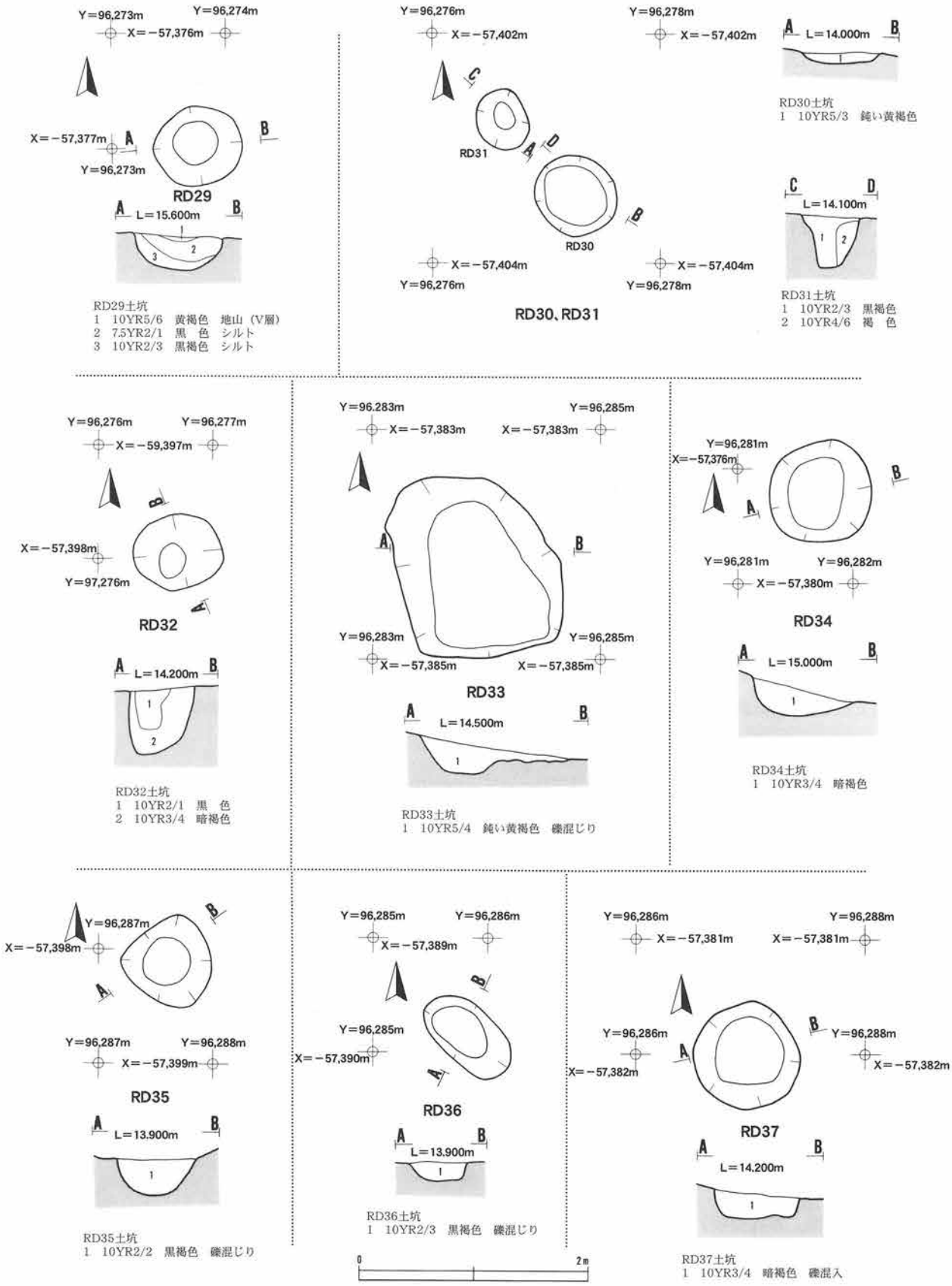
調査地中央付近にRD25・26土坑と共に検出された。それぞれ重複関係はない。平面形は楕円形状を呈し、壁は南側が直立、ほかは内湾気味に外傾して立ち上がる。底部南側が低い。規模は開口部で長軸75cm・短軸65cm・深さ55cmである。埋土は上位中央付近に柱穴状の黒色土が、周囲には暗褐色土等が堆積する。
出土遺物はない。

RD33（第34図，写真図版27）

調査地中央北側に検出された。不整な隅丸長方形状の平面形を呈し壁は外傾して立ち上がる。底面は西側がやや低いが平坦である。規模は長軸1.6m・短軸1.4m・深さ25cmである。埋土は主に礫混じりの鈍い黄褐色土で構成されている。
出土遺物はない。

RD34（第34図，写真図版27）

調査地北側中央東寄りに検出された。平面形は円形状を呈し、壁は西側は直立気味、東側は底面から緩く



第34図 RD29～37土坑

湾曲して立ち上がる。規模は直径90cm・深さ25cmほどである。埋土は暗褐色土で構成されている。

出土遺物はない。

RD35（第34図，写真図版27）

調査地中央北東寄りに検出された。平面形は隅丸三角形状で、壁は丸底から連続して湾曲して立ち上がる。規模は開口部径80cm・深さ30cmほどである。埋土は礫混じりの黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD36（第34図，写真図版27）

調査地中央北東寄り、RD35土坑の北に検出された。平面形は楕円形状で、壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸90cm・短軸50cm・深さ15cmである。埋土は礫混じりの黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD37（第34図，写真図版28）

調査地中央北東寄りに検出された。平面形は円形状で、壁は外傾して立ち上がる。底部は凹凸がある。規模は開口部径90cm・深さ20cmである。埋土は礫混じりの暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD38（第35図，写真図版28）

調査地中央北東寄りに検出された。平面形は円形状で、壁は丸底から連続して内湾気味に立ち上がる。規模は開口部径90cm・深さ25cmである。埋土は礫混じりの暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD39（第35図，写真図版28）

調査地中央北東寄りに位置し、RD40・41土坑などと共に検出された。平面形は楕円形状で、壁は丸底から連続して内湾気味に立ち上がる。規模は開口部の長軸1.2m・短軸90cm・深さ25cmである。埋土は礫混じりの暗褐色土で構成される。出土遺物はない。

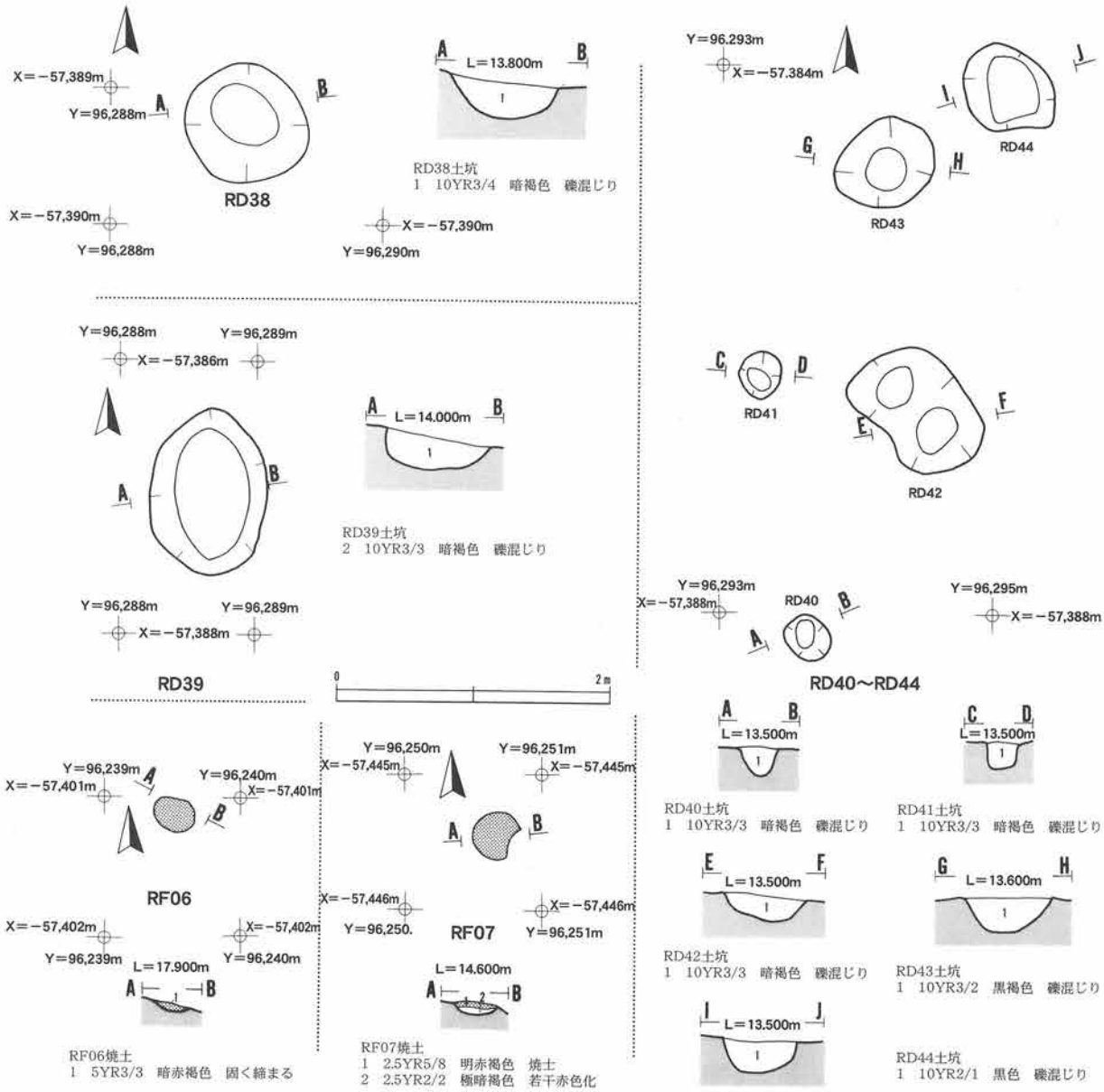
RD40（第35図，写真図版28）

調査地中央北東寄りに位置し、RD39・41土坑などと共に検出された。平面形は円形状で、壁は底から外傾して立ち上がる。浅い柱穴状を呈する。規模は開口部長径35cm・深さ20cmである。埋土は礫混じりの暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD41（第35図，写真図版29）

調査地中央北東寄りに位置し、RD39・40土坑などと共に検出された。平面形は円形状で、壁は直立気味に立ち上がる。浅い柱穴状を呈する。規模は開口部径30cm・深さ20cmである。埋土は礫混じりの暗褐色土で構成される。



第35図 RD38～44土坑・RF06、07焼土遺構

出土遺物はない。

RD42（第35図，写真図版29）

調査地中央北東寄りに位置し、RD39・40・41土坑などと共に検出された。平面形は隅丸長方形状で、壁は丸底から連続して内湾気味に立ち上がる。底面は2カ所でくぼんでいる。規模は開口部で長軸1m・短軸65cm・深さ15cmである。埋土は礫混じりの暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD43（第35図，写真図版29）

調査地中央北東寄りに位置し、RD39・40・41土坑などと共に検出された。平面形は円形状で、壁は丸底から連続して内湾気味に立ち上がる。規模は開口部で径70cm・深さ20cmである。埋土は礫混じりの黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RD44（第35図，写真図版29）

調査地中央北東寄りに位置し、RD39・40・42土坑などと共に検出された。平面形は楕円形状で、壁は丸底から連続して内湾気味に立ち上がる。規模は開口部で長径70cm・短径60cm・深さ20cmである。埋土は礫混じりの黒色土で構成される。

出土遺物はない。

焼土遺構

RF06（第35図，写真図版29）

調査地北西部の緩斜面に検出された。周囲の遺構との関連は不明である。焼土の広がりは長軸60cm・短軸45cmの楕円形状である。厚さは最大10cmほどで、固く締まっている。

出土遺物はない。

RF07（第35図，写真図版29）

調査地南西に検出された。周囲の遺構との関連は不明である。焼土の広がりは長軸70cm・短軸55cmの不整な楕円形状である。厚さは最大10cmほどで、さらに下位にも火熱が及んでいる。

出土遺物はない。

溝跡

RG01（第36図，写真図版30）

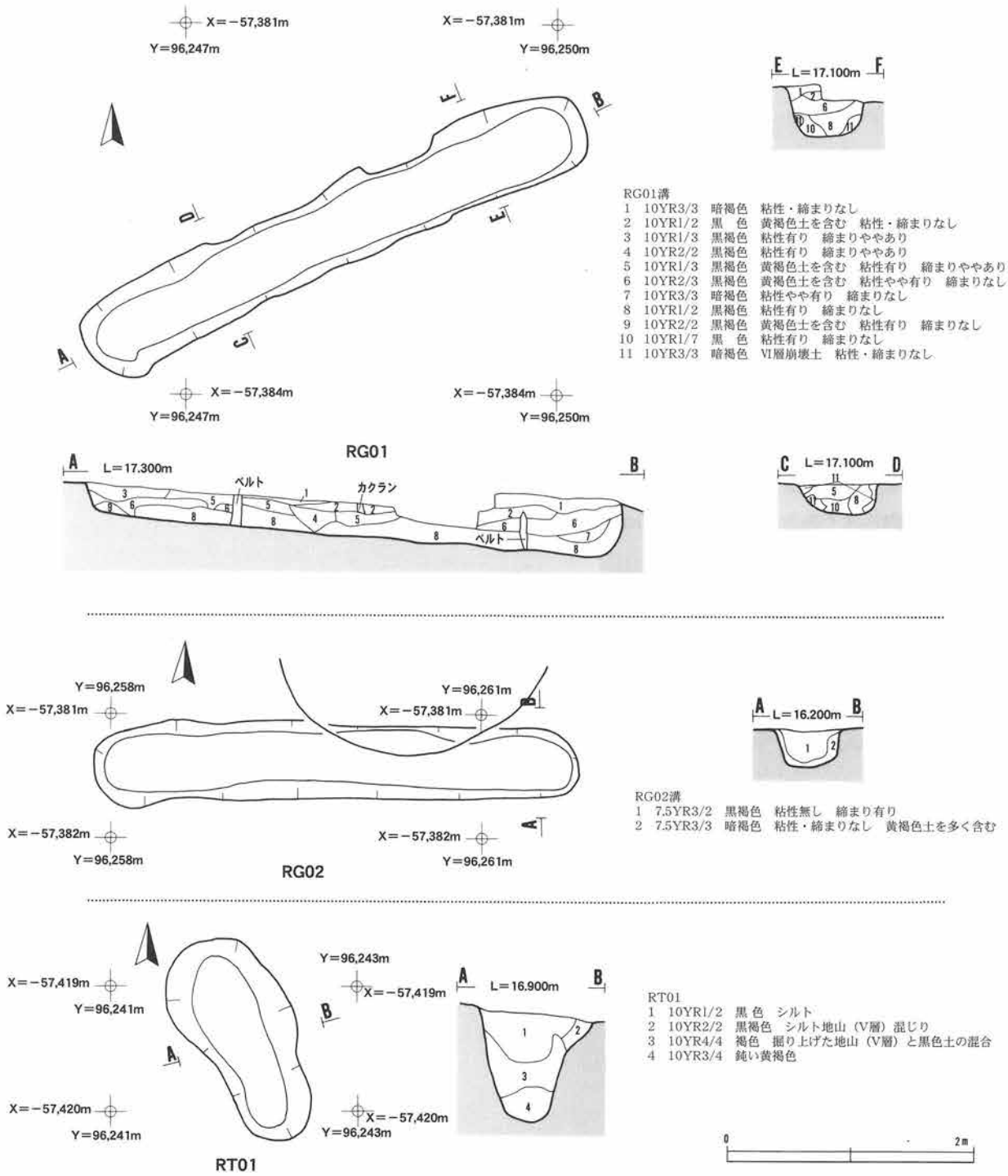
調査地北側西寄りに検出された。地形面に直交し、東西方向に長い溝状を呈する。底面は地形面同様東に向かって緩く傾斜して下がる。横断面形はU字状を呈し、長軸の両端は東側がオーバーハング、西側が直立気味である。規模は、長さ4.4m・幅は開口部で55～70cm・底部で35～45cmである。深さは西側20cm・東側45cmである。埋土は暗褐色土や黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

RG02（第36図，写真図版30）

調査地北側中央付近に位置している。RA512竪穴住居跡を切っている。溝状を呈している。規模は長さ3.9m・幅は開口部で65cm・底部で40～45cm・深さ25cmである。埋土は上位が黒褐色土下位が暗褐色土で構成される。

出土遺物はない。



第36図 RG01、02溝跡・RT01墓壙

墓壙

RT01（第36図，写真図版30）

調査地西寄り中央付近に位置し、RA506住居跡の西壁寄りの床面に検出された。不整な楕円形状を呈し、規模は開口部で長軸1.75m・短軸1m・深さ0.85mである。人骨が出土したらしいが詳細は不明である。埋土は上位が黒色土・中位が褐色土・下位が鈍い黄褐色土で構成されている。

出土遺物や時期については記録が残存せず不明である。

3　遺構外の出土遺物

(1)　土器

平成６年度の調査略報によれば、一次調査で出土した土器の総量は、大コンテナ16箱、石器100点余、鉄滓1箱などである。二次調査の開始時には、一次調査終了部分も含め遺跡一面に遺物が散乱していた。その間の経緯は不明であるが、一次調査では遺構に伴う遺物を優先して回収したのかもしれず、遺構外の遺物の回収量は少なかった。また、整理作業でも遺構伴出遺物を優先したようで、実測や拓本・写真撮影がなされた遺構外出土土器片はさらに少なかった。ここに取り上げた遺物以外にも土師器や須恵器など多くの資料が収蔵されているが、以下では一次調査の整理成果（渡辺）を基に報告する。

土器類は縄文時代の土器と土師器に大別される。縄文時代の土器は前期前葉の土器と中期中葉・後葉～末葉の土器に分けられる。

縄文時代前期前葉の土器（第37図1～3・5～9・20、写真図版42）

深鉢形土器で、口縁部は平口縁のものがほとんどで、口唇部が肥厚するものもある。口縁部はやや外反気味のものもあるが、外傾気味に直立する物が多い。胎土に植物繊維が混入された痕跡が認められ、器厚が厚い感じがする。地文は粒の粗い斜縄文で、口縁部付近は横走する綾絡文が施文され、長く延びたＳ字状の文様が連続するように見えるものが多い。20は胴部の破片で結節回転文が施文されている。

縄文時代中期中葉の土器（第37図10～13・15～19・21・23、写真図版42）

深鉢形土器の破片と思われ、口縁部は波状と平縁がある。口縁部は外反するものと内湾するものがあり、胴部は膨れる形状を示すようである。地文の上に平行する沈線や隆帯で区画された文様が施文される。

縄文時代中期後葉～末葉の土器（第37図4・14・22・24・26～30、写真図版42・43）

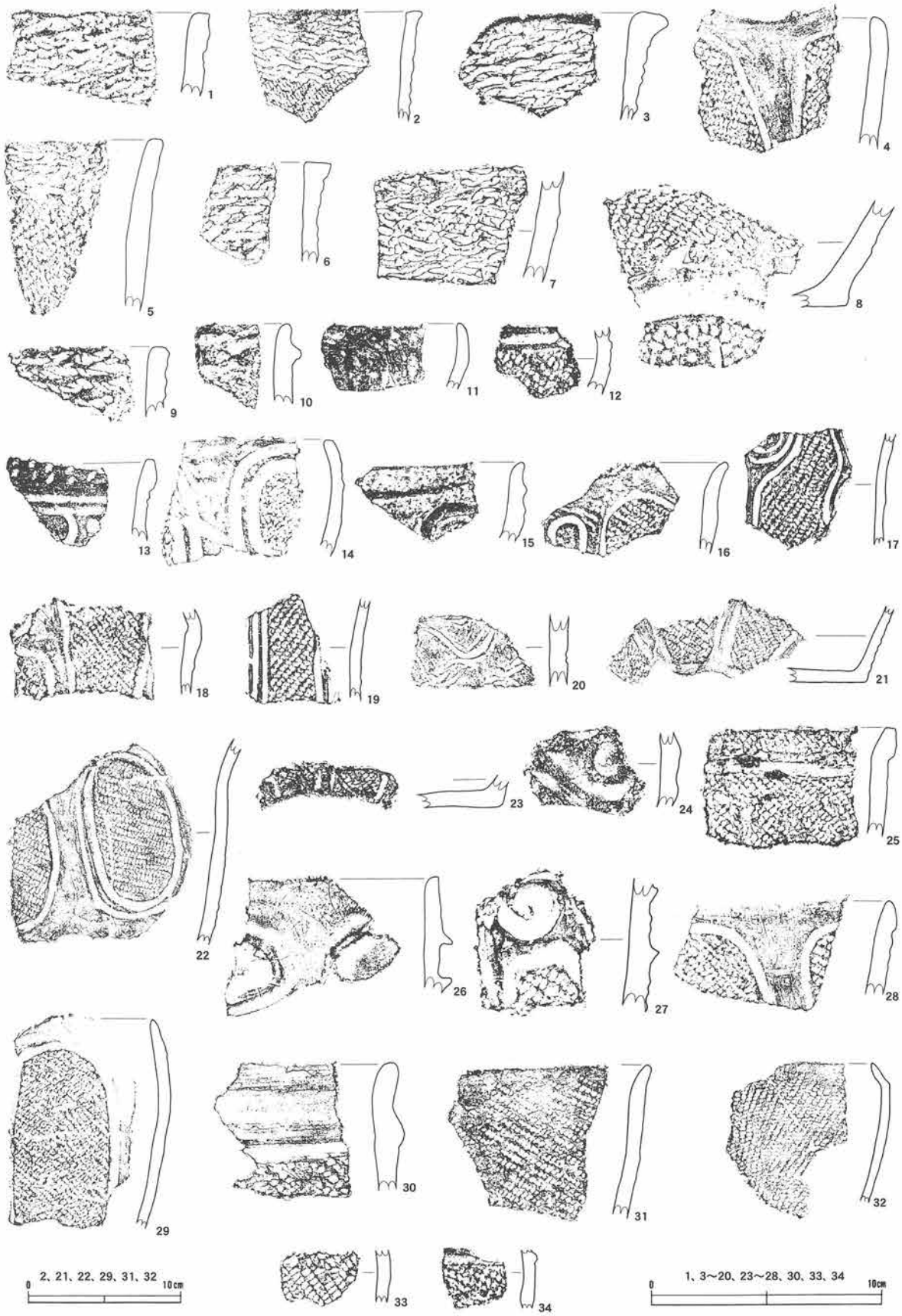
深鉢形土器の破片と思われる。口縁部は平口縁と波状口縁があり、外反するものと内湾するものがある。地文の上に幅広の沈線と磨消帯で文様が施文される。口縁部付近は磨かれ、下位が肥厚するものもある。

縄文時代中期の粗製土器（第37図25・32～第38図7、写真図版43）

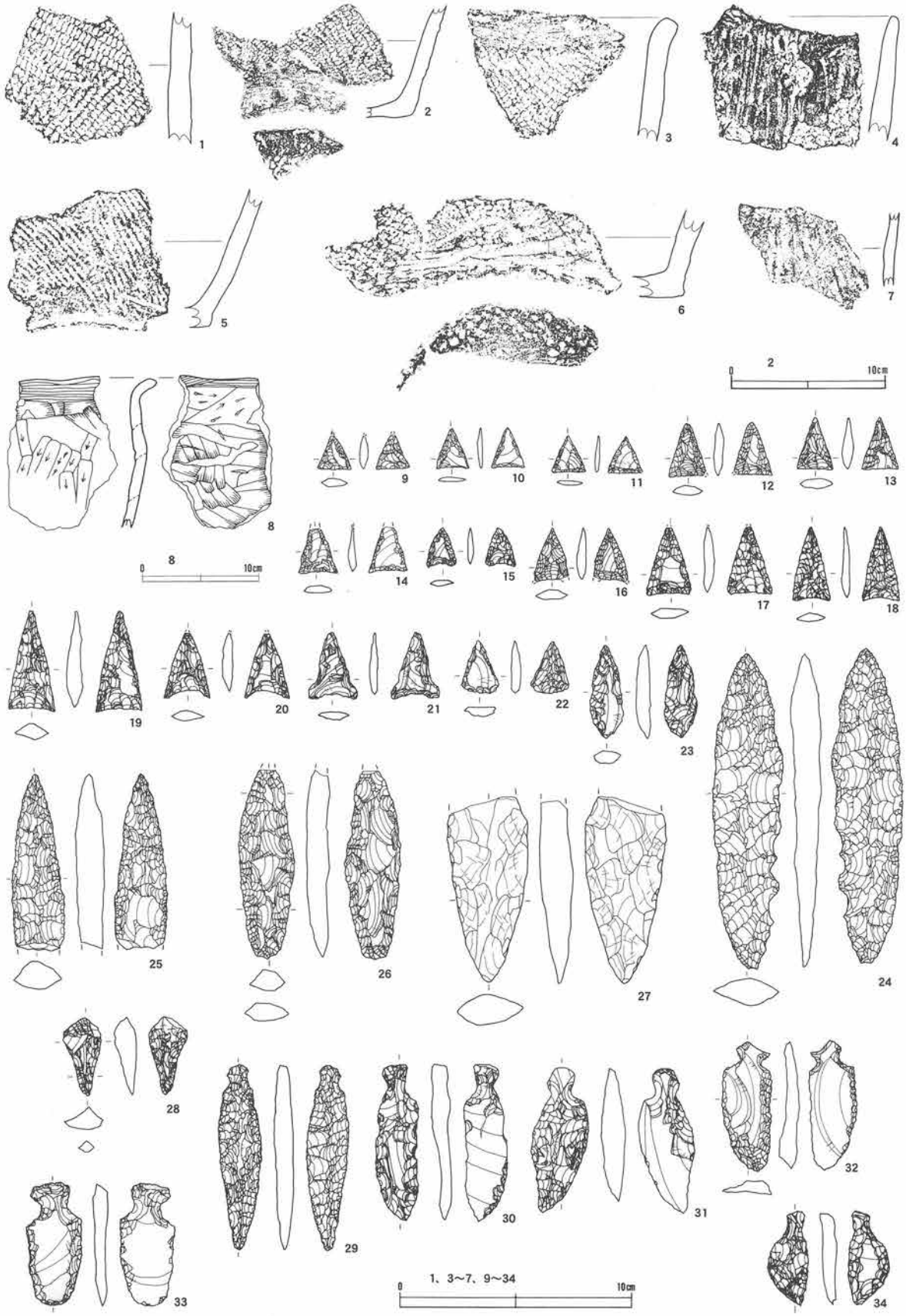
深鉢形の器形が多いようである。口縁部は外反するものと内湾気味のものがある。縄文の地文が施文されているものと、無文で粗いナデ調整だけのものがある。

土師器（第38図8、写真図版43）

深鉢の破片で、体部が少し膨らみ短い口縁部が外反して広がり「く」字状を呈する。輪積痕が残り、内外に削り後ハケメ調整が施されている。口縁部は横ナデである。



第37図　遺構外出土遺物（土器（1））



第38図　遺構外出土遺物（土器（2）・石器（1））

(2)　石器

石鏃（第38図9～23、写真図版44）

二等辺三角形状の石鏃が多い。平基ないしは基部がやや窪むものが8点、基部がやや膨らむものと柳葉形のものが各1点ある。整形は両面から行われているが、一次剥離面が広く残るものも多い。長さは1.4～3.9㎝、平均2.45㎝、重量0.4～3.9g、平均1.5gである。石材は粘板岩と凝灰質粘板岩・チャート質粘板岩がある。

石槍（第38図24～27、写真図版44）

3点の破損品を含め4点が出土している。完形品は長さ13.5㎝・重量44.5gである。破損品も10㎝前後の大きさだったようである。石材は凝灰質粘板岩・チャート質粘板岩・流紋岩・砂質粘板岩である。

石錐（第38図28、写真図版44）

一点のみの出土である。錐部の断面は菱形を呈する。長さ3.3㎝、重量3.6gである。石質は粘板岩である。

石匙（第38図29～第39図13、写真図版44・45）

紐で吊るせるようなつまみが作り出された器種である。つまみ部と主な刃部が平行するような竪形のものとつまみ部に対して刃部が交差する横形のもの、斜め形のものがある。刃部加工は片面のみのものが主であるが両面から行われたり、38-29のように尖頭器状になったものもある。石材は粘板岩・砂質粘板岩・凝灰質粘板岩である。

削掻器（第39図14～16、写真図版45）

剥片の縁辺に刃部加工が施されたもので、刃部は1辺のみのものと2辺のものがある。石材は粘板岩である。

磨製石斧（第39図17～21、写真図版46）

すべて破損品である。刃部は片刃状のものと両刃状のものがある。形状で同じグループに分けたが、18のように長さ3.3㎝と小型のものもある。石質は粘板岩と極細粒緑色凝灰岩がある。

磨石（第39図22～24・第40図1～5、写真図版46）

長めの礫の縁辺に磨面が形成されたものと平たい円礫の両面に磨面が形成されたものがある。40-3のように敲打に使用して窪みの形成されたものもある。破損品もあるが重量269g～794gと重いものが多い。石材はでデイサイトや閃緑岩・緑色砂質凝灰岩がある。

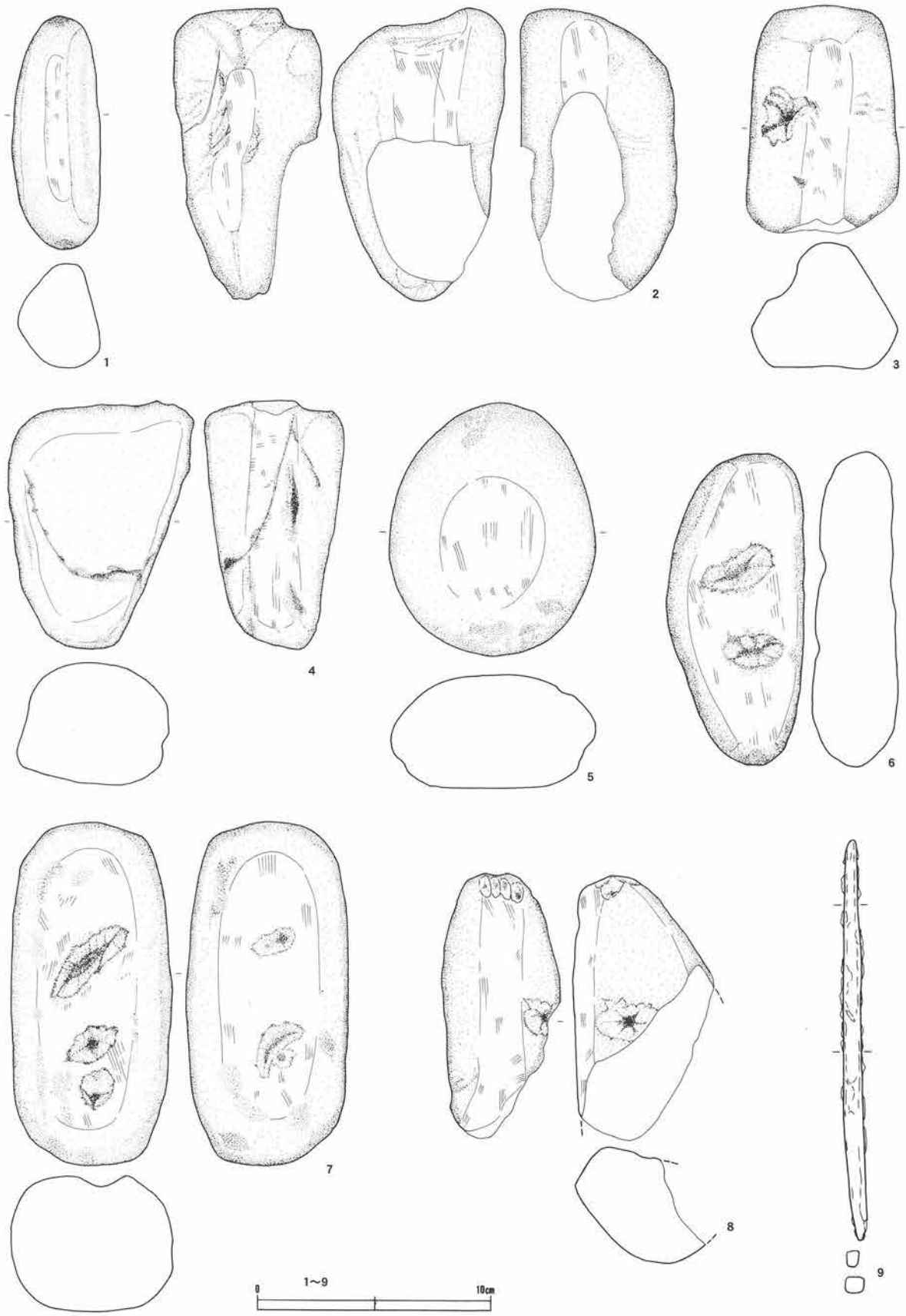
凹石（第40図6～8、写真図版46）

3点出土している平らな面に擂り鉢状の窪みが複数個形成されている。40-8は一側縁に磨面も形成されている。重量は403gから1056gである。石質は花崗閃緑岩・安山岩・緑色凝灰岩である。

(3)　鉄製品（第40図9、写真図版46）

棒状の鉄製品1点が出土している。横断面形は方形状で、長さ17.2㎝・最大幅9㎜ほどである。

第39図　遺構外出土遺物（石器（2））



第40図　遺構外出土遺物（石器（3）・鉄製品）

4．山田町沢田Ⅰ遺跡出土品の分析・調査
鉄器及び鉄滓

川鉄テクノリサーチ株式会社
分析・評価センター
岡原　正明
伊藤　俊治

1．はじめに

岩手県埋蔵文化財センター殿で発掘調査されました山田町沢田Ⅰ遺跡出土の鉄器、鉄滓の学術的な記録のために自然科学的な観点での調査のご依頼がありました。

その結果についてご報告いたします。

2．調査項目および試験・調査方法

(1) 調査試料一覧および調査項目は次の通とおりです。

資料No.	試料性格	出土遺構	重量g	成分分析	X線回析	組織写真	EPMA	X線透過	外観写真
1	鉄器 鑿状	119-1 住 南西埋土	53.7			○ C，L	○ C，L	○	○
2	鉄器 ?	2B18土坑 P2埋土	10.4					○	○
3	鉄器 刀子状	2B18土坑 P2埋土	30.0				EDX 定性分析	○	○
4	鉄器 鏃状	2B18土坑 P2埋土	8.9			○	○	○	○
5	鉄器 釘状	2B17Ⅲ層	37.5					○	○
6	鍛造 剥片	119鍛冶 遺構東埋土	(1)1.5 (2)4.7	○	○	○			○
7	鉄滓 椀型滓	119鍛冶 炉東埋土	281.6	○	○	○			○
8	鉄滓と 鉄塊	119鍛冶 炉東埋土	235.1	○		偏平○ 塊状○	○ ○		○ ○

(2) 重量計測

計量は電子天秤を使用して行い、小数点1位で四捨五入してあります。

(3) 外観の観察と写真撮影

各種試験用試料を採取する前に、試料の両面をmm単位まであるスケールを同時写し込みで撮影しました。また、試料採取時の特異部分についても撮影を行っております。

(4) 化学成分分析

化学成分分析はＪＩＳの分析法に準じて行いました。分析方法および分析結果は14頁の一覧表に示してありますので、ご参照下さい。

この調査は、化学成分から鉄を作るために使用した原料の推定と、生産工程のどの部分で発生した鉄滓かの判断用データを得るために行いました。

分析項目は鉄塊、鉄滓、鍛造剥片とも18項目行っております。

(5) 顕微鏡組織写真

試料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上）します。その後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、溶融状況や介在物（鉱物）の存在状態等から加工状況や材質を判断します。鉄滓の場合にも同様に処理・観察をおこない、製鉄・鍛冶過程での状況を明らかにします。原則として100倍と400倍で撮影します。必要に応じ実体顕微鏡による観察も行いました。

(6) Ｘ線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、Ｘ線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれの固有の反射（回折）されたＸ線が検出されることを利用して、試料中の未知の化合物を観察・同定するものです。

多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定されます。装置の使用や測定条件、測定結果は82頁以降に添付してあります。

(7) ＥＰＭＡ（Ｘ線マイクロアナライザー）による観察

高速電子線を2μmφ程度に絞って、分析対象試料面に照射し、その微小部に存在する元素から発生する特性Ｘ線を測定するもので、金属鉄中の介在物や鉄滓の成分構成を視覚から確認するために、二次元の面分析（ＥＢＳ像）を行いました。

また、ＥＰＭＡに付属する特性Ｘ線分光分析装置（ＥＤＸ）を用いて、定性分析を行いました。

(8) Ｘ線（放射線）透過試験

Ｘ線発生装置を用い最適のＸ線強度を選択して、写真撮影を行います。同一のＸ線強度と照射時間の場合には、照射される物質の質量が重い程、また寸法が厚い程Ｘ線が吸収され写真上では黒くなり、その反対ではＸ線が簡単に透過する関係上白く写ります。したがって、凹凸や異種金属が共用されているとか錆で金属部分が薄くなっている場合でも状況が濃淡で判断できます。

3．調査および考察結果

個別試料ごとに結果を述べます。

(1) 試料No. 1　鉄器

長さが135㎜、９㎜角で、55㎜の木柄痕がある鑿状の試料である。刃部はやや先細りで先端部は平らである。重量は53.7ｇであった。調査試料はＸ線（放射線）透過試験を基に金属鉄が残っている刃の先端部から採取し使用した。

低倍率の実体顕微鏡写真で白く見えるところは金属鉄、外側の灰色に見えるところは鉄銹の部分である。また、中心部にやや黒く見える部分は介在物（不純物、主として金属の酸化物）である。Ｃ（試料の断面）方向とＬ（試料の長手）方向とを較べてみると、Ｃ方向では認められないがＬ方向では中心部分とは別に筋模様になった介在物が線状に引き延ばされた状況が観察できる。

ＥＰＭＡのＳＥ像からも、Ｌ方向の介在物はかなりの程度加工によって長手方向に伸ばされており、前述の観察も踏まえこの試料は鍛冶加工によって長手方向に鍛造が施されたことが判る。Ｃ方向の介在物も鍛造加工によって同時に上下方向にやや延伸されている。

顕微鏡観察では、試料の金属組織は比較的細かいフェライト（純鉄で白い部分）に灰色のパーライト〔フェライトとセメンタイト（炭化鉄）とが層状になった組織〕が点在し、現代の鉄に匹敵するものといえる。実体顕微鏡写真の金属部分で灰色が点在する部分（Ｃ方向では下、Ｌ方向では左）の顕微鏡観察では、組織中の炭素量（セメンタイト量）がかなり多く、一部に焼きの入った組織が認められる。このことから、この鑿の刃には硬さと切れ味を増すための滲炭と焼き入れがなされていたと推定される。

ＥＰＭＡによる面分析から、金属鉄中の介在物は一般に鉱物を構成する元素、すなわち珪素（Si）、カルシウム（Ca）、アルミニウム（Al）やマグネシウム（Ｍｇ）の酸化物で出来ていることが判った。また、チタニウム（Ti）の存在が認められることから、この鑿は砂鉄を鉄源として作られたと推定される。

(2) 試料No. 2　鉄器

長さ135㎜、太さ3.53㎜で銹化が進行している針金状の試料である。中央部の銹の欠落部の観察から、原型は偏平な棒状を呈するものと推定される。重量は10.4ｇであった。

Ｘ線透過試験によると、中央部に銹化がやや認められるものの金属鉄が全体に残存しており出土状態が良好である。

(3) 試料No. 3　鉄器

長さ75㎜の刃部の背側に屈曲する90㎜の柄を持つ刀子状の試料である。全面が銹に覆われていて、刃背部は2㎜、柄部は2.5㎜程度の厚さがある。重量は30.0ｇであった。

Ｘ線透過試験によると、刀子先端部、刃部および柄の上端部の銹化が進行しており、他の肉厚部分であった箇所のみに金属鉄の存在が認められた。

切断すると試料の損傷が免れないので、ＥＤＸによる非破壊分析を行った。試料表面にどうしても銹が残るので残念ながら地鉄の分析は不可能で、結果として銹成分の一部である鉄（Fe）と付着土あるいは地下水から析出したSiとAl元素のみが検出された。

(4) 試料No.4　鉄器

寸法が135㎜、５×４㎜角で全長の1/3のところに鍔状の突起が付いた試料である。鉄鏃の茎状鉄器と思われる。重量は8.9ｇであった。

Ｘ線透過試験によると、試料の両端は銹化しているものの鍔状の突起部分は金属鉄が残存しており、鍔瘤ではないことが判った。

鍔に近い部分の顕微鏡観察によると、炭素の推定含有量は0.8％程度であり、かつ焼き入れが施された現代の鉄に匹敵する非常に綺麗な組織を示していた。鏃のような鉄器として充分実用になると考えられる。

(5) 試料No.5　鉄器

長さが172㎜、７×６㎜角で両端に向かって緩やかに尖り、少々湾曲した鉄鏃または板材を繋ぐための鉄釘のような試料である。重量は37.5ｇであった。

Ｘ線透過試験によると、両端は銹化しているものの出土状態が良好で金属が残存する。

(6) 試料No.6　鍛造剥片

試料は偏平な薄い形状をし、磁石に付着する。保存状態は非常に良好であるが、剥片の中にはキラキラと光ったものとやや銹化したものとが混在していた。そこで、綺麗な鍛造剥片とやや銹化した剥片とを手でより分けた。分別後の様子は外観写真のとおりである。その時の前者の重量は1.5ｇ、後者の重量は4.7ｇであった。検討試料には前者の試料を用いた。

試料断面の顕微鏡写真から厚みは0.40～0.45㎜である。組織の殆どが灰白色のウスタイト（酸化第一鉄：FeOで酸化第二鉄を固溶している場合が多い）からなり、非常に純度の高い鍛造剥片といえる。

化学成分分析によると、T. Fe（全鉄）が68.0％と非常に高い値を示し、一方、造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO）は6.58％と非常に少なく不純物が少ない鉄の鍛冶加工で生成する滓、すなわち鍛造剥片といえる。また、TiO_2が0.22％含まれ、Ｖが0.018％存在するので砂鉄を原料とした鉄が使用されていたと考えられる。

Ｘ線回折の結果でも、ウスタイト、マグネタイト（Fe_3O_4＝FeO＋Fe_2O_3）等の他に造滓成分を構成するファイヤライト（2FeO・SiO_2）の弱い（残存が少ない）ピークが検出される。

以上の結果を総合すると、この試料は砂鉄を原料とした鉄からの鍛造剥片といえる。

(7) 試料No.7　鉄滓

長さ100㎜で幅70㎜の２片が接合した、表面の一部に銹が発生した試料である。上部は粗鬆で中央部に小丘があり、下部は凸状で火床材が固着している。発泡痕と空隙が多い。重量は281.6ｇであった。

化学成分分析によると、T. Feが47.4％とやや低く造滓成分は33.1％と多い。TiO_2が1.50％、Vが0.14％といずれも多く含まれている。砂鉄を原料とした製鉄の一つの過程である精錬鍛冶滓と思われる。

滓断面の顕微鏡観察からも、ウスタイト、マグネタイトや短冊状の大きなファイヤライトの結晶が観察される。この他、やや褐色がかった四～五角形のチタニウムと鉄の酸化化合物であるウルボスピネル（2FeO・TiO_2）の結晶が認められる。形状観察と以上の結果から、この試料は砂鉄を原料とした精錬

椀型鍛冶滓といえる。

(8) 試料№.8　鉄滓と鉄塊

試料№.8の外観写真下段に観られるような、19個からなる礫状の試料である。全重量は235.1ｇであった。精錬後小割りされ集められた小鉄塊であろう。調査はメタルチェッカーで金属鉄の存在が認められる、全体の外観写真の下段左側下２列について行った。この試料の外観写真を上段に示した。この写真で左側の試料は偏平であり、右の試料は比較的塊状である。

低倍率の実体顕微鏡による偏平状の塊の観察で、下部は粘土様の鉱物質とその上部には鉄滓の部分が認められる。また右上部には白い金属鉄が存在する。塊状試料の観察では、鉄滓の部分と鉄が酸化・銹化した部分とが認められる。同様に右上部に金属鉄粒が白い点として存在する。

顕微鏡による偏平状試料の組織観察で、白いウスタイトの部分とやや紫がかった灰白色の鉄が酸化・銹化したオキシ水酸化鉄の模様が認められる。同様に塊状試料の組織観察では、ウスタイトの繭状模様を取り囲むようにオキシ水酸化鉄があり、金属鉄が存在していたことが示唆される。

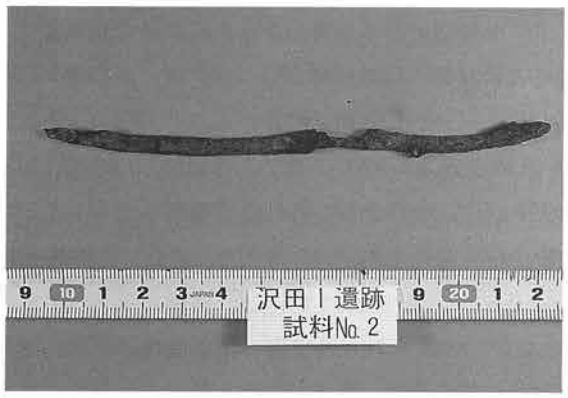
化学成分分析で、T．Feが63.1％と非常に高く造滓成分は7.93％と低い。TiO_2は0.09％、Vも0.007％といずれも低い。しかし、山田湾の砂鉄はチタニウムやバナジウムの含有量がもともと低いので、砂鉄を原料とした製鉄の一つの過程である精錬鍛冶滓と考えてもよいであろう。また、金属鉄（M.Fe）の値が試料の採取位置の関係と考えられるが、18.15％も含まれていた。同時に炭素（C）が2.22％存在し、このことから金属鉄は鋼ではなく出来立ての鉄そのものであった可能性が高い。さらに、酸化第二鉄（Fe_2O_3）と結合水（C．W.）の値が共に高いので、オキシ水酸化鉄が多く存在するものと認められる。

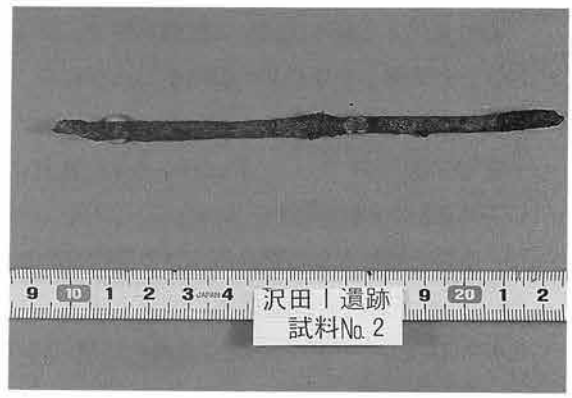
ＥＰＭＡによる面分析によると、偏平状の試料では右下、塊状試料では左側の部分は鉄と酸素のみが存在し比較的純度の高い鉄が酸化・銹化したオキシ水酸化鉄と認められる。他の部分は造滓成分を構成する元素と酸素から成り、鉄滓部分である。この中にはチタニウムや少ないながらもバナジウムの存在が認められ、砂鉄からもたらされたものと推定される。

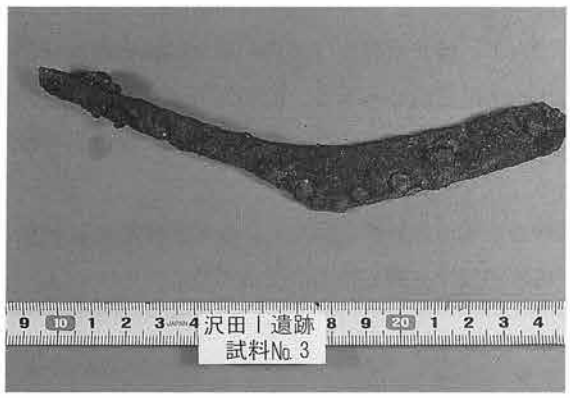
これらの結果から、この試料は鉄滓と残余の金属鉄とを含む鉄銹塊といえる。なお、鉄原料は砂鉄と考えられ、炭素が金属鉄と同時に多く含まれるので精錬過程で生成したものであろう。

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 1

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 1


沢田Ⅰ遺跡
試料No. 2


沢田Ⅰ遺跡
試料No. 2

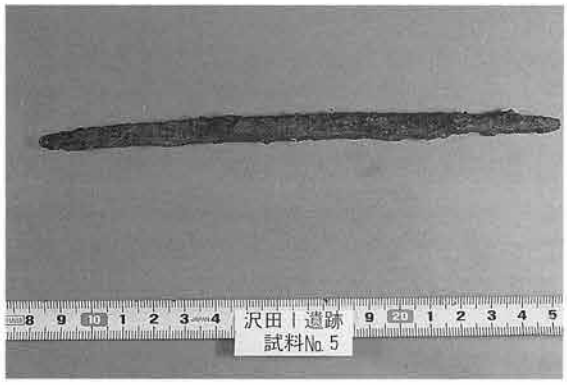

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 3

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 3

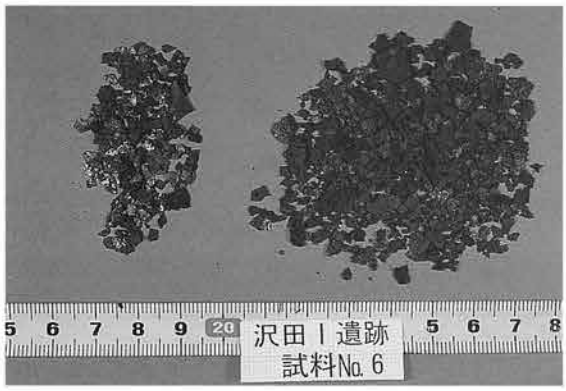
沢田Ⅰ遺跡
試料No. 4

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 4

外観写真No. 1～4


沢田Ⅰ遺跡
試料No. 5

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 5


沢田Ⅰ遺跡
試料No. 6

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 6

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 7

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 7

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 8

沢田Ⅰ遺跡
試料No. 8

外観写真No. 5 ～ 8

分　析　結　果　（山田町沢田Ｉ遺跡調査）

鉄滓関係　　単位：％（m／m）

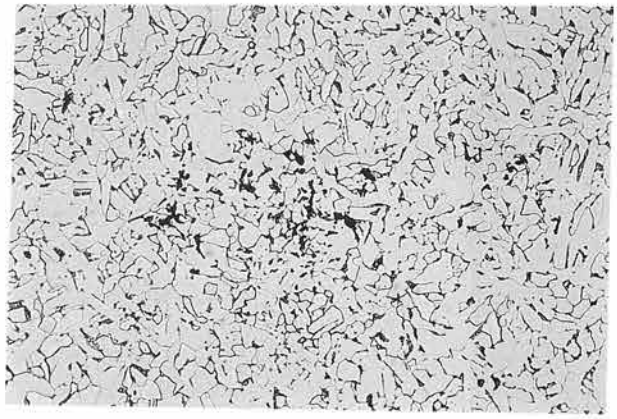
成分 / 試料No.	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe_2O_3	C・W	SiO_2	Al_2O_3	CaO	MgO	TiO_2	MnO	P_2O_5	Cr_2O_3	Na_2O	K_2O	C	V	Cu
6	68.0	0.11	59.71	30.74	0.21	4.72	1.57	0.25	0.04	0.22	0.10	0.189	0.001	0.19	0.18	0.25	0.018	0.002
7	47.4	0.11	50.94	11.02	0.90	23.5	6.58	2.40	0.63	1.50	0.34	0.564	0.001	0.77	075	0.35	0.14	0.005
8	63.1	18.15	11.50	51.5	4.89	6.16	1.44	0.26	0.07	0.09	0.07	0.150	0.001	0.21	0.15	2.22	0.007	0.003

【分析方法】鉄滓等の分析方法はＪＩＳ法に準拠し、以下の方法とした。

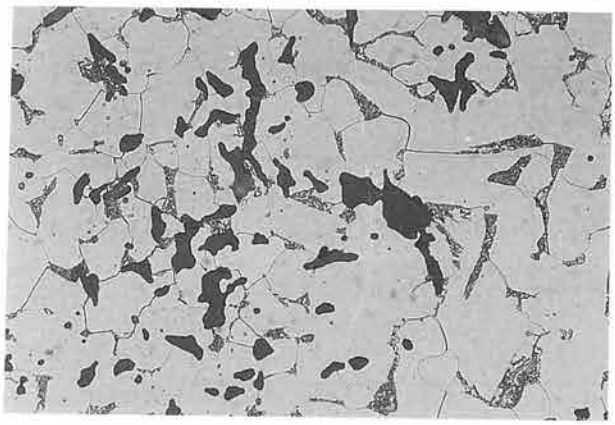
T.Fe：三塩化チタン還元－二クロム酸カリウム滴定法
M.Fe：臭素メタノール分解－ＥＤＴＡ滴定法
FeO：二クロム酸カリウム滴定法
Fe_2O_3：計　算
C・W：カールフィッシャー法

C：燃焼－赤外線吸収法
Cao, MgO, MnO, Cr_2O_3, Na_2O, V, Cu：ＩＣＰ発光分光分析法
SiO_2, Al_2O_3, CaO, MgO, TiO_2, MnO, P_2O_5, K_2O：ガラスビード蛍光Ｘ線分析法

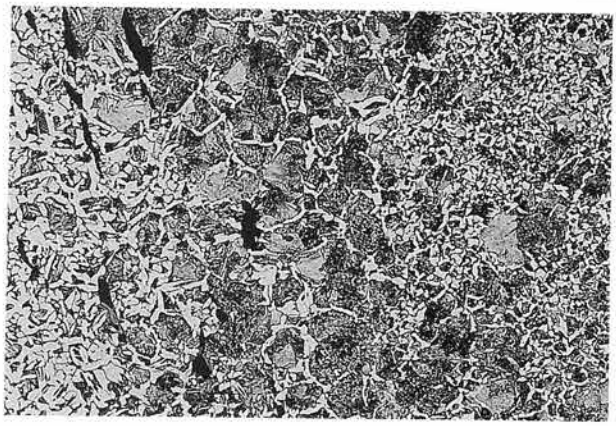
※CaO, MgO, MnOは含有率に応じ、ICP法又はＸ線法で分析しています。



(×100)

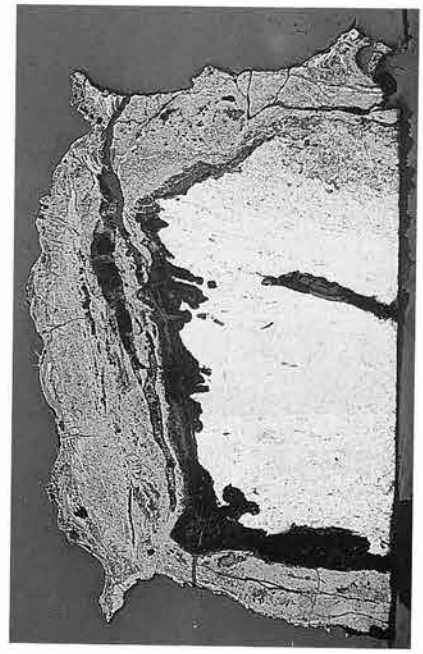


(×400)



(×100)

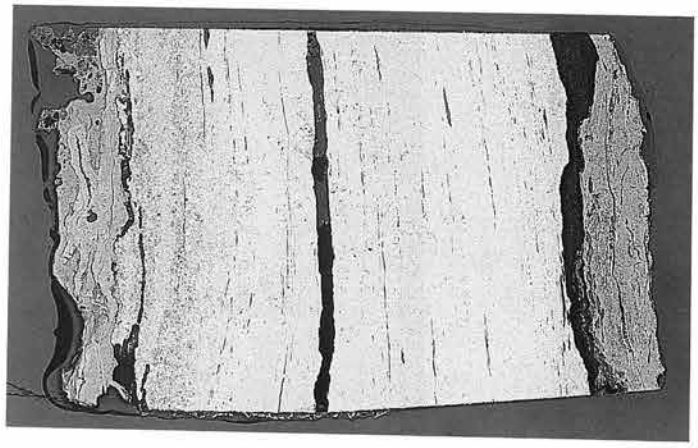
(×400)



顕微鏡写真

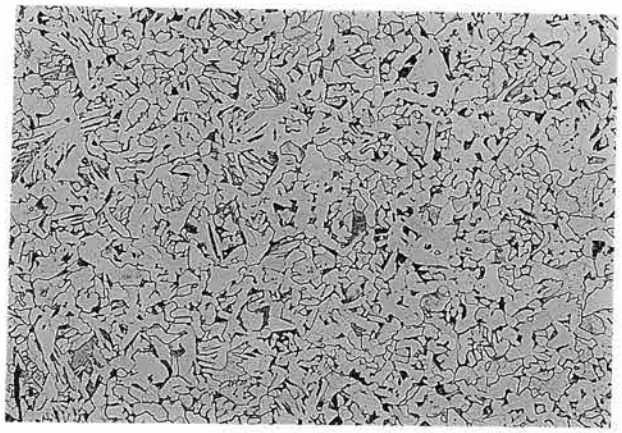
試料番号		種　別
No. 1		鉄器鑿状
位 置	倍 率	メモ
上	×100	山田町沢田Ⅰ C方向

金属顕微鏡組織（No. 1 C方向　鉄器）



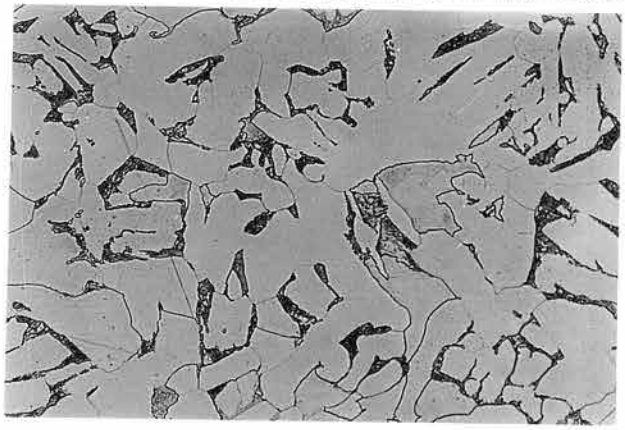
顕微鏡写真

試料番号	種別	位置	位率	メモ
No. 1	鉄器鑿状	上	×10	山田町沢田Ⅰ L方向
		下		



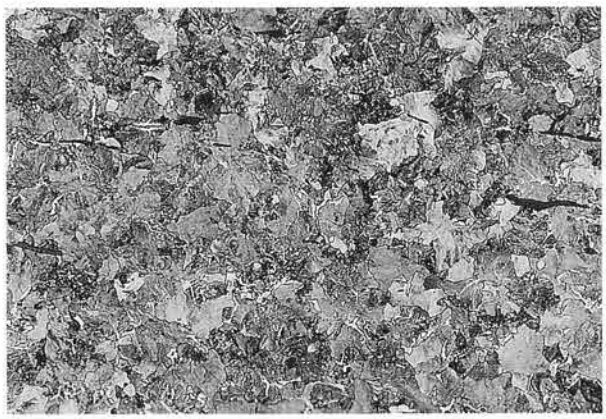
金属顕微鏡組織

(×100)

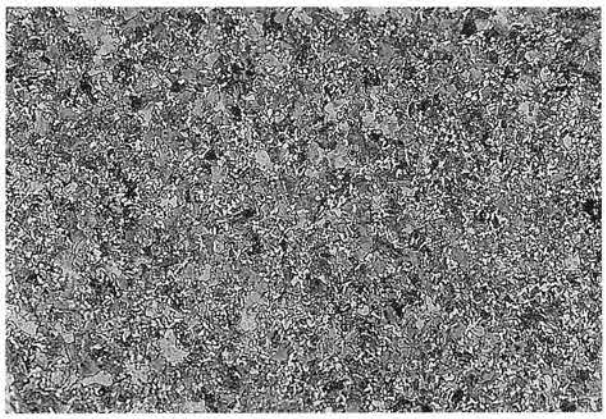


(×400)

金属顕微鏡組織（No. 1 L方向　鉄器）



A（×100）



A（×100）

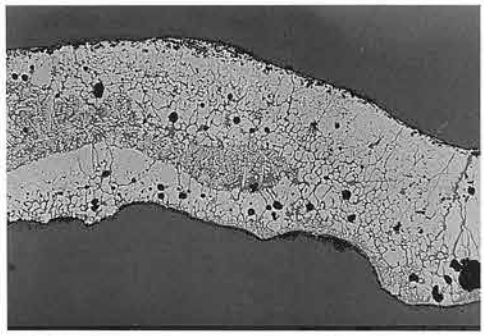
B（×400）

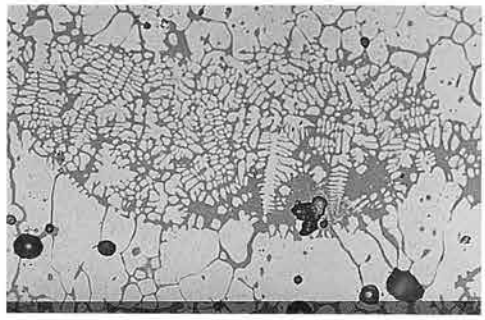
B（×400）

金属顕微鏡組織（No. 4　鉄器）

顕微鏡写真

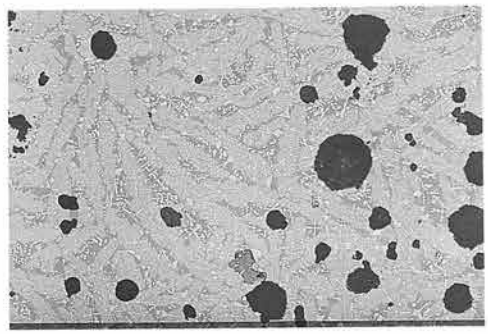
試料番号	種別	位置	倍率	メ　モ
No. 6	鍛　造	上	× 50	山田町沢田
	剥　片	下	×200	

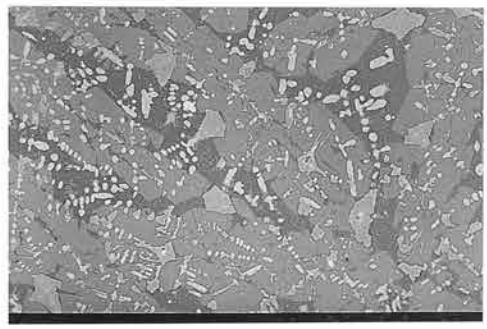




顕微鏡写真

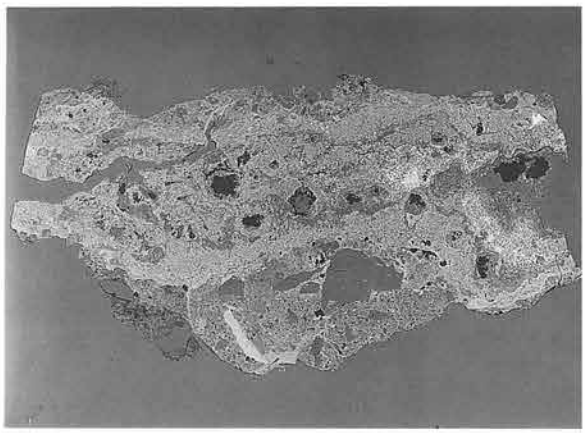
試料番号	種別	位置	倍率	メ　モ
No. 7	鉄　滓	上	× 50	山田町沢田
	椀形滓	下	×200	





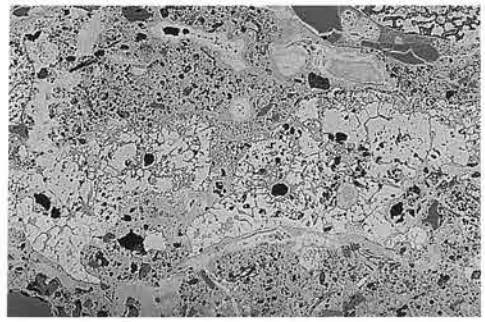
顕微鏡写真

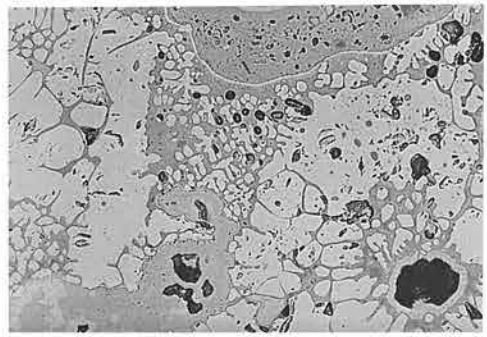
試料番号	種別	位置	倍率	メ　モ
No. 8	鉄　滓	上	×5	山田町沢田Ⅰ
	鉄　塊	下		偏平状



顕微鏡写真

試料番号	種別	位置	倍率	メ　モ
No. 8	鉄　滓	上	× 50	山田町沢田
	鉄　塊	下	×200	偏平

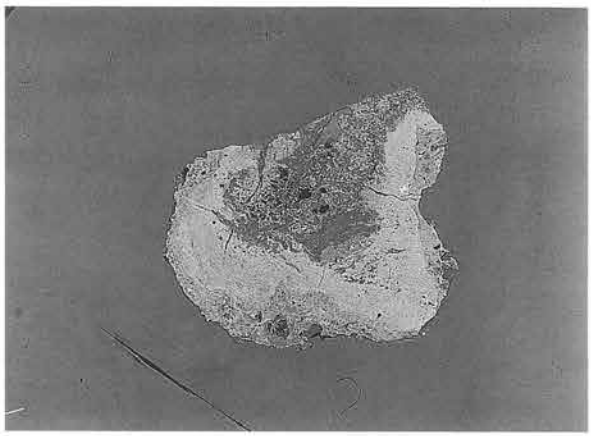




顕　微　鏡　写　真

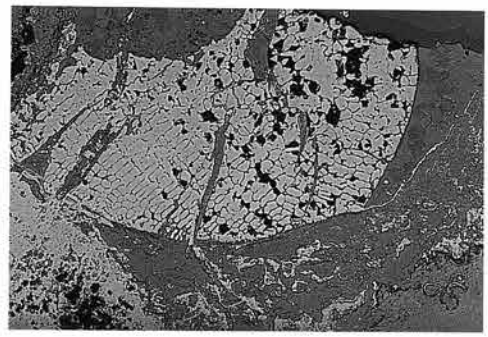
顕微鏡写真

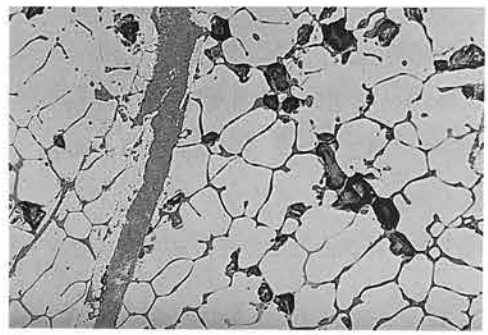
試料番号	種別	位置	倍率	メ　モ
No. 8	鍛　滓	上	×10	山田町沢田Ⅰ
	鉄　塊	下		塊状



顕微鏡写真

試料番号	種別	位置	倍率	メ　モ
No. 8	鉄　滓	上	× 50	山田町沢田
	鉄　塊	下	×200	塊状





顕　微　鏡　写　真

「財」岩手県埋蔵文化財センター　御中

整理番号：G00369
1995年２月17日

川鉄テクノリサーチ株式会社
分析・評価センター
千葉事業所

〒260　千葉市中央区川崎町1番地
TEL　043-262-2313
FAX　043-266-7220

試験報告書

１．件名

Ｘ線回折による、遺跡出土品の定性分析

２．試料記号

①№10～22（山ノ内Ⅲ遺跡…13本）

②Sawada－６～７（沢田Ⅰ遺跡…２本）　　合計15本

３．測定装置

理学電気株式会社製ガイガーフレックス（RAD－ⅡA型）

４．測定条件

①　使用X線	Co-Kα（波長＝1.79021Å）
②　Kβ線吸収フィルター	Fe
③　管電圧・管電流	50kV・35mA
④　スキャニング・スピード	2°／min.
⑤　サンプリング・インターバル	0.020°
⑥　D.S.スリット	1°
⑦　R.S.スリット	0.3mm
⑧　S.S.スリット	1°
⑨　検出器	シンチレーション・カウンター

５．測定結果

同定された物質は、チャートに記入致しましたので、チャートを御参照下さい。

６．測定者のコメント

①Sawada-6の試料につきましては、量が少ないので、ガラス製試料ホルダーを使用して測定致しました。

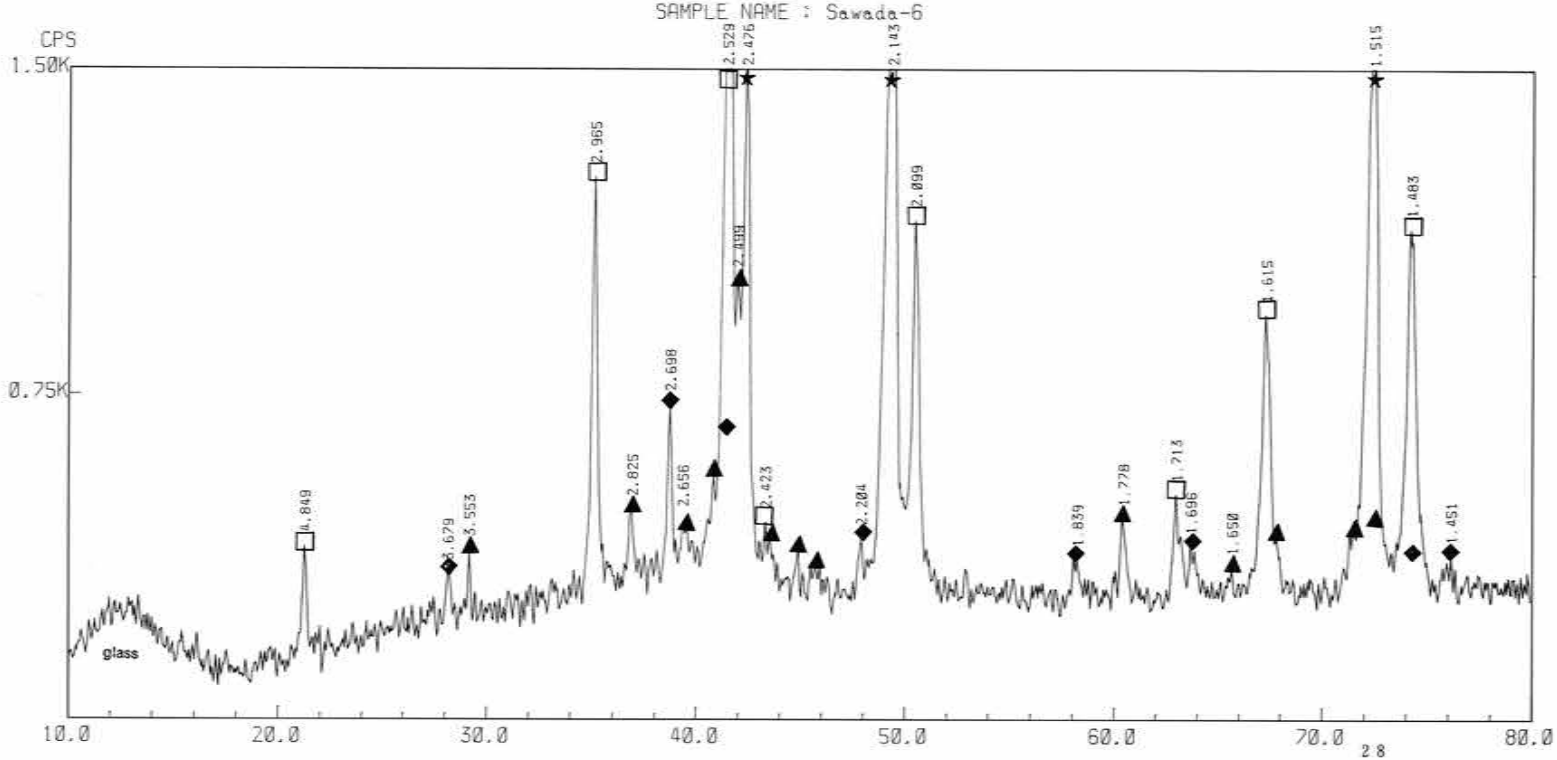
②●印のピークは、試料ホルダーからのものと思われます。

MEASUREMENT DATE : 95. 2.15
FILE NAME : AH42100
TARGET : Co
VOL and CUR. 50KV 35mA
SLITS : DS 1 RS .3 SS 1
SCAN SPEED: 2 DEG/MIN.
STEP/SAMPL.. .02 DEG
PRESET TIME: 0 SEC
SAMPLE NAME: Sawada-6
SAMPLE MEMO: G00369
OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 02-16-1995
SMOOTHING NO.. 11
THRESH.INTEN.. 300 CPS
2nd DERIV.: 88 CPS/(DEGxDEG)
WIDTH: .09 DEG
B.G.REDUCTION: EXECUTION
OUTPUT FILE :

★ FeO (Wustite)
□ Fe_3O_4 (Magnetite)
▲ Fe_2SiO_4 (Fayalite)
◆ α-Fe_2O_3 (Hematite)

SAMPLE NAME : Sawada-6

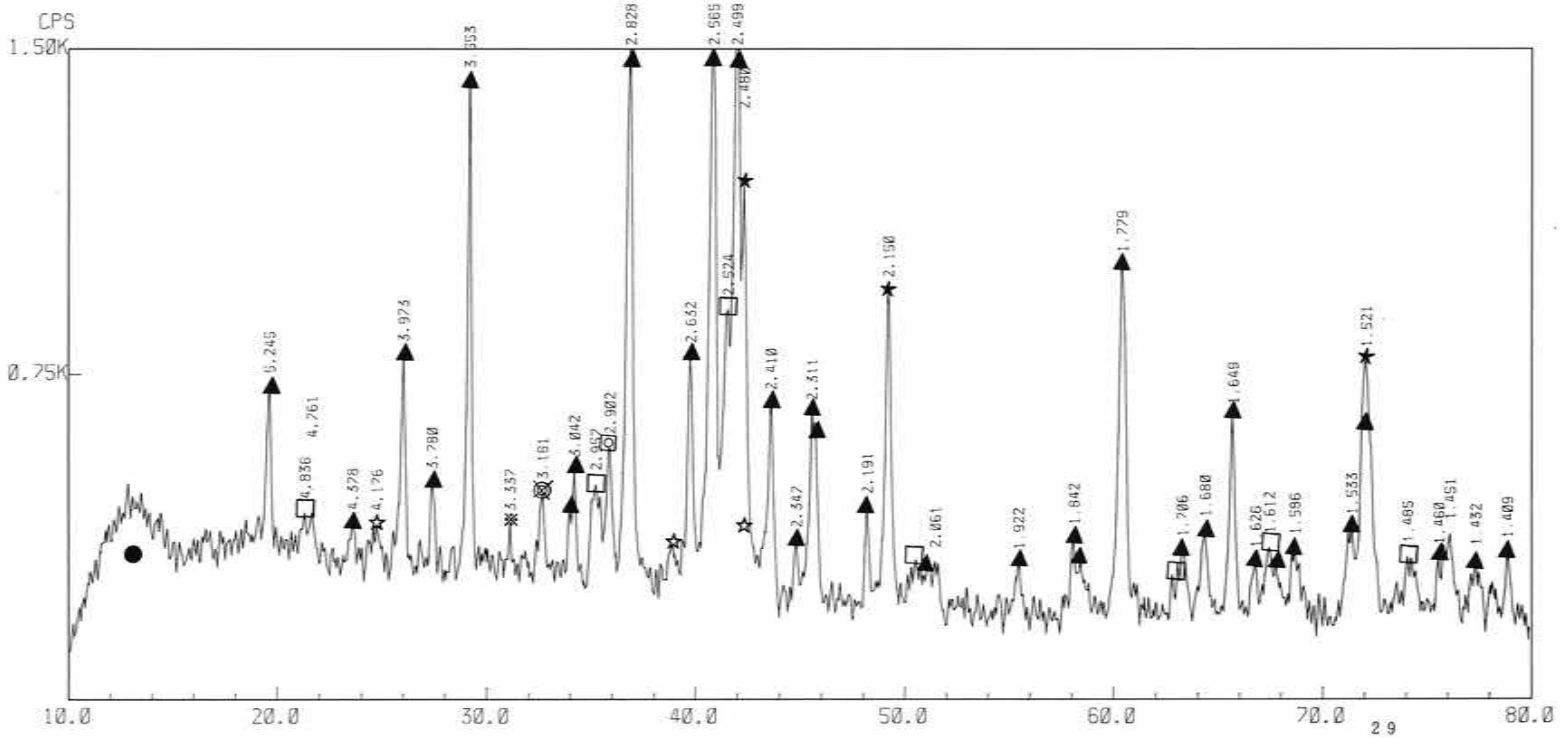


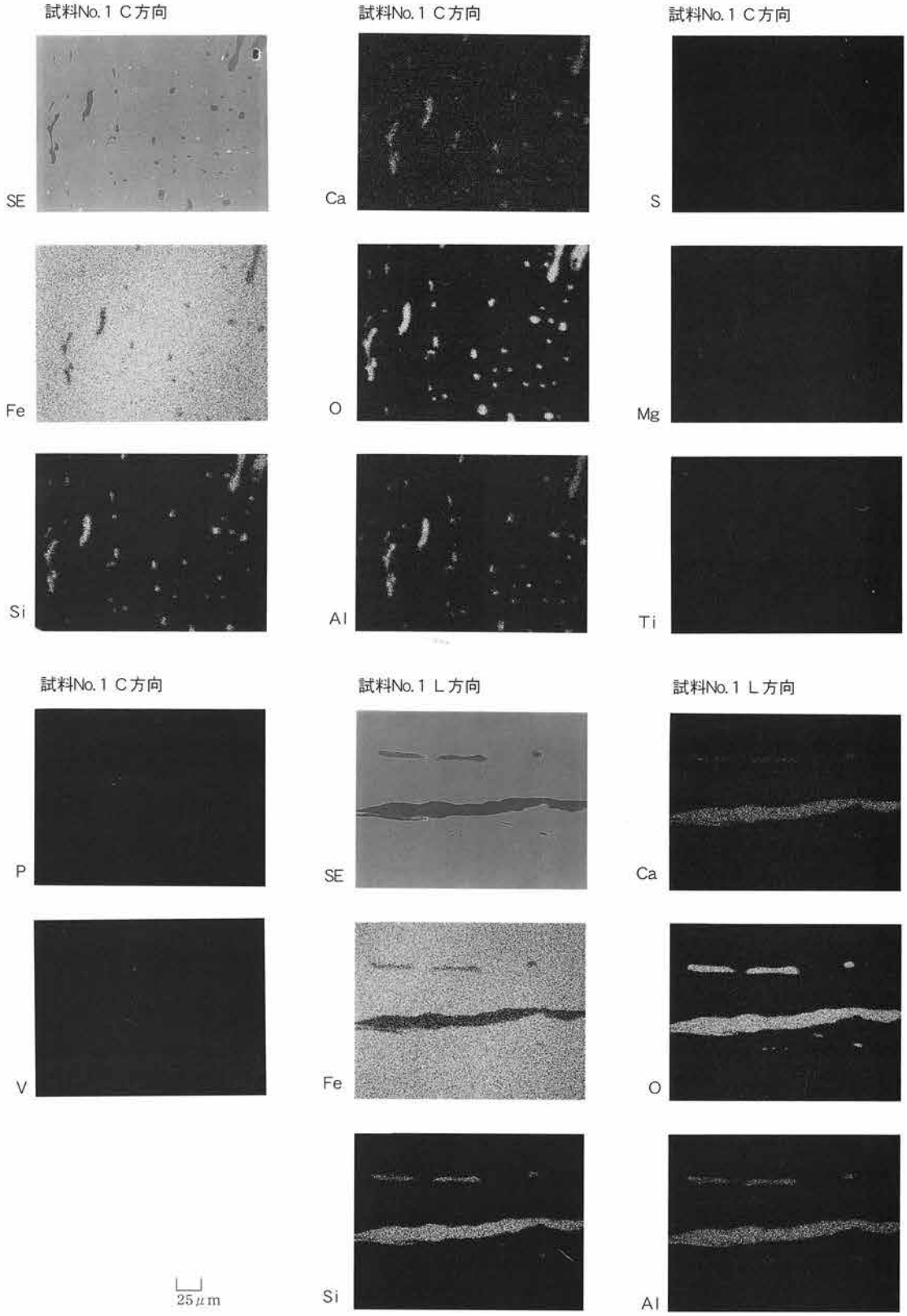
MEASUREMENT DATE : 95. 2.15
FILE NAME : AH43100
TARGET : Co
VOL and CUR. 50KV 35mA
SLITS : DS 1 RS .3 SS 1
SCAN SPEED. 2 DEG/MIN.
STEP/SAMPL.. .02 DEG
PRESET TIME: 0 SEC
SAMPLE NAME: Sawada-7
SAMPLE MEMO: G00369
OPERATOR :

DATA DRAWING DATE : 02-17-1995
SMOOTHING NO.. 11
THRESH. INTEN.. 298 CPS
2nd DERIV.: 88 CPS/(DEGxDEG)
WIDTH. .09 DEG
B.G.REDUCTION: EXECUTION
OUTPUT FILE :

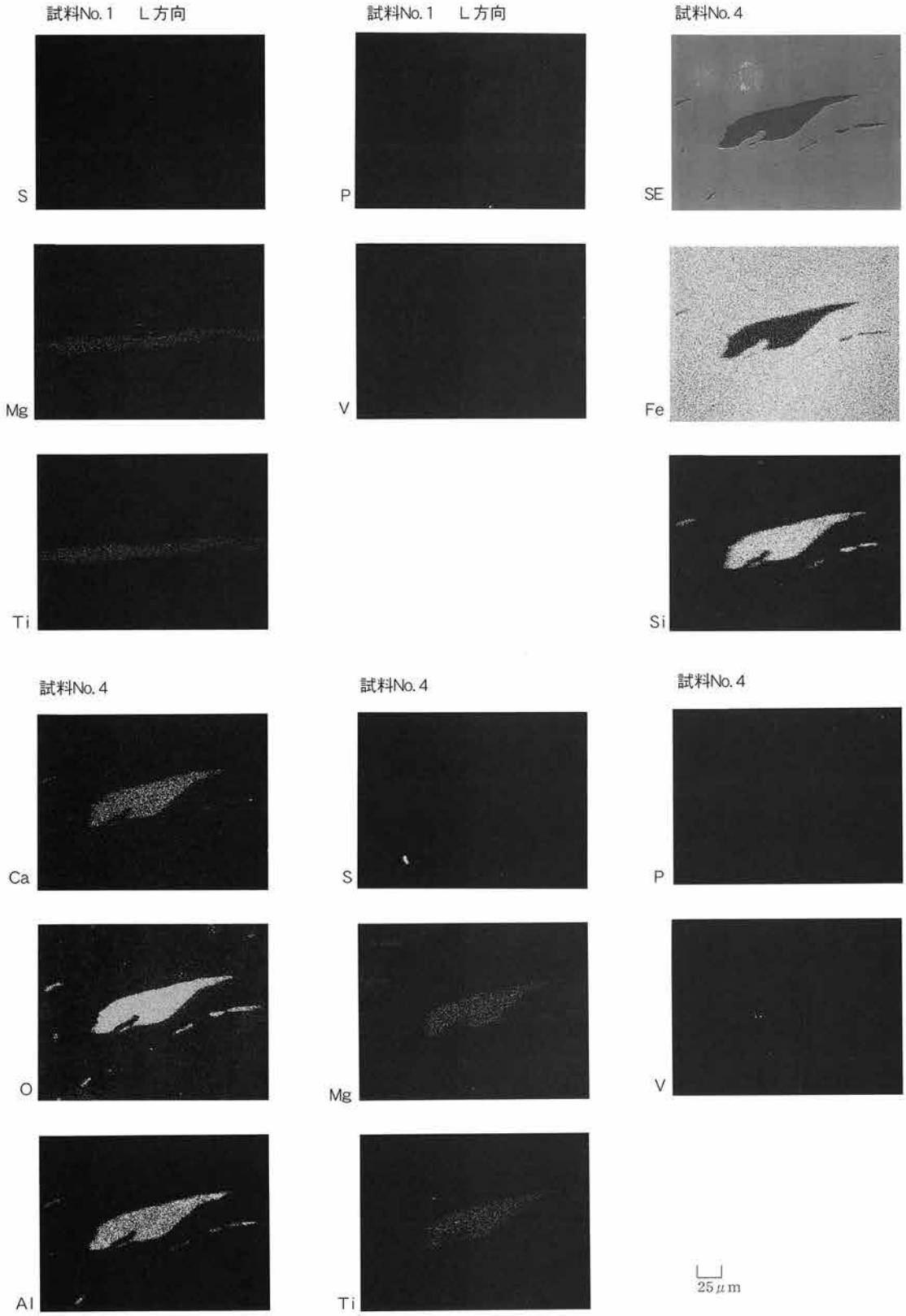
▲ Fe_2SiO_4 (Fayalite)
★ FeO (Wustite)
□ Fe_3O_4 (Magnetite)
☆ α-FeO(OH) (Goethite)
⊗ $(Na,Ca)(Al,Si)_4O_8$ (Plagioclase)?
※ β-FeO(OH) (Akaganeite)?
⊡ $CaMg(CO_3)_2$ (Dolomite)?

SAMPLE NAME : Sawada-7





ＥＰＭＡによる面分析結果

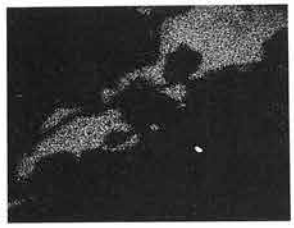


ＥＰＭＡによる面分析結果

試料No. 8　偏平

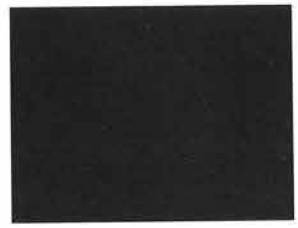
SE

試料No. 8　偏平

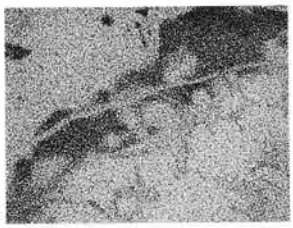


Ca

試料No. 8　偏平

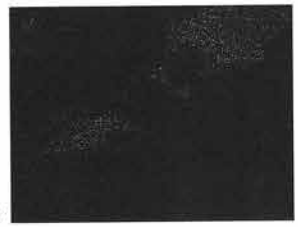


S



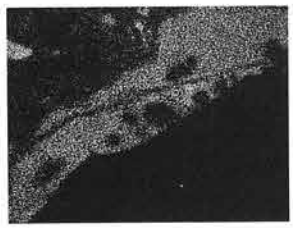
Fe

O

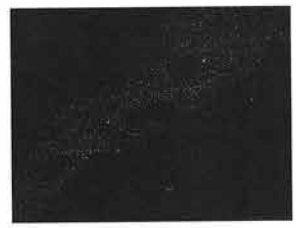


Mg

Si

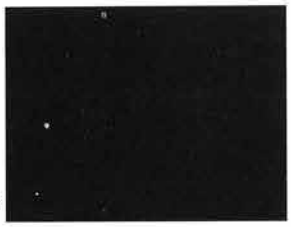


Al

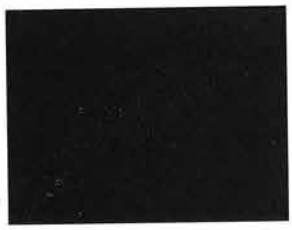


Ti

試料No. 8　偏平



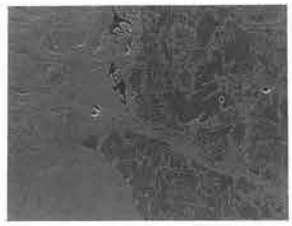
P



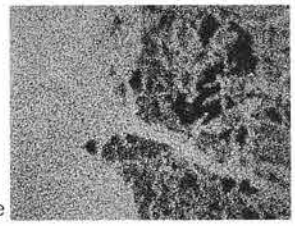
V

25 μm

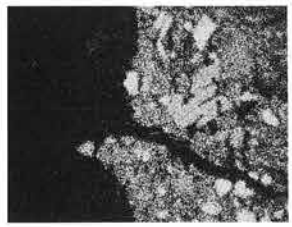
試料No. 8　塊状



SE

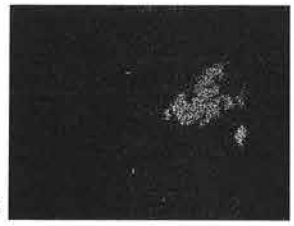


Fe

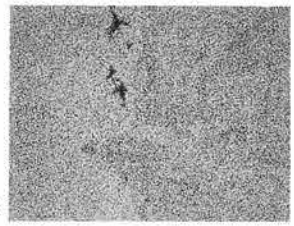


Si

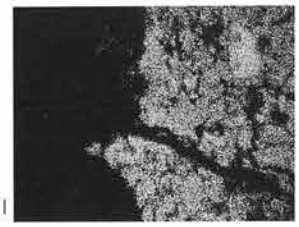
試料No. 8　塊状



Ca



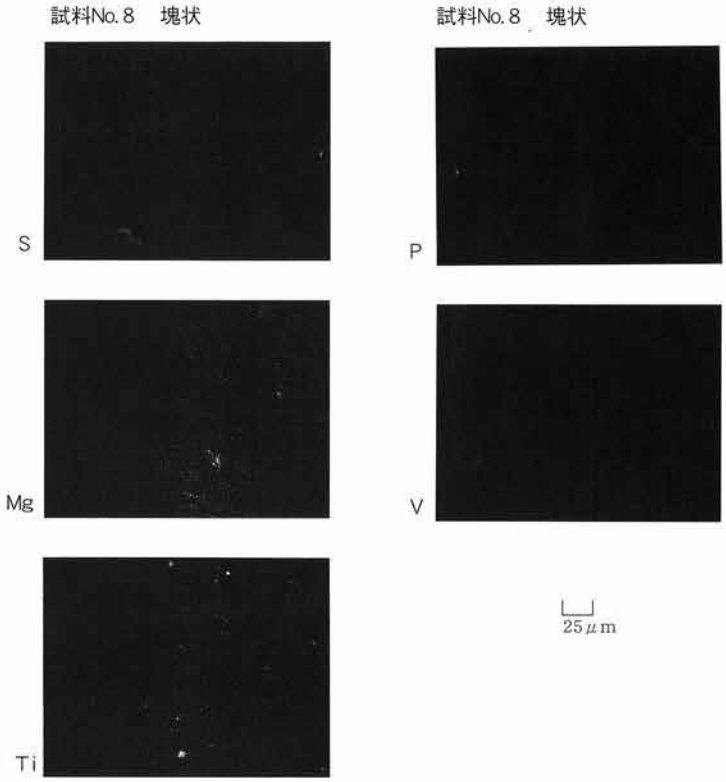
O



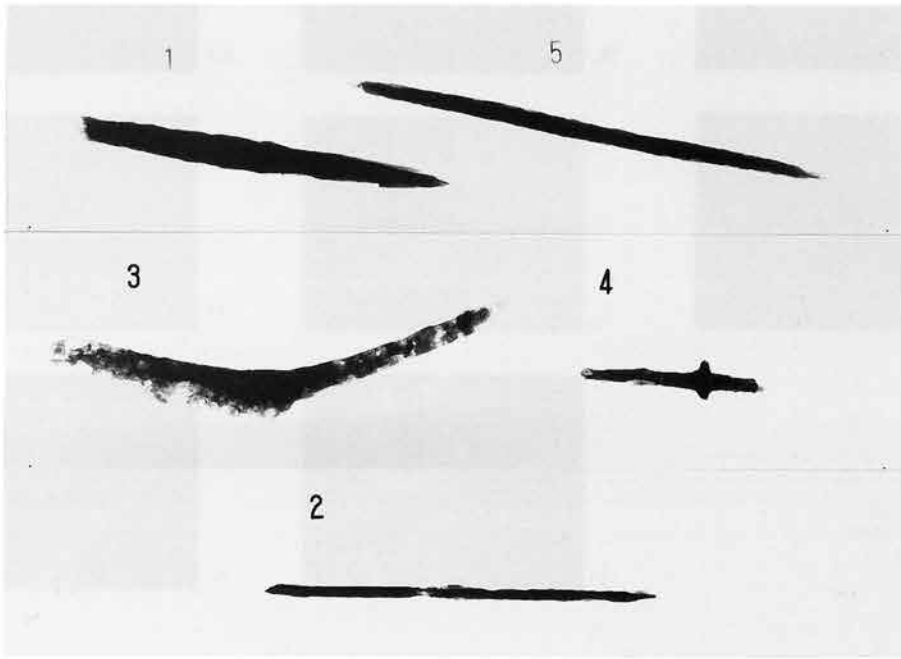
Al

ＥＰＭＡによる面分析結果

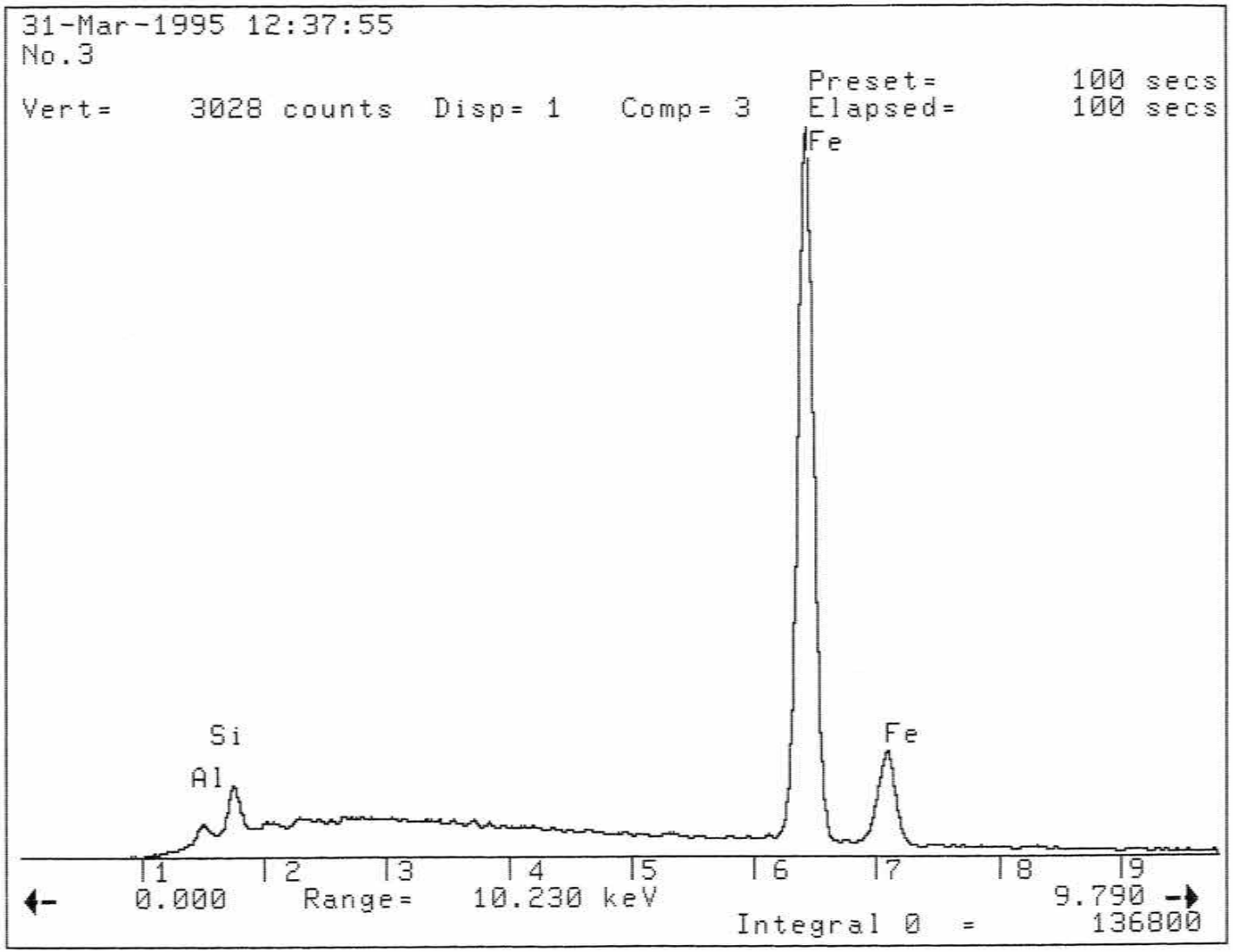
ＥＰＭＡによる面分析結果



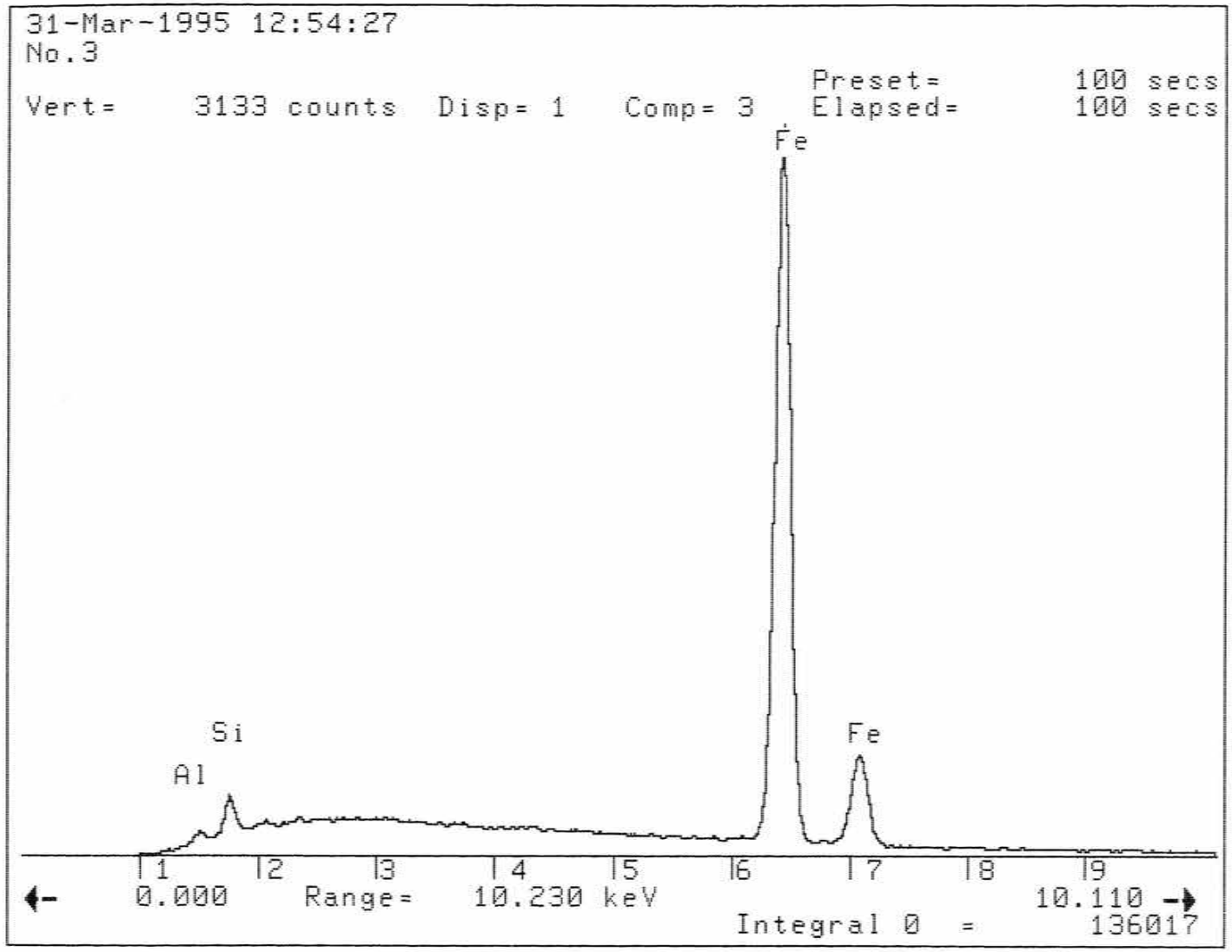
試料の放射線透過写真



ＥＰＭＡによる面分析結果、放射線透過写真



EDXによる定性分析結果



EDXによる定性分析結果

5　まとめ

一次調査で検出された遺構は縄文時代の竪穴住居跡9棟、竪穴状遺構2棟、焼土遺構3カ所、古代の竪穴住居跡12棟、竪穴状遺構1棟、土坑8基、焼土遺構2カ所、鍛冶遺構1カ所、時期不明の竪穴状遺構1棟、土坑36基、焼土遺構2カ所、鍛冶遺構1カ所である。

縄文時代の住居跡のうち前期前葉の遺構は、隅丸長方形状の平面形を呈し炉を持たない。また壁際に柱穴が巡るように配置することや埋土に中振浮石と思われる黄白色土の堆積が見られることなど、その後の調査で検出された前期前葉の住居跡の特徴に共通するものがある。また、竪穴状遺構としたものも埋土の構成や出土遺物から同時期の竪穴住居跡の可能性が高い。

中期の遺構は石囲炉を中心に楕円形状に巡る特徴があるようだが、他遺構との重複や撹乱等で形状が不明瞭であったり炉のみの検出に留まっているものもある。

古代の住居跡は平安時代として調査されているが、奈良時代と思われる遺構も２棟ある。出土遺物との関係からも北側壁にカマドがあれば奈良時代、西側壁にカマドがあれば平安時代という目安で分けられ、その後の調査と同様な傾向が見られる。

鍛冶遺構もRA506とした平安時代の住居跡に伴う施設と思われる。この遺構から出土したと思われる鍛造剥片の分析結果は、砂鉄を原料とした鉄からの鍛造剥片とされている。また同じ遺構出土の可能性のある鉄滓は砂鉄を原料とした精錬椀形滓とされ、鉄塊系遺物は砂鉄原料の精錬過程で生成した鉄滓と残余の鉄を含む鉄銹塊とされている。

このほかの分析結果では、全体に鉄分の残存状態が良く、RA506住居跡から出土したと見られる試料１の鑿状の製品は、砂鉄を鉄源として作られ、長手方向に鍛造が施され、刃には堅さと切れ味を増すために浸炭と焼き入れがなされているようであると報告されている。出土地不明だが試料４の鉄鏃の茎状鉄器と思われる製品は、炭素量0.8％で焼き入れが施されている。

これらの試料はこの地区の平安時代の鉄製品加工技術を表す貴重なものであるが、分析に出す前の試料の出土状況や取り扱いなど不明な点があり残念である。ただ、隣接する房の沢Ⅳ遺跡で出土した蕨手刀等の鉄製品に比較してみると、加工技術がかなり向上しているようである。

縄文時代にしても古代にしても、貴重な遺構遺物が発掘されているが、調査及び整理が不十分であり残念である。再三の引継要請やフィールドカード等の資料提供に応じなかった一次調査の担当者の責任はどうなるのか。その後の一連の発掘調査の成果と合わせ、貴重な報告が不完全なものになったことが悔やまれる。

表2　縄文時代竪穴住居一覧表

遺構名	形　　状	規　　模	炉	時　期	備　　考
RA101	隅丸長方形状	6.3m×4.5m	無し	前期前葉	中振浮石？混入
RA102	隅丸長方形状	2.6m×2.2m	無し	前期	
RA103	隅丸長方形	3.9m×3m以上	無し	前期前葉	
RA104	隅丸長方形？	3m以上	不明	前期	
RA105	隅丸長方形状	3m×2.4m	無し	前期前葉	中振浮石？混入
RA106	楕円形状	3.5m×3m	石囲炉	中期中葉	
RA107	不明	不明	石囲炉	縄文	炉のみ検出
RA108	楕円形状？	2.5m以上×2.6m	石組炉	中期	
RA109	円形？	4m以上	石組炉	中期後葉	
RE01	隅丸長方形状	2.5m×1.8m	無し	前期前葉	竪穴状遺構
RE02	長方形状	3.3m×2.7m	無し	縄文	竪穴状遺構

表3　古代竪穴住居一覧表

遺構名	形　　状	規　　模	カマド位置	時　期	備　　考
RA501	隅丸長方形？	長辺3.8m以上	西側	平安	カマド2基有り
RA502	隅丸方形状	長辺約2m	西側	平安	
RA503	隅丸方形状	長辺4.4m以上	西側	平安	
RA504	隅丸方形	1辺約5m	西側	平安	
RA505	隅丸長方形状	5.5m×3.2m以上	西側	平安	
RA506	長方形	5.5m×3.2m以上	西側	平安	
RA507	隅丸方形状	1辺2.5m	西側	平安	
RA508	長方形状	6.2m×4.8m	北側	奈良	
RA509	隅丸方形状	1辺3.5m	不明	奈良？	北東に焼土有り
RA510	隅丸方形状	1辺4m	北側	奈良？	
RA511	不明	不明	不明	不明	
RA512	隅丸方形状	1辺約2.5m	不明	古代	
RE03	隅丸方形	1辺約2.6m	無し	古代？	
RE04	楕円形状	2.8m以上×2.6m	無し	不明	

表4　土坑一覧表

遺構名	形　状	規　模	時　期	備　考
RD01	円形	径2.2m、深さ5～10cm	平安？	
RD02	楕円形	2.8×1.7m、深さ5～10cm	平安？	
RD03	隅丸長方形状	1.8×1.3m、深さ30cm	平安？	
RD04	隅丸長方形状	2.3×1.4m、深さ10cm	平安？	
RD05	隅丸長方形状	1.5×1.2m、深さ20cm	平安？	
RD06	長方形状	2.3×1.1m、深さ10cm	平安？	
RD07	長方形状	2.1×1.1m、深さ10cm	平安？	
RD08	D字状	2.2×2m、深さ20cm	平安？	
RD09	楕円形状	1.1×0.9m、深さ50cm	不明	
RD10	楕円形状	2.1×1.3m、深さ20cm	不明	
RD11	隅丸方形	約1.5m、深さ5cm	不明	
RD12	楕円形状	1.9×1.5m、深さ15cm	不明	
RD13	楕円形	2.7×2m、深さ10cm	不明	
RD14	円形	径0.6m、深さ40cm	不明	
RD15	楕円形状	長径1.3m、深さ50cm	不明	
RD16	円形状	長径1.7m、深さ30～40cm	不明	
RD17	楕円形状	1.8×1.5m、深さ40cm	不明	
RD18	楕円形状	1.2×1m、深さ40cm	不明	
RD19	円形	径0.8m、深さ65cm	不明	土師器甕片出土
RD20	楕円形	長径1m、深さ40cm	不明	
RD21	円形？	径0.7m、深さ45cm	不明	
RD22	楕円形状	0.75×0.6m、深さ35cm	不明	縄文中期土器片出土
RD23	楕円形状	0.9×0.65m、深さ35cm	不明	土師器甕片出土
RD24	楕円形状	0.8×0.6m、深さ15cm	不明	
RD25	円形状	直径0.8m、深さ50cm	不明	
RD26	楕円形状	1×0.65m、深さ50cm	不明	
RD27	楕円形状	0.8×0.5m、深さ55cm	不明	
RD28	円形状	直径1.5m、深さ85cm	不明	
RD29	円形	直径0.7m、深さ30cm	不明	
RD30	円形	直径0.75m、深さ10cm	不明	
RD31	円形	直径0.45m、深さ45cm	不明	
RD32	楕円形状	0.75×0.65m、深さ55cm	不明	
RD33	隅丸長方形状	1.6×1.4m、深さ25cm	不明	
RD34	円形状	直径0.9m、深さ25cm	不明	
RD35	隅丸三角形状	径80cm、深さ30cm	不明	
RD36	楕円形状	0.9×0.5m、深さ15cm	不明	
RD37	円形状	直径0.9m、深さ20cm	不明	
RD38	円形状	直径0.9m、深さ25cm	不明	
RD39	楕円形状	1.2×0.9m、深さ25cm	不明	
RD40	円形状	直径0.35m、深さ20cm	不明	
RD41	円形状	直径0.3m、深さ20cm	不明	
RD42	隅丸長方形状	1×0.65m、深さ15cm	不明	
RD43	円形状	直径0.7m、深さ20cm	不明	
RD44	楕円形状	0.7×0.6m、深さ20cm	不明	

表5　土器観察表

単位：cm　＊：破損品の寸法

No.	図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
1	6−1	31−1	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
2	6−2	31−2	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
4	6−3	31−3	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
3	6−5	31−4	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
5	6−6	31−5	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
6	6−4	31−6	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
8	6−8	31−8	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
9	6−10	31−9	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
10	6−7	31−10	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
7	6−9	31−7	RA101	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
22	7−2	31−12	RA102	埋	深鉢	前期中葉						
12	7−1	31−13	RA102	埋	深鉢	前期中葉	＊13	＊23	＊23		金雲母	
14	7−3	31−14	RA102	埋	深鉢	前期中葉	＊11	＊12	＊12		金雲母	
13	7−4	32−1	RA102	埋	深鉢	前期	＊20	20	28.5		金雲母	
15	7−5	32−2	RA102	埋	深鉢	前期					金雲母	
20	7−6	32−3	RA102	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
21	7−7	32−4	RA102	埋	深鉢	前期						
18	7−8	32−5	RA102	埋	深鉢	前期						
24	8−1	32−6	RA102	埋	深鉢	前期						
16	8−2	32−10	RA102	埋	深鉢	前期						
17	8−3	32−7	RA102	埋	深鉢	前期						
19	8−4	32−8	RA102	埋	深鉢	前期						
23	8−5	32−9	RA102	埋	深鉢	前期						
25	8−6	32−11	RA102	埋	深鉢	前期						
27	8−11	33−1	RA103	埋	深鉢	前期						
30	8−10	33−4	RA103	埋	深鉢	中期						
28	8−13	33−3	RA103	埋	深鉢	前期						
29	8−12	33−2	RA103	埋	深鉢	前期						
26	8−14	33−5	RA103	埋	深鉢	前期						
31	9−1	33−7	RA105	埋	深鉢	前期						
32	9−2	33−8	RA105	埋	深鉢	前期前葉					センイ	
38	9−3	33−9	RA105	埋	深鉢	前期						
40	9−5	33−10	RA105	埋	深鉢	前期前葉						
39	9−6	33−11	RA105	埋	深鉢	前期						
37	9−7	33−13	RA105	埋	深鉢	前期						
35	9−8	33−12	RA105	埋	深鉢	前期						
33	10−1	33−14	RA105	埋	深鉢	前期						
34	10−2	33−15	RA105	埋	深鉢	前期						
36	10−3	33−16	RA105	埋	深鉢	前期						
44	10−5	34−1	RA106	埋	深鉢	中期	＊23	25	27			
43	10−6	34−2	RA106	埋	鉢	中期中葉	10.7	10	10	8		
49	10−7	34−4	RA106	埋	深鉢	中期						
50	10−8	34−3	RA106	埋	深鉢	中期中葉						
46	10−9	34−6	RA106	埋	深鉢	中期中葉						
56	11−1	34−7	RA106	埋	深鉢	中期中葉						
45	11−2	34−5	RA106	埋	深鉢	中期中葉						
53	11−3	34−8	RA106	埋	深鉢	中期中葉						
57	11−4	34−9	RA106	埋	深鉢	中期中葉						
47	11−5	34−10	RA106	埋	深鉢	中期						
54	11−6	34−11	RA106	埋	深鉢	中期						
55	11−7	34−12	RA106	埋	深鉢	中期						
52	11−8		RA106	埋	深鉢	中期						
51	11−9	34−13	RA106	埋	深鉢	中期						
58	12−1	35−1	RA109	埋	深鉢	中期後葉	50	35	40	13		
60	12−2	35−2	RA109	埋	深鉢	中期	6.5		15	11		

No.	図版No.	写真No.	出土地	層　位	器　種	時　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　　考
135	13－1	35－3	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
138	13－2	35－4	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
137	13－3	35－5	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
141	13－4	35－6	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
144	13－5	35－8	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
136	13－6	35－10	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
139	13－7		RE01		深鉢	前期前葉					センン	
140	13－8	35－7	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
142	13－9	35－9	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
145	13－11	35－11	RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
143	13－10		RE01		深鉢	前期前葉					センイ	
146	14－1	36－1	RE02	埋	深鉢	前期						
149	14－2	36－2	RE02	埋	深鉢	前期						
151	14－3	36－3	RE02	埋	深鉢	前期						
148	14－4	36－4	RE02	埋	深鉢	前期						
150	14－5	36－5	RE02	埋	深鉢	前期						
147	14－6	36－6	RE02	埋	深鉢	前期						
62	15－1	36－8	RA501	カマドb	甕	平安	26	19	19	11		
71	16－1		RA501	カマド	坏	平安	4	14	14			内グロ
65	16－3	36－9	RA501		甕	平安	10	16	16			線刻あり
67	16－2	36－11	RA501		甕	平安	7		15	11		
77	16－4	36－12	RA501	カマドb	甕	平安						底部木葉痕
66	16－5	36－10	RA501	カマドb	甕	平安						輸積み痕
73	16－6	36－13	RA501	カマドb	甕	平安						須恵器
63	16－8	36－14	RA501		甕	平安						須恵器
70	16－7	36－15	RA501	カマドb	甕	平安						須恵器
74	16－9	36－16	RA501	カマドb	甕	平安						須恵器
261	17－1	37－4	RA502	埋	甕	平安	＊6	12	12		金雲母	
94	18－1	37－5	RA503	埋	甕	平安	15	13.5	13.5	10		底部木葉痕
86	20－1	37－6	RA504	埋	甕	平安	17	15	15	9	金雲母	
274	20－2	37－8	RA504	埋	甕	平安						須恵器
97	20－3	37－9	RA504	埋	甕	平安						底部木葉痕
99	20－4	37－7	RA504	埋	甕	平安	＊3	＊18	＊18			
109	22－1	38－3	RA506	埋	坏	平安	＊4	16	16			内グロ
108	22－2	38－4	RA506	埋	甕	平安						
107	22－3	38－5	RA506	埋	甕	平安	＊6		＊14	＊19		
103	22－4	38－6	RA506	埋	坏？	平安						須恵器
104	22－5	38－8	RA506	埋	甕	平安						須恵器
113	22－7	38－7	RA506	埋	甕	平安						須恵器
101	22－8	38－9	RA506	床	甕	平安						須恵器
118	23－1	39－1	RA507	カマド	甕	平安	＊29	21.8	23		金雲母	
120	23－2	39－2	RA507	カマド	甕	平安						
119	23－3	39－3	RA507	カマド	甕	平安						
124	25－1	39－4	RA508	カマド	鉢	縄文前期	＊6		＊16	6	センイ	
129	25－2	39－5	RA508	埋	高坏	奈良？	＊6			12	金雲母	内グロ
132	27－1		RA512	床	甕	古代						
200	28－1	39－8	RD02	埋	深鉢	縄文						
201	28－2	39－9	RD02	埋	深鉢	縄文						
198	28－3	39－10	RD02	埋	深鉢	縄文						
199	28－4	39－11	RD02	埋	深鉢	縄文						
202	29－1	40－1	RD05	埋	深鉢	縄文						
203	29－2	40－2	RD05	埋	深鉢	縄文						
242	29－3		RD08	埋	深鉢	縄文中期						
236	29－4	40－3	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
238	29－5	40－4	RD08	埋	深鉢	縄文中期						

No.	図版No.	写真No.	出土地	層　位	器　種	時　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
241	29－6	40－5	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
243	29－7	40－6	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
244	29－8	40－7	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
245	29－9	40－8	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
234	29－10	40－9	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
247	29－11	40－10	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
249	30－1	40－11	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
250	30－2	40－12	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
246	30－3	40－13	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
251	30－4	40－14	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
253	30－5	40－15	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
252	30－6	40－16	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
248	30－7	40－17	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
254	30－8	40－18	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
255	30－12	40－19	RD08	埋	深鉢	縄文中期						
152	30－13	41－1	RE04	埋	深鉢	縄文中期						
153	30－14	41－2	RE04	埋	深鉢	縄文中期						
154	30－15	41－3	RE04	埋	深鉢	縄文中期						
195	31－1	41－4	RD10	埋	深鉢	縄文中期						
196	31－2		RD10	埋	深鉢	縄文中期						
197	31－3	41－5	RD10	埋	深鉢	縄文中期						
204	32－1	41－6	RD19	埋	甕	平安						
206	32－2		RD19	埋	支脚？	平安						
226	33－1	41－7	RD22	埋	深鉢	縄文						
227	33－2	41－8	RD22	埋	深鉢	縄文						
228	33－3	41－9	RD22	埋	深鉢	縄文						
229	33－4	41－10	RD22	埋	深鉢	縄文						
231	33－5	41－11	RD23	埋	甕	古代						
173	37－1	42－1		土器溜	深鉢	縄文前期						
174	37－2	42－2		土器溜	深鉢	縄文前期						
170	37－3	42－3		土器溜	深鉢	縄文前期						
160	37－4	42－4		土器溜	深鉢	縄文						
165	37－5	42－9		土器溜	深鉢	縄文前期						
171	37－6	42－6		土器溜	深鉢	縄文前期						
223	37－7	42－5			深鉢	縄文前期						
189	37－8			土器溜	深鉢	縄文前期						
224	37－9	42－7		土器溜	深鉢	縄文前期						
219	37－10	42－8			深鉢	縄文前期						
167	37－11	42－14		土器溜	深鉢	縄文						
222	37－12	42－10			深鉢	縄文中期						
162	37－13	42－12		土器溜	深鉢	縄文中期						
169	37－14	42－13		土器溜	深鉢	縄文中期						
168	37－15	42－11		土器溜	深鉢	縄文中期						
175	37－16	42－16		土器溜	深鉢	縄文中期						
186	37－17	42－17		土器溜	深鉢	縄文中期						
184	37－18	42－15		土器溜	深鉢	縄文中期						
188	37－19	42－18		土器溜	深鉢	縄文中期						
185	37－20	42－19		土器溜	深鉢	縄文前期						
193	37－21			土器溜	深鉢	縄文中期						
181	37－22	42－20		土器溜	深鉢	縄文中期						
194	37－23			土器溜	深鉢	縄文中期						
172	37－26	43－1		土器溜	深鉢	縄文中期						
187	37－24	43－2		土器溜	深鉢	縄文中期						
182	37－27			土器溜	深鉢	縄文中期						
221	37－25	43－4			深鉢	縄文中期						

No.	図版No.	写真No.	出土地	層　位	器　種	時　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　　考
161	37－28	43－3		土器溜	深鉢	縄文中期						
159	37－29	43－6		土器溜	深鉢	縄文中期						
163	37－30	43－7		土器溜	深鉢	縄文中期						
166	37－31	43－8		土器溜	深鉢	縄文中期						
158	37－32	43－12		土器溜	深鉢	縄文中期						
208	37－33	43－10			深鉢	縄文中期						
207	37－34	43－11			深鉢	縄文中期						
209	38－1	43－5			深鉢	縄文中期						
192	38－2				深鉢	縄文中期						
164	38－3	43－9		土器溜	深鉢	縄文中期						
190	38－5			土器溜	深鉢	縄文中期						
191	38－6				深鉢	縄文						
220	38－4	43－13			深鉢	縄文						
183	38－7	43－14			深鉢	縄文						
216	38－8	43－15		土器溜	甕	平安						

表6　石器一覧表（1994）

単位：cm・g　　＊：破損品

登録No.	出土地点	層位	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　　地	実測図版	写真図版
1	G14		石匙	5.4	2.1	0.9	6.8	砂質粘板岩	北上山地古生界	38－32	44－24
4	RA102		石匙	4.7	1.8	0.8	5.1	チャート質粘板岩	北上山地古生界	8－7	32－14
5	RA102		石鏃	＊1.4	1.6	0.5	0.8	粘板岩	北上山地古生界	8－9	32－13
6	RA102		石鏃	2.6	1.5	0.4	1.1	粘板岩	北上山地古生界	8－8	32－12
25	RA101		石鏃	3.6	2.4	0.6	2.6	砂質粘板岩	北上山地古生界	6－11	31－11
27	RA105		石匙	＊3.6	2.1	0.6	5.6	砂質粘板岩	北上山地古生界	9－4	33－6
28	RA106		磨製石斧	＊4.3	1.3	0.7	8.3	極細粒緑色凝灰岩	北上山地古生界	11－10	34－14
30	A19		石鏃	＊1.9	1.6	0.4	1	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－14	44－6
31	A19		削掻器	6	2.6	0.6	12.3	泥灰質粘板岩	北上山地古生界	39－16	45－16
32	A19		削掻器	5.5	4.3	1	24.8	粘板岩	北上山地古生界	39－15	45－15
34	RE02		石匙	4	4.5	0.9	11.3	粘板岩	北上山地古生界	14－7	36－7
37	G14		磨石３側縁	12.5	7.4	6.4	582.9	緑色砂質凝灰岩	北上山地古生界	40－2	46－10
39	RA106		磨石２側縁	11.6	5	6.2	963.2	花崗閃緑岩	北上山地中生界	11－11	34－15
40	RA105		磨石１側縁	9.7	5.1	5.7	566.4	緑色凝灰岩	北上山地古生界	10－4	33－17
41	A18		磨石・凹石	10.9	8.9	4.9	716.5	花崗閃緑岩	北上山地中生界	40－5	46－13
42	A18		磨石・凹石	＊11.4	6	5.1	400	緑色凝灰岩	北上山地古生界	40－8	46－15
44	B06	Ⅳa	石槍	13.5	3	1.3	44.5	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－24	44－16
45	B20	Ⅳ	石槍	＊7.6	2.2	1.2	21.1	チャート質粘板岩	北上山地古生界	38－25	44－17
46	A11	Ⅲb	石槍	＊8.1	3.5	1.4	33.3	流紋岩	北上山地中生界	38－27	44－18
47	A9	Ⅲa	石槍	8.1	2.4	1.1	23.6	砂質粘板岩	北上山地古生界	38－26	44－20
48	H16	Ⅱa	石鏃	1.4	1.5	0.4	0.7	粘板岩	北上山地古生界	38－9	44－1
49	I12	Ⅲa	石鏃	1.7	1.3	0.2	0.4	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－10	44－2
50	J9	Ⅱa	石鏃	1.5	1.5	0.3	0.4	粘板岩	北上山地古生界	38－11	44－3
51	H15	Ⅲa	石鏃	2.2	1.6	0.4	1.2	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－12	44－4
52	A19	Ⅲ	石鏃	2.3	1.7	0.4	1	粘板岩	北上山地古生界	38－13	44－5
53	C6	Ⅲa	石鏃	2.1	＊1.5	0.5	1.1	粘板岩	北上山地古生界	38－16	44－8
54	RA512	埋土	石鏃	2	1.5	0.3	0.9	粘板岩	北上山地古生界	27－2	39－6
55	B19	攪乱	石鏃	2.3	1.5	0.4	1.5	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－22	44－14
56	A9	Ⅲa	石鏃	1.6	1.2	0.2	0.5	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－15	44－7
57	A9	Ⅲa	石鏃	2.7	2	0.5	1.9	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－20	44－12
58	A9	Ⅲa	石鏃	3.1	1.6	0.4	1.3	粘板岩	北上山地古生界	38－18	44－10
59	C6	Ⅲa	石鏃	4.2	2.1	0.6	4	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－19	44－11
60	C18	Ⅲa	石鏃	2.9	1.9	0.6	2.1	チャート質粘板岩	北上山地古生界	38－17	44－9
61	A19	攪乱	石鏃	2.8	2.1	0.4	1.6	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－21	44－13
62	E20	Ⅳ	石鏃	3.9	1.4	0.7	3.9	粘板岩	北上山地古生界	38－23	44－15
63	B6	Ⅱa	石錐	3.3	1.6	1	3.6	粘板岩	北上山地古生界	38－28	44－19
64	C6	Ⅲa	石匙	6.8	2.3	1.1	12	粘板岩	北上山地古生界	38－31	45－1
65	A9	Ⅲa	石匙	6.8	2	1	9.7	砂質粘板岩	北上山地古生界	38－30	44－22
66	C6	Ⅲa	石匙	7.8	1.8	0.7	10.6	粘板岩	北上山地古生界	38－29	44－21
67	RD23		石匙	5.1	2.3	0.5	6.9	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	33－6	41－12
68	B6	Ⅱa	石匙	5.2	2.2	0.5	8.4	粘板岩	北上山地古生界	38－33	44－23
69	C10	Ⅱa	石匙	5.3	3.2	0.9	12.4	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	39－3	45－3
70	A9	Ⅲa	石匙	5.8	3.2	0.8	14	砂質粘板岩	北上山地古生界	39－2	45－2
71	B17	Ⅱb	石匙	5.3	3.8	1.1	19.3	粘板岩	北上山地古生界	39－1	44－26
72	J16	Ⅱb	石匙	4	1.7	0.7	3.9	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	38－34	44－25
73	C5	Ⅲa	石匙	3.6	3.1	0.5	4.2	砂質粘板岩	北上山地古生界	39－4	45－4
75	B5	Ⅲa	石匙	3.8	3	0.5	7.1	粘板岩	北上山地古生界	39－5	45－5
76	H12	Ⅱa	石匙	3.5	4.6	0.8	9.3	砂質粘板岩	北上山地古生界	39－6	45－7
77	I9	Ⅲa	石匙	2.8	4.5	0.7	6.1	粘板岩	北上山地古生界	39－10	45－11
78	J11	Ⅲa	石匙	2.5	3.3	0.6	5.4	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	39－8	45－9
79	A7	Ⅲa	石匙	3.5	4.7	0.8	11.8	粘板岩	北上山地古生界	39－9	45－8
80	A10	Ⅲa	石匙	4.1	4.5	0.5	10.3	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	39－7	45－6
81	B5	Ⅲa	石匙	3.1	4.6	0.8	6.3	凝灰質粘板岩	北上山地古生界	39－11	45－10

登録No.	出土地点	層位	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　　地	実測図版	写真図版
82	C6	Ⅲa	石匙	3.3	5.4	1	8.8	砂質粘板岩	北上山地古生界	39－12	45－13
83	C6	Ⅲa	石匙	2.6	4.5	0.7	5.5	粘板岩	北上山地古生界	39－13	45－12
84	A9	Ⅲa	削掻器	3	5.1	1	14.8	粘板岩	北上山地古生界	39－14	45－14
85	J11	Ⅲ上	磨製石斧	＊8.3	3.5	2	＊100	極細粒緑色凝灰岩	北上山地古生界	39－17	46－2
86	I12	Ⅱa	磨製石斧	＊13.7	6.2	3.3	＊389.9	粘板岩	北上山地古生界	39－20	46－1
87	B5	Ⅲ	磨製石斧	＊7	＊3.5	1.1	＊45.8	粘板岩	北上山地古生界	39－21	46－3
88	B4	Ⅲa	磨製石斧	4.7	3.5	1.2	＊43.9	極細粒緑色凝灰岩	北上山地古生界	39－18	46－5
89	C5	Ⅱa	磨製石斧	3.3	2	0.7	8	極細粒緑色凝灰岩	北上山地古生界	39－19	46－4
93	C18	Ⅳ	磨石１側縁	13.2	4.9	7	794.3	デイサイト	北上山地中生界	39－24	46－8
94	A6	Ⅲa	磨石	10	3.8	4.5	269.2	閃緑岩	北上山地中生界	40－1	46－9
95	D5	Ⅱa	凹石	14.8	6.9	5.8	1056.5	花崗閃緑岩	北上山地中生界	40－7	46－14
96	B9	Ⅲa	磨石	11.5	5	6.2	583.5	閃緑岩	北上山地中生界	39－22	46－6
97	J9	Ⅲa	凹石・磨石	13.4	5.7	3.6	396.8	閃緑岩	北上山地中生界	40－6	46－16
98	B9	Ⅲa	磨石３側縁	＊9.8	6.5	5.3	482.3	緑色砂質凝灰岩	北上山地古生界	40－3	46－11
99	J20	Ⅲ～	凹石	16	4.6	5.9	403.4	安山岩	北上山地中生界	39－23	46－7
100	B9	Ⅲa	凹石	10.5	7.8	5.2	705.1	緑色凝灰岩	北上山地中生界	40－4	46－12
102	RA501		砥石	＊18	7.7	4.6	878.4	流紋岩	北上山地中生界	16－12	37－3
103	RA504		砥石	13.8	＊7.9	3.3	516.6	流紋岩	北上山地中生界	20－5	38－2

表7　鉄製品一覧表

単位：cm・g

No.	図　　版	写真図版	器　　種	出 土 地	層地	長　さ	幅	厚　さ	重　量	備　　考
1	22－9	38－11	鑿状	RA506		13.4	1	1.1	53.7	
2	27－1	39－7		RA510		12.9	0.8	0.5	10.4	
3	30－9	40－22	刀子状	RD08		6.1	15.2	0.5	30	
4A	30－10	40－20	鉄鏃状	RD08		4.3	0.8	0.6	8.9	
4B	30－11	40－21	鉄鏃状	RD08		2.9	0.9	0.7		
5	40－9	46－17	釘状	遺構外		17.3	1	0.7	37.5	

写　真　図　版

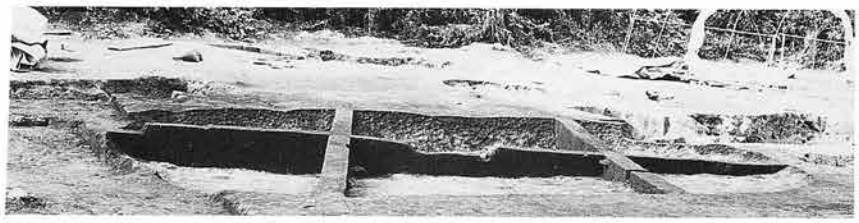
遺跡遠景（中央付近）

遺　跡　俯　瞰

発　掘　区　全　景

写真図版１　遺跡全景

RA101住居跡　全景



RA101　埋土断面

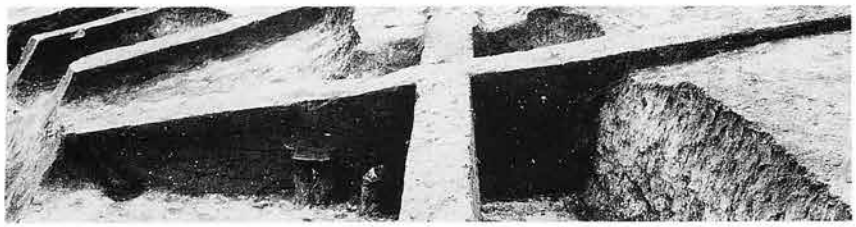
RA101　埋土断面

RA101　埋土断面

写真図版２　RA101住居跡

RA102住居跡全景

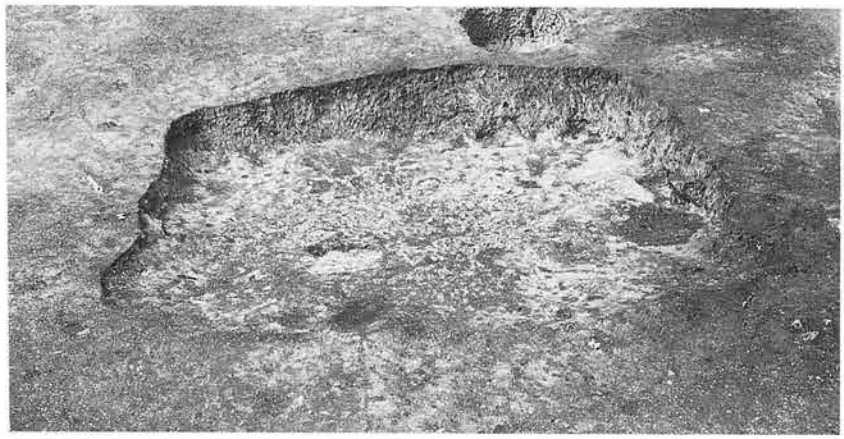
RA102埋土断面



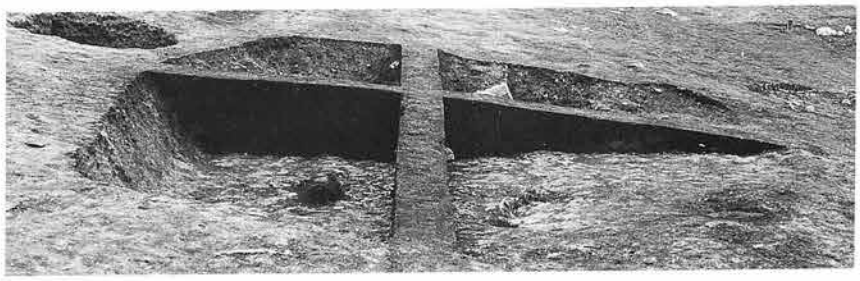
RA102埋土断面

RA102遺物出土状況

写真図版 3　RA102住居跡

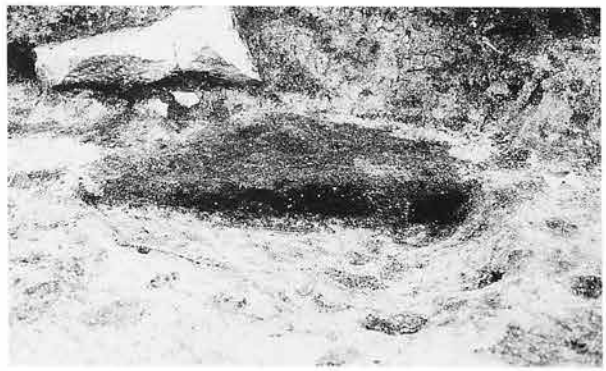


RA103住居跡全景



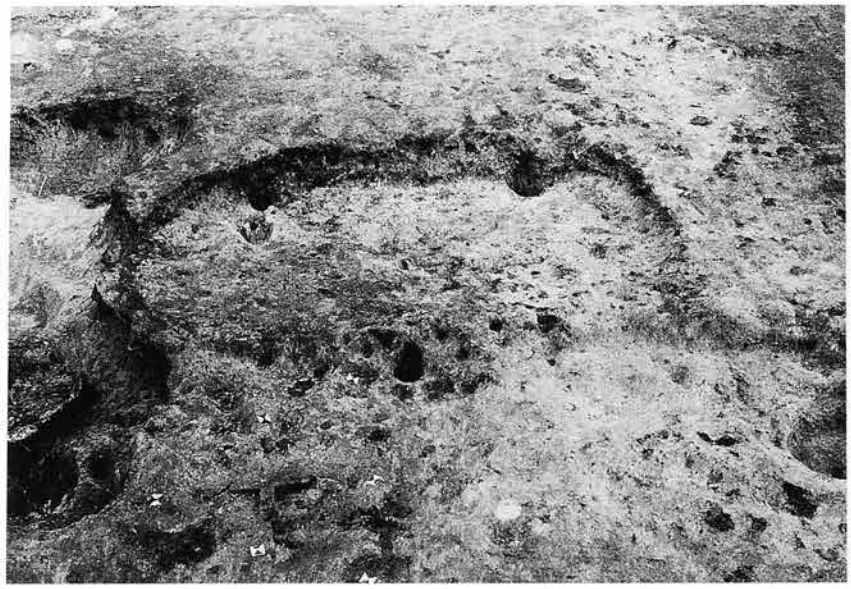
RA103埋土断面

RA103埋土断面

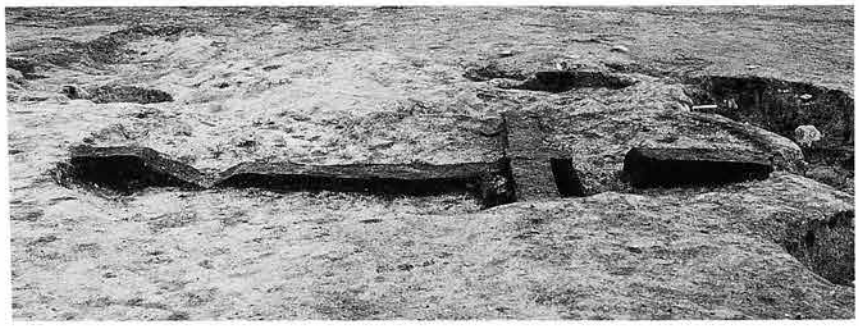


RA103内土坑埋土断面

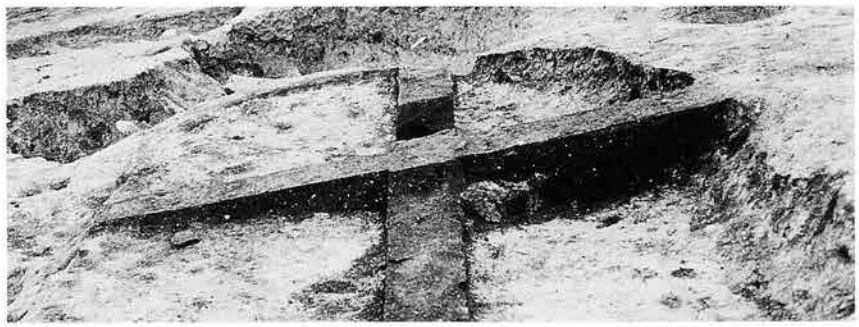
写真図版４　RA103住居跡



RA104住居跡全景



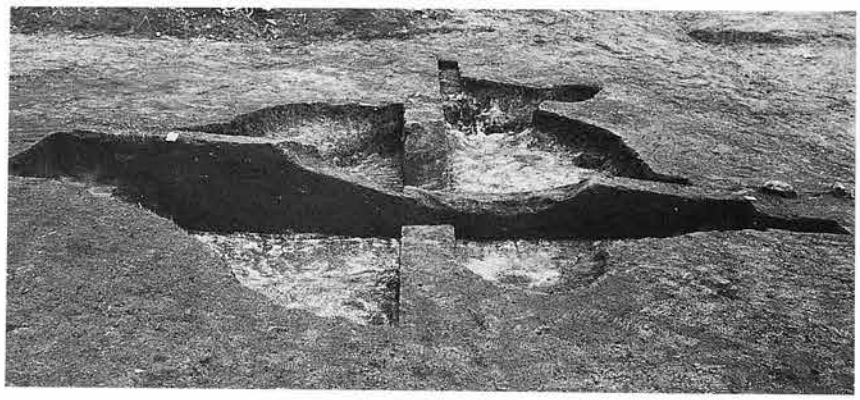
RA104埋土断面



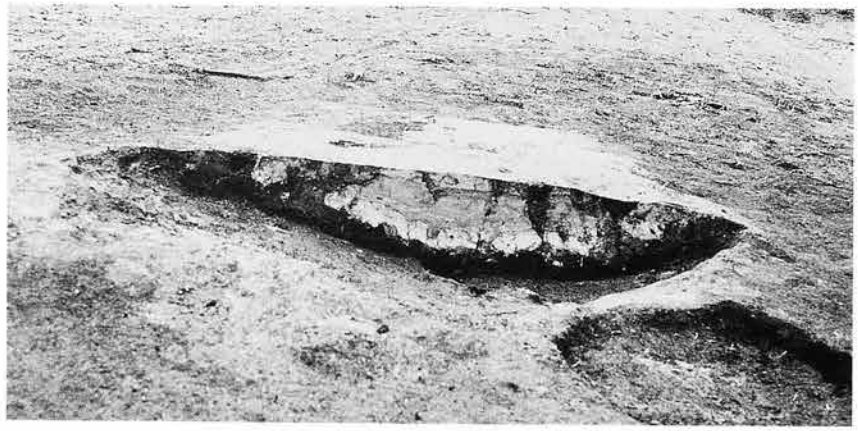
RA104埋土断面

写真図版5　RA104住居跡

RA105住居跡全景

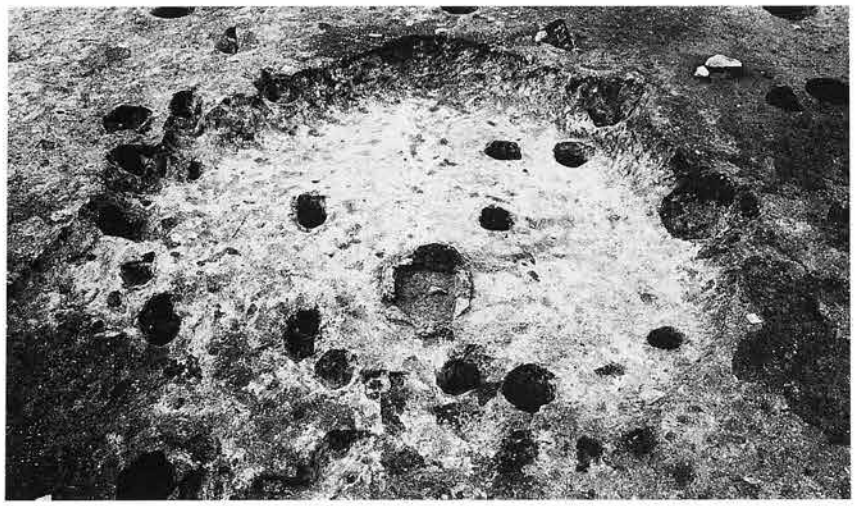


RA105埋土断面



RA105埋土断面

写真図版 6　RA105住居跡

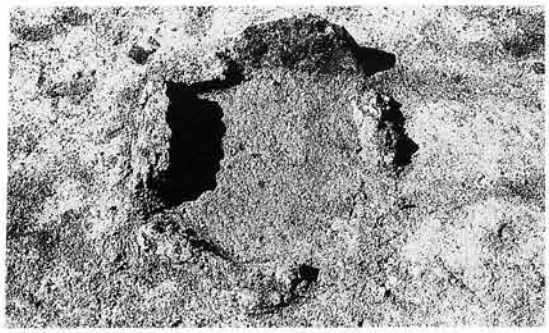


RA106住居跡全景

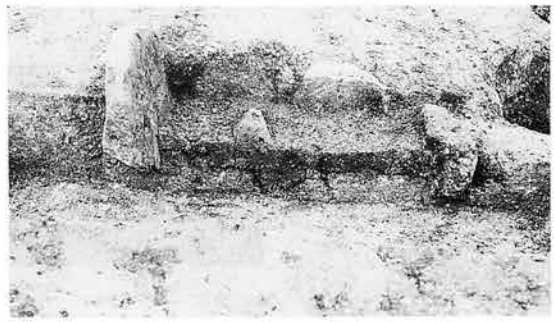
RA106遺物出土状況

RA106埋土断面

RA106埋土断面



RA106炉平面



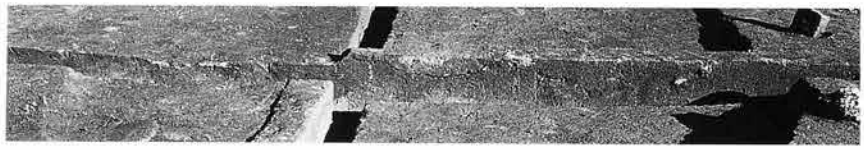
RA106炉断面

写真図版7　RA106住居跡

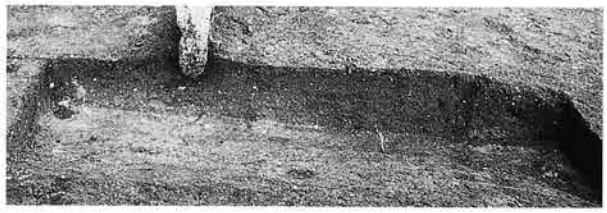
RA107住居跡全景

RA107住居跡埋土断面

RA108住居跡全景



RA108埋土断面



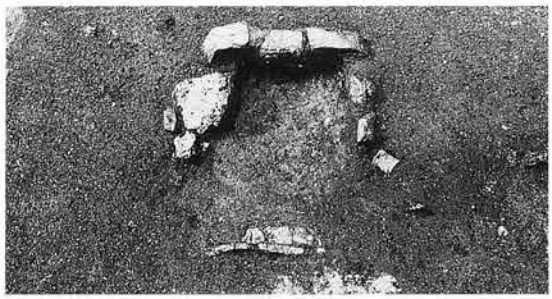
RA108炉断面

写真図版8　RA107・108住居跡

RA109住居跡全景

RA109遺物出土状況

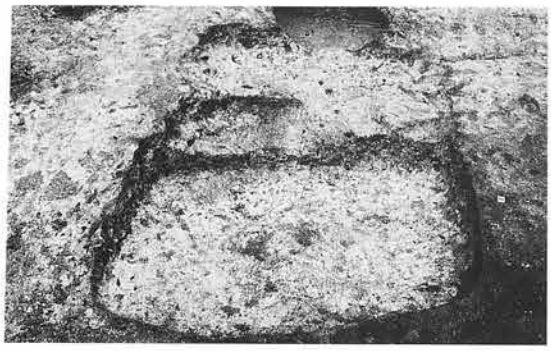
RA109埋土断面



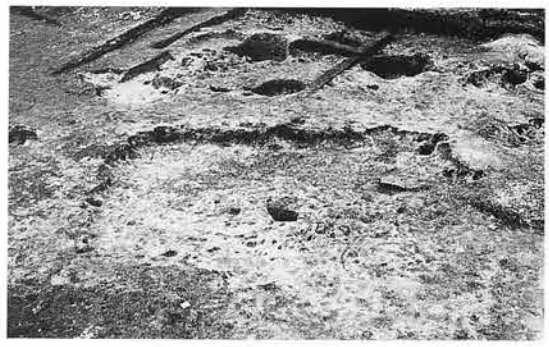
RA109炉平面

RA109炉断面

写真図版 9　RA109住居跡



RE01竪穴状遺構全景



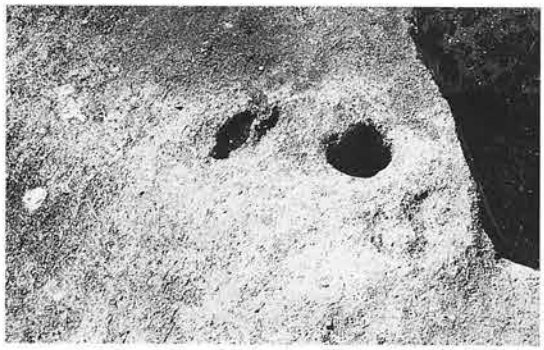
RE02竪穴状遺構全景

RE01埋土断面

RE02埋土断面

RE01埋土断面

RE02埋土断面



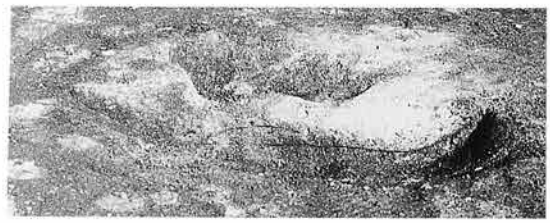
RF01焼土遺構平面

RF02焼土遺構平面

RF01断面

RF02断面

RF03焼土遺構平面



RF03断面

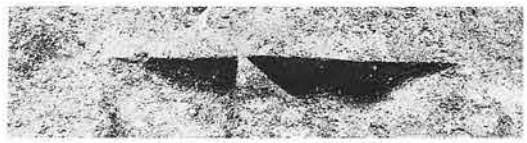
写真図版10　RE01・02竪穴状遺構、RF01～03焼土遺構

RA501住居跡全景 1

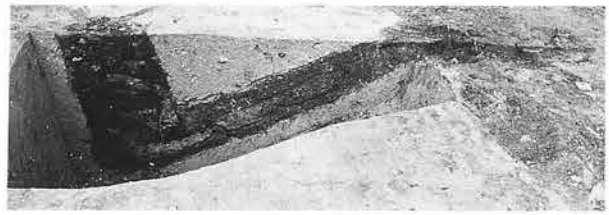
RA501住居跡全景 2

RA501埋土断面

RA501カマド前土坑断面

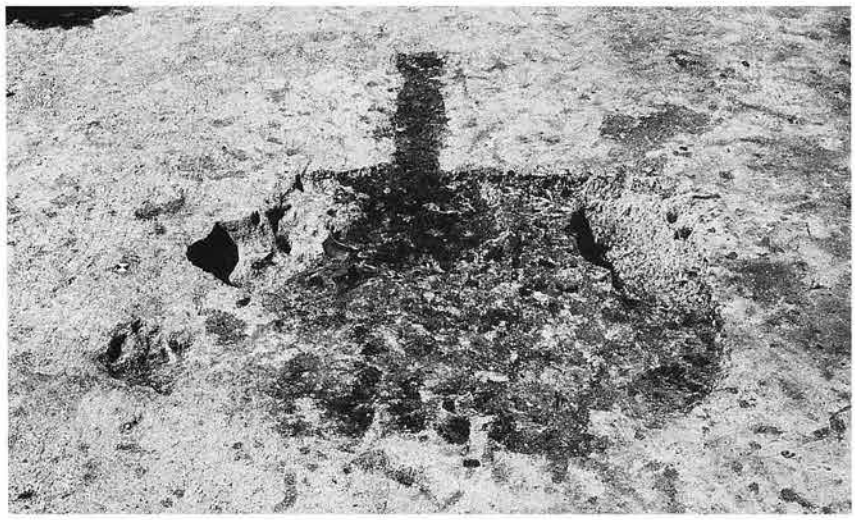


RA501カマド前土坑断面

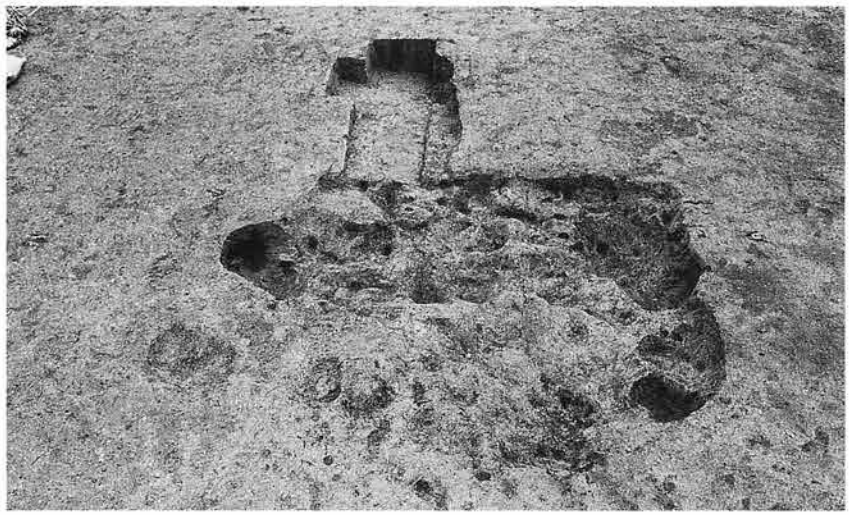


RA501煙道断面

写真図版11　RA501住居跡



RA502住居跡全景 1



RA502住居跡全景 2

RA502埋土断面

RA502煙道断面

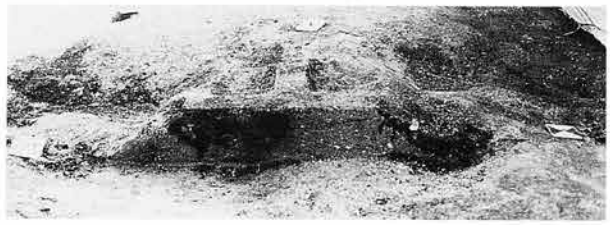
RA502カマド前土坑断面

写真図版12　RA502住居跡

RA503住居跡全景

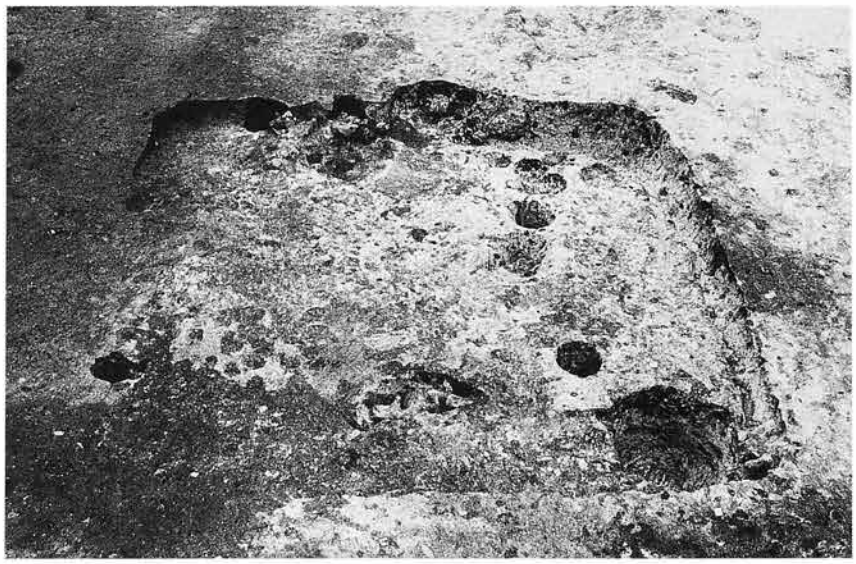
RA503カマド煙道断面

RA505住居跡全景



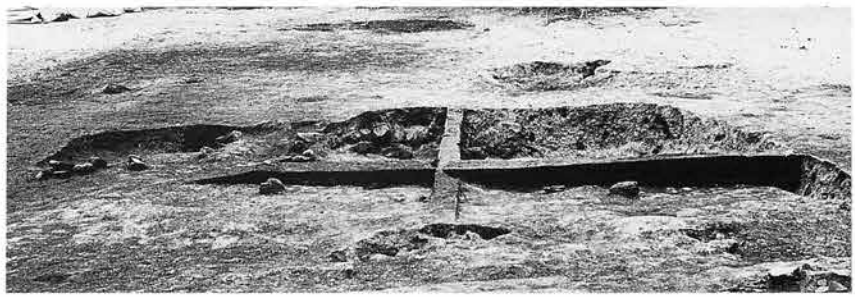
RA505カマド断面

写真図版13　RA503・505住居跡



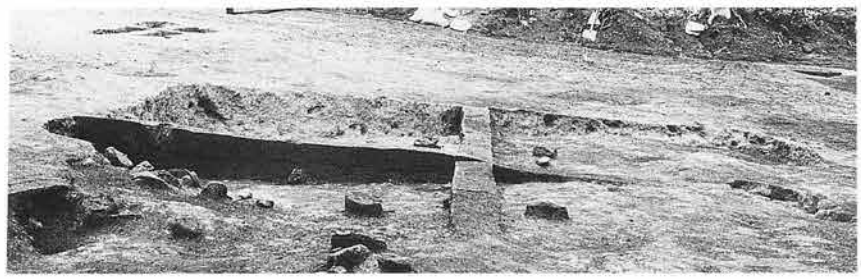
RA504住居跡全景 1

RA504住居跡全景 2



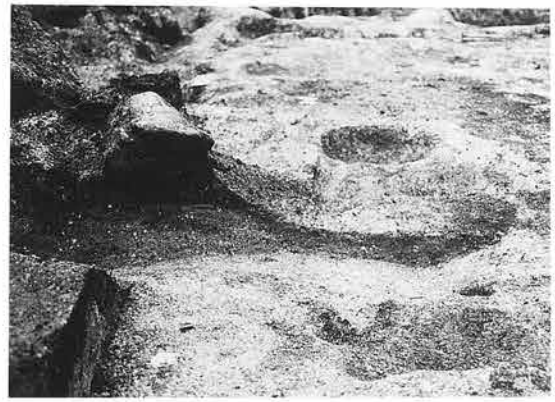
RA504埋土断面

写真図版14　RA504住居跡（1）



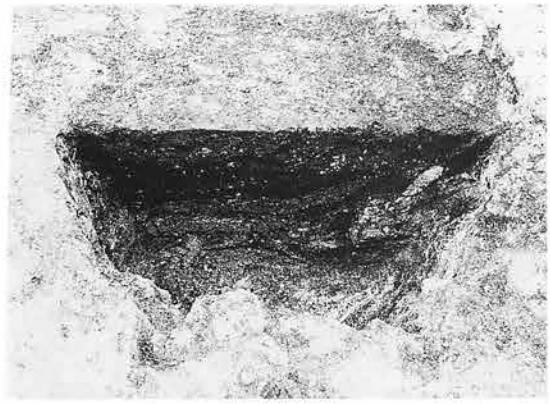
RA504埋土断面

RA504カマド平面



RA504カマド断面

RA504煙道断面



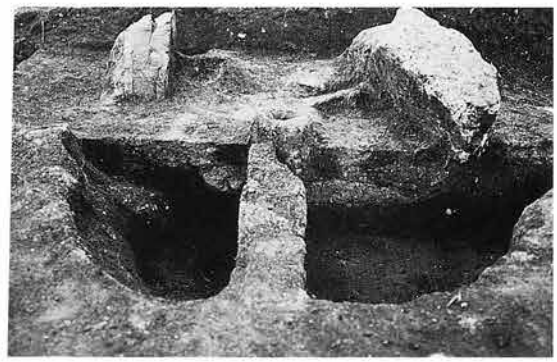
RA504内土坑断面

写真図版15　RA504住居跡（2）

RA506住居跡全景

RA506埋土断面

RA506カマド平面



RA506カマド断面

RA506煙道断面

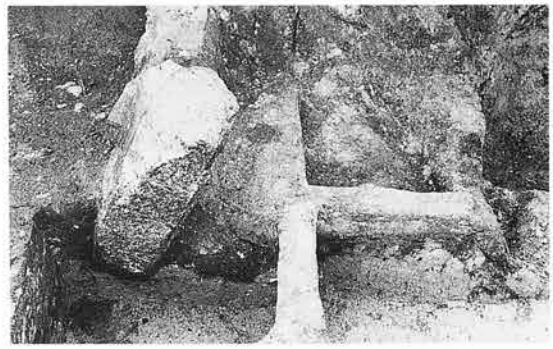
写真図版16　RA506住居跡

RA507住居跡全景

RA507埋土断面

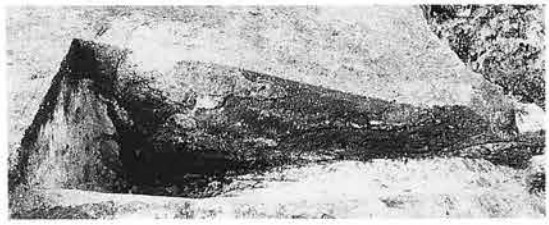
RA507埋土断面

RA507カマド平面



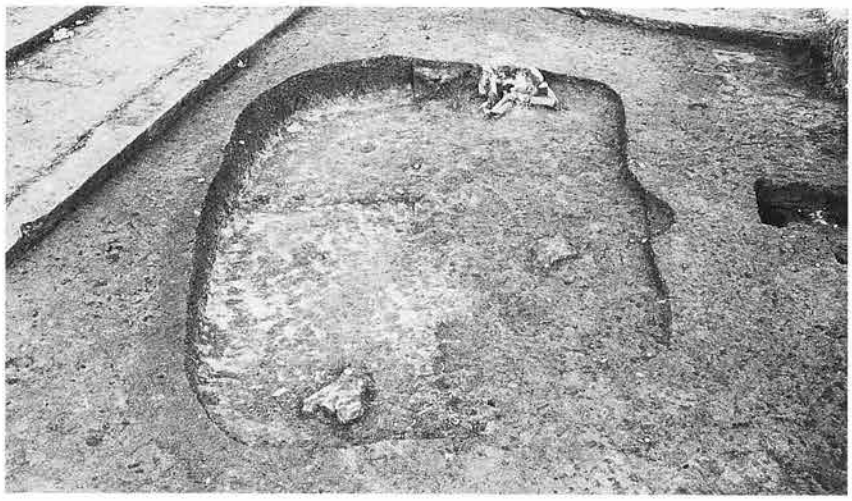
RA507カマド断面

RA507内土坑断面

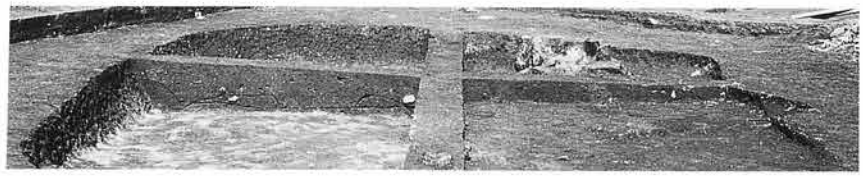


RA507煙道断面

写真図版17　RA507住居跡



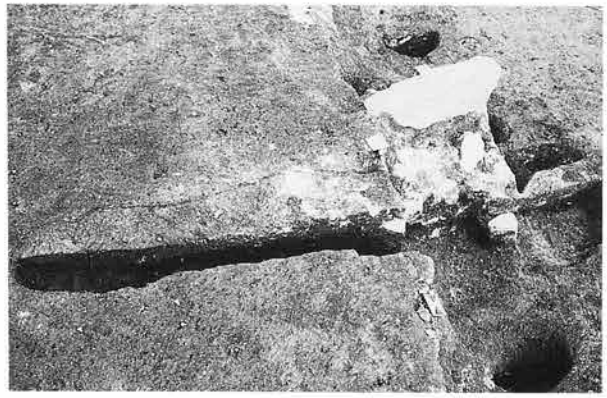
RA508住居跡全景



RA508埋土断面

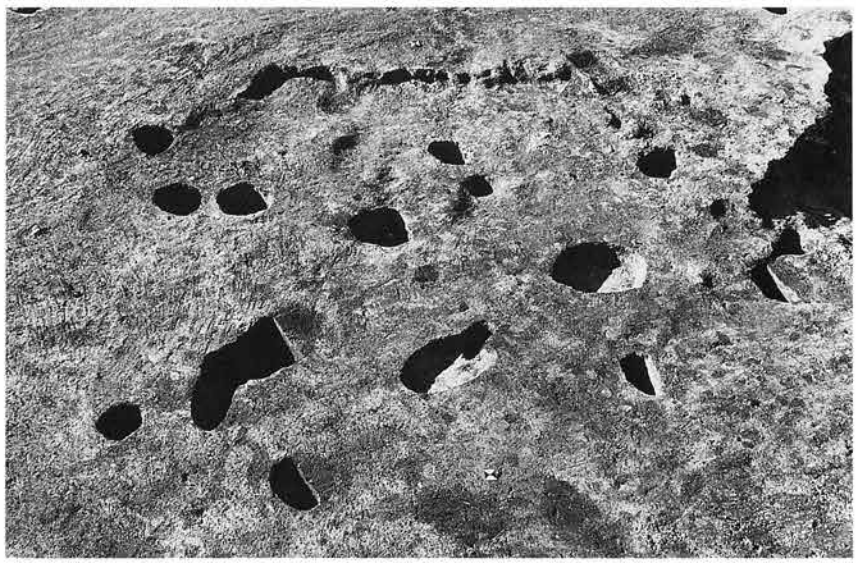
RA508カマド平面

RA508カマド断面

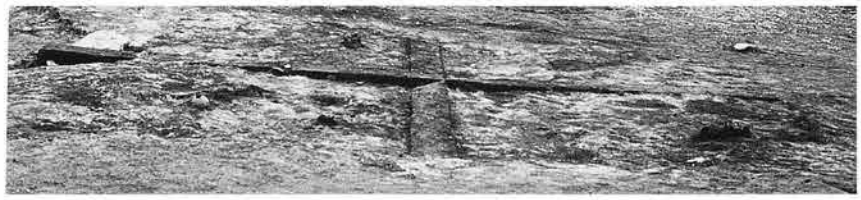


RA508煙道断面

写真図版18　RA508住居跡

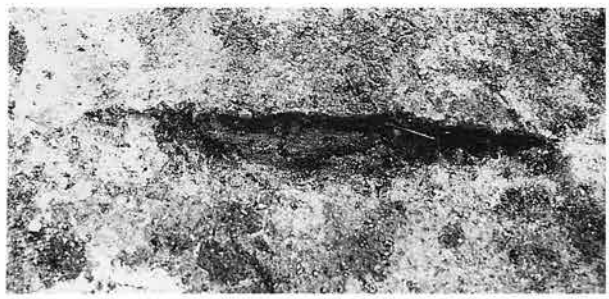


RA509住居跡全景



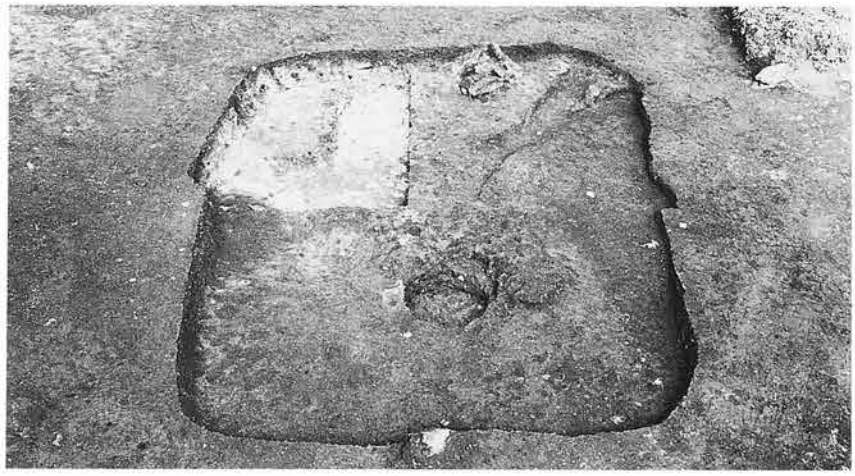
RA509埋土断面

RA509埋土断面



RA509炉断面

写真図版19　RA509住居跡

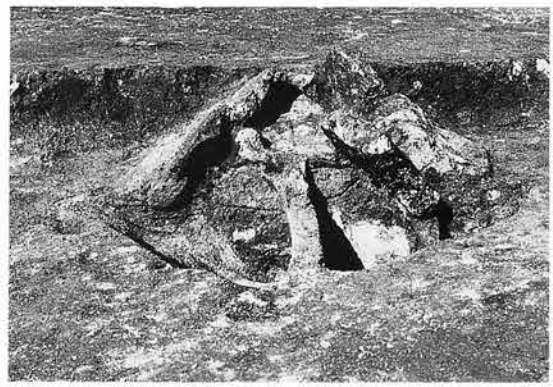


RA510住居跡全景

RA510埋土断面

RA510埋土断面

RA510カマド平面

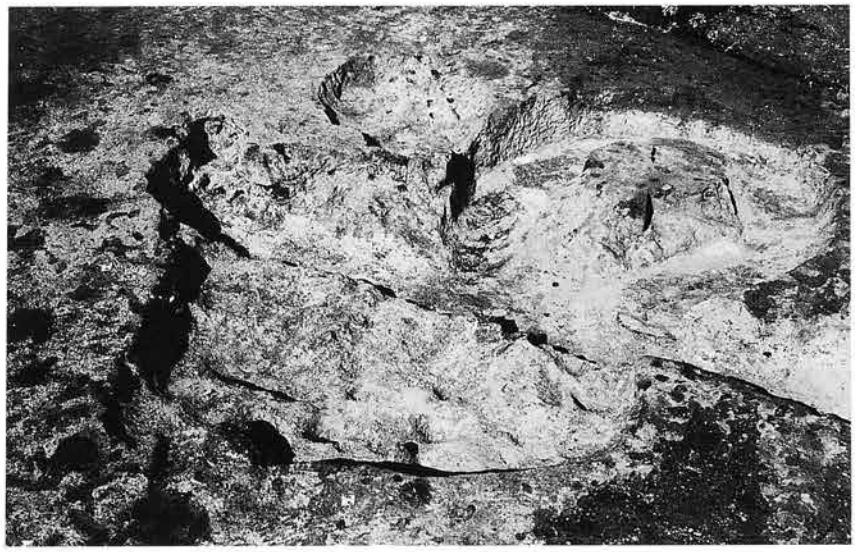


RA510カマド断面

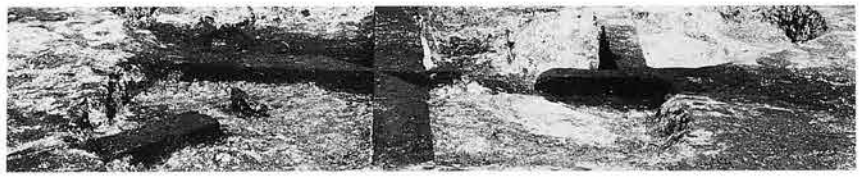
RA510煙道断面

写真図版20　RA510住居跡

RA511住居跡全景



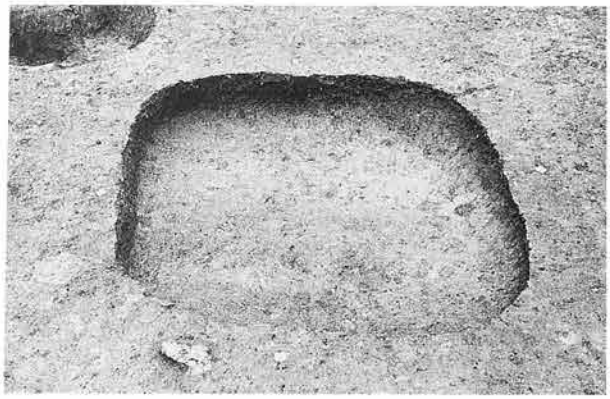
RA512住居跡全景



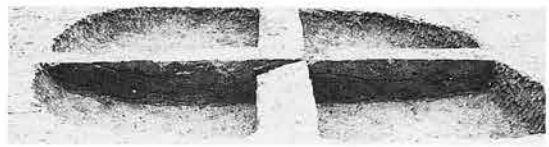
RA512埋土断面

RA512埋土断面

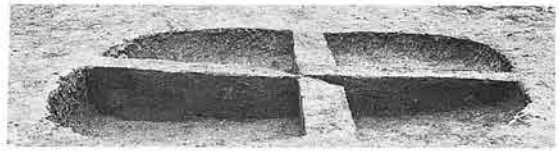
写真図版21　RA511・512住居跡



RE03竪穴状遺構全景



RE03埋土断面



RE03埋土断面

RD01・02土坑全景

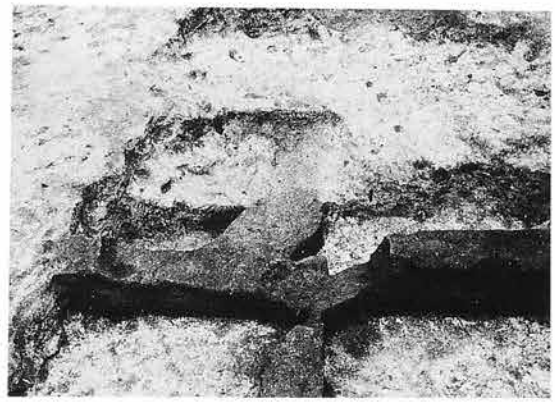
RD01断面

RD03土坑全景

RD03断面

RD04土坑全景

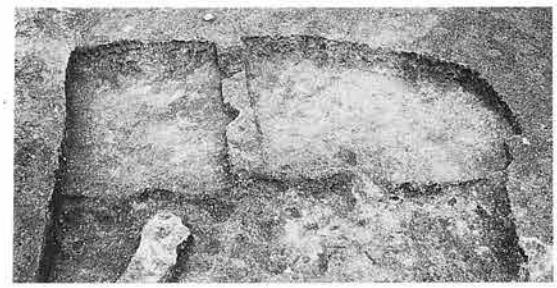
RD04断面



RD05土坑全景

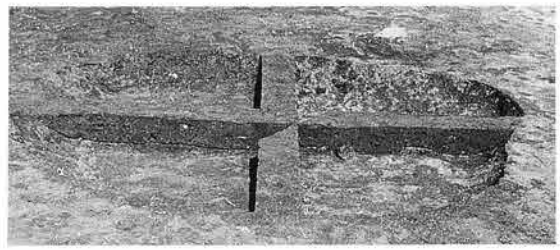
写真図版22　RE03竪穴状遺構、RD01～05土坑

RD06土坑全景



RD07土坑全景

RD08土坑全景



RD08断面

RF04焼土遺構全景

RF05焼土遺構全景

RF04断面

RF05断面

RW01鍛冶遺構全景

RW01断面

写真図版23　RD06～08土坑、RF04・05焼土遺構、RW01鍛冶遺構

RE04竪穴状遺構全景

RD09土坑全景

RE04埋土断面

RD09断面

RD10土坑全景

RD011土坑全景

RD10断面

RD11断面

RD12土坑全景

RD13土坑全景

RD13断面

写真図版24　RE04竪穴状遺構、RD09～13土坑

RD14土坑全景

RD15・16土坑全景

RD14・17断面

RD15・16断面

RD17土坑全景

RD18土坑全景

RD17・18断面

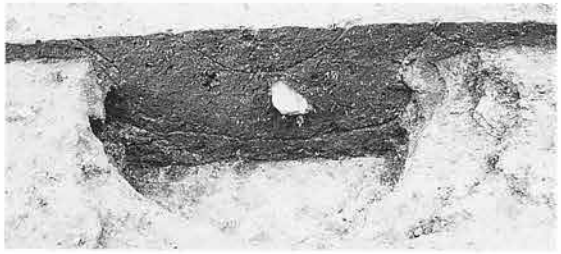
RD19土坑全景

RD20土坑全景

RD19断面

RD20断面

写真図版25　RD14～20土坑

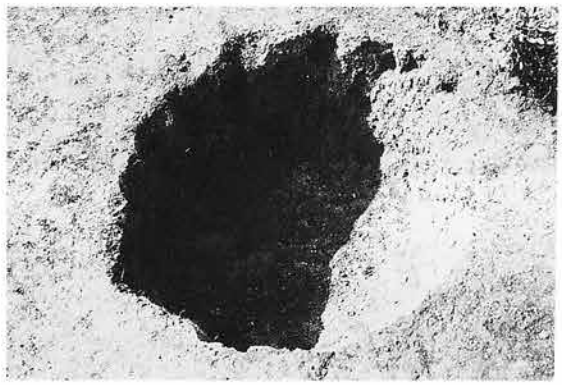


RD21土坑断面

RD25土坑断面

RD27土坑全景

RD27断面

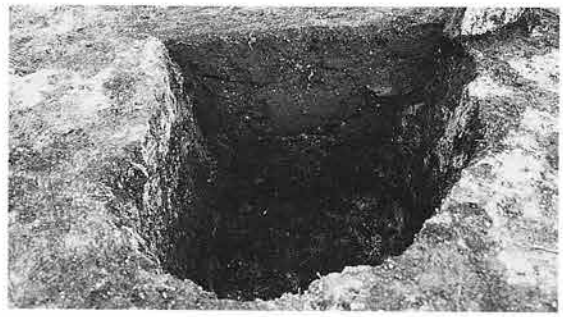


RD29土坑全景

RD29断面

RD22・23土坑全景

RD22・23断面



RD26土坑断面

RD28土坑全景

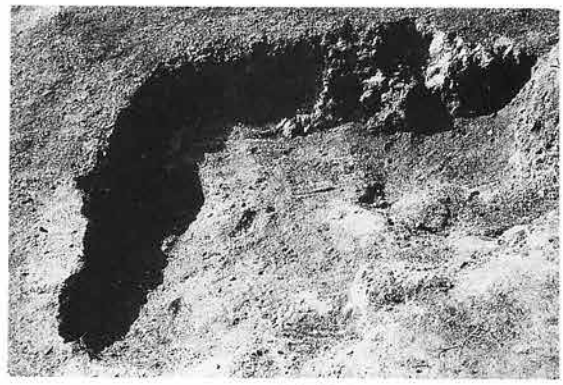
RD28断面

写真図版26　RD21～23・25～29土坑

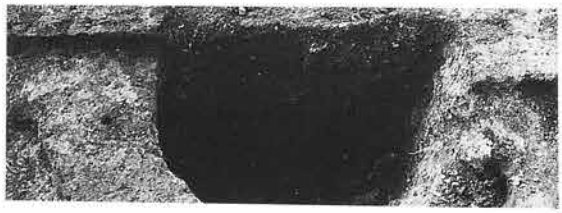
RD30土坑全景

RD31土坑全景

RD32土坑全景

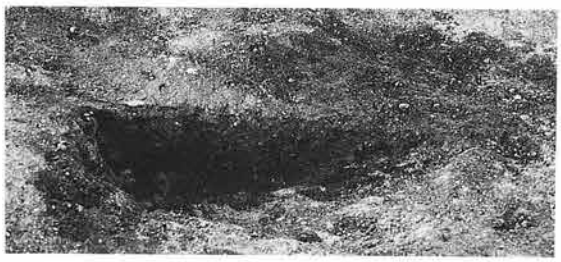


RD33土坑全景



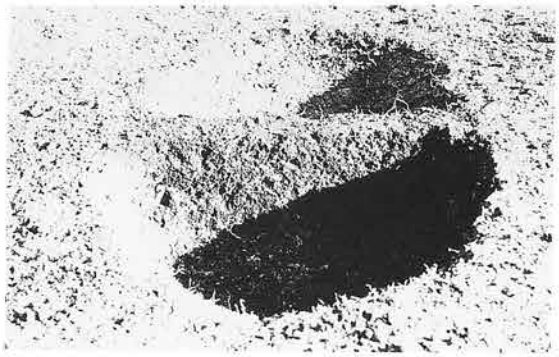
RD32断面

RD33断面



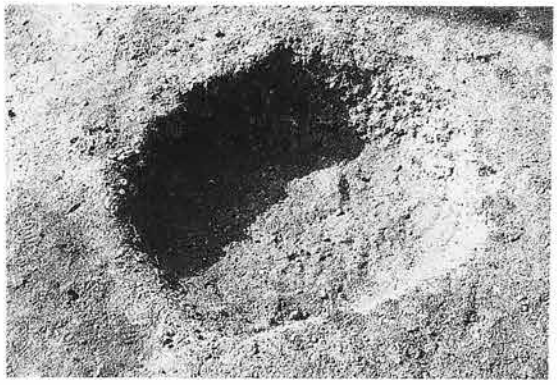
RD34土坑断面

RD35土坑断面

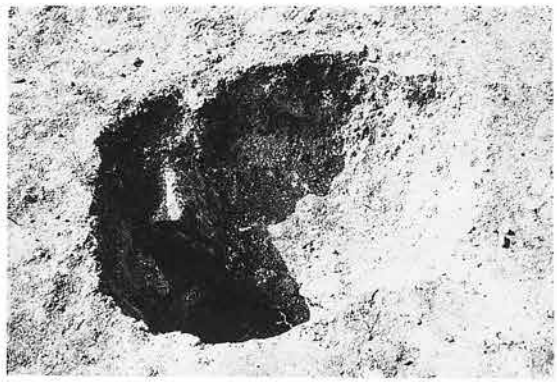


RD36土坑断面

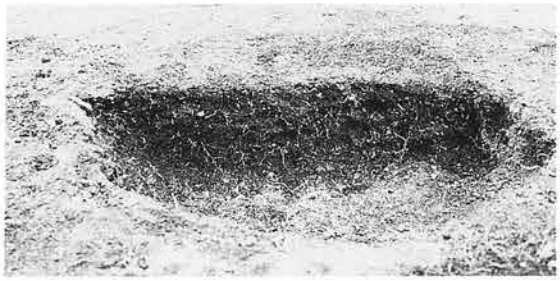
写真図版27　RD30～36土坑



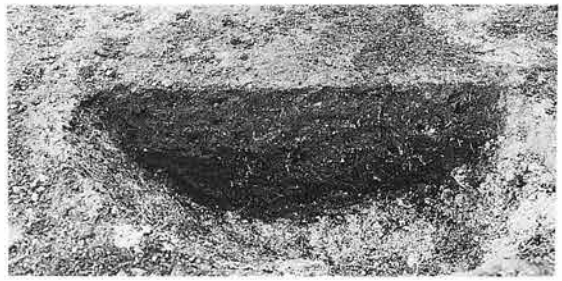
RD37土坑全景



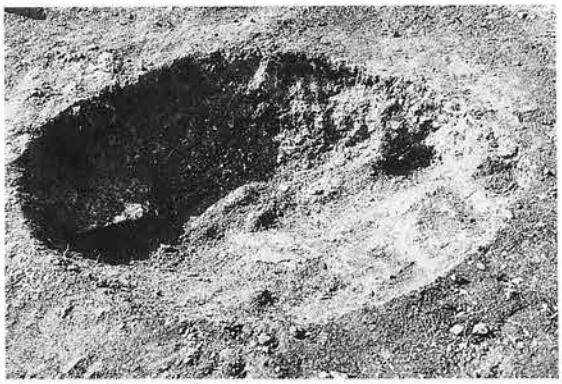
RD38土坑全景



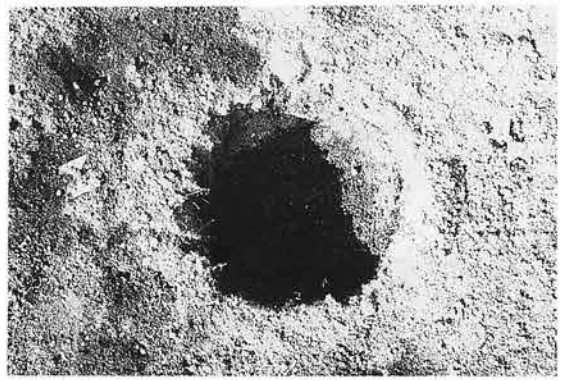
RD37断面



RD38断面



RD39土坑全景

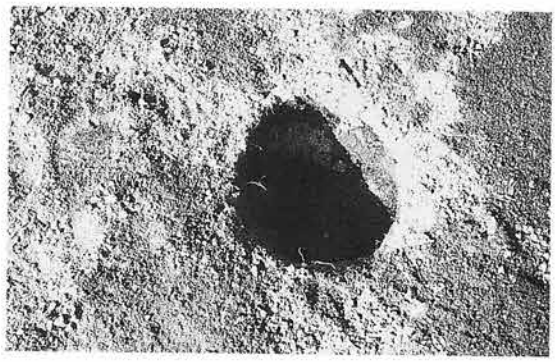


RD40土坑全景

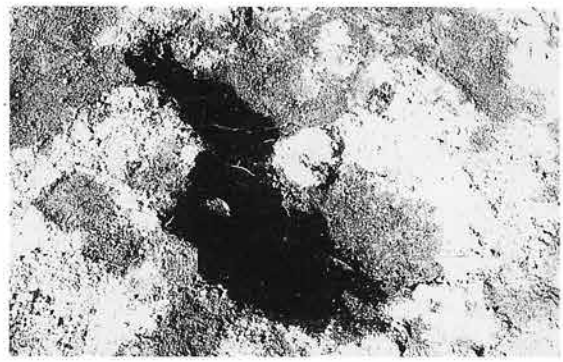
RD39断面

RD40断面

写真図版28　RD37～40土坑



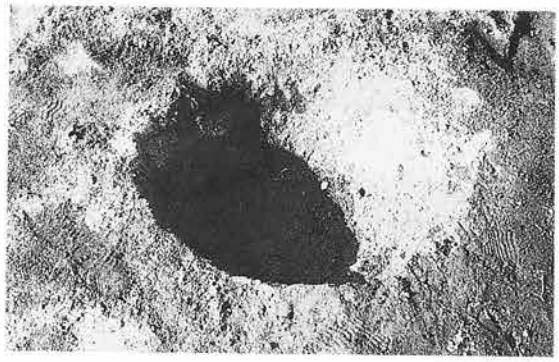
RD41土坑全景



RD42土坑全景

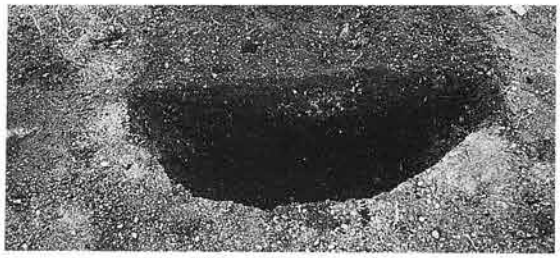
RD41断面

RD42断面



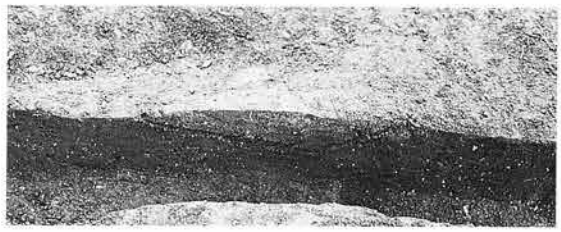
RD43土坑全景

RD44土坑全景



RD43断面

RD44断面



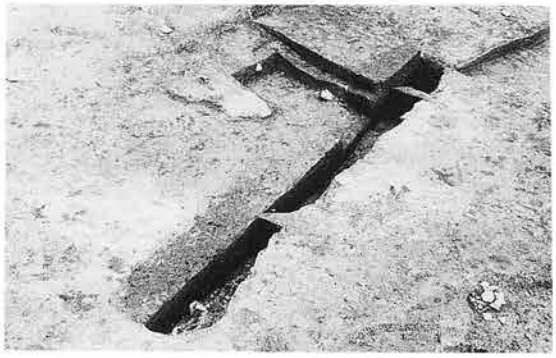
RF06焼土遺構断面

RF07焼土遺構全景

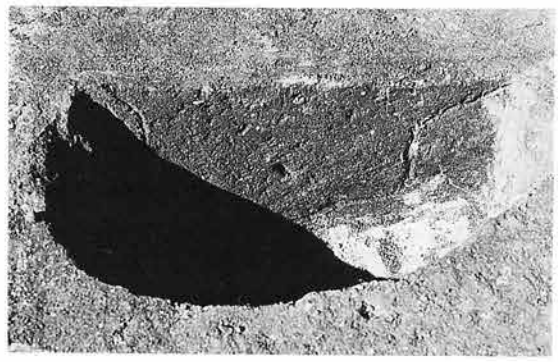
写真図版29　RD41～44土坑、RF06・07焼土遺構

RG01溝跡全景

RG02溝跡全景

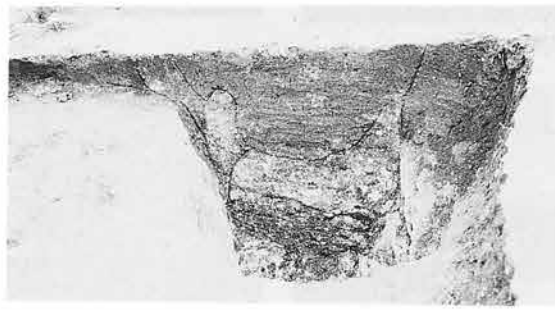


RG01断面



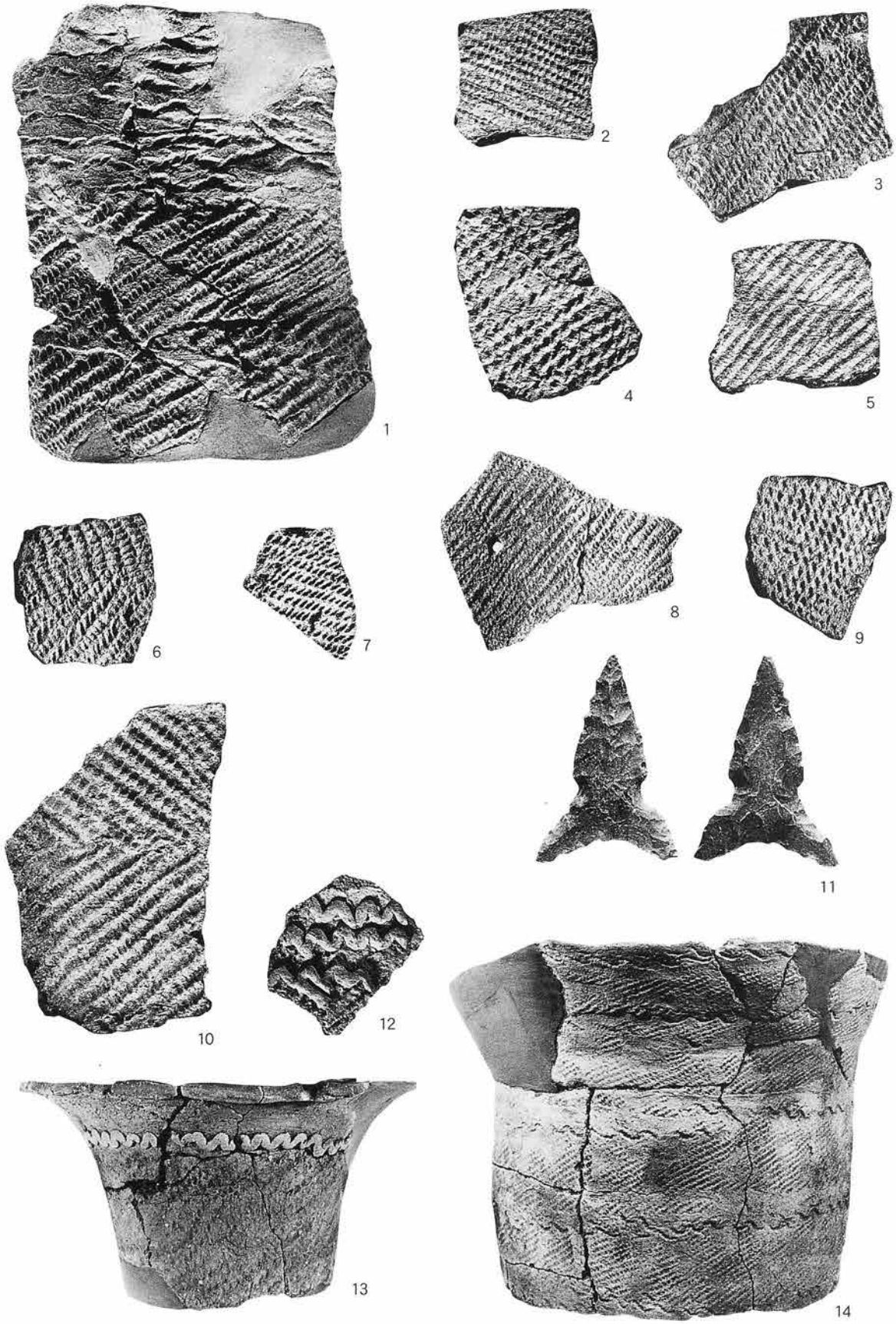
RG01断面

RT01墓壙全景

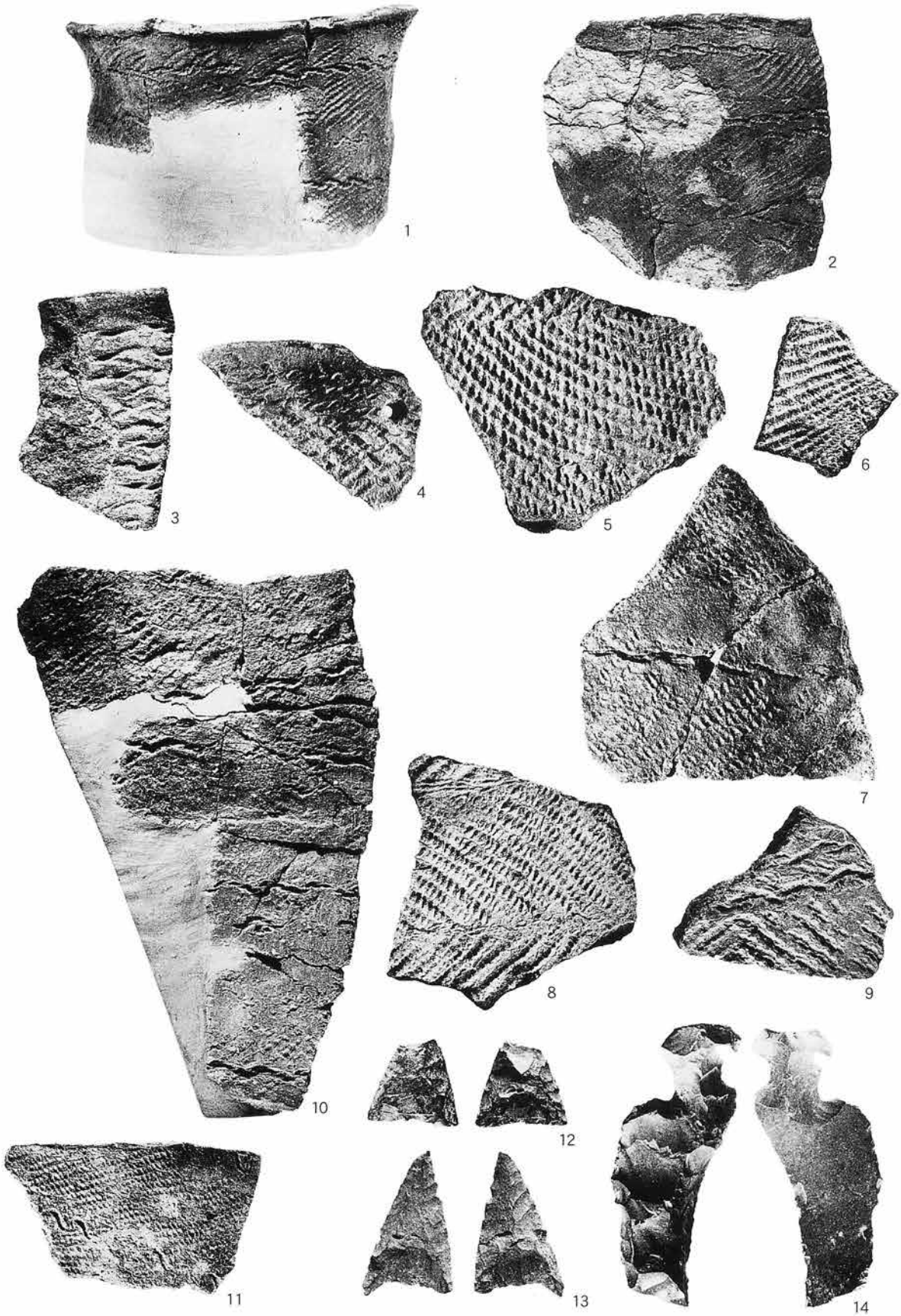


RT01断面

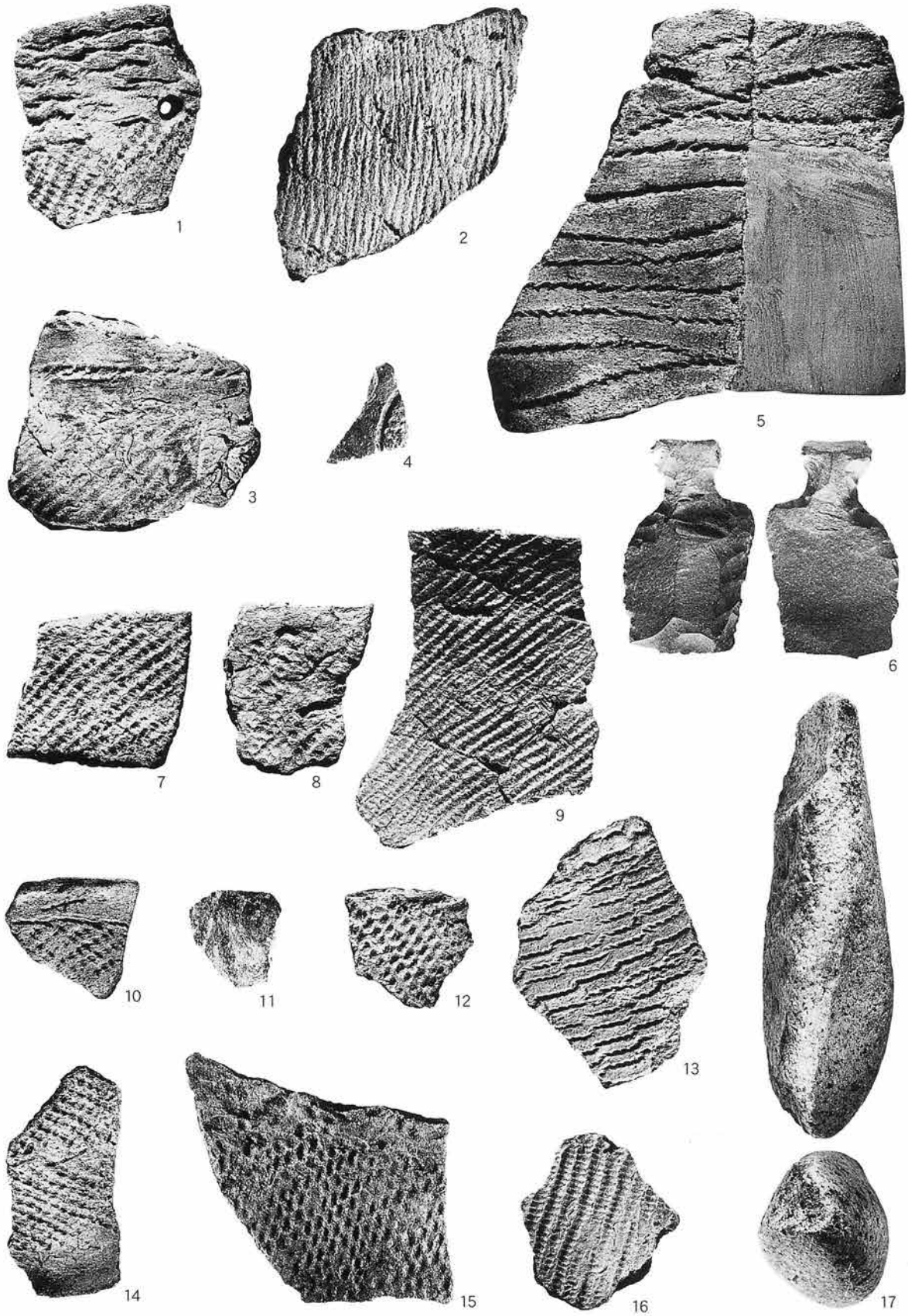
写真図版30　RG01・02溝跡、RT01墓壙



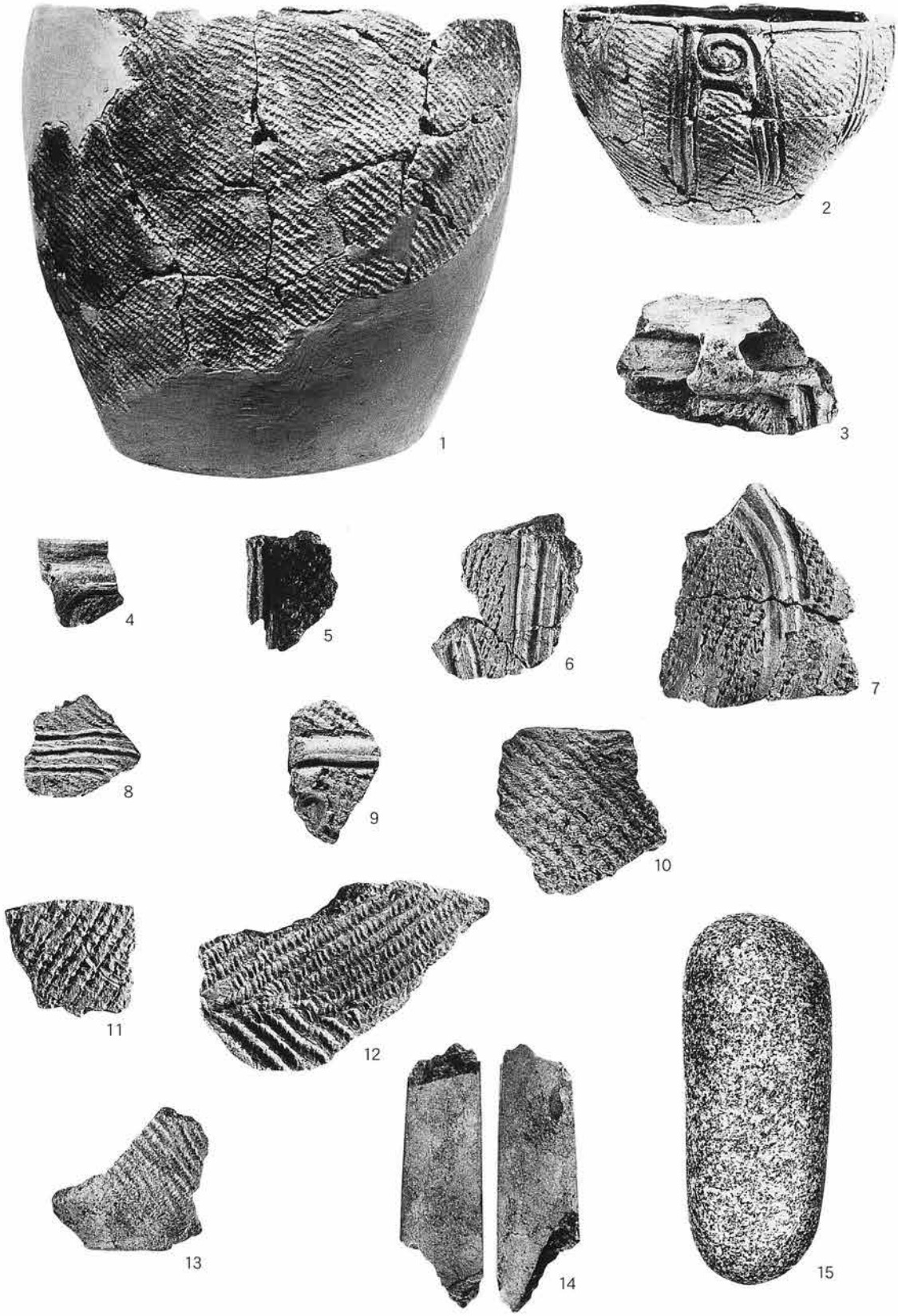
写真図版31　（1～11：RA101住居跡、12～14：RA102住居跡）



写真図版32　（RA102住居跡）

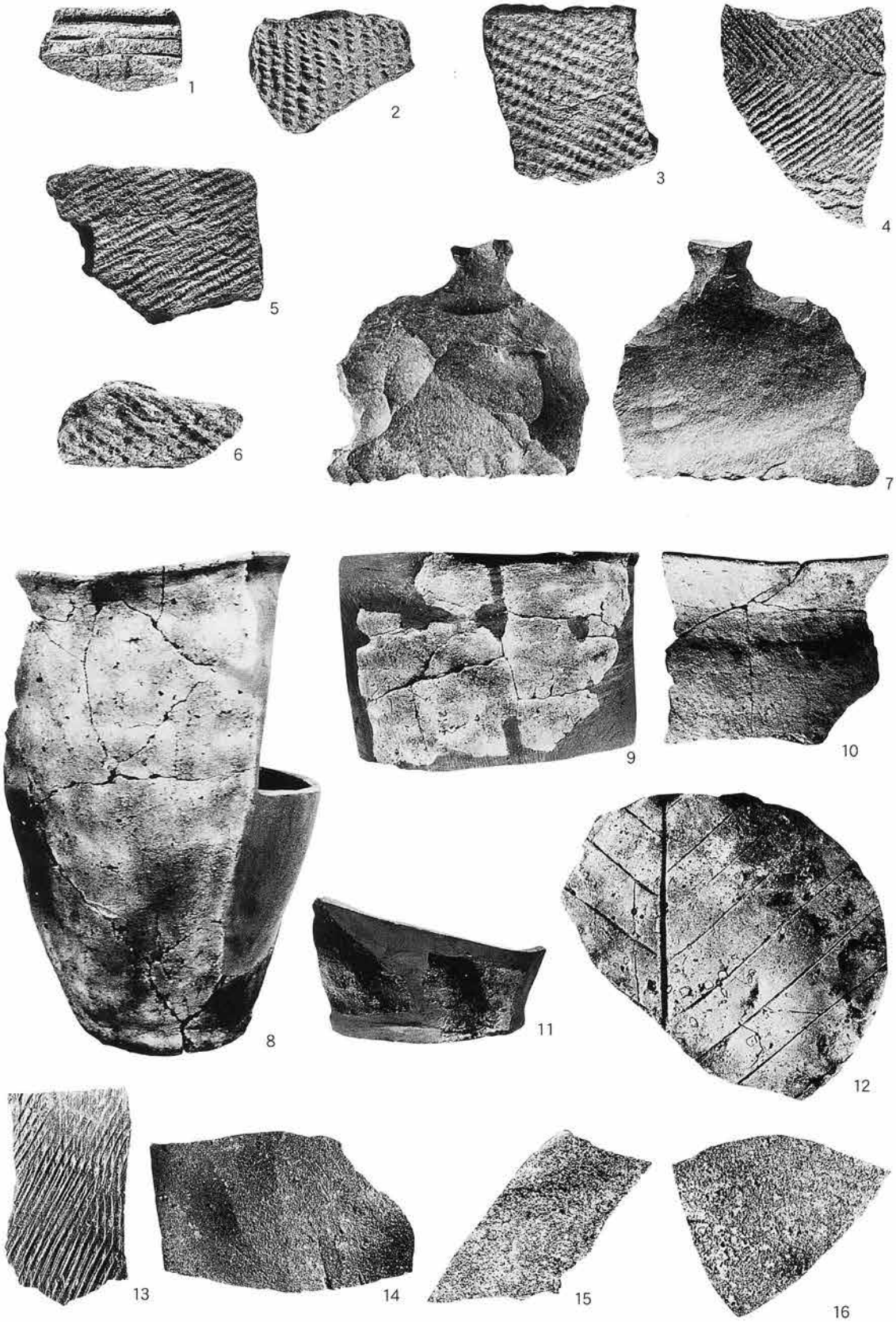


写真図版33　（1～5：RA103住居跡、6～17：RA105住居跡）

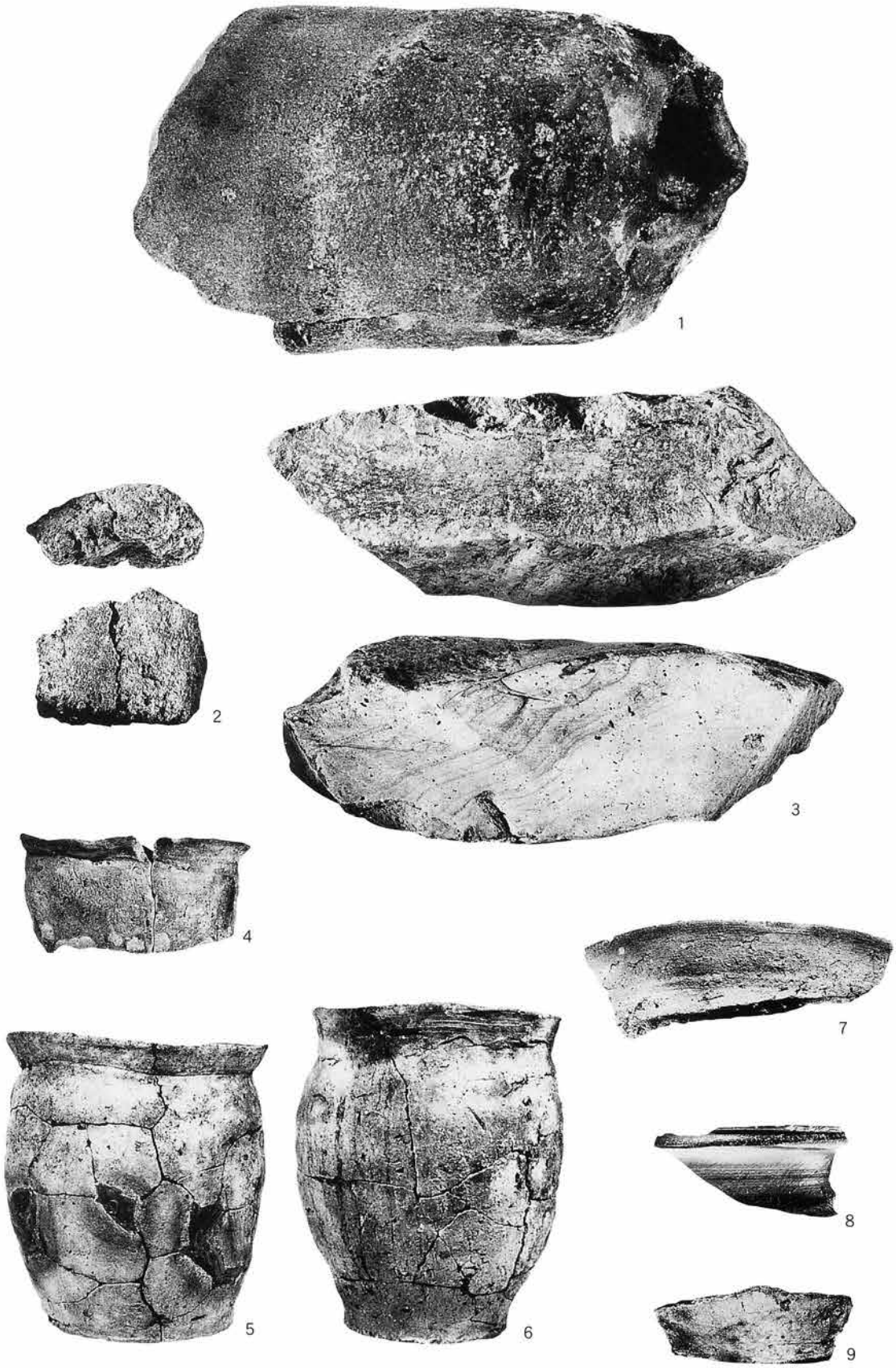


写真図版34　（RA106住居跡）

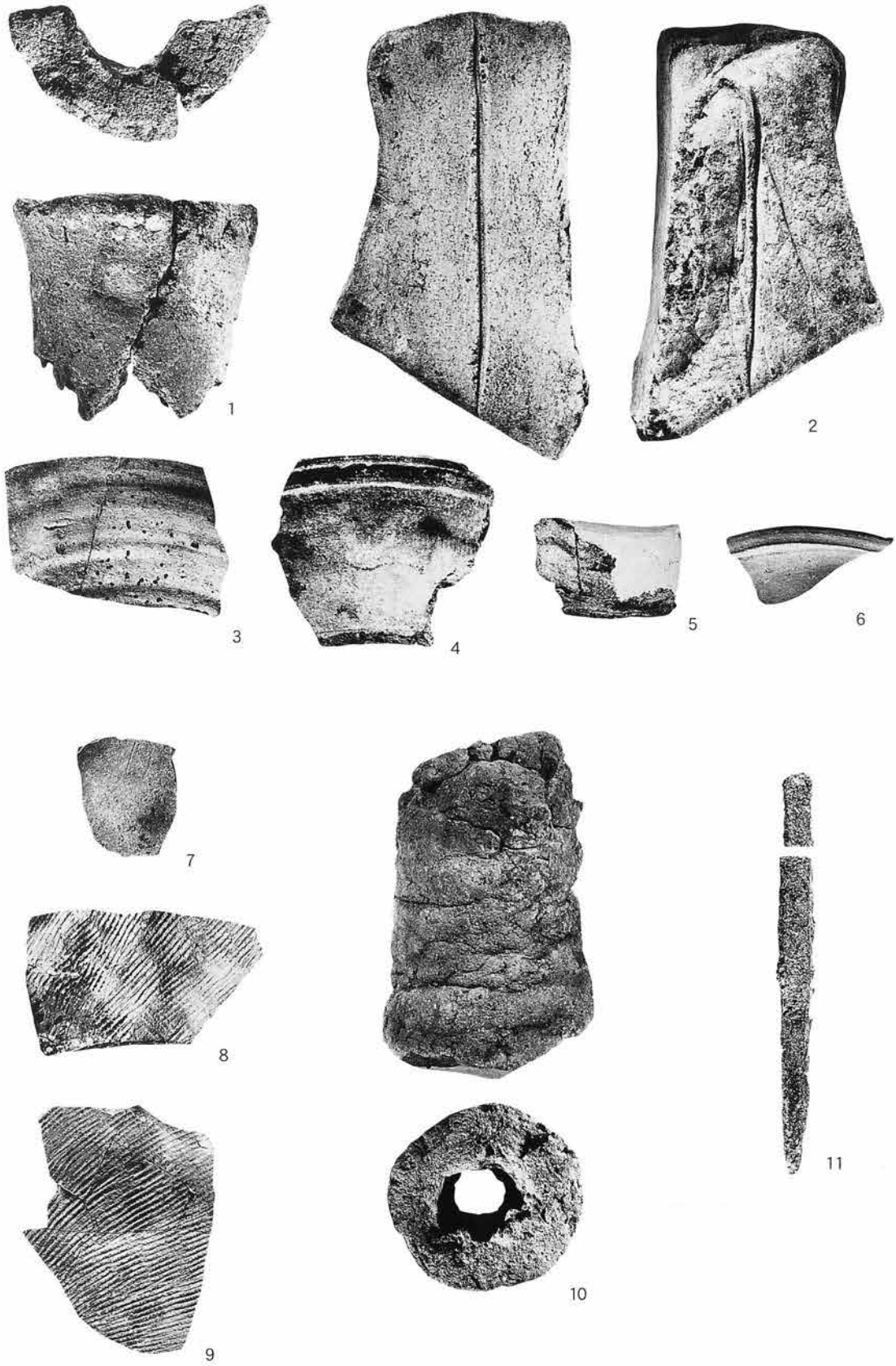
写真図版35　（1～2：RA109住居跡、3～11：RE01竪穴状遺構）



写真図版36　（1～7：RE02竪穴状遺構、8～16：RA501住居跡）

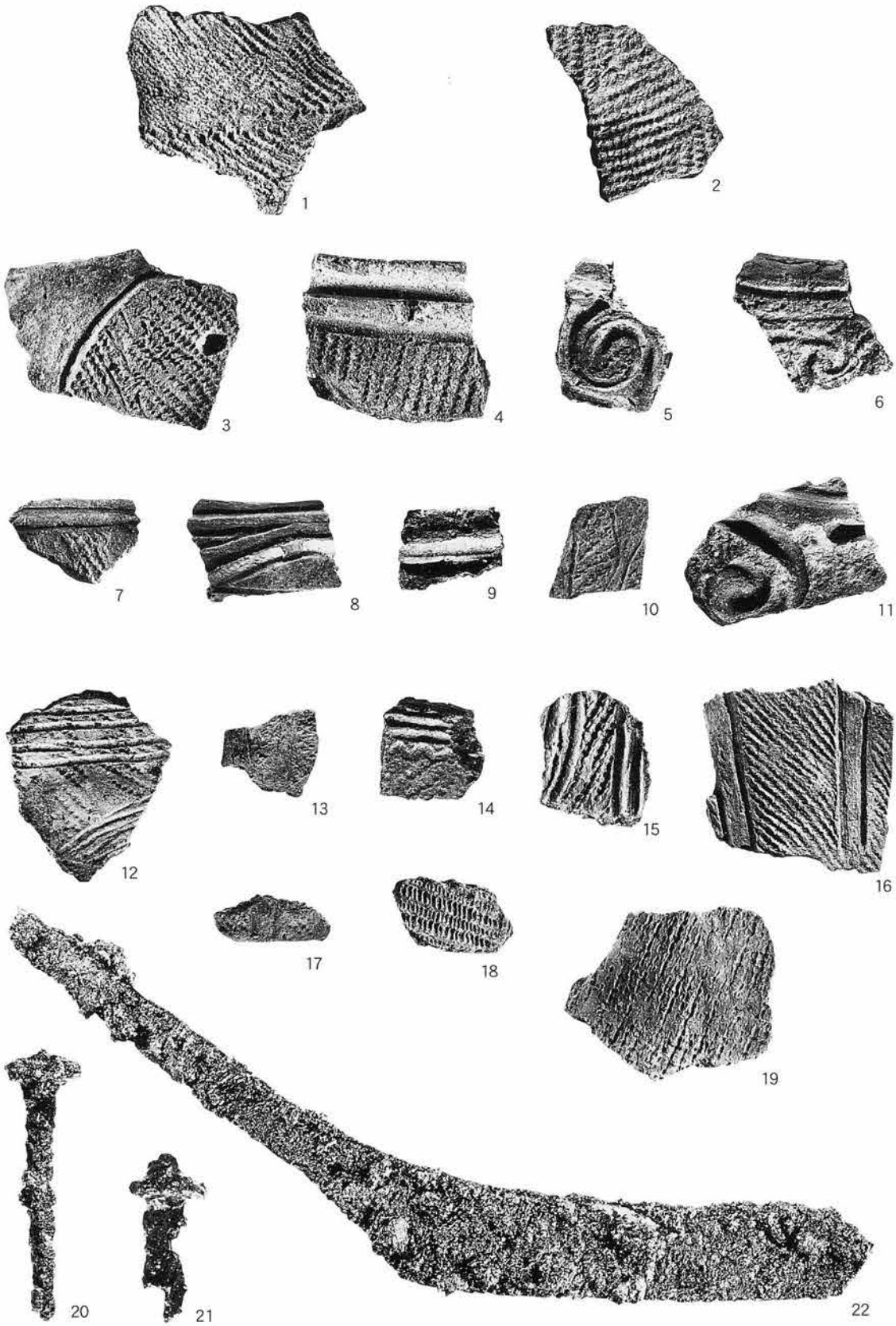


写真図版37　（1～3：RA501住居跡、4：RA502住居跡、5：RA503住居跡、6～9：RA504住居跡）

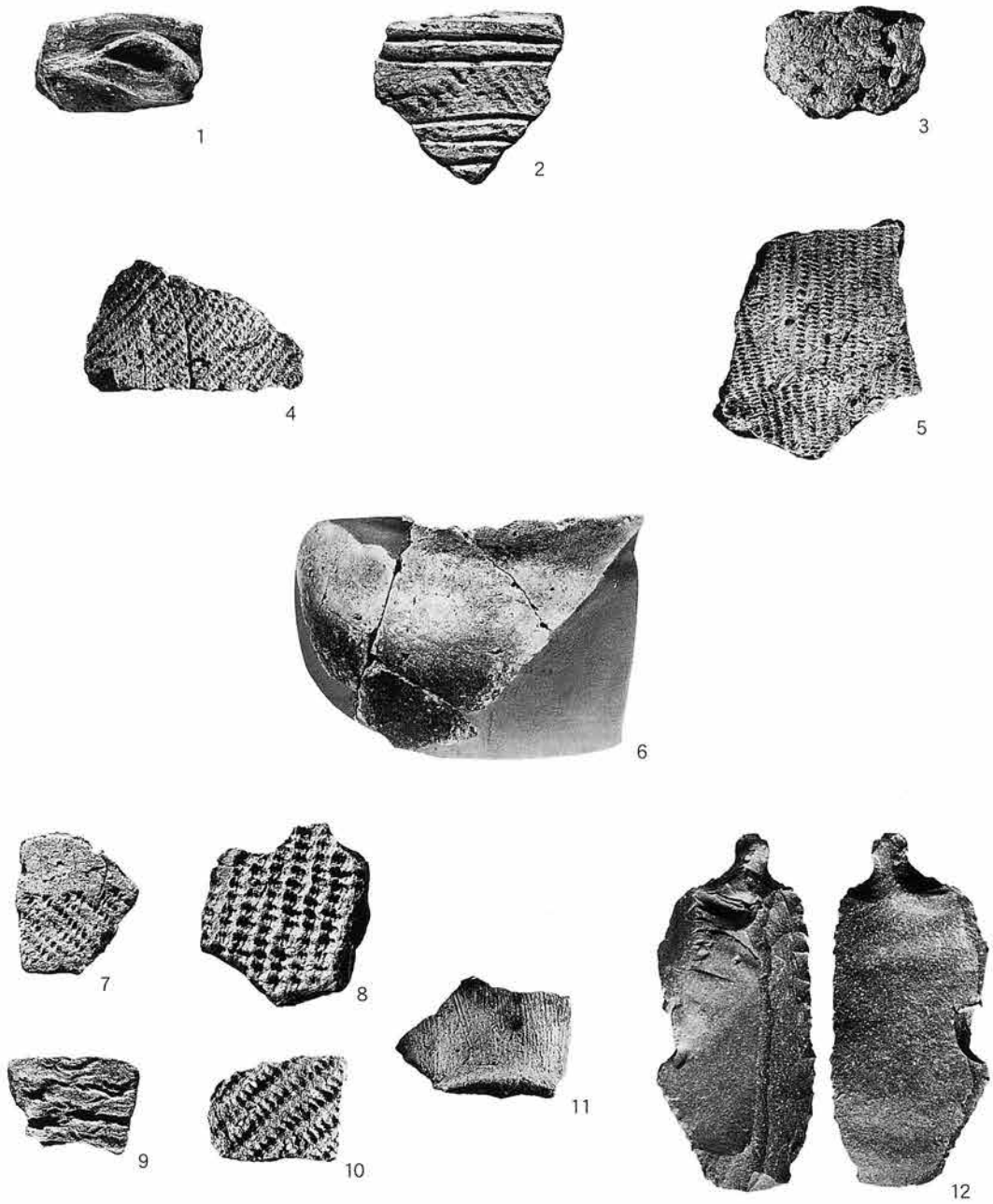


写真図版38　（1・2：RA504住居跡、3～11：RA506住居跡）

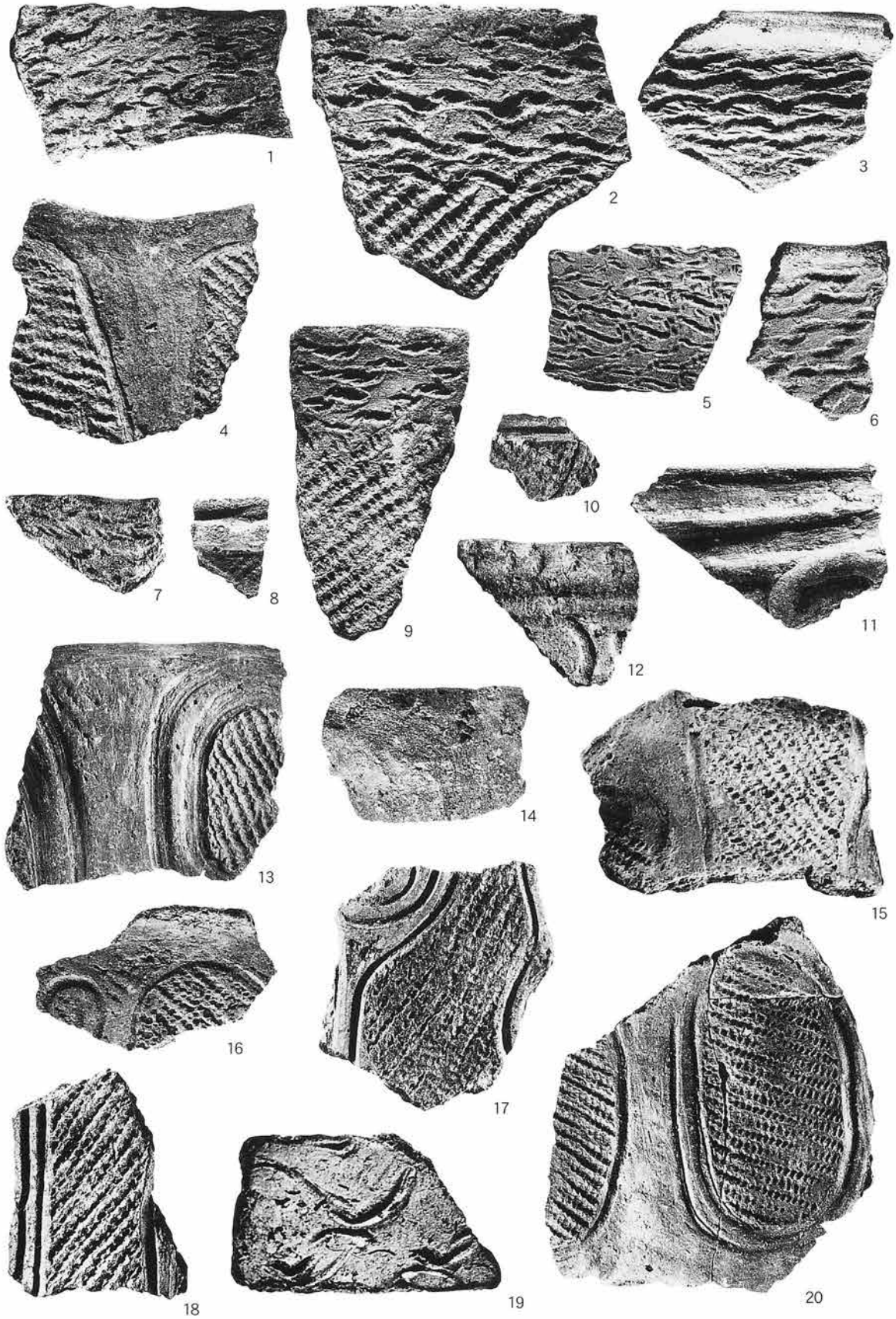
写真図版39（1～3：RA507住居跡、4・5：RA508住居跡、6：RA512住居跡、7：RA510住居跡、8～11：RD02土坑）



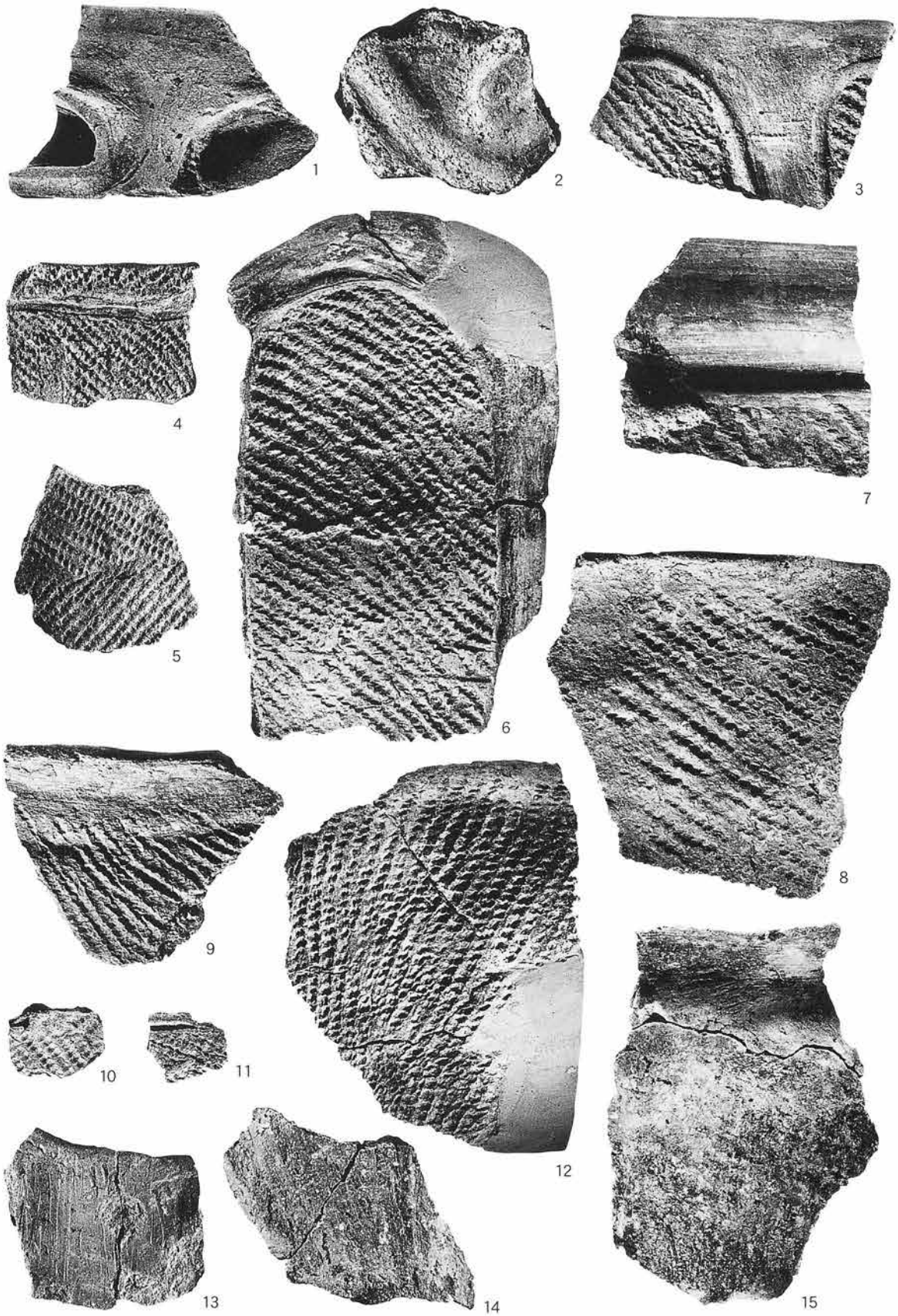
写真図版40　（1・2：RD05土坑、3～22：RD08土坑）



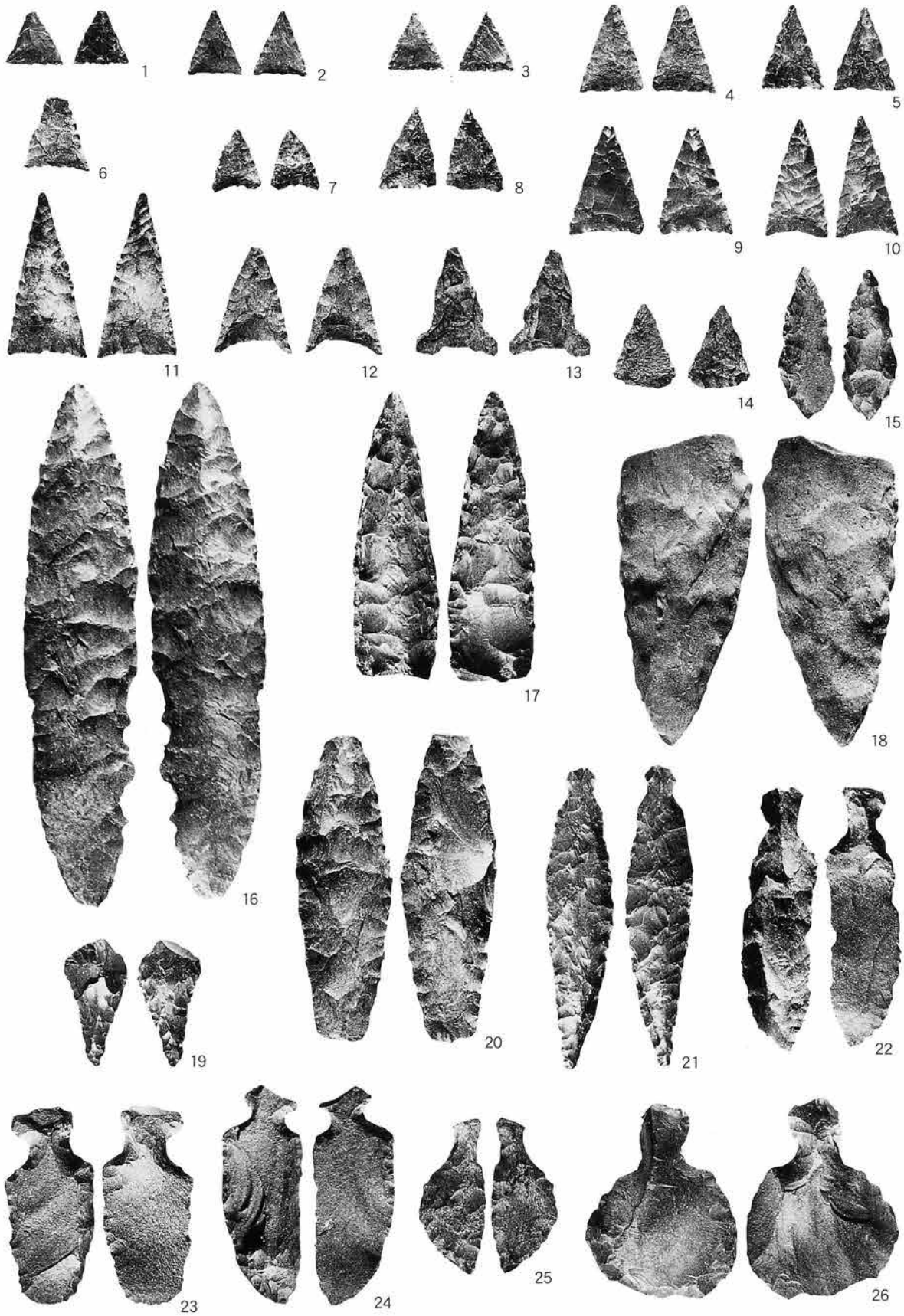
写真図版41（1～3：RE04竪穴状遺構、4･5：RD10土坑、6：RD19土坑、7～10：RD22土坑、11･12：RD23土坑）



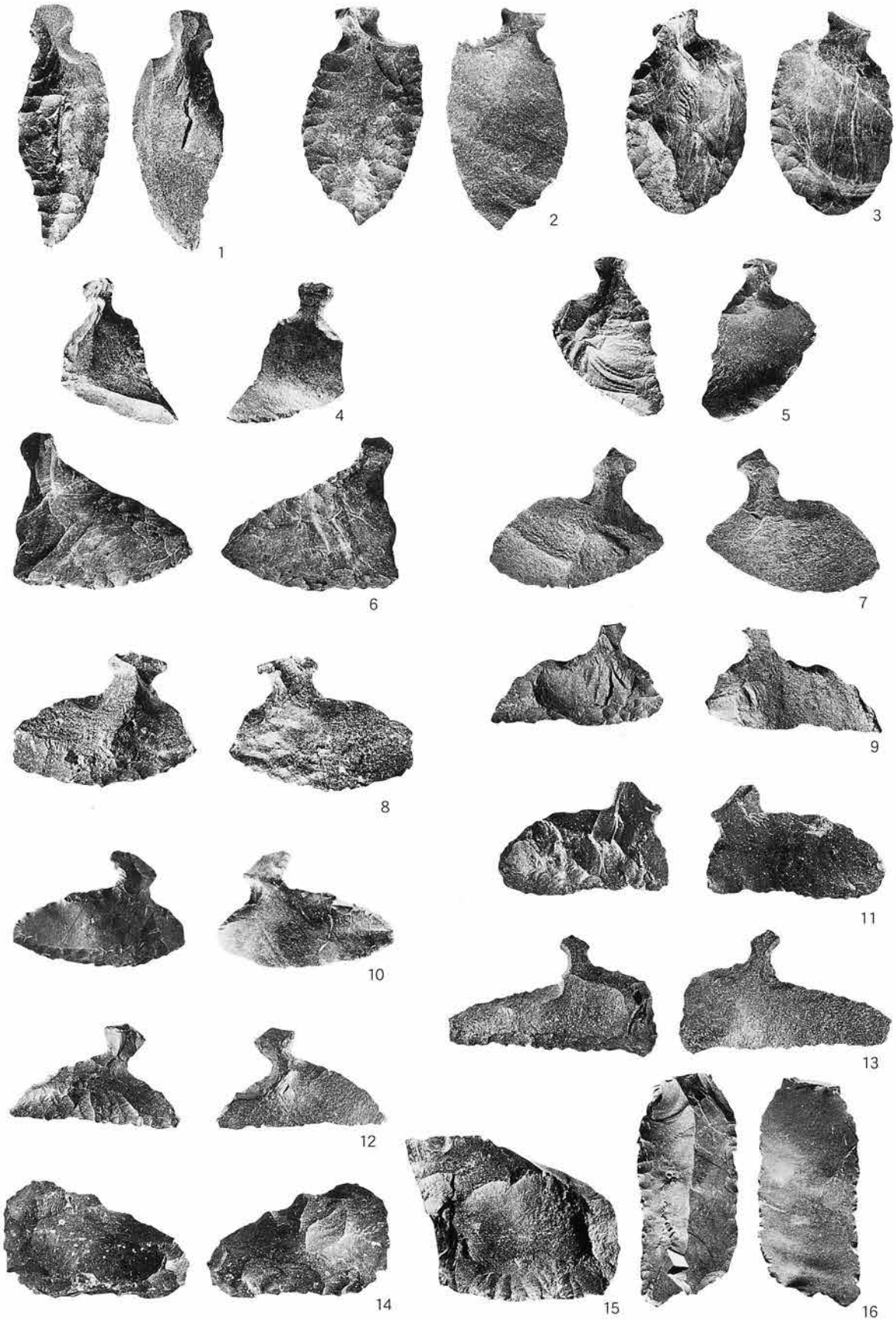
写真図版42　遺構外出土遺物　土器（1）



写真図版43　遺構外出土遺物　土器（2）



写真図版44　遺構外出土遺物　石器（1）



写真図版45　遺構外出土遺物　石器（2）

写真図版46　遺構外出土遺物　石器（3）・鉄製品

第二次調査の報告

野外調査　　平成７年６月１５日～８月４日
調査面積　　２，５００㎡
調査担当者　佐々木清文　大場慎也

第　二　次　調　査　目　次

1　基本土層……154
2　遺構と遺物……154
(1)　縄文時代……154
竪穴住居跡……154
RA110・111……154
RA112・113……159
RA114・115……162
RA116……170
RA117・118……171
RA119・120……177
RA121～123……184
RA124～127……187
RA128～131……190
竪穴状遺構……192
RE04……192
土坑……192
RD31・33・34・36……192
RD37・39・41・44・45……195
RD47～49・51……198
焼土遺構……198
RF08……198
RF09・10……201
その他の遺構……201
RZ19落とし穴……201
(2)　古代……203
竪穴住居跡……203
RA513・514……203
RA515……207
RA516～518……208
RA519……218
RA520・521……219
RA522……226
竪穴状遺構……226
RE05……226
土坑……229
RD32・40……229
(3)　時期不明遺構……230
土坑……230
RD35・38・42・43・46……230
RD50……232
3　遺構外の出土遺物……233
土器……233
鉄製品……239
石器……239
鉄滓……243
4　まとめ……248
遺構一覧表……249
土器観察表……251
鉄製品一覧表……259
石器一覧表……260

図　版　目　次

第41図　遺構配置図……155
第42図　RA110・111住居跡 ……156
第43・44図　RA110・111住居跡出土遺物 …157
第45図　RA112・113住居跡 ……160
第46図　RA112・113住居跡出土遺物 ……161
第47図　RA114住居跡 ……163
第48図　RA115住居跡 ……164
第49～54図　RA115住居跡出土遺物 ……165
第55図　RA117・121住居跡 ……172
第56～58図　RA117・121住居跡出土遺物 …173
第59図　RA118住居跡 ……176
第60図　RA119住居跡 ……178
第61～63図　RA119住居跡出土遺物 ……179
第64図　RA120住居跡 ……182
第65図　RA120住居跡出土遺物 ……183
第66図　RA122住居跡 ……185
第67図　RA123・125住居跡 ……186
第68図　RA124・126住居跡 ……188
第69図　RA126～129住居跡 ……189
第70図　RA130・131住居跡 ……191
第71図　RE04，RD31・33・34・45土坑……193
第72図　RE04，RD31・33・34土坑出土遺物 194
第73図　RD36・37・39・41土坑 ……196
第74図　RD36・37・39・41土坑出土遺物 …197
第75図　RD44・47～49・51土坑 ……199
第76図　RD44・48・49・51土坑出土遺物 …200
第77図　RF08～10，RZ19落とし穴 ……202
第78図　RA513住居跡 ……204
第79図　RA513住居跡出土遺物 ……205
第80図　RA514住居跡 ……206
第81図　RA514住居跡出土遺物 ……207
第82図　RA515・516住居跡 ……209
第83図　RA517住居跡 ……210
第84図　RA517住居跡出土遺物 ……211
第85・86図　RA518住居跡 ……212
第87～89図　RA518住居跡出土遺物 ……214
第90図　RA519住居跡 ……217
第91図　RA519住居跡出土遺物 ……218
第92図　RA520住居跡 ……220
第93図　RA521住居跡 ……221
第94～97図　RA521住居跡出土遺物 ……222
第98図　RA522，RE05竪穴状 ……227
第99図　RA522，RE05竪穴状出土遺物 ……228
第100図　RD32・40土坑 ……229
第101図　RD35・38・42・43土坑……231
第102図　RD46・50土坑 ……232
第103～109図　遺構外出土遺物
（土器・鉄製品） ……234
第110～114図　遺構外出土遺物
（石器） ……242

写　真　図　版　目　次

写真図版47　遺跡遠景・全景……267
写真図版48　RA110住居跡 ……268
写真図版49　RA111・112住居跡 ……269
写真図版50　RA112・113住居跡 ……270
写真図版51　RA113・114住居跡 ……271
写真図版52　RA114・115住居跡 ……272
写真図版53　RA115・117・121住居跡 ……273
写真図版54　RA117・121住居跡 ……274
写真図版55　RA118住居跡 ……275
写真図版56　RA119住居跡 ……276
写真図版57　RA119・120住居跡 ……277
写真図版58　RA120・122住居跡 ……278
写真図版59　RA122・123・125住居跡 ……279
写真図版60　RA124住居跡 ……280
写真図版61　RA126住居跡 ……281
写真図版62　RA127・128・129住居跡 ……282
写真図版63　RA130・131住居跡 ……283
写真図版64　RE04竪穴状，RD31土坑 ……284
写真図版65　RD33・34・36・37・45土坑 …285
写真図版66　RD39・41・44・49土坑 ……286
写真図版67　RD51，RF08・09・10焼土 ……287
写真図版68　RZ19落とし穴，RA513住居跡…288
写真図版69　RA513・514住居跡 ……289
写真図版70　RA514・515住居跡 ……290
写真図版71　RA515・516住居跡 ……291
写真図版72　RA517住居跡 ……292
写真図版73　RA518住居跡 ……293
写真図版74　RA518住居跡 ……294
写真図版75　RA519住居跡 ……295
写真図版76　RA520住居跡 ……296
写真図版77　RA521住居跡 ……297
写真図版78　RA521・522住居跡 ……298
写真図版79　RA522住居跡 ……299
写真図版80　RE05竪穴状 ……300
写真図版81　RD32・40・35土坑 ……301
写真図版82　RD38・42・43・46土坑 ……302
写真図版83　RA110・111出土遺物 ……303
写真図版84　RA111・112・113出土遺物 …304
写真図版85　RA114・115出土遺物 ……305
写真図版86・87　RA115出土遺物 ……306
写真図版88　RA117出土遺物 ……308
写真図版89　RA121・118・119出土遺物 …309
写真図版90　RA119出土遺物 ……310
写真図版91　RA120・122・123出土遺物 …311
写真図版92　RA123・124・126～129
出土遺物……312
写真図版93　RA130・131，RE04，RD31・
33・34出土遺物 ……313
写真図版94　RD34・36・37・39・41・
44・48出土遺物 ……314
写真図版95　RD48・49・51，RF10・
RZ19，RA513出土遺物……315
写真図版96　RA513～515出土遺物 ……316
写真図版97　RA516～518出土遺物 ……317
写真図版98　RA518出土遺物 ……318
写真図版99　RA519～521出土遺物 ……319
写真図版100 RA521出土遺物 ……320
写真図版101 RA521・522，RE05出土遺物…321
写真図版102 RE05，RD32・40・35・42・
46出土遺物 ……322
写真図版103～107　遺構外出土遺物
（土器・鉄製品）……323
写真図版108～110　遺構外出土遺物
（石器）……328

Ⅳ　二次調査の報告

1　基本土層

調査地は西から東に緩く傾斜しており、西側は表土直下がすぐⅢ層やⅣ層になるところもあるが、基本的な土層は以下のようになる。

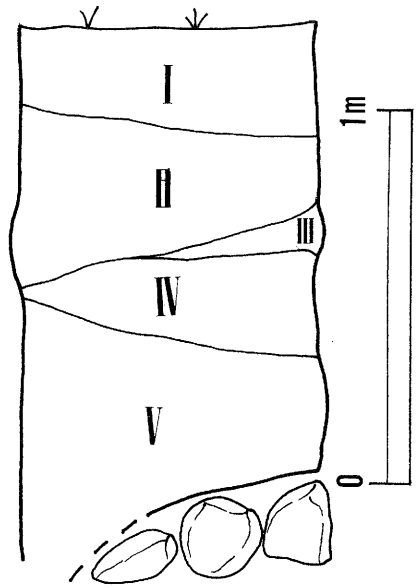
Ⅰ層　暗褐色土　表土・耕作土　層厚20～30cm　粘性弱、締まりやや疎。

Ⅱ層　黒色土　層厚20～50cm　東側は薄い、粘性弱、締まりやや疎。

Ⅲ層　鈍い褐色土　砂質土　層厚0～10cm　谷沿いには見られない、粘性無し、締まり疎。

Ⅳ層　橙色砂礫層　層厚0～30cm　花崗岩風化物多し、沢沿いには見られない、粘性無し、締まりやや疎。

Ⅴ層　黄褐色土　層厚30～100cm　花崗岩風化礫混入、沢沿いには見られない、粘性中、締まり密。
下位は花崗岩風化礫層



基本土層模式図

2　遺構と遺物

概要

二次調査で調査した遺構は縄文時代住居跡22棟（前期9棟・中期3棟・時期不明10棟）・竪穴状遺構1棟・土坑13基・焼土3ヵ所・落とし穴1基、古代住居跡10棟（奈良時代住居跡5棟、平安時代住居跡5棟）、竪穴状遺構1棟・土坑2基、時期不明土坑6基である。遺物は土器片約20箱、石器約240点等が出土し、遺構に伴うものが多い。以下に時代別に記載する。

(1) 縄文時代

竪穴住居跡

RA110住居跡（図版：42・43，写真図版：48・83）

奈良時代のRA513住居跡の北側に接し、同住居跡に切られている。また全体が削平を受けており、斜面下位の東側の壁は残存しない。直径3.2mほどの円形ないしは隅丸方形状を呈するようで、西側の壁は10cmほどの高さで残る。埋土は炭化物や褐色土ブロックの混じる黒色土で構成され、礫も多く混じる。床面はほぼ平坦で中央付近に石囲炉がある。石囲炉の周囲や北側に薄い焼土が見られ、炭化物も多いことから焼失家屋のようである。

石囲炉は直径70cmの範囲に亜角礫を並べて作られている。焼土は最大6cmの厚さで形成されている。

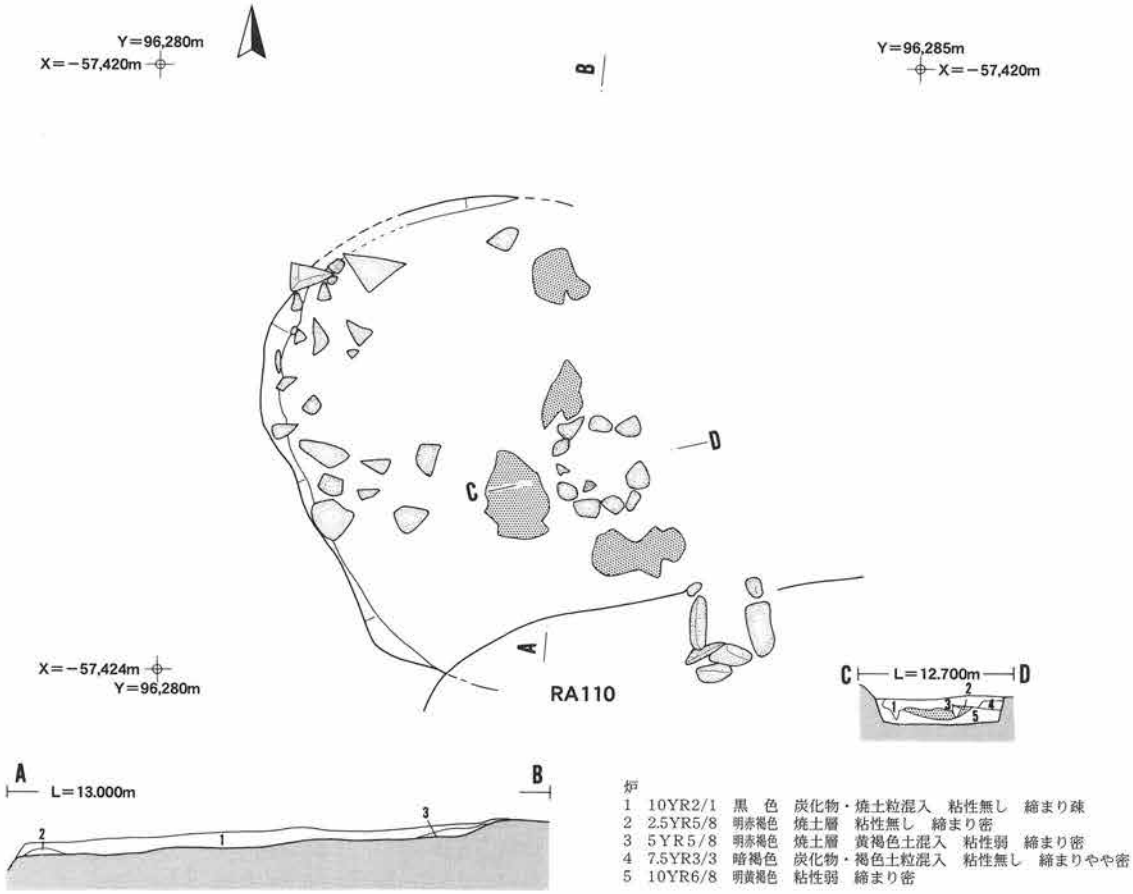
出土遺物は床面および埋土から縄文中期の土器片が少量得られている。

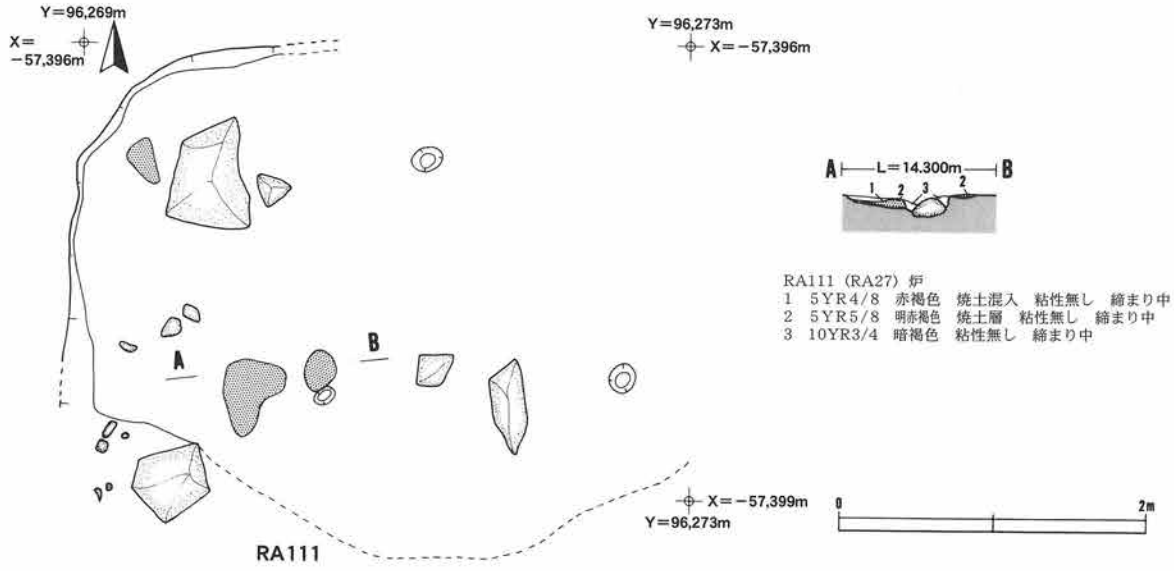
この遺構の時期は、炉の形状から縄文時代中期と思われる。

RA111住居跡（図版：42～44，写真図版：49・83・84）

奈良時代のRA517住居跡の内側南西に検出された。当初大きな遺構と想定していたが、二つの遺構の重複であることがわかった。壁は北西側が少ししか残らないが、長径4mほどの楕円形状を呈する。壁高は約10cmである。埋土は焼土粒・炭化物・礫の混入する暗褐色土で構成される。RA517住居跡の貼り床の感じはない。

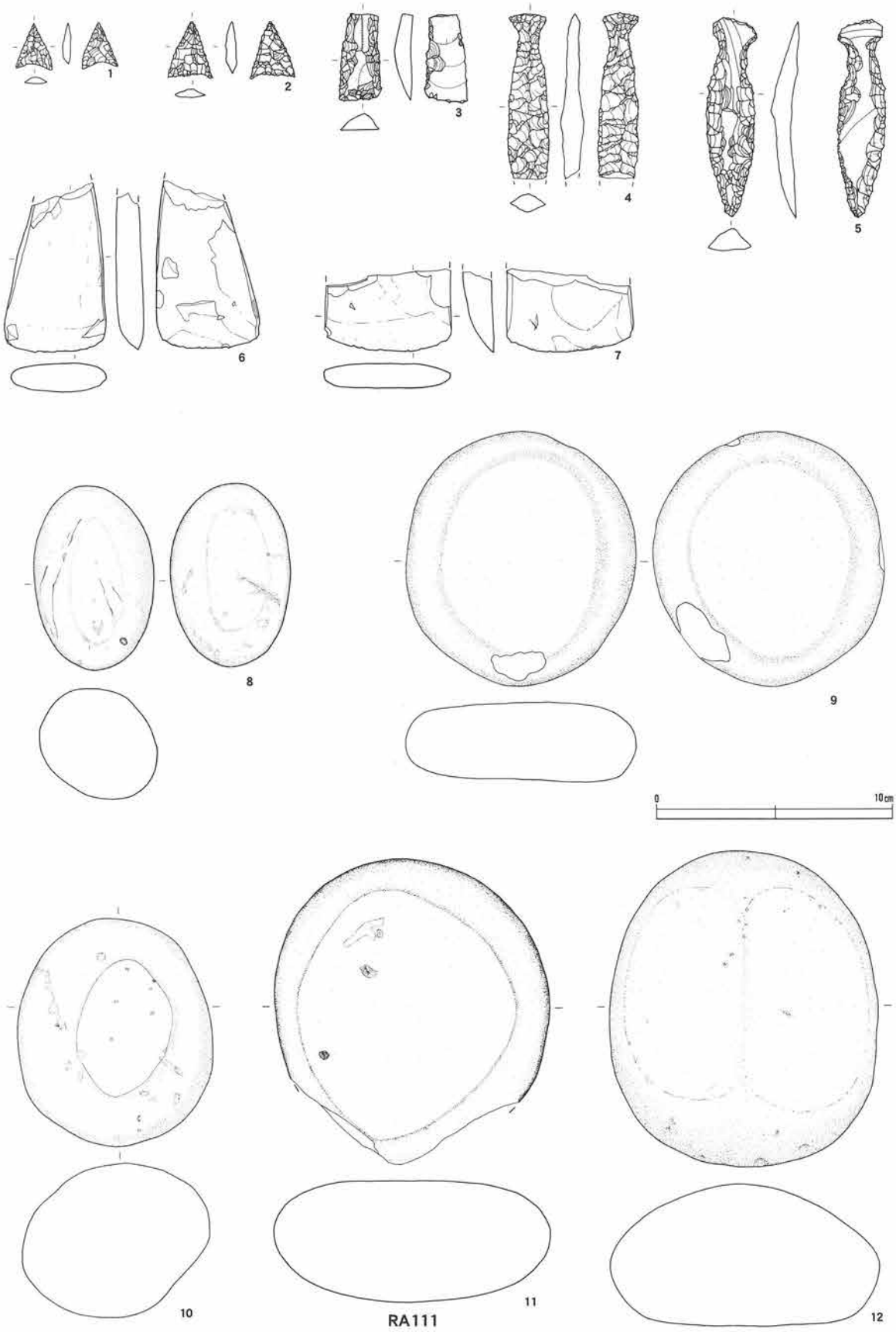
第41図　第二次調査遺構配置図





第42図 RA110・111住居跡

第43図　RA110・111住居跡出土遺物（1）



第44図　RA111住居跡出土遺物（2）

床面は巨礫が露出し、やや凹凸がある。径15～20cm・深さ20cmの柱穴状小土坑が3基検出されている。また床面から焼土が3箇所検出されている。北西のものは30cm×15cmの三角形状で、厚さは痕跡程度である。西寄りのものは60cm×30cmの不整形で、厚さ6cmほどの焼土が形成されている。その東側に隣接する焼土は30cm×20cmの楕円形状で、厚さ2cmほどである。

出土遺物は埋土や床面から縄文時代前期や中期の土器片や石器が多量に得られている。43-4～9は床面から出土した遺物で、4には大木2b式に特徴的なS字状沈文（撚糸文）が施文されている。5・6は石鏃、7・8は石匙、9は玦状耳飾りの破損品である。43-10～44-12は埋土出土の遺物である。10は前期の土器片を加工した円盤状土製品である。土器片の中には隆帯や沈線で渦巻き文を施文した中期の土器片も多い。44-1・2は石鏃、3は削掻器、4・5は石匙、6・7は磨製石斧の破損品、8～12は磨石である。石匙は床面直上からでたものも縦型のものが主で、埋土からでた2点は両面から刃部加工がなされ、槍先形を呈している。磨石には敲打によるくぼみが残るものもある。

この遺構の時期は、炉の形状や出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

RA112住居跡（図版：45・46，写真図版：49・50・84）

H12グリッドに位置し、Ⅲ層上面で検出された。石囲炉と南西の壁の一部が残る。炉と壁の間には新しい撹乱がある。楕円形状を呈し、長径5mほどと予測される。埋土は少ししかなかったが、焼土粒や風化礫の混入する黒褐色土で構成される。床面はほぼ平坦であるが、周囲より特に締まる感じではない。柱穴状の土坑が西側と北側に2基検出されている。開口部径30～35cm・深さ30～60cmである。

炉は90cm×60cmの長方形状に角礫を並べて作られている。斜面上方の北西側の礫だけは板状の大きな礫が使用されている。炉内の焼土は最大5cmの厚さで形成されている。

出土遺物は埋土から縄文時代前期と中期の土器片少量と磨石1点が得られている。46-1・2は前期の土器片で胎土にセンイが混入している。3・4・6は平行沈線と隆帯による施文がなされている。

この遺構の時期は、炉の形状から縄文時代中期と思われる。

RA113住居跡（図版：45・46，写真図版：50・51・84）

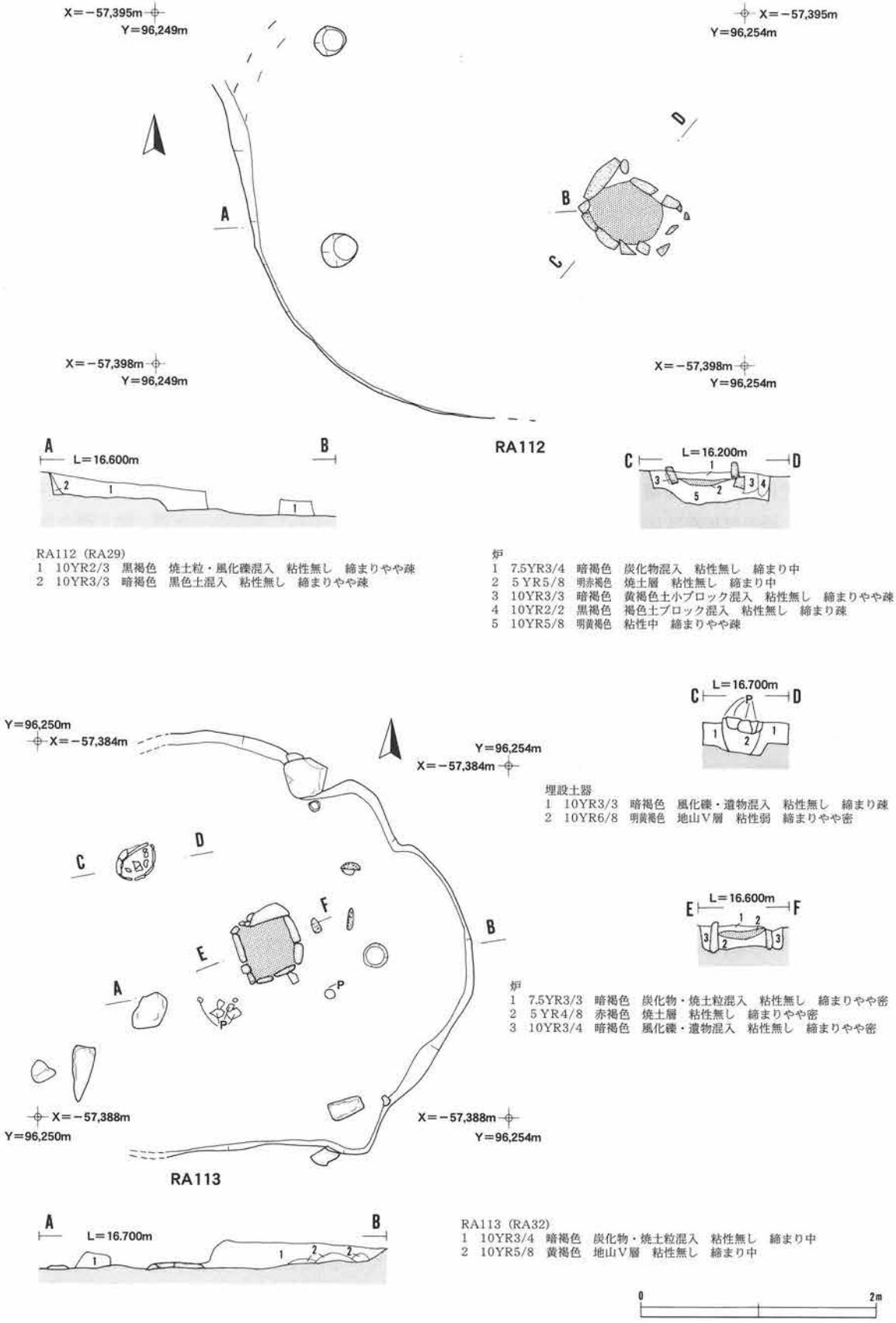
RA121住居跡の東側に位置し、RA116住居跡やRA117住居跡など複数の遺構と重複する。遺構の新旧関係はRA116住居跡より新しく、RA121とRA117住居跡に切られているようだ。しかし、RA117住居跡との重複部分が一次調査の際の撹乱を受けており、両者の新旧関係は不明瞭である。石囲炉と北～東側にかけての壁が残る。残存部から推測すると、平面形は長径4.5～5mの楕円形を呈していたようである。北東側の壁に巨礫があり、その前後の壁は直立気味に外傾する。

埋土は主に炭化物や焼土粒の混入する暗褐色土で構成される。

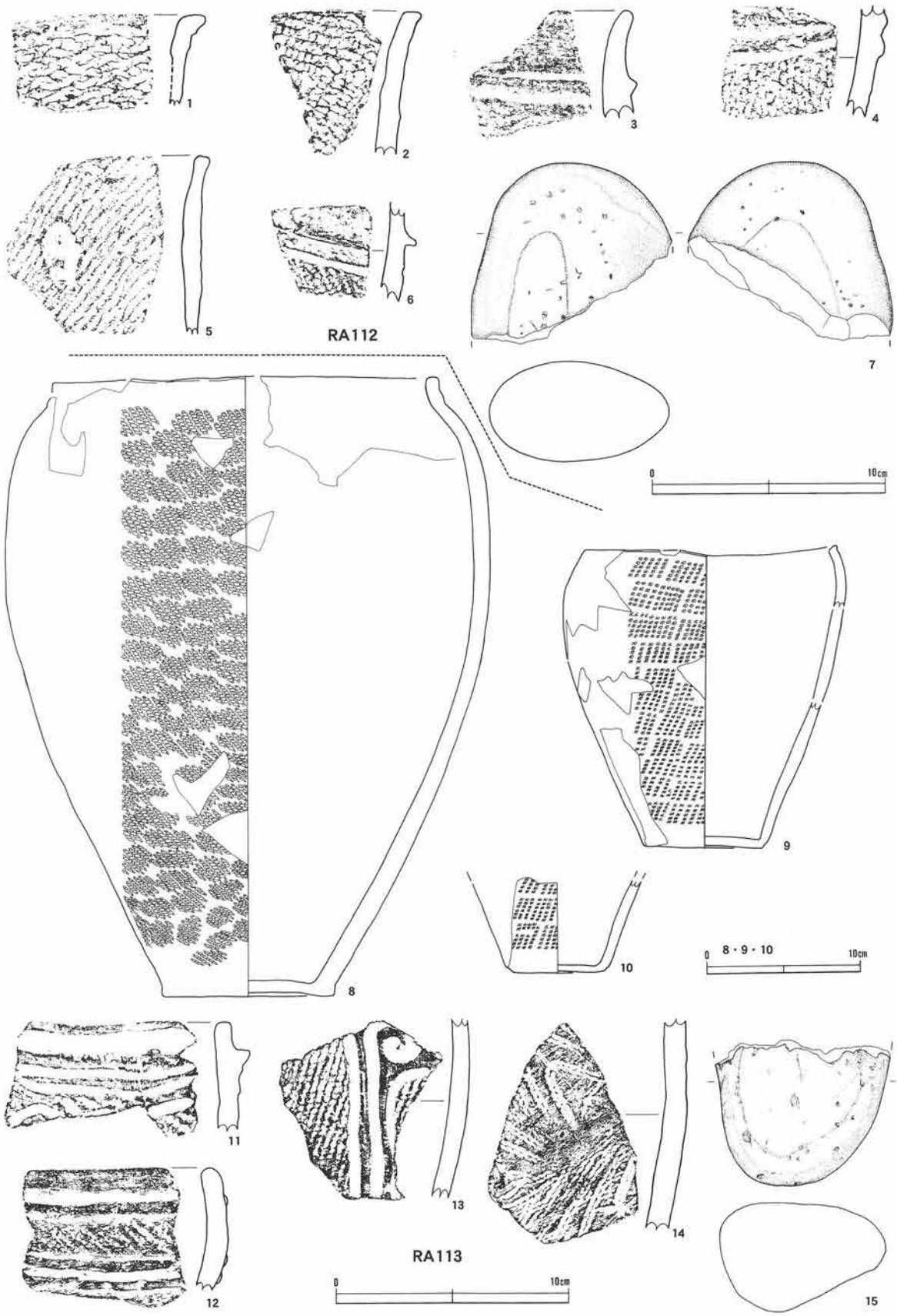
床面の一部に礫が露出するが、ほぼ平坦で、締まりはやや密である。石囲炉の東側に柱穴状の土坑が1基確認され、開口部径20cm・深さ40cmである。炉の北西のRA115と重複していない部分には埋設土器も1つ確認されている。

炉は角礫を並べて1辺55cmの方形に作られている。礫を埋め込むための掘り込み痕は不明瞭である。炉内に形成された焼土は最大6cmほどある。

埋設土器は、床面を15cm掘り込んで、深鉢を埋めて作られている。床面上の部分は埋土の土圧で破損している。



第45図 RA112・113住居跡



第46図　RA112・113住居跡出土遺物

出土遺物は、埋設土器の他に多量の縄文土器片や磨石がある。埋設土器は口縁部がキャリパー状にすぼむ大型深鉢で、高さ約40cmである。9もキャリパー形に近い中期の土器である。平行沈線や隆帯で施文された土器片や14のように原体を押圧して施文した土器片もある。15は磨石の破損品で、磨面には敲打痕も残る。

この遺構の時期は、炉の形状から縄文時代中期と思われる。

RA114住居跡（図版：47，写真図版：51・52・85）

奈良時代のRA518住居跡の北東に位置する。F16区に検出された石囲炉の周囲を精査した結果北西側の壁の一部と壁溝が部分的に残存していることが明らかになった。傾斜に沿って南東側が削られており、本来の床や埋土は不明である。残存する壁の状況から直径6mほどの円形だったようである。配置が不均一だが、柱穴状の土坑が4基検出されている。柱穴状土坑の規模は開口部径30cm・深さ40～60cmである。

炉は、板状あるいはブロック状の角礫を60cm×80cmの長方形に並べて作られている。礫の一部は抜け落ちている。また礫の周囲には少し掘り込んだ跡が残っている。炉内の焼土は最大4cmの厚さで形成されている。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期と中期の土器片が少量得られている。47-1は前期の土器片でセンイが少量混入する。2～4は中期の土器片である。

この遺構の時期は、炉の形態から縄文時代中期と思われる。

RA115住居跡（図版：48～54，写真図版：52・53・85～87）

古代のRA520住居跡付近に位置し、多数の遺構と重複している。RA520住居跡の下位で、RA116住居跡の上位になる。再堆積層を掘り込んで構築してあるようで、埋土と壁の境界が不明瞭である。埋土の埋没途中に大量の縄文土器片が投げ込まれたように混入しており、その状況をもとに壁の位置を確認したが、南側は、さらに重複していることと、一次調査の試掘トレンチの破損を受けており、南東部の壁の確認はできなかった。しかし楕円形を基調とし、石囲炉と地床炉を伴うようである。規模は長軸約7m・短軸4.6m、壁高20～50cmのようである。埋土は風化礫や炭化物の混入する黒褐色土や暗褐色土で構成されている。中位から上位には復元可能な個体も含めて、多量の土器片が混入していた。

床面はやや締まり、周囲の傾斜同様長軸の南東方向が低くなっている。中軸線上の北寄りに石囲炉、南寄りに地床炉があり、石囲炉の周辺には柱穴状土坑が4基検出されている。柱穴状土坑の規模は、開口部径25～35cm・深さ20cmほどである。

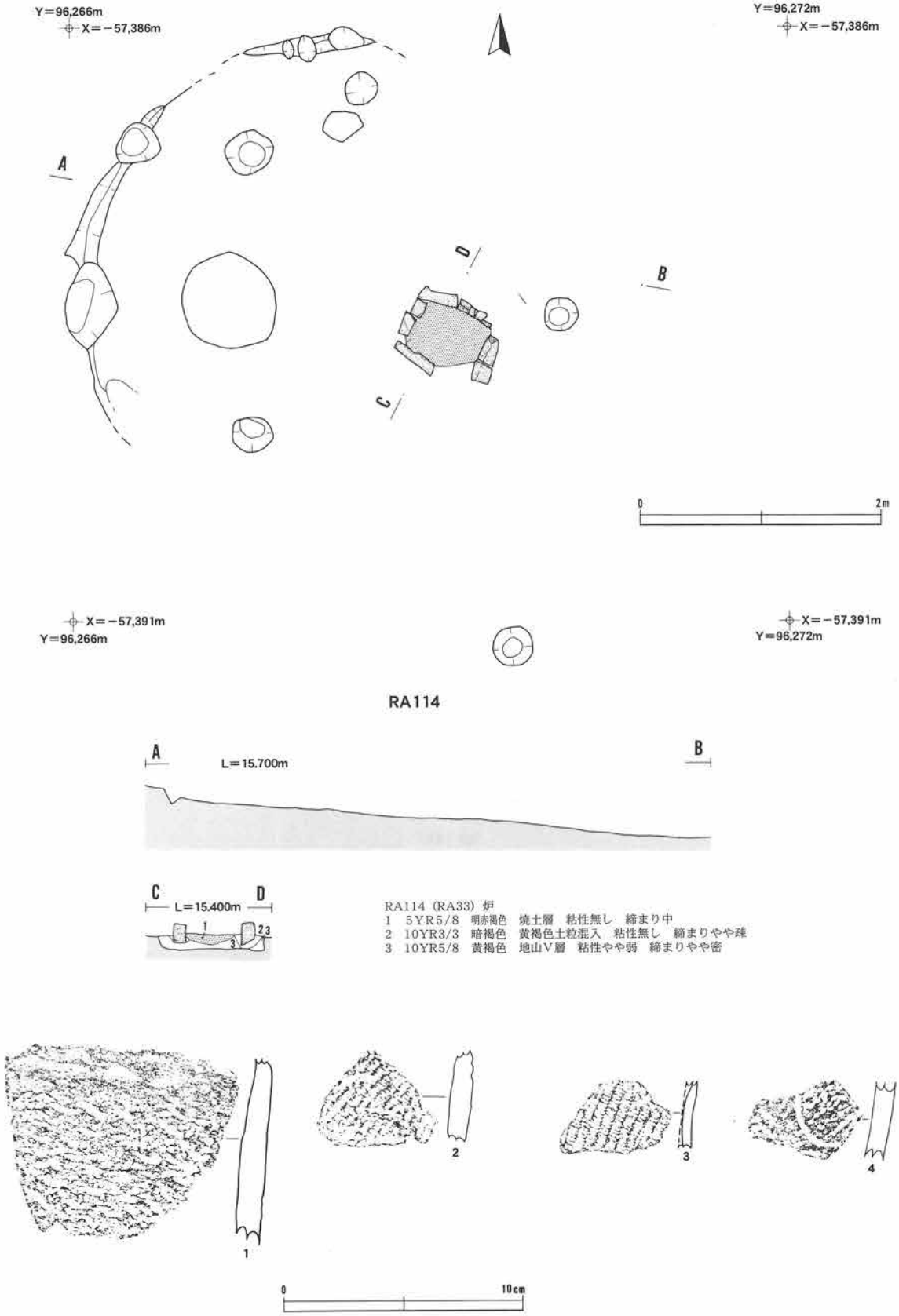
石囲炉は角礫を径55cmほどの円形に並べて作られている。炉内に形成された焼土の厚さは最大6cmほどである。地床炉は長径30cmほどの不整楕円形で焼土の厚さは最大3cmほどである。

出土遺物は埋土から多量の縄文土器や土器片が出土し、ほかに石器や軽石製の石製品などがある。

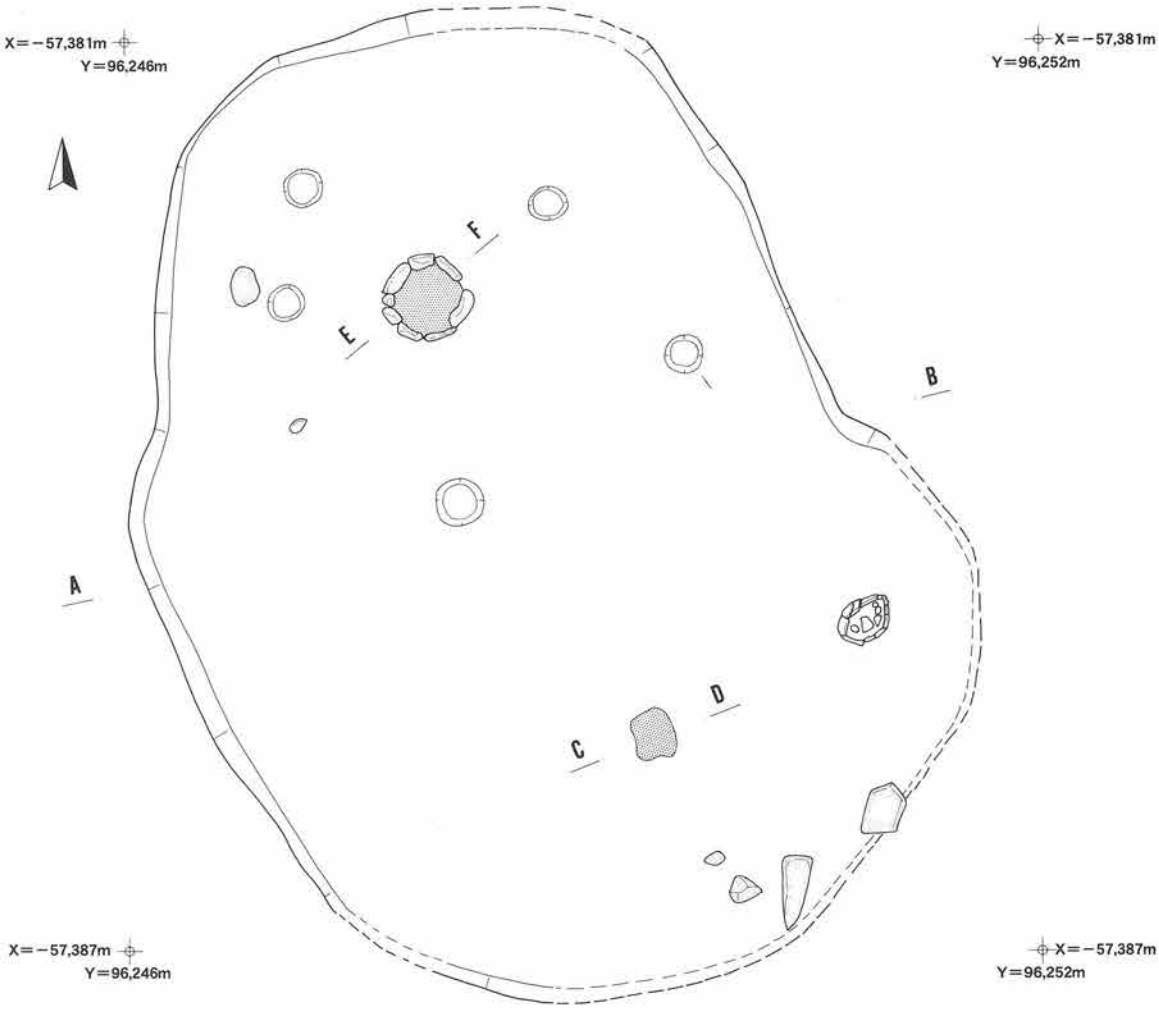
土器は口縁部がやや膨らみ、底部にむかってすぼまるキャリパー形の物が多く、口縁部も平口縁だけでなく波状口縁や立体的な突起がつくものもある。施文は平行沈線や隆帯による区画文や渦巻き文が主であるが、沈線と磨消し帯による「O」字状のものもある（52-2・8など）。中期中葉の遺物が多い。

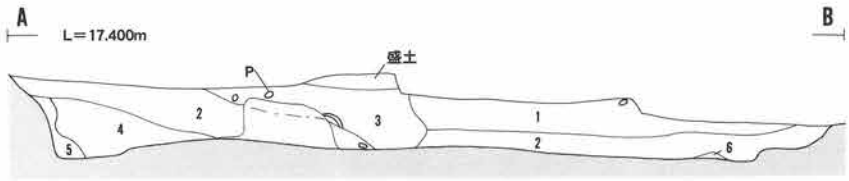
石器は石鏃4点と、石匙2点、削掻器3点、両極石器1点と、磨製石斧1点、軽石製品1点、磨石6点、凹石1点がある。石鏃は平基で、1点（53-6）にはアスファルトが付着している。53-13は軽石製の浮きと思われ、1端に紐通し用の孔が開けられている。磨石は広い面に磨面が形成されているものと縁辺部分に磨面が形成されたもの（54-5）がある。

この遺構の時期は、炉の形状や出土遺物から縄文時代中期と思われる。

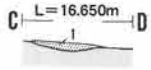


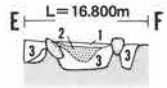
第47図 RA114住居跡





RA115 (RA35)
1 10YR3/3 暗褐色 炭化物・土器・風化礫混入 粘性無し 締まり中
2 10YR2/3 黒褐色 炭化物・風化礫混入 粘性無し 締まり中
3 10YR2/3 黒褐色 2に類似するが土器片多く混入 粘性無し 締まり中
4 10YR3/3 暗褐色 風化礫混入 粘性無し 締まりやや密
5 10YR3/4 暗褐色 黄褐色土粒混入 粘性無し 締まり疎
6 10YR4/4 褐 色 風化礫混入 粘性弱 締まりやや密

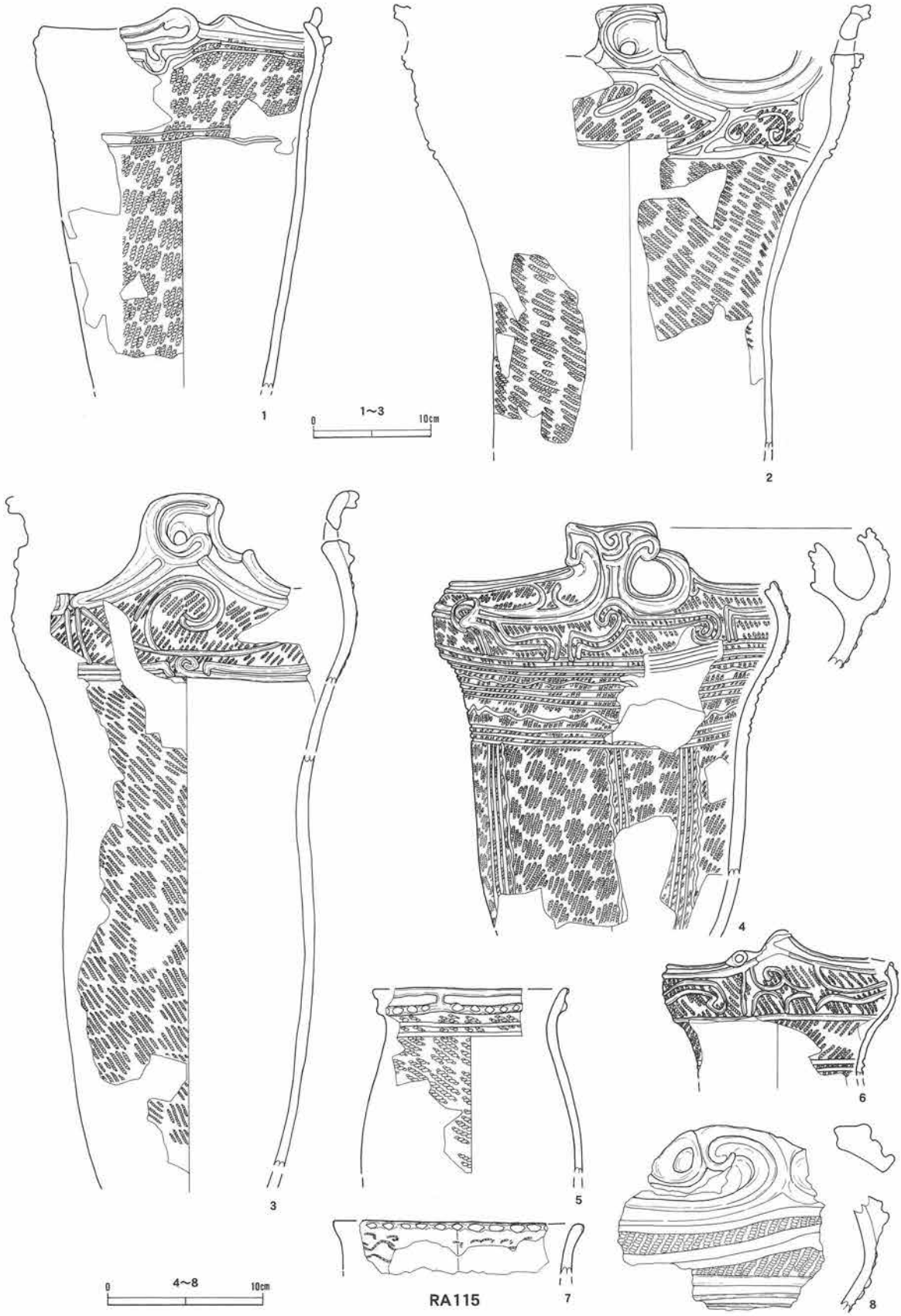




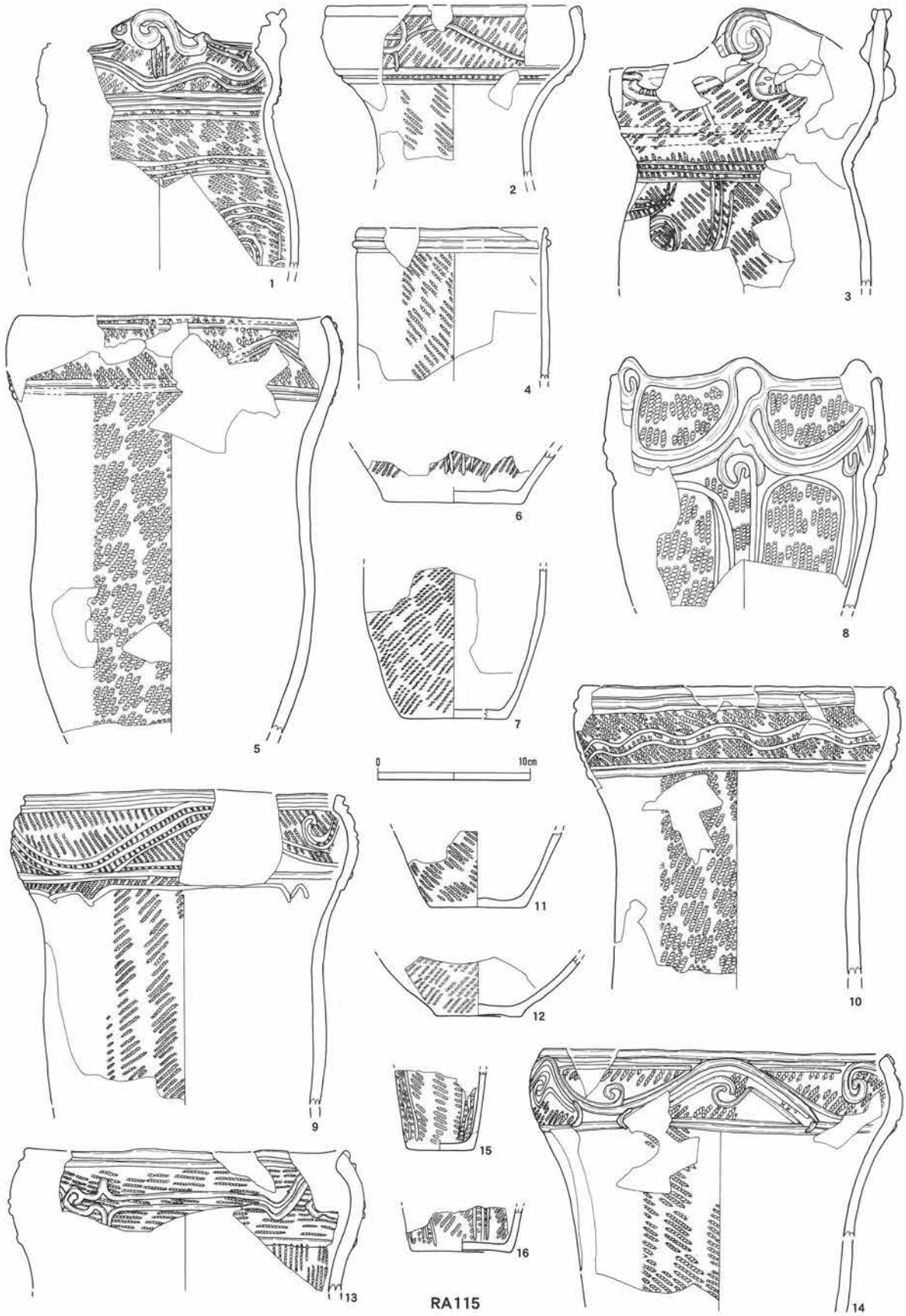
地床炉
1 5YR4/8 赤褐色 焼土層 粘性無し 締まり中

炉
1 7.5YR3/4 暗褐色 炭化物・焼土混入 粘性無し 締まり中
2 5YR6/8 橙 色 焼土層 粘性無し 締まり中
3 10YR3/4 暗褐色 風化礫少量混入 粘性無し 締まり中

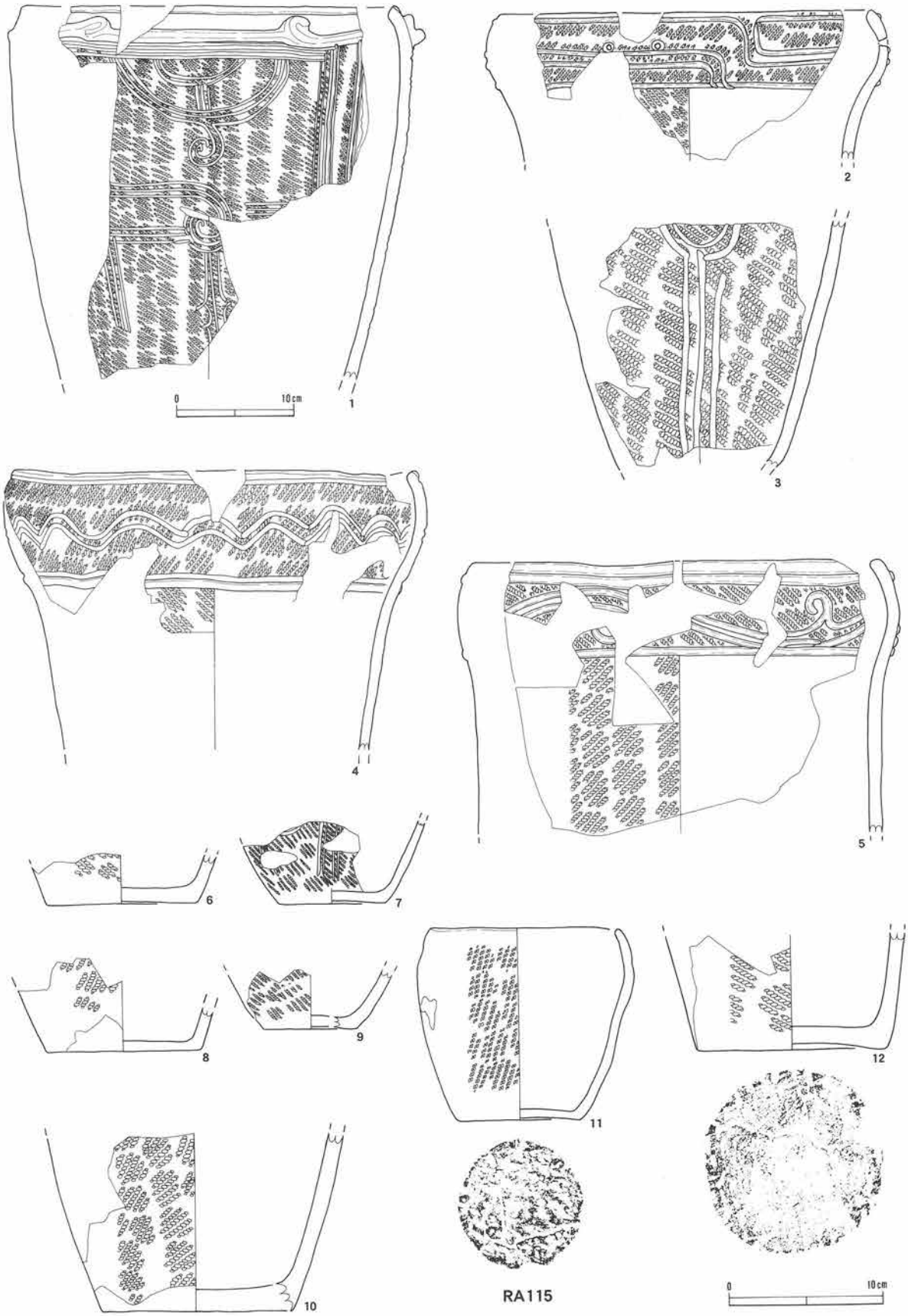
第48図 RA115住居跡



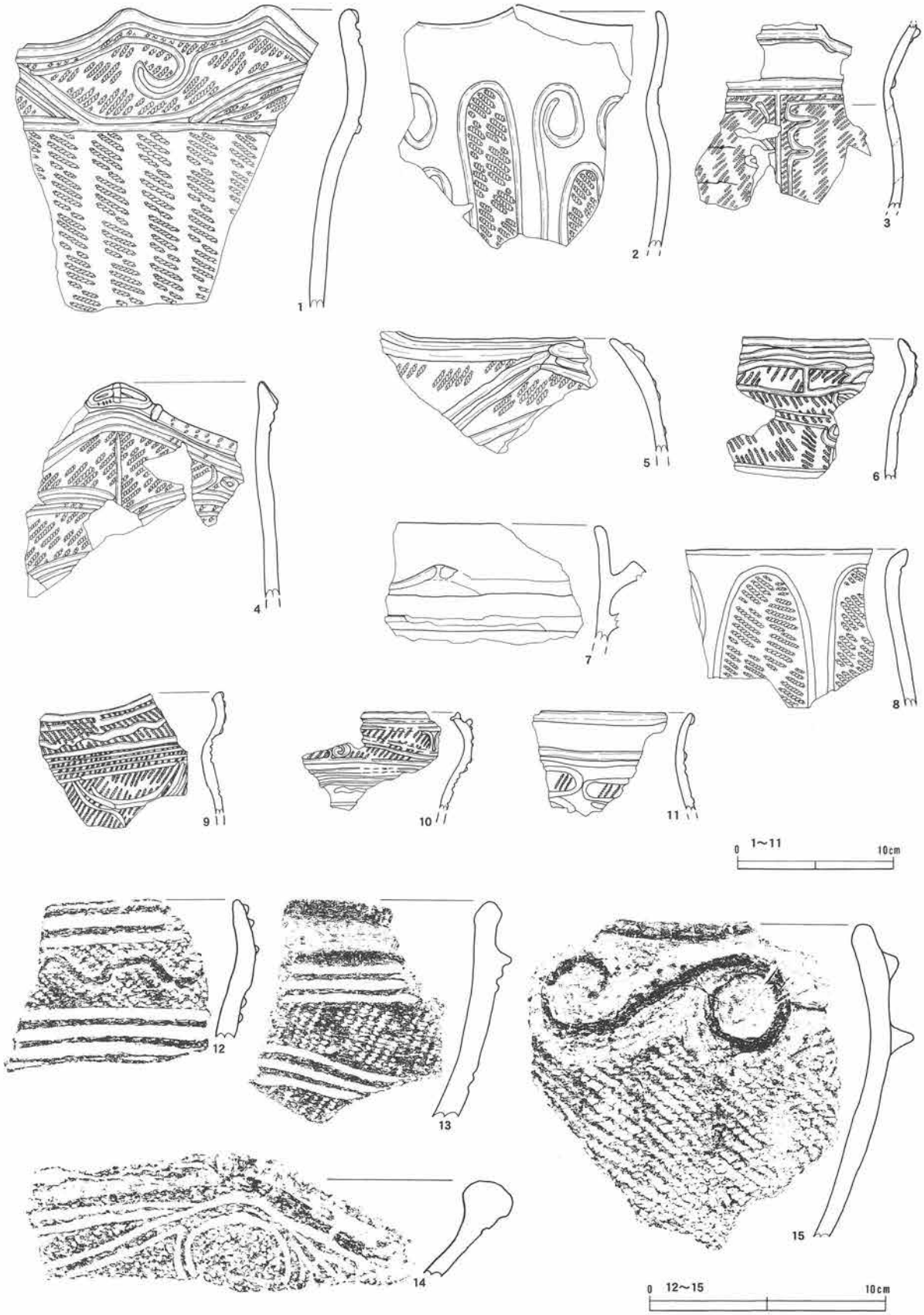
第49図　RA115住居跡出土遺物（1）



第50図　RA115住居跡出土遺物（2）

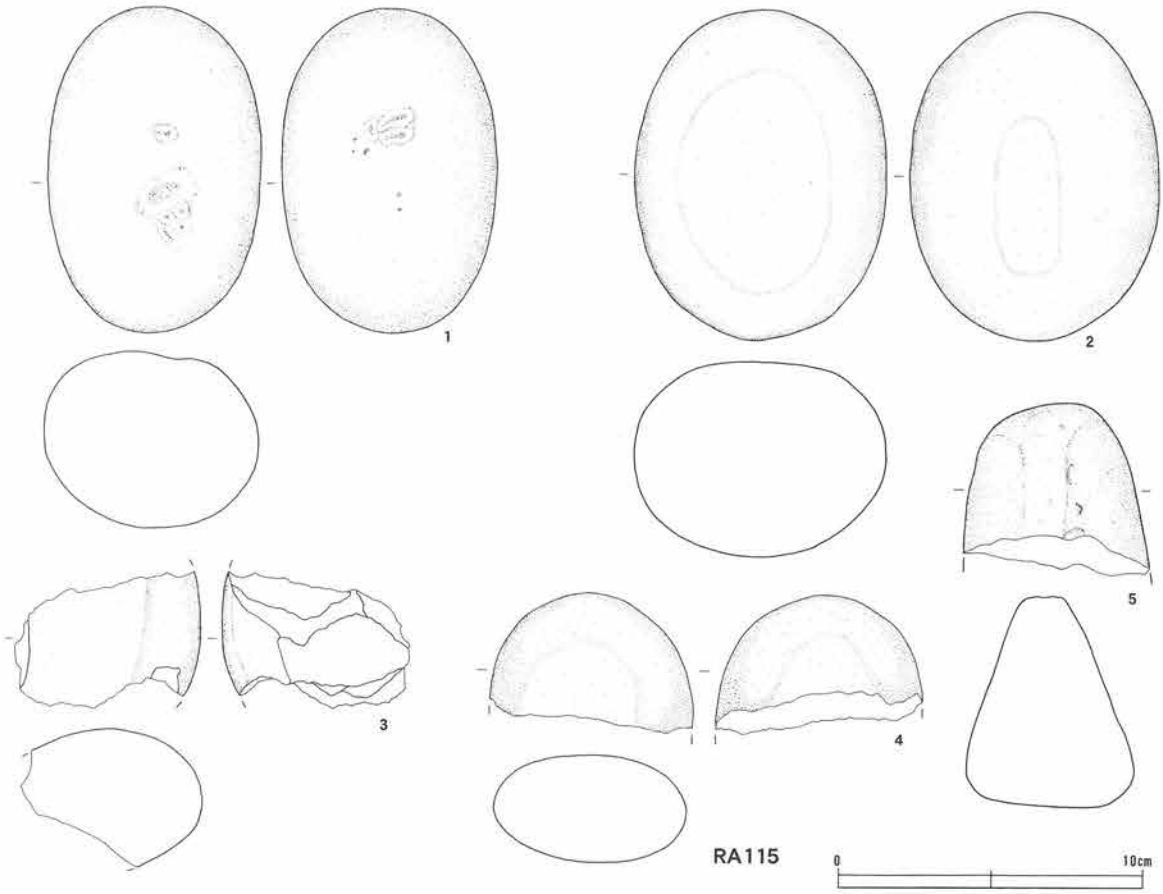


第51図　RA115住居跡出土遺物（3）



第52図　RA115住居跡出土遺物（4）

第53図　RA115住居跡出土遺物（5）



第54図　RA115住居跡出土遺物（6）

RA116住居跡

古代のRA520住居跡や縄文時代のRA115住居跡の下位に検出された。このほかにRA519やRA113・RA117住居跡などとも重複するが、最も下位に位置している。小判形を長くしたような形状で、ロングハウスとも呼ばれている。二次調査での規模は、長さ16.5m・幅5mで、さらに北側に延びそうである。長軸はほぼ等高線に沿い、床面は上位の北側から南側にかけてわずかに傾斜している。また壁際には、南側を除き壁溝が巡る。埋土は主に炭化物がまばらに混入する暗褐色土で構成され、巨礫や土器片・石器も見られる。

床面はほぼ平坦で締まっている。長軸の両壁に沿って14対の柱穴と、中央に5つの炉跡が検出されている。その他にも柱穴状の土坑が多数有り、壁溝の痕跡も残っており、最低三次（たぶん五回以上の）の建て替えが行われていたようである。柱穴の規模は径20～40cm・深さ50～70cmである。

炉は5つとも地床炉で、長径20～40cmの楕円形状に焼土が形成され、厚さは2～4cm程である。

出土遺物は、埋土上位からは前期末の土器片や磨製石斧・石剣などが、下位から床面にかけては前期前葉の土器片が得られている。この遺構の時期も前期前葉と思われる。

この遺構は1996年度の三次調査で北側の端まで検出されたので、詳細や図面は三次調査の項に記載する。

RA117住居跡（図版：55～58，写真図版：53・54・88）

大型住居であるRA116住居跡の中央付近に位置し、その住居の上位に検出された。RA113・RA115住居跡には切られているが、RA121を西側で切っている。このように複数の遺構と重複しているため、壁が明瞭でないところが多いが、平面形は楕円形状を呈しているようである。規模は、長軸6.5m・短軸4mで、壁高は残存状況の良いところで30cmである。

埋土には検出時から中期中葉の土器片が多く見られ、住居跡が廃棄後捨て場として利用されたような様相である。埋土上層は遺物を多く含み、炭化物の混入する黒褐色土、下位は風化礫や黄褐色土の混入する暗褐色土で構成される。また、壁際には長径60cmほどの円礫も見られた。

床面はほぼ平坦で、中央付近に石囲炉がある。炉を挟んで長軸方向に柱穴状土坑が3基検出されている。本来もう1基有り、2基ずつ対になるものと思われるが、この段階では検出できなかった。柱穴状土坑の規模は、開口部径20cm・深さ40cmほどである。

石囲炉は角礫を径60cmほどに並べて作られている。炉内に大きな土器片が有り、焼土は形成されていない。石囲炉の西寄りに径10cm・厚さ痕跡程度の焼土が形成されている。

出土遺物は埋土から多量の土器や土器片、磨石・石鏃各1点が得られている。

土器はキャリパー形を呈した深鉢が多く、浅鉢もある。沈線や隆帯で文様態を構成するものも多いが、撚糸の押圧や回転で施文されたものもある。58-2は前期前葉の土器片で胎土にセンイがわずかに含まれている。56-1～3は同一個体で棘状の突起があり大木8b式に相当するものもある。全体として中期中葉の遺物が多い。

この遺構の時期は、炉の形状から縄文時代中期と思われる。

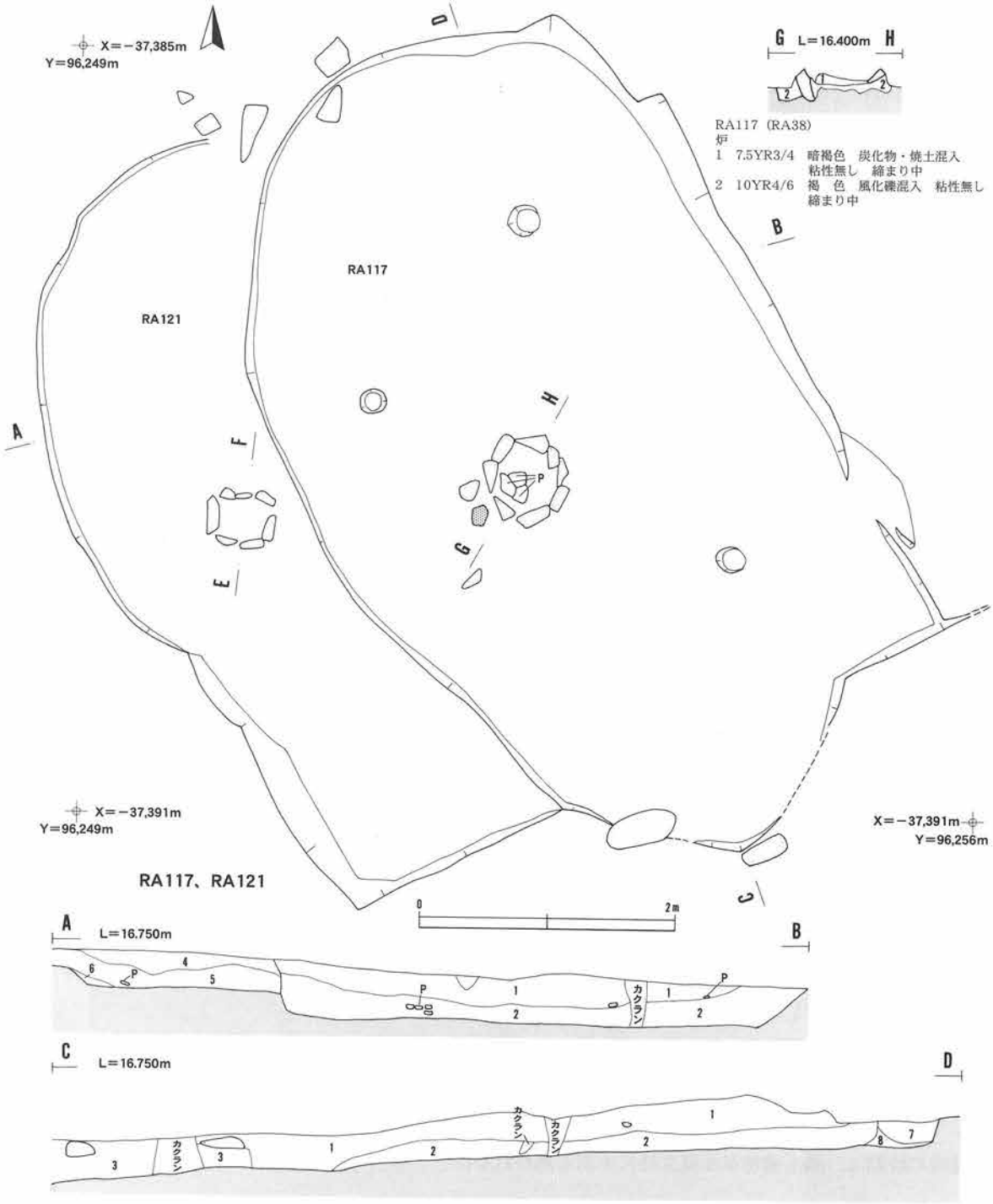
RA118住居跡（図版：59，写真図版：55・89）

奈良時代のRA518住居跡の北東に検出された。南西隅をRA518住居跡に切られている。不整な楕円形状を呈している。規模は長軸3.5m・短軸3m、壁高は5～10cmである。埋土はおもに風化礫の混入する黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦だが、巨礫も露出している。北寄りと南寄りに地床炉と見られる焼土がある。焼土の規模は径10cmと20cmで厚さはともに痕跡程度である。また西側の壁に沿って浅い壁溝がつくられている。柱穴状土坑も2基検出されているが、開口部径20～30cm・深さ10～20cmである。

出土遺物は埋土から縄文土器片少量と石鏃1点、須恵器片2点が得られている。59-1・2は須恵器の破片で、上位のRA518住居跡に伴っていた可能性もある。縄文土器片は平行沈線による区画文が施文された中期中葉のものが多い。

遺構の時期は、出土遺物から縄文時代中期と思われる。

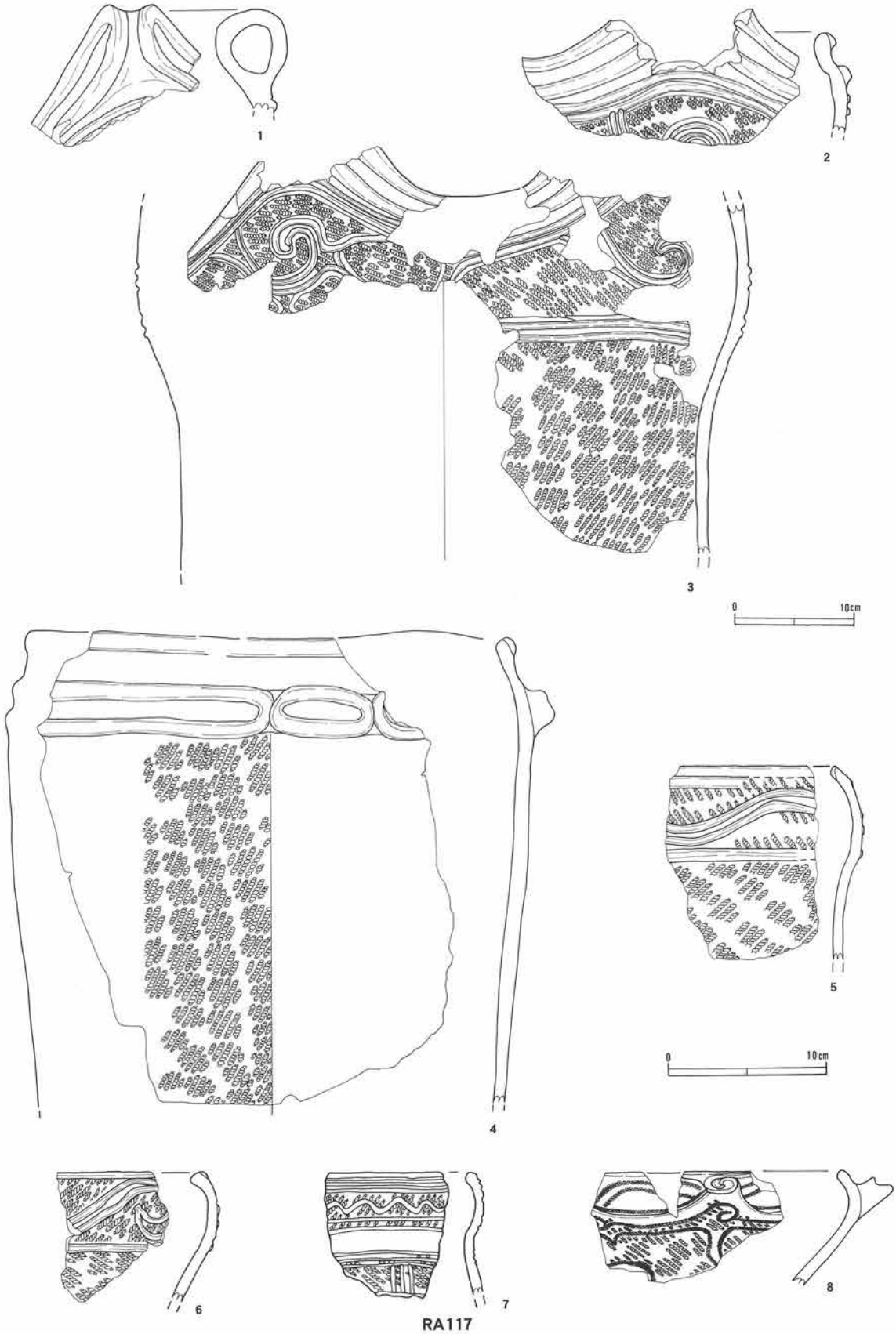


RA117 (RA38)
炉
1 7.5YR3/4 暗褐色 炭化物・焼土混入 粘性無し 締まり中
2 10YR4/6 褐 色 風化礫混入 粘性無し 締まり中

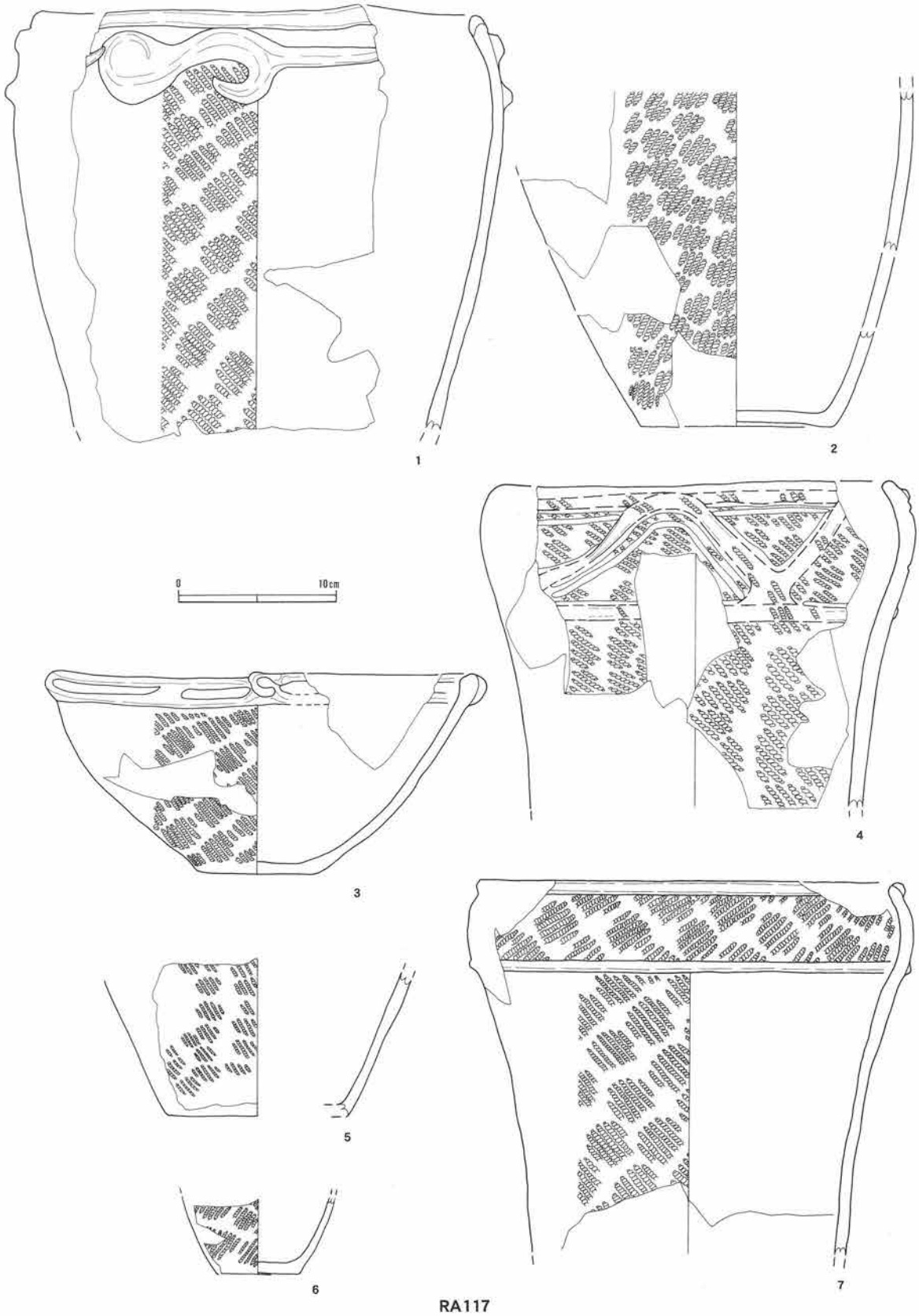
RA117 (RA38)
1 10YR2/3 黒褐色 炭化物・遺物混入 粘性無し 締まり中
2 10YR3/3 暗褐色 風化礫・黄褐色土混入 粘性無し 締まり中
3 10YR3/3 暗褐色 2より黄褐色土が多い 粘性無し 締まり中
4 10YR3/2 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・風化礫混入 粘性無し 締まり中
5 10YR3/3 暗褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中
6 10YR4/4 褐 色 黄褐色土粒混入 粘性弱 締まり中
7 10YR4/4 褐 色 黄褐色土粒混入 粘性弱 締まり中
8 10YR5/6 黄褐色 黒褐色土混入 粘性弱 締まり中

RA121 (RA42) 炉
1 10YR3/2 黒褐色 炭化物混入 粘性無し 締まりやや疎
2 5YR5/8 明赤褐色 焼土層 粘性無し 締まり中
3 10YR3/3 暗褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中
4 10YR2/3 黒褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中

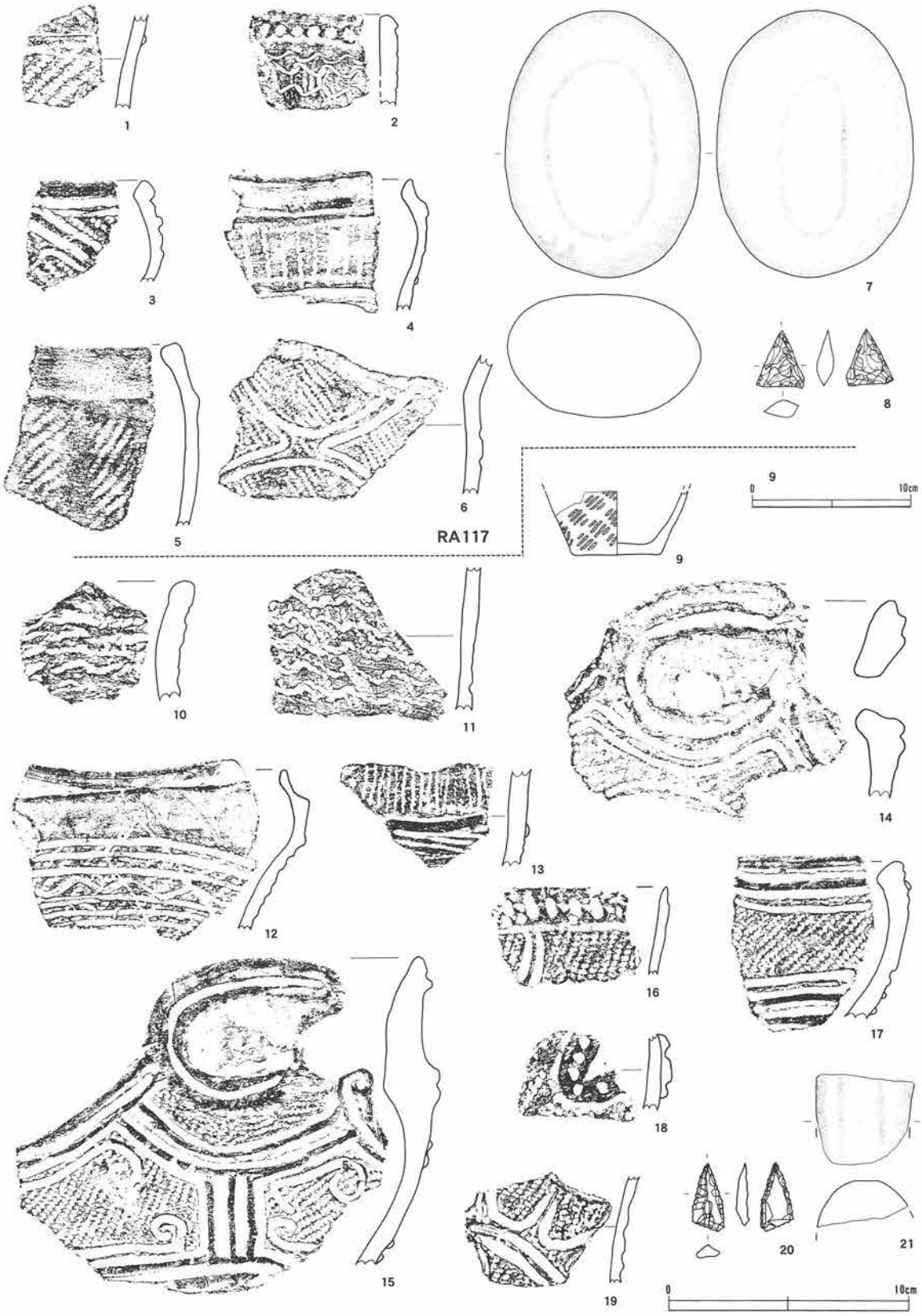
第55図 RA117・121住居跡



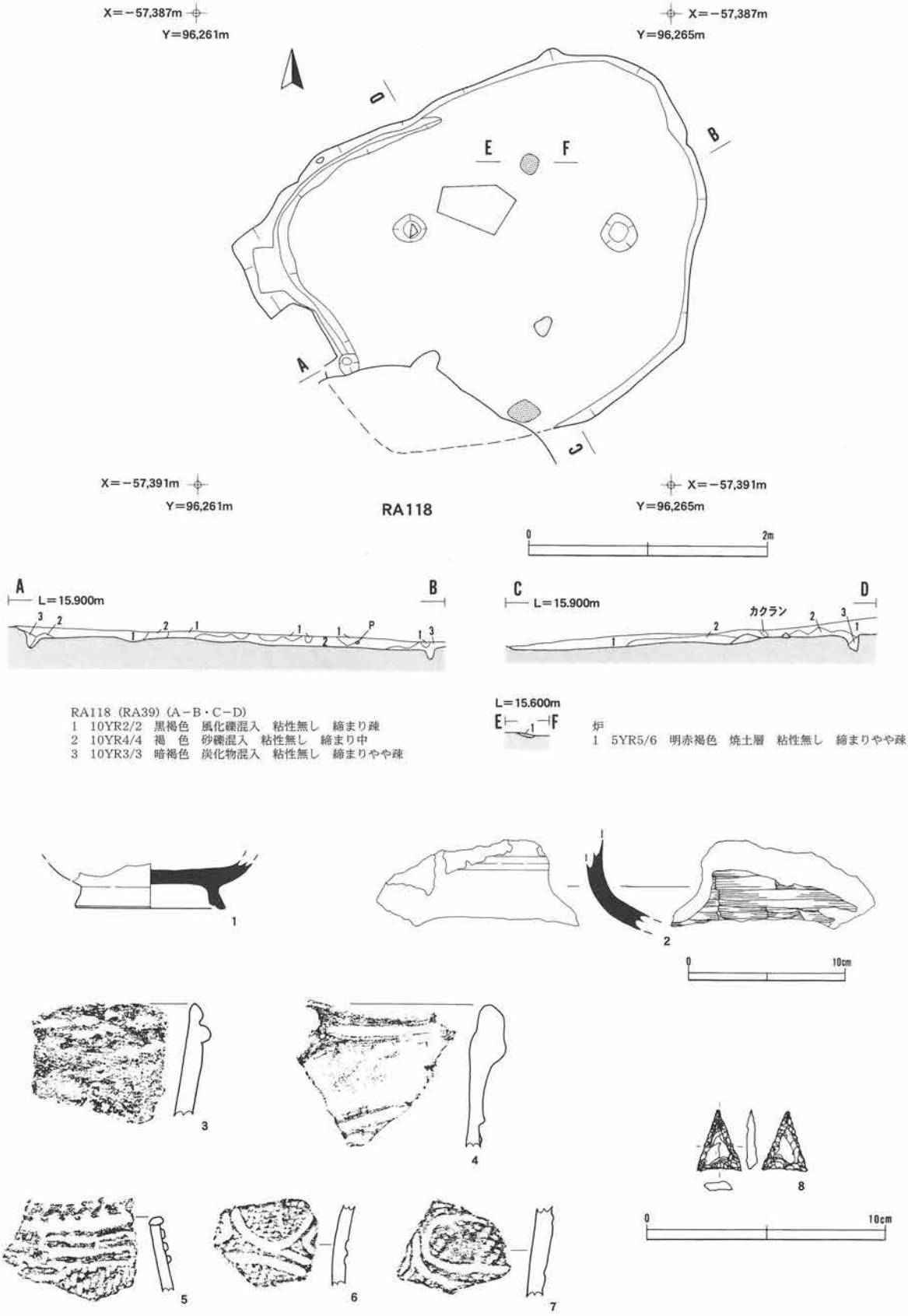
第56図　RA117住居跡出土遺物（1）



第57図　RA117住居跡出土遺物（2）



第58図　RA117・121住居跡出土遺物



第59図 RA118住居跡

RA119住居跡（図版：60～63，写真図版：56・57・89・90）

奈良時代のRA518住居跡の南側に位置し、RA122住居跡の上位に検出された。南側をRD42土坑に切られている。検出時からその広がりが不鮮明で、平面形も不明瞭である。石囲炉を中心にして、東側にわずかな壁溝を伴う壁と西側に壁らしいものが検出され、楕円形状の平面形だったようである。推定規模は、長軸6m・短軸4mほどである。壁高は東側で10cm・西側で20cmほどである。埋土は、上位が炭化物混じりの黒褐色土、下位が黄褐色土の混入する暗褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦であるが巨礫が露出しているところもある。柱穴は不明瞭である。中央付近に検出された石囲炉は、角礫を長径80cm・短径60cmに配置している。炉内に形成された焼土の厚さは最大5cmある。

出土遺物は、床面から縄文土器片が、埋土から縄文土器片・弥生土器片・土師器片・石器が多数出土している。61-1～4が床面出土の遺物である。1は中期中葉の土器片と思われる。2・3は前期前葉の土器片である。4は土器片を加工した円盤状土製品である。61-5～63-7は埋土出土の遺物である。埋土からは縄文時代前期前葉・中期中葉の土器や土器片だけでなく、61-6のような弥生時代の遺物、61-9のような奈良時代の土師器も出土している。石器は石鏃6点（62-10～15）、石匙6点（62-17～22）、削掻器1点（62-16）、石槍？1点（62-23）、石核1点（62-24）、磨石7点（63-1～7）がある。

遺構の時期は炉の形状や出土遺物から縄文時代中期と思われる。

RA120住居跡（図版：64・65，写真図版：57・58・91）

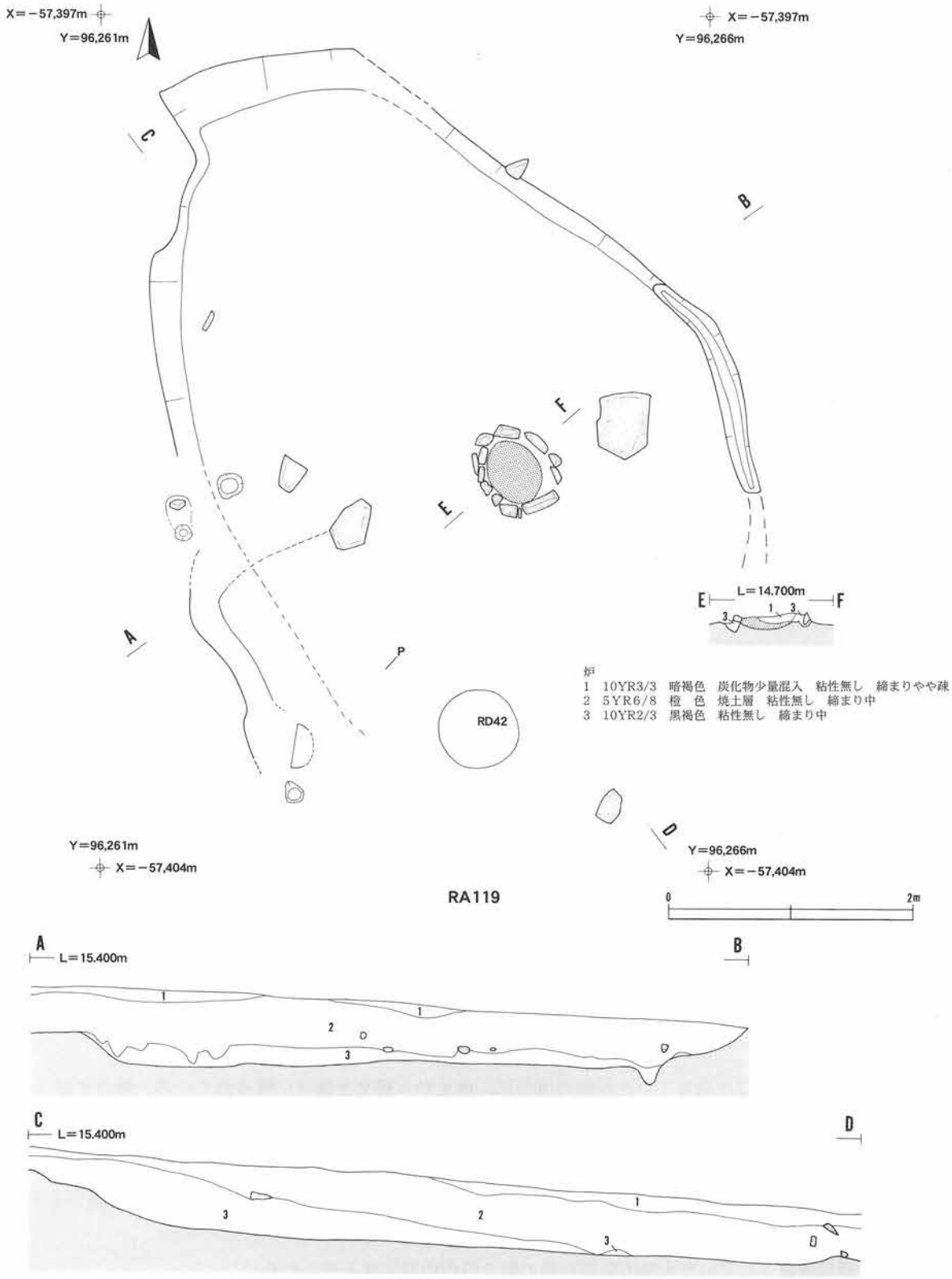
古代のRA521住居跡の南東に位置する。北側にはRA127・128住居跡があり、その２遺構を切っている。北側の壁はしっかりしているが、東側はRA522住居跡に切られ、南側もほかの遺構と重複するようでもあり、不明瞭であるが、楕円形状を呈するようである。規模は長軸5.7m・短軸4.7mで、壁高は最大75cmほどである。埋土は、上位が風化礫の混入する黒褐色土、下位が風化礫の混入する暗褐色土で構成される。西側の壁際には黄褐色土が混入する褐色土が見られた。

床面はほぼ平坦であるが、西側の壁寄りに幅90cmほどの一段高い面がベッド状に巡り、床との高低差は約10cmである。北側の壁際には壁溝が巡る。

中央付近に石囲炉があり、そこから東側に少し掘り込まれた面が広がる。いわゆる複式炉の前庭部と思われ、この掘り込みの東端から大木9式の深鉢が正立して検出されている。石囲炉の大きさは1辺80cmの方形で、前庭部は長軸1.2m・短軸1.1mである。炉内に焼土はほとんど形成されていない。炉の西側と南側に不整形な焼土が形成され、厚さは1cmほどである。また前庭部の南側には粘土が貼られている。柱穴状のピットが壁から80cmほどの所に7つ検出されているが、住居の中央から西側だけで不自然である。東側では確認されてなかった。

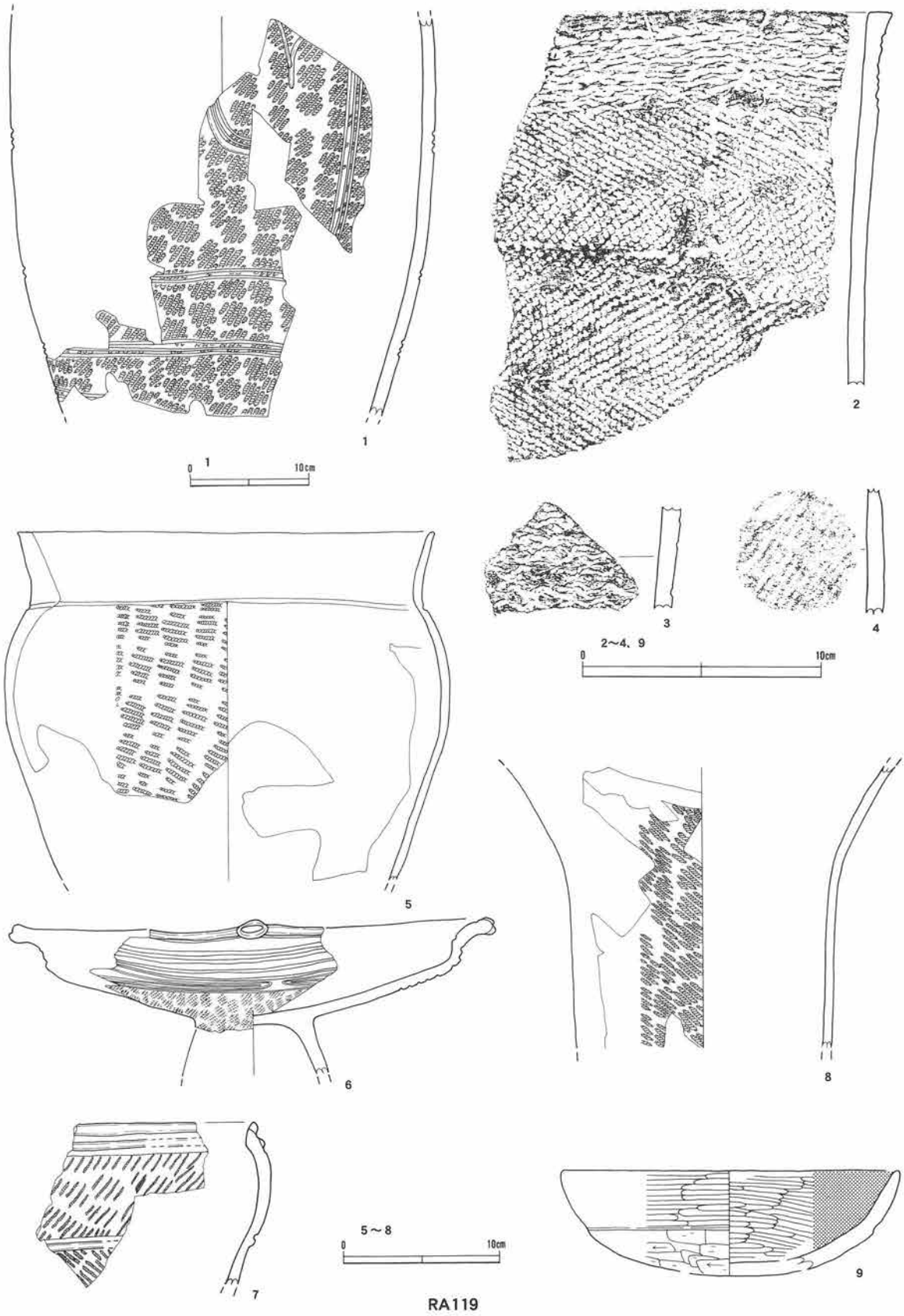
出土遺物は、前庭部に正立していた深鉢のほかに、埋土から縄文土器片が得られている。埋設土器（65-1）は大木9式期に相当する深鉢で、一部に補修孔が認められる。埋土から出土した土器片の中には65-4のような前期前葉の土器や64-1・2，65-2・5～7のような中期中葉のものも含まれる。石器は石鏃2点（65-8・9）、石匙1点（65-10）、削掻器2点（65-11・12）、磨石1点（65-13）がある。石鏃の1点は基部がわずかにくびれてアメリカ式石鏃に似た形状を示す。

遺構の時期は埋設されていた土器の時期同様の縄文時代中期後葉と思われる。

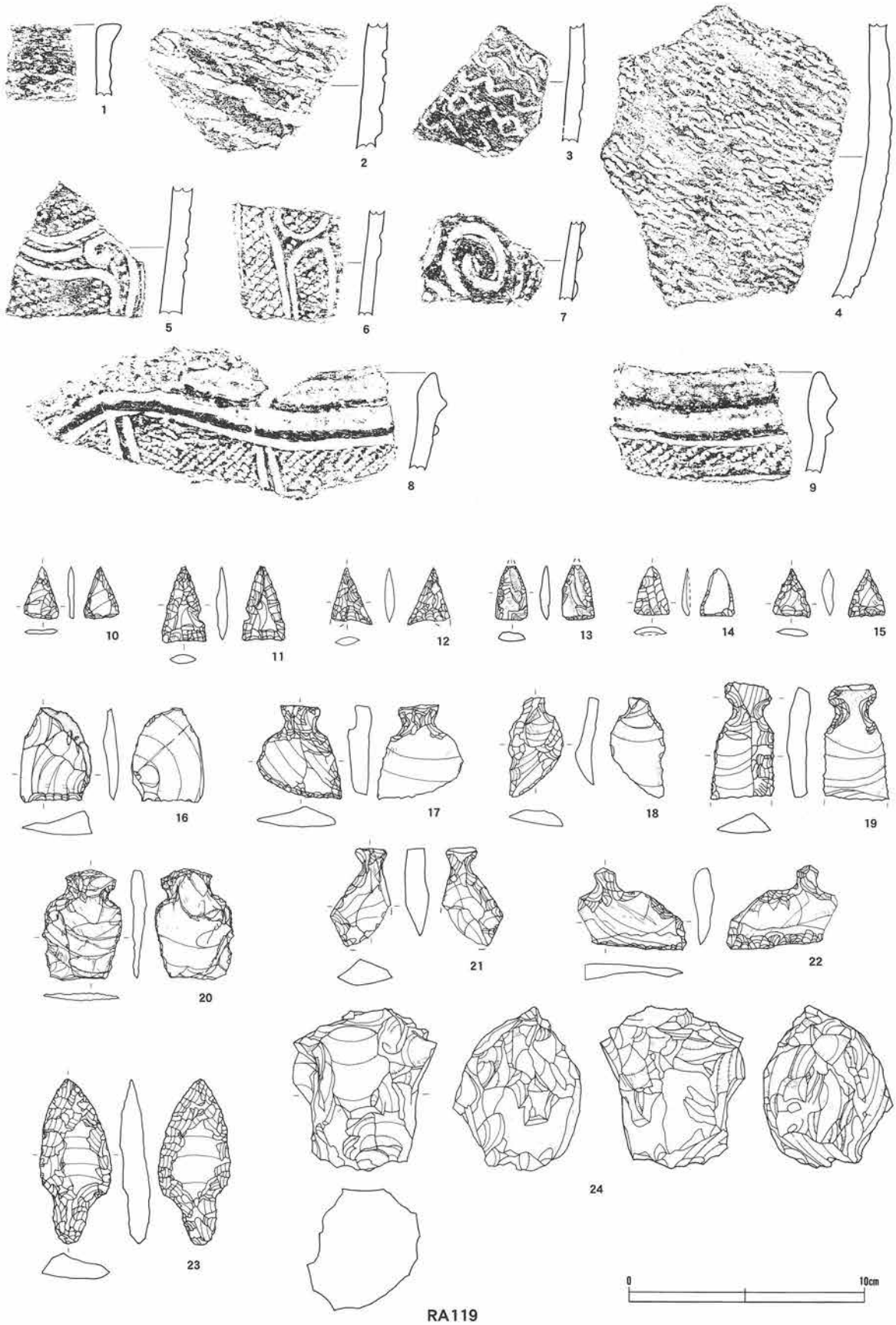


RA119 (RA40)
1 10YR2/1 黒 色 礫混入 粘性無し 締まり中
2 10YR2/3 黒褐色 炭化物混入 粘性無し 締まり中
3 10YR3/3 暗褐色 黄褐色土粒混入 粘性弱 締まり中

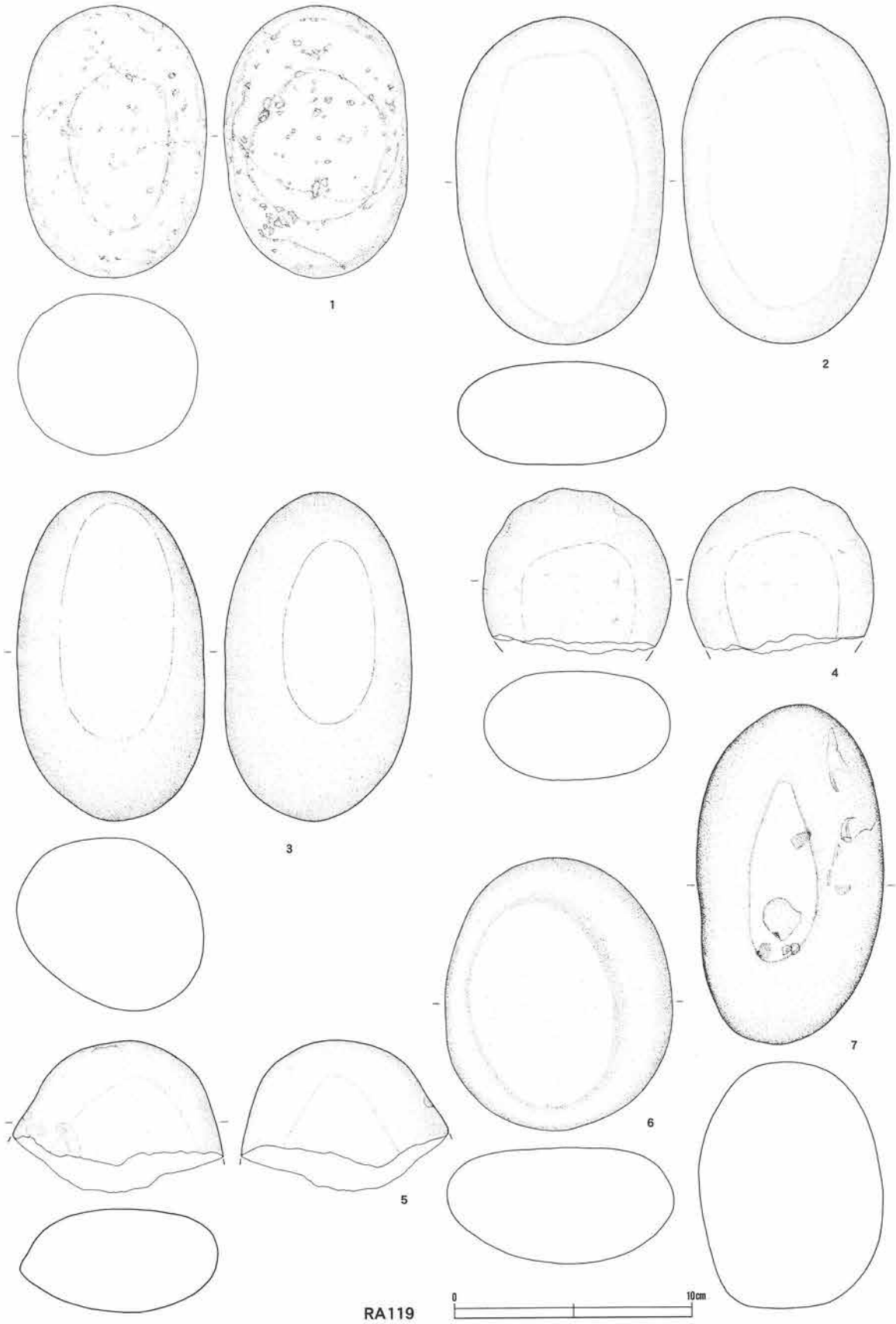
第60図 RA119住居跡



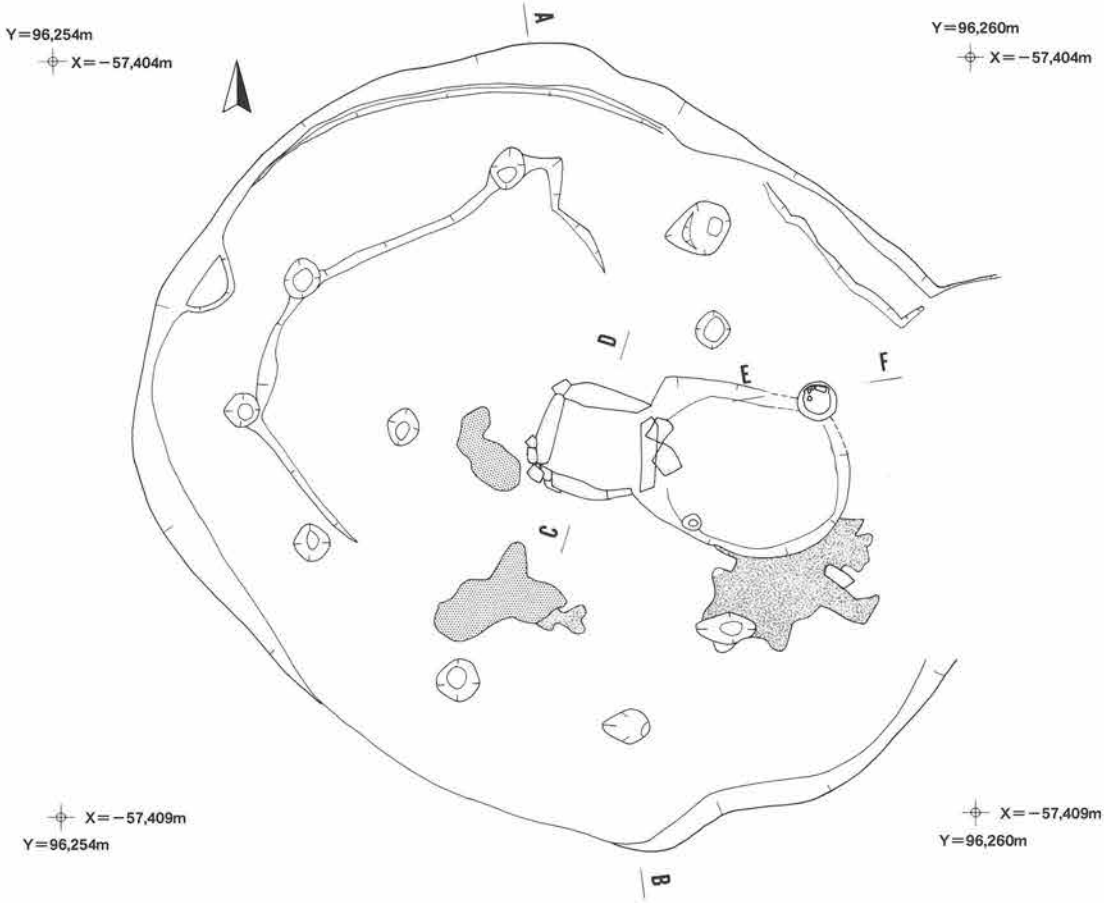
第61図　RA119住居跡出土遺物（1）



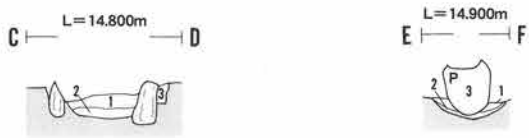
第62図　RA119住居跡出土遺物（2）

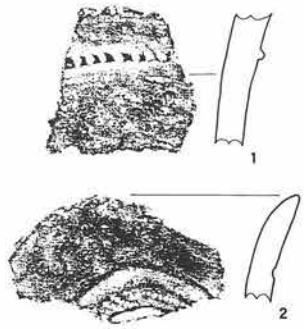


第63図　RA119住居跡出土遺物（3）



RA120 (RA41)
1 10YR2/2 黒褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中
2 10YR3/2 黒褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中
3 10YR3/3 暗褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中
4 10YR4/4 褐 色 黄褐色土粒混入 粘性弱 締まりやや密



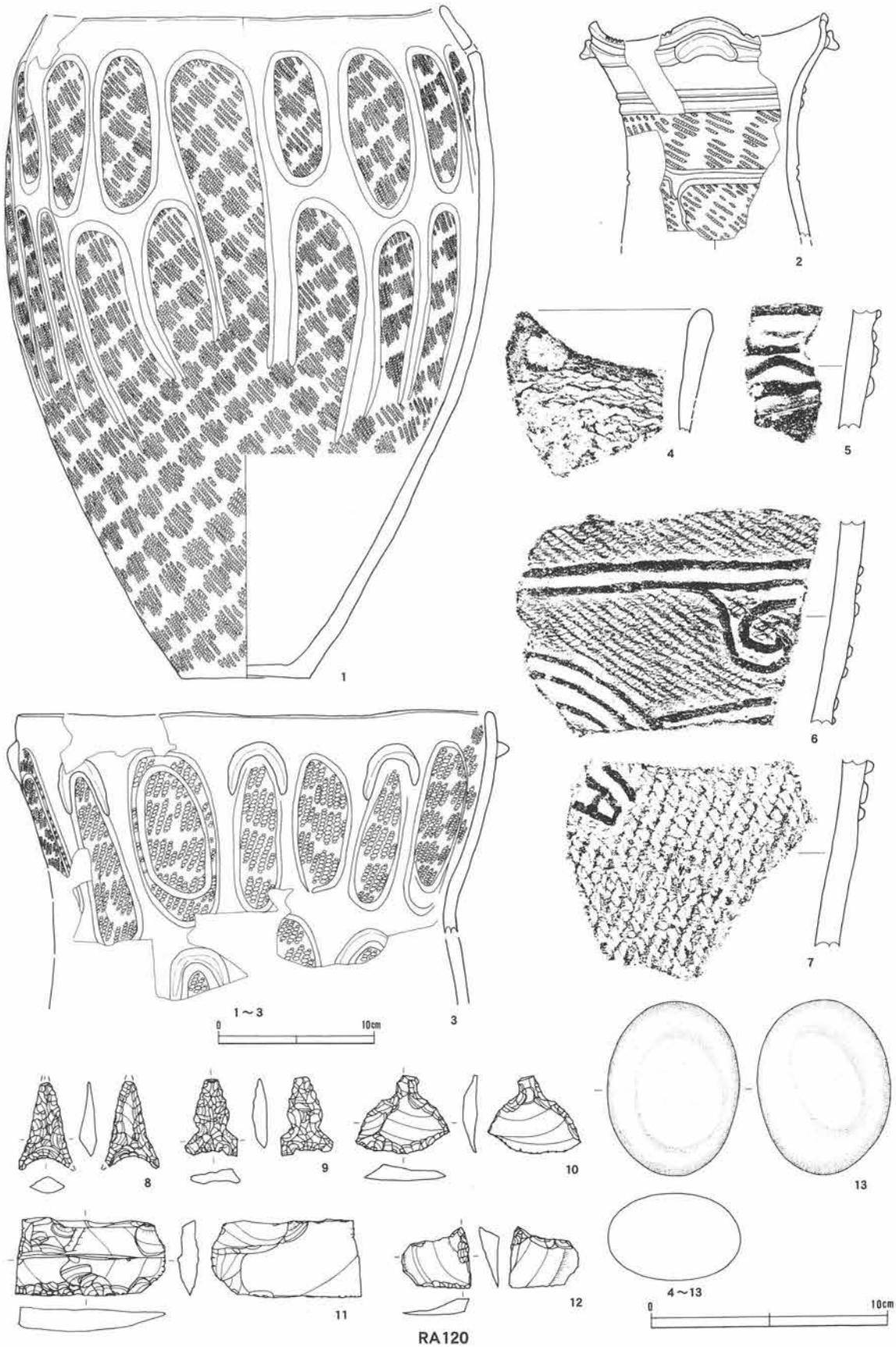


炉
1 10YR3/3 暗褐色 炭化物少量混入 粘性無し 締まり中
2 5YR4/8 赤褐色 焼土層 粘性無し 締まり中
3 10YR4/4 褐 色 風化礫混入 粘性無し 締まり中

埋設土器
1 10YR4/4 褐 色 粘性無し 締まり中
2 10YR5/6 黄褐色 地山V層 粘性弱 締まりやや密
3 10YR2/2 黒褐色 炭化物混入 粘性無し 締まりなし

0 10cm

第64図 RA120住居跡



第65図　RA120住居跡出土遺物

RA121住居跡（図版：55・58，写真図版：53・54・89）

RA116住居跡の上位にRA117住居跡とともに検出された。しかしRA117住居跡の方が上位に当たり、東側の状況は不明である。ほかの遺構とも重複し、明瞭な形状ではないが、ほぼ楕円形状を呈するようである。規模は長軸6m・短軸3.5mほどと思われる。壁高は北西側で10cmほどで、ほかは痕跡程度である。埋土は主に風化礫の混入する暗褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦で、中央西寄りに石囲炉がある。柱穴は確認できなかった。炉は40cm×50cmの長方形状に角礫を並べて作られている。礫の間隔はやや広く、焼土は最大3cmの厚さで形成されている。

出土遺物は埋土から縄文土器片少量と石鏃・磨石の破片各1点が得られている。

58-10・11は前期の土器片で胎土にセンイが少量混入する。58-12～19は中期の土器片で沈線と隆帯による文様が構成され、58-14・15のように立体的な施文のなされた口縁部破片もある。

遺構の時期は、炉の形状や出土遺物から縄文時代中期と思われる。

RA122住居跡（図版：66，写真図版：58・59・91）

RA119住居跡の下位約10cmに検出された。南側は不明瞭であるが、平面形はほぼ円形を呈するようである。壁の立ち上がりは緩く湾曲する。規模は直径約4mで、壁高は北西側で25cmである。埋土は炭化物の混入する黒褐色土で、締まりはやや密である。

床面には巨礫も露出し、やや凹凸がある。東西及び南側の壁際に柱穴状の土坑が検出されている。開口部径20cm前後で、深さは20～30cmである。中央付近に２カ所・北壁際に1カ所の地床炉と見られる焼土がある。いずれも不整な楕円形に広がり、中央付近のものは長径1mと90cm、北壁際のものは長軸60cmである。焼土の厚さは中央付近で最大10cmほどである。

出土遺物は埋土から縄文時代前期の土器片少量と石鏃が得られている。土器片にはセンイが混入している。

遺構の時期は縄文時代前期と思われる。

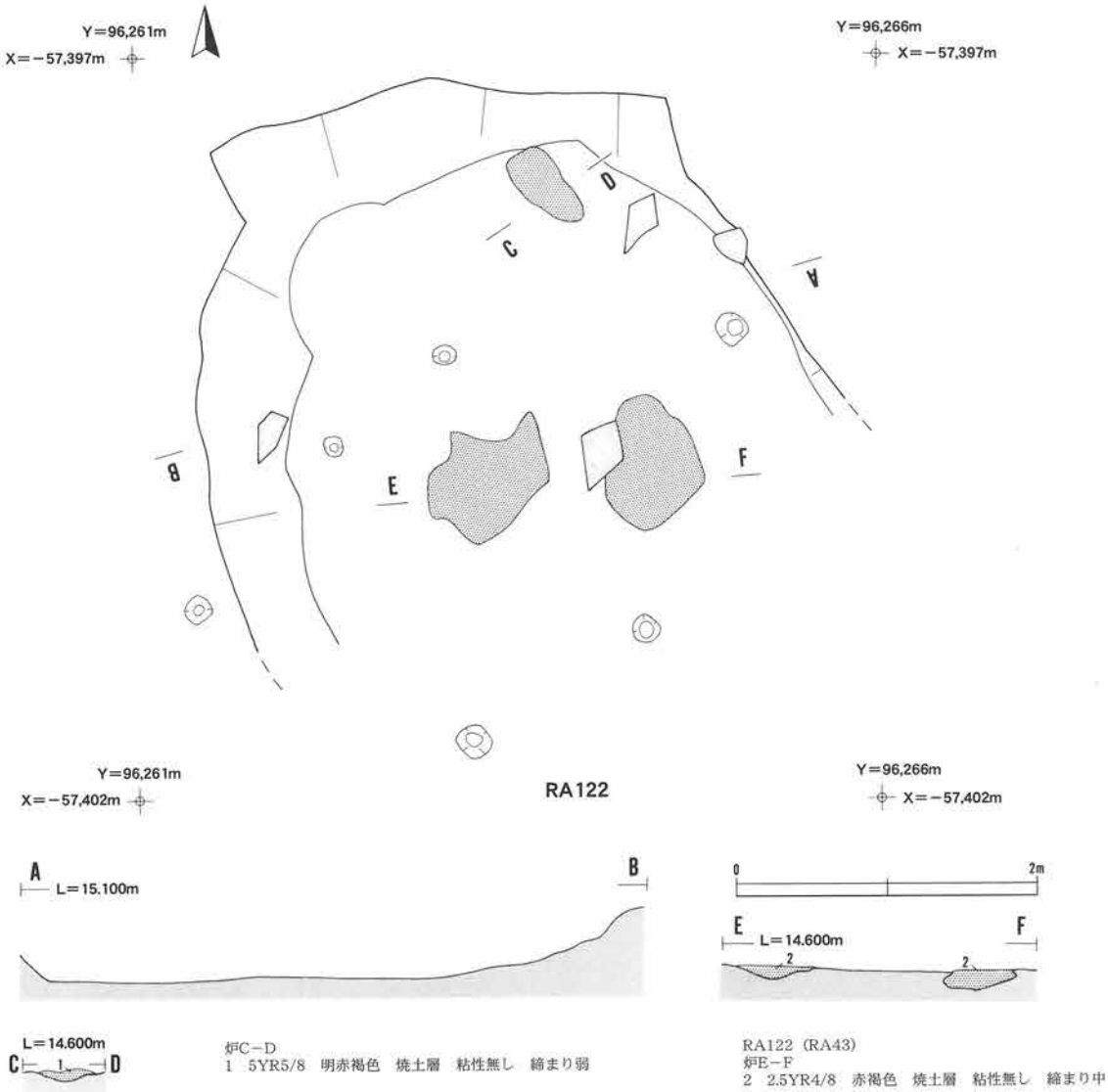
RA123住居跡（図版：67，写真図版：59・91・92）

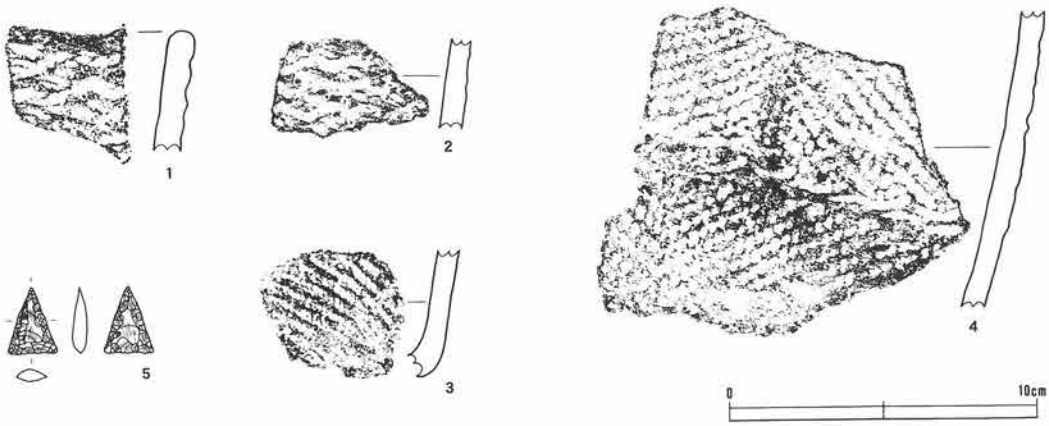
RA521住居跡の南西にRA125住居跡・RD45土坑と共に検出された。RA125住居跡より新しく、RD45土坑とRA521住居跡に切られている。そのため西側の壁と床の一部しか残存しないが、長軸約2.5mの楕円形状を呈する。壁高は約15cmである。埋土は風化礫や炭化物の混入する黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦で、締まりは中である。中央付近に不定形の小土坑が、北壁際に杭穴状の小土坑が5つ検出されている。炉跡は検出されていない。

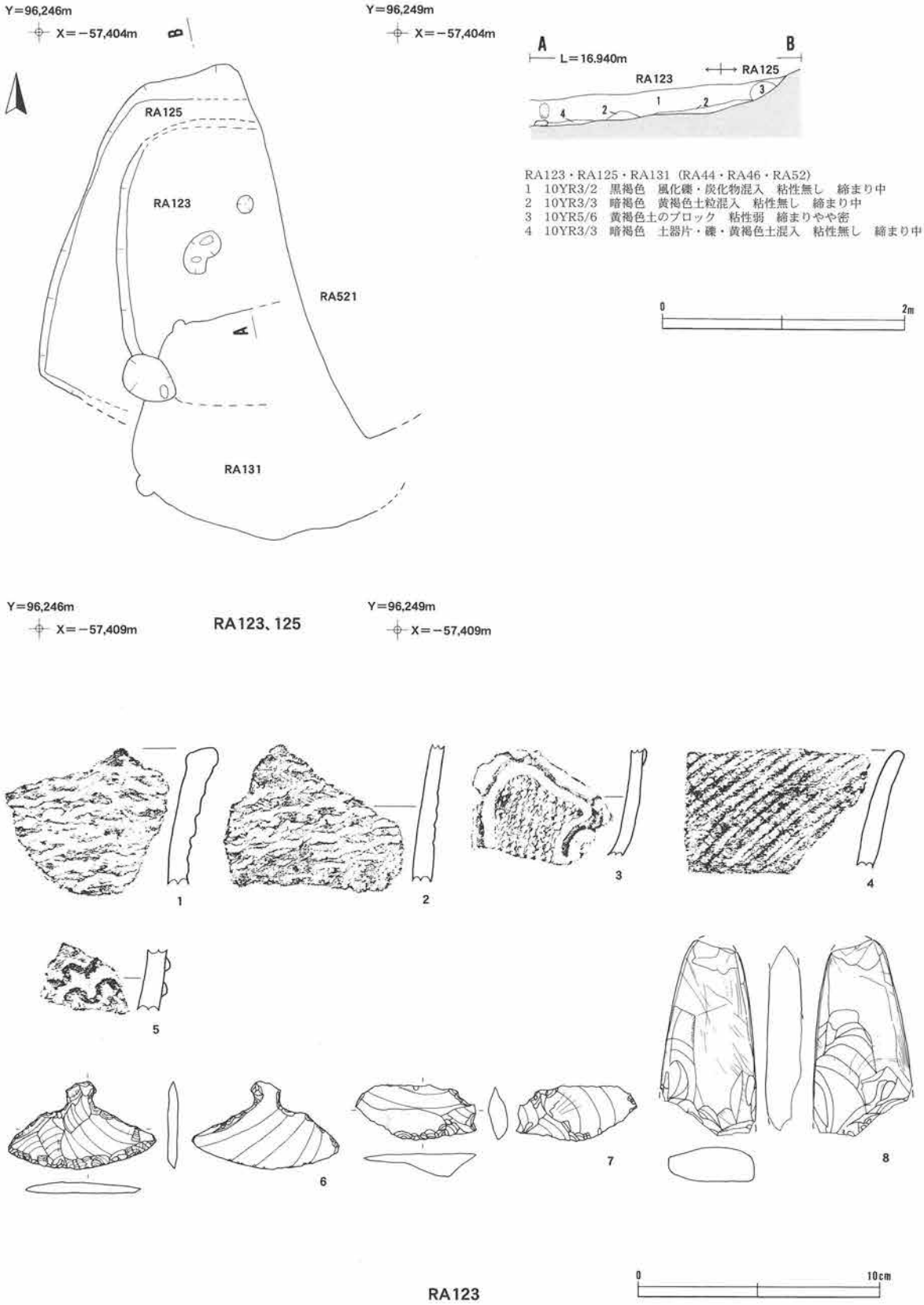
出土遺物は、埋土から縄文時代前期と中期の土器片少量と石器3点が得られている。67-1・2は前期前葉、67-5は前期中葉、67-3・4は中期中葉と思われる。石器は石匙（67-6）、削掻器（67-7）、磨製石斧（67-8）各1点で、石斧は破損品である。

遺構の時期は、形態や出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。





第66図 RA122住居跡



第67図 RA123、125住居跡

RA124住居跡（図版：68，写真図版：60・92）

古代のRA516住居跡の北西に位置し、同住居跡に切られている。北西には大型住居跡RA116がある。また南側は斜面下位にあたり壁が残存せず、北西側の壁と床の一部・炉のみの残存である。残存部から推測して、平面形は楕円形状で、規模は長軸2.5mほどと思われる。壁高は残存部で15cmである。埋土は、炭化物の混入する黒褐色土や風化礫と炭化物の混じる暗褐色土で、締まりはやや密である。

床面は平坦で、締まりはやや密である。柱穴は確認されていない。地床炉と見られる焼土は西寄りにあり、長径50cmの不整な楕円形状に広がる。焼土の厚さは最大4cmに形成されている。

出土遺物は埋土から縄文時代前期前葉の土器片少量が得られている（68-1～5）。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RA125住居跡（図版：67，写真図版：59）

古代のRA521住居跡の南西にRA123住居跡・RD45土坑と共に検出され、3つの遺構に切られている。そのため北西側の壁と床の一部しか残存していない。残存部から長軸が約3mの楕円形状を呈すると思われる。壁高は25cmほどである。埋土は風化礫や炭化物の混入する黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦で、締まりは中程度である。柱穴は確認されていないが、北側と西側の壁際に杭穴状の小土坑が13基検出されている。炉跡は検出されていない。

出土遺物はRA123住居跡の埋土に混入していた可能性もあるが、床面からの出土遺物はない。

遺構の時期は、RA123住居跡と同様縄文時代前期前葉と思われる。

RA126住居跡（図版：68・69，写真図版：61・92）

RA521の北西に検出された。同住居跡に切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、壁はやや外傾して立ち上がる。規模は長軸2.5m・短軸1.6mで、壁高は北西側で約20cmである。埋土はおもに風化礫・炭化物の混入する黒褐色土で構成されている。

床面は平坦で、締まりはやや密である。北側の壁際に2基・南側の壁際に1基の柱穴状土坑がある。開口部径・深さともに20cmほどである。その他に西側の壁に沿って径3～4cmの杭穴状の小穴が12基確認されている。焼土は確認されていない。

出土遺物は埋土から縄文時代前期前葉の土器片が少量と石鏃1点が得られている。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

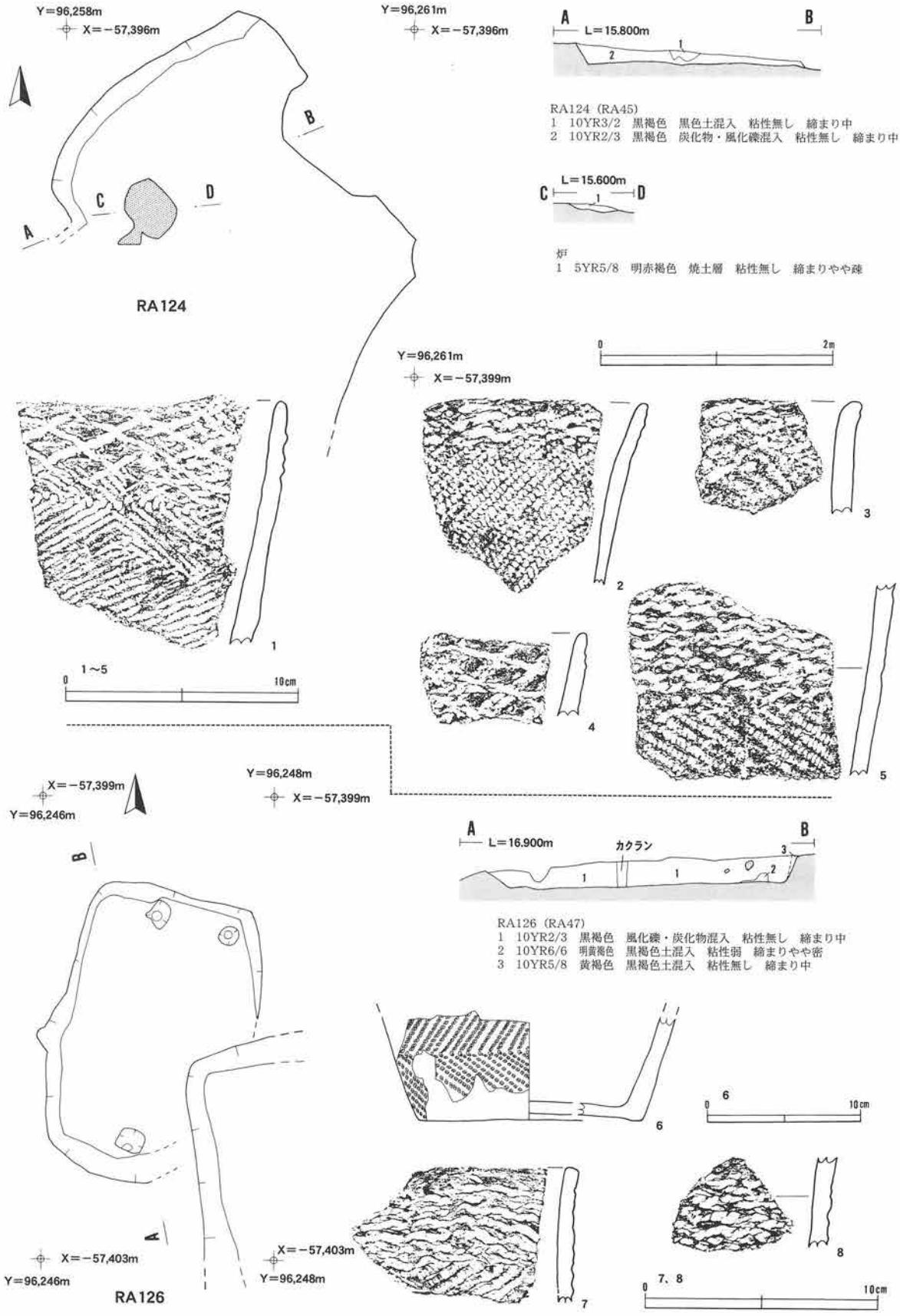
RA127住居跡（図版：69，写真図版：62・92）

RA121住居跡の北壁にRA128住居跡と共に検出された。両遺構ともRA121住居跡に切られており、RA128住居跡が当遺構より上位である。北側の一部しか残らないが、長方形になるようである。規模は1辺約3m、壁高35cmほどである。埋土は風化礫や炭化物が混入する暗褐色土で構成されている。

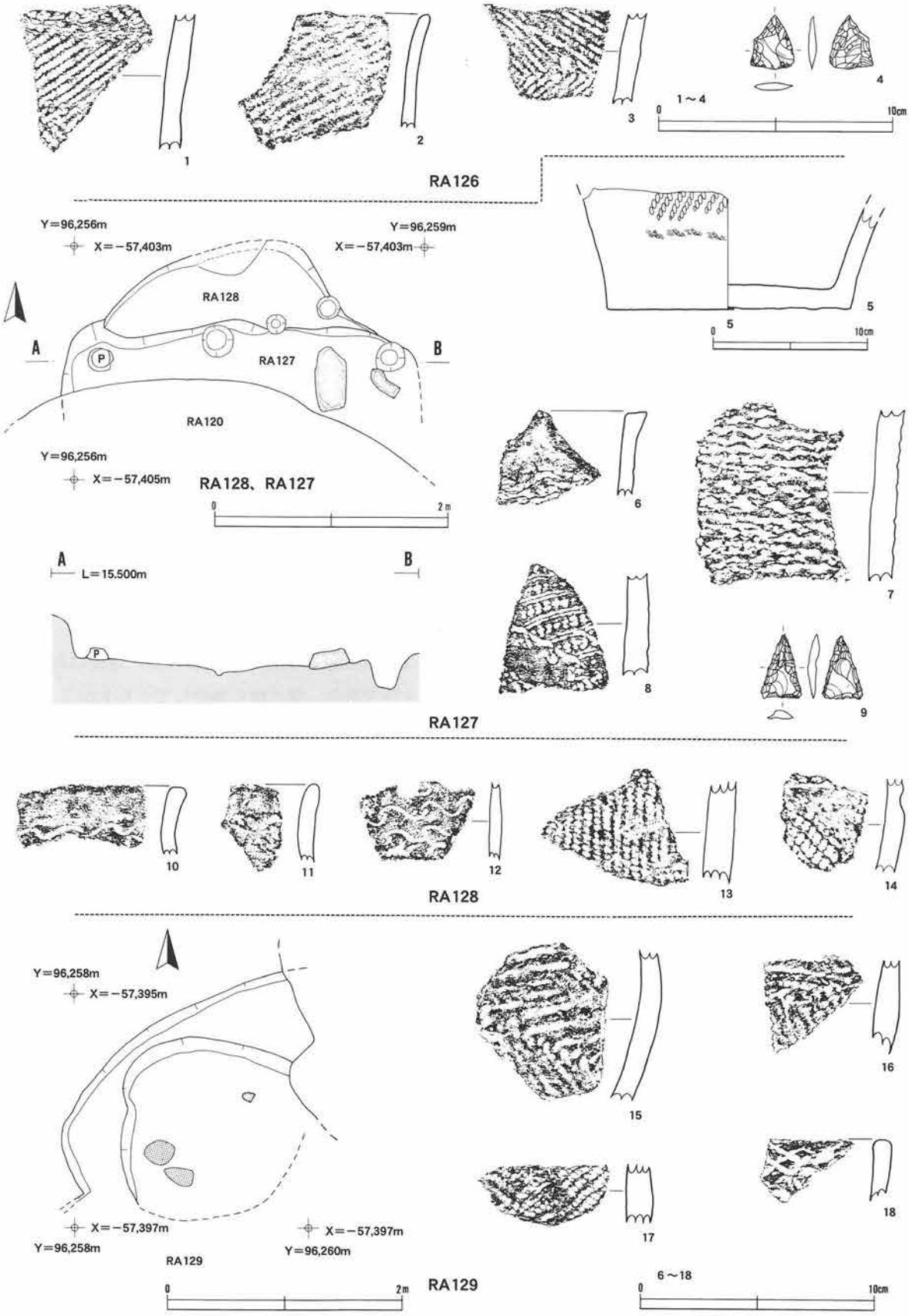
床面はほぼ平坦で、締まりはやや密である。北側の壁際の中央と両端に柱穴が3基ある。柱穴の規模は、開口部径20～30cm・深さ25～30cmである。また東寄りには長さ50cmほどの巨礫がある。炉跡は検出されていない。

遺物は、埋土から縄文時代前期の土器片少量と石鏃1点が得られている。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。



第68図 RA124、126住居跡



第69図　RA126・127・128・129住居跡

RA128住居跡（図版：69，写真図版：62・92）

RA127住居跡とともにRA121住居跡の北壁に検出され、両遺構に切られている。そのため北側の一部分しか残らないが、楕円形状の平面形だったようである。規模は推定で長軸2m・壁高は20cmほどである。埋土は炭化物と風化礫の混じる暗褐色土で構成されている。

床面はほぼ平坦で、東側の壁寄りに柱穴状の土坑が1基ある。規模は開口部径20cm・深さ25cmほどである。炉跡は検出されていない。

遺物は埋土から縄文時代前期前葉の土器片少量が得られている。土器片の胎土にはセンイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RA129住居跡（図版：69，写真図版：62・92）

RA124住居跡の下位に検出された。北西側の壁しか残存しないが、長径2mほどの楕円形状になるようである。壁高は5・6cmである。埋土は炭化物の混入する黒褐色土で構成される。

床面は平坦で、締まりは中である。西寄りに地床炉と思われる焼土が検出されている。焼土は径20cmほどの2つの楕円形の広がりで、厚さは痕跡程度である。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期前葉の土器片少量が得られている。土器片の胎土にはセンイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RA130住居跡（図版：70，写真図版：63・93）

古代のRA518住居跡の南側にほぼ接し、縄文時代のRA122住居跡の北側に検出された。南側はRA122住居跡に切られているが、残存部から長方形を呈していたようである。壁は緩く湾曲して立ち上がる。規模は長辺約4m・壁高30～40cmである。埋土は炭化物の混じる黒褐色土である。

床面は礫も露出し、やや起伏がある。東西の壁際に柱穴状の土坑が検出されている。規模は開口部径・深さともに15～20cmである。炉跡は検出されていない。

遺物は埋土から縄文時代前期前葉の土器片少量が得られている。土器片の胎土にはセンイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

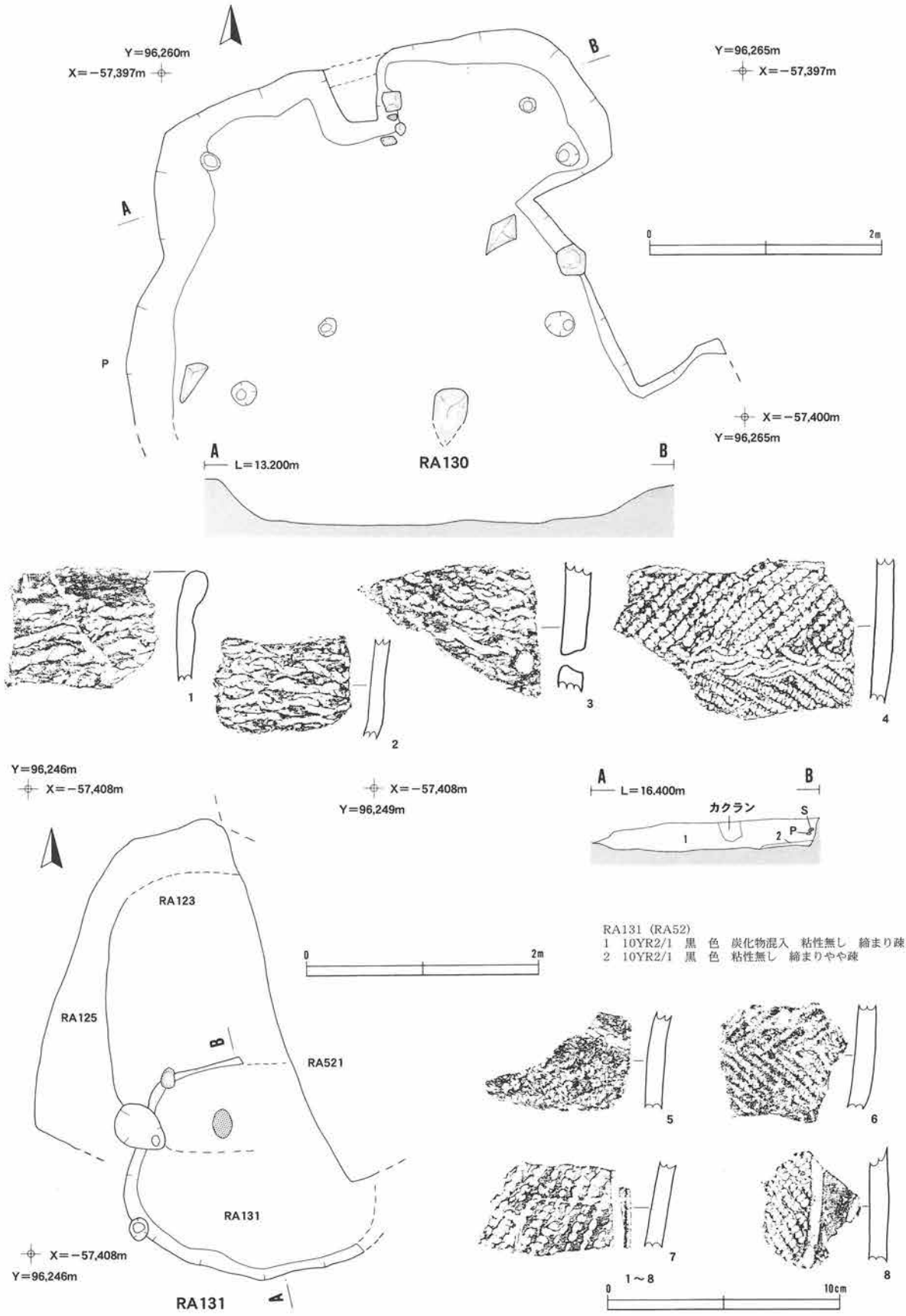
RA131住居跡（図版：70，写真図版：63・93）

古代のRA521住居跡の南西に縄文時代のRA123・RA125住居跡と共に検出された。RA521住居跡に切られ、ほかの2遺構よりは新しい。平面形は楕円形を呈するようで、規模は長径2.1m・短径1.8m、壁高10cmほどである。埋土は礫や黄褐色土の混入する黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦で、締まりは中程度である。中央北東寄りに長径20cmほどの焼土の痕跡があり、地床炉と思われる。柱穴は検出されていない。

出土遺物は埋土から縄文時代前期前葉の土器片が少量得られているが、整理中に行方不明になっていることが判明した。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。



第70図 RA130・131住居跡

竪穴状遺構

RE04竪穴状遺構（図版：71・72，写真図版：64・93）

RA165住居跡の東に位置し、Ⅴ層上面で検出された。平面形は長方形で、壁は直立する。規模は長辺2.7m・短辺1.5mと1.7m、壁高20cmである。埋土は主に風化礫、炭化物が微量に混入する暗褐色土で構成され、締まりはやや密である。底面はほぼ平坦で、締まりは密である。焼土や柱穴状土坑はない。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期・中期の土器片少量や磨石・剥片が出土している。土器片は72-1・5のように沈線や隆帯による施文がされた中期中葉のものと、72-3のように胎土にセンイの混じる前期前葉のものがある。72-6は縁辺に磨面が形成された磨石で、破損品である。

遺構の時期は、縄文時代中期中葉と思われる。

土坑

RD31土坑（図版：71・72，写真図版：64・93）

RA165住居跡の東側に位置し、Ⅲ層上面で検出された。南側や東側の壁は撹乱を受けているが、隅丸方形状を呈していたようである。壁は外傾して立ち上がる。規模は長軸2.3m・短軸1.8m、壁高15～20cmである。埋土は主に炭化物や黄褐色土の混じる暗褐色土で構成され、締まりは中位である。底面はほぼ平坦で、締まりはやや密である。

出土遺物は、埋土や底面から縄文時代前期前葉の土器片少量が得られている。胎土にはセンイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RD33土坑（図版：71・72，写真図版：65・93）

RA516住居跡内の北西隅に位置し、住居跡の床面に検出された。平面形はほぼ円形を呈し、壁は湾曲して立ち上がる。規模は開口部径90cm・深さ40cmである。埋土は主に炭化物や黄褐色土を含む黒褐色土で構成され、締まりはやや疎である。底面には礫が露出し、東側に傾斜している。

出土遺物は、埋土から縄文時代中期の土器片が得られている。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD34土坑（図版：71・72，写真図版：65・93・94）

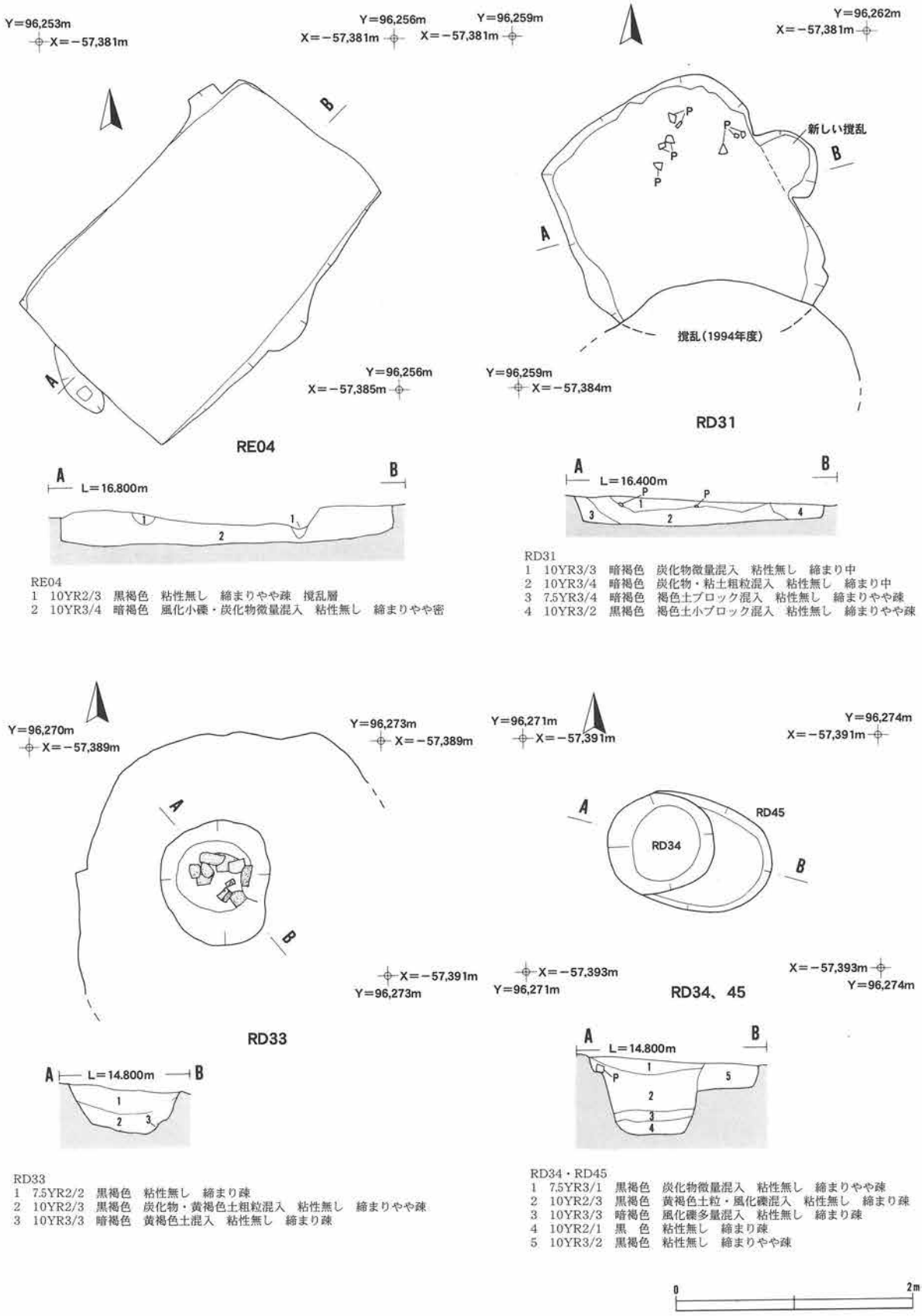
RA516住居跡内の中央西寄りに位置し、住居跡の床面にRD45土坑とともに検出された。RD45土坑より新しい。平面形は円形で、壁は外傾する。規模は開口部径1m・深さ60cmほどである。埋土は主に炭化物や黄褐色土・風化礫の混入する黒褐色土で構成される。底面はほぼ平坦で、締まりは中程度である。

出土遺物は埋土から縄文時代前期の土器片が得られている。胎土にはセンイが混入するものもある。

遺構の時期は、縄文時代前期と思われる。

RD36土坑（図版：73・74，写真図版：65・94）

G10区のⅤ層上面で検出された。東側は近年の撹乱により破損を受け、西側しか残存しない。平面形は円形を呈していたようで、壁は底面付近は直立し、上位は大きく広がって立ち上がる。規模は開口部径推定で1.5m・深さ55cmである。埋土は上位が褐色土粗粒を含む黒褐色土、下位は白黄褐色土ブロックを含む暗



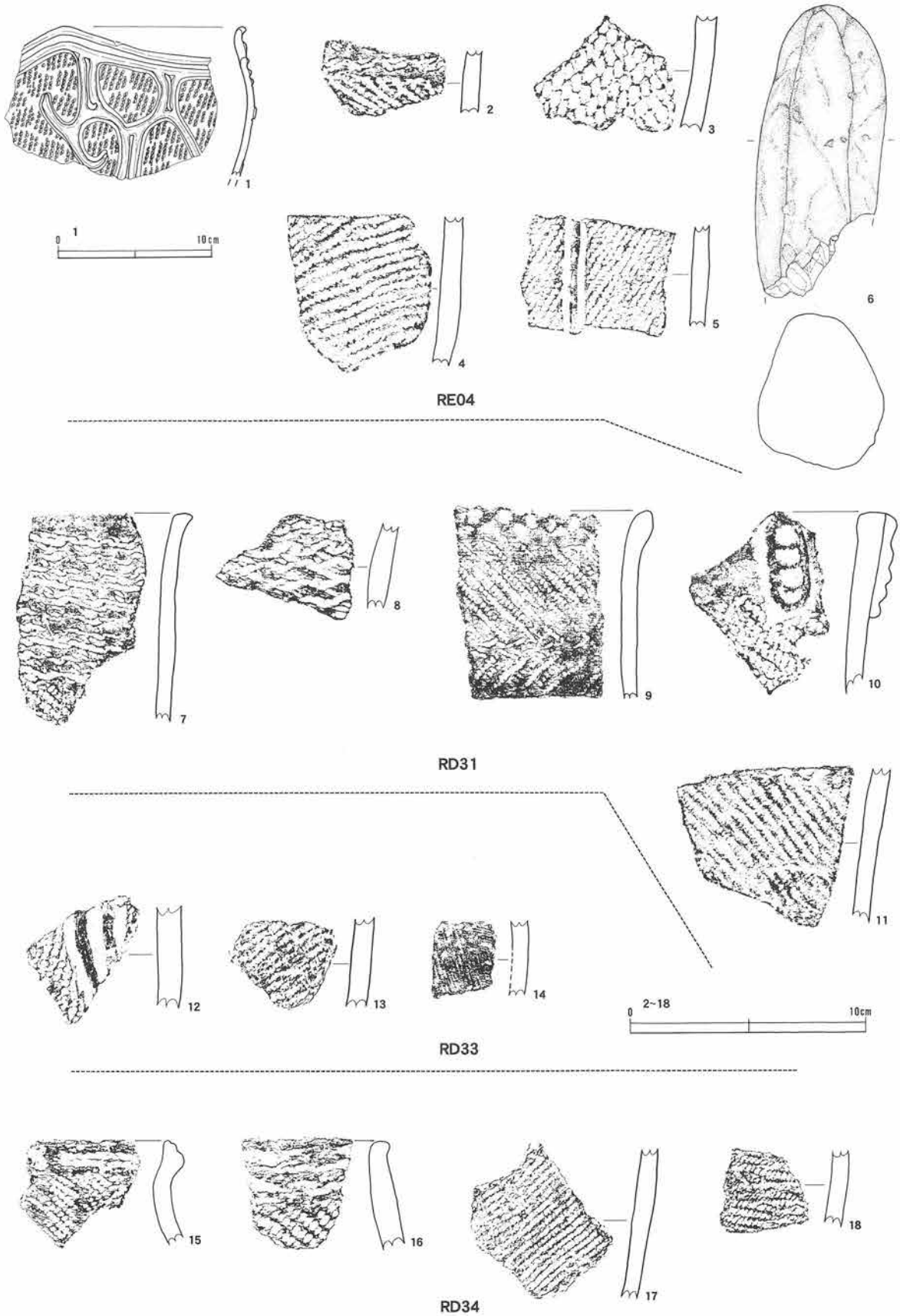
RE04
1 10YR2/3 黒褐色 粘性無し 締まりやや疎 撹乱層
2 10YR3/4 暗褐色 風化小礫・炭化物微量混入 粘性無し 締まりやや密

RD31
1 10YR3/3 暗褐色 炭化物微量混入 粘性無し 締まり中
2 10YR3/4 暗褐色 炭化物・粘土粗粒混入 粘性無し 締まり中
3 7.5YR3/4 暗褐色 褐色土ブロック混入 粘性無し 締まりやや疎
4 10YR3/2 黒褐色 褐色土小ブロック混入 粘性無し 締まりやや疎

RD33
1 7.5YR2/2 黒褐色 粘性無し 締まり疎
2 10YR2/3 黒褐色 炭化物・黄褐色土粗粒混入 粘性無し 締まりやや疎
3 10YR3/3 暗褐色 黄褐色土混入 粘性無し 締まり疎

RD34・RD45
1 7.5YR3/1 黒褐色 炭化物微量混入 粘性無し 締まりやや疎
2 10YR2/3 黒褐色 黄褐色土粒・風化礫混入 粘性無し 締まり疎
3 10YR3/3 暗褐色 風化礫多量混入 粘性無し 締まり疎
4 10YR2/1 黒 色 粘性無し 締まり疎
5 10YR3/2 黒褐色 粘性無し 締まりやや疎

第71図 RE04竪穴状遺構、RD31・33・34・45土坑



第72図　RE04竪穴状遺構、RD31・33・34土坑出土遺物

褐色土で構成され、双方とも締まりは中程度である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物は、埋土から縄文中期の土器片少量が得られている。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD37土坑（図版：73・74，写真図版：65・94）

K19グリッドⅡ～Ⅴ層で検出された。北西部が撹乱を受けているが、ほぼ楕円形状を呈していたようである。壁は底部付近がわずかに広がり、上位に向かって狭まったのち広がって立ち上がる。規模は長径約1.9m・短径1.3m、深さ40cmである。埋土は上位が焼土や炭化物の混じる極暗赤褐色、下位が風化礫の混じる暗褐色土で構成され、双方とも締まりは密である。底面はほぼ平坦で、締まりは密である。

出土遺物は埋土から縄文時代前期土器片が少量得られている。胎土にはセンイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RD39土坑（図版：73・74，写真図版：66・94）

RA521住居跡の東に位置し、Ⅱ層下位で検出された。平面形は円形で、壁はほぼ外傾して立ち上がる。規模は開口部径90cm・深さ45cmほどである。埋土は主に黄褐色土や多量の炭化物を含む暗褐色土で構成されるが、上位に大きな焼土ブロックが混入している。底面は壁から連続して円みを帯びる。

出土遺物は埋土から縄文時代前期の土器片少量が得られている。土器片の中にはセンイが混入するものもある。

遺構の時期は、縄文時代前期と思われる。

RD41土坑（図版：73・74，写真図版：66・94）

RA118住居跡の北東隅に検出され、住居跡に切られている。平面形は楕円形を呈し、壁はほぼ直立する。規模は長径2.1m・短径1.7m・深さ10～15cmである。埋土は主に風化礫の混入する暗褐色土から構成される。

出土遺物は埋土から縄文時代前期の土器片少量が得られている。胎土にはセンイが含まれるものが多い。

遺構の時期は縄文時代前期前葉と思われる。

RD44土坑（図版：75・76，写真図版：66・94）

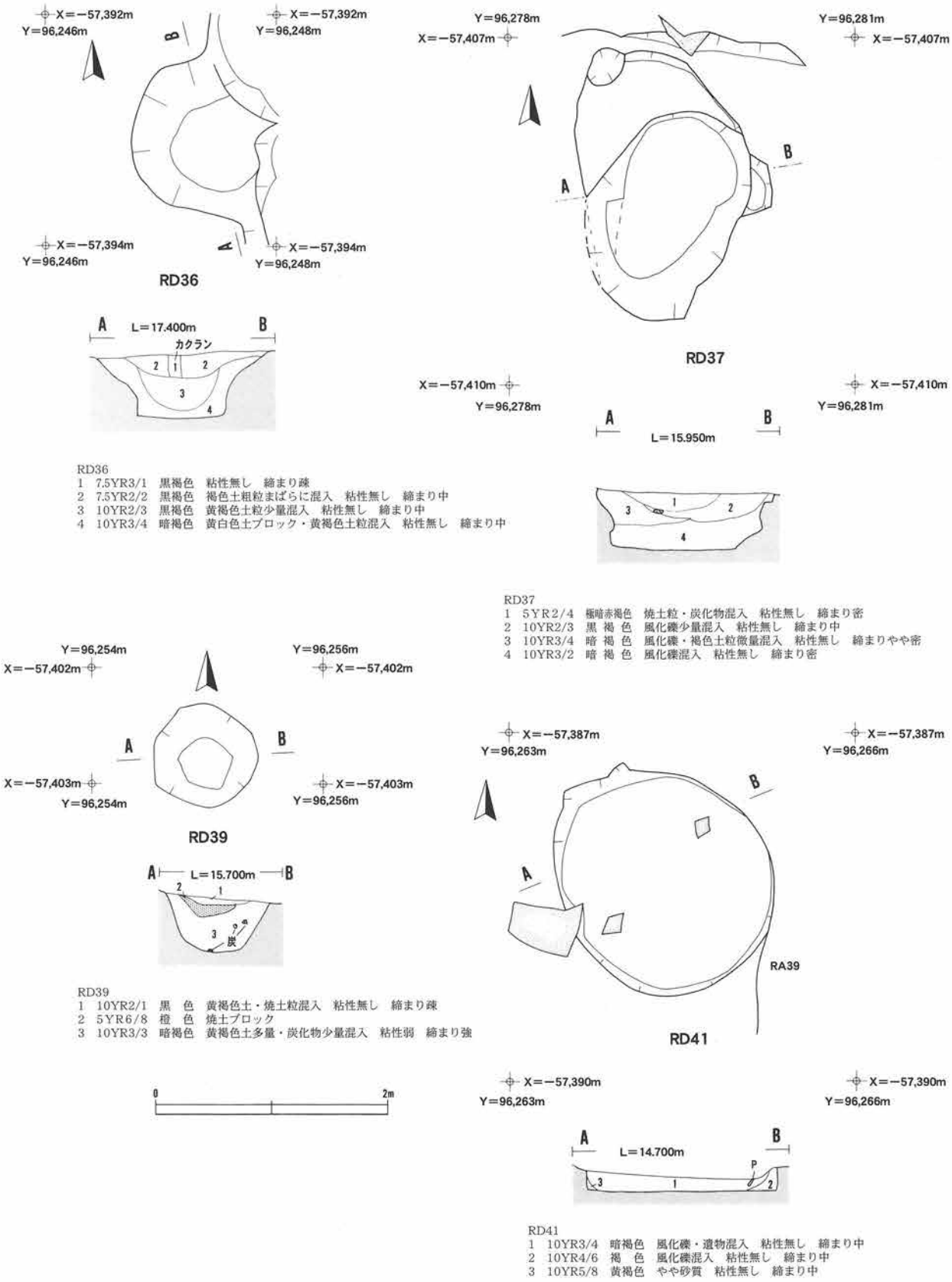
RA518住居跡の西壁に検出された。RA518住居跡に切られ西側部分しか残存しない。平面形は円形ないしは楕円形と思われ、壁は外傾して立ち上がっている。規模は推定で、開口部径1.2m・深さ40cmである。埋土は上位が黄褐色土混じりの褐色土、下位が炭化物や風化礫の混入する暗褐色土や褐色土で構成され、締まりは中程度である。

出土遺物は埋土から縄文土器片が少量得られている。胎土にセンイを混入する前期の土器片と中期の土器片がある。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD45土坑（図版：71，写真図版：65）

RA516住居跡の中央西寄りに位置し、床面に検出された。西側はRD34土坑に切られている。平面形は



RD36
1 7.5YR3/1 黒褐色 粘性無し 締まり疎
2 7.5YR2/2 黒褐色 褐色土粗粒まばらに混入 粘性無し 締まり中
3 10YR2/3 黒褐色 黄褐色土粒少量混入 粘性無し 締まり中
4 10YR3/4 暗褐色 黄白色土ブロック・黄褐色土粒混入 粘性無し 締まり中

RD37
1 5YR2/4 極暗赤褐色 焼土粒・炭化物混入 粘性無し 締まり密
2 10YR2/3 黒 褐 色 風化礫少量混入 粘性無し 締まり中
3 10YR3/4 暗 褐 色 風化礫・褐色土粒微量混入 粘性無し 締まりやや密
4 10YR3/2 暗 褐 色 風化礫混入 粘性無し 締まり密

RD39
1 10YR2/1 黒 色 黄褐色土・焼土粒混入 粘性無し 締まり疎
2 5YR6/8 橙 色 焼土ブロック
3 10YR3/3 暗褐色 黄褐色土多量・炭化物少量混入 粘性弱 締まり強

RD41
1 10YR3/4 暗褐色 風化礫・遺物混入 粘性無し 締まり中
2 10YR4/6 褐 色 風化礫混入 粘性無し 締まり中
3 10YR5/8 黄褐色 やや砂質 粘性無し 締まり中

第73図 RD36・37・39・41土坑

第74図　RD36・37・39・41土坑出土遺物

楕円形状を呈し、壁はほぼ直立する。規模は長径1.4m・短径1m、壁高20cmほどである。埋土は黒褐色土で構成され、締まりはやや疎である。底面は平坦で、締まりは中程度である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、縄文時代前期のRD34土坑に切られていることより、縄文時代前期と思われる。

RD47土坑（図版：75）

RA119の南東に位置し、RA119の調査中に検出された。床面や壁の状態が不鮮明であったため、重複の前後関係は不明である。平面形は不整な円形で、壁は内湾気味に外傾して立ち上がる。規模は開口部径約1m、深さ80cmである。埋土は主に炭化物を含む黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

出土遺物は埋土から縄文土器片が得られているが、整理時に行方不明になっていることが判明した。

遺構の時期は、縄文時代中期のRA119住居跡の時期と大差のない頃と思われる。

RD48土坑（図版：75・76，写真図版：94・95）

RA119の南西、RA522の北西に位置する。平面形はほぼ円形を呈し、壁は直立する。規模は開口部径・深さともに60cmである。埋土は主に炭化物を含む黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。

出土遺物は埋土から縄文時代中期の土器片が少量得られている。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD49土坑（図版：75・76，写真図版：66・95）

RA165の南側に検出された。南側の壁は残らないが、楕円形状を呈するようで、壁は外傾して立ち上がる。規模は長径2.3m・短径1.7m、深さ20cmほどである。埋土は主に炭化物や黄褐色土の混入する黒褐色土で構成され、締まりはやや疎である。底面の一部に柱穴状の撹乱があるが、ほぼ平坦である。

出土遺物は埋土から縄文時代前期の土器片少量が得られている。土器片にはセンイが混入するものが多い。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RD51土坑（図版：75・76，写真図版：67・95）

RA129の南西に位置し、ほぼ同層順で検出されている。傾斜地にあるため南東側が不明瞭であるが、楕円形状を呈するようである。壁は緩く湾曲して立ち上がる。規模は長軸2m・短軸1.3m・壁高10cmほどである。埋土は炭化物の混じる黒褐色土で構成される。底面はほぼ平坦で、締まりはやや疎である。

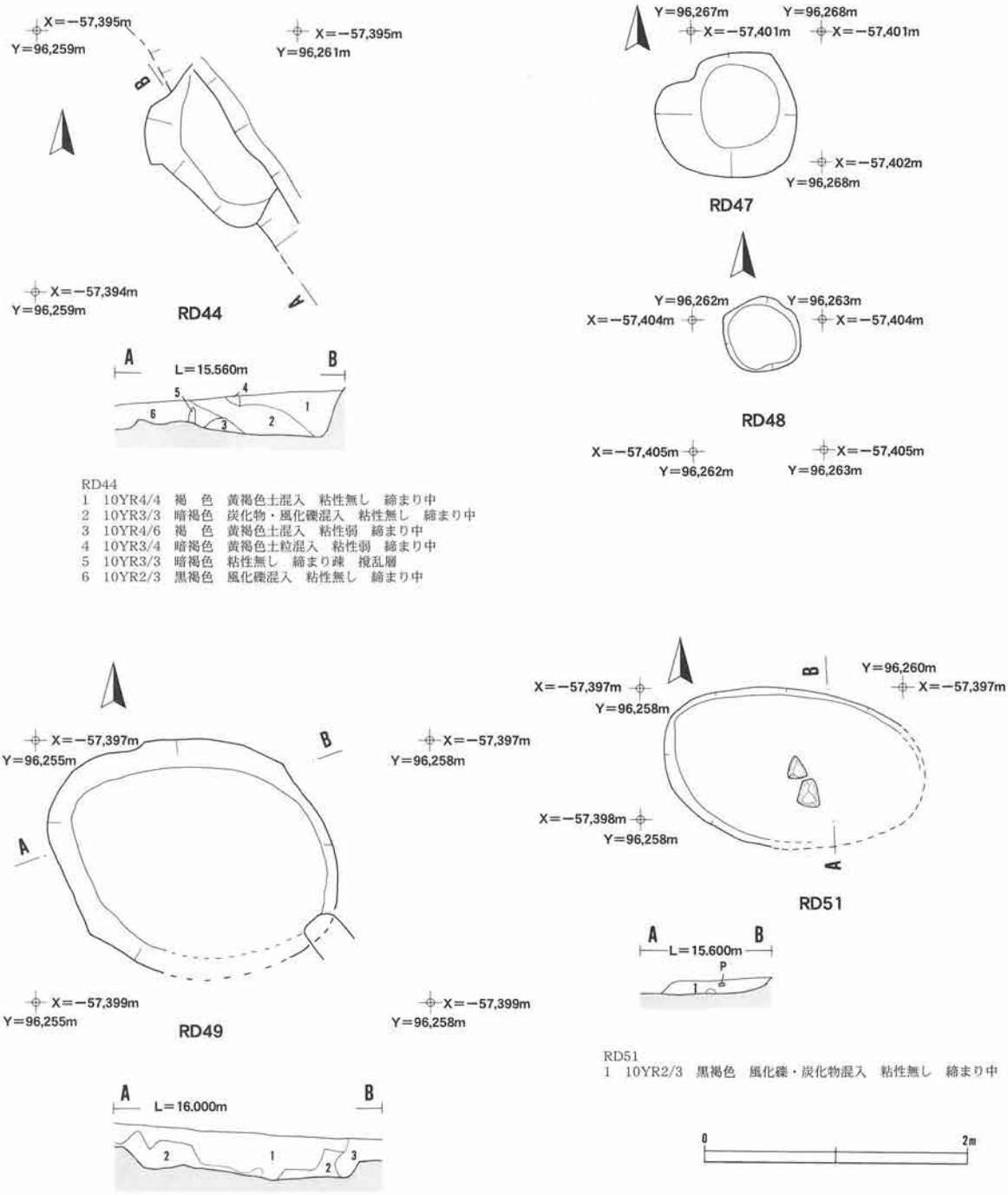
出土遺物は、埋土から縄文時代前期の土器片が少量得られている。土器片の胎土にはセンイが混入するものが多い。

遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

焼土遺構

RF08焼土遺構（図版：77，写真図版：67）

L24グリッドⅢ層砂礫層上面に検出された。長径50cmほどの不整形に広がり、厚さは最大3cmほどである。周囲に床面や柱穴等住居跡の痕跡を示すものはない。遺物は出土していないが、周囲から縄文土器片が得ら

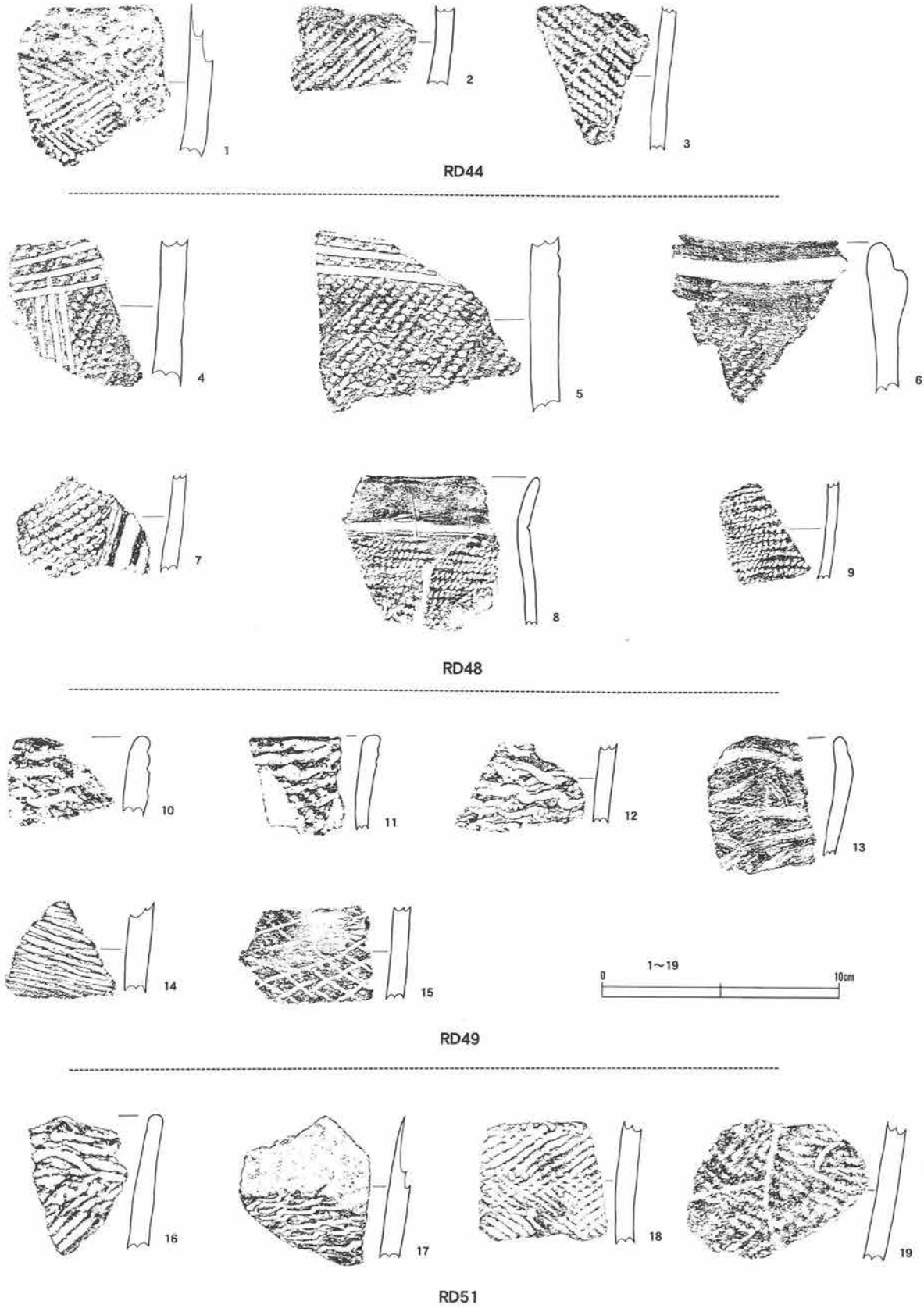


RD44
1 10YR4/4 褐 色 黄褐色土混入 粘性無し 締まり中
2 10YR3/3 暗褐色 炭化物・風化礫混入 粘性無し 締まり中
3 10YR4/6 褐 色 黄褐色土混入 粘性弱 締まり中
4 10YR3/4 暗褐色 黄褐色土粒混入 粘性弱 締まり中
5 10YR3/3 暗褐色 粘性無し 締まり疎 撹乱層
6 10YR2/3 黒褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中

RD49
1 10YR3/2 黒褐色 炭化物・黄褐色土粒混入 粘性無し 締まりやや疎
2 10YR4/4 褐 色 風化礫・黄褐色土粒混入 粘性無し 締まり中
3 10YR3/3 暗褐色 風化礫混入 粘性無し 締まり中

RD51
1 10YR2/3 黒褐色 風化礫・炭化物混入 粘性無し 締まり中

第75図 RD44・47・48・49・51土坑



第76図　RD44・48・49・51土坑出土遺物

れている。

遺構の時期は、縄文時代と思われる。

RF09焼土遺構（図版：77，写真図版：67）

M19グリッドのⅡ層下位からⅤ層にかけて検出された。この付近にはⅢ・Ⅳ層はない。長径40cmほどの不整形に広がり、厚さは最大4cmに形成されている。周囲に床面や柱穴等住居跡の痕跡は見られない。伴出遺物はないが、周囲から縄文土器片が出土している。

遺構の時期は、縄文時代と思われる。

RF10焼土遺構（図版：77，写真図版：67・95）

J18グリッドⅤ層上面で検出される。周囲は前年の調査時に掘られたようで焼土が周囲より浮き上がった状態であった。径50cmほどの不整円形状に広がり、厚さは最大7cmほどに形成されている。周囲から柱穴や壁高など住居の痕跡を示すものは検出されていない。伴出遺物はないが、周囲から縄文前期の土器片少量が出土している（77-1～3）。土器片にはセンイが混入している。

遺構の時期は、縄文時代前期の可能性もある。

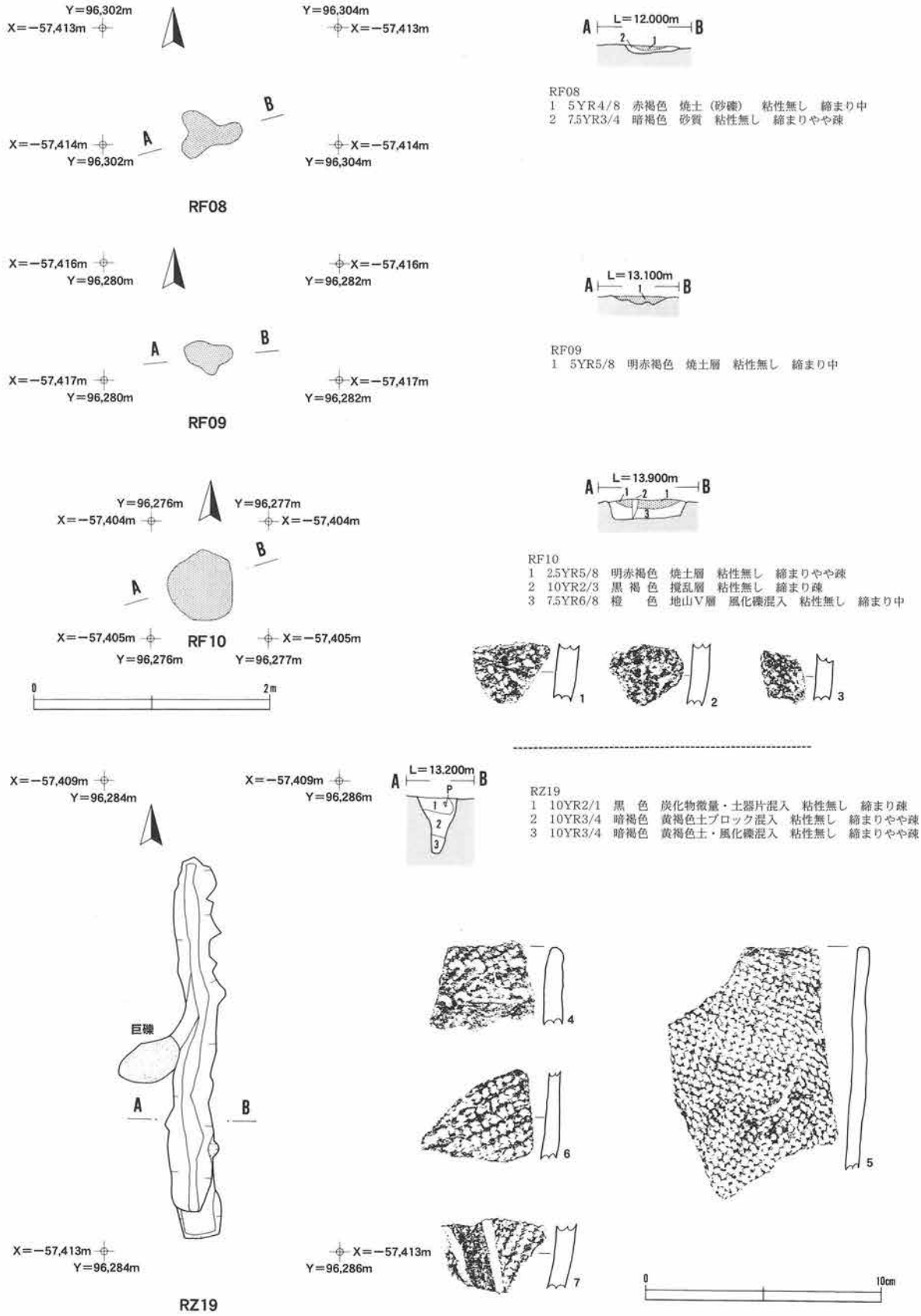
その他の遺構

RZ19落とし穴（図版：77，写真図版：68・95）

L20グリッドⅤ層上面に検出された。細長い溝状を呈する。礫のあるところはそのカーブに合わせて曲がって掘られており、長さは約3m・幅は開口部で30～40cm・底部で8cmである。深さは約50cmで、礫層に当たって終わっている。埋土は上位が炭化物の混じる黒色土、下位が褐色土ブロックや風化礫の混じる暗褐色土で構成されている。

出土遺物は、埋土から縄文時代前期と中期の土器片が少量得られている。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。



第77図　RF08・09・10焼土遺構・RZ19落とし穴

(2) 古代

竪穴住居跡

RA513住居跡（図版：78・79，写真図版：68・69・95・96）

調査地の南寄りに位置し、北側RA110住居跡を切って造られている。遺構全体が削平を受けて下位の部分しか残存しない。東側の壁は不明瞭であるが、隅丸方形状を呈し、北側壁東寄りにカマドが設けられている。規模は南北3.7m、東西3.5m、壁高は北および西で20cmほどである。埋土は褐色土がまばらに混じる黒色土で構成され、床面直上まで礫が多く混入している。

床面はほぼ平坦で、中央から東側は整地した褐色土を貼った貼り床が見られる。柱穴は住居跡の対角線上に4基検出されている。柱穴の規模は開口部径20～40cm、深さ20cm前後である。埋土は褐色土粒の混じる黒褐色土で、柱痕跡は認められない。

かまどは北側壁に直交して造られ、軸はN-10°-Wを示す。袖は壁から板状の礫を並べて芯として、その上を黒褐色土で貼って作られている。焚き口部には崩落した天井石があり、その下に焼土が少し形成されている。燃焼部には焼土は見られないが、煙道部には厚さ5cmほどの焼土が形成されている。煙道の長さは1mで、傾斜は10°程の緩い登り勾配である。くり貫き式か掘り込み式かは不明である。

出土遺物は床面から土師器片と鉄片が、埋土から縄文土器片や石器が得られている土師器片は2点とも甕形の土師器で、ロクロは使用されていない。79-1は口縁部は内外とも横方向のミガキ、胴部は外面がミガキ、内面がハケメである。79-2は球形気味に胴部が膨らみ、粘土紐の積み上げ痕が残る。内外ともにハケメ調整である。79-8は埋土から得られた甕形土器の土師器片で口縁部外面に小さな段が形成されている。79-3は鉄素材あるいは残片と思われ、長さ112mm・幅46mm・厚さ21mm・重量249.1gである。79-9～12は埋土から出土した縄文時代・弥生時代の土器片である。石器は79-4が石槍、79-5～7が磨石、 79-13が有孔石製品（円盤）である。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。

RA514住居跡（図版：80・81，写真図版：69・70・96）

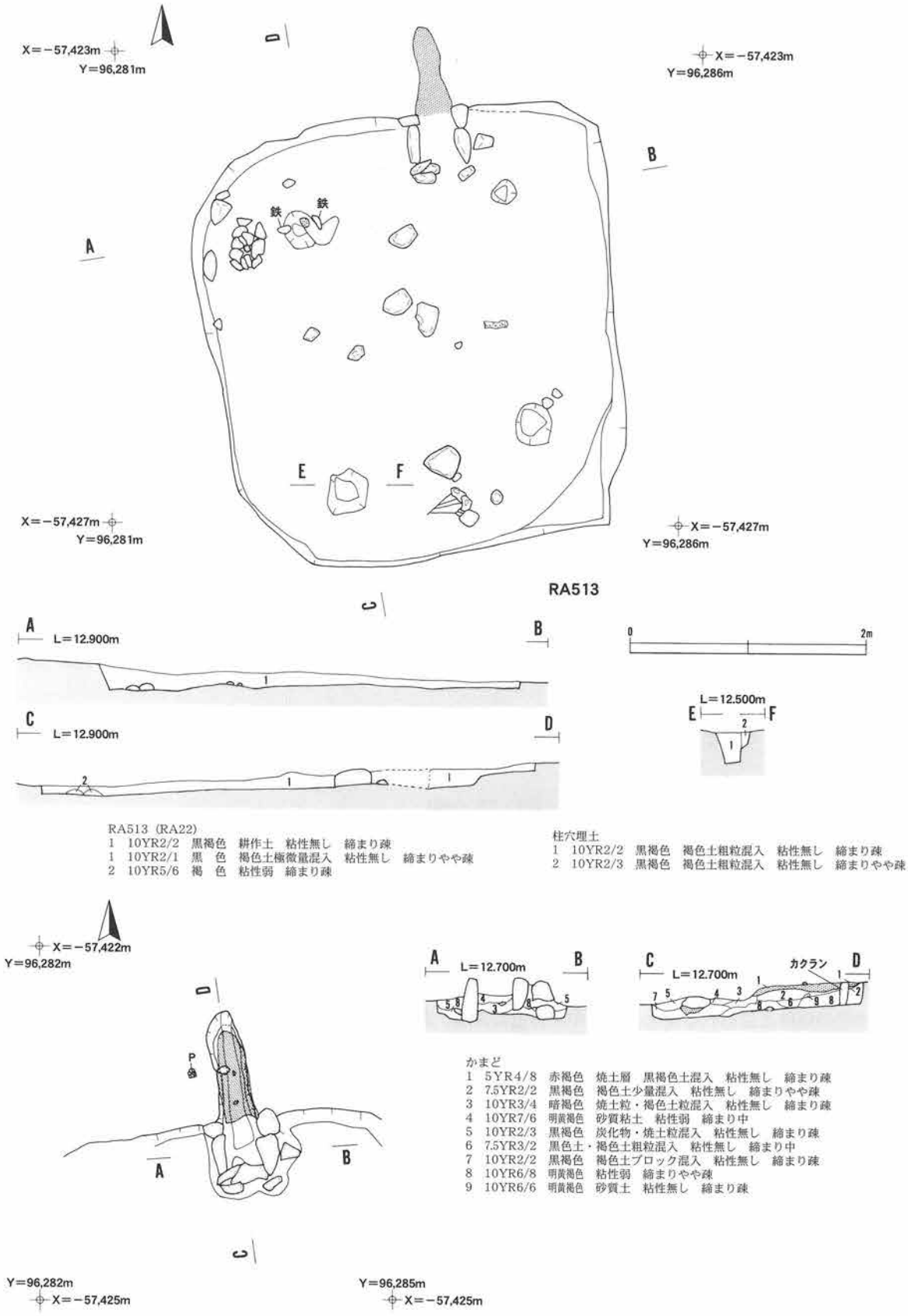
調査地北側中央付近に検出された。遺構全体が削平を受けており、北から西側の壁と南側にかまどの痕跡が残る。壁際には花崗岩の巨礫もある。残存部から推測すると、東西約6m、南北約5m、北側の壁高30～40cmである。埋土は主に炭化物の混入する黒褐色土で構成され、礫も混入する。

床面はほぼ平坦で、締まっている。柱穴は4基検出され、径25～40cm、深さ約30cmである。柱穴の埋土は黄褐色土の混じる黒褐色土で、柱痕跡はない。

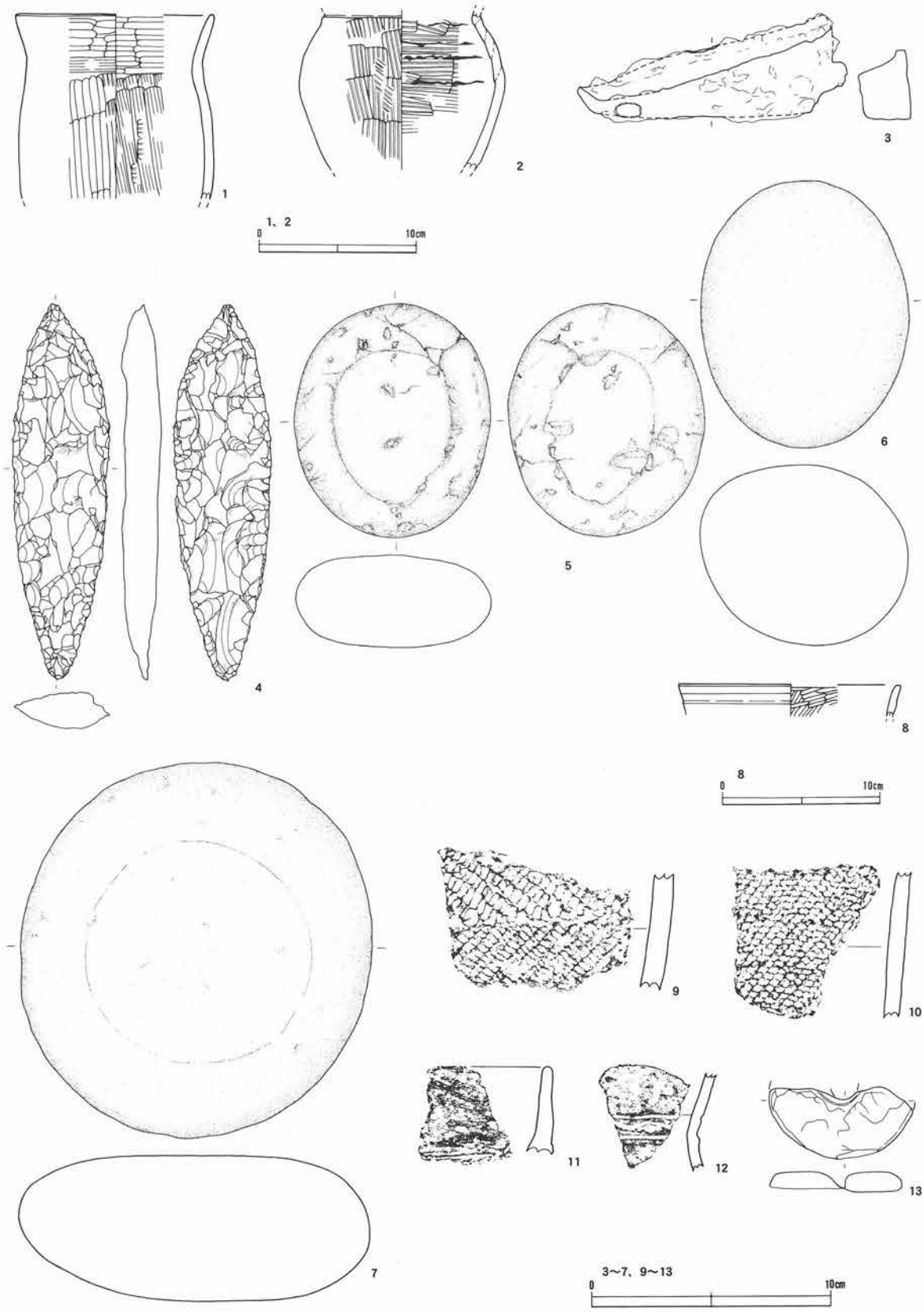
かまどの痕跡と思われる焼土は南側中央付近にある。焚き口もしくは燃焼部の焼土のようである。煙道の痕跡も認められない土で、少なくても上向きに傾斜していたようである。

出土遺物は、床面から少量の須恵器片や鉄製品4点が、埋土から縄文土器片・石器2点が得られている。81-1～3は須恵器片で大型の壷の破片のようである。2・3には外面にタタキメが見られる。6～9が鉄製品で、6は一端が細くなる角棒状、7は一端がフック状に曲がった板状、8は釘と思われ、9は板状の鋳物片である。9は鉄鍋の破片の可能性もあるが厚さが4～6mmと厚い。石器は4が石鏃、5が石匙である。

遺構の時期は、かまどが南側にあったとすれば、平安時代の可能性もあるが不明なので、古代としておく。

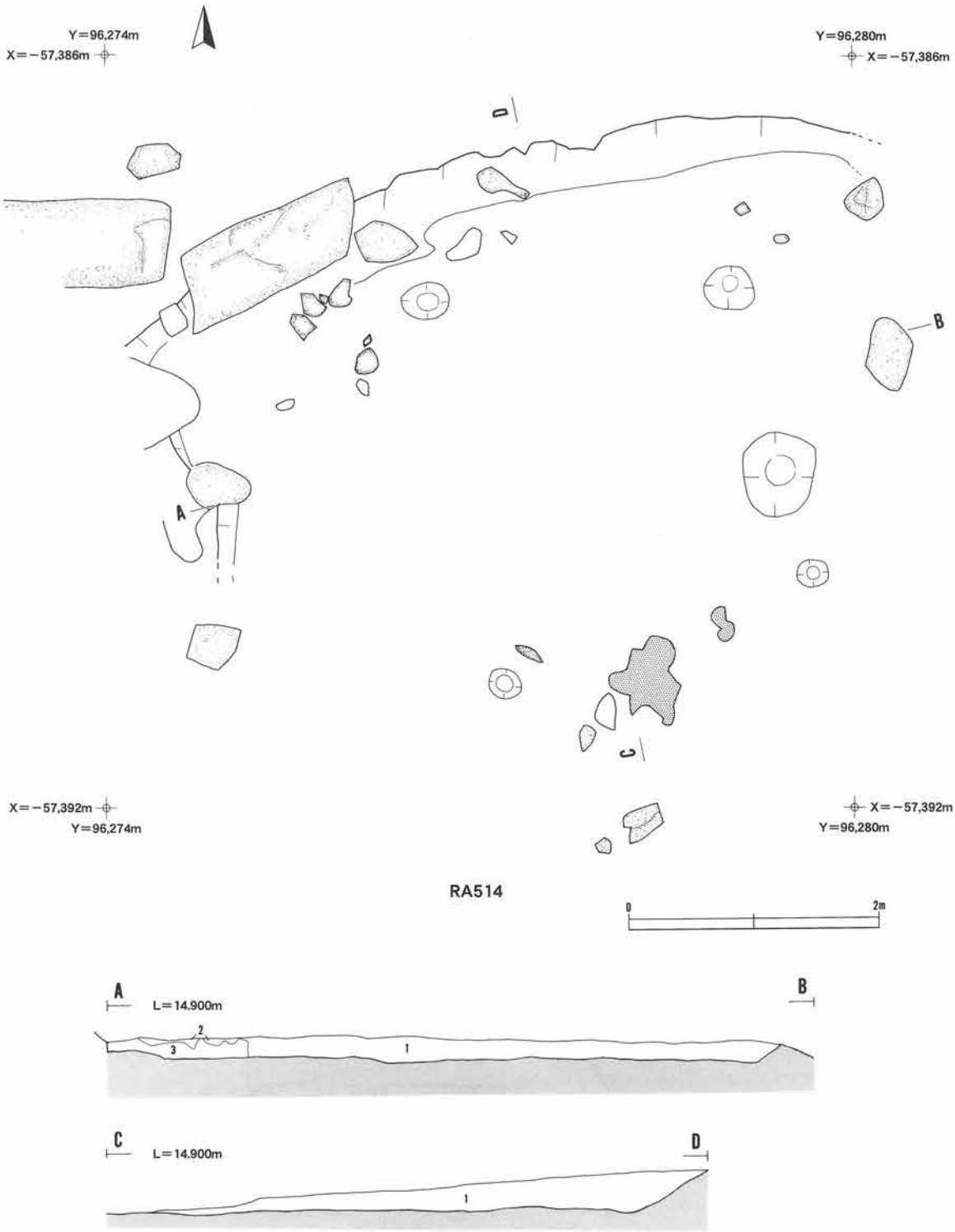


第78図 RA513住居跡



RA513

第79図　RA513住居跡出土遺物



RA514 (RA24)
1　10YR2/3　黒褐色　炭化物微量混入　粘性無し　締まり疎
2　10YR3/2　黒褐色　黄色土粗粒・ブロック混入　粘性無し　締まり疎
3　10YR3/3　暗褐色　褐色土粗粒少量混入　粘性無し　締まりやや疎

第80図　RA514住居跡

第81図　RA514住居跡出土遺物

RA515住居跡（図版：82，写真図版：70・71・96）

調査地南西のT15グリッド付近に位置し、貼り床の一部が、2m×5mの範囲で確認された。東側は、傾斜地に沿って削剥を受け残存しない。北側に不整形に広がる薄い焼土があったが、かまどに伴うものかどうかは不明である。貼り床は焼土や灰黄褐色土の混じる褐色土が2～4cmの厚さで貼られている。また、一部を近現代と見られる、愛玩犬の埋葬土坑が切っている。

出土遺物は、貼り床中から少量の土師器片と縄文土器片・弥生土器片が得られている。土師器片は整理時に行方不明であることが判明した。縄文土器片は胎土にセンイの混入する縄文時代前期前葉のものと中期のものがある。石器は磨製石斧の破損した破片と思われる。

遺構の時期は、かまどの位置や伴出土師器が不明なことから古代と思われる。

RA516住居跡（図版：82，写真図版：71・97）

RA514住居跡の西に検出された。西側と北側の壁と壁溝が残るのみで全体の形状は不明である。東側にはRA514住居跡が、南側にはRA517住居跡があるが、重複部分は削平を受けており、新旧関係は不明である。平面形は方形ないしは長方形と思われ、東西2.5m・南北5mの範囲まで壁または壁溝が残存している。壁高は北側で15cm、壁溝は深さ5cm前後である。

床面はほぼ平坦で、締まっており、北西隅付近に壁溝から続く溝と土坑が2基検出されている。西壁際の土坑は開口部径60cm・深さ20cmほどで、砂礫の混入する暗褐色土が充填されている。もう一つの土坑は、長径110cm・短径90cm・深さ30cmほどで、埋土は黒褐色土で構成され、底部に礫が多く混入する。柱穴やかまどの痕跡は検出されていない。

出土遺物は床面や埋土から少量の土師器片や縄文土器片が得られている。土師器片は整理の時に行方不明になっていることが判明した。

遺構の時期は、かまどの位置や伴出土師器の時期が不明なことから古代と思われる。

RA517住居跡（図版：83・84，写真図版：72・97）

RA516住居跡の南、RA111住居跡の東に位置し、RA111住居跡の上位になる。東側は斜面に沿った削剥を受け、壁が残らない。北東側にはやや新しい撹乱がある。北側壁中央付近にかまどがある。西側の壁はやや膨らむようだが、隅丸方形状を呈するようで、南北5m・東西4.8m、壁高10～25cmである。壁はRA111住居跡の埋土を掘り込んでいるせいか立ち上がりは緩く傾斜している。埋土は、上位は炭化物や礫の混じる黒褐色土・下位は褐色土粗粒の混じる黒褐色土で構成される。

床面はほぼ平坦であるが、巨礫も露出し、あまり締まりはない。中央から北西寄りには70cm×50cmの不整形で、厚さは痕跡程度の焼土がある。柱穴は検出されていない。

かまどは北側壁に直交し、軸はN-20°-Wを示す。袖は、壁際から板状の礫を立てて芯とし黒褐色土を貼って作られている。焚き口付近には直径30cm・厚さ2cmの焼土が形成されている。煙道は1.5mほど残り、緩く傾斜して上がる。途中に礫があり、そこで段ができている。煙道の両側に礫の埋設は見られないので、くり貫き式かもしれない。

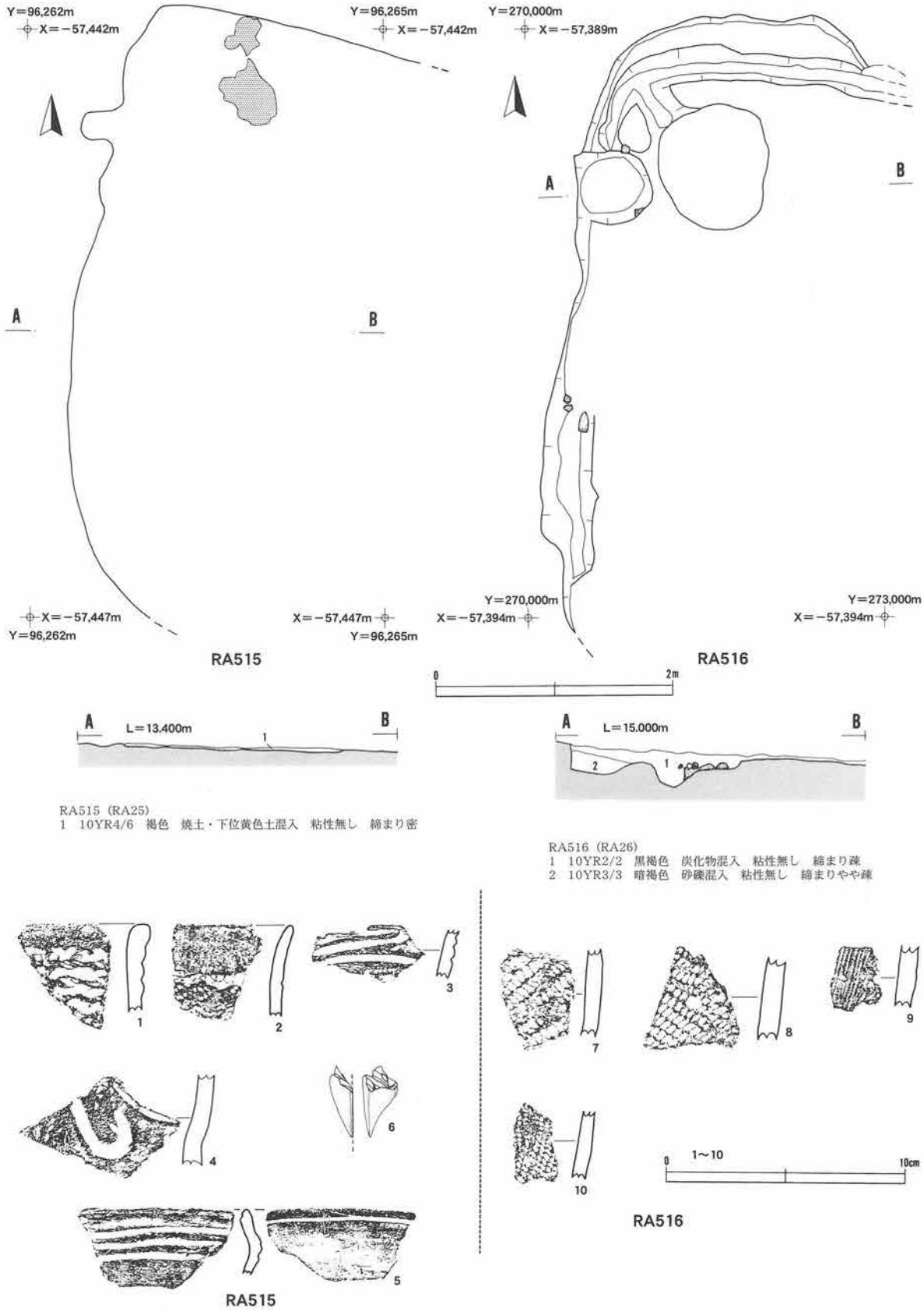
出土遺物は埋土から土師器や縄文土器片が得られている。84-1は胴部が膨らみ球胴形になる甕で、粘土紐の積み上げ痕も残る。内外ともにハケメ調整が主に行われている。84-2は坏で、外面の底部との境界に明瞭な段が作られ、内面は黒色処理されている。内外面ともにミガキ調整が施されている。84-3～6は縄文時代前期の土器片で胎土に少量のセンイが混入している。84-7は中期の土器片である。

遺構の時期は、かまどの位置や伴出した土師器から奈良時代と思われる。

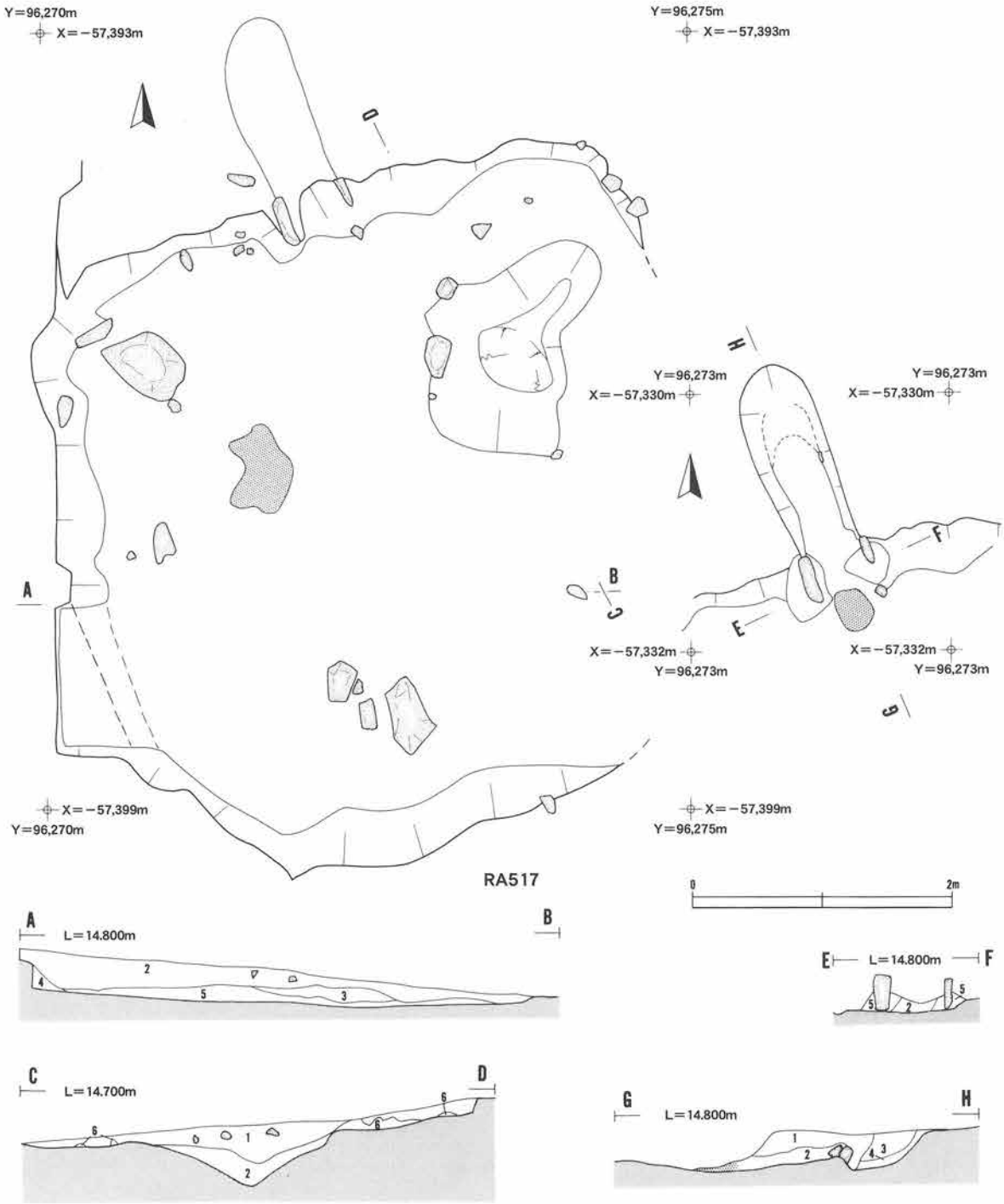
RA518住居跡（図版：85～89，写真図版：73・74・97・98）

RA516住居跡の西側に位置し、北東側でRA118住居跡を切っている。平面形は隅丸方形状を呈し、北側壁中央付近にかまどがある。壁は直立する。焼失家屋で、検出時に壁際に炭化材が見られた。規模は、南北方向で6.1m・東西方向で5.9m、壁高は斜面上方の北西側で60cm・南東側で20cmである。

埋土は上位が黒色土、中位から下位は炭化物や焼土ブロックの混入する黒褐色土で構成される。炭化材は壁際から中央付近に向けて倒れ込んだようであるが、材の形状を復元できるようなものはなかった。また、中央付近には円礫が多く堆積していた。屋根の上に載せられていたのかもしれない。



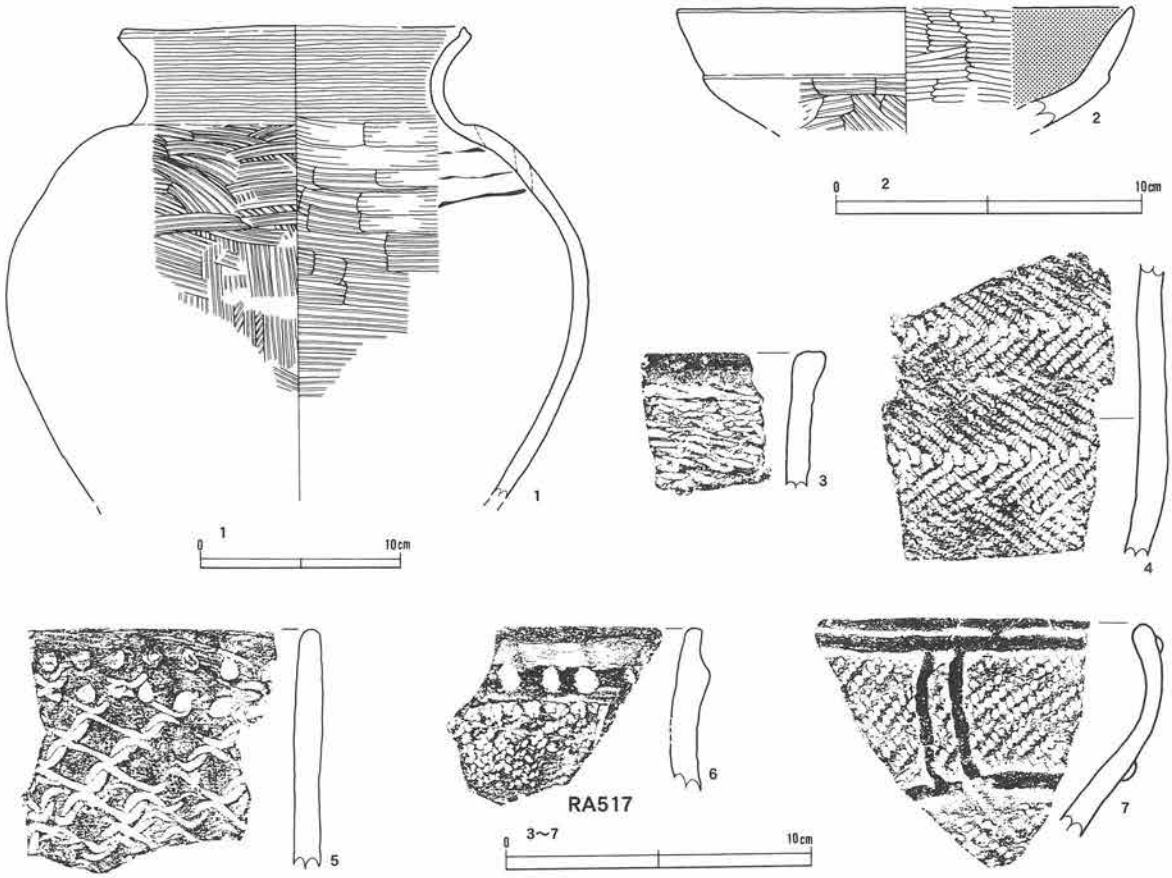
第82図 RA515・516住居跡



RA517（RA28）
1　10YR2/1　黒　色　礫・炭化物混入　粘性無し　締まり疎
2　10YR2/2　黒褐色　褐色土粗粒混入　粘性無し　締まり疎
3　10YR3/4　暗褐色　褐色土粗粒混入　粘性無し　締まりやや疎
4　10YR2/3　黒褐色　粘性無し　締まりやや疎
5　10YR2/3　黒褐色　褐色土粗粒混入　粘性無し　締まりやや疎
6　10YR6/8　明黄褐色　地山ブロック

かまど
1　10YR3/2　黒褐色　黄褐色土粒混入　粘性無し　締まり疎
2　10YR3/4　暗褐色　焼土粒・黄褐色土粒混入　粘性弱　締まりやや疎
3　10YR2/1　黒　色　粘性無し　締まり中
4　10YR3/3　暗褐色　褐色土粒混入　粘性無し　締まりやや疎
5　10YR3/3　黒褐色　黄褐色土粒微量混入　粘性無し　締まり中

第83図　RA517住居跡



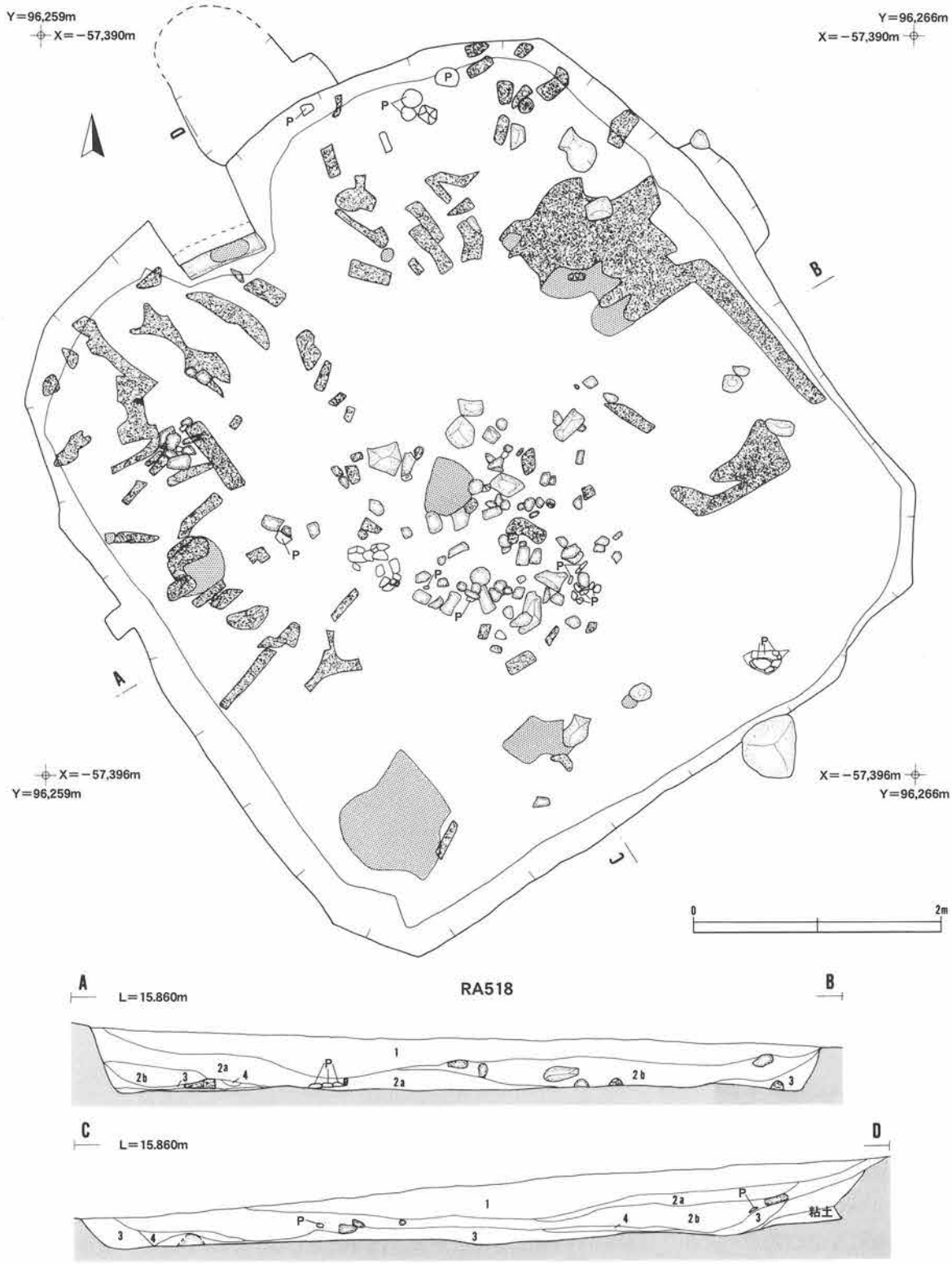
第84図　RA517住居跡出土遺物

床面はほぼ平坦で、対角線上に4基の柱穴が作られている。また北西側と南西側の壁際に壁溝が形成されている。柱穴の大きさは開口部径25～30cm、深さ40～50cmである。壁溝は幅5～10cm、深さ3～10cmである。北西側の柱穴から壁際にかけても小さな溝が作られている。

かまどは北側壁の中央やや西寄りに直交して作られており、軸はN-40°-Wである。袖は板状の礫を芯として立て、黒色土を貼り付けて作られている。天井石は板状の角礫である。支脚は角礫の上に破損した土師器甕をかぶせて作られている。焚き口から燃焼部にかけて少し傾斜して上がり、煙道は焚き口付近と同レベルまで下がったのち水平になる。煙道はくり貫き式で、煙出し部の直下には巨礫があり、やや西側にそれて煙出しが開口している。巨礫の後方にも垂直方向の土坑があり、当初の煙出し予定の穴だったようである。煙道の長さは約1.5m・直径25cmほどである。

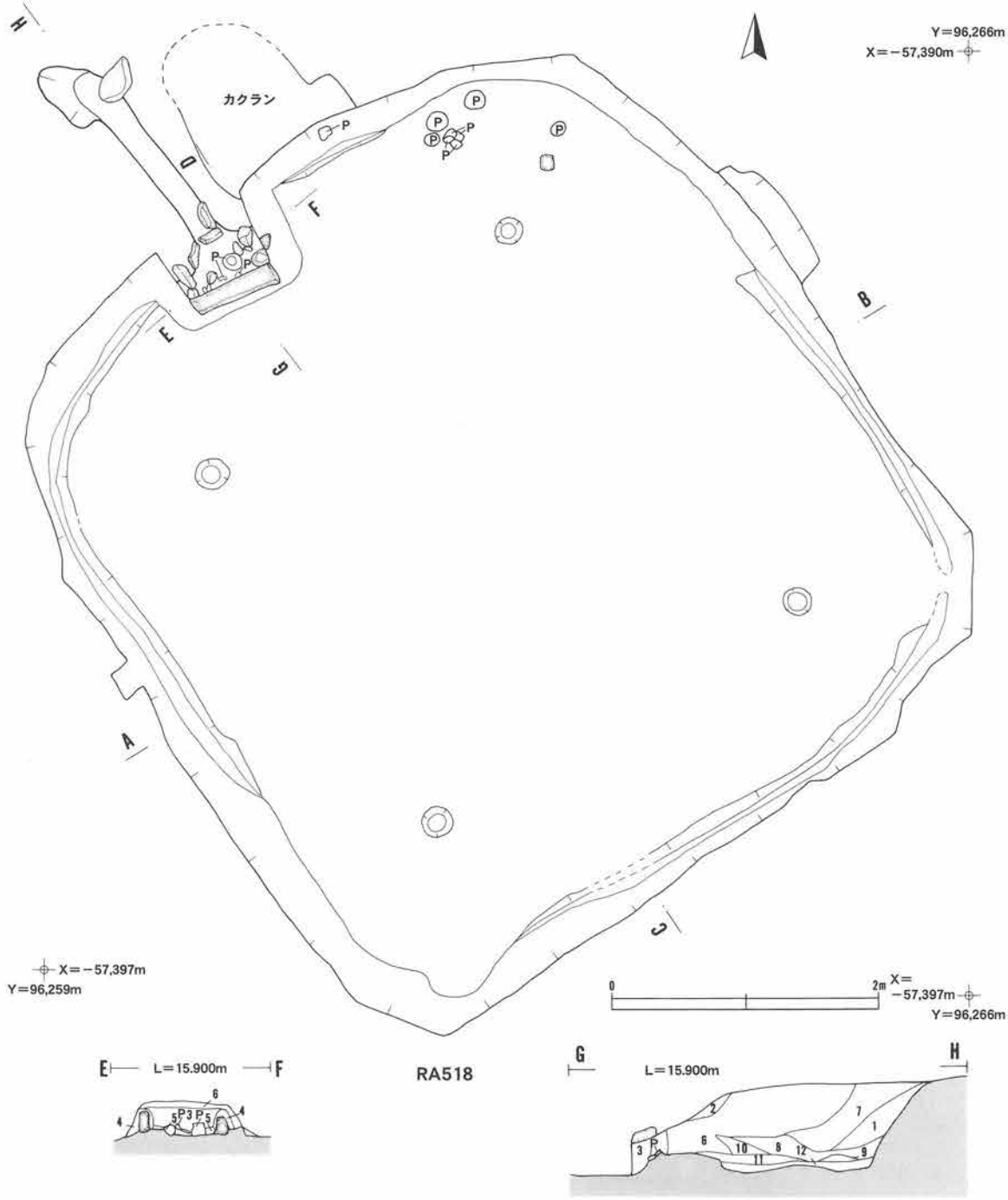
出土遺物は埋土下位から床面直上のものが多く、特にかまどの東側からは坏が4点まとまって出土している。床面中央付近からは刀子や鉄鍋の破片も得られている。また、かまど東側の壁上位の小さな窪みから小型の甕（87-4）が横位におかれた状態で出土した。その他埋土からは縄文土器片や石器が出土している。

甕は頸部に小さな段が作られ、口縁部は内湾気味に広がる。内外ともに粗いハケメを施すものが多い。87-2・88-6・7には底部に木葉痕が残る。87-5は長頸壷のような形状を示すが頸部に小さな段が作られている。坏は体部下位に明瞭な段が作られて、内外とも丁寧なミガキで仕上げられている。床面直上から出土した4点（87-6～9）は内面が黒色処理されている。



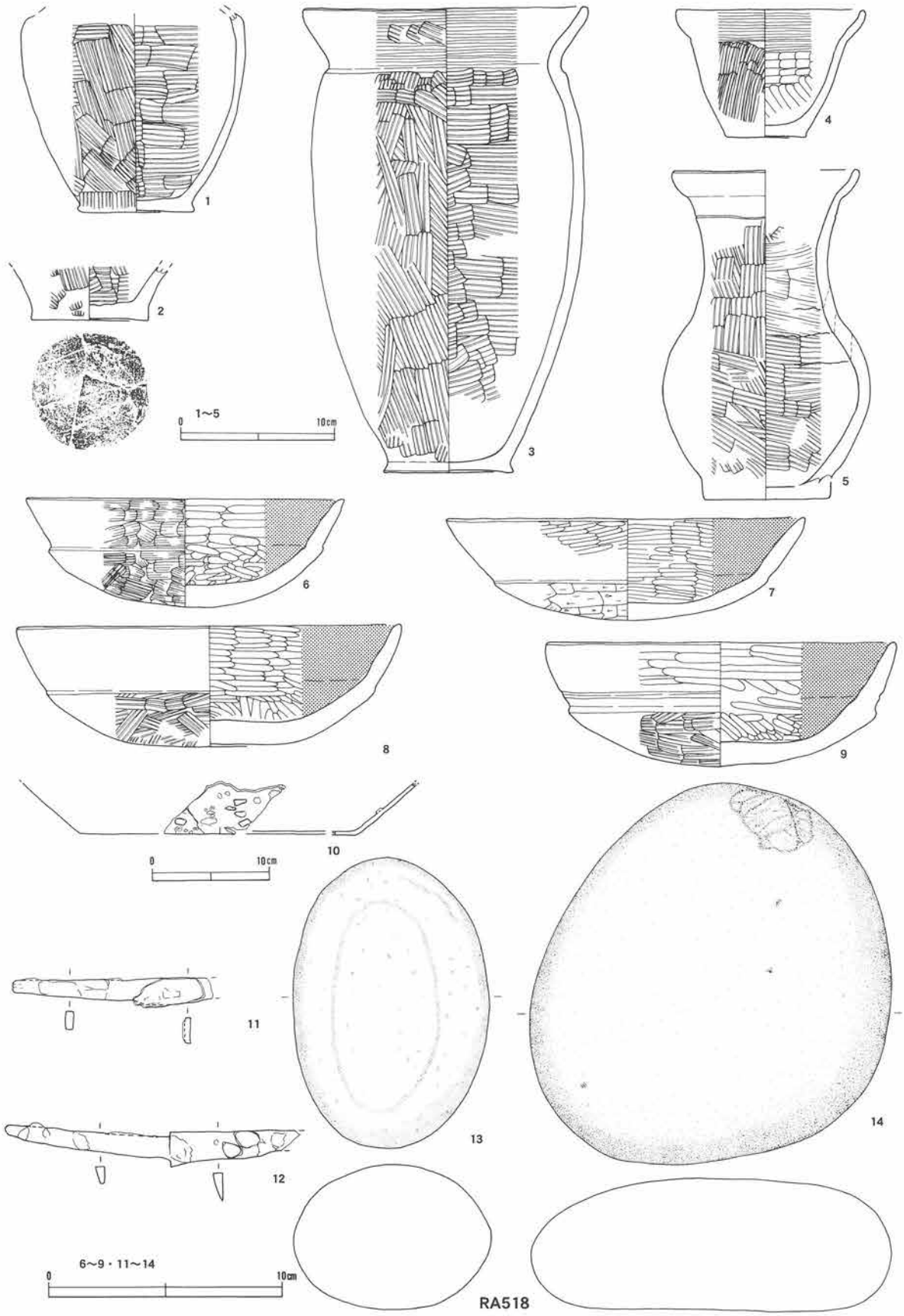
RA518 (RA30)
1 10YR2/1 黒 色 炭化物混入 粘性弱 締まりやや疎
2a 10YR3/2 黒褐色 褐色土粒・炭化物混入 粘性無し 締まり中
2b 10YR2/2 黒褐色 2aに類似する
3 10YR3/3 暗褐色 褐色土粒・炭化物多量混入 粘性無し 締まり疎
4 10YR2/3 黒褐色 炭化物・焼土混入 粘性無し 締まり疎

第85図 RA518住居跡

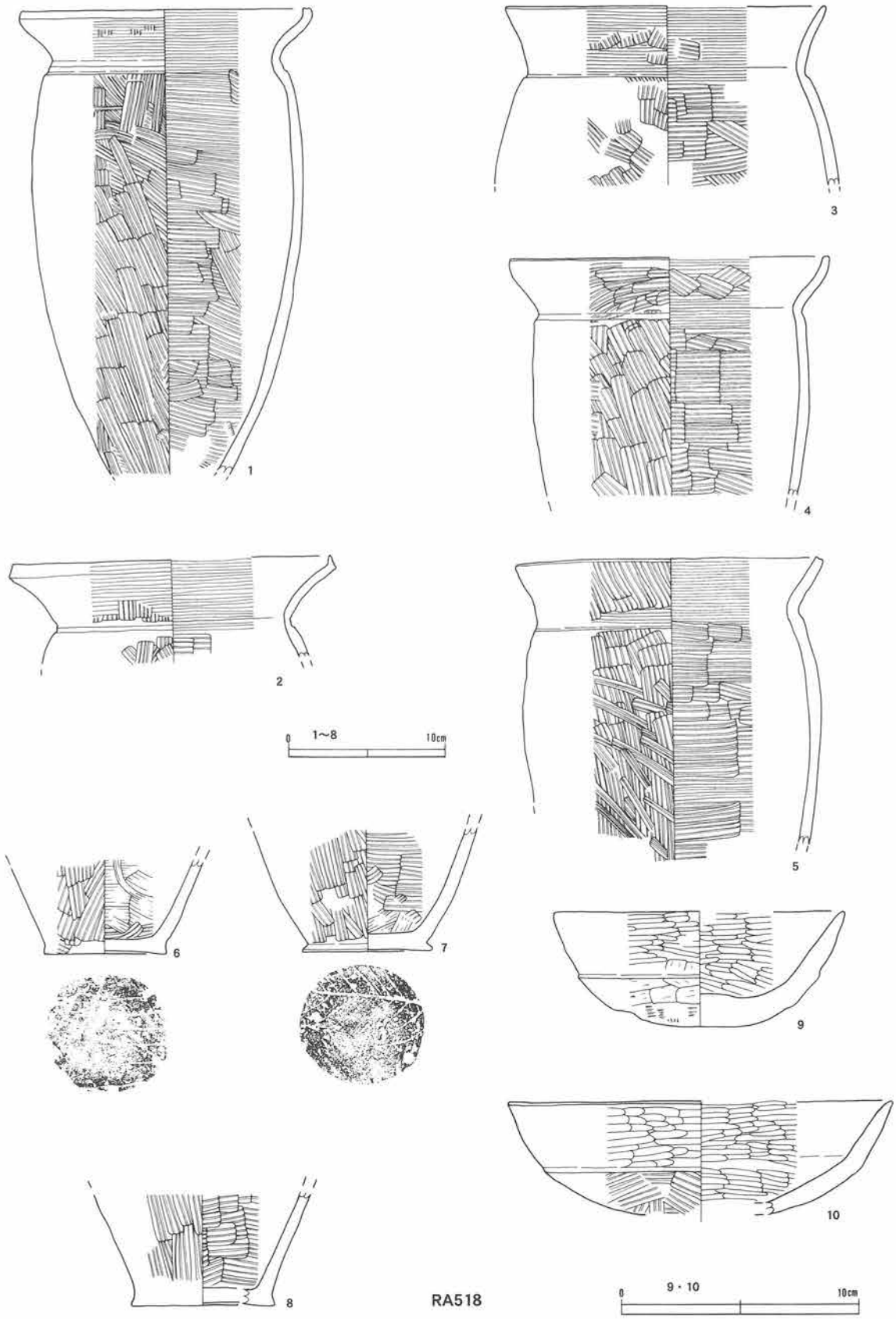


かまど
1　10YR3/3　暗褐色　粘性無し　締まり疎
2　10YR3/2　黒褐色　黄褐色土小ブロック・炭化物混入　粘性無し　締まり疎
3　10YR2/3　黒褐色　炭化物・焼土混入　粘性無し　締まり疎
4　7.5YR3/4　暗褐色　黄褐色土ブロック多量混入　粘性中　締まり中
5　5 YR4/4　赤褐色　焼土を主とする層　粘性無し　締まり疎
6　10YR3/3　暗褐色　黄褐色土粗粒混入　粘性弱　締まりやや疎
7　10YR3/3　暗褐色　黄褐色土ブロック混入　粘性無し　締まり疎
8　10YR3/4　暗褐色　黄褐色土粒混入　粘性無し　締まり疎
9　10YR4/3　鈍い黄褐色　焼け粘土ブロック混入　粘性無し　締まり疎
10　10YR2/3　黒褐色　黄褐色土粒少量混入　粘性無し　締まりやや疎
11　10YR5/8　黄褐色　粘性やや弱　締まり疎
12　10YR3/2　黒褐色　焼土粒・炭化物混入　粘性無し　締まり疎

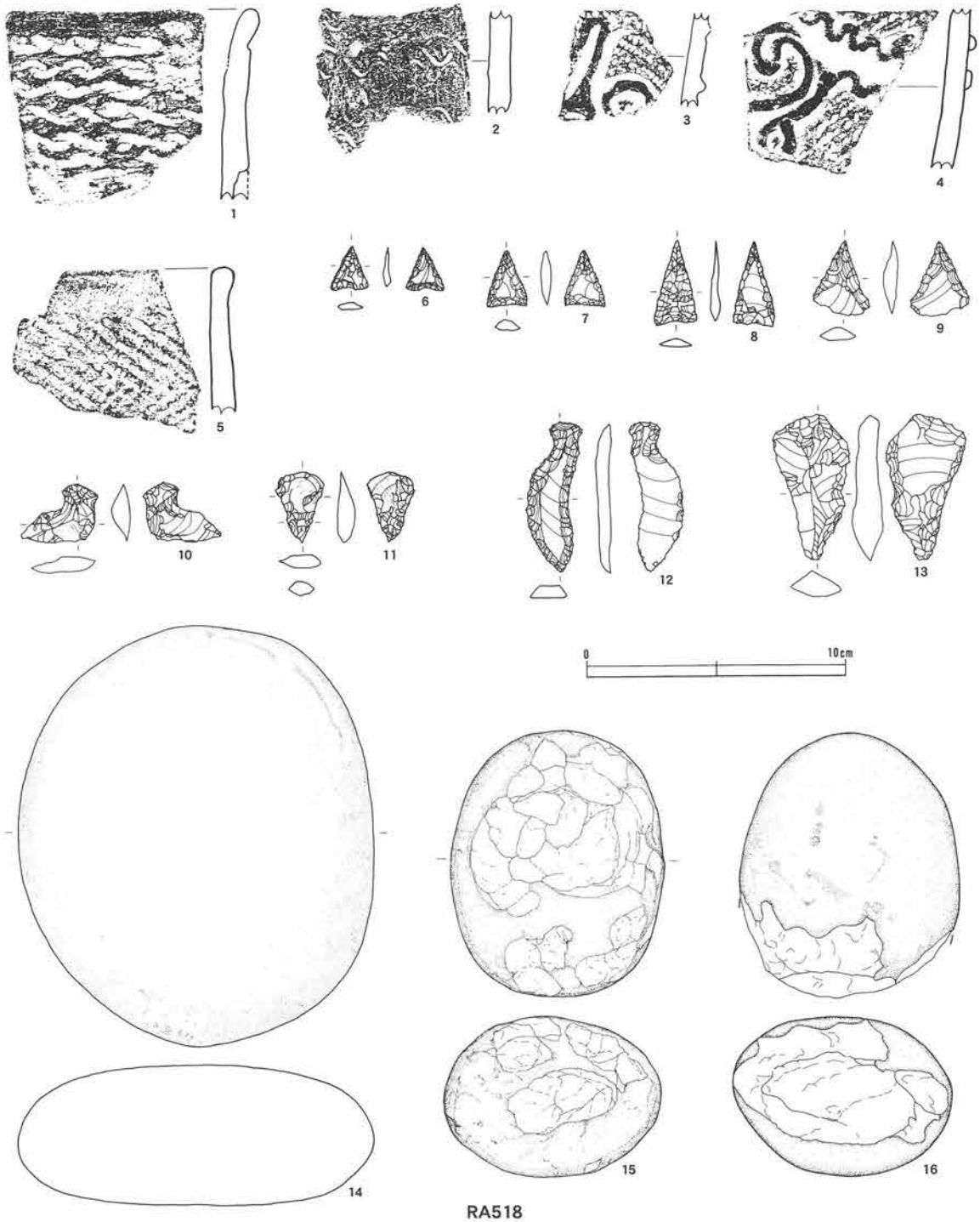
第86図　RA518住居跡（2）



第87図　RA518住居跡出土遺物（1）

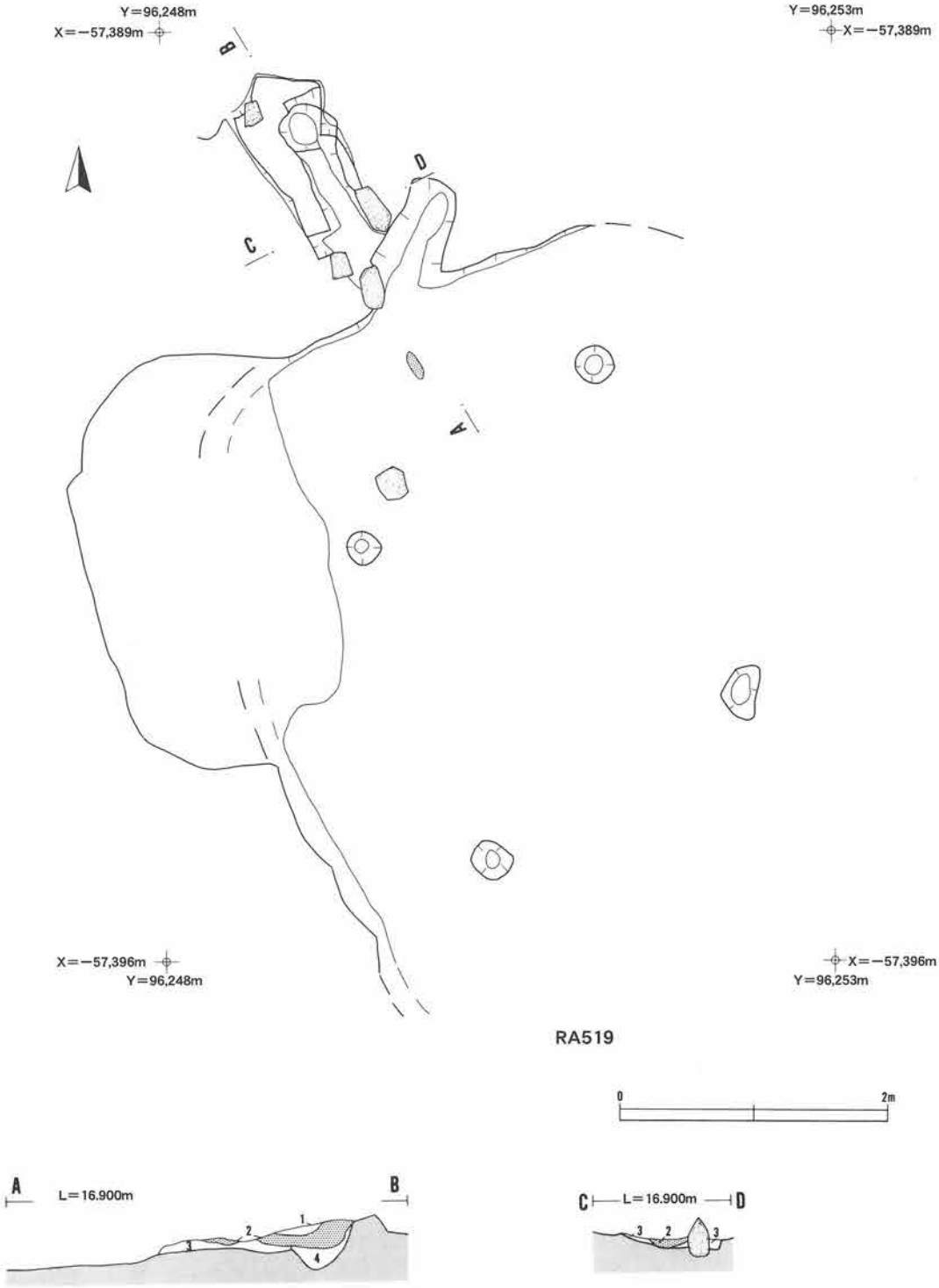


第88図　RA518住居跡出土遺物（2）



第89図　RA518住居跡出土遺物（3）

鉄製品は刀子と思われるもの2点と鉄鍋の破片1点である。87-11・12は刀子と思われ、11は長さ85㎜・幅12㎜・厚さ3㎜、12は長さ127㎜・幅16㎜。厚さ4㎜である。87-10は鉄鍋の破片で、4片に分かれていたものが接合した。長さ89㎜・幅117㎜・厚さ2～3㎜である。底部は平坦で、側面は緩く湾曲している。底部の直径は推定24㎝で、底面から約140度の角度で大きく広がって立ち上がっている。



かまど
1　10YR2/1　黒　色　黄褐色土混入　粘性無し　締まりやや疎
2　10YR2/2　黒褐色　焼土ブロック混入　粘性無し　締まり疎
3　10YR3/2　黒褐色　粘性無し　締まり疎
4　10YR2/3　黒褐色　焼土・灰のブロック混入　粘性無し　締まり疎

第90図　RA519住居跡

石製品のうち89-14～16は床面から出土している。磨石や台石のようであるが、重量物なので埋土から移動した可能性もあり、古代の遺物かどうか不明である。

埋土から出土した縄文土器片は前期前葉・中葉・中期中葉のものが混じっている。石器は石鏃4点と石匙1点、石錐1点、削掻器1点、磨石3点がある。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。

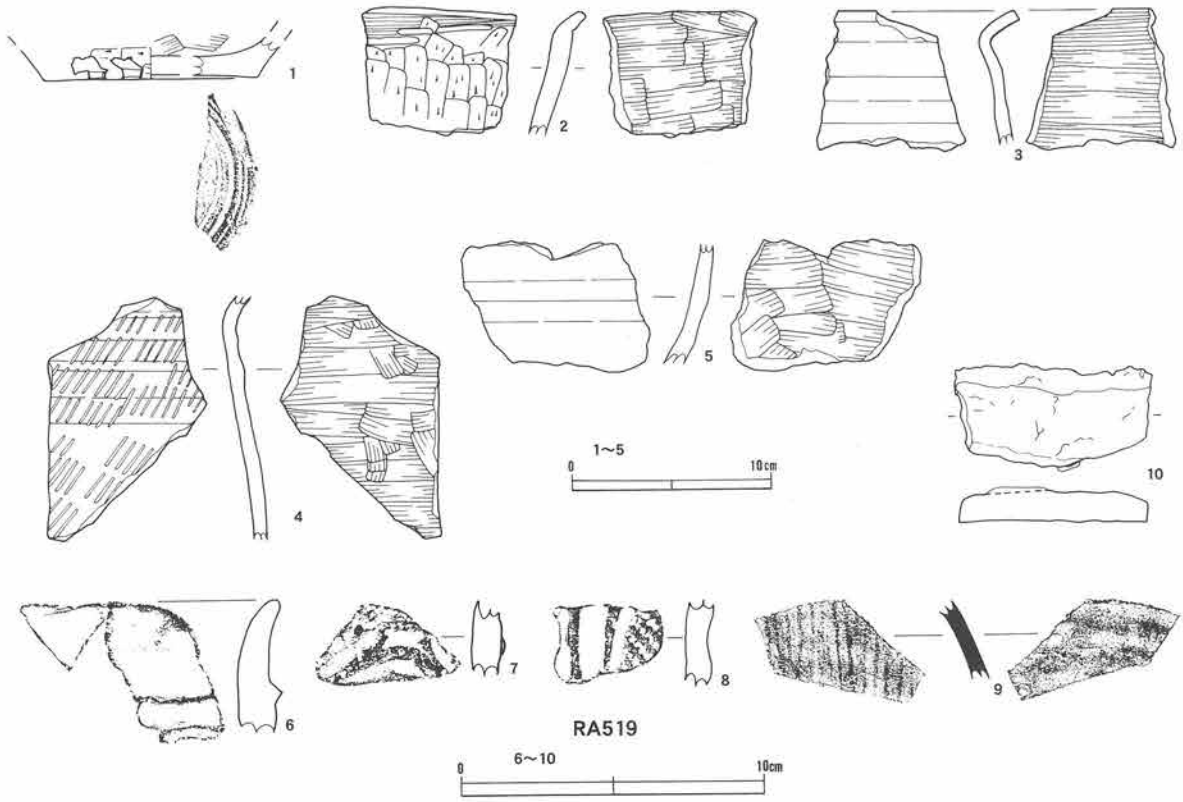
RA519住居跡（図版：90・91，写真図版：75・99）

RA518住居跡の北西に位置し、縄文時代の住居跡RA112やRA165の上位に構築されている。一次調査の調査手順の不備などで、撹乱を受けたところもあり、北側と西側の壁の一部とかまどの痕跡が検出された。1辺5m以上の方形ないしは隅丸方形状を呈していたと思われ、壁は直立していたようである。

埋土は炭化物が混入する黒褐色土や暗褐色土で構成される。残存する床面はほぼ平坦で、締まりはやや密である。対角線上に柱穴が4基検出されている。柱穴の大きさは開口部径25～30cm・深さ約40cmである。

かまどは北側壁の中央付近に直交して作られており、軸はN-55°-Wである。かまど付近も撹乱を受けており、煙道の一部だけが残存している。燃焼部付近に焼土の痕跡が残るが、焚き口付近の状況は不明である。煙道は焚き口よりの両側に盤状の礫が間隔を置いて並べられている。煙出し部まで礫が並べられていたかどうかは不明である。煙道の底部はほぼ水平で、煙出し部直下は少しくぼむ。焼土のブロックが堆積している。

出土遺物は、柱穴から板状鉄片が、煙道付近や埋土から土師器や須恵器の破片・縄文土器片が得られている。91-1～5はロクロ使用の甕の破片で、4の外面にはタタキメも残る。91-9は須恵器の破片で外面にタタキメが残る。91-10は板状の鉄片で、長さ65mm・幅35mm・厚さ12mmである。6～8は縄文時代中期中葉の土器片である。



第91図　RA519住居跡出土遺物

遺構の時期は、かまどの位置は奈良時代と思われるが、出土遺物は平安時代のものが主であり、平安時代の遺構の可能性が高い。

RA520住居跡（図版：92，写真図版：76・99）

RA115・116住居跡の北西に位置し、上位に検出された。厚い黒色土の中に構築されており、一次調査の粗掘りで破損を受けているようである。北西側の壁の一部とかまど付近の焼土が検出されている。埋土と床面の区別がつきにくく、形状も不明瞭であるが、一辺4mほどの方形ないしは隅丸方形だったようである。埋土は炭化物混じりの黒色土ないしは黒褐色土で構成される。床面は締まりやや疎である。柱穴状土坑が4基検出されているが、対角線上の配置ではないようである。柱穴の規模は径25cm・深さ20cmほどである。

かまどは北側壁の中央西寄りに直交して作られていたようで、軸の方向はN-20°-Wである。幅30cm・長さ80cmの焼土の両側に角礫が検出されたが、袖部の芯ではなく、煙道に伴うようである。この焼土は煙出し部方向に向かって緩く傾斜して上がっている。焼土の厚さは最大4cmほどである。

出土遺物は埋土から、土師器片と縄文土器片が得られている。92-1は坏で、体部下位に小さな段が形成され、内面は丁寧なミガキと黒色処理、外面下位はハケメ調整がなされている。縄文土器片は前期前葉のものと中期中葉のものがある。

遺構の時期は、かまどの位置や出土遺物から奈良時代と思われる。

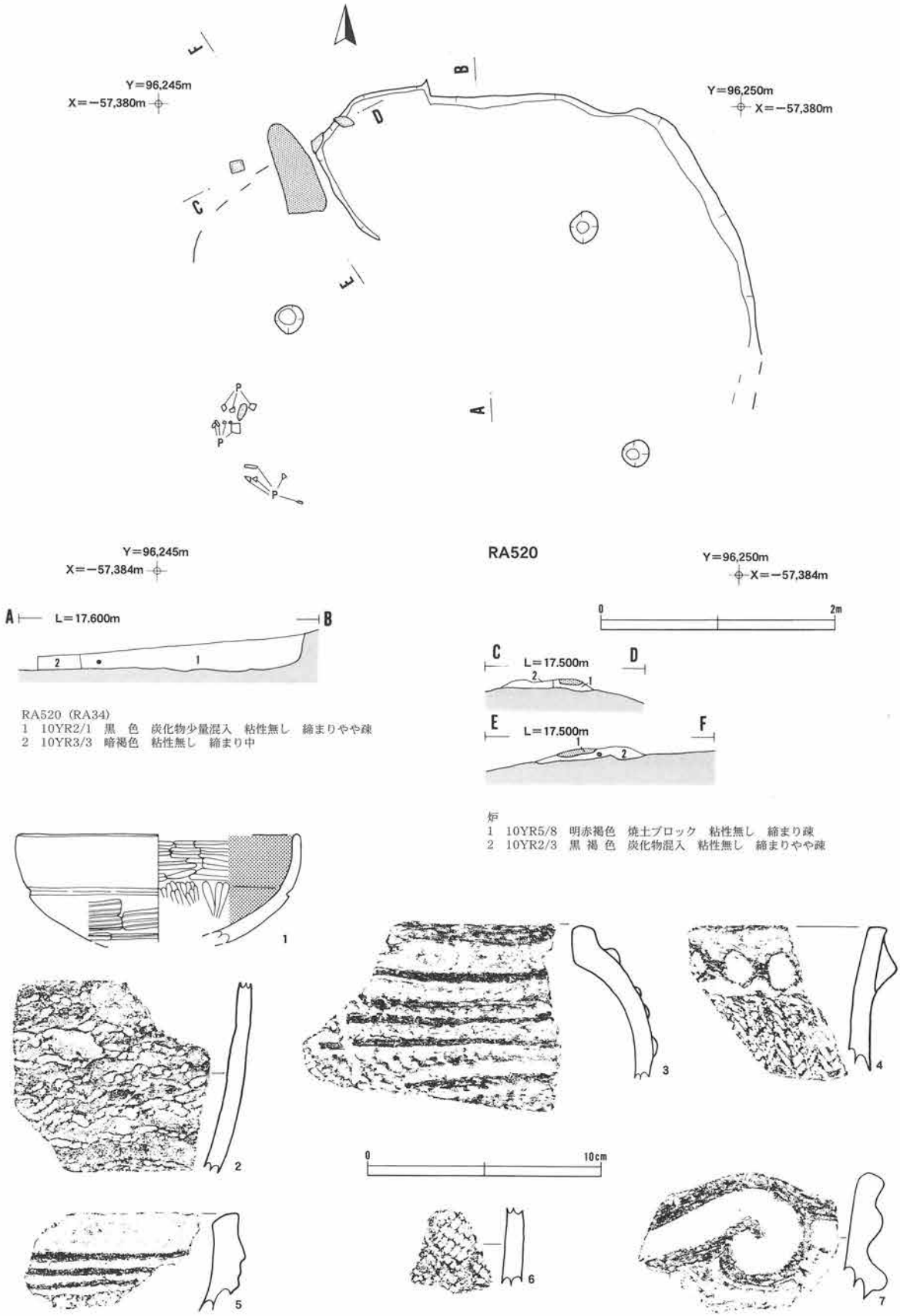
RA521住居跡（図版：93～97，写真図版：77・78・99～101）

RA519の南・RA120の西に位置する。ほぼ方形で北側にかまどを持つ。西側の壁には、縄文時代の住居跡RA126が検出されている。焼失家屋で、検出面の壁際から炭化物が検出されている。規模は、1辺約6mであるが、北側が7m近くあり、やや広い。壁高は傾斜地を掘り込んで作られているため、北側及び西側が高く約60cmあり、南東側は10cmほどしか残らない。

埋土は、上位が炭化物がまばらに混入する暗褐色土、中位から下位は炭化材や黄褐色土ブロック・焼土ブロックが混入する黒褐色土で構成される。炭化物や焼土はかまどの周辺や西側壁に多く、壁も焼けて橙色を呈している。かまど東側に検出された炭化材は、板材のようである。床面は平坦で締まっている。柱穴はほぼ対角線上の各隅寄りに検出された。柱穴の規模は径20～30cm・深さ35～40cmである。

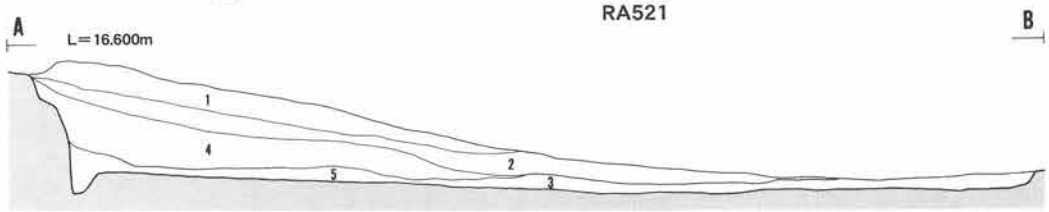
かまどは北壁中央付近にあり、煙道部の近くに、新しい撹乱跡がある。板状の礫と褐色土で作られた袖部に板状の礫が渡してあった。かまど内には2個体分の甕の破片があり、支脚として使われていたようである。焼失時に破損したようである。煙道はくり貫き式で、1.5m程水平に掘り込まれている。横断面形はほぼ楕円形で長径25cmほどである。

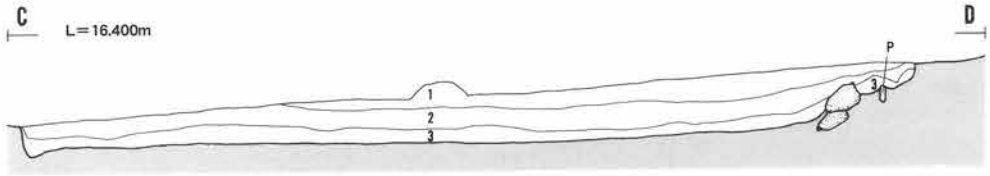
出土遺物は、かまど内の土師器片のほかに、かまど東側の炭化材付近から土師器と須恵器の甕の個体、砥石が、埋土から土師器や縄文土器片などが得られている。94-1、95-1～3・5～7はかまどから出土した土師器である。94-1は胴部が広がりながら立ち上がり、口縁部が短く広がる甕であるが、いびつで、器厚もばらつきがあり、粘土紐の積み上げ痕も残り、粗雑な造りである。外面は削り、内面はハケメ調整である。かまど出土の土師器甕は外面がケズリやハケメ・ナデ・タタキメの残るものなどで内面はハケメのものと、内外面ともにミガキ調整されたもの（95-3）がある。95-7・8は浅鉢形をしているが坏と思われる。器厚がやや厚い椀形を呈する。内面は磨かれている。8は底部に木葉痕がある。95-9はかまど東側の壁際から出土した須恵器で、鉢形を呈している。94-2・3は床面出土の砥石で、4面とも研磨され湾曲している。石質は



第92図 RA520住居跡

RA521

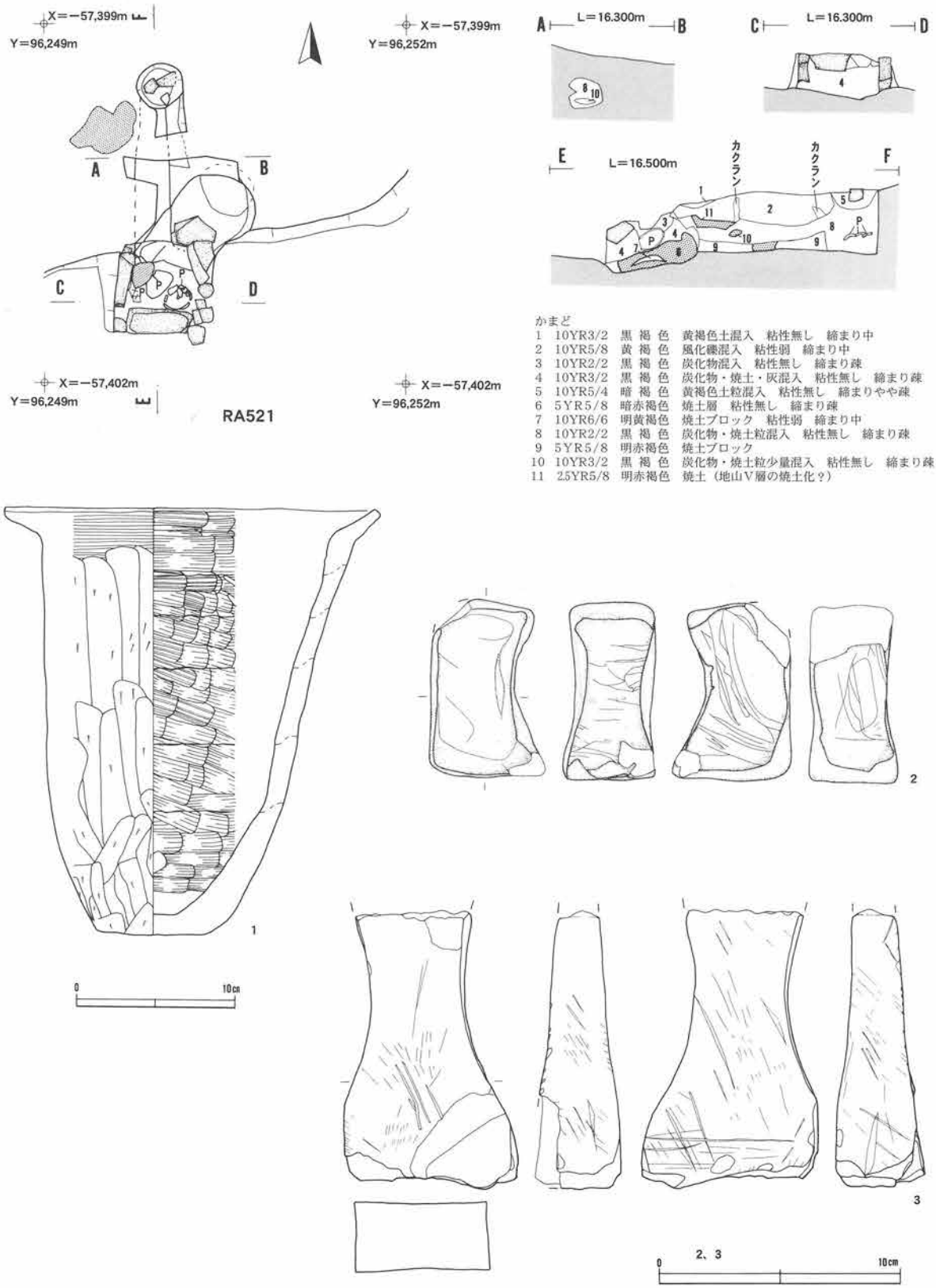




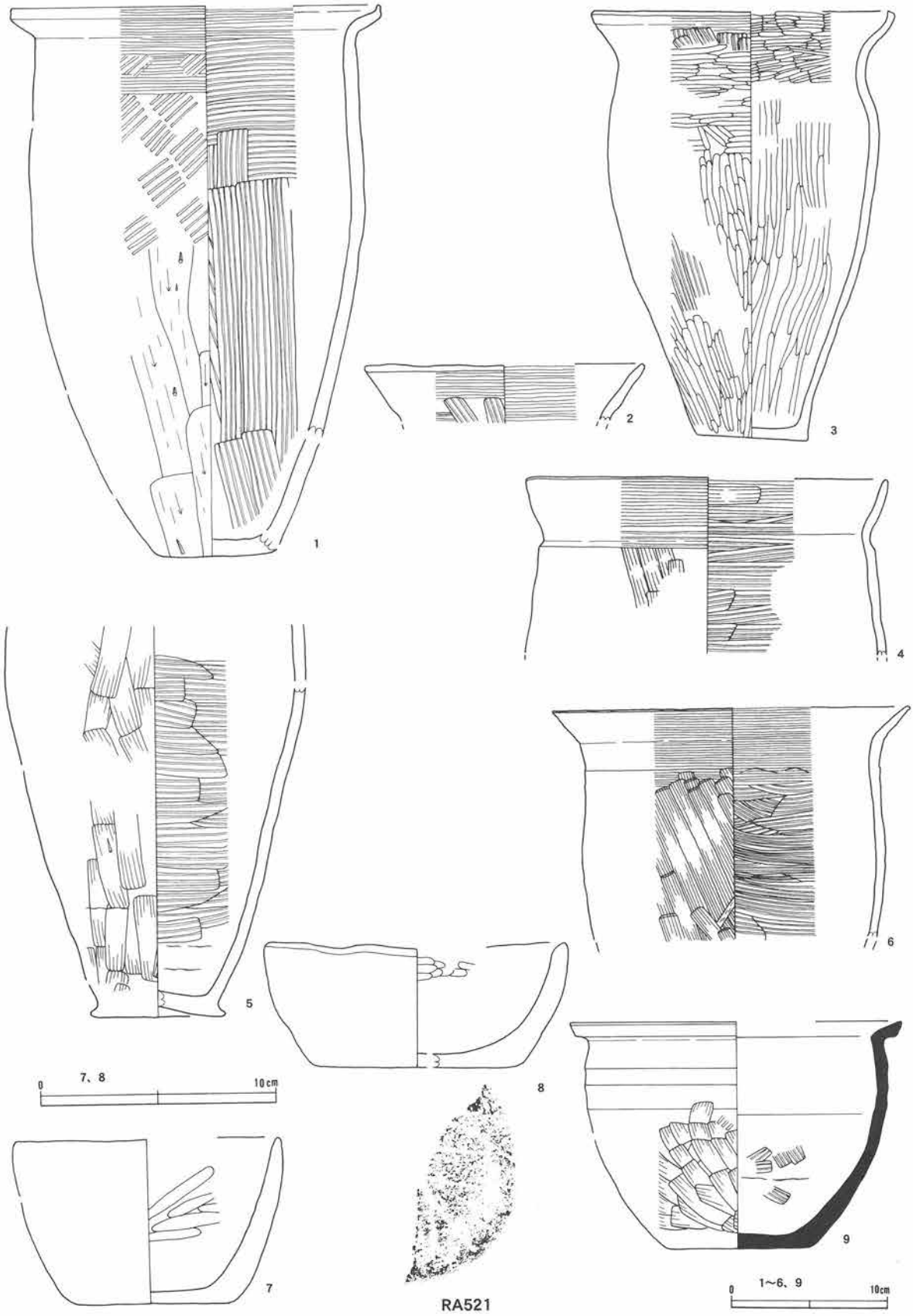
RA521 (RA37)
1 10YR3/3 暗褐色 炭化物まばらに混入 粘性無し 締まりやや疎
2 10YR3/1 黒褐色 黄褐色土小ブロック混入 粘性無し 締まりやや疎
3 10YR2/2 黒褐色 炭化物・焼土多量混入 黄褐色土ブロックも混入 粘性無し 締まり疎
4 10YR2/3 黒褐色 粘性無し 締まり疎
5 10YR3/3 暗褐色 黄褐色土混入 粘性無し 締まり疎

0 2m

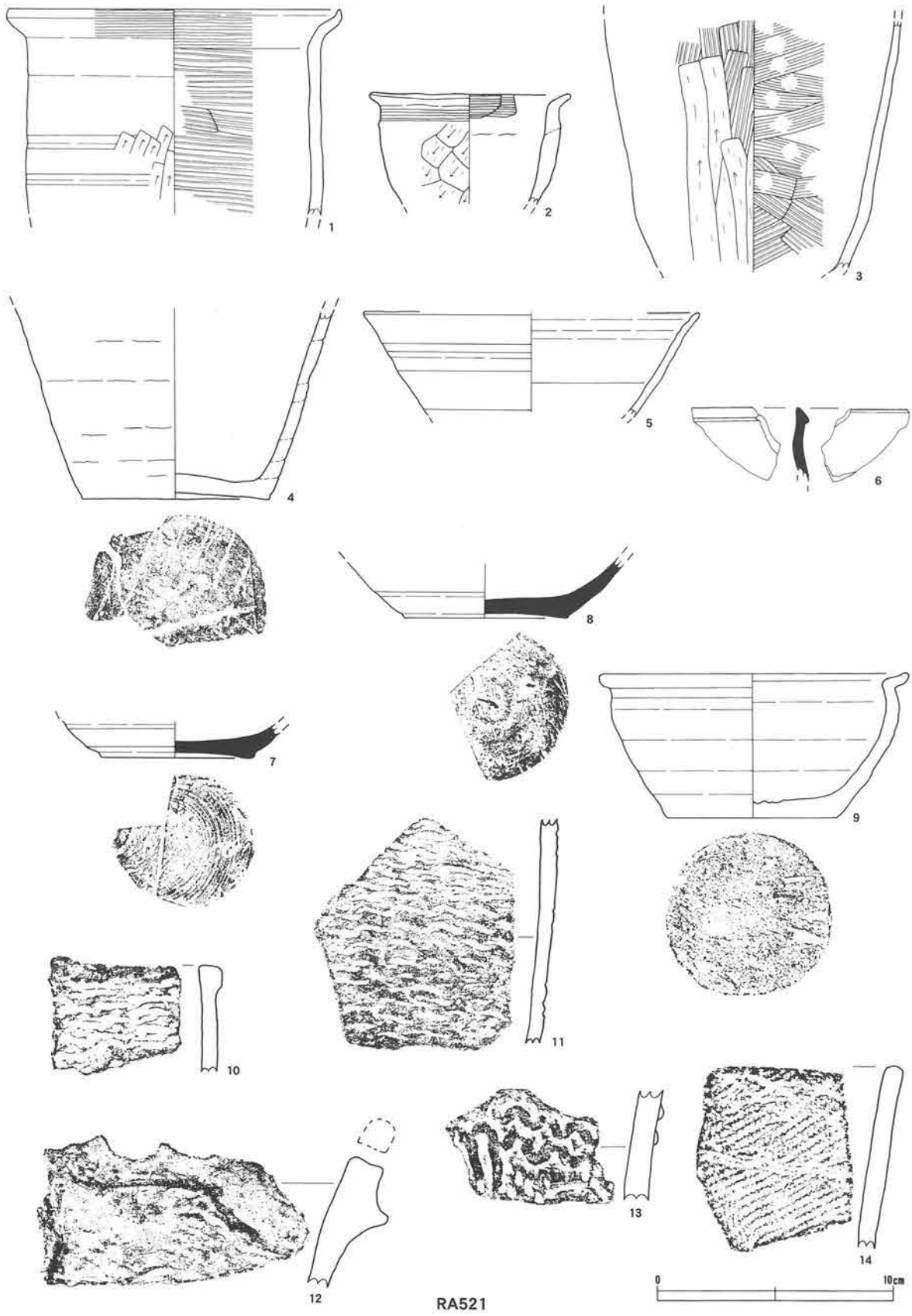
第93図 RA521住居跡



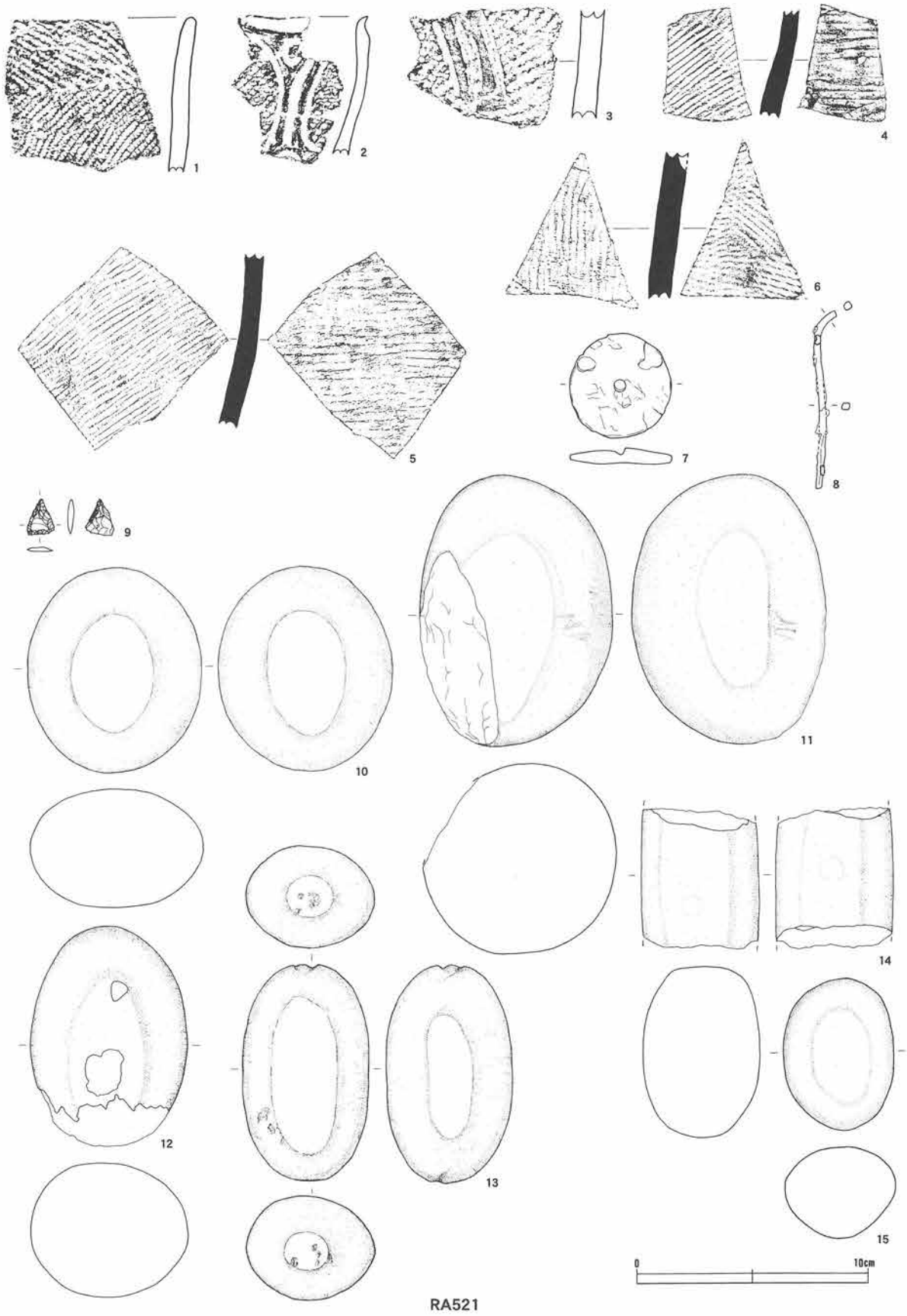
第94図　RA521住居跡出土遺物（1）



第95図　RA521住居跡出土遺物（2）



第96図　RA521住居跡出土遺物（3）



RA521

第97図　RA521住居跡出土遺物（4）

流紋岩である。

埋土出土の土師器のうち95-4の甕は頸部に小さな段があり、外面はナデ、内面はハケメ調整されている。96-1のようにロクロ使用の痕跡の残るものや96-4のように粘土紐の積み上げ痕が残り、底部に木葉痕が残るもの、96-3のように外面がケズリのものがある。96-5・9はロクロ使用の坏で、9は制止糸切りの痕跡がある。96-6～8・97-4～6は須恵器の破片である。97-7・8は紡錘車で、接合部分はないが同一個体と思われる。

縄文土器片は前期前葉のものと中期中葉のものがある。石器は石鏃1点、磨石6点である。磨石は、広い面に磨面が形成されたものと狭い縁辺に磨面が形成されたものがある。また97-13は紡錘形で両端に敲打面が形成されている。

遺構の時期は、かまどの位置は奈良時代と思われるが、遺物は床面やかまど出土のものは平安時代なので、平安時代と思われる。

RA522住居跡（図版：98・99，写真図版：78・79・101）

RA120住居跡の東に位置し、同遺構の上位に検出された。 平面形は隅丸方形状を呈し、壁は内湾気味に外傾する。規模は長軸3.2m・短軸2.2mで、壁高40cmである。埋土は主に黒褐色土で構成され、下位に黄褐色土や炭化物が混入し、全体に締まりは疎である。床面は貼り床してほぼ平坦に作られ、中央付近に地床炉と見られる焼土がある。焼土の広がりは長径70cmほどの楕円形で、厚さは最大7cmである。また柱穴状の土坑が4基検出されている。開口部径・深さともに20～25cmである。

出土遺物は床面や埋土から土師器片が得られている。99-1～4は甕で、1の口縁部には小さな段がある。外面はハケメ、内面はミガキ調整が施されている。2・4は外面がミガキ、内面はナデ調整が行われている。3は外面ハケメ、内面ナデ調整が行われている。

遺構の時期は、出土遺物から奈良時代と思われる。

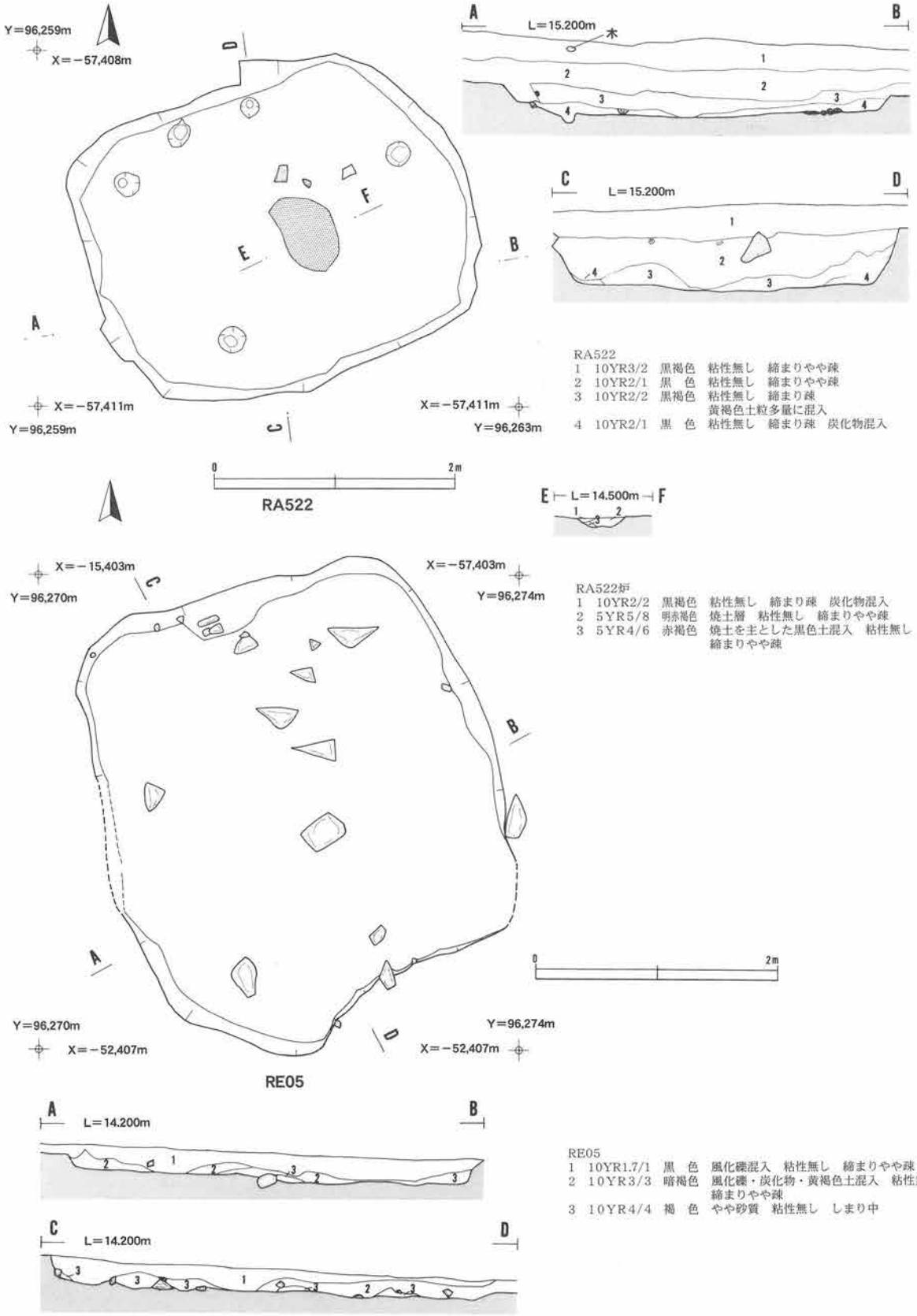
竪穴状遺構

RE05竪穴状遺構（図版：98・99，写真図版：80・101・102）

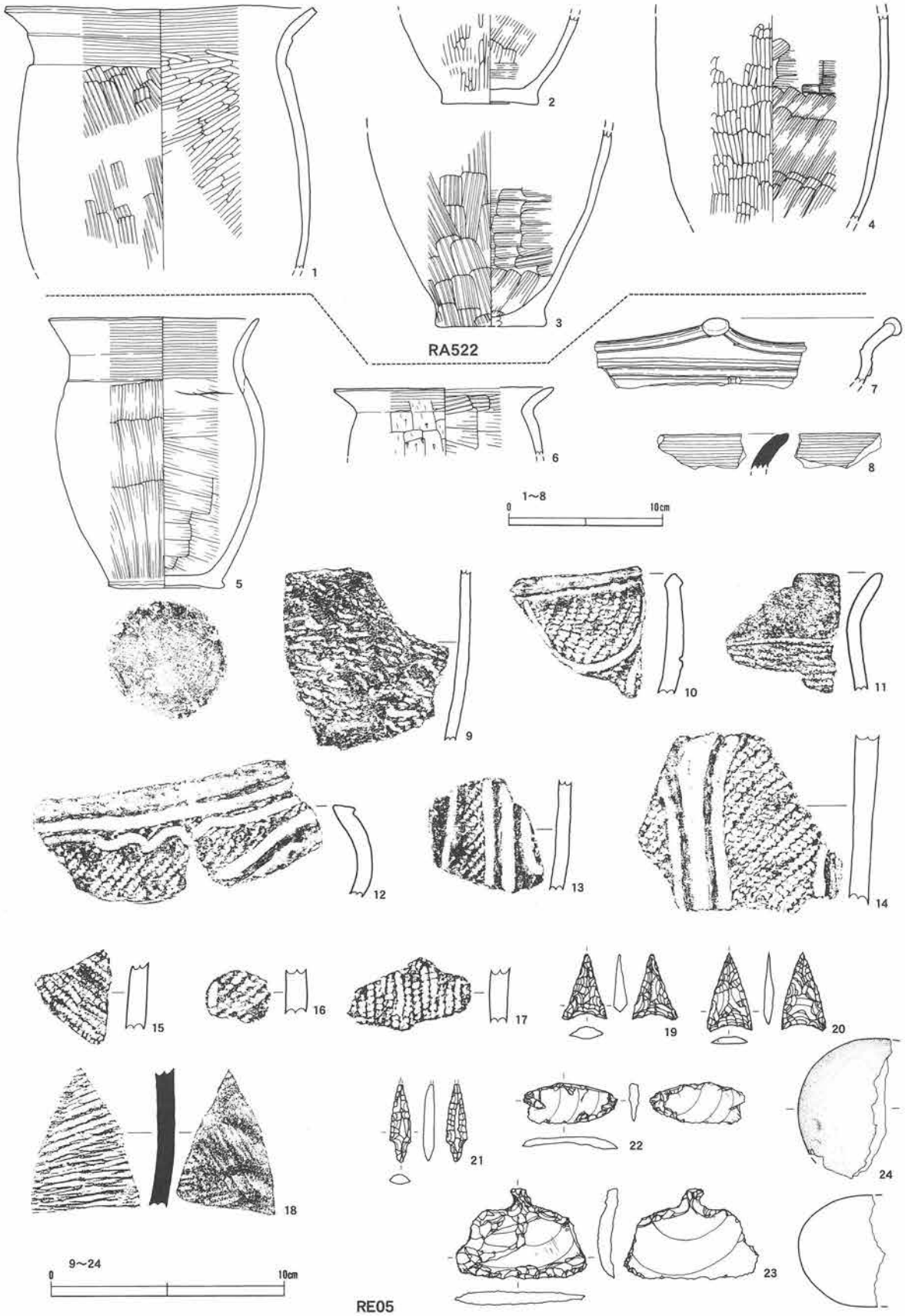
RA519・111の南側に位置し、Ⅱ層黒色土中で検出された。西側や南側の壁が不明瞭で、一部掘りすぎてしまったが、隅丸長方形状を呈するようである。残存する壁は内湾気味に外傾して立ち上がる。規模は長軸3.5m・短軸3m、壁高10cmほどである。埋土は主に風化礫の混入する黒色土や黒褐色土で構成され、締まりは疎である。底面は礫が露出し、やや起伏がある。炉や柱穴は検出されていない。

出土遺物は埋土から土師器片や縄文土器片が得られている。99-5は頸部に小さな段がある甕で、内外面ともナデ調整が行われている。底部には木葉痕がある。6の甕は短い口縁部が広るように立ち上がる。外面はケズリ、内面はハケメやナデ調整が施されている。8・18は須恵器片、7・11は弥生土器片である。縄文土器片は前期前葉のものと中期中葉のものが出土している。石器は石鏃3点、削掻器1点、石匙1点、磨石1点である。

遺構の時期は出土遺物から平安時代の可能性が高い。



第98図　RA522住居跡・RE05竪穴状遺構



第99図　RA522住居跡・RE05竪穴状遺構出土遺物

土坑

RD32土坑（図版：100，写真図版：81・102）

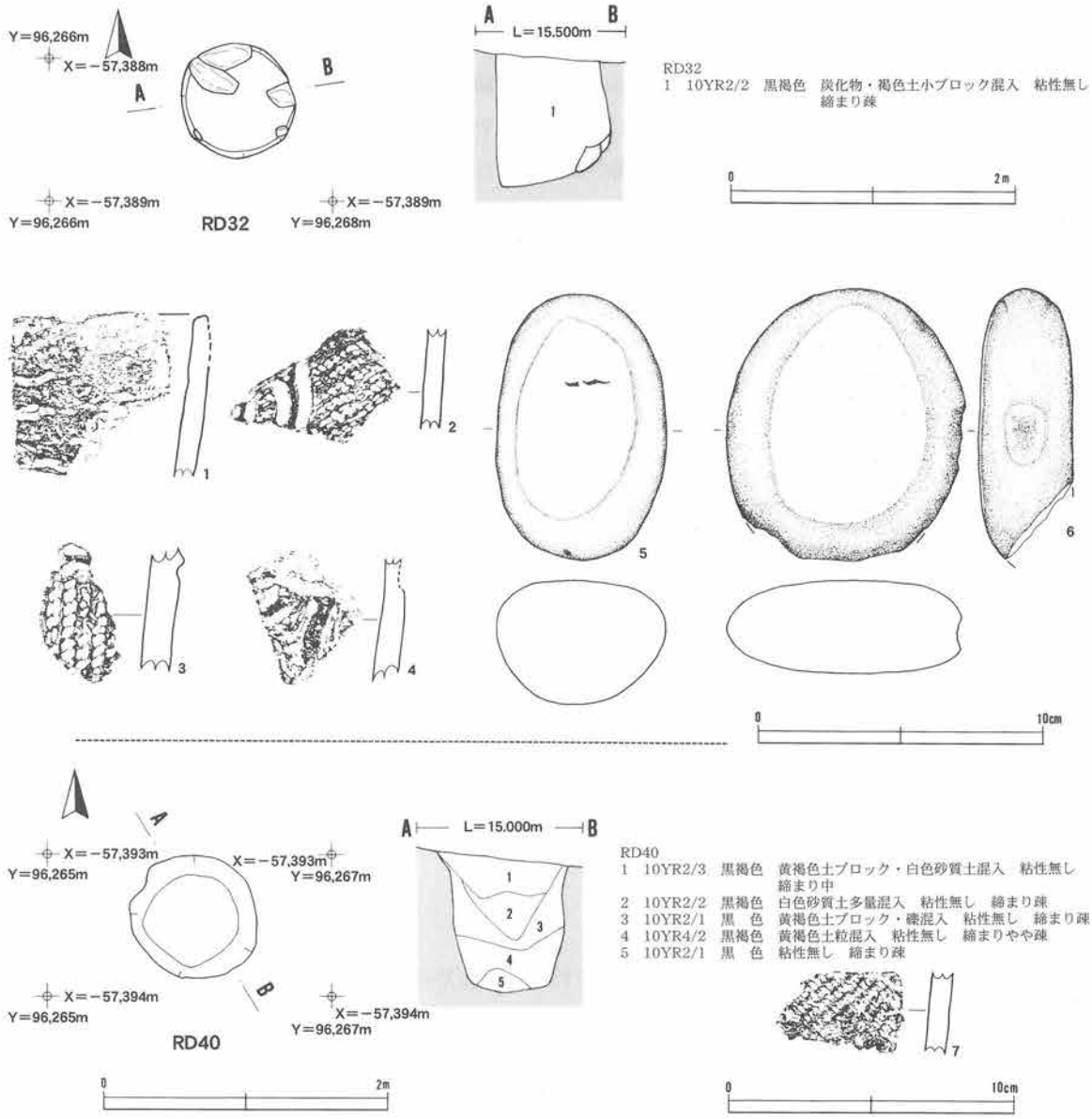
RA113内の西側に位置し、住居跡を切っている。検出層位は不明瞭だが古代の面より上のようである。平面形はほぼ円形で、壁は直立する。埋土は炭化部茶褐色土の混入する黒褐色土で構成され、締まりは疎である。底面には礫が露出し、東側が高くなる。

出土遺物は、埋土から縄文土器片少量と石器2点が得られている。縄文土器片は前期前葉のものと中期中葉のものがある。石器は2点とも磨石で、1点は側縁に敲打によるくぼみが形成されている。

遺構の時期は検出層位や埋土の状況から古代より新しい可能性がある。

RD40土坑（図版：100，写真図版：81・102）

RA518の東壁際に検出された。RA518住居跡よりも新しい。平面形はほぼ円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径・深さともに約90cmである。埋土は主に黄褐色土のブロックや礫を混入する黒褐色土で構



第100図　RD32・40土坑

成され、締まりはやや疎である。底面は少し傾斜している。

出土遺物は、埋土から縄文中期の土器片1点が出土している。

遺構の時期は、RA518住居跡を切って構築されていることから平安時代以降と思われる。

(3) 時期不明遺構（近世以降）

土坑

RD35土坑（図版：101，写真図版：81・102）

M19グリッドV層上面で検出された。RA110の北に位置する。平面形は小判形を呈し、壁は緩く湾曲して立ち上がる。規模は長軸約3m・短軸1.8m、深さ30～35cmである。埋土は黄褐色土の粗粒や風化礫の混入する黒褐色土で構成され、締まりは疎である。底面には礫も露出するがほぼ平坦である。

出土遺物は埋土から縄文前期と中期の土器片少量が得られている。

遺構の時期は、形状は縄文前期の可能性もあるが、埋土の締まりが疎で近世以降と思われる。

RD38土坑（図版：101，写真図版：82）

RA518住居跡の東に位置し、G15区で検出された。平面形は円形状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。規模は開口部径約1m・深さ80cmである。埋土は黄褐色土や炭化物・礫の混入する黒色土で構成され、締まりは疎である。中位から下位にかけて大きな礫が多量に入っている。底面は平坦ではない。

埋土から縄文土器片が得られているが、整理時には行方不明になっていることが判明した。

遺構の時期は、埋土の状況から近代以降の可能性が高い。

RD42土坑（図版：101，写真図版：82・102）

RA119住居跡の南側に位置し、同遺構を切って作られている。平面形はほぼ円形で、壁は直立する。規模は、開口部径60cm・深さ70cmである。埋土は主に黄褐色土混じりの黒褐色土で構成され、締まりは疎である。

出土遺物は埋土から縄文中期の土器片少量が得られている。

遺構の時期は、埋土の状況から近世より新しいようである。

RD43土坑（図版：101，写真図版：82）

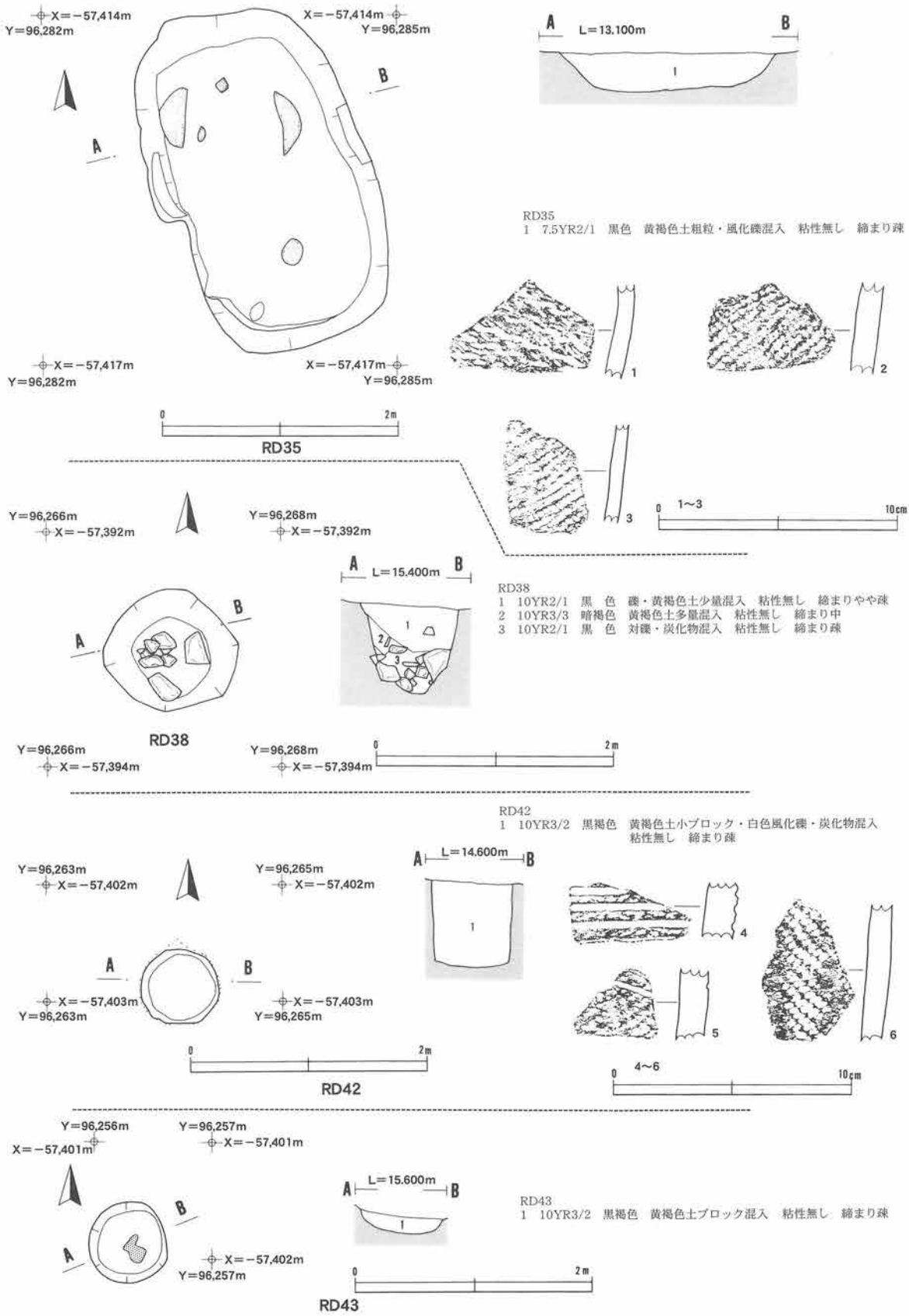
RA521住居跡の東、RA120に北に位置している。平面形はほぼ円形で、壁は外傾する。規模は開口部径70cm・深さ10cmほどである。埋土は主に黄褐色土ブロックの混入する黒褐色土で構成され、締まりは疎である。底面は平坦で、一部に不整形な焼土が形成され、その厚さは最大7mmある。

出土遺物はない。

遺構の時期は、埋土の状況から近世より新しいようである。

RD46土坑（図版：102，写真図版：82・102）

RA122住居跡の南西に位置し、Ⅱ層中で検出された。平面形はほぼ円形を呈し、壁がほぼ直立する円筒状を呈する。規模は開口部径約1m・深さ1.3mである。埋土は上位が礫混じりの黒色土、下位が黄褐色土が混入する暗褐色土で構成され、どちらも締まりはない。底面には礫が露出するがほぼ平坦である。



第101図 RD35・38・42・43土坑

出土遺物は埋土から縄文時代中期の土器片や須恵器片が少量得られている。

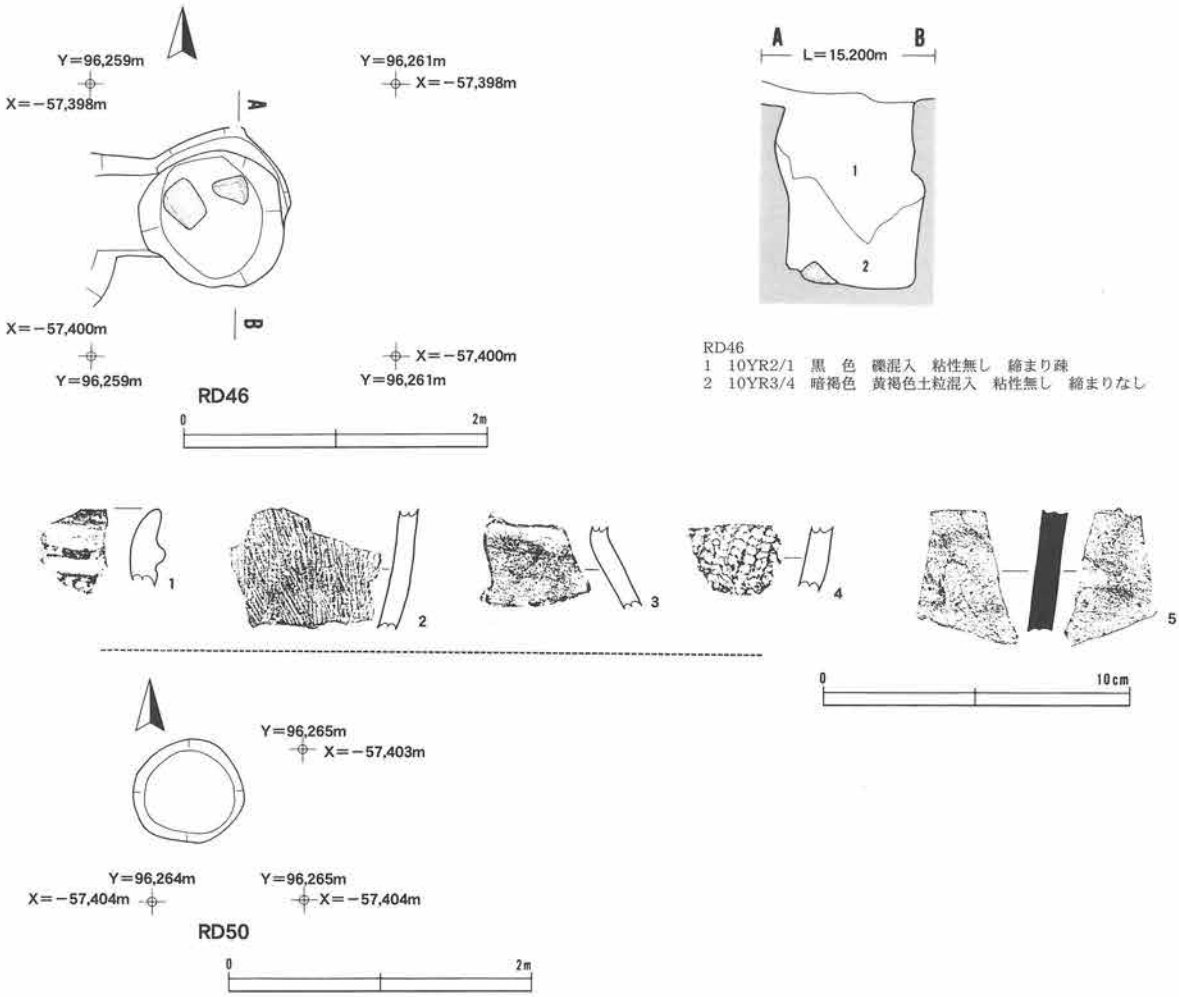
遺構の時期は、埋土の状況から近世より新しいようである。

RD50土坑（図版：102）

RA119住居跡の南西に位置する。住居跡の南西付近は壁や床面が不明瞭となっているが、埋土の状況からこの遺構の方が新しいようである。平面形はほぼ円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径・深さともほぼ70cmである。埋土は黒褐色土で、締まりはやや疎である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、埋土の状況から近世より新しいようである。



第102図　RD46・50土杭

3　遺構外の出土遺物

土器

遺構外出土土器は大コンテナ約16箱である。

(1)　縄文時代前期初頭の土器群（図版：103，写真図版103）

尖底で、胎土に少量のセンイが混入するもの（103-1～10）。尖底の角度は砲弾形に近く鋭角的になるものもあるが、円みを帯びて広がったり、乳首状に少し突出する形状のものがある。地文は単節斜縄文である。

(2)　前期前葉の土器群（図版：103～105，写真図版103・104）

胎土にセンイを多量に含む土器群とセンイが少ない土器群がある。前者（103-11～16）は、口縁部が少し外傾ないしは外反する深鉢形を呈し、口縁部は平口縁のようである。施文は羽状縄文や斜縄文である。

後者（103-17～105-7）も深鉢であるが、口縁部は平口縁だけでなく波状のものもある。口縁部下位に不整撚糸文や横走する間隔の開いた葺瓦状撚糸文が施文されるものが多い。口縁部や胴部に沈線文が施文されるものもある。104-2は全面に瓦状撚糸文が施文されており、大木2a式に相当するようである。不整撚糸文は大木1式期に相当するようであり、センイを多く含んでいる土器群も含め大木1～2a式期に相当しているようである。

(3)　中期前葉の土器群（図版：105，写真図版104）

平行沈線による文様施文を主とする土器群である（105-8～11）。口縁部は外反したり、膨らんで内湾する深鉢形である。105-8は口唇部直下に刻み目が連続し、内面には隆帯が巡る。また平行沈線の間には鋸歯状の沈線が施文されている。105-9は隆帯も併用されている。

(4)　中期中葉の土器群（図版：105・106，写真図版104・105）

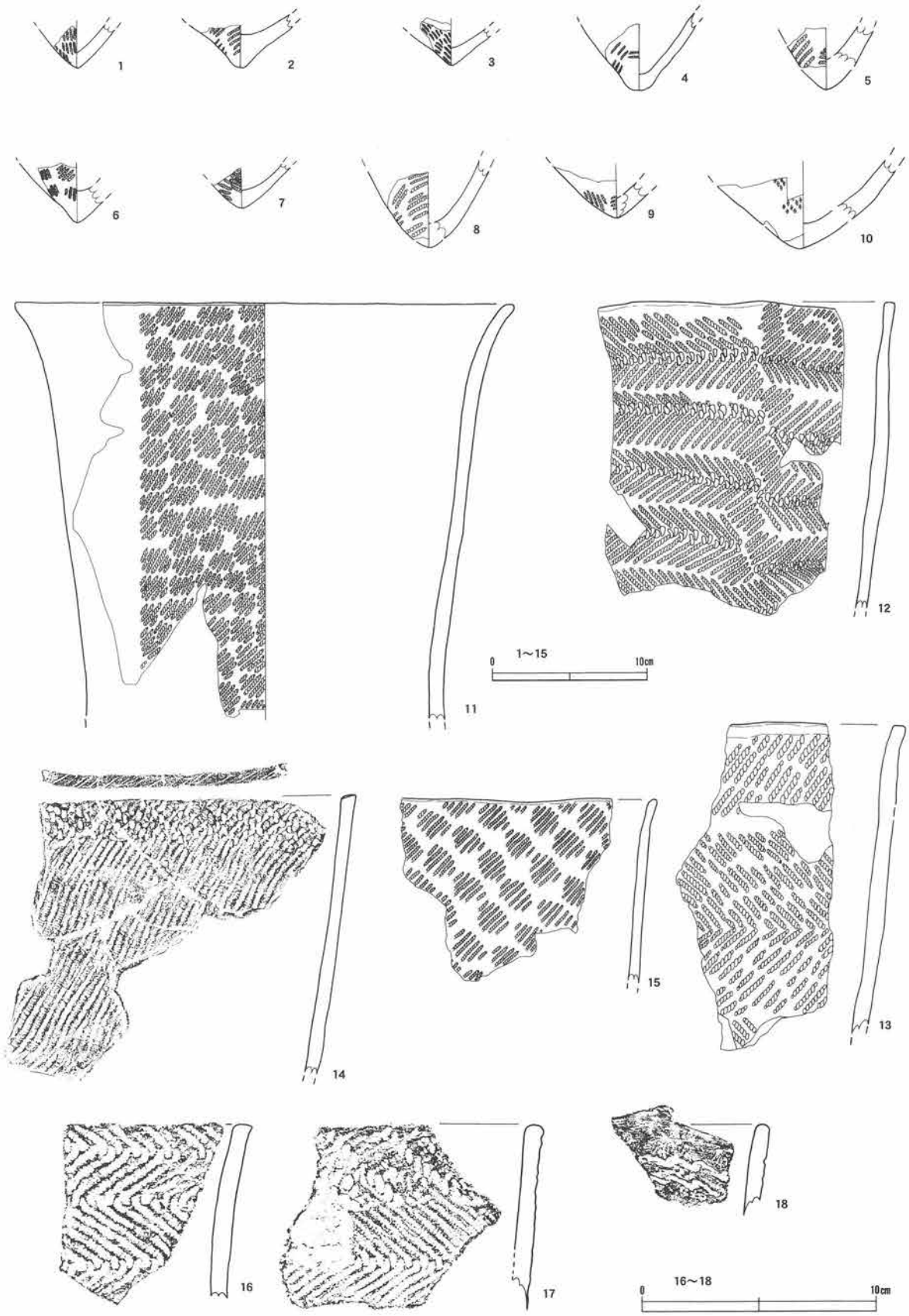
平行する隆帯や沈線を主とし、渦巻き状の文様を施文する土器群である（105-5～106-8）。口縁部は膨らんで内湾する、いわゆるキャリパー形と呼ばれる深鉢が多い。平口縁のものが多いが、波状口縁のものは突起や口縁部に装飾が付くものが多い。

(5)　中期後葉の土器群（図版：106図，写真図版105・106）

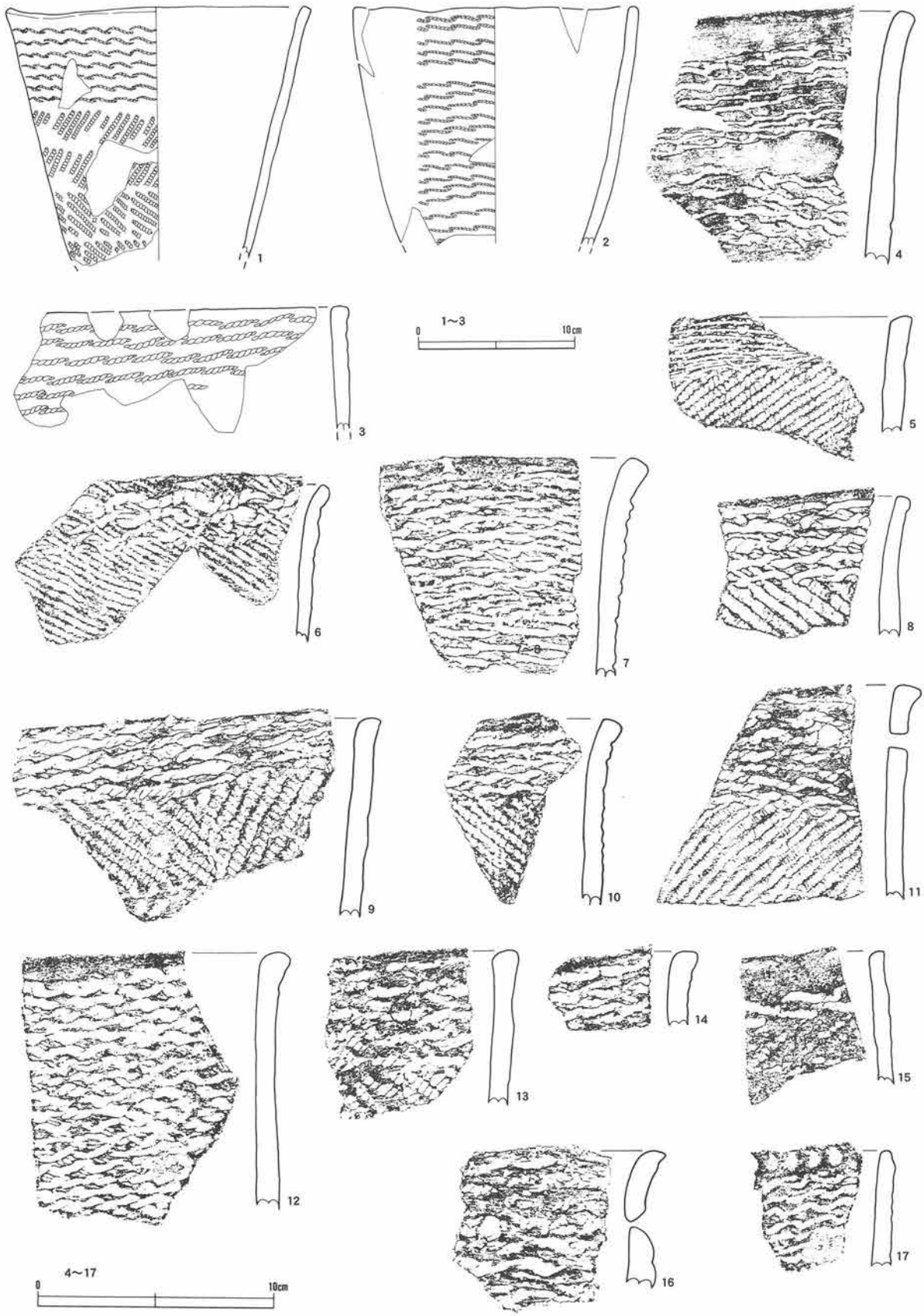
沈線と擦り消し帯により「O」字状の文様を施文する土器群である（106-9～13）。口縁部は内湾したり、外反して立ち上がる深鉢形土器で、平口縁のものも波状口縁のものもある。沈線は「O」字状に区画するだけでなく、一端が回転した施文もある。106-14～107-4は地文だけの粗製土器であるが、土器の形状や造りから(4)や(5)の縄文時代中期の土器群と思われる。

(6)　縄文時代晩期の土器群（図版：107，写真図版106）

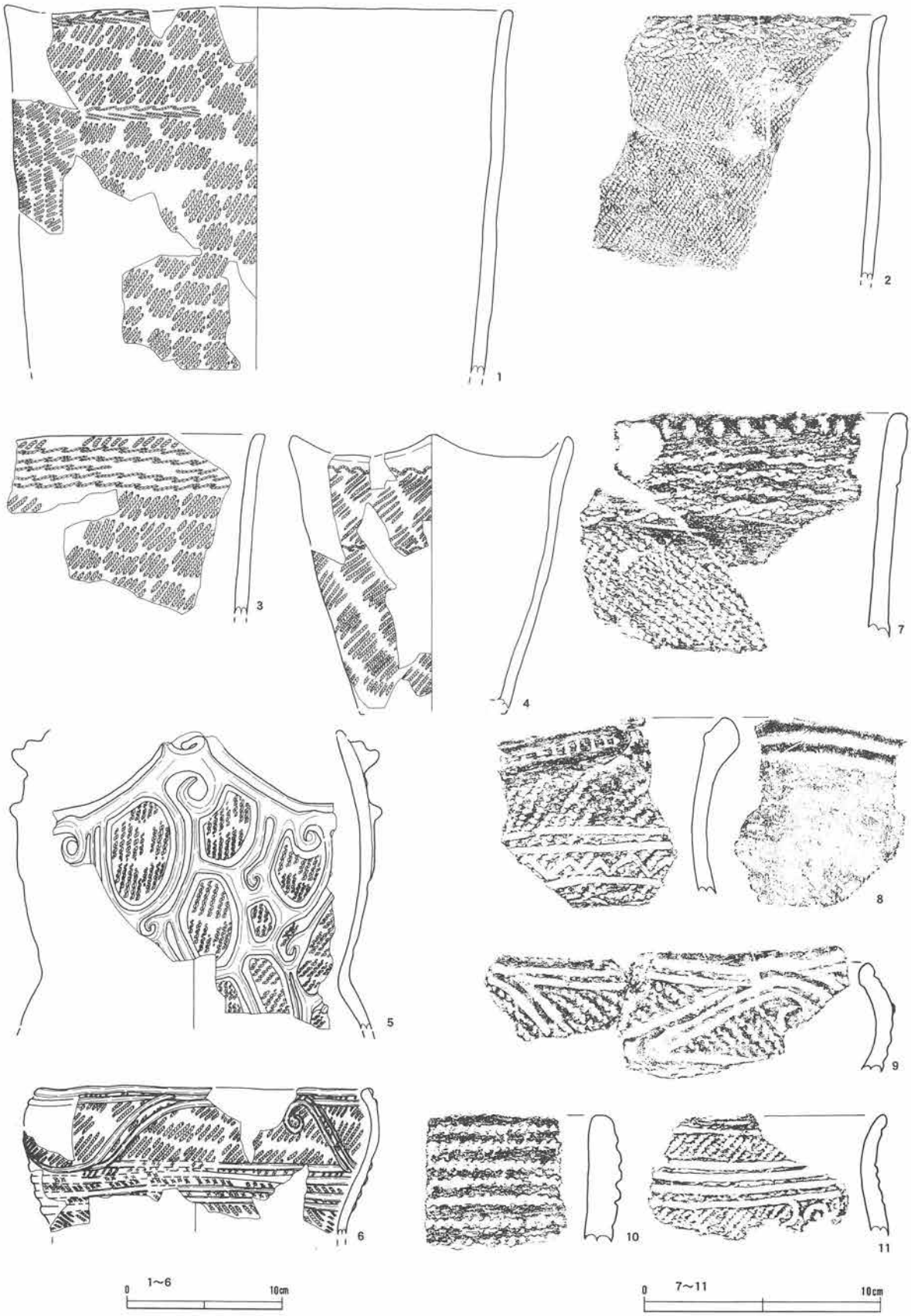
幅広い平行沈線で施文される土器群である（107-5～10）。高坏で、波状口縁である。器厚は薄く、赤味がかったものが多い。坏部には変形「工」字文が施文され、脚部には平行文が施文されている。(7)の弥生時代の土器群にも類似するところがあるが、沈線の幅が広く、地文の縄目もやや粗いので別のグループとした。



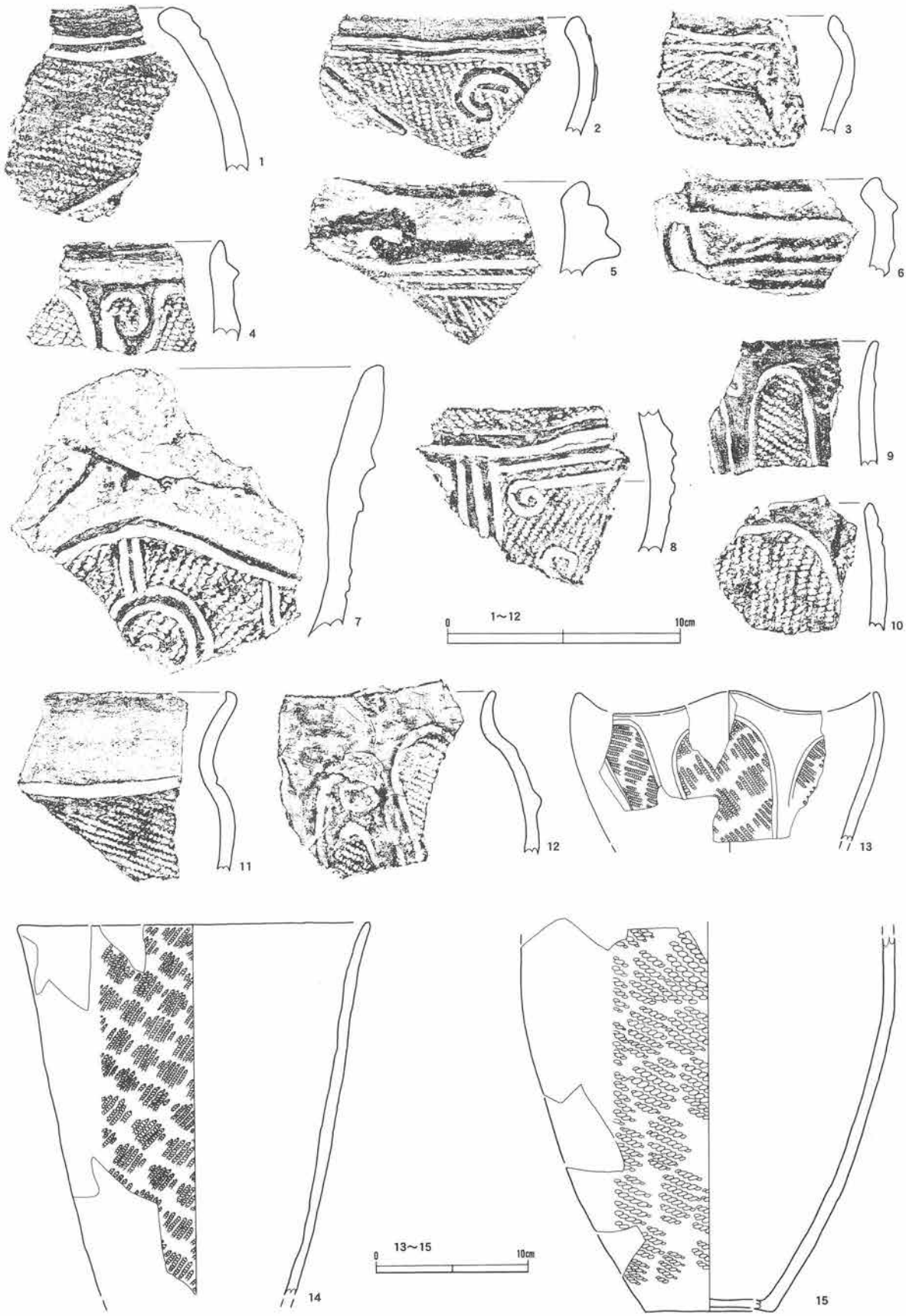
第103図　遺構外出土遺物（土器1）



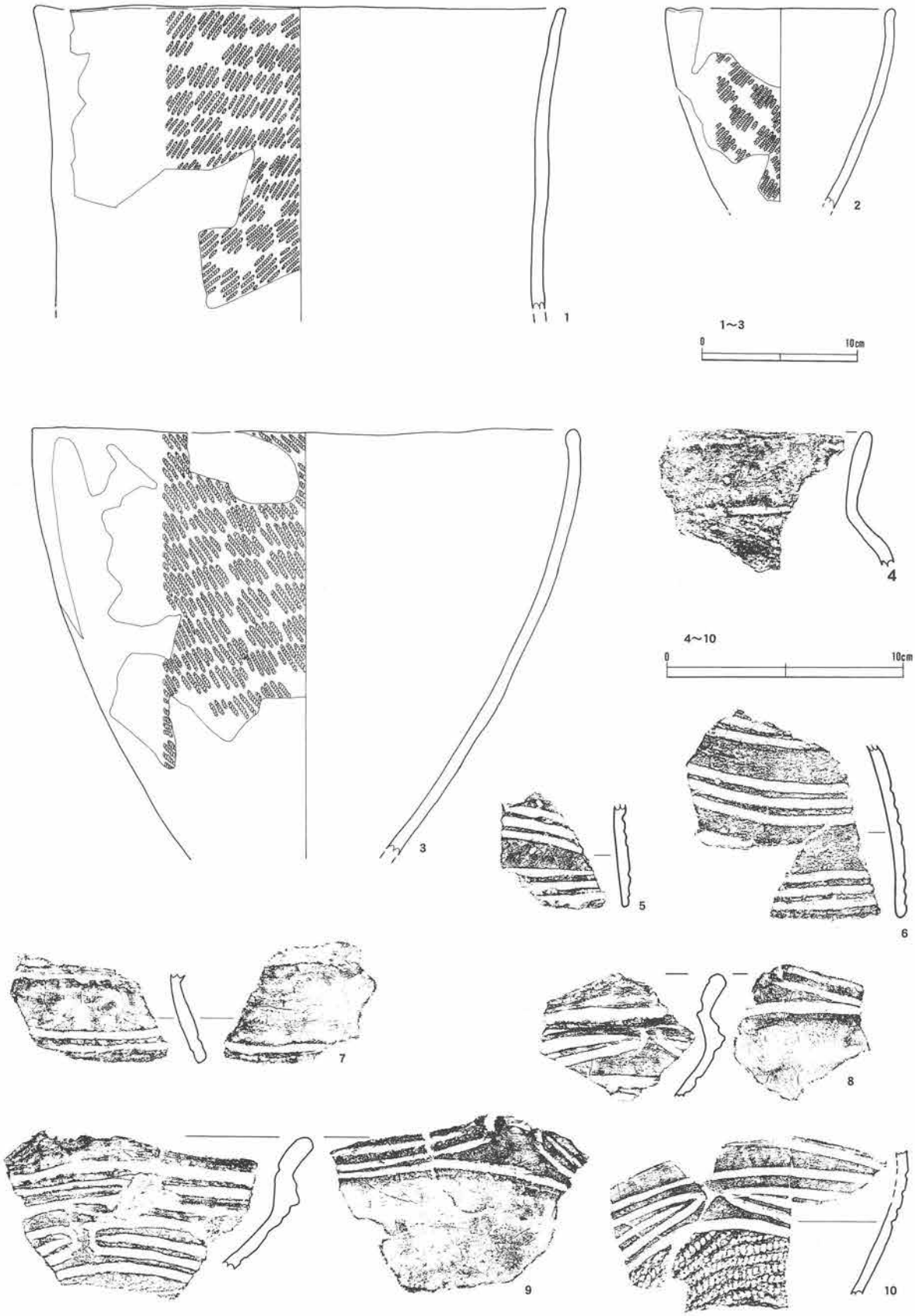
第104図　遺構外出土遺物（土器2）



第105図　遺構外出土遺物（土器3）



第106図　遺構外出土遺物（土器4）



第107図　遺跡外出土遺物（土器5）

(7) **弥生時代の土器群**（図版：108・109，写真図版107）

深鉢・壷・坏・高坏の種類があり、深鉢と壷はあまり装飾されていない。平口縁の物が多く、単位は不明だが小さな波状突起を持つものもる。器厚は全体的に薄く、地文は目の細かい単節斜縄文が主である。頚部や口縁部の内外・胴部などに平行沈線が巡るものもある。

坏・高坏は平行沈線による変形「工」字文や平行文が施文され、脚部には波状文が施文される。口縁部の内側にも平行沈線が巡るものが多い。

(8) **古代の土器群**（図版：109，写真図版107）

土師器（109-5～12）と須恵器に大別される（109-13・14）。甕は頚部に明瞭な段があるものと小さい段か段が目立たないものがある。前者は外面がナデで、内面がミガキ調整されている。後者は内外面ともハケメ調整である。ミガキが多用されている9は前者と、ケズリ痕の残る10・11は後者と同様なグループになりそうである。坏は12のように体部外面に小さな段を持つものと、7のように段を持たない小型のものが出土しているが、双方とも内面はミガキ調整で黒色処理が施されている。

須恵器はロクロ痕が残り口縁部が少し外反するものと、体部の角度と同じく内湾気味に外傾するものがある。

鉄製品（図版：109，写真図版107）

遺構外から得られた鉄製品は3点ある。15は鉄鏃の破損品と思われる。長さ83㎜・幅9㎜・厚さ5㎜である。16は刀子の破損品と思われる。長さ39㎜・幅17㎜・厚さ4㎜である。17は少し湾曲した鋳物の破片で、長さ30㎜・幅20㎜・厚さ7㎜である。

石器

(1) **石鏃**（図版：110-1～13，写真図版108）

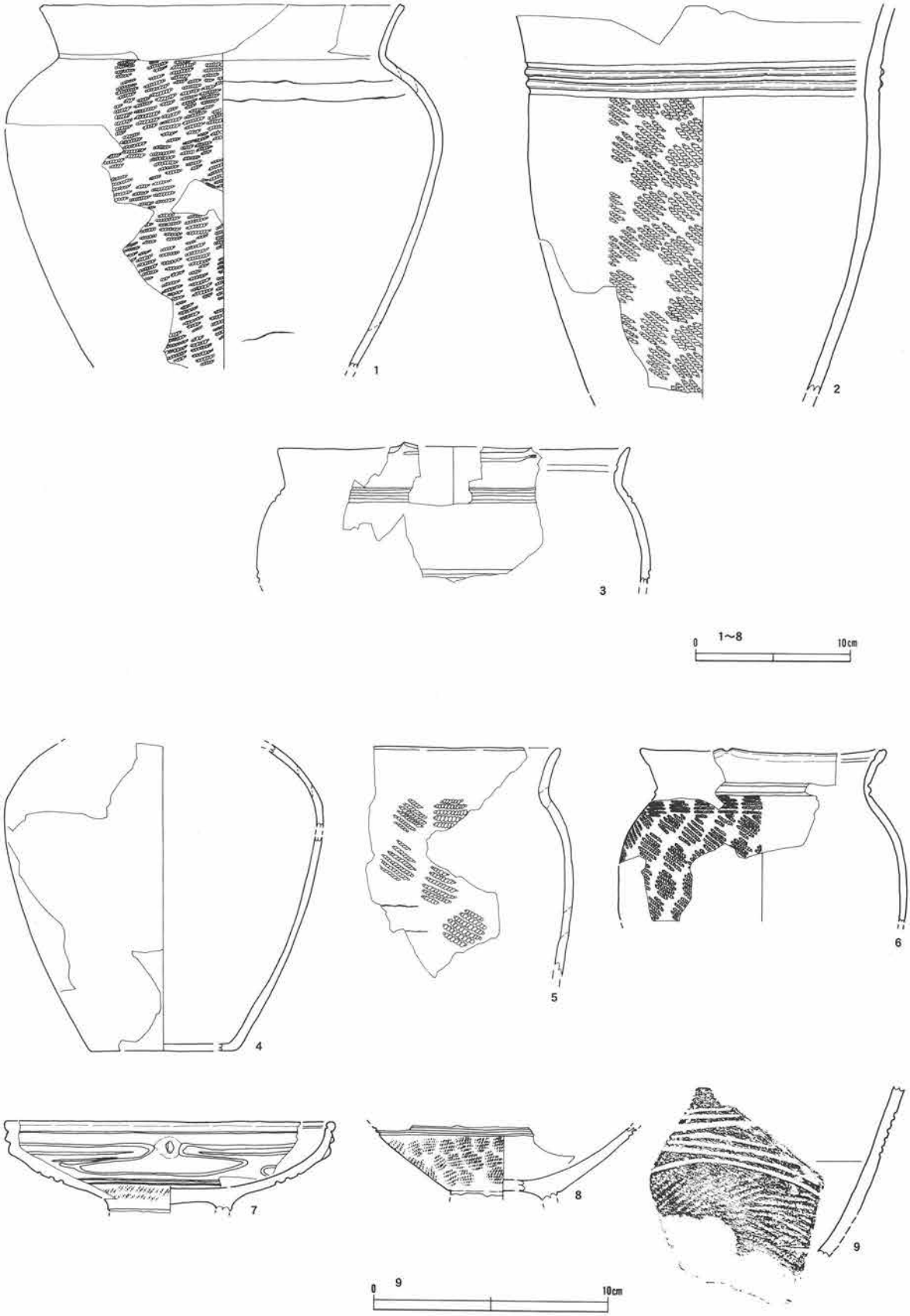
石鏃は全部で54点出土しており、遺構外からは13点出土している。それらの中には先端が破損したものもあるが、凹基か平基の二等辺三角形状のものがほとんどである。両面から丁寧な剥離調整が施されたものもあるが、形を整えるだけの剥離調整をしたようなものや断面形がかなり厚いものも見受けられる。石材は粘板岩が8点と凝灰質泥岩2点・チャート質泥岩・チャート質粘板岩・チャート質細粒凝灰岩各１点である。

(2) **石槍**（図版：110-14，写真図版108）

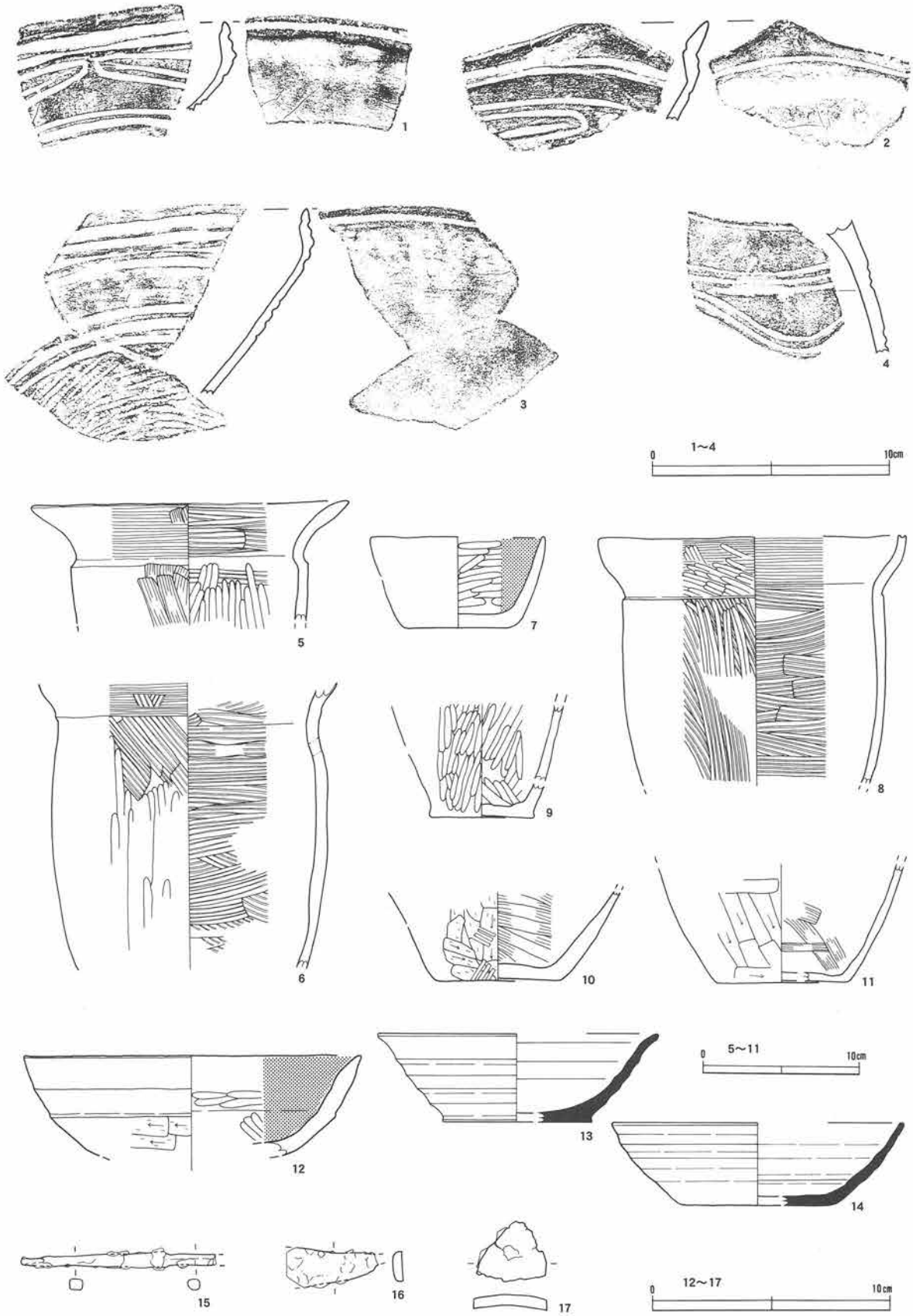
石槍は遺構伴出1点と遺構外出土1点の2点の出土である。14は基部付近の破損品である。石器の厚さが1.3㎝と、厚い感じがする。石材はチャートである。

(3) **石匙**（図版：110-15～30，写真図版108）

石匙は全部で43点出土し、遺構外からは18点出土している。図示したのは16点である。刃部は片面の側縁にのみ形成されている。つまみを上にして刃部が横に広がる横形のものと、縦に長い縦型のもの、斜めになったものがある。30は破損品で、29・30ともつまみ部は作り出されているが、刃部加工は施されていない。石材は粘板岩5点とチャート質の粘板岩や泥岩細粒凝灰岩などである。



第108図　遺構外出土遺物（土器6）



第109図　遺構外出土遺物（土器7、鉄製品）

第110図　遺構外出土遺物（石器1）

(4) 削掻器（図版：110-31～111-11・15，写真図版108・109）

縁辺に刃部加工が施された石器群である。全部で29点出土しており、遺構外からは17点が得られている。1縁辺だけに刃部加工がなされたものや複数の縁辺に刃部加工がなされたもの、表と裏から刃部加工がなされたもの、表と裏で違う縁辺に刃部加工がなされたものなどがある。110-33・34はやや厚めの剥片の周囲に急角度の刃部加工が施され、石箆と分類してもいいかもしれない。111-7・9はやや鋭角な角度に両面から刃部加工が施されている。15は表と裏の別の縁辺に刃部加工が施され、柳葉型に作られており、簡単に形を整えただけの石鏃の可能性もある。石質は粘板岩とチャート質の細粒凝灰岩や粘板岩・泥岩などである。

(5) 楔形石器（図版：111-12～14，写真図版109）

長方形状をし、両端に階段状の剥離が形成された石器群である。遺構に伴うもの1点と遺構外3点が出土している。いずれも長さ26～36㎜・幅22～37㎜・厚さ7～12㎜である。石材は4点ともチャート質粘板岩である。

(6) 磨製石斧（図版：111-16～23,写真図版109）

石斧は全部で16点出土しており、遺構外からは8点出土している。いずれも破損品である。その中の18・19は礫の周囲を打ち欠いて作った礫石斧である。特に19は研磨痕はほとんど見られず、片面に打ち欠き整形痕が顕著に見られる。17は片刃の磨製石斧である。石質は細粒凝灰岩が多く、緑色凝灰岩や砂岩も少量ある。

(7) 磨石（図版：112-1～114-6，写真図版110）

円礫の面や縁辺に摩面の形成された石器群である。全体で67点、遺構外からは21点が出土している。楕円形の平たい礫は広い面に磨面が形成され、棒状の礫は縁辺に磨面が形成されることが多い。どちらも敲打痕や敲打によるくぼみを伴うことが多い。凹石は2点、敲打石は1点の出土である。石材は花崗閃緑岩が60％以上で、他には輝石安山岩や流紋岩・粘板岩・凝灰岩がある。

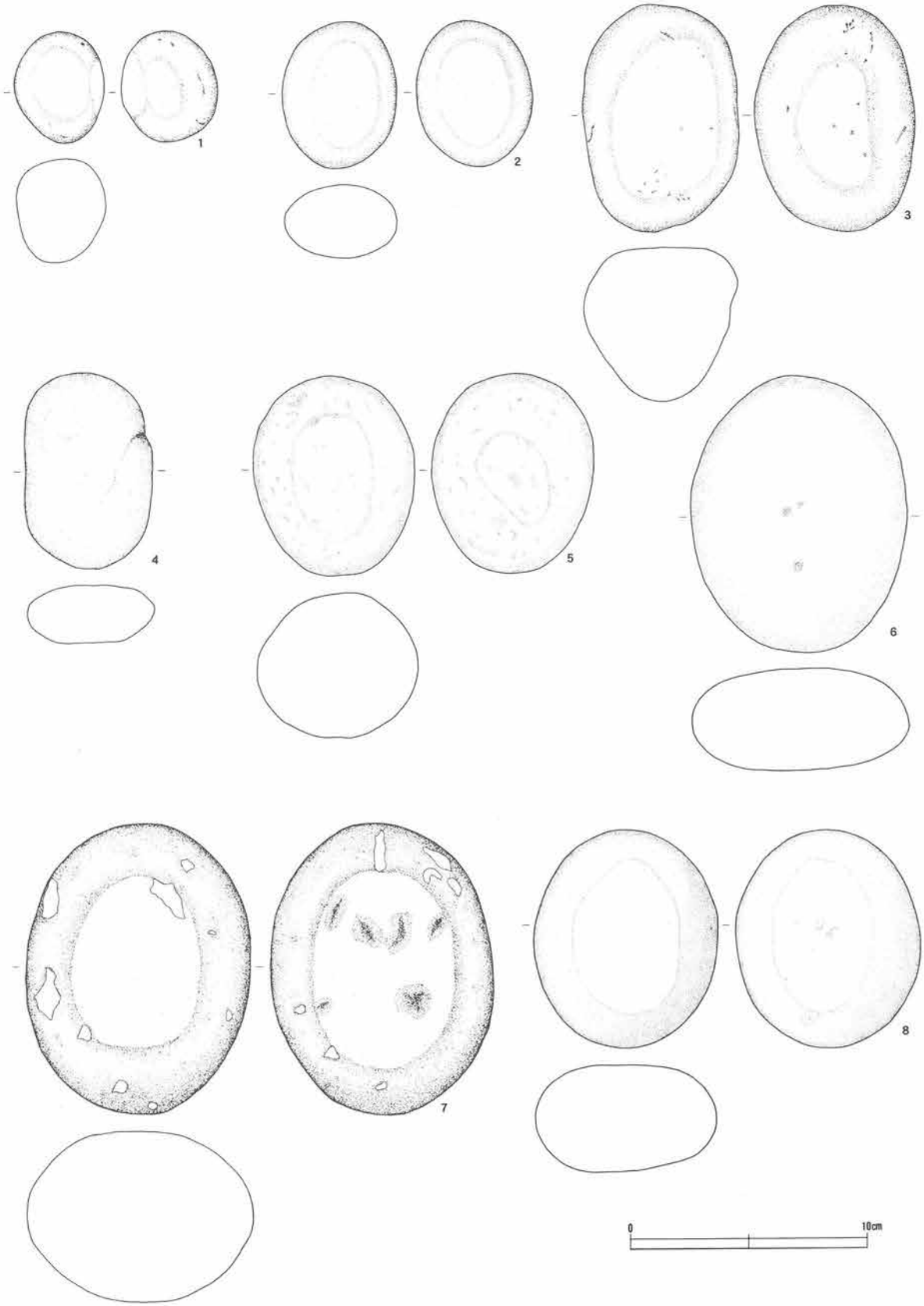
(8) 石製品他（図版：114-8～14，写真図版110）

8は小さな円礫で平たい両面に磨面が形成されている（磨石登録か？）。土器の内面等の研磨に使用された可能性もある。9・10は石棒・石剣の破損品である。石材は粘板岩と細粒凝灰岩である。11は板状に研磨された石製品である。石材は緑色凝灰岩である。12は砥石の破片と思われる。石質は凝灰質硬砂岩である。13は縁辺を打ち欠いて円盤状にした円盤状石製品である。石質は粘板岩である。14はやや小型ではあるが台石と思われる破損品である（磨石登録か？）。石材は花崗閃緑岩である。

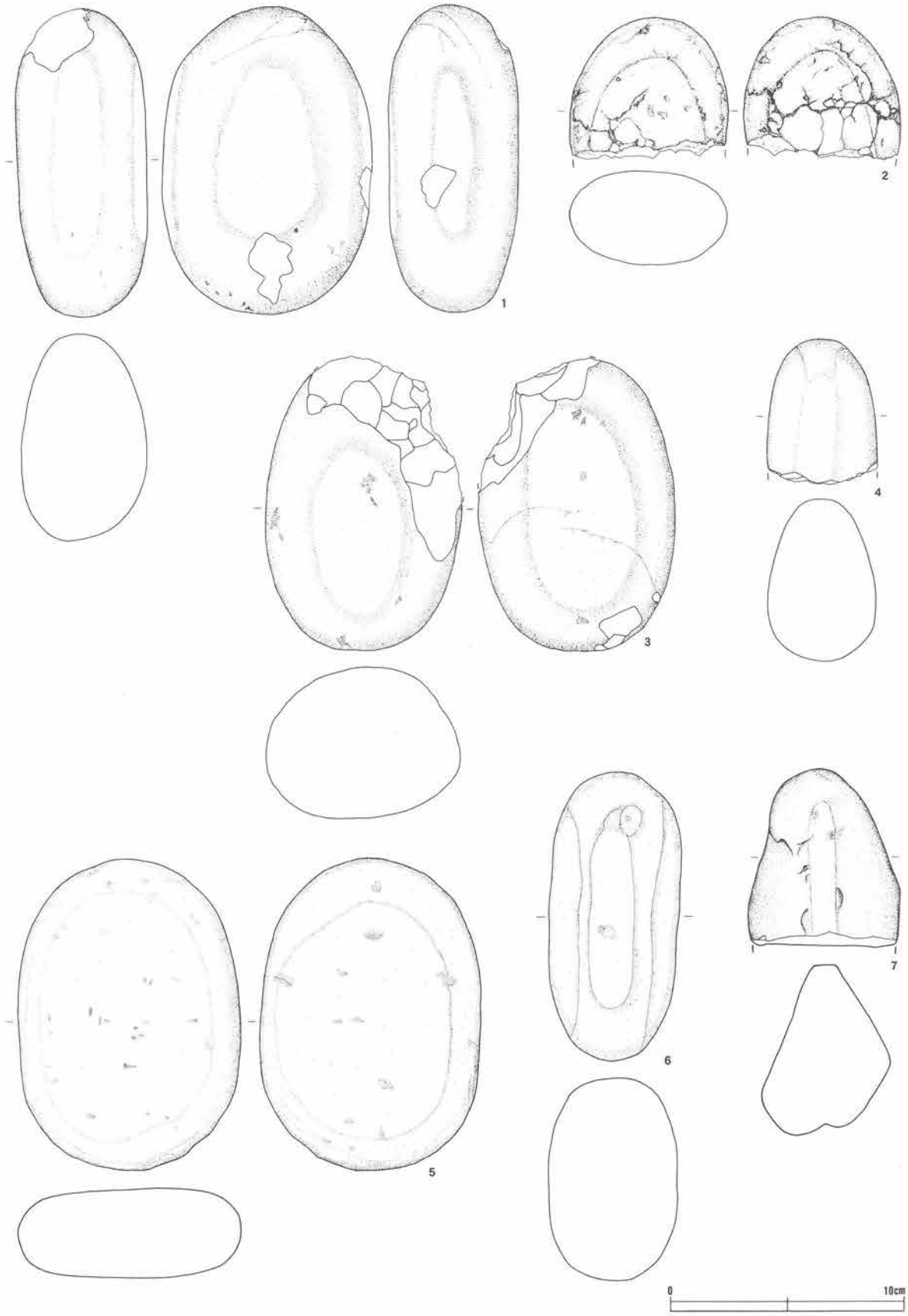
鉄滓

土器・石器・鉄製品の他に鉄滓と羽口片が出土している。鉄滓は大コンテナ1箱分出土しているが、流出滓は見られず、椀形滓や鉄錆の多く付着した鉄滓がほとんどである。一次調査では古代の鍛冶工房が１基検出されているが、今回は検出されていない。しかし鍛冶工房は少なからず存在していた可能性がある。

第111図　遺構外出土遺物（石器2）



第112図　遺構外出土遺物（石器3）



第113図　遺構外出土遺物（石器4）

第114図　遺構外出土遺物（石器5）

4　まとめ

今年度の調査遺構は、縄文時代住居跡22棟・竪穴状遺構1棟・土坑13基・焼土遺構3カ所・落とし穴1基、古代住居跡10棟・竪穴状遺構1棟・土坑2基、時期不明土坑6基である。縄文時代の住居跡は前期前葉から中期後葉まで見られ、古代の住居跡まで含め重複している遺構が多かった。特に縄文時代前期前葉の大型住居跡の上に中期中葉・後葉・奈良時代の住居跡が多く重複していた。また、縄文時代前期前葉の集落は大型住居と小型の住居で構成されている様子が窺えてきた。

古代の住居跡は奈良時代・平安時代とも同数調査された。奈良時代の住居跡はカマドの位置が北側、平安時代の住居跡はカマドの位置が西側に寄る傾向があるが、北西壁にカマドがあり平安時代的な遺物を伴出する過渡的な遺構もあり、今後集落の変遷も明らかにできそうである。また、奈良時代住居跡から出土した鉄鍋片は東北地方の鉄鍋の出現例を古くさせ、製塩をはじめとする多くの産業との関わりを考察する資料になる。今回は工房の発見はなかったが、フイゴの羽口片や椀形鍛冶滓が多く出土しており、鉄製品の加工を集落内で行ったことが示唆される。

遺物は土器が大コンテナで20箱、石器240点、鉄製品若干、鉄滓・羽口片大コンテナ1箱が得られている。縄文土器は前期前葉のものと中期中葉の物が多く出土しており、検出遺構数と同様な傾向がある。今回遺構は検出されなかったが、前期初頭の尖底土器が出土しているので、この遺跡の上限はそこまでさかのぼると思われる。前期の土器や中期の土器は宮城県の大木囲い貝塚出土の大木式土器に相当し、青森県を中心にし宮古市以北に分布する円筒式土器は見られないので、この遺跡は大木式土器の文化圏だったようである。土器の様式は前期初頭から中期末葉まで継続しているようであるが、前期の中葉から末葉の遺物量は少なく、集落の規模に盛衰があったようである。縄文時代後期の遺物や古墳時代の遺物も見られないので、空白の時期もあったようである。

古代の遺物は奈良時代も平安時代も坏と甕の二器種が主流で、それに須恵器の壷が加わるようである。両者とも細かい特徴でさらに細分が可能なようであるが、大別すると次のような特徴がある。奈良時代の遺物は丸底坏の体部外側に明瞭な段があり、内外ともに丁寧に磨かれているものが多い。甕は頚部に明瞭な段があり、口縁部が外反して広がるものが多い。調整は内外ともにハケメのものが多い。平安時代の土器は、坏や小型の甕にはロクロ整形の痕跡が残る。大型の甕は頚部に段はなく、口縁部は短く外傾するものが多い。またタタキメの見られるものもある。調整は外面ケズリ、内面ナデのものが多い。また、坏は両方通じて黒色処理されたものが多い。

土製品は、円盤状土製品が数点見られただけで少ない。

鉄製品は刀子や棒状の鍛造品と鉄鍋片のような板状の鋳造破片がある。今回鍛冶工房跡や鋳物生産に関わるような痕跡は確認されなかったが、椀形滓や羽口片が多く出たことから何らかの鍛冶工房跡の存在がうかがわれる。

石器は8器種236点出土しており、石槍のような例外を除き遺構に伴出するものが多い。石製品は量も少なく、その上ほとんどが破損品である。石材はほとんど山田町周辺で産出するものである。

遺構一覧表

縄文時代住居跡

No.	遺構名	平面形（含む予測）	規　模	炉	時　期	備　考
1	RA110	円形または隅丸方形	長径3.2m	石囲炉	中期	西側のみ残存
2	RA111	楕円形状	長径4m	地床炉	前期前葉	RA517に切られる
3	RA112	楕円形状	長径5m	石囲炉	中期	南西壁の一部残存
4	RA113	楕円形	長径4.5～5m	石囲炉	中期	RA121・116・117重複
5	RA114	円形	直径6m	石囲炉	中期	西側壁わずか残存
6	RA115	楕円形	7m×4.6m	石囲炉・地床炉	中期	RA520・116他と重複
7	RA116	小判形(ロングハウス)	16.5m×5m以上	地床炉	前期前葉	1996年度に継続調査
8	RA117	楕円形状	6.5m×4m	石囲炉	中期	RA113・115・121重複
9	RA118	楕円形状	3.5m×3m	地床炉	中期	RA518に切られる
10	RA119	楕円形状	6m×4m	石囲炉	中期	RA122・RD42と重複
11	RA120	楕円形状	5.7m×4.7m	石囲炉	中期後葉	RA127・128を切る
12	RA121	楕円形状	6m×3.5m	石囲炉	中期	RA116・117と重複
13	RA122	円形	直径約4m	地床炉	前期	RA119に切られる
14	RA123	楕円形状	長軸約2.5m	無し	前期前葉	RA521・125と重複
15	RA124	楕円形状	長軸2.5m	地床炉	前期前葉	RA521に切られる
16	RA125	楕円形状	約3m	無し	前期前葉	RA121・128と重複
17	RA126	隅丸長方形	2.5m×1.6m	無し	前期前葉	RA521に切られる
18	RA127	長方形	約3m	無し	前期前葉	RA121・128と重複
19	RA128	楕円形状	長軸2m	無し	前期前葉	RA121・127に切られる
20	RA129	楕円形状	長径2m	地床炉	前期前葉	RA124に切られる
21	RA130	長方形	長辺約4m	無し	前期前葉	RA122に切られる
22	RA131	楕円形	2.1m×1.8m	地床炉	前期前葉	RA521・123・125重複

竪穴状遺構

No.	遺構名	平面形（含む予測）	規　模	炉	時　期	備　考
1	RE04	長方形	2.7×1.5・1.7m	無し	中期中葉	西側のみ残存

土坑

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深　さ	時　期	備　考
1	RD31	隅丸方形	逆台形	2.3m×1.8m	15～20cm	前期前葉	
2	RD33	円形	逆台形	90cm	40cm	中期	RA516の床面に検出
3	RD34	円形	逆台形	1m	60cm	前期	RA516の床面に検出
4	RD36	円形	筒状	1.5m	55cm	中期	
5	RD37	楕円形	袋状	1.9m×1.3m	40cm	前期前葉	
6	RD39	円形	逆台形	90cm	45cm	前期	大きな焼土ブロック混入
7	RD41	楕円形	筒状	2.1m×1.7m	10～15cm	前期前葉	
8	RD44	円形？	逆台形	1.2m	40cm	中期	RA518に切られる
9	RD45	楕円形	筒状	1.4m×1m	20cm	前期	RA516の床面に検出
10	RD47	不整円形	逆台形	1m	80cm	中期	
11	RD48	円形	筒状	60cm	60cm	中期	
12	RD49	楕円形状	逆台形	2.3m×1.7m	20cm	前期前葉	
13	RD51	楕円形	逆台形	2m×1.3m	10cm	前期前葉	

焼土遺構

No.	遺構名	種　別	平面形	範　囲	厚　さ	時　期	備　考
1	RF08	焼土	不整形	長径50cm	3cm	縄文	L24・Ⅲ層砂礫上面にて検出
2	RF09	焼土	不整形	長径40cm	4cm	縄文	M19・Ⅱ層下位～Ⅳ層で検出
3	RF10	焼土	不整円形	径50cm	7cm	縄文前期	J18・Ⅴ層上面で検出

その他

No.	遺構名	種　別	形　状	規　模	深　さ	時　期	備　考
1	RA19	落とし穴	溝状	3m×30～40	50cm	縄文中期	巨礫に沿ってカーブする

古代住居跡

No.	遺構名	形　　状	規　　模	カマド位置	時　　期	備　　考
1	RA513	隅丸方形状	3.7m×3.5m	北壁	奈良	RA110を切る
2	RA514	長方形？	6m×5m	北西・南壁	平安？	全体に削平を受けている
3	RA515	不明		不明	平安？	貼り床のみ検出
4	RA516	方形？	5m？	不明	平安？	西側の一部のみ残存
5	RA517	隅丸方形状	5m×4.8m	北壁	奈良	東側は削平されている
6	RA518	隅丸方形状	6.1m×5.9m	北壁	奈良	焼失家屋、鉄鍋片出土
7	RA519	隅丸方形状	一辺5m	北壁	平安？	遺物はロクロ使用が多い
8	RA520	隅丸方形	一辺4m	北壁	奈良	北西側のみ残存
9	RA521	方形	一辺約6m	北壁	平安？	焼失家屋
10	RA522	隅丸長方形	3.2m×2.2m	無し	奈良	中央に地床炉

竪穴状遺構

No.	遺構名	形　　状	規　　模	カマド位置	時　　期	備　　考
1	RE05	隅丸長方形	3.5m×3m	無し	不明	

土坑

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深　　さ	時　期	備　　考
1	RD32	円形	筒状	80cm	70～90cm	古代？	RA113を切る
2	RD40	円形	筒状	90cm	90cm	古代？	RA518を切る

時期不明土坑

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深　　さ	時　期	備　　考
1	RD35	小判形	逆台形	3m×1.8m	30～35cm	近世以降？	M19・V層
2	RD38	円形	逆台形	約1m	80cm	近世以降？	G15
3	RD42	円形	筒状	60cm	70cm	近世以降？	RA119を切る
4	RD43	円形	逆台形	70cm	10cm	近世以降？	底面に焼土
5	RD46	円形	筒状	約1m	1.3m	近世以降？	
6	RD50	円形	筒状	70cm	70cm	近世以降？	

土器観察表

単位：cm　＊：破損品の寸法

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
43－1	83－1	RA110	床	深鉢	縄文中期						
43－2	83－2	RA110	埋	深鉢	縄文中期						
43－3	83－3	RA110	埋	深鉢	縄文中期						
43－4	83－4	RA110	埋	深鉢	縄文中期						
43－5	83－5	RA110	埋	深鉢	縄文中期						
43－6	83－6	RA111	床	深鉢	縄文前期					センイ	
43－12	83－12	RA111	埋	円盤状	縄文前期					センイ	
43－13	83－13	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－14	83－14	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－15	83－15	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－16	83－16	RA111	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
43－17	83－17	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－18	83－18	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－19	83－19	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－20	83－20	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－21	83－21	RA111	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
43－22	83－22	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
43－23	83－23	RA111	埋	深鉢	縄文中期						
46－1	84－13	RA112	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
46－2	84－14	RA112	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
46－3	84－15	RA112	埋	深鉢	縄文中期						
46－4	84－16	RA112	埋	深鉢	縄文中期						
46－5	84－17	RA112	埋	深鉢	縄文中期						
46－6	84－18	RA112	埋	深鉢	縄文中期						
46－8	84－20	RA113	埋設	深鉢	縄文中期	39.9	＊24.6	30.8	11	粗砂・シャモット	
46－9	84－21	RA113	床	深鉢	縄文中期	＊19.5	＊16.2	＊8.1	7.5	粗砂・シャモット	
46－10	84－22	RA113	床	深鉢	縄文中期	＊5.7		＊10.8	5.8	粗砂・シャモット	
46－11	84－23	RA113	埋	深鉢	縄文中期						
46－12	84－24	RA113	埋	深鉢	縄文中期						
46－13	84－25	RA113	埋	深鉢	縄文中期						
46－14	84－26	RA113	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
47－1	85－1	RA114	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
47－2	85－2	RA114	埋	深鉢	縄文中期						
47－3	85－3	RA114	埋	深鉢	縄文中期						
47－4	85－4	RA114	埋	深鉢	縄文中期						
49－1	85－5	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊32.4	＊31.5	＊36.8		金雲母	
49－2	85－6	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊37.7	＊40	＊40		粗砂・シャモット	
49－3	85－7	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊58.5	＊30	＊30		粗砂	
49－4	85－8	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊25.8	＊20.7	＊22.8		粗砂・シャモット	
49－5	85－9	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊11.7	＊12.4	＊16		粗砂・シャモット	
49－6	85－10	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊9	＊14.3	14.8		細砂・シャモット	
49－7	85－11	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊3.4	＊16	＊16		細砂・シャモット	
49－8	85－12	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
50－1	85－13	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊16.7	＊15.3	＊17.8		細砂	
50－2	85－14	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊11.4	＊11.9	＊14.2		粗砂・シャモット	
50－3	85－15	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊17.9	＊17.7	＊17.7		細砂・シャモット	
50－4	85－16	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊9.8	＊12	＊12		細砂・シャモット	
50－5	85－17	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊27.2	＊20	＊21.8		粗砂・金雲母	
50－6	85－18	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊3.3		＊12.8	＊9	細砂・シャモット	
50－7	85－19	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊9.7		＊11.8	＊6.8	粗砂・シャモット	
50－8	85－20	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊16	＊17.4	＊18		粗砂・シャモット	
50－9	85－21	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊20.2	＊20.8	＊22.4		粗砂・金雲母	
50－10	85－22	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊18.5	＊20	＊21		粗砂・シャモット	
50－11	86－1	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊4.9		＊10.8	6.4	粗砂・シャモット	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
50－12	86－2	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊3.8		＊13	5.5	粗砂・シャモット	
50－13	86－3	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊9	＊20.8	＊23		粗砂・シャモット	
50－14	86－4	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊16.6	＊22.2	＊23.4		金雲母	
50－15	86－5	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊5.2		＊6	＊4.4	細砂・シャモット	
50－16	86－6	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊3.6		＊8	＊6.4	細砂・シャモット	
51－1	86－7	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊32.4	＊23.3	＊25.6		細砂・シャモット	
51－2	86－8	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊9.5	＊28.8	＊25.8		粗砂・シャモット	
51－3	86－9	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊5.2		＊6	＊4.4	細砂・シャモット	
51－4	86－10	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊18	＊26	＊27.4		粗砂・シャモット	
51－5	86－11	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊17.5	＊26.2	＊28.4		金雲母	
51－6	86－12	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊3.3		＊12	＊9.6	粗砂・シャモット	
51－7	86－13	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊5.3		＊12	6.9	細砂・シャモット	
51－8	86－14	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊6		＊11	10	粗砂・金雲母	
51－9	86－15	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊4.9		＊9.6	＊5.2	細砂・シャモット	
51－10	86－16	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊11.2			＊12	粗砂・シャモット	
51－11	86－17	RA115	埋	深鉢	縄文中期	12.5	12.3	14	8	粗砂・シャモット	
51－12	86－18	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊7.4		＊14.4	＊12.2	粗砂・シャモット	
52－1	86－19	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊19.5				粗砂・シャモット	
52－2	86－20	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊15.4	＊21	＊21		粗砂・シャモット	
52－3	86－21	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊11.9				粗砂・金雲母	
52－4	86－22	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊13.6				粗砂・金雲母	
52－5	86－23	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊7.8				粗砂・金雲母	
52－6	87－1	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊6.8				粗砂・金雲母	
52－7	87－2	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊7.6				細砂・シャモット	
52－8	87－3	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊10	＊27.6	＊28.4		粗砂・シャモット	
52－9	87－4	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊7.6				粗砂・シャモット	
52－10	87－5	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊6.3				金雲母	
52－11	87－6	RA115	埋	深鉢	縄文中期	＊6.7				粗砂・シャモット	
52－12	87－7	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
52－13	87－8	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
52－14	87－9	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
52－15	87－10	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
53－1	87－11	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
53－2	87－12	RA115	埋	深鉢	縄文中期						
56－1	88－1	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊11.9				粗砂・シャモット	2・3と同個体
56－2	88－2	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊11.4				粗砂・シャモット	1・3と同個体
56－3	88－3	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊34.3				粗砂・シャモット	1・2と同個体
56－4	88－4	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊29.5	＊30	＊36		金雲母	
56－5	88－5	RA117	埋	深鉢	縄文中期					粗砂・シャモット	
56－6	88－6	RA117	埋	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
56－7	88－7	RA117	埋	深鉢	縄文中期					金雲母	
56－8	88－8	RA117	埋	深鉢	縄文中期					細砂・シャモット	
57－1	88－9	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊26.6	＊27.4	＊31.8		粗砂・金雲母	
57－2	88－10	RA117	炉	深鉢	縄文中期	＊21		＊22	12	細砂・金雲母	
57－3	88－11	RA117	埋	深鉢	縄文中期	12.6	＊27.8	＊27.8	7.6	粗砂・金雲母	
57－4	88－12	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊20.5	＊24	＊27		粗砂・シャモット	
57－5	88－13	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊19.8		＊18.8	＊11.2	細砂・シャモット	
57－6	88－14	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊3.8		＊10.2	＊6	細砂・シャモット	
57－7	88－15	RA117	埋	深鉢	縄文中期	＊23.3	＊26.4	＊28		粗砂・シャモット	
58－1	88－16	RA117	埋	深鉢	縄文中期						
58－2	88－17	RA117	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
58－3	88－18	RA117	埋	深鉢	縄文中期						
58－4	88－19	RA117	埋	深鉢	縄文中期						
58－5	88－20	RA117	埋	深鉢	縄文中期						
58－6	88－21	RA117	埋	深鉢	縄文中期						

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
58－9	89－1	RA121	埋	鉢	縄文中期	＊7		＊19	＊14.6	粗砂・シャモット	
58－10	89－2	RA121	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
58－11	89－3	RA121	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
58－12	89－4	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－13	89－5	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－14	89－6	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－15	89－7	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－16	89－8	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－17	89－9	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－18	89－10	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
58－19	89－11	RA121	埋	深鉢	縄文中期						
59－1	89－14	RA118	埋	坏	平安？	＊1.9			6.4	粗砂	須恵器
59－2	89－15	RA118	埋	壺	平安？					細砂	須恵器
59－3	89－16	RA118	埋	深鉢	縄文中期						
59－4	89－17	RA118	埋	深鉢	縄文中期						
59－5	89－18	RA118	埋	深鉢	縄文中期						
59－6	89－19	RA118	埋	深鉢	縄文中期						
59－7	89－20	RA118	埋	深鉢	縄文中期						
61－1	89－22	RA119	床	深鉢	縄文中期	＊33.8		＊36.2		粗砂・金雲母	
61－2	89－23	RA119	床	深鉢	縄文前期					センイ	
61－3	89－24	RA119	床	深鉢	縄文前期					センイ	
61－4	89－25	RA119	床	深鉢	縄文中期						
61－5	89－26	RA119	埋	鉢	弥生	＊22	＊26.3	＊28		粗砂・金雲母	
61－6	89－27	RA119	埋	高台	弥生	＊9.6	＊30	＊32.8		細砂・シャモット	
61－7	89－28	RA119	埋	鉢	縄文中期	＊10.3				細砂・シャモット	
61－8	90－1	RA119	埋	鉢	縄文中期	＊17.7		22		細砂・シャモット	
61－9	90－2	RA119	埋	坏	奈良	4.2	14.4	14.6		粗砂	
62－1	90－3	RA119	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
62－2	90－4	RA119	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
62－3	90－5	RA119	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
62－4	90－6	RA119	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
62－5	90－7	RA119	埋	深鉢	縄文中期						
62－6	90－8	RA119	埋	深鉢	縄文中期						
62－7	90－9	RA119	埋	深鉢	縄文中期						
62－8	90－10	RA119	埋	深鉢	縄文中期						
62－9	90－11	RA119	埋	深鉢	縄文中期						
64－1	91－1	RA120	床	深鉢	縄文中期						
64－2	91－2	RA120	床	深鉢	縄文中期						
65－1	91－3	RA120	埋設	深鉢	縄文中期	42.6	25.3	31	8.1	粗砂・シャモット	
65－2	91－4	RA120	埋	深鉢	縄文中期	＊14	＊15.2	＊16.6		細砂・シャモット	
65－3	91－5	RA120	埋	深鉢	縄文中期	＊18.2	30.2	＊32		細砂・シャモット	
65－4	91－6	RA120	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
65－5	91－7	RA120	埋	深鉢	縄文中期						
65－6	91－8	RA120	埋	深鉢	縄文中期						
65－7	91－9	RA120	埋	深鉢	縄文前期						
66－1	91－16	RA122	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
66－2	91－17	RA122	床	深鉢	縄文前期					センイ	
66－3	91－18	RA122	床	深鉢	縄文前期					センイ	
66－4	91－19	RA122	床	深鉢	縄文前期					センイ	
67－1	91－21	RA122	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
67－2	91－22	RA122	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
67－3	91－23	RA122	埋	深鉢	縄文中期						
67－4	91－24	RA122	埋	深鉢	縄文中期						
67－5	91－25	RA122	埋	深鉢	縄文前期						
68－1	92－2	RA124	埋	深鉢	縄文前期					センイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
68－2	92－3	RA124	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
68－3	92－4	RA124	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
68－4	92－5	RA124	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
68－5	92－6	RA124	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
68－6	92－7	RA126	埋	深鉢	縄文前期	＊7		＊19	＊14	粗砂・シャモット	
68－7	92－8	RA126	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
68－8	92－9	RA126	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－1	92－10	RA126	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－2	92－11	RA126	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－3	92－12	RA126	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－5	92－14	RA127	床	深鉢	縄文前期	＊7.7		＊19	15.6	粗砂・シャモット	
69－6	92－15	RA127	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－7	92－16	RA127	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－8	92－17	RA127	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－10	92－19	RA128	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－11	92－20	RA128	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－12	92－21	RA128	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－13	92－22	RA128	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－14	92－23	RA128	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－15	92－24	RA129	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－16	92－25	RA129	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－17	92－26	RA129	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
69－18	92－27	RA129	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－1	93－1	RA130	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－2	93－2	RA130	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－3	93－3	RA130	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－4	93－4	RA130	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－5	93－5	RA131	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－6	93－6	RA131	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
70－7	93－7	RA131	埋	深鉢	縄文前期						
70－8	93－8	RA131	埋	深鉢	縄文中期						
72－1	93－9	RE04	埋	深鉢	縄文中期					粗砂	
72－2	93－10	RE04	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－3	93－11	RE04	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－4	93－12	RE04	埋	深鉢	縄文前期						
72－5	93－13	RE04	埋	深鉢	縄文中期						
72－7	93－15	RD31	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－8	93－16	RD31	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－9	93－17	RD31	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－10	93－18	RD31	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－11	93－19	RD31	底	深鉢	縄文前期					センイ	
72－12	93－20	RD33	埋？	深鉢	縄文中期						
72－13	93－21	RD33	埋	深鉢	縄文中期						
72－14	93－22	RD33	埋？	深鉢	縄文中期						
72－15	93－23	RD34	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
72－16	93－24	RD34	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－17	94－1	RD34	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
72－18	94－2	RD34	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－1	94－3	RD36	埋？	深鉢	縄文中期						
74－2	94－4	RD36	埋？	深鉢	縄文中期						
74－3	94－5	RD36	埋？	深鉢	縄文中期						
74－4	94－6	RD37	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－5	94－7	RD37	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－6	94－8	RD37	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－7	94－9	RD37	埋	深鉢	縄文前期					センイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
74－8	94－10	RD37	埋	深鉢	縄文前期						
74－9	94－11	RD37	埋	深鉢	縄文前期						
74－10	94－12	RD39	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－11	94－13	RD39	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－12	94－14	RD39	埋	深鉢	縄文前期						
74－13	94－15	RD39	埋	深鉢	縄文前期						
74－14	94－16	RD41	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－15	94－17	RD41	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
74－16	94－18	RD41	埋	深鉢	縄文前期						
74－17	94－19	RD41	埋	深鉢	縄文前期						
74－18	94－20	RD41	埋	深鉢	縄文前期						
76－1	94－21	RD44	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
76－2	94－22	RD44	埋	深鉢	縄文中期						
76－3	94－23	RD44	埋	深鉢	縄文中期						
76－4	94－24	RD48	埋	深鉢	縄文中期						
76－5	94－25	RD48	埋	深鉢	縄文中期						
76－6	95－1	RD48	埋	深鉢	縄文中期						
76－7	95－2	RD48	埋	深鉢	縄文中期						
76－8	95－3	RD48	埋	深鉢	縄文中期						
76－9	95－4	RD48	埋	深鉢	縄文中期						
76－10	95－5	RD49	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
76－11	95－6	RD49	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
76－12	95－7	RD49	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
76－13	95－8	RD49	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
76－14	95－9	RD49	埋？	深鉢	縄文前期						
76－15	95－10	RD49	埋？	深鉢	縄文前期						
76－16	95－11	RD51	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
76－17	95－12	RD51	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
76－18	95－13	RD51	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
76－19	95－14	RD51	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
77－1	95－15	RF10	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
77－2	95－16	RF10	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
77－3	95－17	RF10	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
77－4	95－18	RZ19	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
77－5	95－19	RZ19	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
77－6	95－20	RZ19	埋	深鉢	縄文中期						
77－7	95－21	RZ19	埋	深鉢	縄文中期						
79－1	95－22	RA513	床	甕	奈良	＊11.5	12.4	12.4		金雲母	
79－2	95－23	RA513	床	甕	奈良	＊10		13		金雲母	
79－8	96－4	RA513	埋	甕	奈良	＊2				金雲母	
79－9	96－5	RA513	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
79－10	96－6	RA513	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
79－11	96－7	RA513	埋	深鉢	弥生						
79－12	96－8	RA513	埋	深鉢	弥生						
81－1	96－10	RA514	床	壺	古代						須恵器
81－2	96－11	RA514	埋	大甕？	古代						須恵器
81－3	96－12	RA514	埋	大甕？	古代						須恵器
82－1	96－19	RA515	床	深鉢	縄文前期					センイ	
82－2	96－20	RA515	床	深鉢	縄文前期					センイ	
82－3	96－21	RA515	埋	鉢	弥生						
82－4	96－22	RA515	貼床	深鉢	縄文中期						
82－5	96－23	RA515	埋	鉢	弥生						
82－7	97－1	RA516	埋？	鉢	縄文中期						
82－8	97－2	RA516	埋？	鉢	縄文中期						
82－9	97－3	RA516	埋？	鉢	縄文中期						

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
82－10	97－4	RA516	埋？	鉢	縄文中期						
84－1	97－5	RA517	埋	壺	奈良	23.5	16.7	28.8		粗砂・シャモット	
84－2	97－6	RA517	埋	坏	奈良	3.9	15	15		金雲母	内黒
84－3	97－7	RA517	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
84－4	97－8	RA517	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
84－5	97－9	RA517	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
84－6	97－10	RA517	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
84－7	97－11	RA517	埋	深鉢	縄文中期						
87－1	97－12	RA518	炉	甕	奈良	＊12.8		＊14.3	＊7.5	粗砂	
87－2	97－13	RA518	床	甕	奈良	＊3.5		＊10	＊7.6	粗砂	
87－3	97－14	RA518	床	甕	奈良	30.1	18.3	18.3	8.4	粗砂	
87－4	97－15	RA518	床	小型甕	奈良	8.2	12	12	5	粗砂	
87－5	97－16	RA518	床	壺	奈良	＊20.5	12	13.4		細砂	
87－6	97－17	RA518	床	坏	奈良	5.2	13.6	13.6		シャモット	丸底風
87－7	97－18	RA518	床	坏	奈良	4.3	15.4	15.4		シャモット	丸底風
87－8	97－19	RA518	床	坏	奈良	5.2	16.6	16.6		シャモット	丸底風
87－9	97－20	RA518	床	坏	奈良	5.3	15	15		シャモット	丸底風
88－1	98－1	RA518	埋	甕	奈良	＊29.3	18.2	18.2		粗砂	頸部有段
88－2	98－2	RA518	埋	甕	奈良	＊6.3	＊20	＊20		粗砂	頸部有段
88－3	98－3	RA518	床	甕	奈良	11.2	20	20		粗砂	頸部有段
88－4	98－4	RA518	埋	甕	奈良	＊15	＊20	＊20		粗砂	頸部有段
88－5	98－5	RA518	埋	甕	奈良	＊19	19.3	19.3		粗砂	頸部有段
88－6	98－6	RA518	床	甕	奈良	＊6		＊12	7.7	粗砂	底部木葉痕
88－7	98－7	RA518	埋	甕	奈良	＊9		＊14	＊8.2	細砂	底部木葉痕
88－8	98－8	RA518	炉	甕	奈良	＊7.5		＊13.6	＊9	粗砂	
88－9	98－9	RA518	埋	坏	奈良	4.8	12.2	12.2		シャモット	丸底風
88－10	98－10	RA518	埋	坏	奈良	＊4.7	＊16.2	＊16.2		シャモット	丸底風
89－1	98－11	RA518	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
89－2	98－12	RA518	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
89－3	98－13	RA518	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
89－4	98－14	RA518	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
89－5	98－15	RA518	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
91－1	99－1	RA519	埋下	甕	平安					金雲母	
91－2	99－2	RA519	埋	甕	平安						
91－3	99－3	RA519	埋	甕	平安						
91－4	99－4	RA519	埋	甕	平安						
91－5	99－5	RA519	埋	甕	平安						
91－6	99－6	RA519	カマド	深鉢	縄文中期						
91－7	99－7	RA519	埋	深鉢	縄文中期						
91－8	99－8	RA519	埋	深鉢	縄文中期						
91－9	99－9	RA519	床	壺	平安						須恵器
92－1	99－10	RA520	埋	坏	奈良	4	12.3	12.3		シャモット	内黒
92－2	99－11	RA520	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
92－3	99－12	RA520	カマド	深鉢	縄文中期						
92－4	99－13	RA520	埋	深鉢	縄文前期						
92－5	99－14	RA520	埋	深鉢	縄文中期						
92－6	99－15	RA520	埋	深鉢	縄文中期						
92－7	99－16	RA520	埋	深鉢	縄文中期						
94－1	99－17	RA521	床	甕	平安	26.7	23.3	23.3	6.8	シャモット	
95－1	99－20	RA521	カマド	甕	平安	35	23.2	23.2	7.5	細砂	
95－2	99－21	RA521	カマド	甕	平安						
95－3	100－1	RA521	カマド	甕	平安	27.6	19.1	19.1	7.1	シャモット	
95－4	100－2	RA521	埋	甕	奈良？	11.2	23	23		シャモット	
95－5	100－3	RA521	カマド	甕	平安	＊25		＊19	＊8.5	細礫	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
95－6	100－4	RA521	カマド	甕	奈良？						
95－7	100－5	RA521	カマド	甕	奈良？						
95－8	100－6	RA521	カマド	坏	奈良？	＊5.3	＊13	＊13	＊8.8	粗砂	
95－9	100－7	RA521	埋	鉢	平安	14.4	＊21.8	＊21.8	＊8.8	細礫	須恵器
96－1	100－8	RA521	埋	甕	平安						
96－2	100－9	RA521	カマド	小鉢	平安						
96－3	100－10	RA521	カマド	小鉢	平安	＊16		＊19		粗砂	
96－4	100－11	RA521	埋	鉢	奈良？	12.1		＊30	＊11.8	小礫	
96－5	100－12	RA521	埋	坏	平安	＊4.4	14.2	14.2		シャモット	
96－6	100－13	RA521	埋	鉢	平安					細砂	須恵器
96－7	100－14	RA521	埋	坏	平安	＊1.5			6.4	シャモット	須恵器
96－8	100－15	RA521	埋	壺	平安	＊2.3			7	細砂	須恵器
96－9	100－16	RA521	カマド	鉢	平安	6.1	13.2	13.2	7.2	小礫	
96－10	100－17	RA521	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
96－11	100－18	RA521	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
96－12	100－19	RA521	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
96－13	100－20	RA521	埋	深鉢	縄文前期						
96－14	100－21	RA521	埋	深鉢	縄文前期						
97－1	101－1	RA521	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
97－2	101－2	RA521	埋	深鉢	縄文中期						
97－3	101－3	RA521	埋	深鉢	縄文前期						
97－4	101－4	RA521	埋	大甕	古代						須恵器
97－5	101－5	RA521	埋	大甕	古代						須恵器
97－6	101－6	RA521	埋	大甕	古代						須恵器
99－1	101－16	RA522	埋	甕	奈良	＊17	20	20		細砂	
99－2	101－17	RA522	埋	甕	奈良	＊5.7		＊11.4	6.2	細砂	
99－3	101－18	RA522	埋	甕	奈良	＊12.5		17.8	6.8	細砂	
99－4	101－19	RA522	埋	甕	奈良	＊11		＊16		細砂	
99－5	101－20	RE05	埋	甕	奈良	17.4	13.5	13.9	7.5	粗砂	
99－6	101－21	RE05	埋	甕	奈良	＊4.3	＊14	＊14		細砂	
99－7	101－22	RE05	埋	高坏	弥生？						
99－8	101－23	RE05	埋	甕	古代						須恵器
99－9	101－24	RE05	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
99－10	101－25	RE05	埋	深鉢	縄文中期						
99－11	101－26	RE05	埋	深鉢	縄文中期						
99－12	102－1	RE05	埋	深鉢	縄文中期						
99－13	102－2	RE05	貼床	深鉢	縄文中期						
99－14	102－3	RE05	埋	深鉢	縄文中期						
99－15	102－4	RE05	貼床	深鉢	縄文中期						
99－16	102－5	RE05	貼床	深鉢	縄文中期						
99－17	102－6	RE05	貼床	深鉢	縄文中期						
99－18	102－7	RE05	埋	大甕	古代						須恵器
100－1	102－13	RD32	埋	深鉢	縄文前期					センイ	
100－2	102－14	RD32	埋	深鉢	縄文中期						
100－3	102－15	RD32	埋	深鉢	縄文中期						
100－4	102－16	RD32	埋	深鉢	縄文中期						
100－7	102－19	RD40	埋	深鉢	縄文中期						
101－1	102－20	RD35	埋？	深鉢	縄文前期					センイ	
101－2	102－21	RD35	埋？	深鉢	縄文中期						
101－3	102－22	RD35	埋？	深鉢	縄文中期						
101－4	102－23	RD42	埋	深鉢	縄文中期						
101－5	102－24	RD42	埋	深鉢	縄文中期						
101－6	102－25	RD42	埋	深鉢	縄文中期						
102－1	102－26	RD46	埋	深鉢	縄文中期						
102－2	102－27	RD46	埋	甕	古代						

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
102－3	102－28	RD46	埋	甕	古代						
102－4	102－29	RD46	埋	深鉢	縄文中期						
102－5	102－30	RD46	埋	甕	古代						須恵器
103－1	103－1	L21	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊2.6				センイ	尖底
103－2	103－2	L21	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊2.7				センイ	尖底
103－3	103－3	L21	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊2.8				センイ	尖底
103－4	103－4		表採	深鉢	縄文前期	＊4.2				センイ	尖底
103－5	103－5		表採	深鉢	縄文前期	＊2.5				センイ	尖底
103－6	103－6	M21	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊3.8				センイ	尖底
103－7	103－7	N22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊2.5				センイ	尖底
103－8	103－8	P20	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊4.3				センイ	尖底
103－9	103－9	Q12	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊2.6				センイ	尖底
103－10	103－10	P22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊4				センイ	尖底
103－11	103－11	P22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊26.2	＊32	＊32		センイ	
103－12	103－12	P22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊19.9	＊28	＊28		センイ	
103－13	103－13	N22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊20.9	＊30	＊30		センイ	
103－14	103－14	Q24	Ⅰ	深鉢	縄文前期					センイ	
103－15	103－15	Q22	Ⅱ	深鉢	縄文前期？	＊11.6	＊9.9	＊9.9		センイ	
103－16	103－16	Q12	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
103－17	103－17	L21	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
103－18	103－18	G10	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－1	103－19	H17	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊16.9	＊19.4	＊19.4		金雲母	
104－2	103－20	M19	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊16.2	＊18	＊18		センイ	
104－3	103－21	I13	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊7.8	＊30	＊30		センイ	
104－4	103－22	H17	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－5	103－23	G14		深鉢	縄文前期					センイ	
104－6	103－24	O22	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－7	103－25	O22	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－8	104－1	M22	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－9	104－2	H13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－10	104－3	M19		深鉢	縄文前期					センイ	
104－11	104－4	Q22	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－12	104－5	I13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－13	104－6	I13	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－14	104－7	J14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－15	104－8	T10	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
104－16	104－9	I14		深鉢	縄文前期					センイ	
104－17	104－10	J14	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
105－1	104－11	O22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊23	＊32.4	＊32.4		センイ	
105－2	104－12	O22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊16.8	＊26	＊26		センイ	
105－3	104－13	P22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊11.5	＊31.6	＊31.6		センイ	
105－4	104－14	M22	Ⅱ	深鉢	縄文前期	＊17.4	18.1	18.1		粗砂・シャモット	
105－5	104－15	I12	Ⅱ	深鉢	縄文中期	＊18.9	＊22	＊23.8		粗砂・シャモット	
105－6	104－16	H16	Ⅱ	深鉢	縄文中期	＊9.1	＊21.4	＊23.2		粗砂・シャモット	
105－7	104－17	H16	Ⅱ	深鉢	縄文前期					センイ	
105－8	104－18	H15	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
105－9	105－1	O18		深鉢	縄文中期						
105－10	105－2	O22	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
105－11	105－3	H17	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－1	105－4	H16	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－2	105－5	H12	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－3	105－6	M15	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－4	105－7	I11		深鉢	縄文中期						
106－5	105－8	I15	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－6	105－9	P18		深鉢	縄文中期						

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　考
106－7	105－10	I13		深鉢	縄文中期						
106－8	105－11	H16	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－9	105－12	G14		深鉢	縄文中期						
106－10	105－13	S15	Ⅱ	深鉢	縄文中期						
106－11	105－14	M22	Ⅲ	深鉢	縄文中期						
106－12	105－15	G11		深鉢	縄文中期						
106－13	105－16	F11	Ⅱ	深鉢	縄文中期	＊9.7	＊18.2	＊20		粗砂・シャモット	
106－14	105－17	O21	Ⅱ	鉢	縄文中期	＊23.9	＊26	＊26		粗砂・シャモット	
106－15	105－18	J14	Ⅱ	鉢	縄文中期	＊19.5		＊20.4	＊9.4	粗砂・シャモット	
107－1	106－1	Q22	Ⅱ	鉢	縄文前期	＊29.5		＊32.4		センイ	
107－2	106－2	H5	Ⅱ	鉢	縄文晩期	＊12.6	＊14.6	＊14.6		粗砂・シャモット	
107－3	106－3	J25		鉢	縄文晩期	＊27	＊34.6	35		粗砂・シャモット	
107－4	106－4	R21		鉢	縄文晩期						
107－5	106－5	N19	Ⅱ	高坏	縄文晩期						
107－6	106－6	E19		高坏	縄文晩期						
107－7	106－7	K14	Ⅱ	高坏	縄文晩期						
107－8	106－8	Q22	Ⅱ	高坏	縄文晩期						
107－9	106－9	L17		高坏	縄文晩期						
107－10	106－10	T15		高坏	縄文晩期						
108－1	106－11	P22	Ⅱ	深鉢	弥生	＊23	＊23.4	＊23.4		粗砂・シャモット	
108－2	106－12		?	深鉢	弥生	＊24.7		＊18		粗砂・シャモット	
108－3	106－13	P23	Ⅱ	深鉢	弥生	＊8.9	＊22.4	25		金雲母	
108－4	107－1	L17	Ⅲ	壺	弥生	＊19.5		＊20	＊9.4	粗砂・シャモット	
108－5	107－2	O18		深鉢	弥生	＊14.6	20			粗砂・シャモット	
108－6	107－3	H15	Ⅱ	深鉢	弥生	＊11	＊15.8	18.5		粗砂・シャモット	
108－7	107－4	T15		高坏	弥生	＊5.8	＊21.3	＊21.3		粗砂・シャモット	
108－8	107－5	Q22	Ⅲ	高坏	弥生						
108－9	107－6	P22	Ⅱ	高坏	弥生						
109－1	107－7	P22	Ⅱ	高坏	弥生						
109－2	107－8	T15		高坏	弥生						
109－3	107－9	Q23	Ⅱ	高坏	弥生						
109－4	107－10	P22	Ⅱ	高坏	弥生						
109－5	107－11	I16	Ⅱ	甕	奈良	＊7.5	20.2	20.2		細礫	
109－6	107－12	T16		甕	奈良？	＊17.5		＊19		細砂	
109－7	107－13	I17	Ⅲ	小鉢	奈良？	5.8	＊11.2	＊11.2	6.8	細礫	
109－8	107－14	I17	Ⅱ	甕	奈良？	＊15.8	19.5			細礫	
109－9	107－15	T16		甕	奈良？	＊7.2			6.7	細礫	
109－10	107－16	I13		甕	平安	＊5.6			8	細礫	
109－11	107－17	J15	Ⅲ	甕	平安	＊7.3			＊8.4	細礫	
109－12	107－18	G21	Ⅰ	坏	奈良	＊4.4	14.3	14.3		細砂	丸底
109－13	107－19	I17	Ⅱ	坏	古代	3.8	12		＊6.4	細砂	須恵器
109－14	107－20	I17	Ⅱ	坏	古代	＊3.5	＊10.4		＊7.3	金雲母	須恵器

鉄製品一覧表

単位：cm・g

No.	図　　版	写真図版	器　種	出土地	層位	長　さ	幅	厚　さ	重　量	備　　考
1	79－3	95－24	板状	RA513	床	11.2	4.6	2.1	249.1	
2	81－6	96－15	棒状	RA514	埋土	16.6	1.5	0.9	86.8	
3	81－7	96－16	棒状	RA514	埋土	11.7	2	0.6	22.7	
4	81－8	96－17	釘	RA514	埋土	7.7	1	0.6	11.3	
5	81－9	96－18	板状	RA514	埋土	5.3	7.1	0.7	54.6	鋳物片
6	87－10	97－21	鉄鍋	RA518	床	8.9	11.7	0.3	74.5	底径24、高さ4.3
7	87－11	97－22	刀子	RA518	埋土	8.5	1.2	0.3	7	8と同一個体
8	87－12	97－23	刀子	RA518	床	12.7	1.6	0.4	14.2	7と同一個体
9	90－10	99－10	板状	RA519	柱穴	3.5	6.5	1.2	79.4	
10	97－7	101－7	紡錘車	RA521	埋土	4.5	4.4	0.7	24.7	
11	97－8	101－8	紡錘車	RA521	埋土	7.7	1.1	0.3	2.2	
12	109－15	107－21	鉄鏃？	K17	ⅡⅢ	8.3	0.9	0.5	8.5	
13	109－16	107－22	刀子	M13	Ⅱ	3.9	1.7	0.4	6	
14	109－17	107－23	板状	H17	Ⅱ	2	3	0.7	8.5	鋳物片

石器一覧表

単位：cm、g　　＊：破損品

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地	備　考
44－2	84－2	RA111	埋	石鏃	○	2.3	1.9	0.5	1.2	粘板岩	北上山地・古生界	
44－1	84－1	RA111	埋	石鏃	○	2	1.5	0.3	0.5	粘板岩	北上山地・古生界	
43－7	83－7	RA111	床	石鏃	○	2.2	1.7	0.5	1.1	粘板岩	北上山地・古生界	
43－8	83－8	RA111	床	石鏃	×	＊3.4	1.7	0.5	＊2	粘板岩	北上山地・古生界	
43－10	83－10	RA111	床	石匙	○	5.8	4.6	1	21	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
44－5	84－5	RA111	埋	石匙	○	8.6	2	0.9	13.6	粘板岩	北上山地・古生界	
43－9	83－9	RA111	床	石匙	○	7.1	2.6	0.5	8.4	粘板岩	北上山地・古生界	
44－3	84－3	RA111	埋	石篦	○	3.8	1.8	0.7	5.4	粘板岩	北上山地・古生界	
44－8	84－8	RA111	埋	磨石	○	7.8	5.1	4.7	260	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
44－10	84－10	RA111	埋	磨石	○	9.7	8.3	6.5	760	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
44－9	84－9	RA111	埋	磨石	○	10.9	9.8	3.4	630	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
44－11	84－11	RA111	埋	磨石	×	13	11.8	＊5.1	＊1240	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
44－12	84－12	RA111	埋	磨石	○	13.5	11.5	6.1	1380	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
44－6	84－6	RA111	埋	磨製石斧	×	＊7.2	4.3	1.2	＊260	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
44－7	84－7	RA111	埋	磨製石斧	×	＊3.5	5.4	＊1.2	＊38	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
43－11	83－11	RA111	床	玦状耳飾	×	＊3.4	＊1.5	0.4	＊2.4	滑石	宮守・古生界	
46－7	84－19	RA112	埋	磨石	×	＊7.7	＊8.6	＊4.3	＊390	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
46－15	84－27	RA113	?	磨石	×	＊6.3	＊7.1	＊4.7	＊320	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
53－3	87－13	RA115	埋	石鏃	○	3.6	1.6	0.6	1.7	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
53－4	87－14	RA115	埋	石鏃	○	2.5	1.7	0.5	1	粘板岩	北上山地・古生界	
53－5	87－15	RA115	埋	石鏃	×	＊1.9	1.6	0.4	＊0.8	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
53－6	87－16	RA115	埋	石鏃	○	2.4	1.8	0.5	1.4	チャート	北上山地・中生界	アスファルト付着
53－8	87－18	RA115	埋	石匙	○	3.8	3.7	0.8	7.6	粘板岩	北上山地・古生界	
53－9	87－19	RA115	埋	石匙	×	＊3.2	＊5.5	＊0.6	＊3.9	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
53－12	87－22	RA115	埋	石篦	○	3.8	2.9	0.9	9.9	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
53－10	87－20	RA115	埋	削掻器	○	2.7	4.3	0.7	6.4	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
53－7	87－17	RA115	埋	削掻器	○	1.2	2.5	0.7	4.2	粘板岩	北上山地・古生界	
53－11	87－21	RA115	埋	楔形石器	○	2.8	2.2	0.9	5.4	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
54－5	87－31	RA115	?	磨石	×	＊5.6	＊6.1	6.9	＊250	凝灰質硬砂岩	北上山地・古生界	
54－3	87－29	RA115	?	磨石	×	＊4.5	＊6.2	＊4.6	＊140	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
53－15	87－25	RA115	埋	磨石	○	8.8	5.8	4	300	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
54－4	87－30	RA115	?	磨石	×	＊4.6	＊6.7	＊3.5	＊140	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
53－16	87－26	RA115	埋	磨石	○	4.6	3.8	3	80	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
54－2	87－28	RA115	埋	磨石	○	10.9	8.2	6.4	840	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
54－1	87－27	RA115	埋	凹石	○	10.8	7.1	5.7	74	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
53－14	87－24	RA115	埋	磨製石斧	×	11.6	5	＊1.7	＊60	砂岩	三陸海岸・白亜系	接合1127
53－13	87－23	RA115	?	垂飾品	×	＊9.2	＊7.4	2.1	＊22.5	軽石	海流浮流物・第四系	
		RA116	埋	石鏃	○	2.8	1.8	0.5	2	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	1.9	1.4	0.4	0.7	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	2.7	1.7	0.5	1.6	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	1.8	1.1	0.3	0.4	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	3.2	1.9	0.5	1.9	チャート質泥岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	2.2	2.1	0.5	1.9	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	1.5	1.9	0.3	0.4	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	2.5	2	0.4	1.5	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石鏃	×	＊2.3	1.8	0.4	＊3.4	チャート質泥岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石鏃	×	3.2	1.7	0.5	＊1.9	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石鏃	○	＊2.1	1.9	0.4	1	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石匙	○	5.6	3.1	0.9	1.1	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石匙	○	5	3.6	0.9	12	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石匙	○	5	1.4	0.6	3.2	チャート質泥岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石匙	×	5	2.1	0.6	＊7.4	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石匙	×	4	3.6	0.7	＊5.1	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	石匙	○	3.7	5	0.7	9.1	粘板岩	北上山地・古生界	96年

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地	備　考
		RA116	埋	石匙	×	2.6	3.7	0.4	4	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	石匙	○	5.5	4.5	1	14	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	削掻器	×	2.2	3.1	0.7	＊1.8	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
		RA116	埋	削掻器	○	3	4.5	0.7	8.7	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	削掻器	○	2.1	2.6	0.6	2.7	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	削掻器	○	2.9	2.3	0.4	1.8	粘板岩	北上山地・古生界	96年
		RA116	埋	磨石・凹石	○	12.6	8.6	9.1	1030	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	96年
		RA116	埋	磨石	○	8.8	5.5	4.2	280	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	96年
		RA116	埋	磨石敲打石	×	12.1	3.7	＊6.9	＊440	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	96年
		RA116	埋	磨石	○	9.6	6.5	5.5	500	凝灰角礫岩	北上山地・中生界	96年
		RA116	埋	磨製石斧	×	＊6.7	3.8	2.2	＊60	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	96年
		RA116	埋	磨製石斧	×	＊5.9	＊3.9	＊1.1	＊36.6	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	96年
		RA116	埋	石剣	×	＊26.6	3.5	1.7	＊262	緑色凝灰岩	三陸地域・白亜系	96年
58－8	88－23	RA117	埋	石鏃	○	2.5	2.1	0.7	2.3	粘板岩	北上山地・古生界	
58－7	88－22	RA117	埋	磨石	○	11.3	8.2	5.3	＊820	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
		RA117	埋	磨製石斧	×							接合・1169
59－8	89－21	RA118	Ⅱ	石鏃	○	2.5	1.9	0.4	1.2	粘板岩	北上山地・古生界	
62－10	90－12	RA119	?	石鏃	○	2.3	1.5	0.3	0.5	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
62－11	90－13	RA119	埋	石鏃	○	3.2	1.9	0.4	2	粘板岩	北上山地・古生界	
62－15	90－17	RA119	埋	石鏃	○	2.1	1.6	0.5	0.8	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
62－12	90－14	RA119	埋	石鏃	×	＊2.5	1.8	0.4	＊1.2	粘板岩	北上山地・古生界	
62－22	90－24	RA119	埋	石匙	○	3.6	4.7	0.9	10.9	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
62－13	90－15	RA119	埋	石鏃	×	＊2.3	1.4	0.4	＊1.1	粘板岩	北上山地・古生界	
62－14	90－16	RA119	埋	石鏃	×	2.1	1.5	＊0.3	＊0.3	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
62－23	90－25	RA119	埋	尖頭器	○	7.1	3	1.3	19.3	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
62－17	90－19	RA119	埋	石匙	○	4	3.6	1	11.2	粘板岩	北上山地・古生界	
62－19	90－21	RA119	埋	石匙	×	＊5.1	2.5	0.9	＊11.9	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
62－21	90－23	RA119	埋	石匙	×	＊4.3	＊2.6	＊1	＊9.2	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
62－18	90－20	RA119	埋	石匙	○	4.2	2.3	0.7	6.4	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
62－20	90－22	RA119	埋	石匙	○	4.6	3.2	0.6	60	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
62－16	90－18	RA119	埋	削掻器	○	4.1	3.1	1	9.8	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
		RA119	埋	石核	○							欠番
62－24	90－26	RA119	埋	石核	○	7	6.2	5.5	240	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
63－4	90－30	RA119	埋	磨石	×	＊7	7.9	4.6	＊400	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
63－5	90－31	RA119	埋	磨石	×	＊6.5	8.9	4.4	＊380	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
63－3	90－28	RA119	埋	磨石	○	14.1	8	7.2	1180	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
63－7	90－33	RA119	埋	磨石	○	14.5	7.8	10.5	1780	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
63－1	90－27	RA119	埋	磨石(面)	○	11.6	7.7	6.9	910	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
63－2	90－29	RA119	埋	磨石(面)	○	14	8.8	4.4	940	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
63－6	90－32	RA119	埋	磨石	○	11.6	9.6	5	880	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
65－9	91－11	RA120	埋	石鏃	○	3.1	1.5	0.6	3	粘板岩	北上山地・古生界	アメリカ式
65－8	91－10	RA120	埋	石鏃	×	＊3.7	2.3	0.7	＊3.3	粘板岩	北上山地・古生界	
65－10	91－12	RA120	埋	石匙	○	3.3	4	0.7	6.4	粘板岩	北上山地・古生界	
65－11	91－13	RA120	埋	削掻器	○	3.4	6.3	1	23.2	珪化木	産地・時代不詳	
65－12	91－14	RA120	埋	削掻器	○	2.6	3	0.8	3.6	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
65－13	91－15	RA120	埋	磨石	○	7.4	5.6	3.7	240	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
58－20	89－12	RA121	埋	石鏃	○	2.2	2.4	0.5	1.6	粘板岩	北上山地・古生界	
58－21	89－13	RA121	埋	磨石	×	＊3.8	4.1	2	＊34.6	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
66－5	91－20	RA122	埋	石鏃	○	2.2	1.6	0.5	0.8	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
67－6	91－26	RA123	埋	石匙	○	3.7	6.2	0.5	7.2	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
67－7	91－27	RA123	埋	削掻器	○	2.3	5.1	1	7.8	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
67－8	92－1	RA123	埋	磨製石斧	×	＊7.9	4.1	1.4	＊60	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
69－4	92－13	RA126	埋	石鏃	○	2.3	1.9	0.3	1.2	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
69－9	92－18	RA127	埋	石鏃	○	2.7	1.7	0.4	1.3	粘板岩	北上山地・古生界	
79－4	95－25	RA513	床	石槍	○	15.8	3.5	1.5	60	粘板岩	北上山地・古生界	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地	備　考
79－5	96－1	RA513	床	磨石	○	9.8	9.2	3.9	480	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
79－6	96－2	RA513	床	磨石	○	11.2	8.7	7.6	1060	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
79－7	96－3	RA513	床	磨石	○	15.6	14.6	6.5	2440	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
79－13	96－9	RA513	埋	有孔円盤	×	＊3	＊6	0.8	＊18.6	粘板岩	北上山地・古生界	
81－4	96－13	RA514	埋	石鏃	×	＊3	＊1.5	0.6	1.6	粘板岩	北上山地・古生界	
81－5	96－14	RA514	埋	石匙	○	4.2	5.2	1.3	15.3	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
82－6	96－24	RA514	埋	磨製石斧	×	＊3	＊1	＊1.5	＊1.8	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
89－9	98－19	RA518	埋	石鏃	○	2.8	2	0.6	1.9	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	石鏃？
89－8	98－18	RA518	埋	石鏃	○	3.3	1.6	0.4	1.2	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
89－6	98－16	RA518	埋	石鏃	○	1.8	1.5	0.3	0.2	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
89－7	98－17	RA518	？	石鏃	○	2.2	1.5	0.4	1.5	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
89－10	98－20	RA518	埋	石匙	○	2.3	3	0.7	2.8	粘板岩	北上山地・古生界	
89－12	98－22	RA518	埋	石匙	○	5.4	1.5	0.6	5.6	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
89－11	98－21	RA518	埋	石錐	○	2.7	1.9	0.7	2.2	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
89－13	98－23	RA518	埋	削掻器	○	5.7	3	1.2	14.3	粘板岩	北上山地・古生界	
89－15	98－25	RA518	埋	磨石	○	10.3	8.2	6.1	840	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
89－16	98－26	RA518	埋	磨石	×	＊10.2	8.4	6.2	＊740	凝灰岩	北上山地・古生界	
87－13	97－24	RA518	床	磨石	○	12.6	8.4	6.2	1030	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
89－14	98－24	RA518	埋	磨石	○	16.3	13.6	5.4	2080	凝灰岩	北上山地・古生界	
87－14	97－25	RA518	床	磨石	○	16.5	15.4	5.8	2520	凝灰質硬砂岩	北上山地・古生界	
97－9	101－9	RA521	埋	石鏃	○	1.6	1.2	0.3	0.3	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
97－14	101－14	RA521	埋	磨石	×	＊6.1	5.1	7.4	＊410	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
97－15	101－15	RA521	埋	磨石	○	6.6	4.7	4	180	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
97－13	101－13	RA521	埋	磨石	○	9.3	5.6	4.5	350	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
97－10	101－10	RA521	埋	磨石	○	8.8	7.6	5.2	520	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
97－12	101－12	RA521	埋	磨石	×	＊9.6	6.8	5.8	＊490	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
97－11	101－11	RA521	埋	磨石	×	11.7	＊8.4	8.2	＊1140	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
94－3	99－19	RA521	床	砥石	×	＊11.6	7.2	3.7	＊340	流紋岩	三陸海岸古第三系	
94－2	99－18	RA521	埋	砥石	×	＊7.4	4.8	2.6	＊160	流紋岩	三陸海岸古第三系	
100－6	102－18	RD32	埋	磨石	×	＊9.6	＊8.4	3.3	＊440	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
100－5	102－17	RD32	埋	磨石	○	9.3	6	4.3	380	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
72－6	93－14	RE04	？	磨石	×	＊12.5	＊5.3	＊6.6	＊560	凝灰質硬砂岩	北上山地・古生界	
99－21	102－10	RE05	埋	石鏃	×	＊3.3	0.9	0.4	＊1.2	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
99－19	102－8	RE05	埋	石鏃	○	2.9	1.9	0.6	1.7	粘板岩	北上山地・古生界	
99－20	102－9	RE05	埋	石鏃	○	3.4	1.9	0.3	1.7	粘板岩	北上山地・古生界	
99－23	102－12	RE05	埋	石匙	○	3.8	5.5	0.6	12.6	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
99－22	102－11	RE05	埋	削掻器	○	1.6	4	0.4	3.1	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
99－24	102－13	RE05	埋	磨石	×	＊6	4	4.8	＊140	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
110－2	108－2	不明	？	石鏃	○	2.8	1.5	0.6	1.5	粘板岩	北上山地・古生界	
110－7	108－7	P16	Ⅰ	石鏃	○	2.8	1.1	0.3	1.1	粘板岩	北上山地・古生界	
110－8	108－8	G14	Ⅱ	石鏃	○	1.9	1.4	0.4	0.8	粘板岩	北上山地・古生界	
110－4	108－4	E13	Ⅱ	石鏃	○	2.1	1.7	0.4	1	粘板岩	北上山地・古生界	
110－5	108－5	L15	Ⅱ	石鏃	○	2.6	1.5	0.6	0.9	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
110－11	108－11	M22	Ⅱ	石鏃	×	＊2.2	＊1.3	0.4	＊0.7	粘板岩	北上山地・古生界	
110－10	108－10	M20	Ⅱ	石鏃	×	＊2.4	1.6	0.4	＊0.6	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
110－12	108－12	L19	Ⅱ	石鏃	×	＊2.5	1.5	0.3	＊1.2	粘板岩	北上山地・古生界	
110－13	108－13	O12	Ⅱ	石鏃	×	＊1.5	1.5	0.3	＊0.5	粘板岩	北上山地・古生界	
110－9	108－9	H13	Ⅱ	石鏃	○	1.7	1.5	0.7	1.1	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
110－1	108－1	H16	Ⅲ	石鏃	○	2.6	2	0.4	1	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
110－3	108－3	J13	Ⅱ	石鏃	○	2.1	1.6	0.5	1.3	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110－6	108－6	E13	？	石鏃	○	1.9	1.7	0.3	0.7	粘板岩	北上山地・古生界	
110－14	108－14	F15	Ⅱ	石槍	×	＊3.9	＊3.1	＊1.3	＊11.7	チャート	北上山地・中生界	
110－18	108－18	不明	？	石匙	○	3.2	5.7	0.9	10.6	粘板岩	北上山地・古生界	
110－20	108－20	不明	？	石匙	○	4.4	5.2	0.9	19	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
110－21	108－21	M12～13	？	石匙	○	5.3	2.2	0.7	7.2	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地	備　考
110−33	108−33	Q22	Ⅰ	石匙	×	＊5.3	3.6	0.8	＊13.2	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
110−15	108−15	不明	?	石匙	○	3.1	6.3	0.8	10.8	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
110−23	108−23	Q22	Ⅱ	石匙	○	4.6	1.8	0.6	5.7	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−16	108−16	P20	Ⅱ	石匙	○	3.2	5.1	0.9	9.4	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
110−24	108−24	O22	ⅡⅢ	石匙	○	6.6	2.5	1.2	15.8	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−19	108−19	O22	ⅡⅢ	石匙	○	3.7	4.6	0.8	7.3	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−17	108−17	M22	Ⅱ	石匙	○	2.9	4.9	0.9	5.9	粘板岩	北上山地・古生界	
110−27	108−27	Q21	Ⅱ	石匙	○	5.1	1.9	0.5	6.4	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−26	108−26	P22	Ⅱ	石匙	○	6.3	2.2	0.7	6.2	粘板岩	北上山地・古生界	
44−4	84−4	RA111	Ⅱ	石匙	×	＊7.1	1.8	1.1	＊10.7	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−28	108−28	K12	?	石匙	○	4.2	2.3	0.6	3.8	粘板岩	北上山地・古生界	
110−30	108−30	O16	?	石匙	×	＊3	＊2.1	＊0.5	＊2.6	粘板岩	北上山地・古生界	
110−25	108−25	G15	ⅡⅢ	石匙	○	5.7	2.8	0.7	7.9	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−22	108−22	N−P24−26	Ⅱ	石匙	○	5.5	3.1	0.8	14.2	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
110−29	108−29	G14	?	石匙？	○	5.1	1.6	0.3	3.1	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
111−5	109−7	不明	Ⅰ	削掻器	○	3.3	3.5	0.7	7.8	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
111−11	109−13	G21	Ⅰ	削掻器	○	1.9	3	0.6	2.3	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
111−15	109−17	H16	Ⅱ	削掻器	○	0.9	3.1	0.3	0.9	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
110−31	108−31	N22	Ⅱ	削掻器	○	2.8	5	0.9	8.6	チャート質泥岩	北上山地・中生界	
111−7	109−9	M21	?	削掻器	○	3	2.7	0.5	9.1	粘板岩	北上山地・古生界	
110−32	108−32	N−P20−21	?	削掻器	○	2.6	2.9	0.6	3.7	粘板岩	北上山地・古生界	
111−9	109−11	O13	Ⅰ	削掻器	○	2.7	3.9	0.6	4.5	粘板岩	北上山地・古生界	
111−2	109−4	P11	Ⅰ	削掻器	○	3.1	6.8	0.9	16.3	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
110−36	109−2	T10	Ⅱ	削掻器	○	1.5	2.1	0.3	0.7	粘板岩	北上山地・古生界	
111−3	109−5	C16	Ⅱ	削掻器	○	2.2	3.1	0.6	3.4	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
111−1	109−3	F18	Ⅱ	削掻器	○	3.5	5.5	0.7	15.1	凝灰質泥岩	北上山地・中生界	
110−35	109−1	S16	Ⅱ	削掻器	○	5.6	3	0.7	11.2	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
111−4	109−6	M22	ⅡⅢ	削掻器	○	2.6	4.7	1.1	14.2	粘板岩	北上山地・古生界	
111−10	109−12	L21	Ⅱ	削掻器	○	3.3	3.1	0.6	6.1	チャート質細粒凝灰岩	北上山地・中生界	
111−8	109−10	J12	?	削掻器	○	2.4	4.4	1	9.5	粘板岩	北上山地・古生界	
111−6	109−8	E15	Ⅰ	削掻器	○	1.9	3.6	0.6	2.7	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
110−34	108−34	H17	?	削掻器	○	6.3	2.9	1	20.8	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	石匙？
111−12	109−14	O13	?	楔形石器	○	2.6	3.5	0.7	8.4	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
111−14	109−16	E13	?	楔形石器	○	3.6	2.5	1.2	10.6	チャート質粘板岩	北上山地・古生界	
111−3	109−15	L19	?	楔形石器	○	3.1	3.7	0.8	9	粘板岩	北上山地・古生界	
112−7	110−7	O20	Ⅰ	磨石	○	12.2	9.4	7.2	1200	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
113−3	110−11	G21	Ⅰ	磨石	×	＊12.6	8.4	6.5	＊1010	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
114−4	110−19	I12	Ⅱ	磨石	×	＊8.3	8.1	4.3	＊460	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
113−6	110−14	?	?	磨石(辺)	○	12.4	5.5	8.8	920	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
112−2	110−2	I11	?	磨石	○	6.2	4.9	2.1	160	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
112−5	110−5	I17	Ⅱ	磨石	○	8.5	6.8	6.1	490	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
113−4	110−12	H15	Ⅱ	磨石(辺)	×	＊6.2	＊4.8	6.9	＊280	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
112−3	110−3	I10	Ⅰ	磨石	○	9.6	6.6	6.6	580	輝石安山岩	宮古以北・白亜系	
114−6	110−21	E19	?	磨石敲打石	×	＊11	4	7.2	＊440	流紋岩	三陸海岸古第三系	
114−3	110−18	I15	ⅡⅢ	磨石(辺)	×	＊12.6	4.9	7.1	＊460	凝灰質硬砂岩	北上山地・古生界	
113−1	110−9	J13	Ⅲ	磨石(辺)	○	13.3	5.6	8.9	980	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
114−5	110−20	N13	?	磨石(辺)	×	＊5.8	＊3.6	7.5	240	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
113−2	110−10	H25	Ⅱ	磨石(面)	×	＊5	＊6.7	＊4	＊260	粘板岩	北上山地・古生界	
113−5	110−13	K16	Ⅱ	磨石(面)	○	13.4	9.5	3.8	940	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
113−7	110−15	Q15	Ⅱ	磨石(辺)	×	＊7.6	6.5	＊7.2	＊420	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
112−8	110−8	I18	Ⅱ	磨石(面)	○	9.2	7.8	4.5	530	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
114−8	110−23	H17	Ⅱ	磨石	○	4	2.5	1.5	19.8	凝灰岩	北上山地・古生界	
112−1	110−1	H17	Ⅱ	磨石	○	4.2	3.8	4.4	55	凝灰岩	北上山地・古生界	
112−4	110−4	H17	Ⅱ	磨石	○	8.3	5.4	2.5	180	凝灰岩	北上山地・古生界	
114−1	110−16	I12	Ⅱ	磨石	×	＊9.3	9.4	5.4	＊810	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地	備　考
112－6	110－6	J14	ⅡⅢ	凹石	○	11.7	9.1	4.3	710	凝灰岩	北上山地・古生界	
114－2	110－17	R15	Ⅱ	敲打石	×	＊9.4	3.3	5.4	＊210	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
111－22	109－24	I21	Ⅰ	磨製石斧	×	＊4.3	＊4	＊1.4	＊24.3	細粒凝灰岩	三陸地域・白亜系	
111－23	109－25	H13	ⅡⅢ	磨製石斧	×	＊4.1	＊4.1	＊1.5	＊53.5	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
111－21	109－23	N14	?	磨製石斧	×	6.5	5.3	2.5	＊160	緑色凝灰岩	三陸地域・白亜系	
111－18	109－20	M11	?	磨製石斧	○	6.6	3.2	1.1	32.2	緑色凝灰岩	三陸地域・白亜系	
111－17	109－19	K17－18	?	磨製石斧	×	5.2	4	1.1	＊36.6	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
111－16	109－18	C16	Ⅱ	磨製石斧	×	＊8.7	＊5.2	2.3	＊82	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
111－20	109－22	O21	Ⅱ	磨製石斧	×	＊7.6	＊3.5	0.9	＊41.4	細粒凝灰岩	三陸地方・白亜系	
114－14	110－29	I15	ⅡⅢ	台石	×	＊7	＊11.8	＊5.2	＊700	花崗閃緑岩	三陸地方・白亜系	
111－19	109－21	T18	?	礫石斧	○	10.2	6.3	3	220	緑色凝灰岩	三陸地域・白亜系	
114－9	110－24	I13	?	石棒	×	＊6.8	＊2	＊1.1	＊12.5	粘板岩	北上山地・古生界	
114－10	110－25	I21	Ⅰ	石剣	×	＊10.1	＊2.6	＊0.7	＊27.5	細粒凝灰岩	三陸地域・白亜系	
114－11	110－26	N10	?	板状石製品	×	＊4.4	＊3	＊1.4	＊28	緑色凝灰岩	三陸地域・白亜系	
114－13	110－28	K-M19-21	?	石製円盤	○	3.9	4.1	0.9	19.2	粘板岩	北上山地・古生界	
114－7	110－22	H15	Ⅱ	浮石	○	7.6	4.9	4.6	16.4	軽石	海流浮流物・第四系	
114－12	110－27	J13	?	砥石	×	＊3.9	＊5.5	＊1.8	＊29.7	凝灰質硬砂岩	北上山地・古生界	

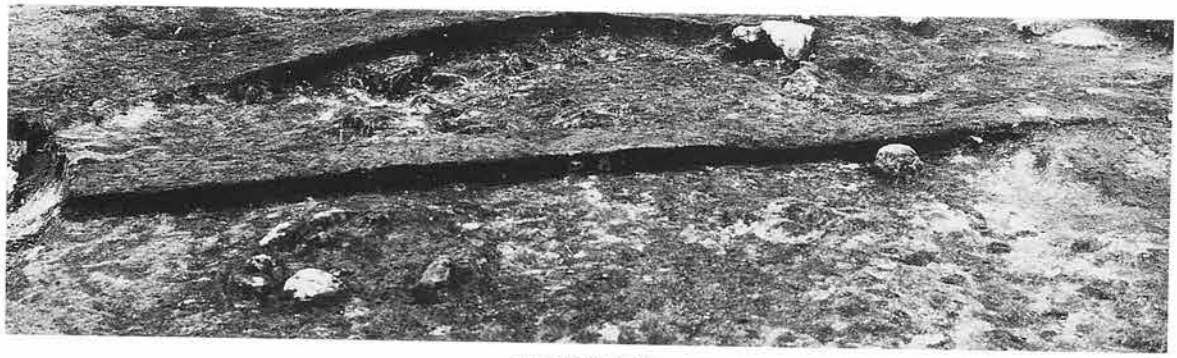
写　真　図　版

遺跡遠景（手前中央が遺跡・西から）

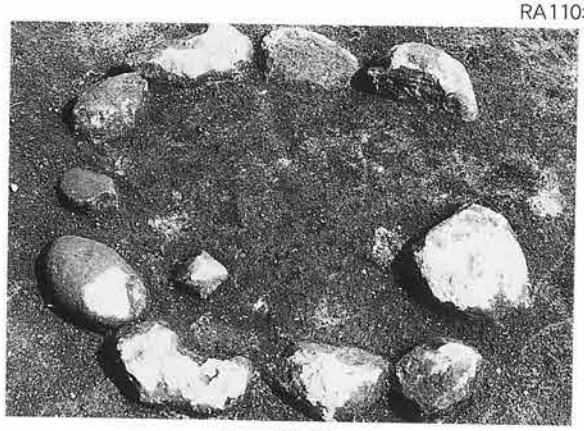
遺跡全景（北から）

写真図版47　遺跡遠景・全景

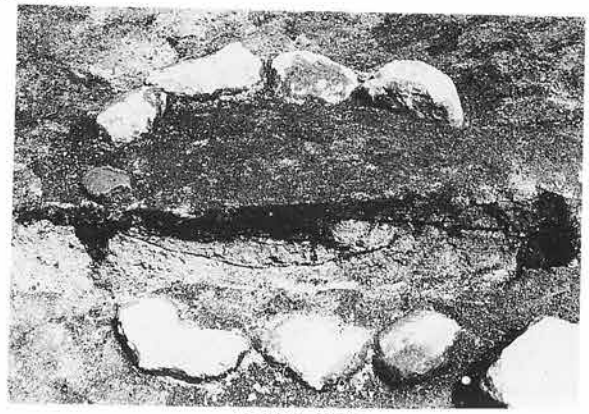
RA110　全　景



RA110埋土断面



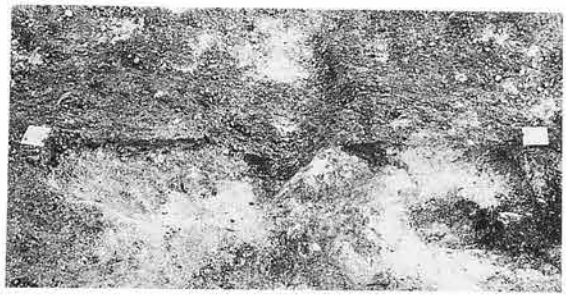
RA110炉全景



RA110炉断面

写真図版48　RA110住居跡

RA111　全　景

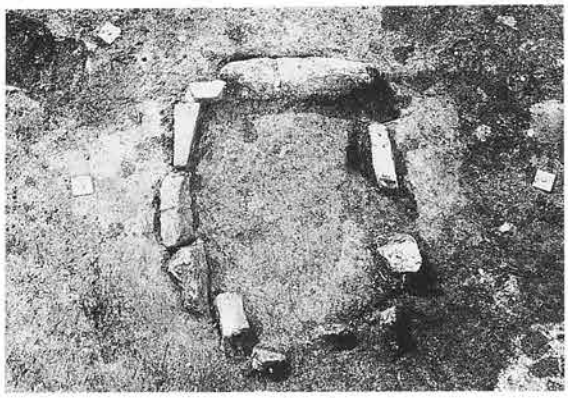


RA111炉断面

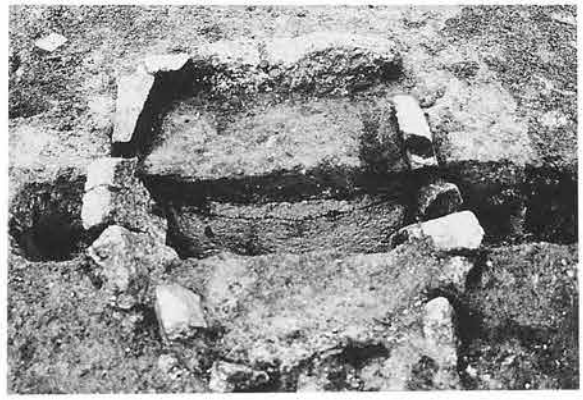
RA112　全　景

写真図版49　RA111・112住居跡

RA112埋土断面



RA112炉全景



RA112炉断面

RA113　全　景

写真図版50　RA112・113住居跡

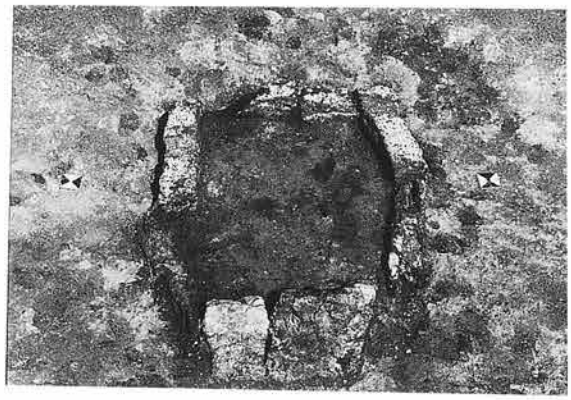
RA113埋土断面

RA113炉断面

RA113埋設土器断面

RA114　全　景

写真図版51　RA113・114住居跡



RA114炉全景

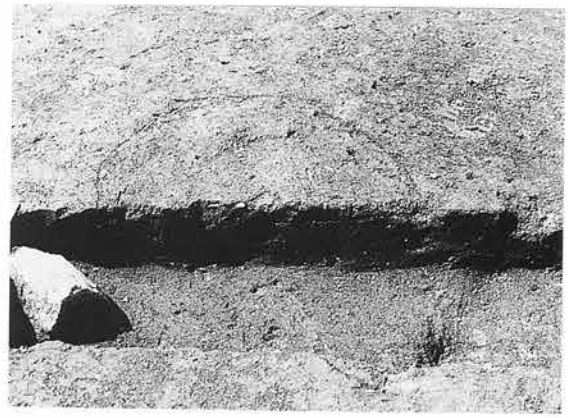
RA114炉断面

RA115　全　景

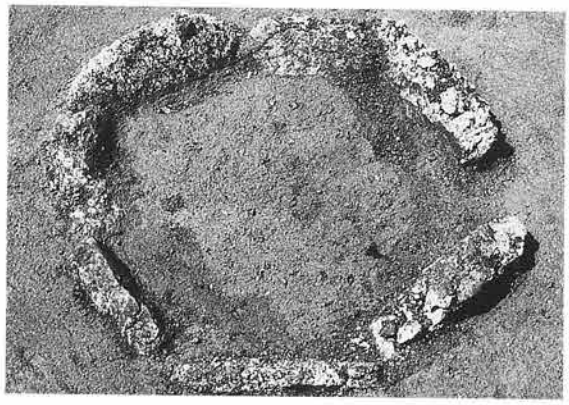
RA115埋土断面

写真図版52　RA114・115住居跡

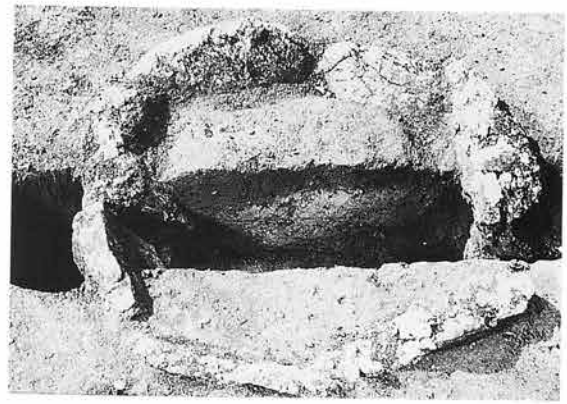
RA115遺物出土状況



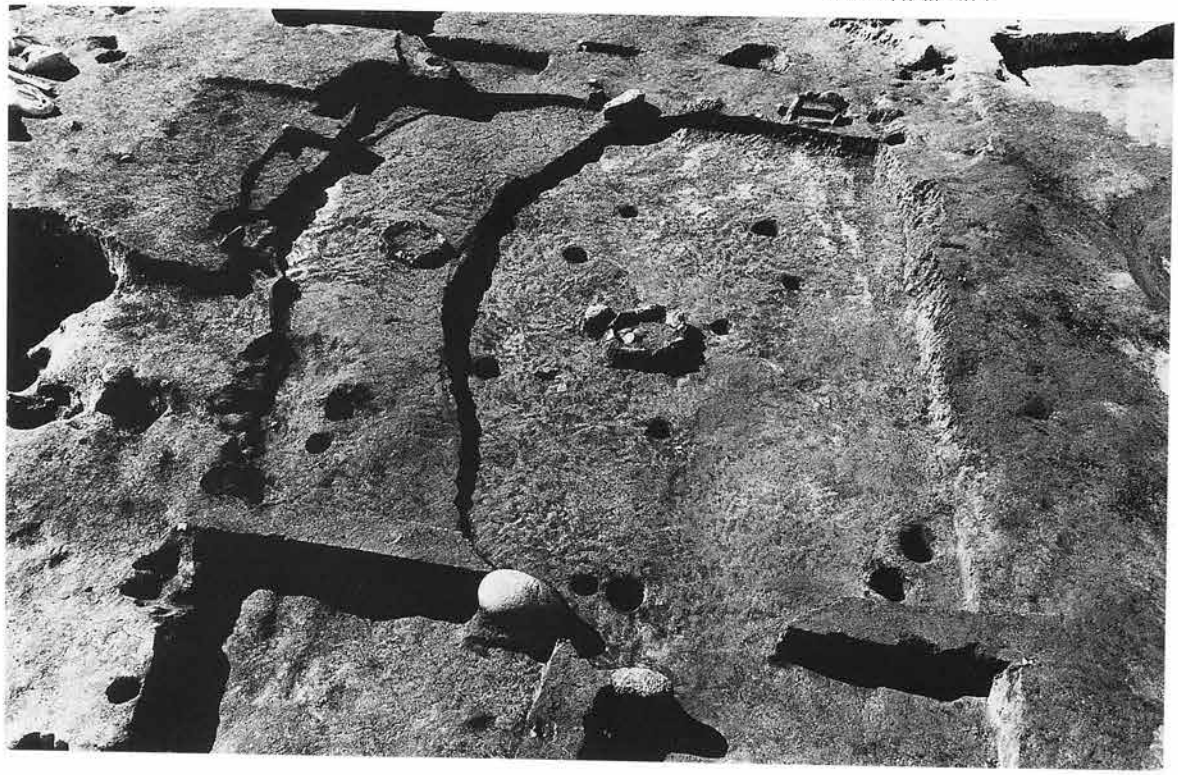
RA115地床炉断面



RA115石囲炉全景



RA115石囲炉断面

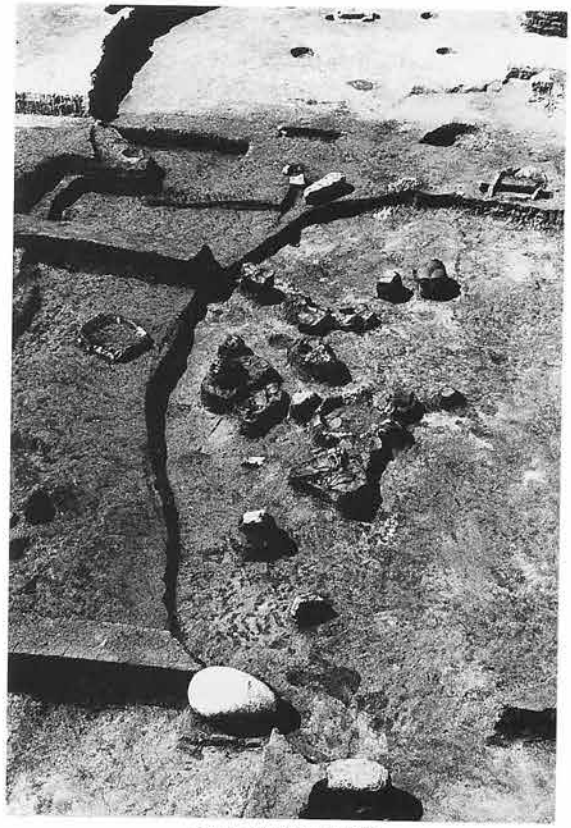


RA117・121全景（右側がRA117）

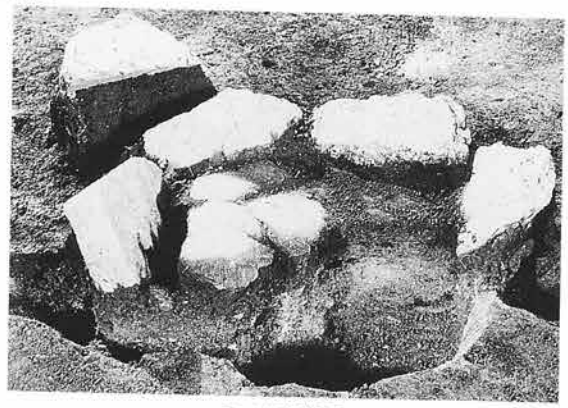
写真図版53　RA115・117・121住居跡

RA117・121埋土断面（右側がRA117）

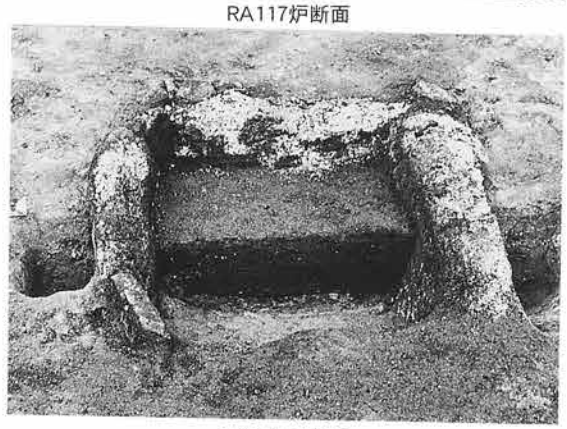
RA117埋土断面



RA117遺物出土状況



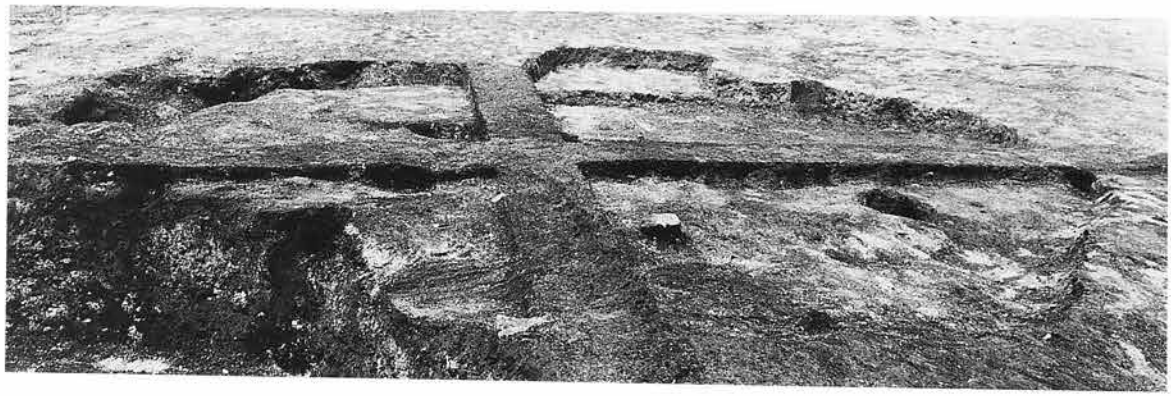
RA117炉断面



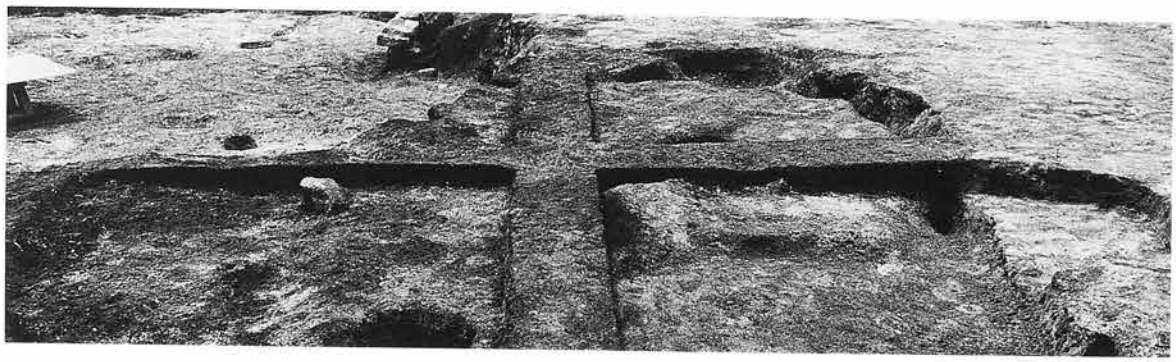
RA121炉断面

写真図版54　RA117・121住居跡

RA118　全　景



RA118埋土断面



RA118埋土断面

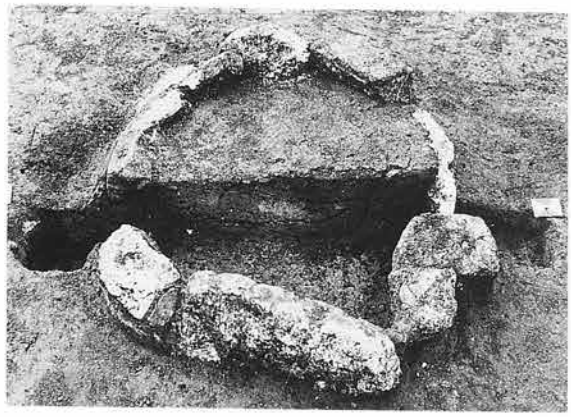
写真図版55　RA118住居跡

RA119　全　景

RA119埋土断面

RA119埋土断面

写真図版56　RA119住居跡



RA119炉断面

RA120　全　景

RA120埋土断面

写真図版57　RA119・120住居跡

RA120炉

RA120埋設土器

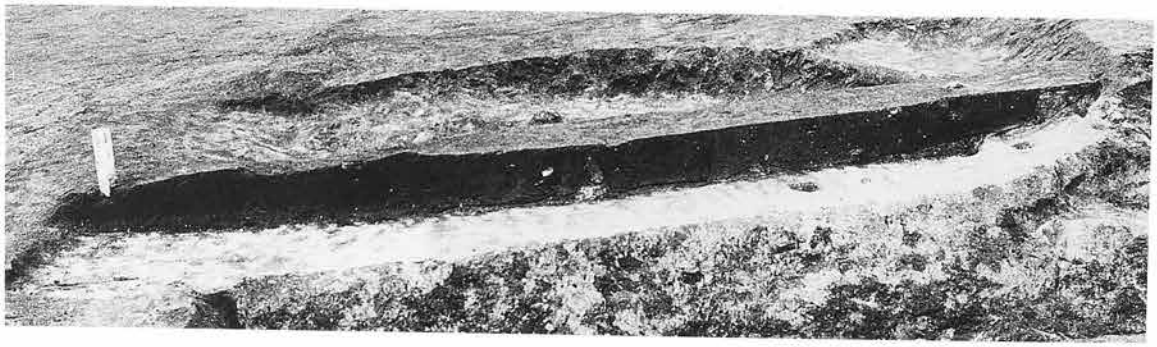
RA120遺物出土状況

RA122　全　景

写真図版58　RA120・122住居跡

RA122炉断面

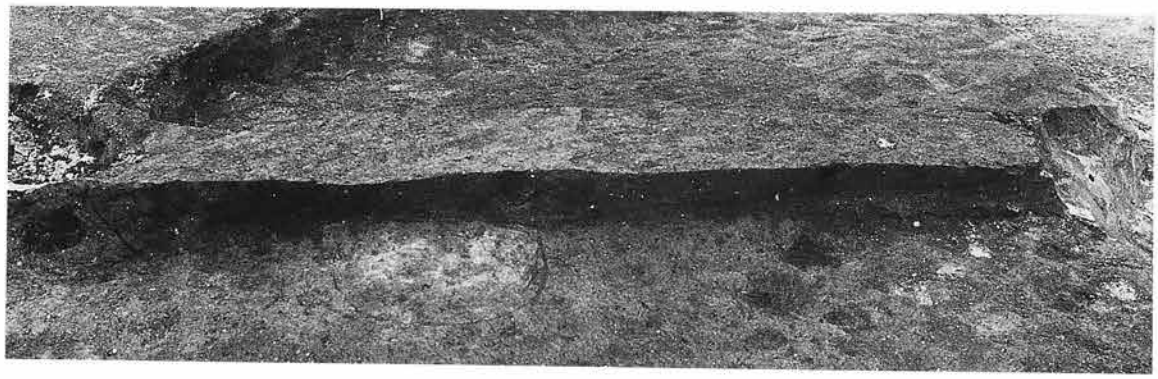
RA123・125全景（右側がRA125）



RA123・125埋土断面（右側がRA125）

写真図版59　RA122・123・125住居跡

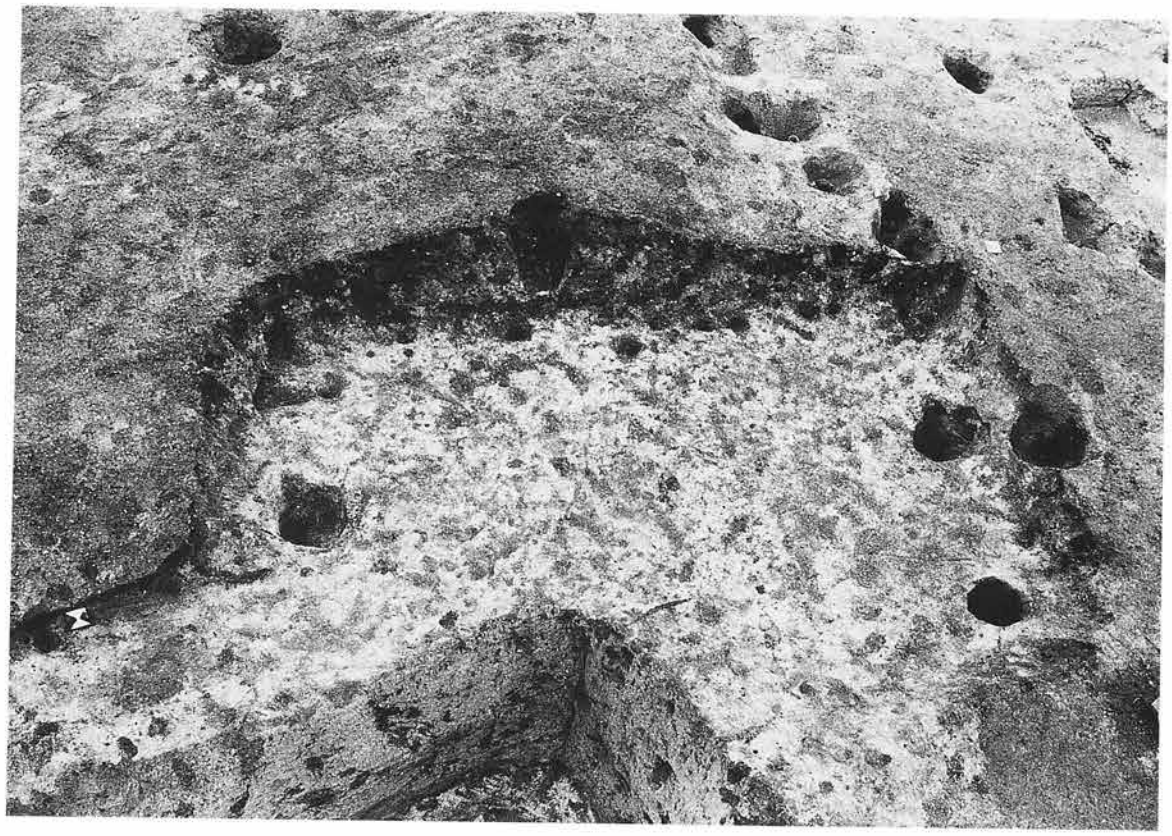
RA124　全　景



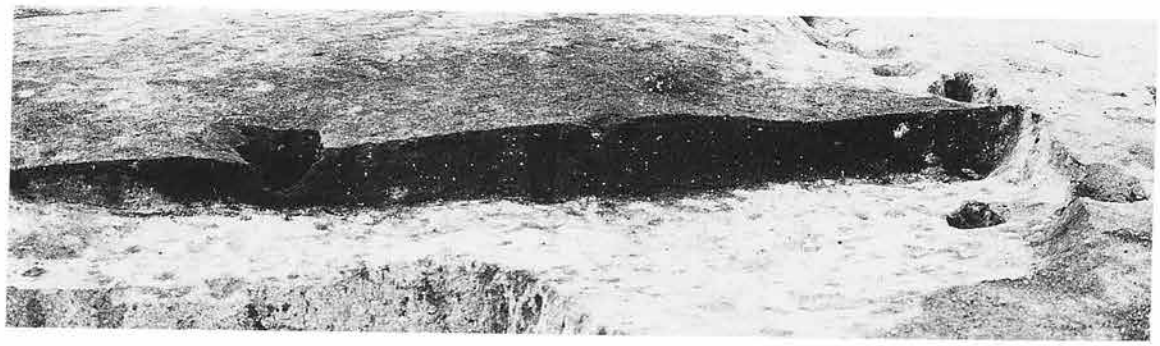
RA124埋土断面

RA124炉断面

写真図版60　RA124住居跡



RA126　全　景



RA126埋土断面

写真図版61　RA126住居跡

RA127・128全景（上がRA128）

RA129　全　景

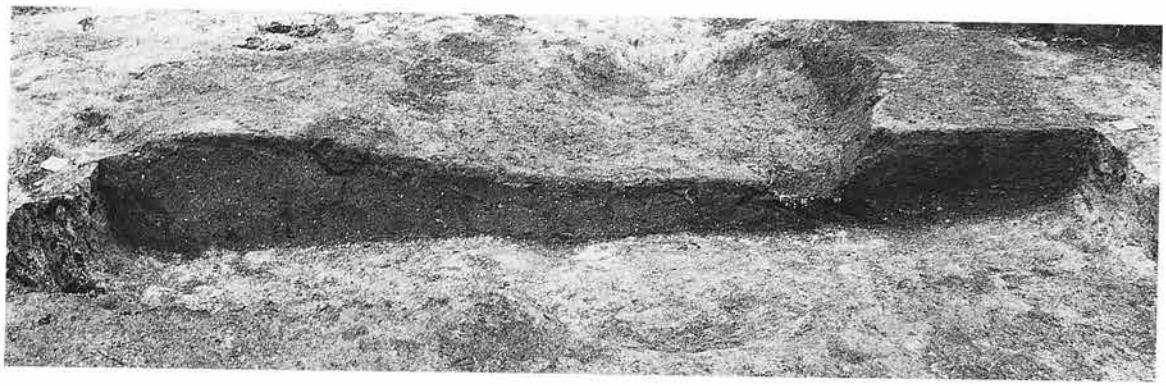
写真図版62　RA127・128・129住居跡

RA130　全　景

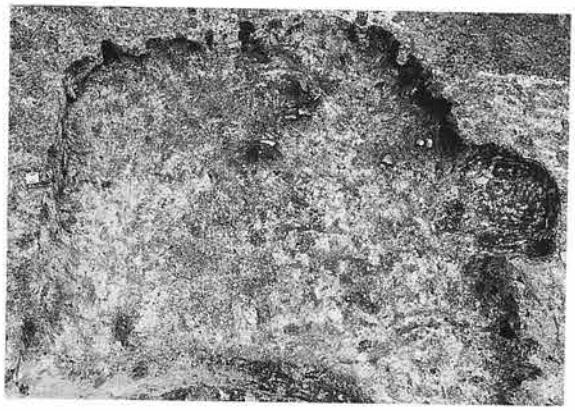
RA131　全　景

写真図版63　RA130・131住居跡

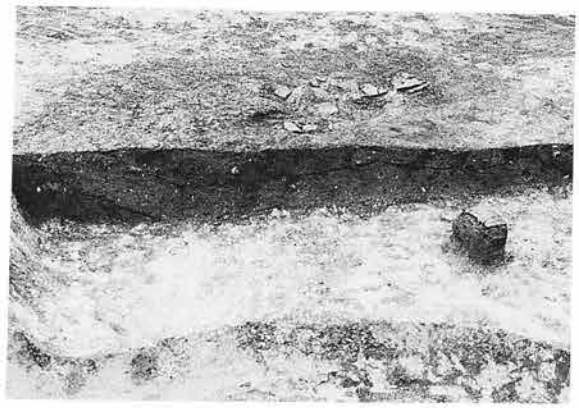
RE04　全　景



RE04埋土断面



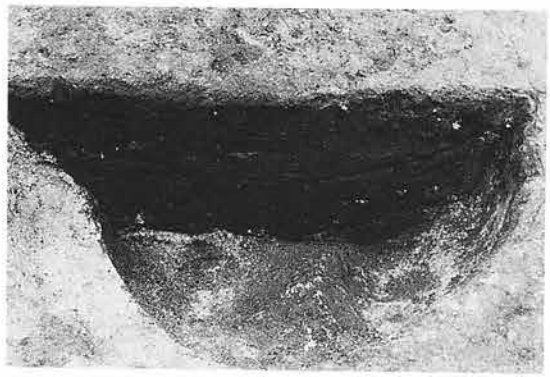
RD31全景



RD31埋土断面

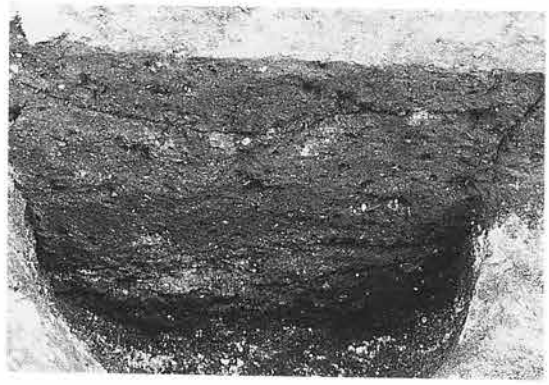
写真図版64　RE04竪穴状遺構、RD31土坑

RD33全景



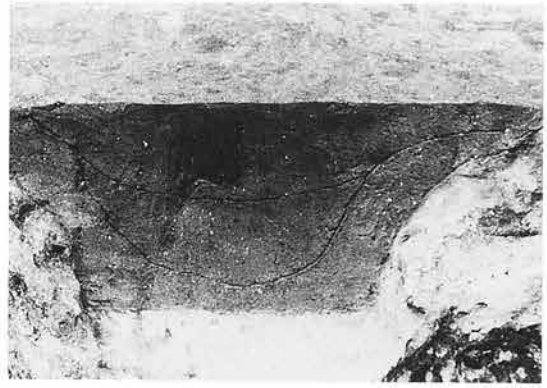
RD33埋土断面

RD34・45全景（右がRD45）



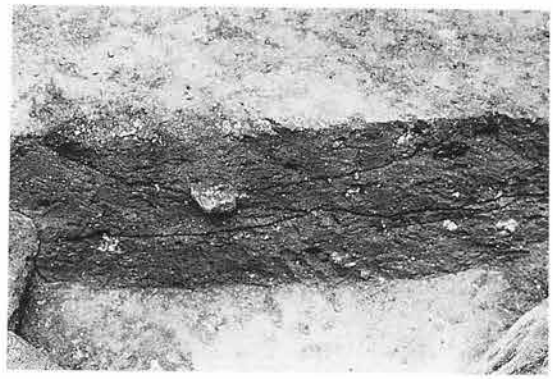
RD34埋土断面

RD36全景



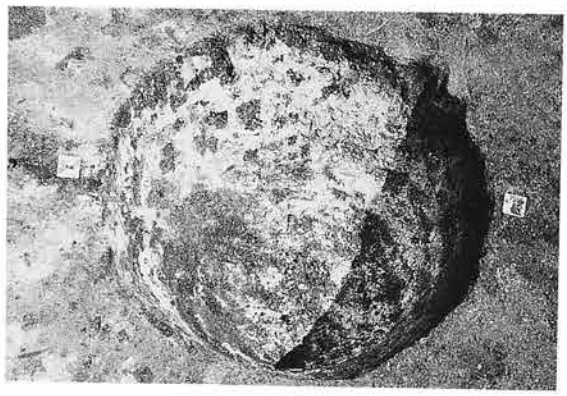
RD36埋土断面

RD37全景

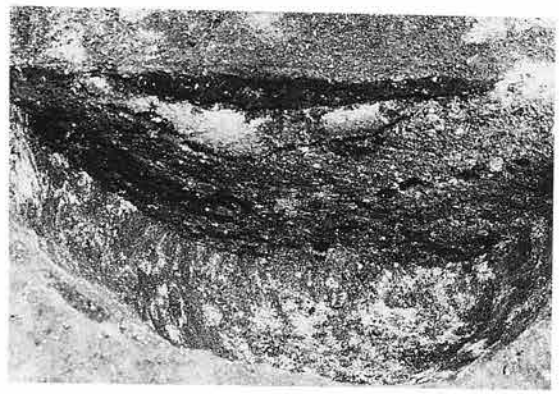


RD37埋土断面

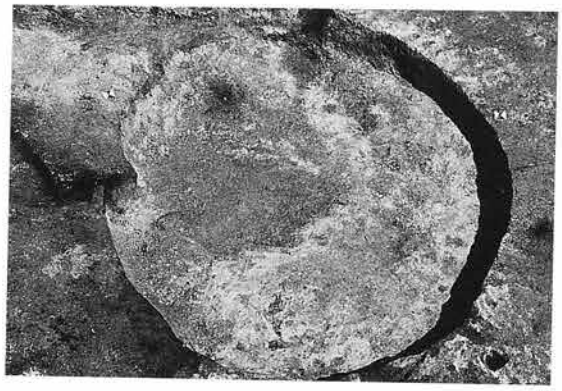
写真図版65　RD33・34・36・37・45土坑



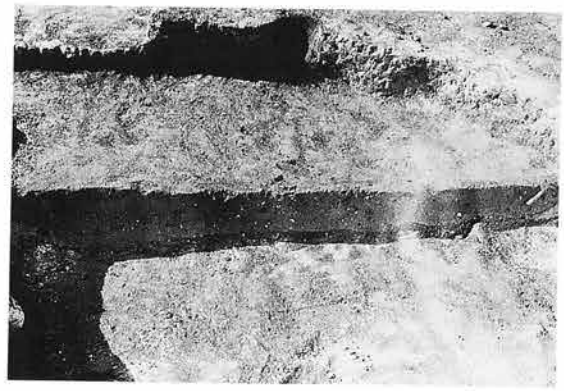
RD39全景



RD39埋土断面

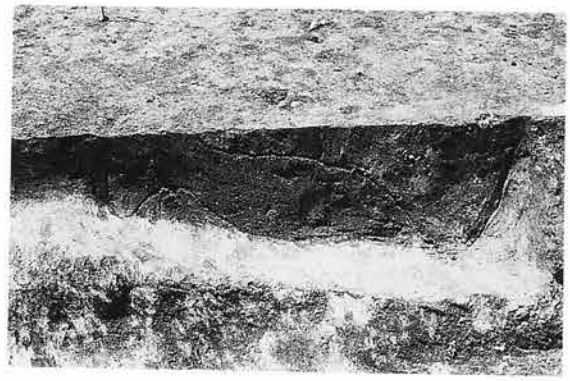


RD41全景

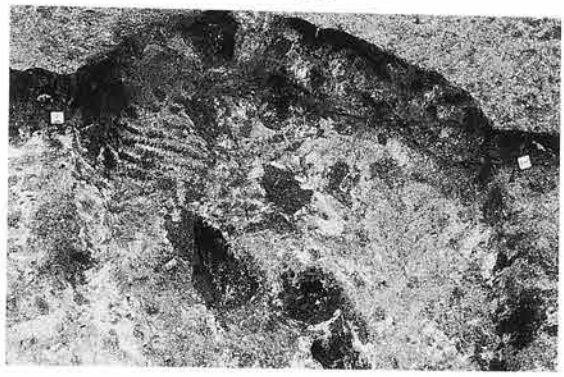


RD41埋土断面

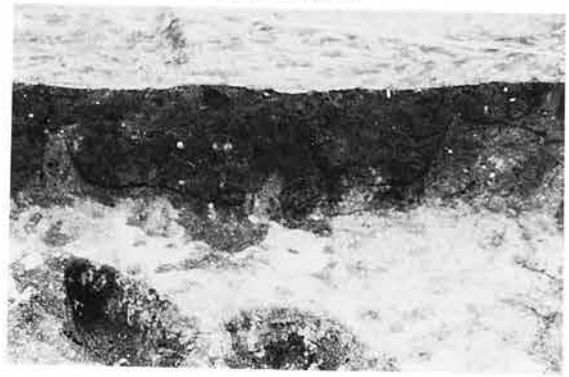
RD44全景



RD44埋土断面



RD49全景



RD49埋土断面

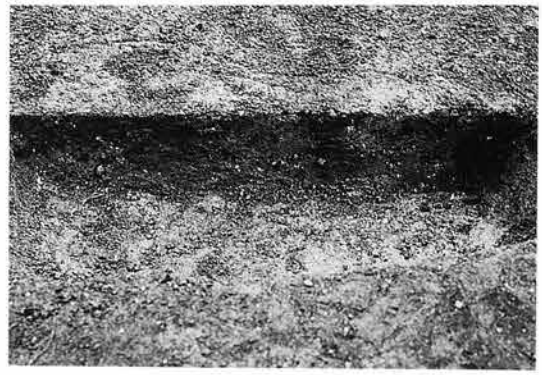
写真図版66　RD39・41・44・49土坑

RD51全景

RF08全景

RF08断面

RF09全景



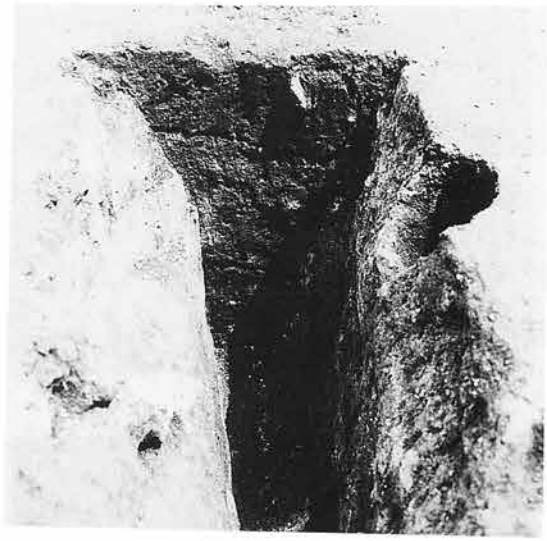
RF09断面

RF10全景

RF10断面

写真図版67　RD51土坑、RF08・09・10焼土遺構

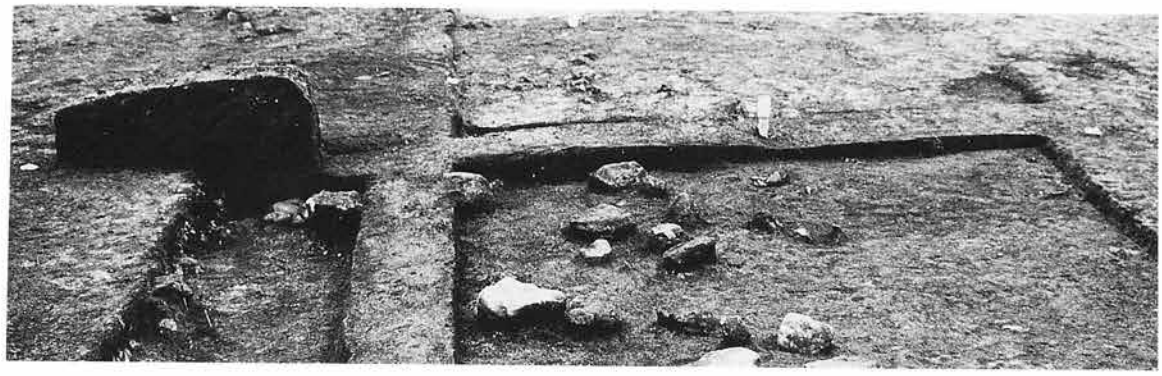
RZ19全景



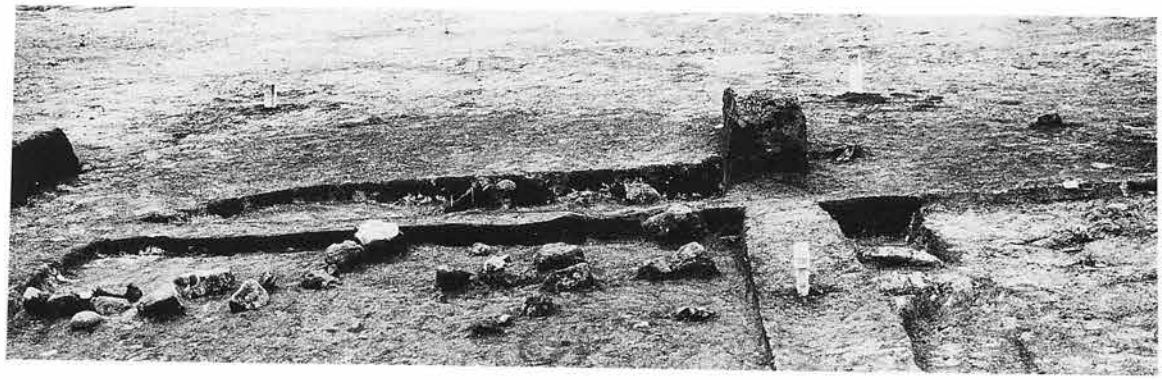
RZ19埋土断面

RA513　全　景

写真図版68　RZ19落とし穴、RA513住居跡



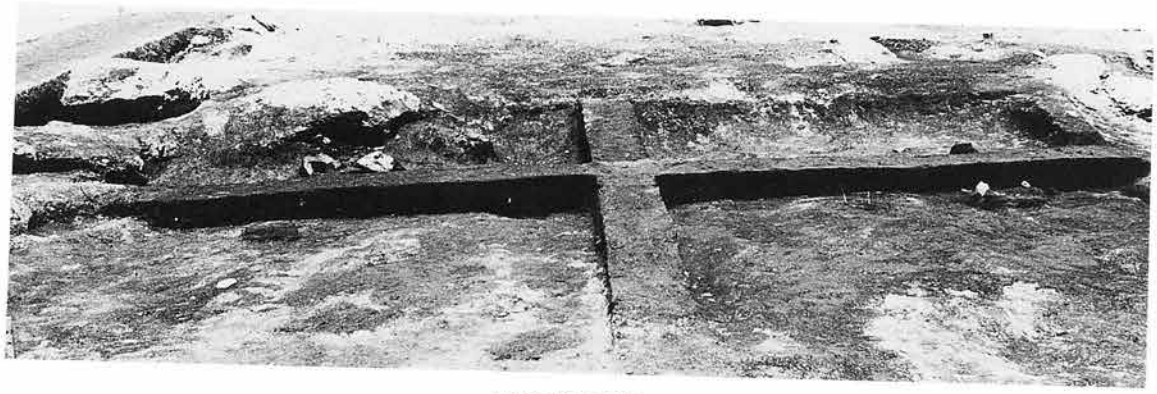
RA513埋土断面



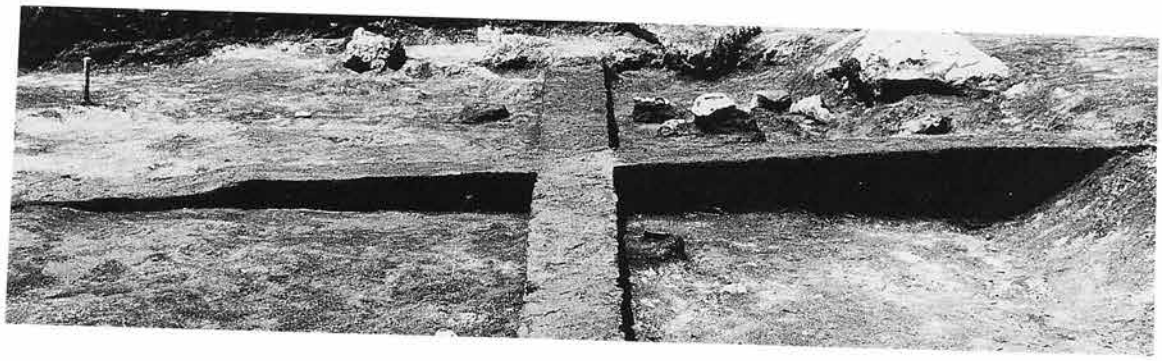
RA513埋土断面

RA514　全　景

写真図版69　RA513・514住居跡



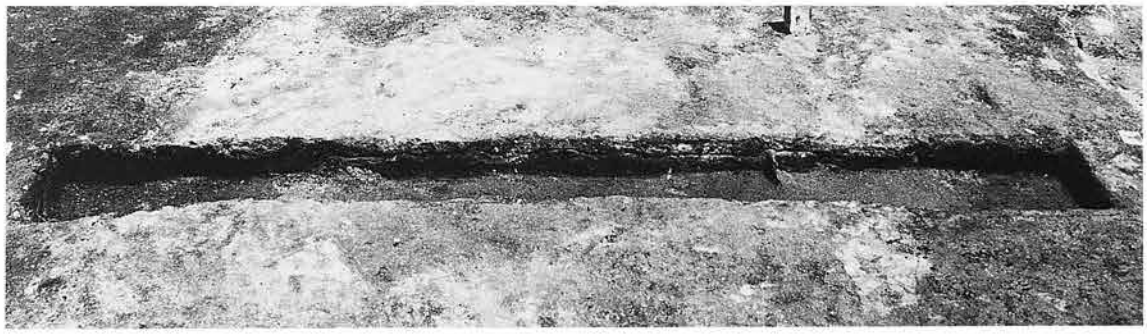
RA514埋土断面



RA514埋土断面

RA515　全　景

写真図版70　RA514・515住居跡



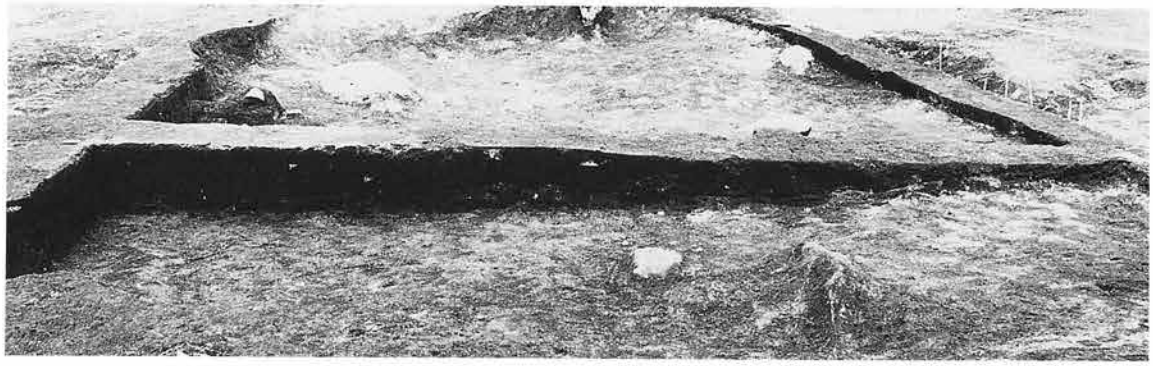
RA515埋土断面

RA516　全　景

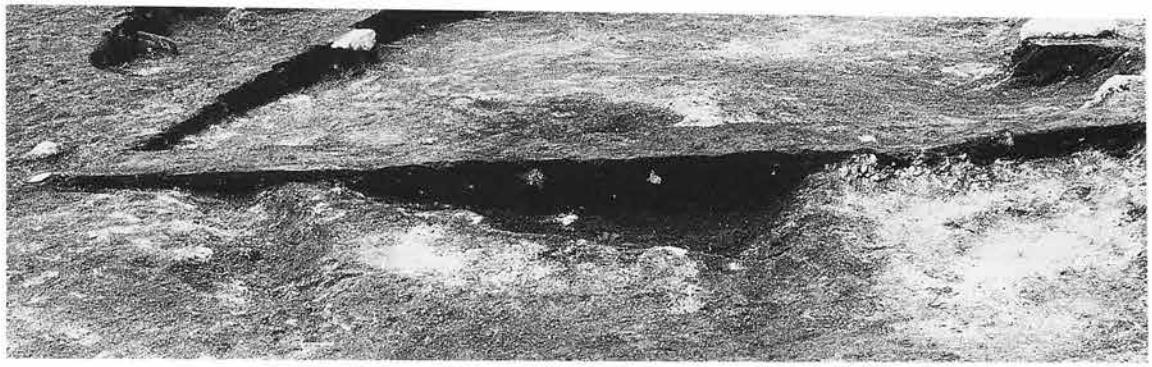
RA516埋土断面

写真図版71　RA515・516住居跡

RA517　全　景



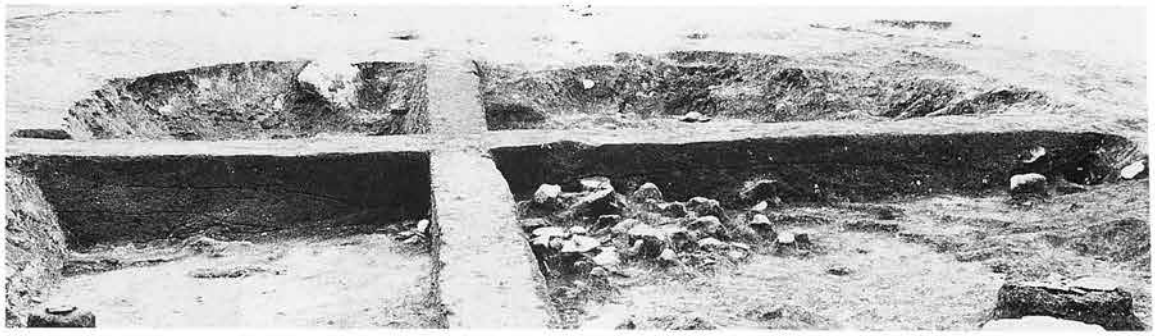
RA517埋土断面



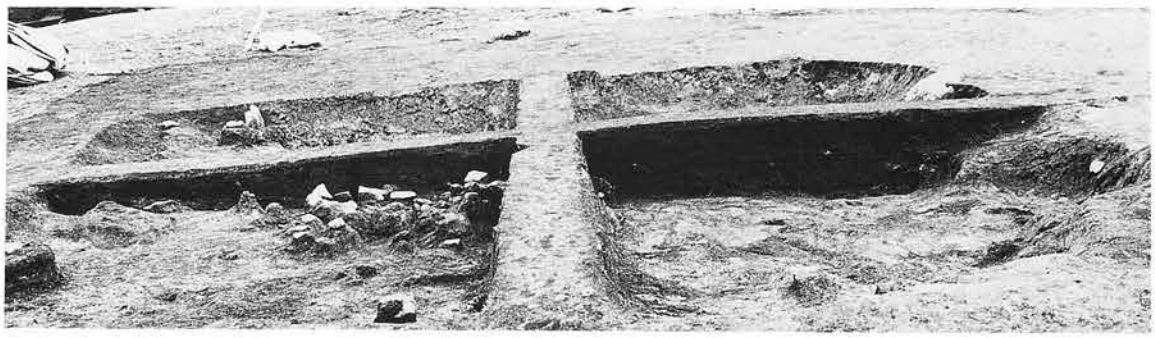
RA517埋土断面

写真図版72　RA517住居跡

RA518炭化材出土状況



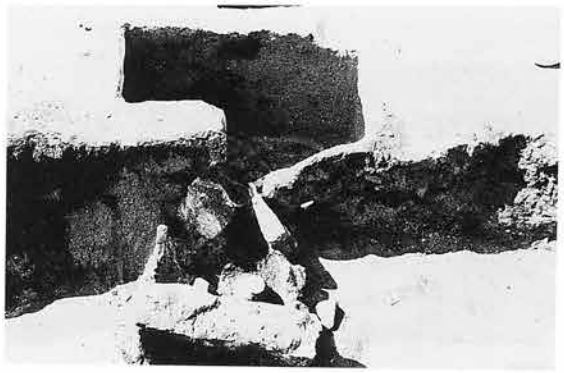
RA518埋土断面



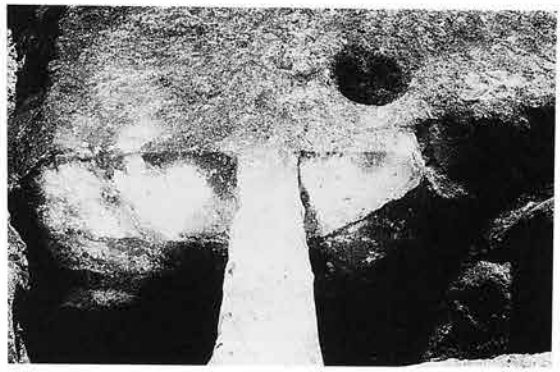
RA518埋土断面

写真図版73　RA518住居跡

RA518　全　景



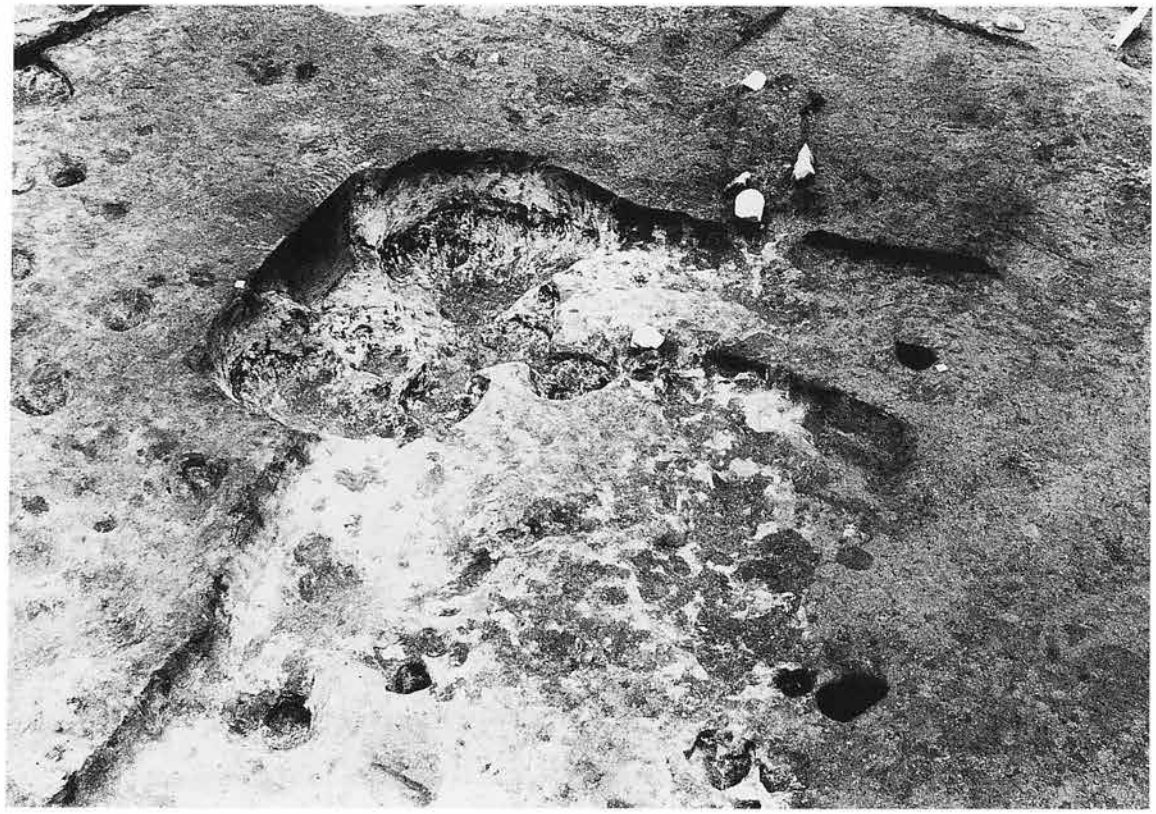
RA518カマド石組



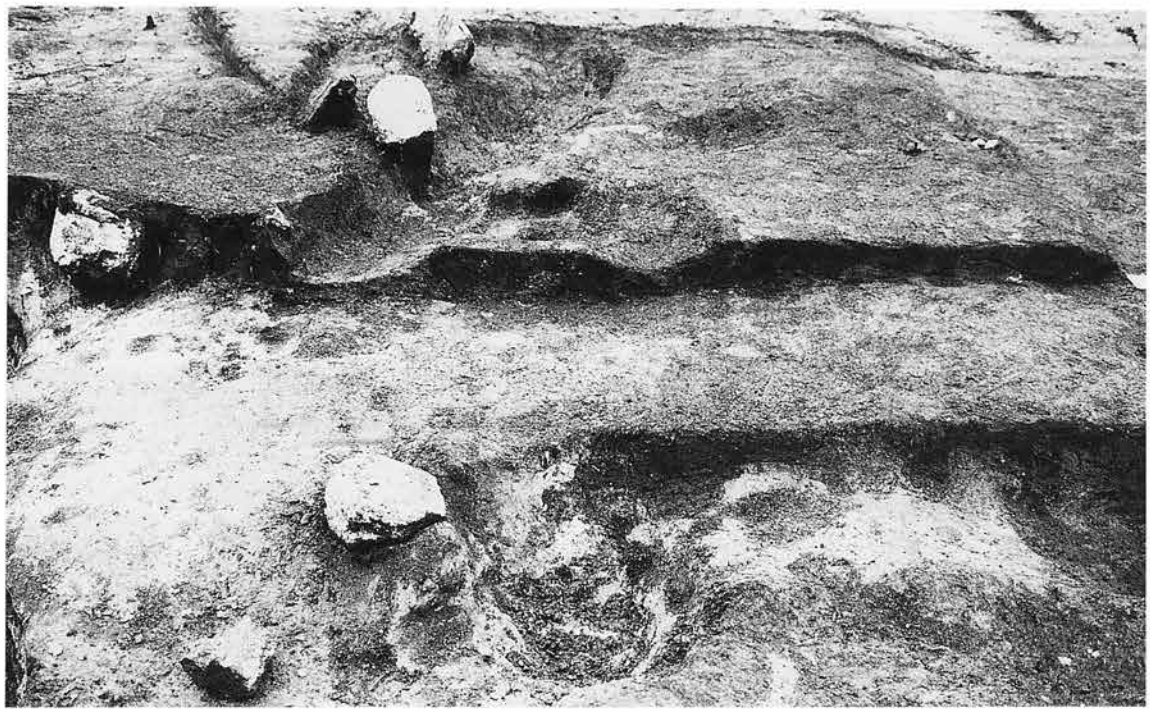
RA518煙道断面

RA518遺物出土状況

写真図版74　RA518住居跡



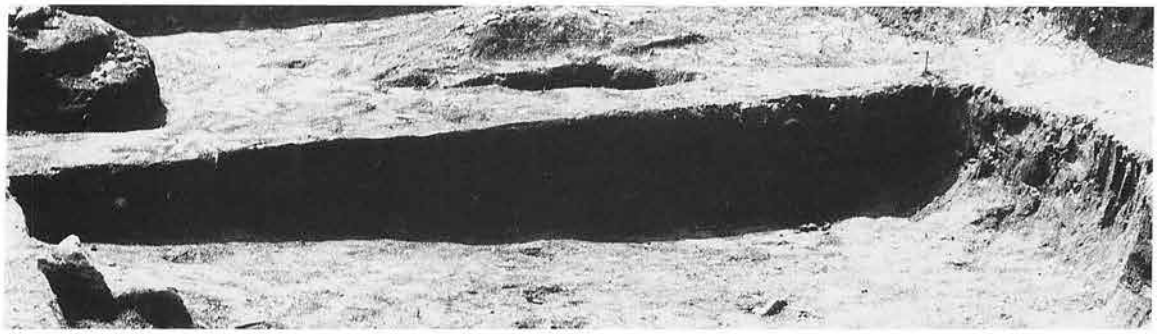
RA519　全　景



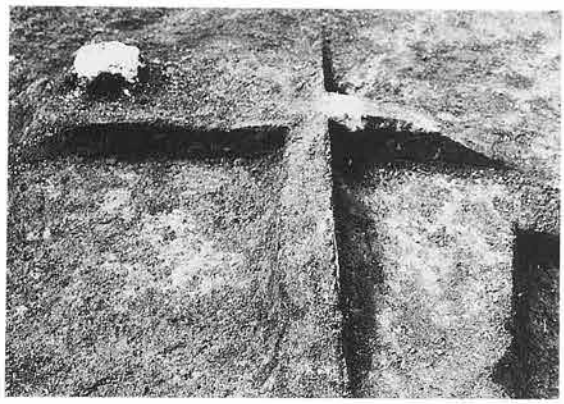
RA519埋土断面

写真図版75　RA519住居跡

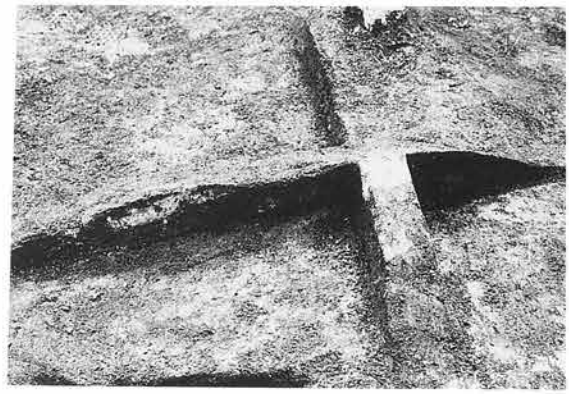
RA520　全　景



RA520埋土断面



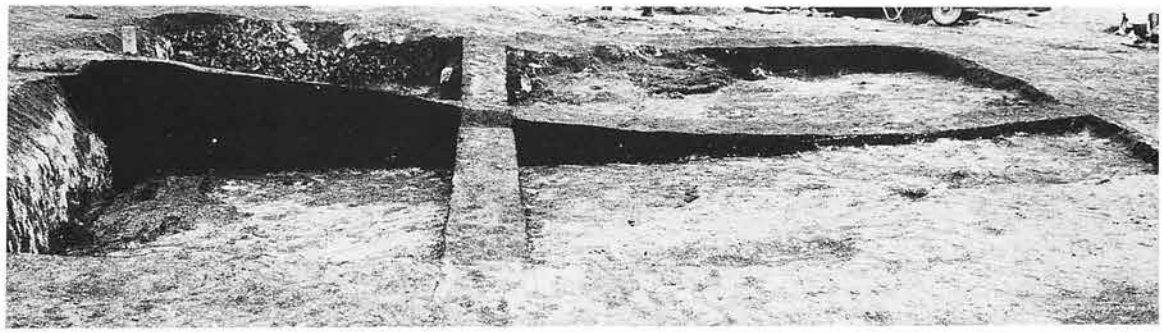
RA520カマド断面



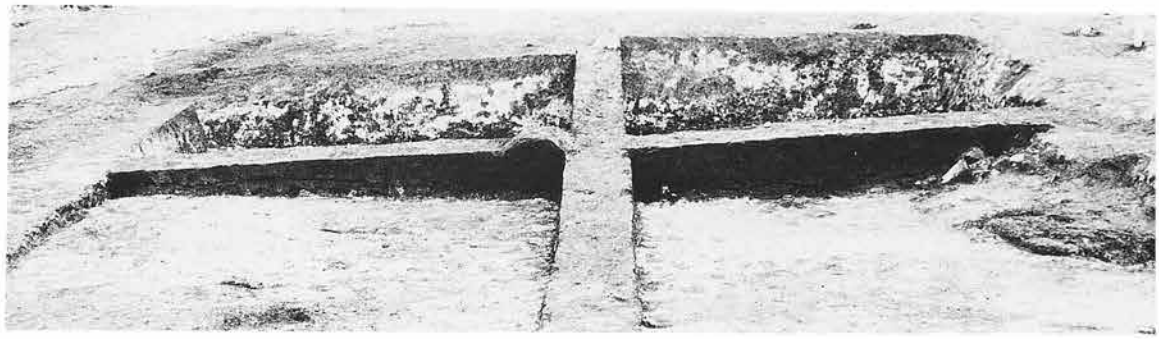
RA520カマド断面

写真図版76　RA520住居跡

RA521　全　景

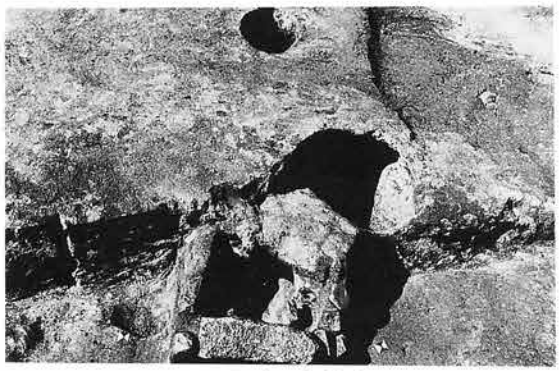


RA521埋土断面



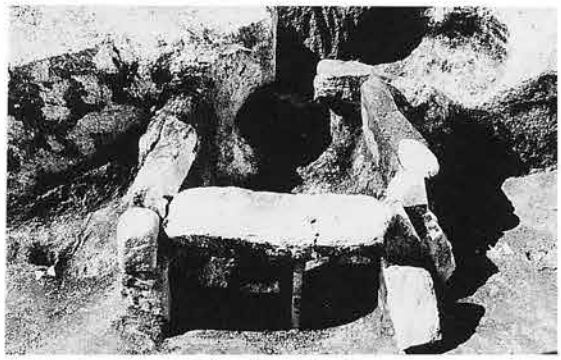
RA521埋土断面

写真図版77　RA521住居跡



RA521カマド全景

RA521カマド断面



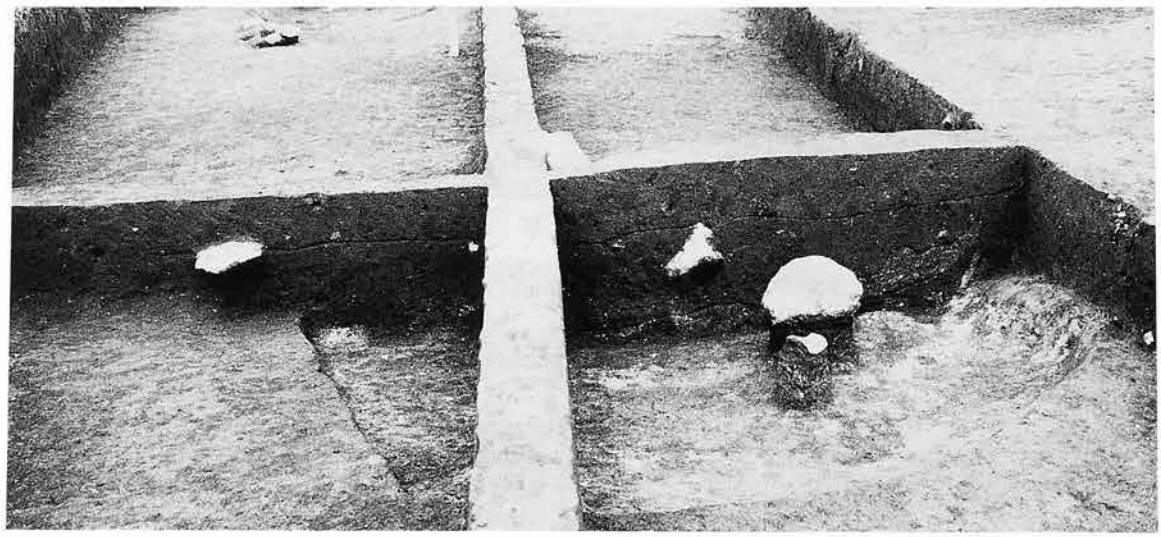
RA521カマド石組

RA521遺物出土状況

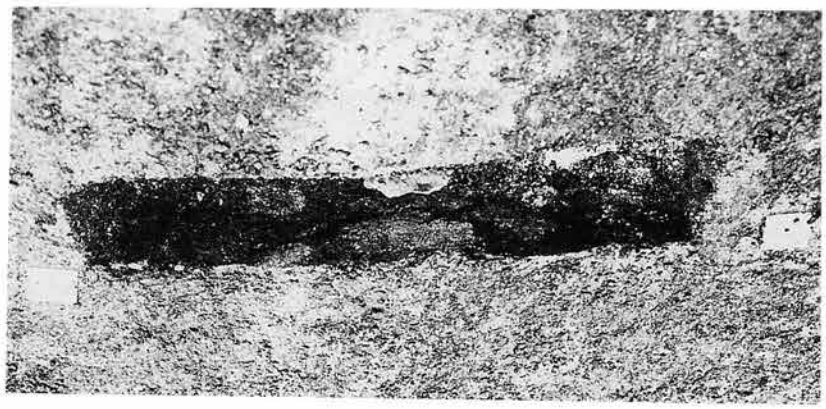
RA522　全　景

写真図版78　RA521・522住居跡

RA522埋土断面



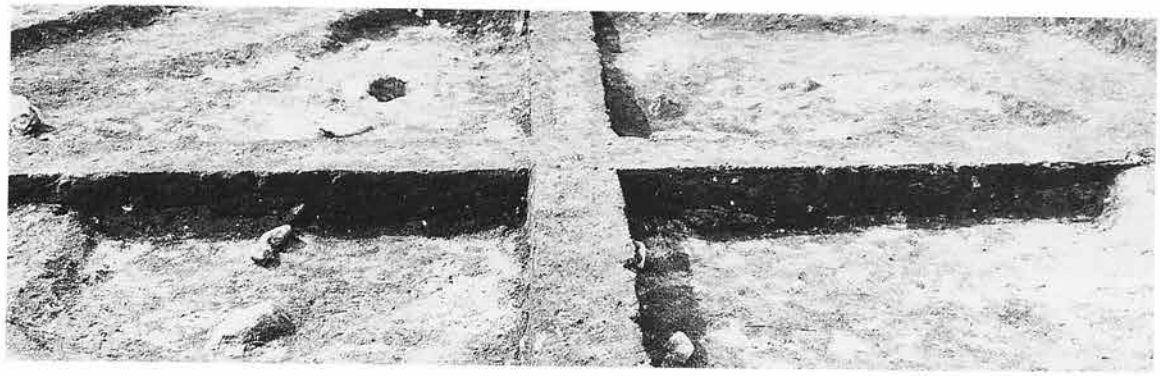
RA522埋土断面



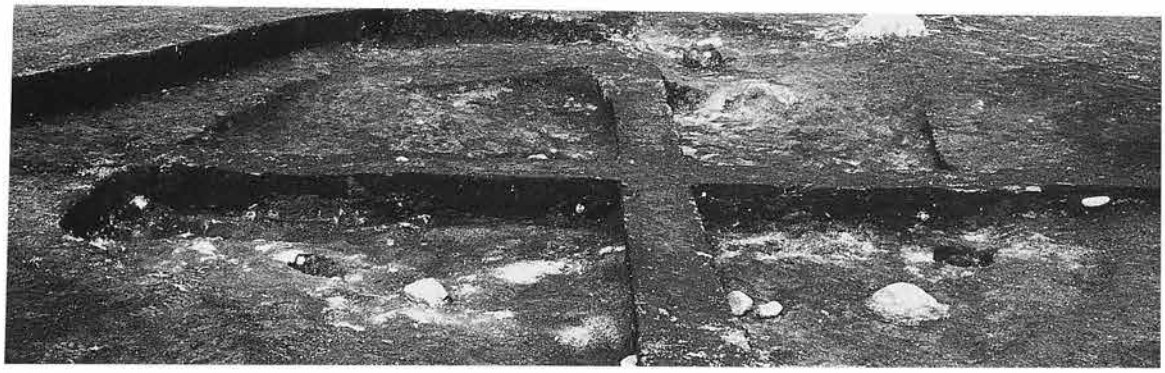
RA522炉断面

写真図版79　RA522住居跡

RE05　全　景



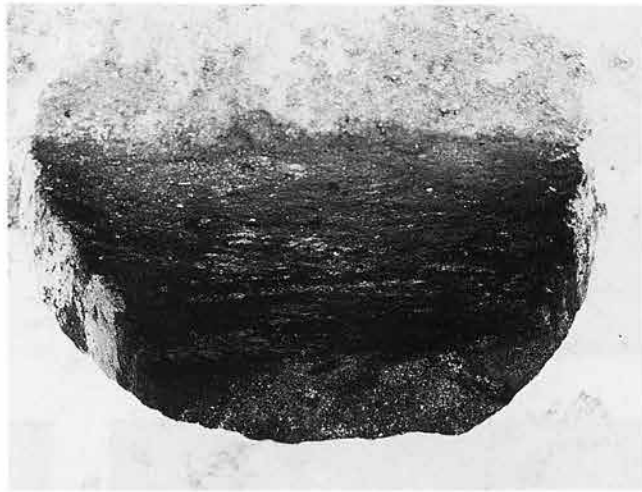
RE05埋土断面



RE05埋土断面

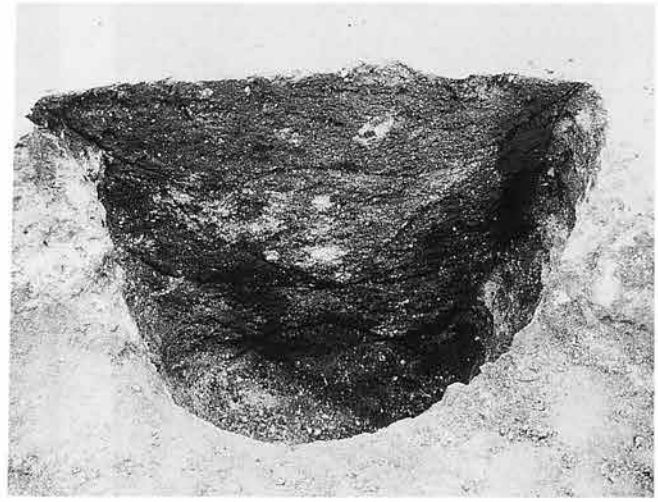
写真図版80　RE05竪穴状遺構

RD32全景



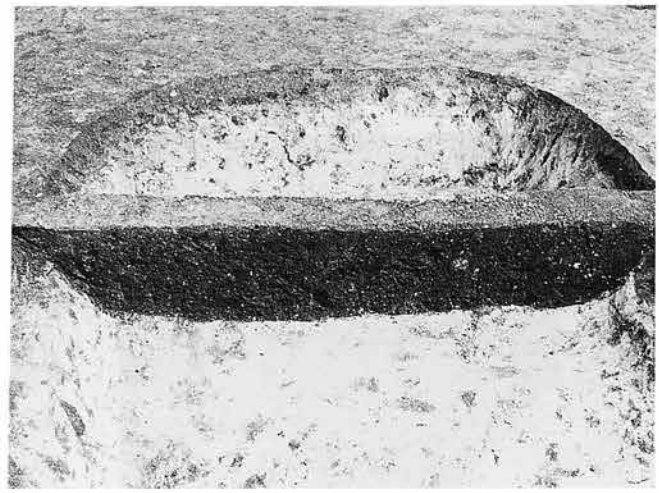
RD32埋土断面

RD40全景



RD40埋土断面

RD35全景

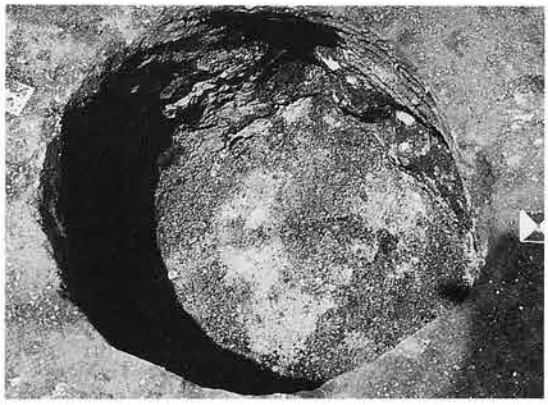


RD35埋土断面

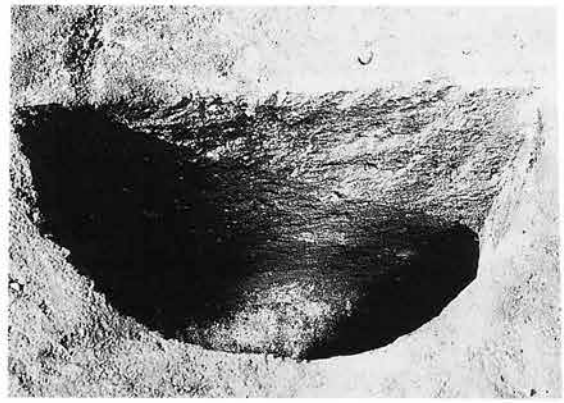
写真図版81　RD32・40・35土坑

RD38全景

RD38埋土断面



RD42全景



RD42埋土断面

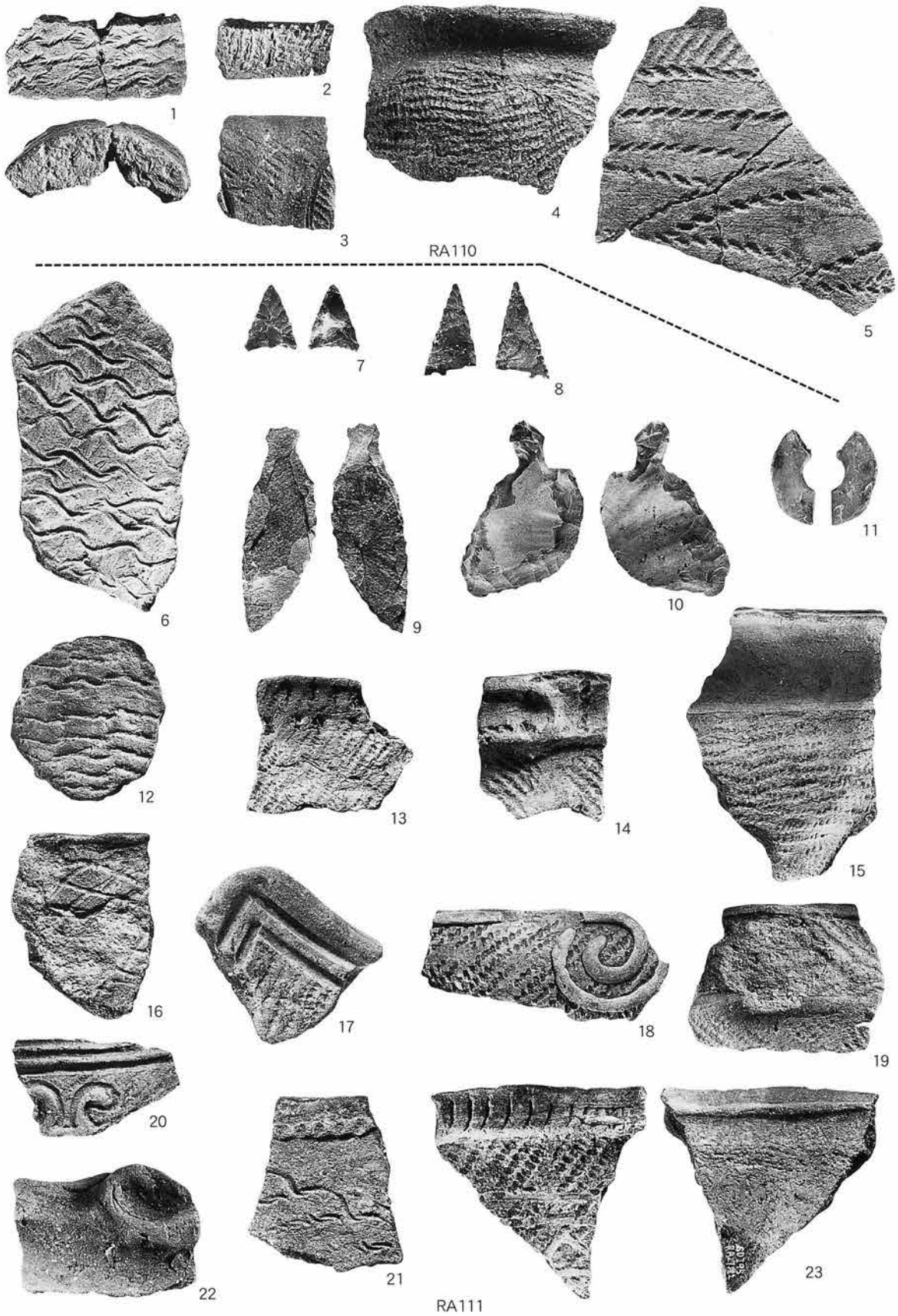
RD43全景

RD43埋土断面

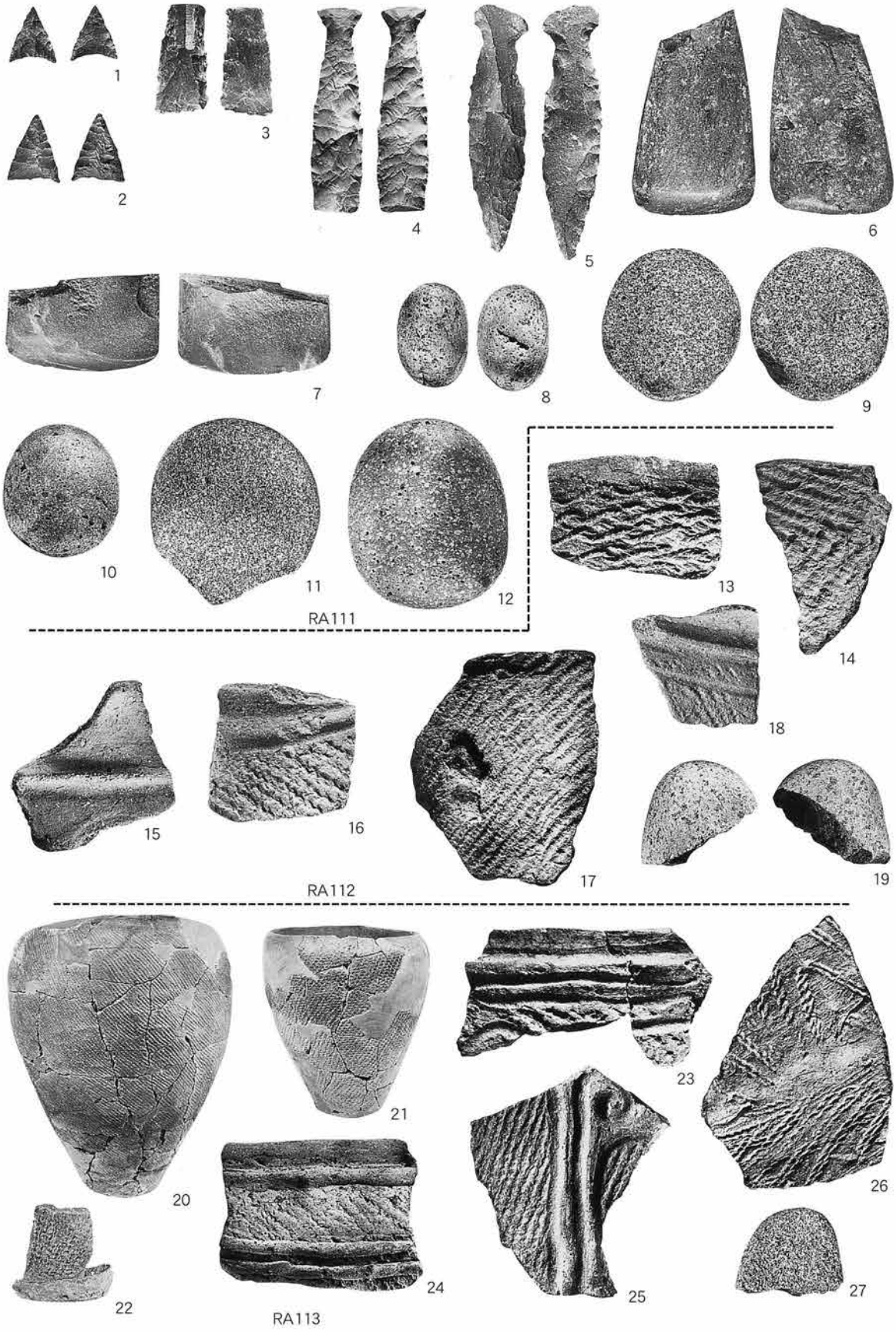
RD46全景

RD46埋土断面

写真図版82　RD38・42・43・46土坑

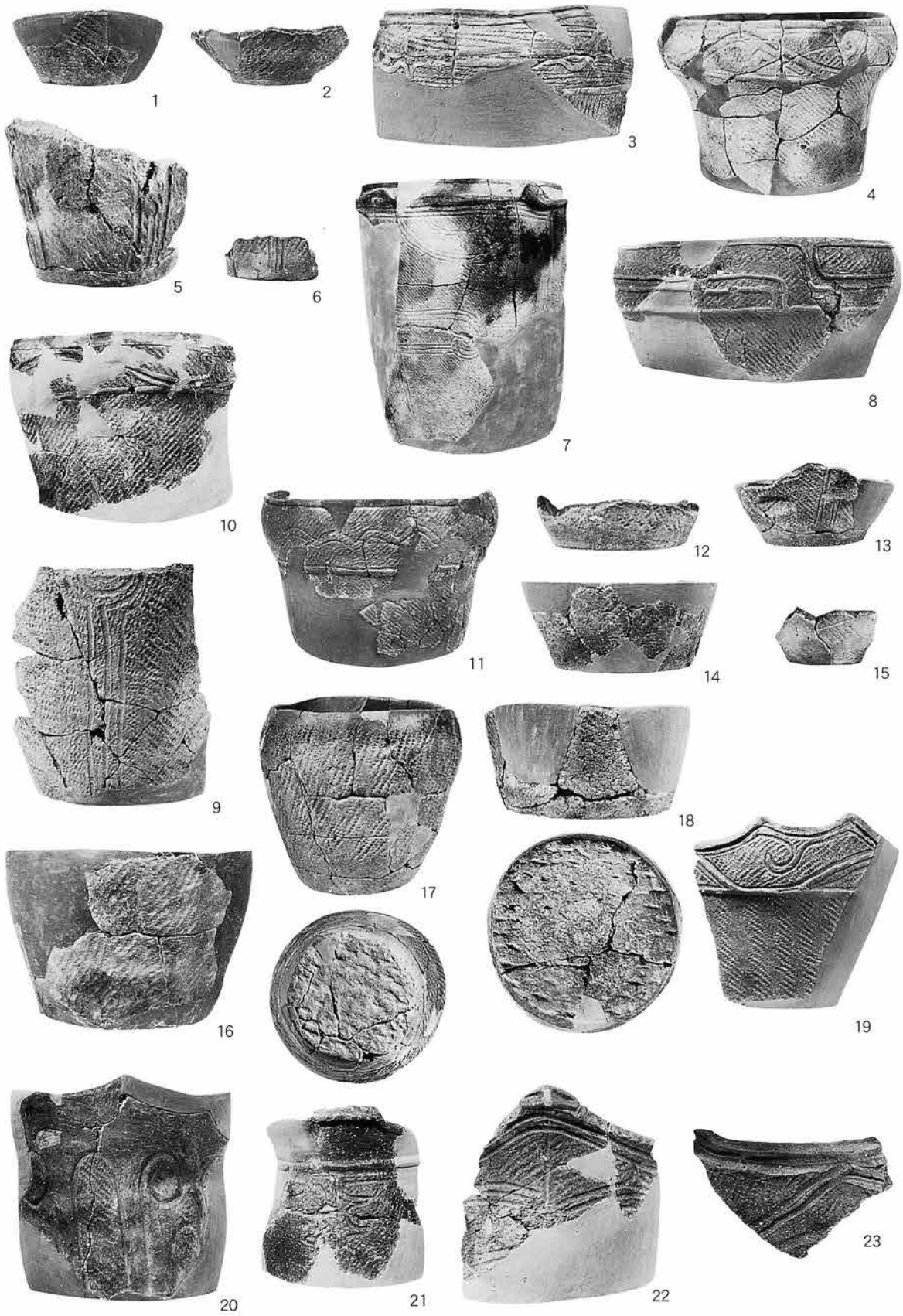


写真図版83　RA110・111住居跡出土遺物

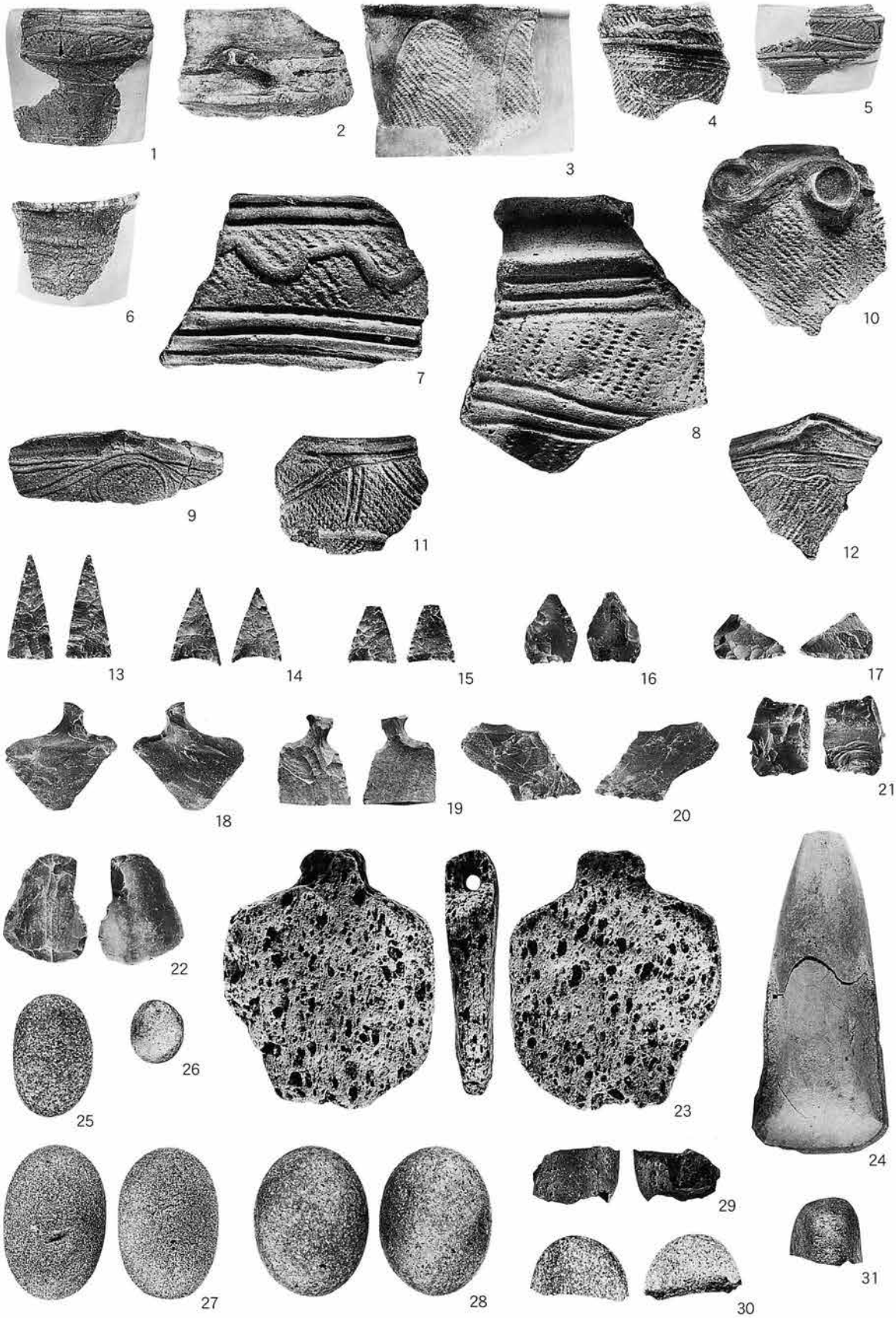


写真図版84　RA111・112・113住居跡出土遺物

写真図版85　RA114・115住居跡出土遺物

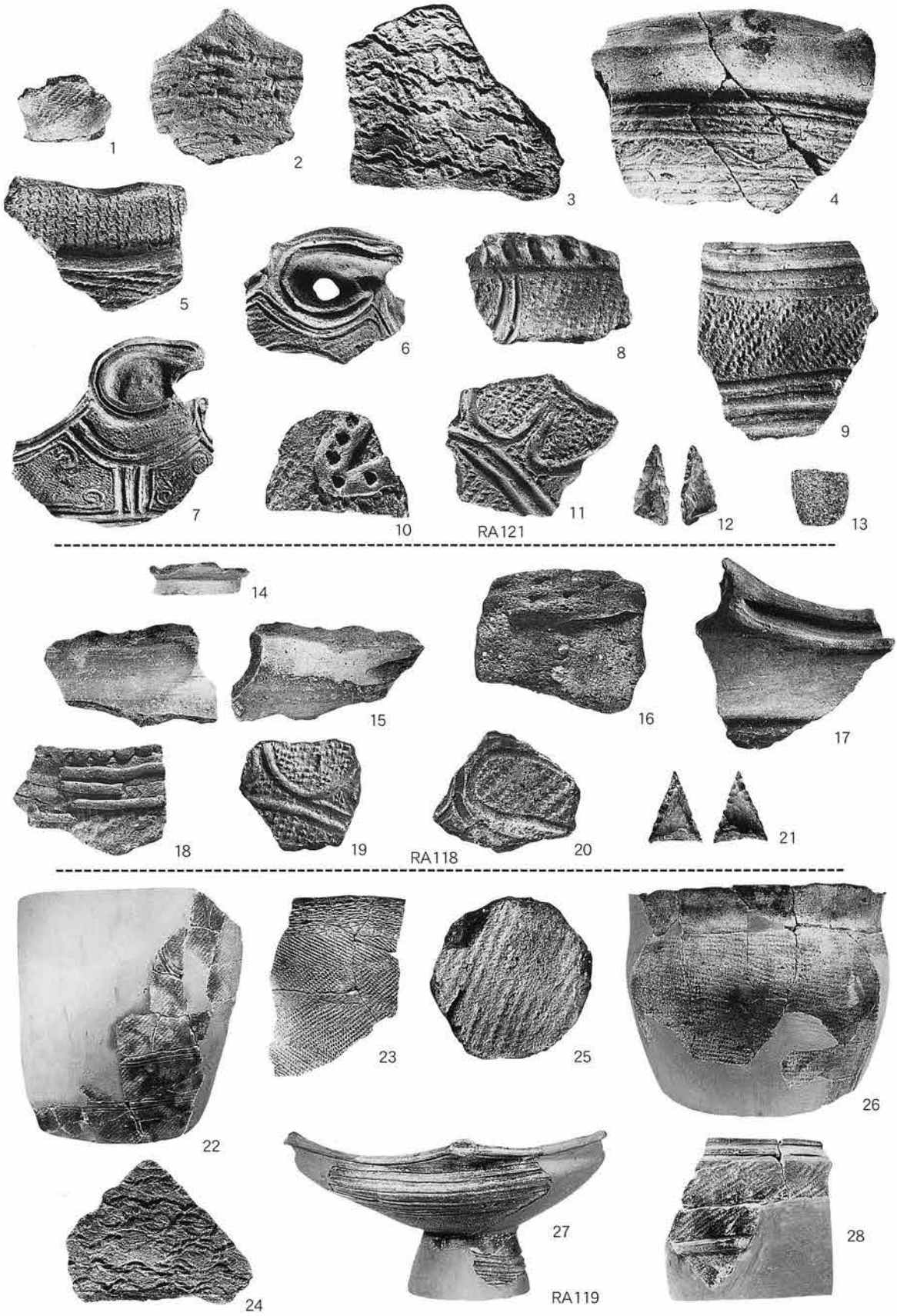


写真図版86　RA115住居跡出土遺物

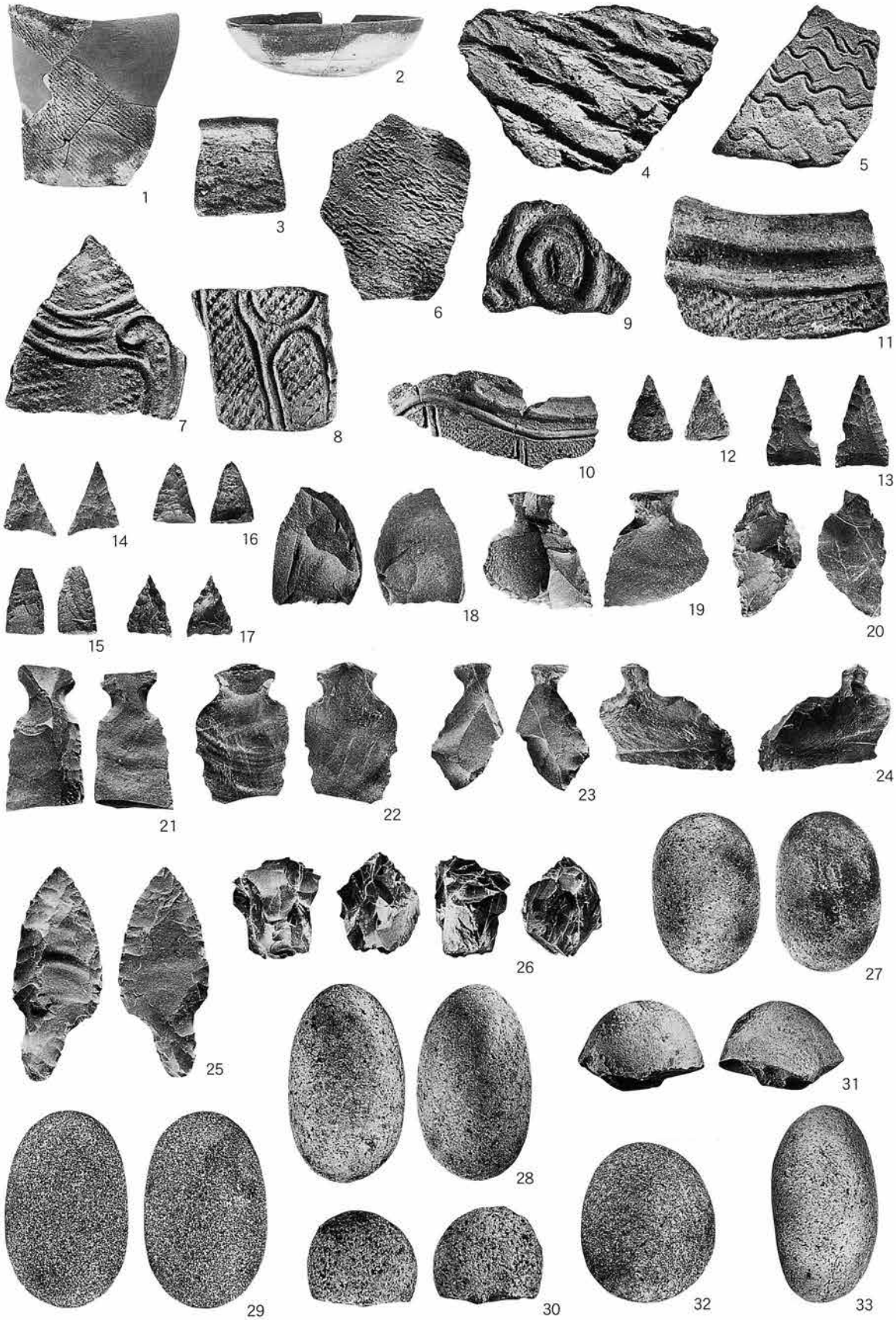


写真図版87　RA115住居跡出土遺物

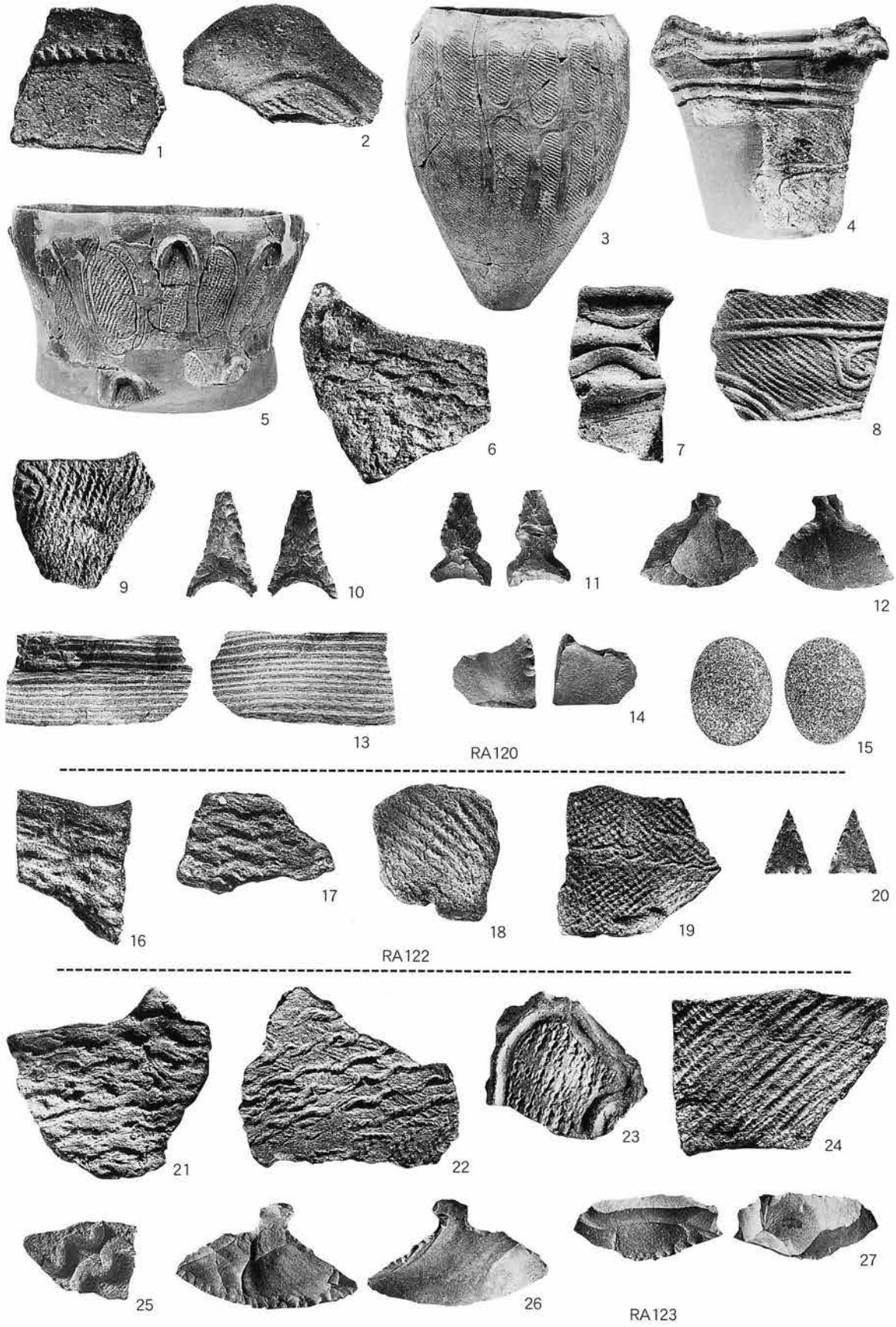
写真図版88　RA117住居跡出土遺物



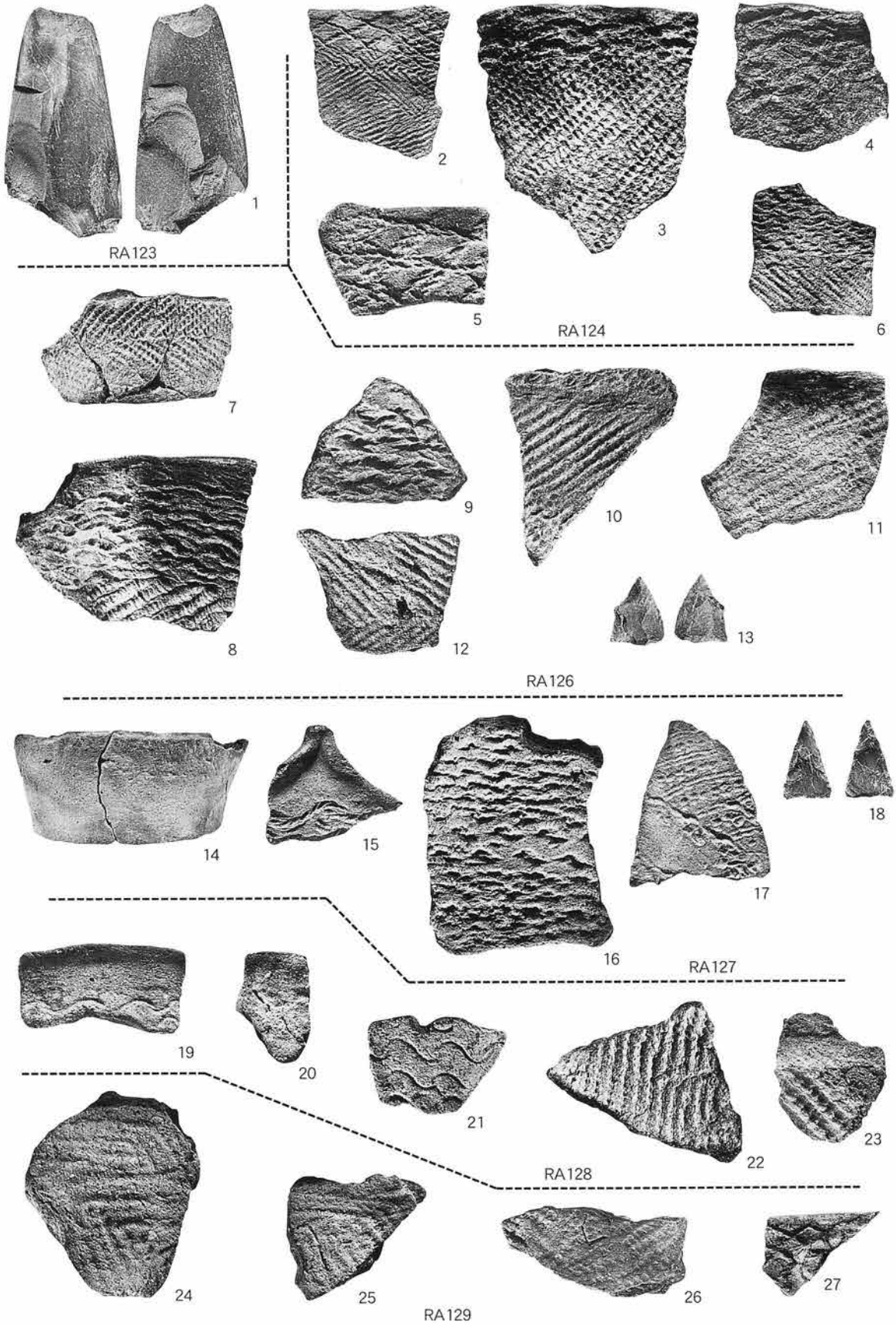
写真図版89　RA121・118・119住居跡出土遺物



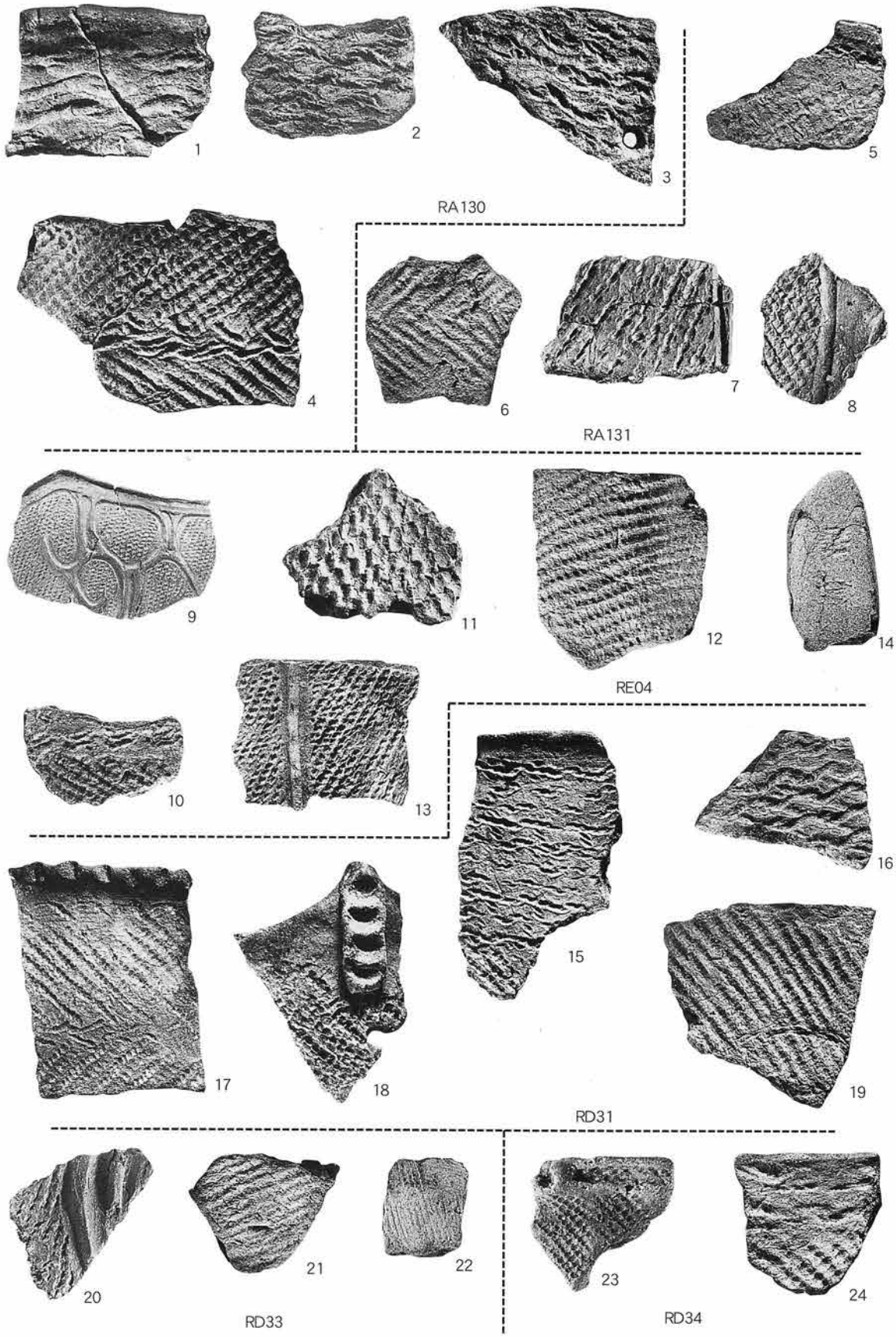
写真図版90　RA119住居跡出土遺物



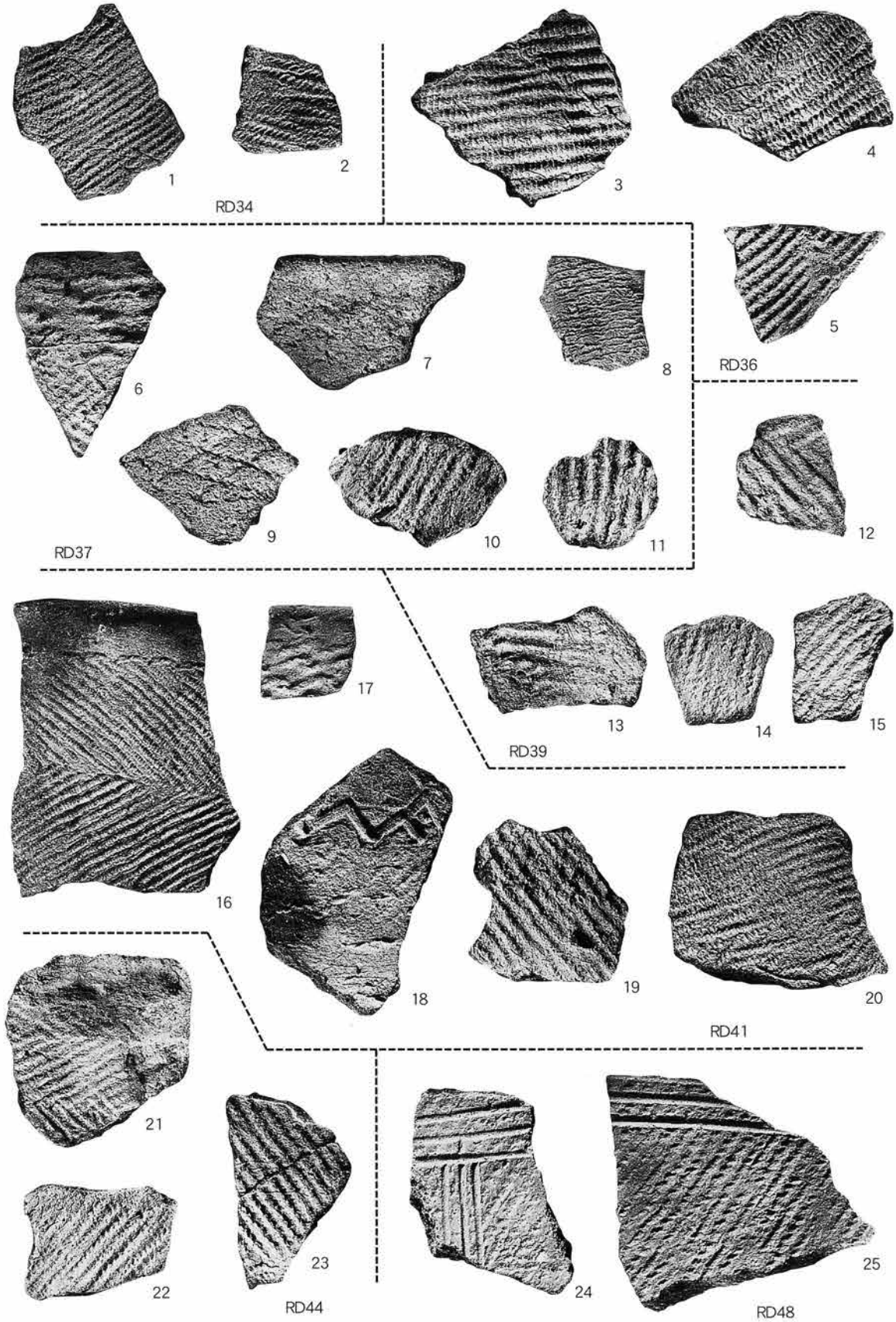
写真図版91　RA120・122・123住居跡出土遺物



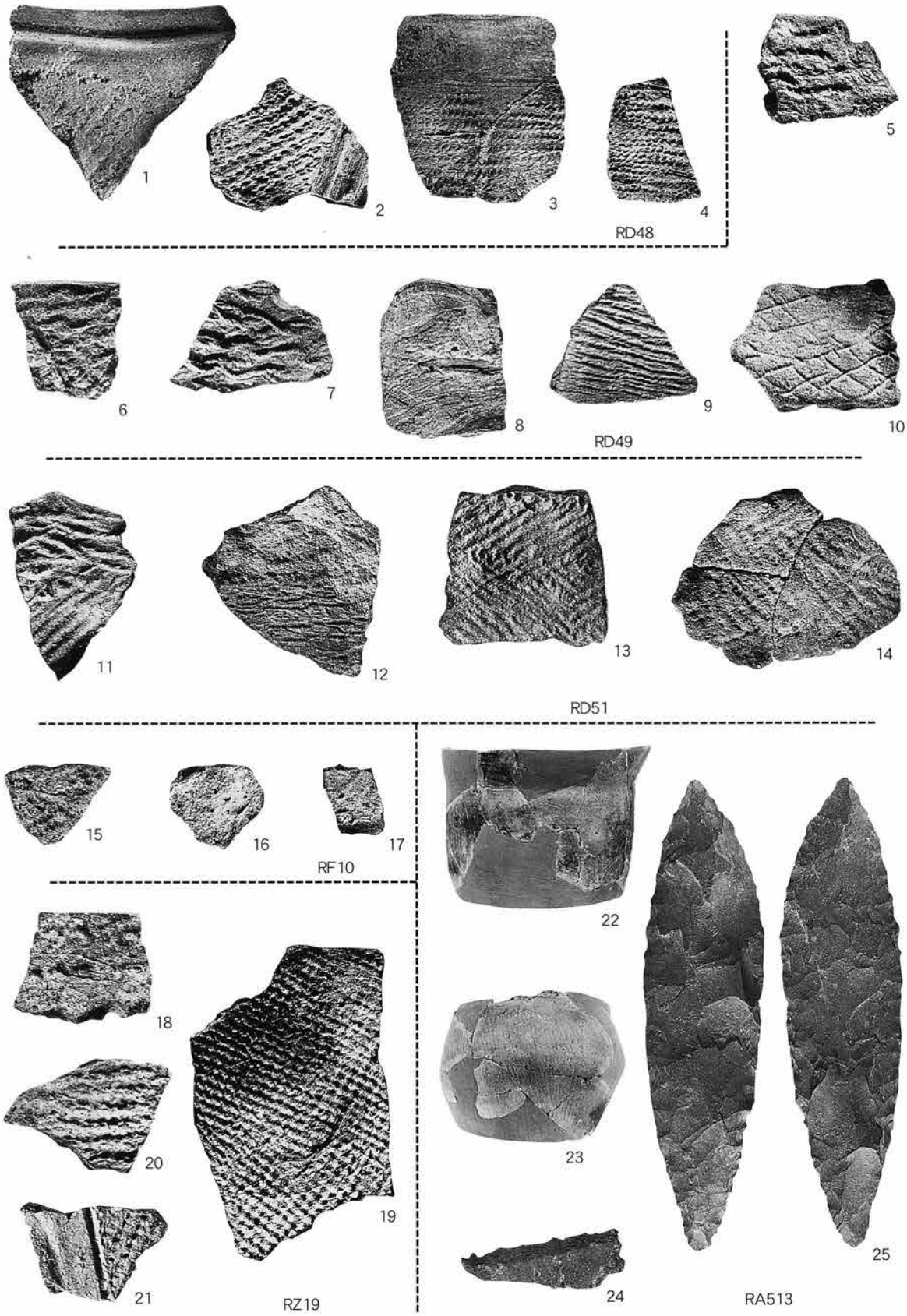
写真図版92　RA123・124・126～129住居跡出土遺物



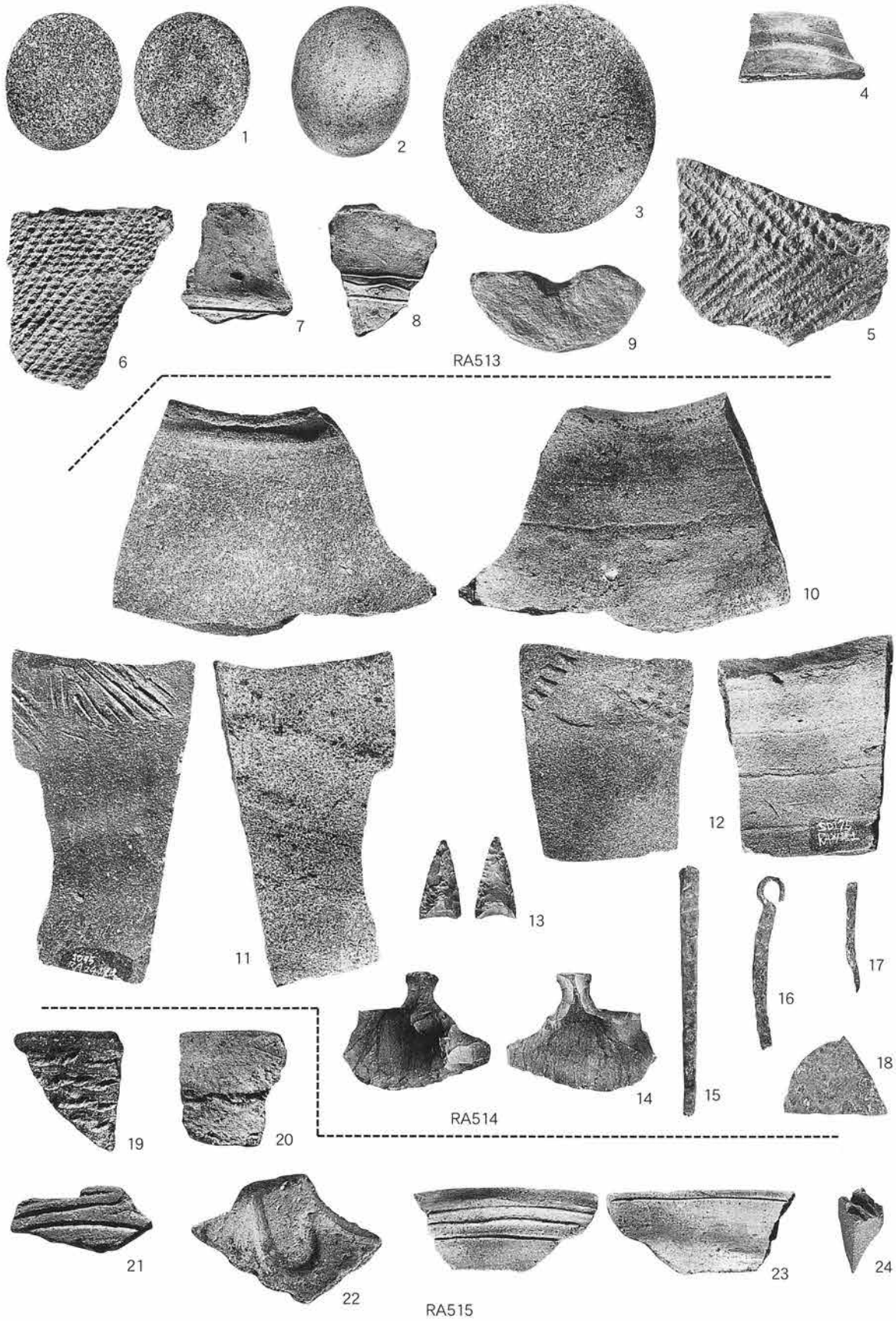
写真図版93　RA130・131住居跡、RE04竪穴状遺構、RD31・33・34土坑出土遺物



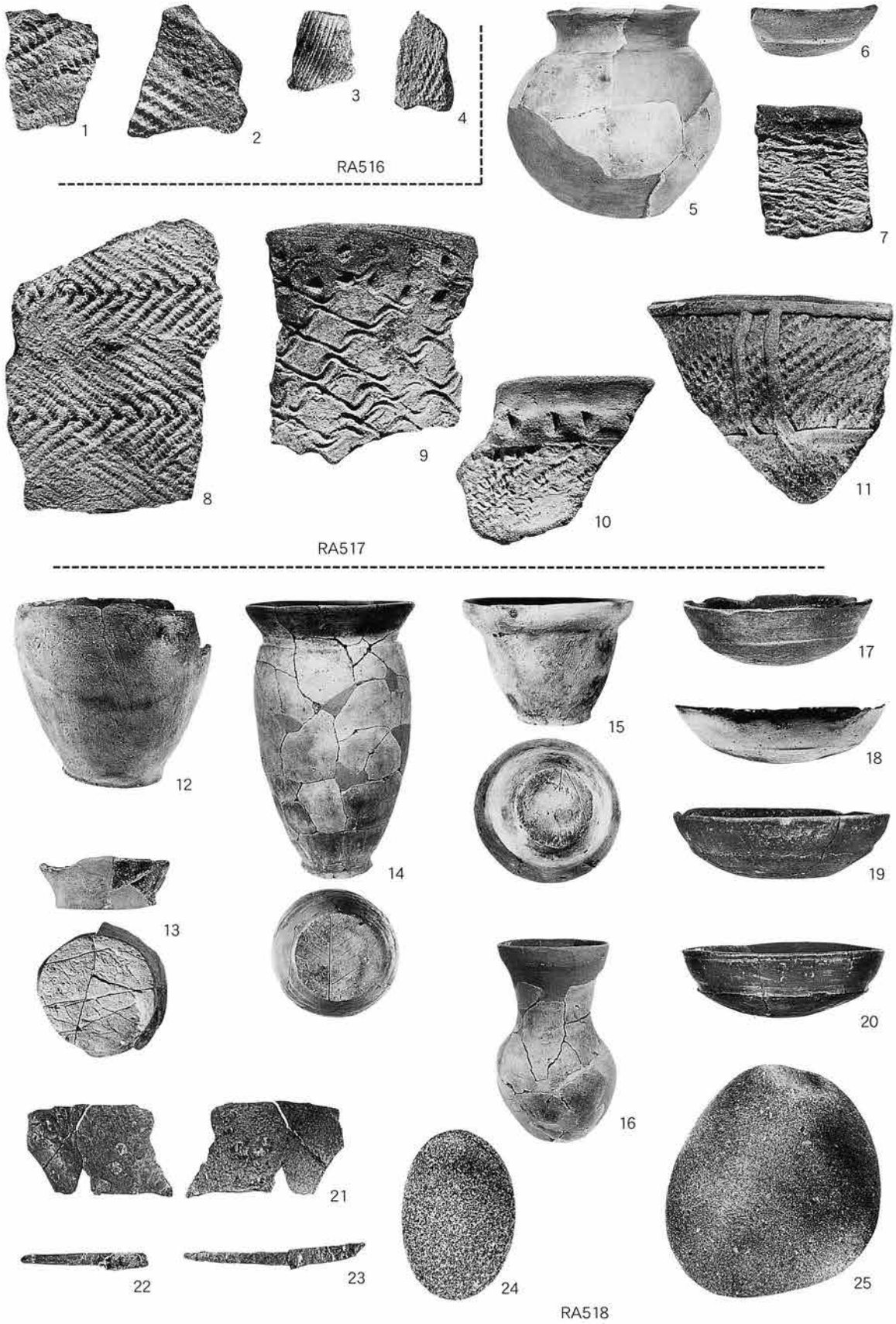
写真図版94　RD34・36・37・39・41・44・48土坑出土遺物



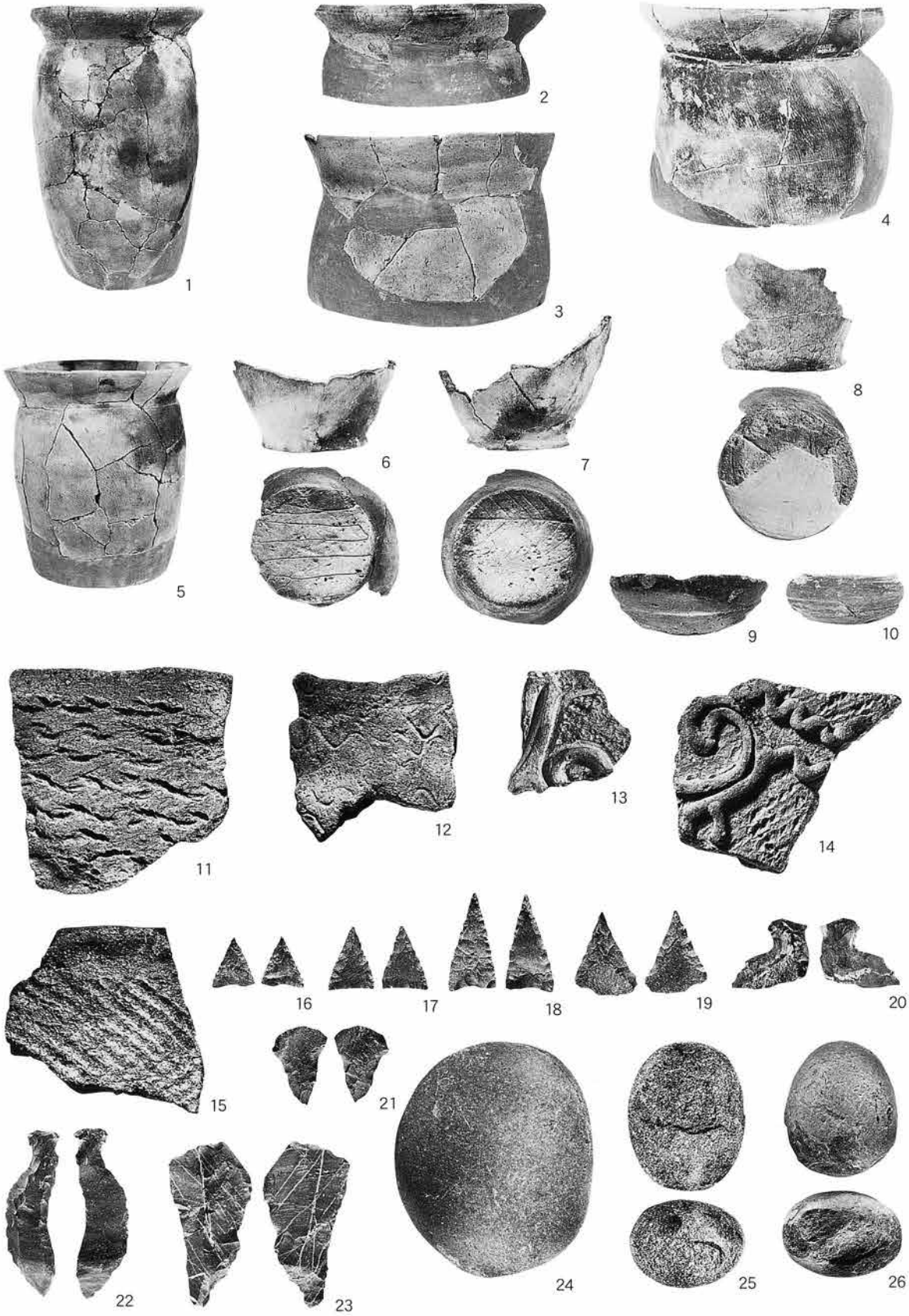
写真図版95　RD48・49・51土坑、RF10焼土遺構、RZ19落とし穴、RA513住居跡出土遺物



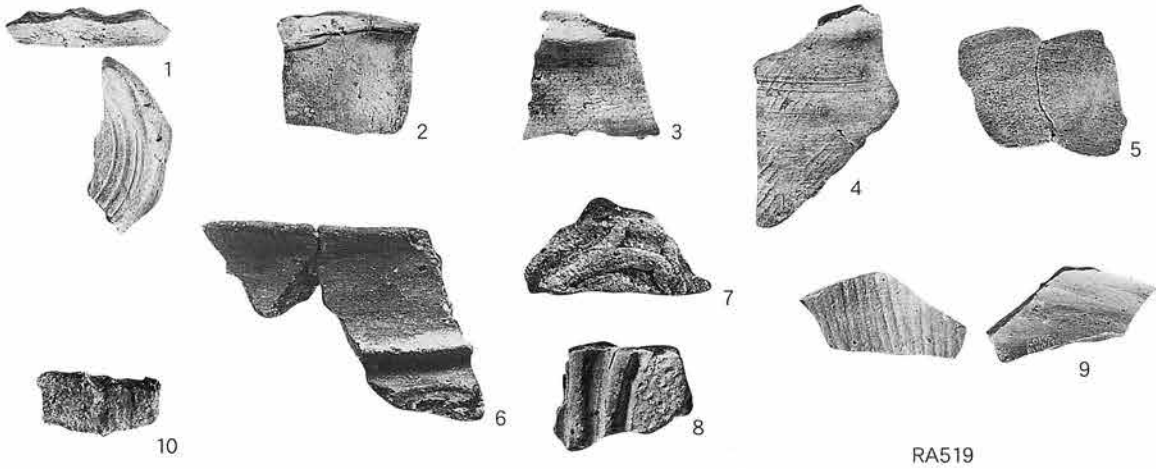
写真図版96　RA513～515住居跡出土遺物



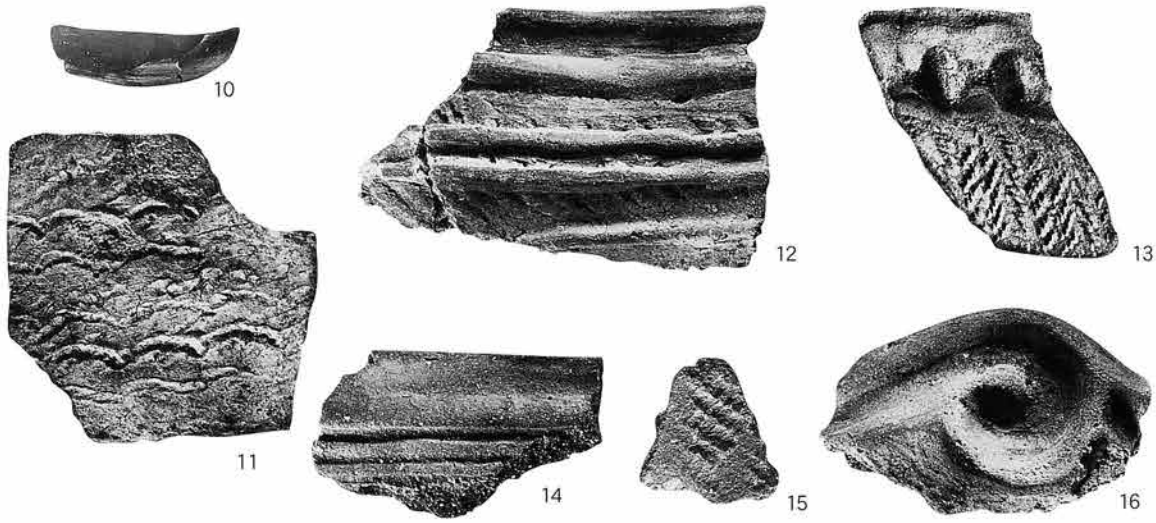
写真図版97　RA516～518住居跡出土遺物



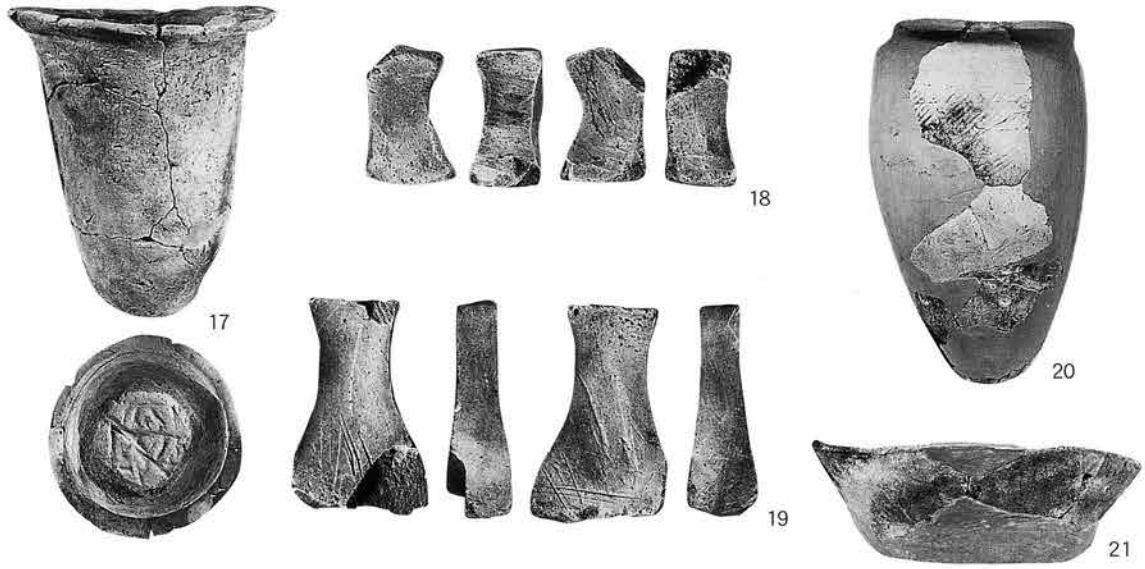
写真図版98　RA518住居跡出土遺物



RA519

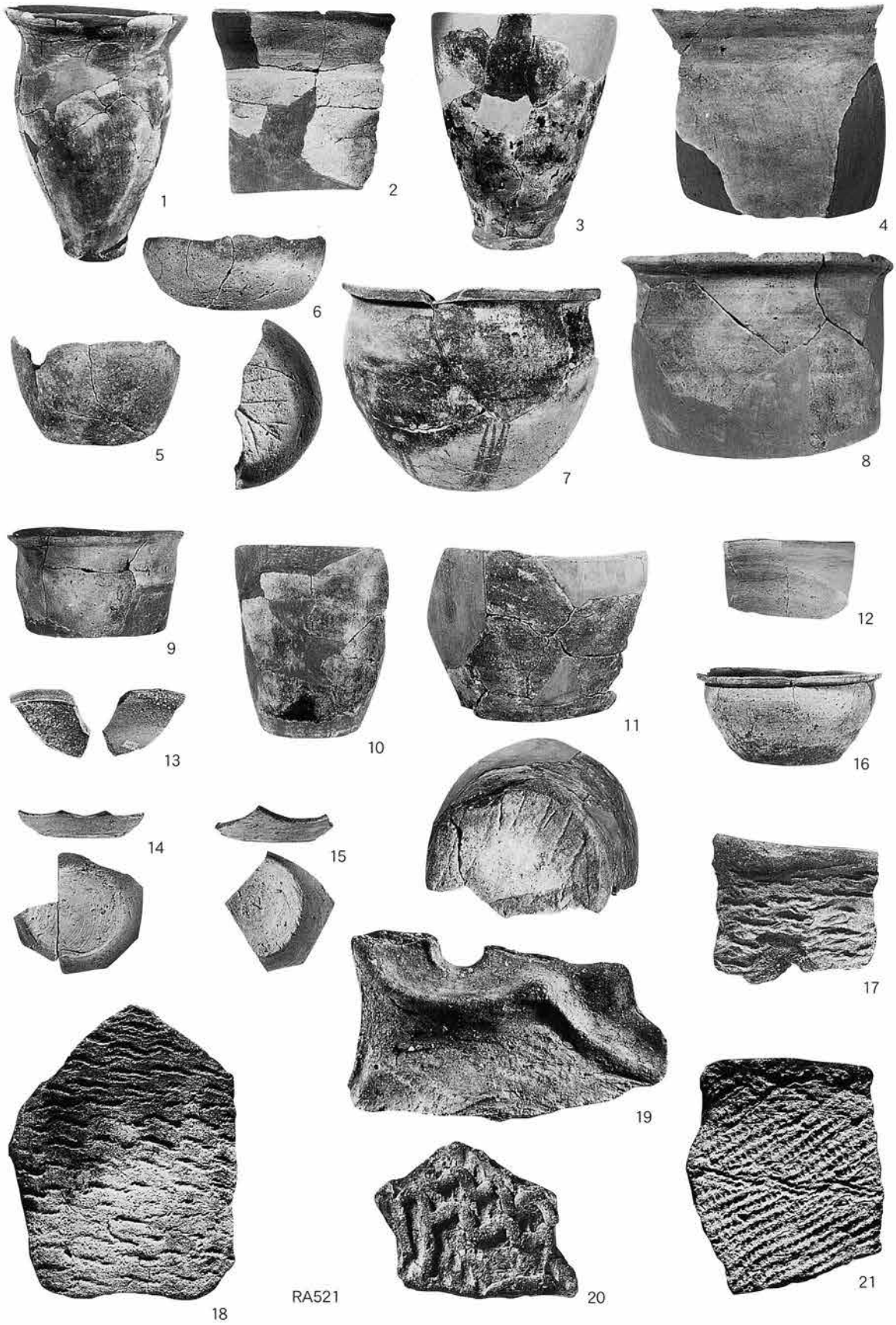


RA520

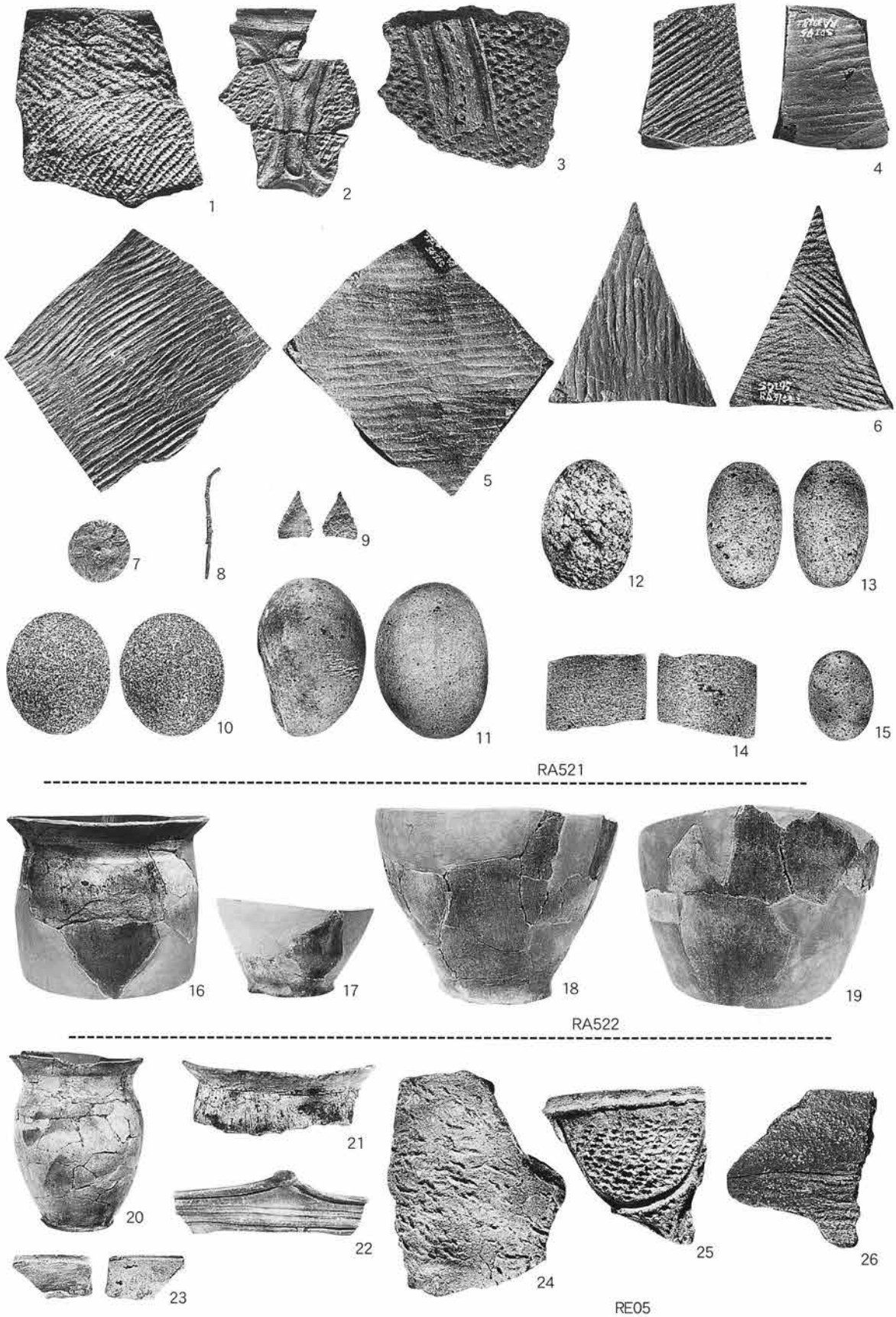


RA521

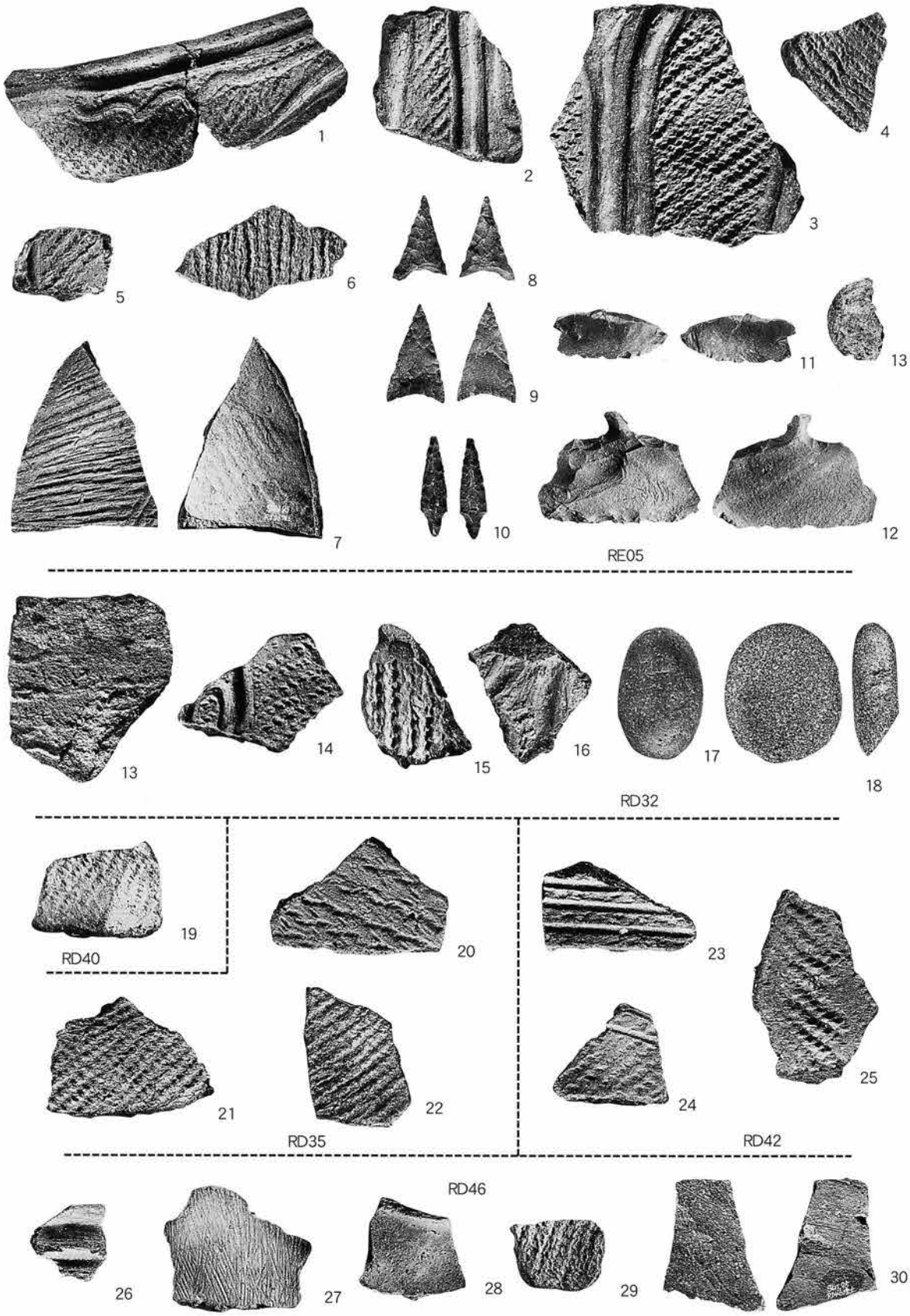
写真図版99　RA519～521住居跡出土遺物



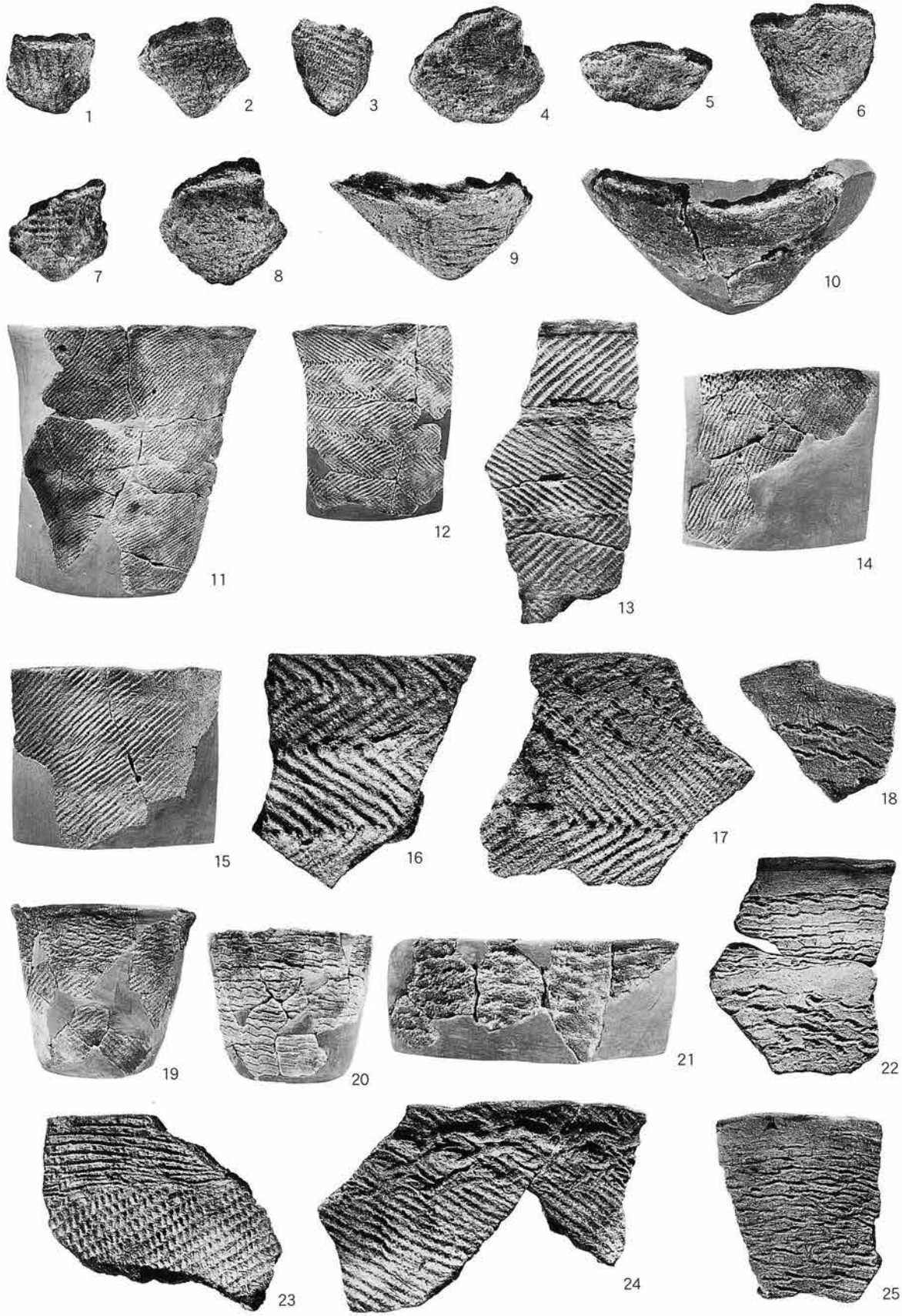
写真図版100　RA521住居跡出土遺物



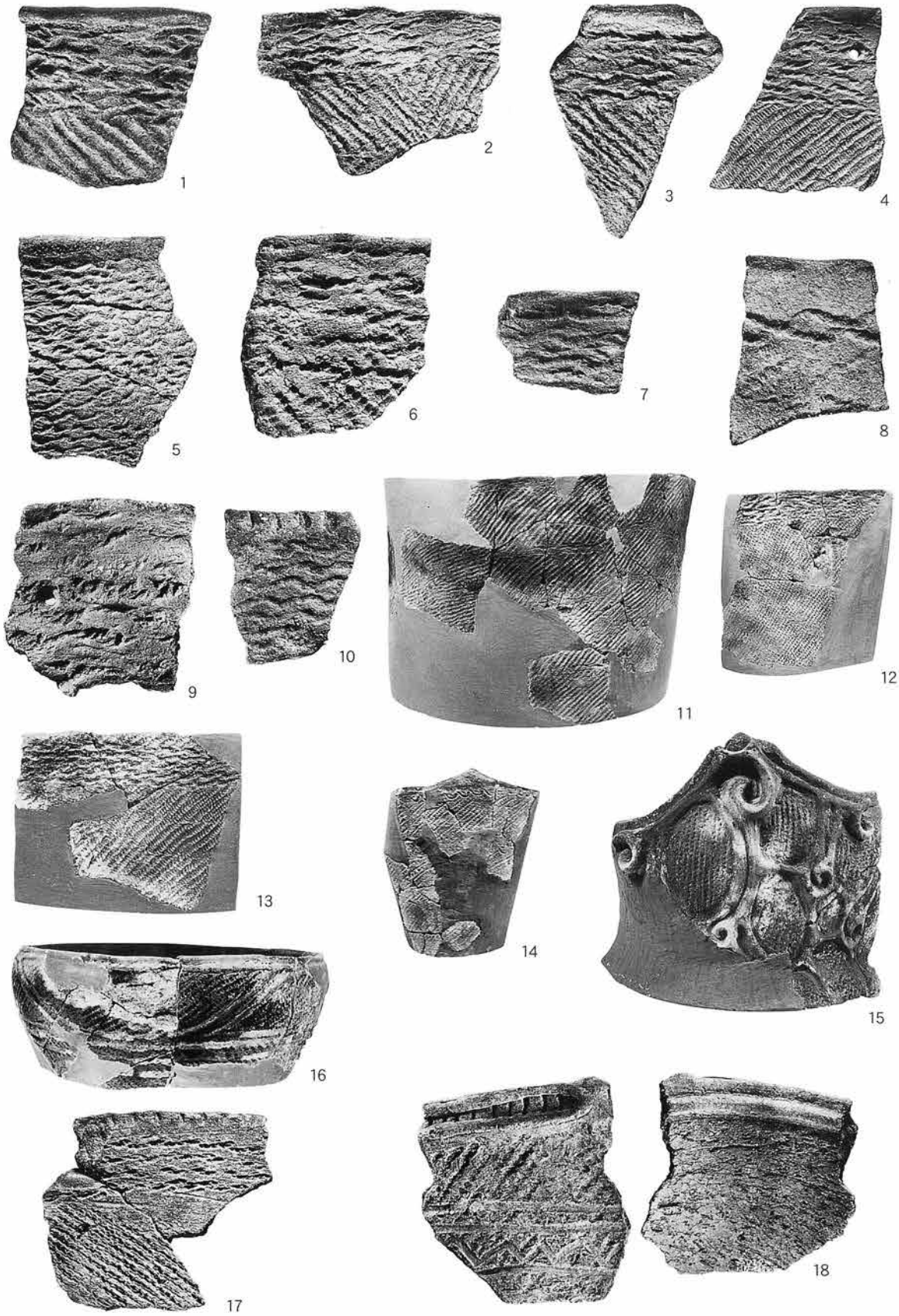
写真図版101　RA521・522住居跡、RE05竪穴状遺構出土遺物



写真図版102　RE05竪穴状遺構、RD32・40・35・42・46土坑出土遺物

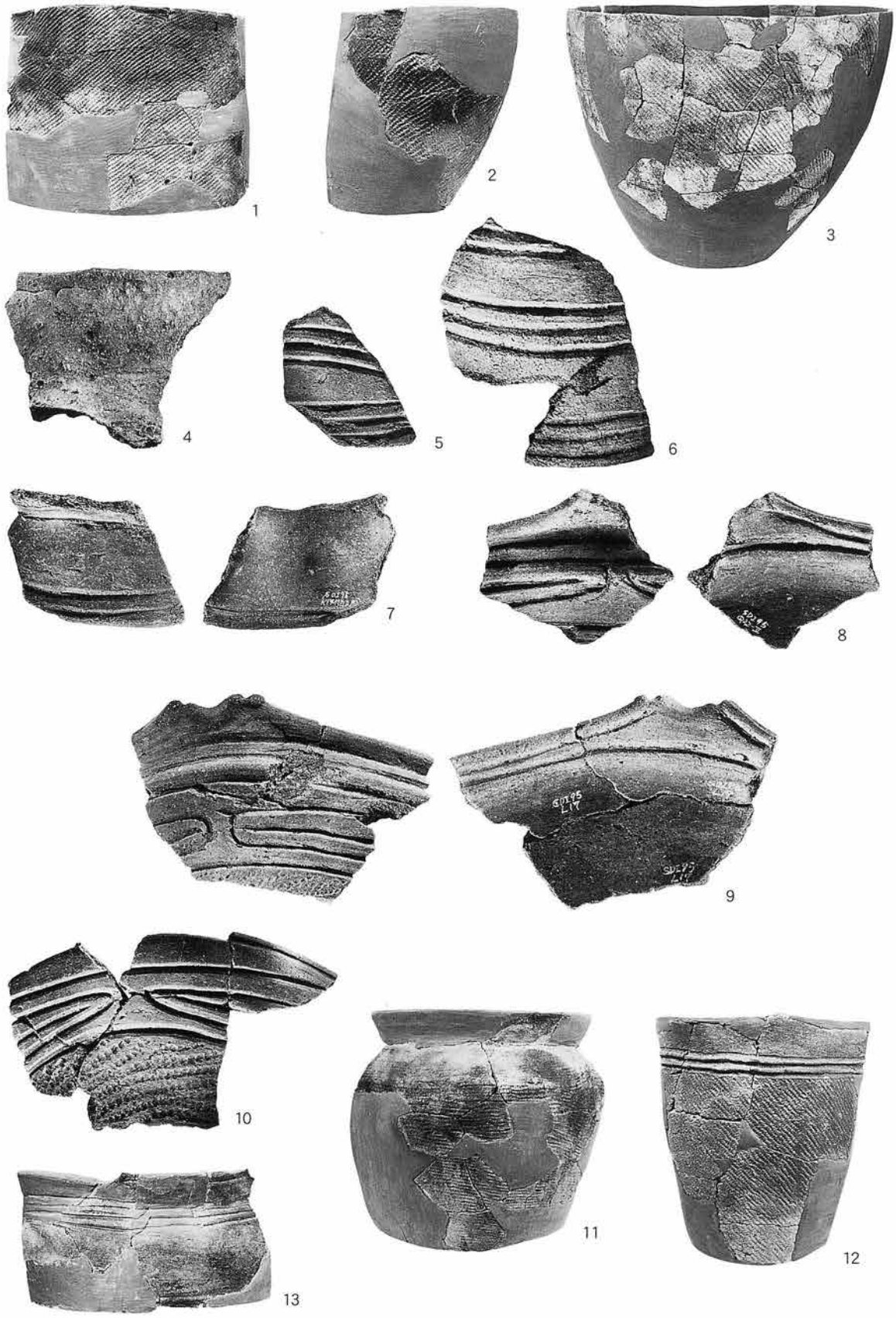


写真図版103　遺構外出土遺物（土器１）

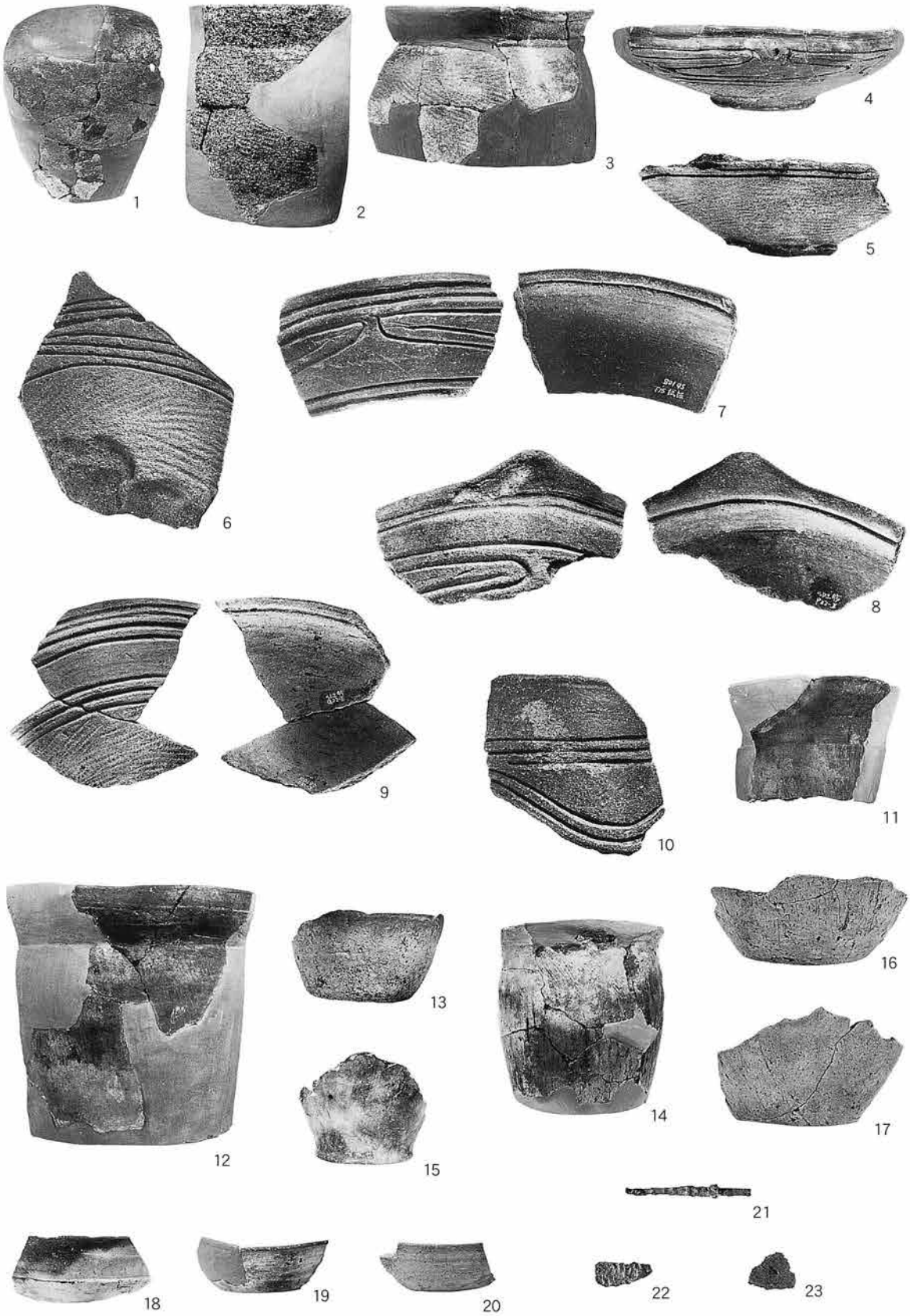


写真図版104　遺構外出土遺物（土器２）

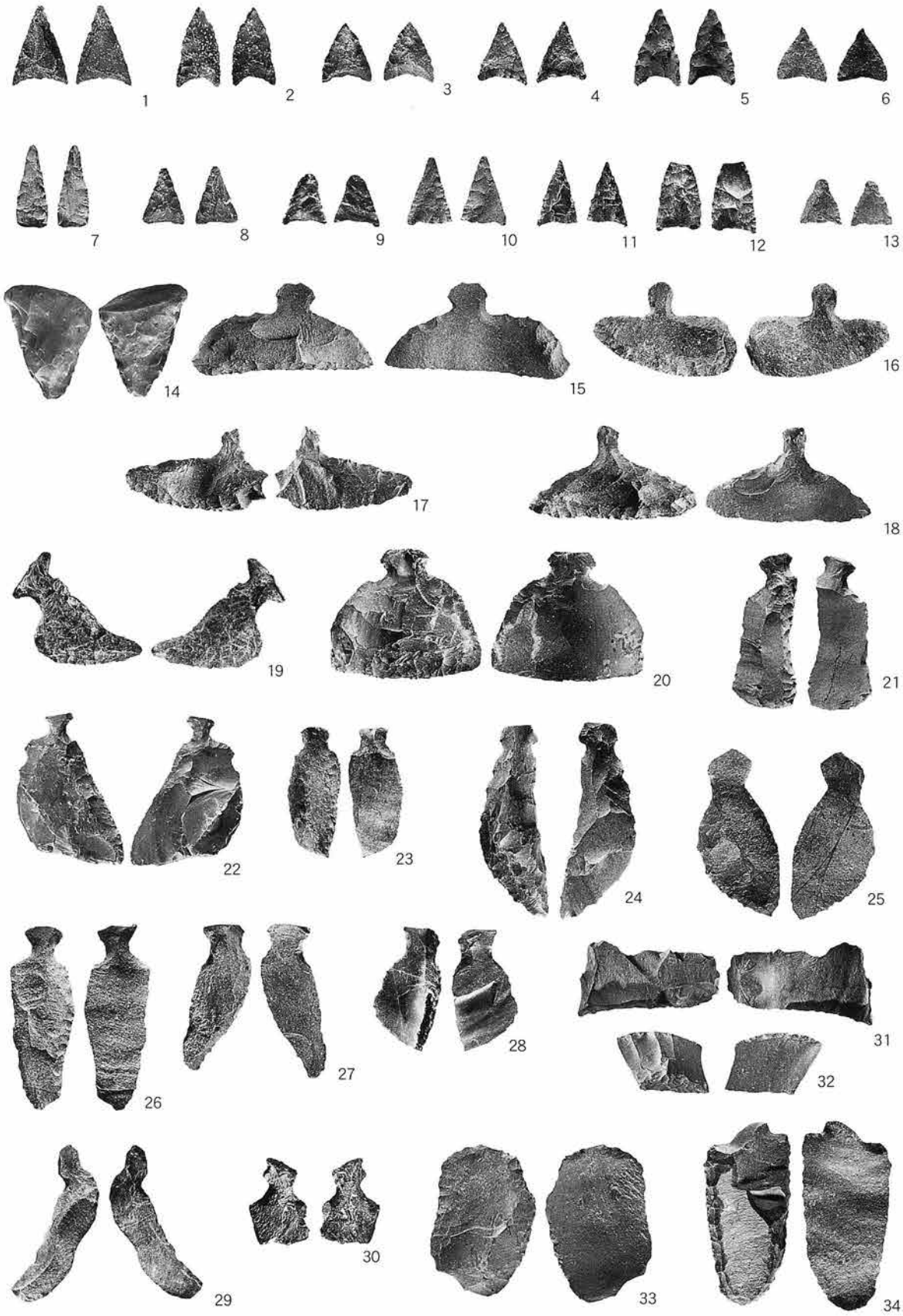
写真図版105　遺構外出土遺物（土器３）



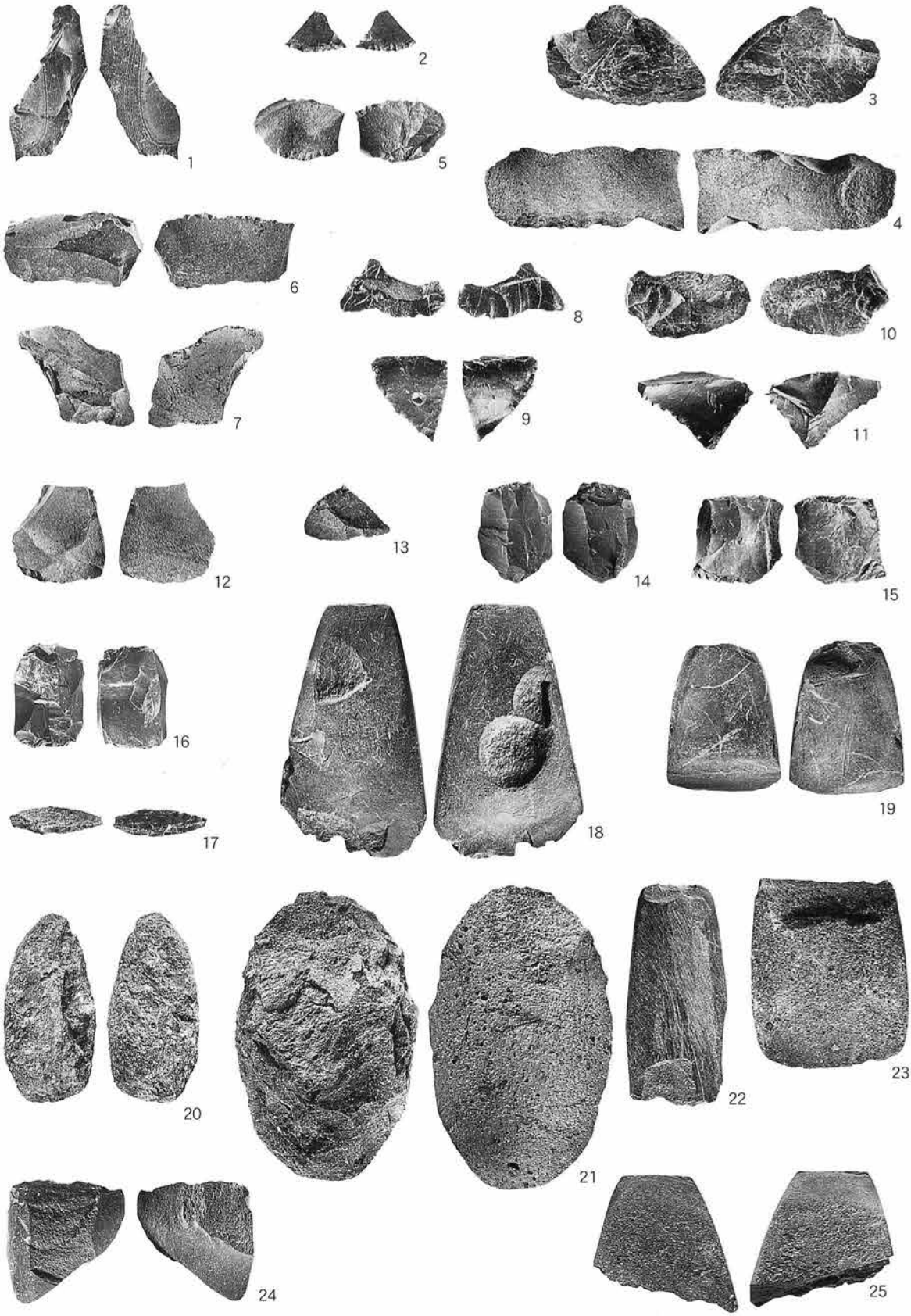
写真図版106　遺構外出土遺物（土器４）



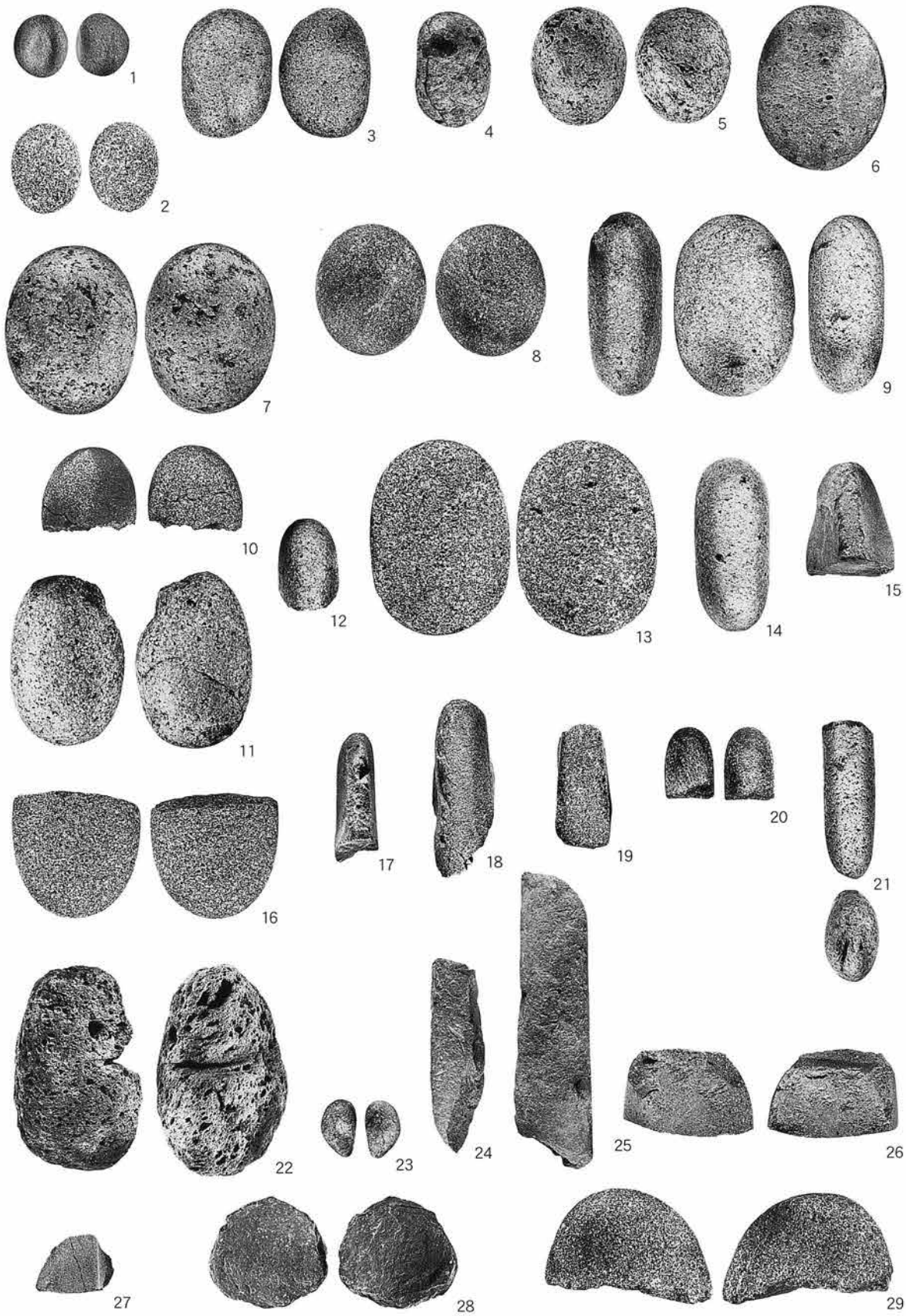
写真図版107　遺構外出土遺物（土器５、鉄製品）



写真図版108　遺構外出土遺物（石器１）



写真図版109　遺構外出土遺物（石器２）



写真図版110　遺構外出土遺物（石器３）

第三次調査の報告

野外調査　　平成８年８月１日～平成８年８月３０日
調査面積　　９８０㎡
調査担当者　佐々木清文・佐藤良和

第　三　次　調　査　目　次

1　基本土層……335
2　遺構と遺物……335
(1)　縄文時代……335
竪穴住居跡……335
RA116　……335
RA132　……341
RA133・134・135……343
RA136・137・138・139……348
土坑……353
RD75・52・53・54・55　……353
RD56・57・58・59　……356
焼土遺構……358
RF11・12・13・14・15・16　……358
RF17・18・19……360
その他の遺構……360
RZ20落とし穴　……360
(2)　古代……360
住居跡……360
RA523　……360
RA524　……363
RA525　……364
3　遺構外の出土遺物……366
土器……366
鉄製品……366
石器……366
4　まとめ……371

遺構一覧表……373
土器観察表……374
石器一覧表……377
鉄製品一覧表……379

図　版　目　次

第115図　第三次調査遺構配置図……336
第116～119図　RA116住居跡……337
第120図　RA116・132住居跡……342
第121・122図　RA133住居跡……344
第123・124図　RA134・135住居跡……346
第125・126図　RA136・137住居跡……349
第127図　RA138住居跡……351
第128図　RA139住居跡……352
第129図　RD75・52・53土坑……354
第130図　RD54・55・56土坑……355
第131図　RD58・59，RF11～15焼土遺構　…357
第132図　RF16～19，RZ20落とし穴……359
第133・134図　RA523住居跡……361
第135図　RA524住居跡……363
第136・137図　RA525住居跡……364
第138図　遺構外出土遺物（土器1）……367
第139図　遺構外出土遺物（土器2・鉄製品）…368
第140図　遺構外出土遺物（石器1）……369
第141図　遺構外出土遺物（石器2）……370

写　真　図　版　目　次

写真図版111　調査区全景，RA116住居跡……383
写真図版112　RA116住居跡 ……384
写真図版113　RA132住居跡 ……385
写真図版114　RA133住居跡 ……386
写真図版115　RA134住居跡 ……387
写真図版116　RA135住居跡 ……388
写真図版117　RA136住居跡 ……389
写真図版118　RA137住居跡 ……390
写真図版119　RA138住居跡 ……391
写真図版120　RA139住居跡 ……392
写真図版121　RD75・52～54土坑 ……393
写真図版122　RD55～58土坑 ……394
写真図版123　RD59，RF11～13焼土遺構 ……395
写真図版124　RF14～17焼土遺構 ……396
写真図版125　RF18・19，RZ20落とし穴 ……397
写真図版126　RA523住居跡 ……398
写真図版127　RA524住居跡 ……399
写真図版128　RA525住居跡 ……400
写真図版129　RA116出土遺物(1) ……401
写真図版130　RA116出土遺物(2) ……402
写真図版131　RA116・132・133出土遺物 …403
写真図版132　RA133・134出土遺物 ……404
写真図版133　RA134～137出土遺物 ……405
写真図版134　RA137～139出土遺物 ……406
写真図版135　RA139，RD52～55出土遺物 …407
写真図版136　RD56～59，RA523出土遺物 …408
写真図版137　RA523・525，遺構外出土遺物 409
写真図版138　遺構外出土遺物(2) ……410
写真図版139　遺構外出土遺物(3) ……411
写真図版140　遺構外出土遺物(4) ……412

V　三次調査の報告

1　基本土層

調査地は二次調査の西及び北側に隣接する部分で、西から東に緩く傾斜している。西側は表土も薄く、Ⅱ層が欠落する部分もあるが、基本的には二次調査と同様に以下のように５層になる。

Ⅰ層　暗褐色土　表土・耕作土　層厚20～30cm　粘性弱、締まりやや疎

Ⅱ層　黒色土　層厚20～50cm　東側は薄い、粘性弱、締まりやや疎

Ⅲ層　鈍い褐色土　層厚0～10cm　谷沿いには見られない、粘性無し、締まり疎

Ⅳ層　橙色砂礫層　層厚0～30cm　花崗岩風化物多し、沢沿いには見られない、粘性無し、締まりやや疎

Ⅴ層　黄褐色土　層厚30～100cm　花崗岩風化礫混入、沢沿いには見られない、粘性中、締まり密

さらに下位は花崗岩風化礫層

2　遺構と遺物

概要

三次調査（1996年度調査）で調査した遺構は縄文時代住居跡9棟（前期6棟・中期3棟）・土坑9基・焼土9カ所・落とし穴1基、古代住居跡3棟（奈良時代住居跡2棟、平安時代住居跡?1棟）である。出土遺物は遺構伴出遺物が多く、遺構数同様縄文時代前期前葉のものが多いが、総量として土器が大コンテナ5箱、石器124点ほどである。以下に時代別に記載する。

(1)　縄文時代

竪穴住居跡

RA116住居跡（第116～120図：写真図版111・112・129～131）

1995年度に調査地北側に検出された大型住居跡は今年度の調査で全長20m・最大幅6mの長方形の大型住居跡になることが明らかになった。この住居跡は壁溝や柱穴の配置から数時期の建て替えがあり、ここでは大きく5期に区分してみた。

a期　北側の内側にある時期

壁溝が、一部断続するが東・北・西に巡る。南側は不明だが長方形状を呈していたと思われる。規模は幅3m・長さ4m以上である。壁高の幅は10～20cm・深さ5～15cmである。柱穴は対角線上の各隅から50cm～1m付近に4基検出されている。柱穴の大きさは開口部径20～30cm・深さ25～30cmである。床面は平坦であるが上位の住居に削られた可能性もあり、炉は見られない。

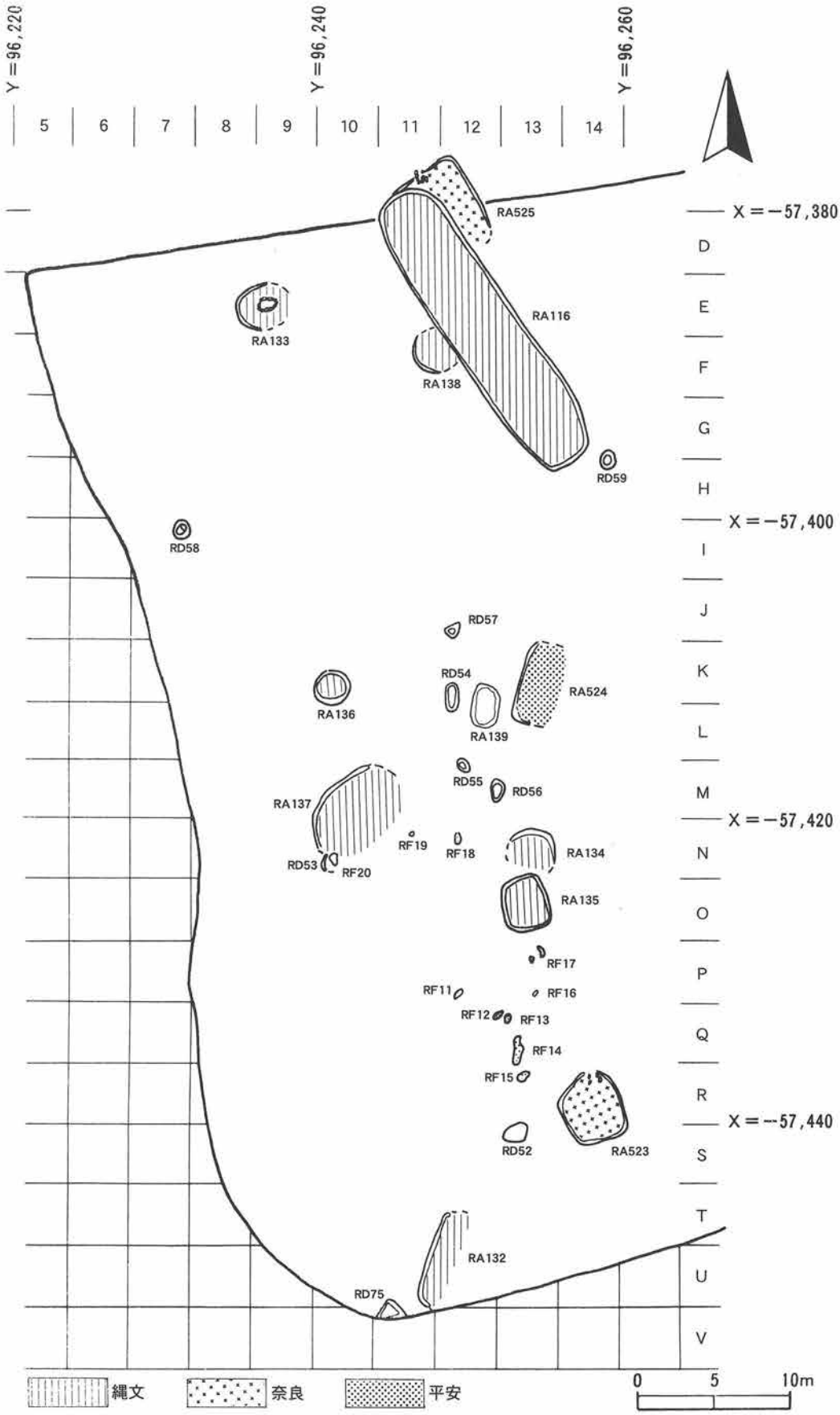
b期　南側の内側にある時期

壁溝が、一部断続するが東西南北に巡り、ほぼ長方形状を呈している。規模は幅3.6m・長さ8mほどである。壁溝の幅は10～15cm・深さ5～15cmである。壁際に対になる柱穴が4組ある。重複により広がった柱穴もあるが口径20～40cm・深さ30～40cmである。床面には柱穴状土坑が多数あるが、本来はほぼ平坦だったようである。炉跡は不明である。

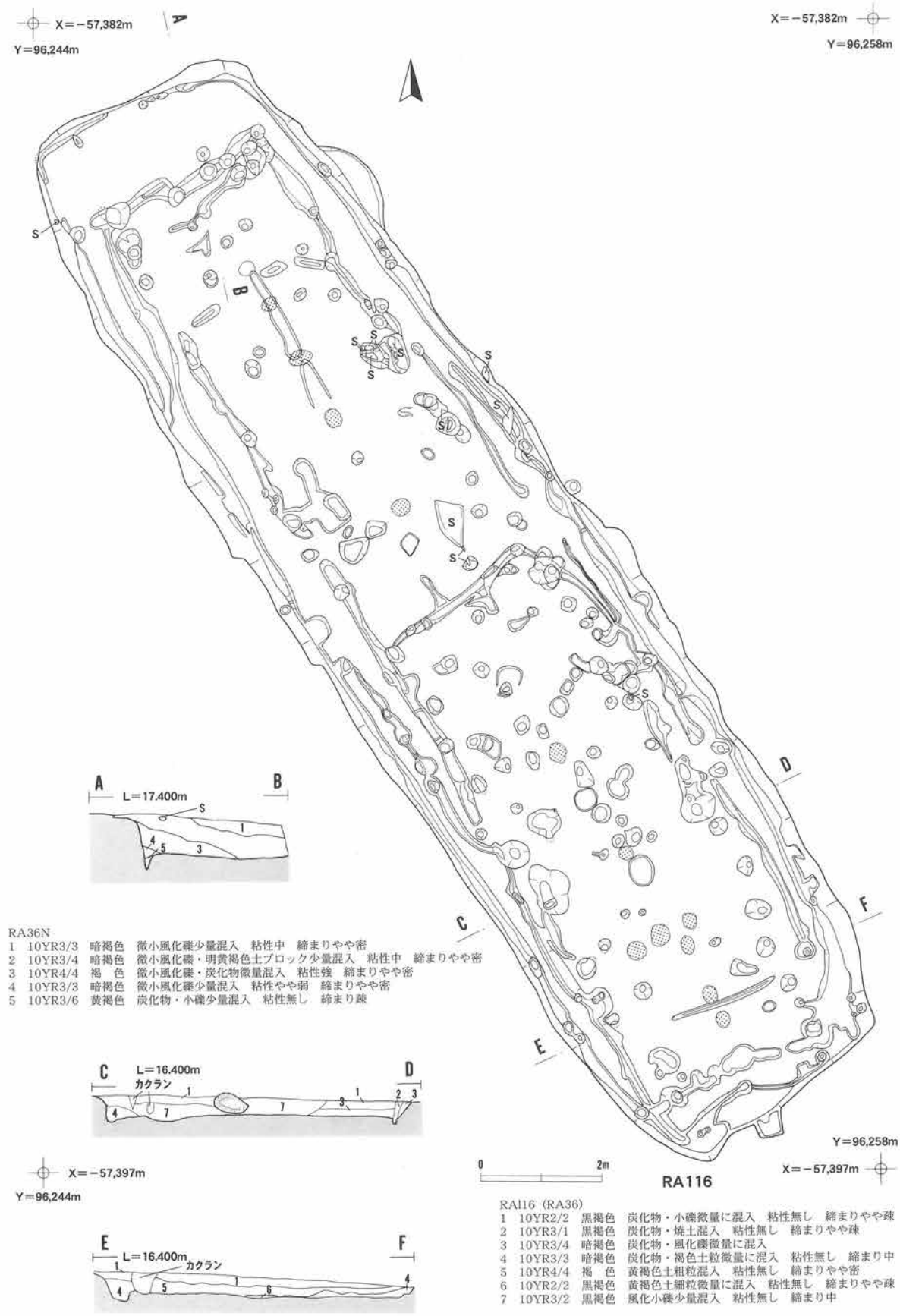
c期　b期の外側に長方形に広がる時期

北側を除き、壁溝が断続しながら巡る。規模は長さ11m以上・幅約4mである。壁溝の幅は約20cm・深さは5～20cmである。柱穴は壁際に対になって6組あり、開口部径20～40cm・深さ30～40cmである。床面はほぼ平坦で、南寄りに検出された焼土の一部はこの遺構に伴う可能性もある。

d期　北側から中央南側まで長方形に壁溝の巡る時期



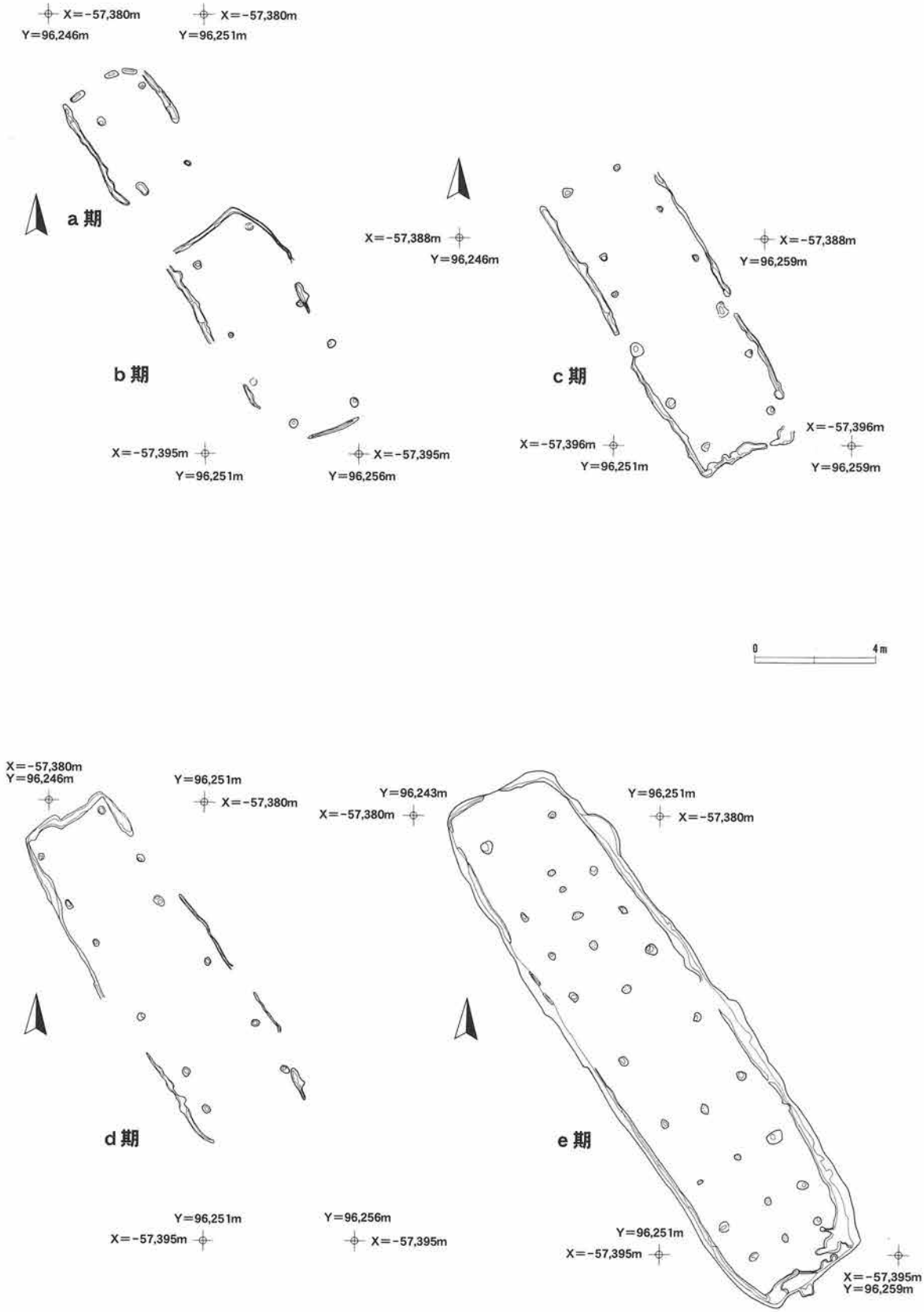
第115図　第三次調査遺構配置図



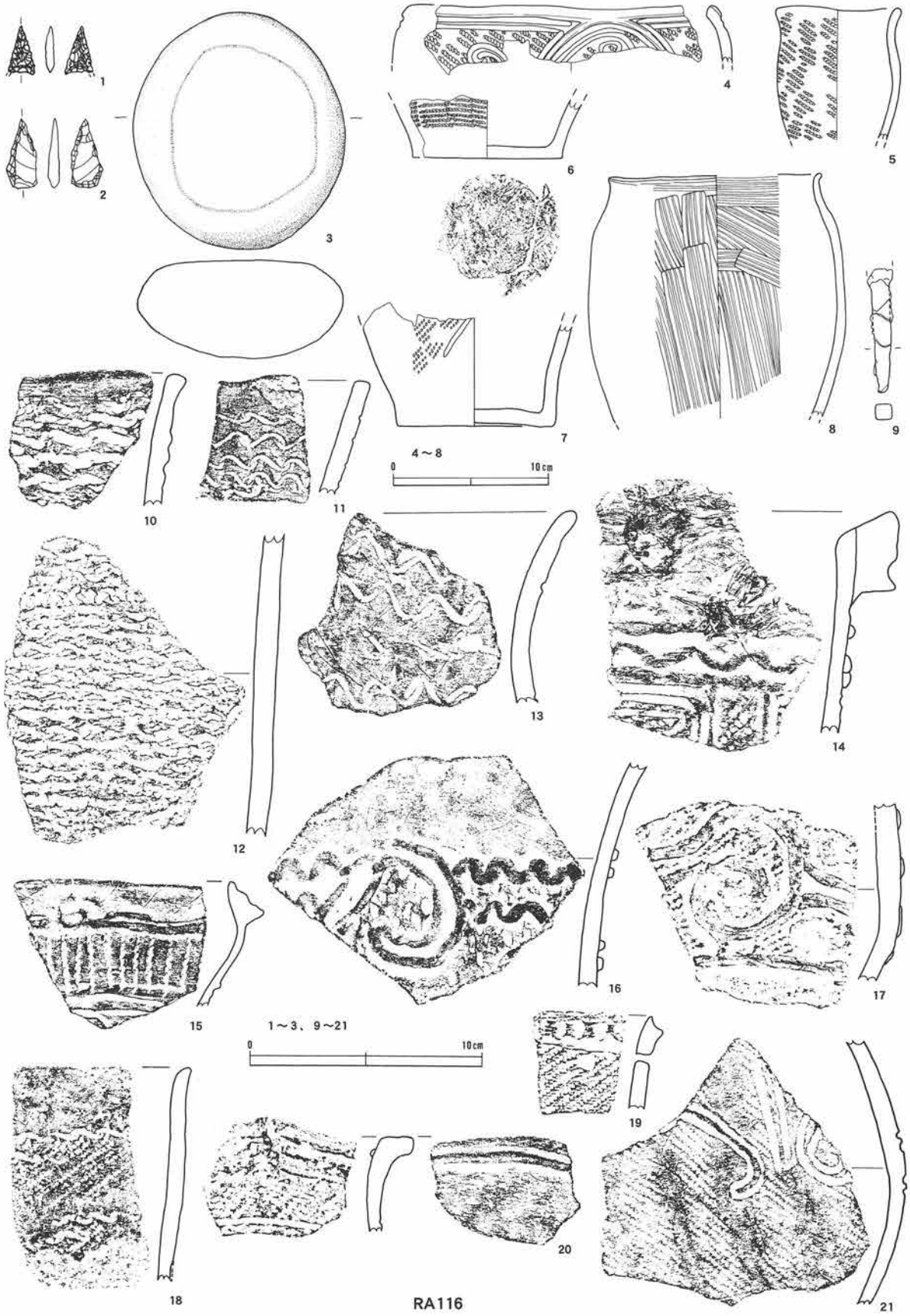
RA36N
1 10YR3/3 暗褐色 微小風化礫少量混入 粘性中 締まりやや密
2 10YR3/4 暗褐色 微小風化礫・明黄褐色土ブロック少量混入 粘性中 締まりやや密
3 10YR4/4 褐 色 微小風化礫・炭化物微量混入 粘性強 締まりやや密
4 10YR3/3 暗褐色 微小風化礫少量混入 粘性やや弱 締まりやや密
5 10YR3/6 黄褐色 炭化物・小礫少量混入 粘性無し 締まり疎

RA116 (RA36)
1 10YR2/2 黒褐色 炭化物・小礫微量に混入 粘性無し 締まりやや疎
2 10YR3/1 黒褐色 炭化物・焼土混入 粘性無し 締まりやや疎
3 10YR3/4 暗褐色 炭化物・風化礫微量に混入
4 10YR3/3 暗褐色 炭化物・褐色土粒微量に混入 粘性無し 締まり中
5 10YR4/4 褐 色 黄褐色土粗粒混入 粘性無し 締まりやや密
6 10YR2/2 黒褐色 黄褐色土細粒微量に混入 粘性無し 締まりやや疎
7 10YR3/2 黒褐色 風化小礫少量混入 粘性無し 締まり中

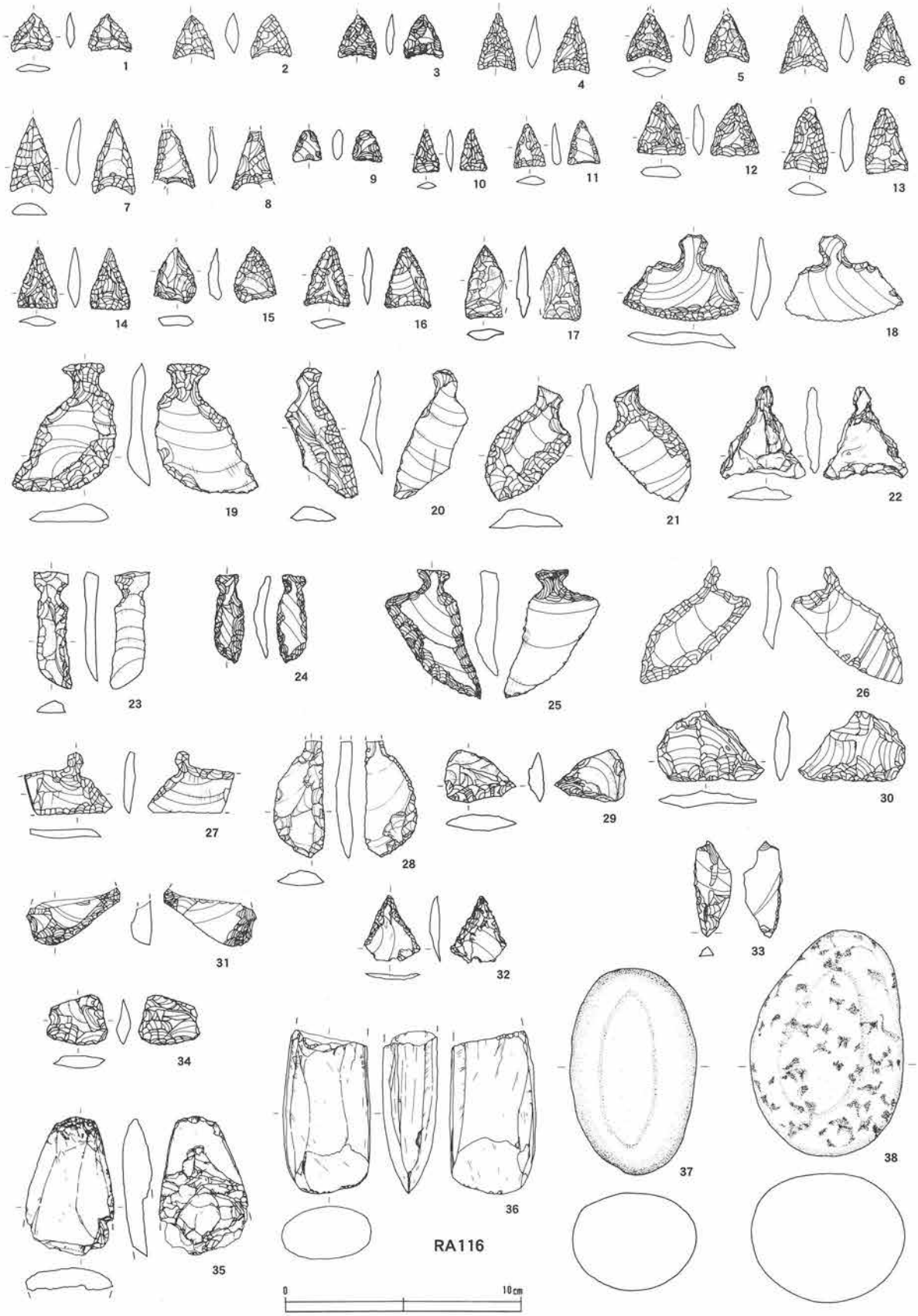
第116図 RA116住居跡



第117図　RA116住居跡変遷図



第118図　RA116住居跡出土遺物（1）



第119図　RA116住居跡出土遺物（2）

南側を除き断続的に壁溝が巡る。北側の壁溝は少し食い違いがある。また、北の方がやや狭く、南の方が少し広い。規模は長さ12m以上・幅3.3～4mである。壁溝の幅は10～30cm・深さは10～20cmである。柱穴は壁際に対になり6組ある。開口部径20～30cm・深さ40～50cmである。床面はほぼ平坦である。

e期　一番外側の時期

長さ20m・幅6mの隅丸長方形で、壁際に壁溝が巡る南側の壁溝は壁から離れ、不連続なところもある。奈良時代の竪穴住居RA525が北側の上位に重複している。壁高は北側で北西側で90cm・南東側で20cmである。壁溝は他の時期と重複する部分は幅が広くなっているが、ほぼ20cmの幅で、深さは10～20cmである。壁溝の底には部分的に柱穴状に深い部分もある。

北側の埋土は、上位が風化礫や黄褐色土ブロックの混じる暗褐色土で、下位は炭化物・風化礫の混入する褐色土で構成される。壁溝の埋土は床面付近が暗褐色土。下位は炭化物を少量含む黄褐色土で構成されている。

炉は長軸の中心線上に10カ所、南側ではその東西にも地床炉が検出されている。直径20～30cmで焼土の厚さは数mm～1cmである。

出土遺物は床面から僅かの石器と埋土から縄文土器片・石器が多く得られている。埋土上位からは土師器片や鉄製品も得えられている。いずれの遺物も最終的に建て替えられた時期か、その後に廃棄された時期の遺物と思われる。

118-1～3は床面出土の石器である。1・2は石鏃、3は磨石である。118-6及び118-10～13は埋土下位から出土した土器片である。葺瓦状の撚糸文や不整撚糸文が施文され、大木2a式から2b式期に相当するようである。118-14～21は埋土中位～上位、118-4・5・7～9は埋土上位から出土している。埋土中位からは前期中葉～後葉、埋土上位からは中期前葉や土師器など、重複する時期の遺物が混入しているようである。

石器は石鏃17点、石匙11点、削掻器5点、石錐1点、磨製石斧2点、磨石5点、凹石1点、石刀1点がある。石鏃は破損品も含めて有茎のものは見られない。また、119-32は剥離加工が粗雑であるが、石鏃の機能を意識した加工品かもしれない。石匙はつまみ部から主刃部にかけて斜めになるものが多い。磨石はやや扁平で楕円形なものの平らな面に磨面が形成されたものと、細長い円礫の縁辺に磨面が形成されたものがある。石刀は二次調査の際に埋土下位から斜位に埋積した状況で出土したものである。刃部先端が欠損しているが、長さ26.6cmある。

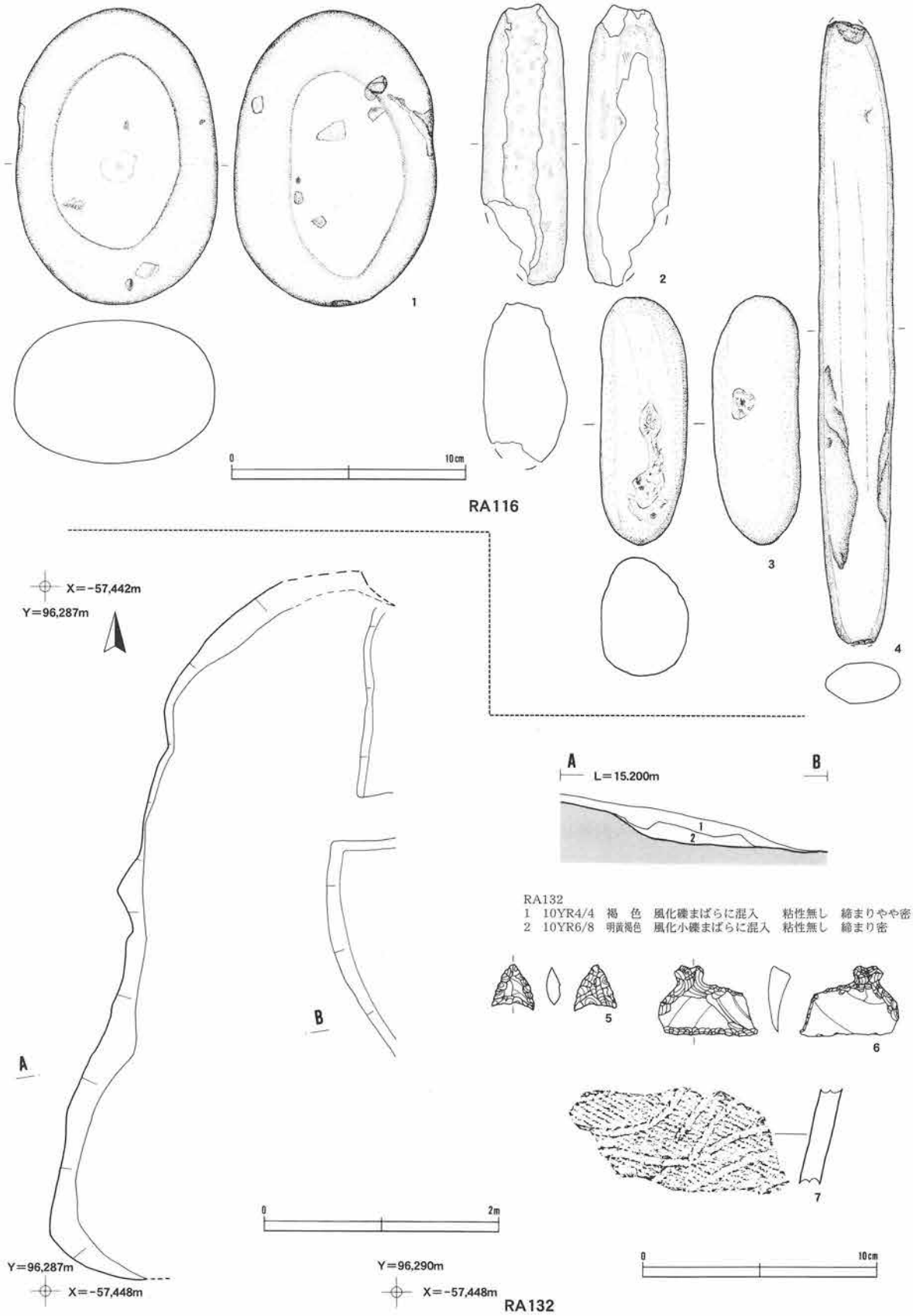
遺構の時期は埋土下位から出土した遺物や埋土の十和田中掫火山灰が入らないことから、第四次調査で検出された大型住居跡よりは新しい縄文時代前期前葉と考えられる。

RA132住居跡（第120図：写真図版113・131）

調査地南西部に位置し、一次調査の撹乱等で西側の壁と床面の一部のみが残存する。平面形は隅丸長方形状を呈するようである。柱穴や炉跡は見られない。規模は、西側壁の長さ約6m、壁高25～30cmである。埋土は上位が褐色土、下位が明褐色土で、風化礫が混入する。締まりやや密である。残存部の床面はほぼ平坦で、締まりは密である。

出土遺物は、壁際から石器や剥片が数片まとまって出土している。5は石鏃、6は石匙である。7は撚糸を押し付けて沈線文状の文様を表現した中期前葉の土器片である。

遺構の時期は、出土遺物や埋土の状況から縄文時代中期と考えられる。



第120図 RA116住出土遺物（3）、RA132住居跡

RA133住居跡（第121図：写真図版114・131・132）

調査地北西に位置し、北側は今年度の調査地外に続くが、買収用地内であったので調査した。斜面下位の東側は壁や床は不明瞭である。平面形は円形状を呈していたようで、中央付近に石囲炉がある。壁はほぼ直立する。規模は直径約2.9m、壁高は西側で15cmである。埋土は遺物の混入する黒褐色土で構成され、締まりはやや疎である。床面は東側に傾斜するが、ほぼ平坦で締まりは中である。

炉は60×50cmの範囲を囲むように角礫を並べて埋め込んである。炉内に焼土は形成されていない。

出土遺物は炉の西側の埋土下位から床面にかけて土器片が多く出土している。床面近くから出土したのは121-4・5・122-6の縄文時代中期後葉の土器片で、他の前期の土器片や土師器甕（121-7）は埋土から得られている。前期の土器片には尖底土器片も含まれる。石器は石鏃1点と、石匙6点、石槍1点、楔形石器1点、削掻器1点、磨製石斧1点である。磨製石斧は基部のみの破損品である。

遺構の時期は、石囲炉や出土遺物から縄文時代中期と思われる。

RA134住居跡（第123・124図：写真図版115・132・133）

調査地西部中央付近、RA135住居跡の北側に隣接し上位に検出された。北東側の壁の一部と床面が残るが、南側は不明である。南寄りに焼土と石囲炉があり、床面の一部は下位のRA135の埋土に貼り床しているようである。平面形は楕円形状を呈していたと思われ、残存部の壁は外傾して立ち上がる。規模は長径3.5m・短径3.2mほどと推定される。壁高は北側で20cmである。埋土は主に炭化物や風化礫の混入する暗褐色土で構成される。

炉は50×50cmの範囲に角礫を2列に並べて埋め込まれて作られている。炉内の焼土の厚さは最大15cmである。炉の北側に隣接する焼土は60×40cmの範囲に広がり、厚さ最大4cmである。炉の東側の焼土は35×30cmの範囲に広がり、厚さ最大4cmである。

出土遺物は、床面や埋土から土器片や石器が得られている。124-5・6・9～13は床面出土の中期の土器片である。4の尖底土器片と他の土器片は埋土出土の縄文時代前期の土器片である。胎土にセンイがはいるものが多い。124-17は台石の破片と思われる。14・15は石匙、16は楔形石器である。

遺構の時期は、出土遺物や炉の形状から縄文時代中期と思われる。

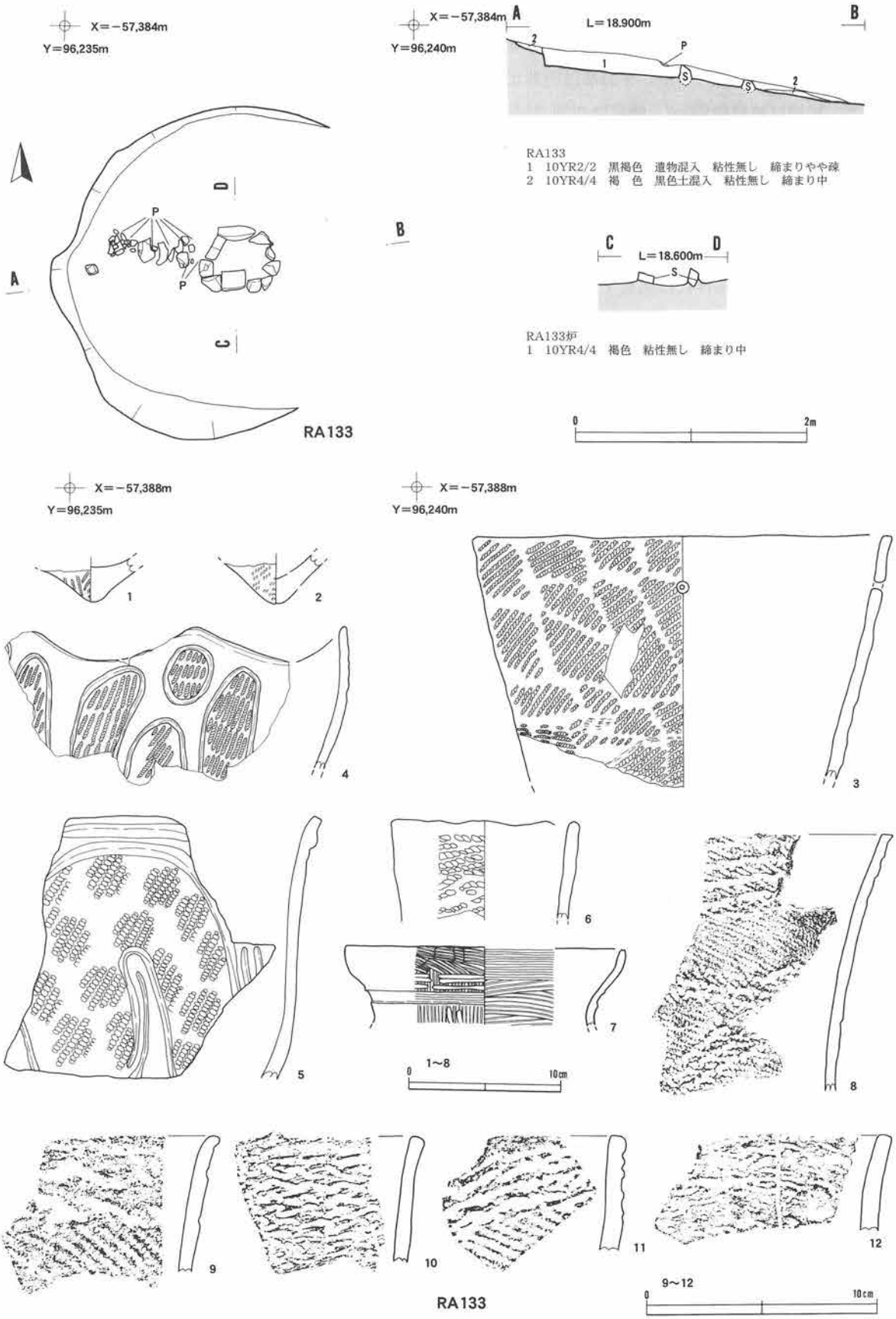
RA135住居跡（第123・124図：写真図版116・133）

調査地西部中央付近、RA134住居跡の南側に隣接し下位に検出された。一部に長方形の新しい撹乱溝がある。平面形は隅丸方形状を呈し、壁はほぼ直立する。壁際には壁溝が断続し、柱穴状土坑が4基検出されている。炉は見られない。規模は一片約4.2m・検出面からの深さ20cmである。埋土は主に炭化物や焼土粒がまばらに混入する黒色土で構成され、粘性は無く、締まりはやや疎である。

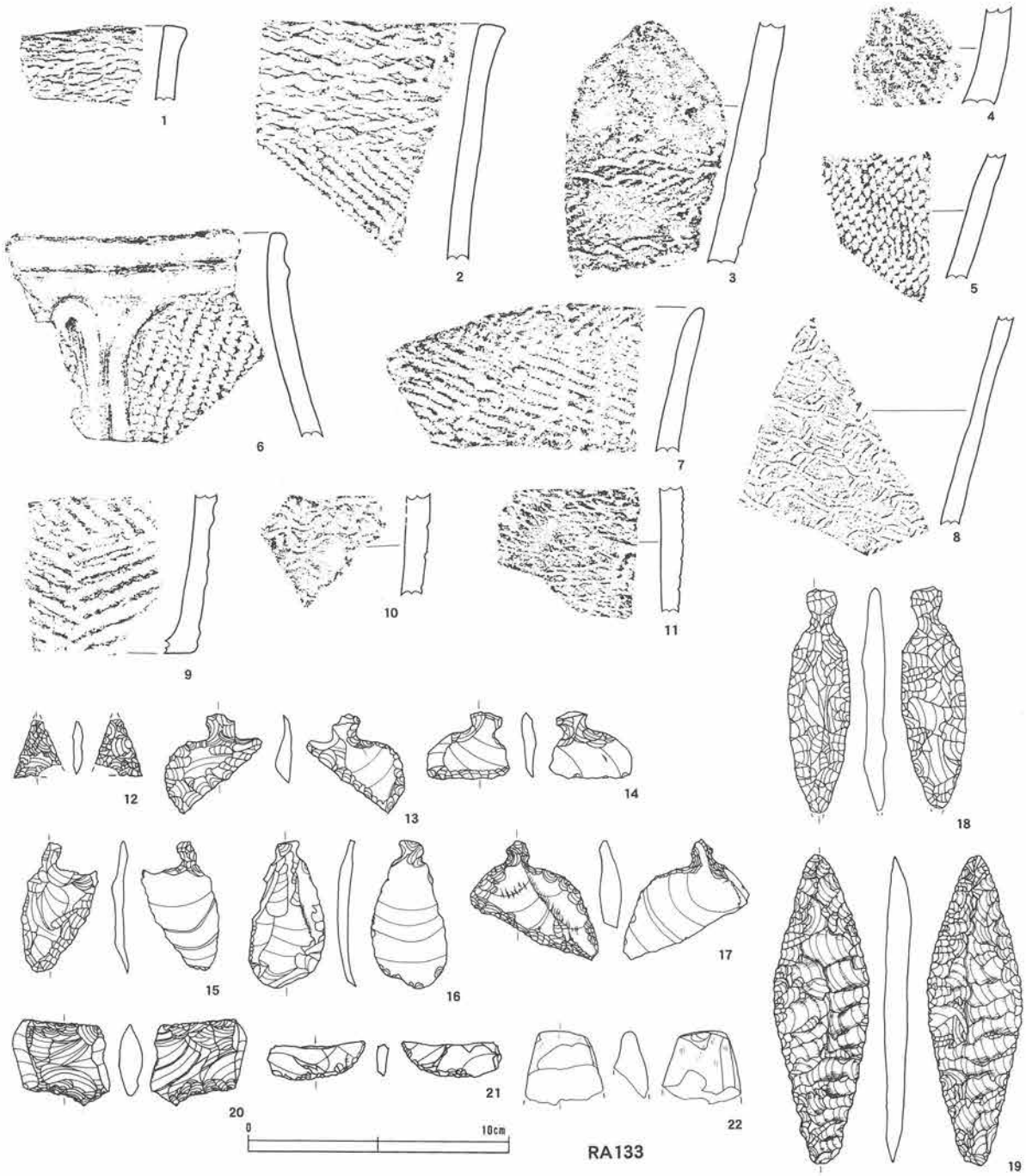
壁溝は北側と東から南の壁際に断続し、幅6～8cm・深さ15cmほどである。柱穴状土坑はほぼ対角線上にある。規模は開口部径・深さとも約20cmで、南東側には類似の土坑がもう1基見られる。床面はほぼ平坦で、締まりは中である。床面上には礫や土器片が見られる。

出土遺物は、床面上の土器片や埋土から土器片や石器が得られている。124-18・19・21は床面出土の土器片で、胎土にセンイを含む縄文時代前期の土器片である。石器は石匙・削掻器各1点と磨石2点である。磨石は平たい面に磨面が形成されたものと縁辺に磨面の形成されたものがある。

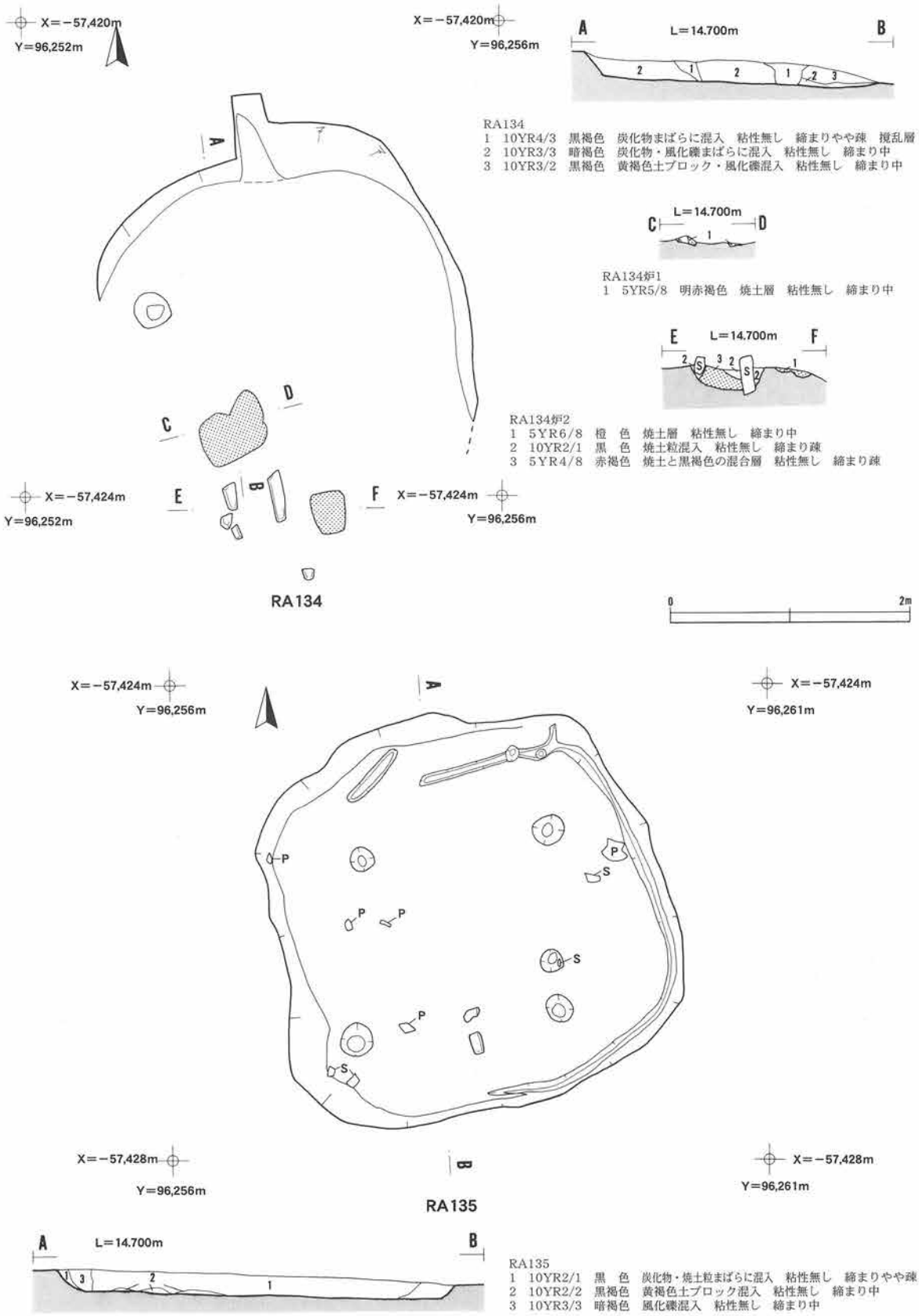
遺構の時期は、出土遺物から縄文時代前期と思われる。



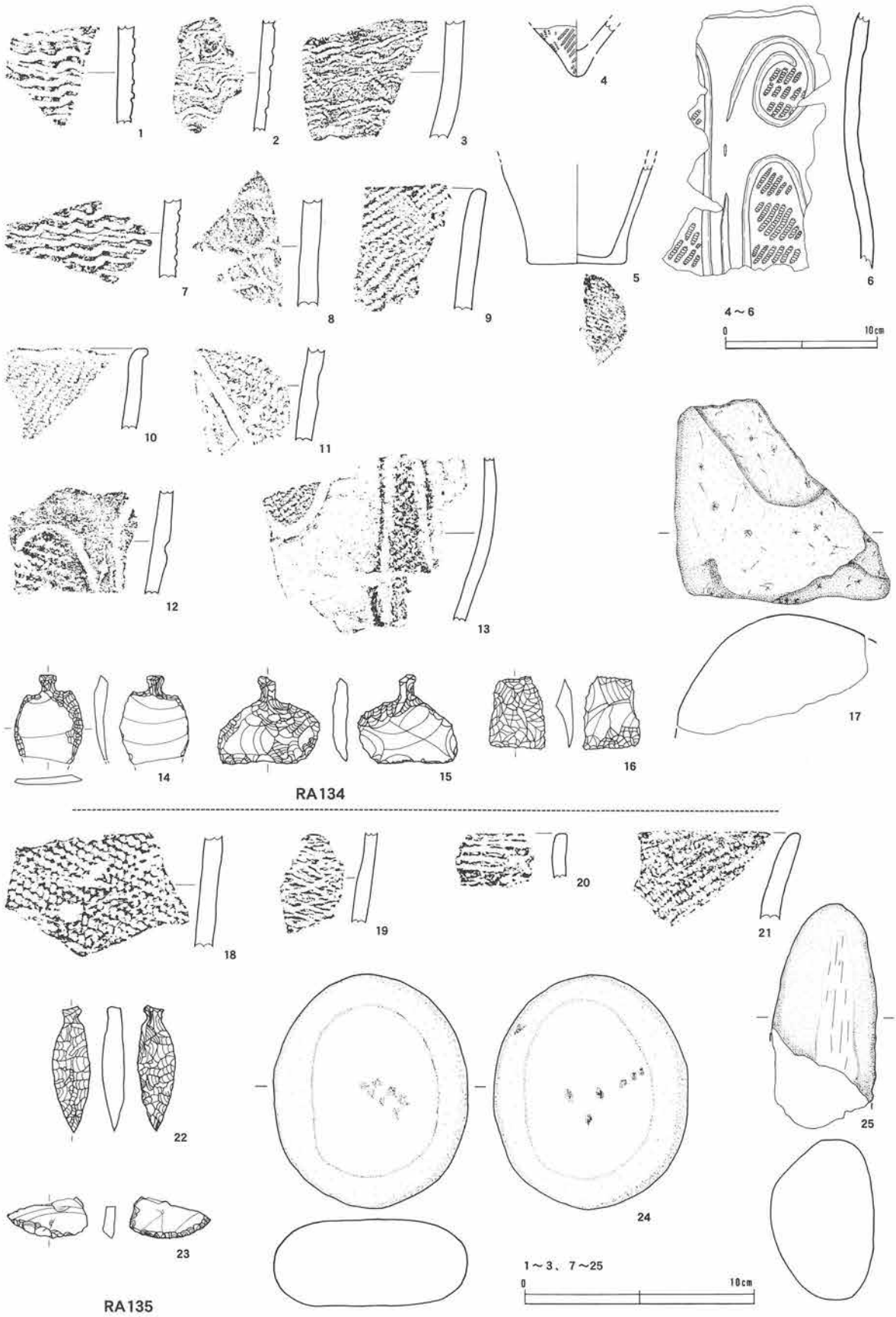
第121図 RA133住居跡



第122図　RA133住居跡出土遺物（2）



第123図 RA134・135住居跡



第124図　RA134・135住居跡出土遺物

RA136住居跡（第125・126図：写真図版117・133）

調査地西部中央付近、山麓緩斜面に近いRA137住居跡の北に位置し、Ⅳ層上位で検出された。斜面下位の南東寄りの壁はやや不鮮明になるが、隅丸長方形状の平面形をなすようである。壁はほぼ直立する。東側壁際には幅広の溝状の窪みがある。規模は、長軸2.5m・短軸2.1mで、壁高は西側で25cmほどである。埋土は風化礫の混入する黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。底面はほぼ平坦で、締まりは密である。中央付近と東寄りに径10cm・深さ20cmの小土坑があるが、柱穴かどうか不明である。

出土遺物は、床面上から縄文時代前期の土器片と石鏃1点が得られている。126-1は復元された深鉢で、口縁部に不整撚糸文が連続し、下位は羽状縄文が施文される。126-2は石鏃である。

遺構の時期は、出土遺物から縄文時代前期前葉と思われる。

RA137住居跡（第125・126図：写真図版118・133・134）

調査地西部中央付近、山麓緩斜面に近いところに位置し、Ⅳ層上位で検出された。斜面上位の西寄りの壁と床面は残存するが、東側は不明である。平面形は楕円形状を呈するようである。床面から壁は緩く湾曲して立ち上がり、境界は明瞭でない。規模は長径約6m、壁高は西側で約40cmである。埋土は上位が焼土・炭化物・土器片の混じる黄褐色土、中位が風化礫の混入する黒褐色土、下位は黄褐色土ブロックの混入する黒褐色土で構成され、中・下位の締まりはやや密である。

床面はほぼ平坦で、締まりは密である。中央付近に長径45cm・深さ30cm、と直径・深さ約20cmの柱穴状土坑が、北側の壁際に浅い小土坑がある。

出土遺物は、床面付近から尖底土器片を始め多くの土器片や石器が得られている。126-5・6は尖底土器片である。126-4・7～12は前期の土器片で、胎土にセンイが混入する。3は埋土上位から得られた中期の土器片である。石器は石匙3点と石鏃2点、楔形石器1点である。石鏃は形状を整えただけのような粗雑な造りである。

遺構の時期は、遺構の形態や出土遺物から縄文時代前期初頭から前葉にかけてと思われる。

RA138住居跡（第127図：写真図版119・134）

RA116長方形大型住居跡の西側に検出された。大型住居跡より上位になる。平面形は円形を基調としていたようで、中央付近に炉がある。壁はほぼ直立する。規模は径約3mで、壁高は西側で20cmである。埋土は主に炭化物や風化礫の混入する黒褐色土で構成され、締まりはやや密である。床面はほぼ平坦で、柱穴状土坑が、RA116住居跡の床面からも含め、4基検出されている。柱穴状土坑の大きさは開口部径20cm、床面からの深さ40cmほどである。北側の壁際には壁溝と思われる長さ70cm、幅・深さとも10cmの溝が見られる。

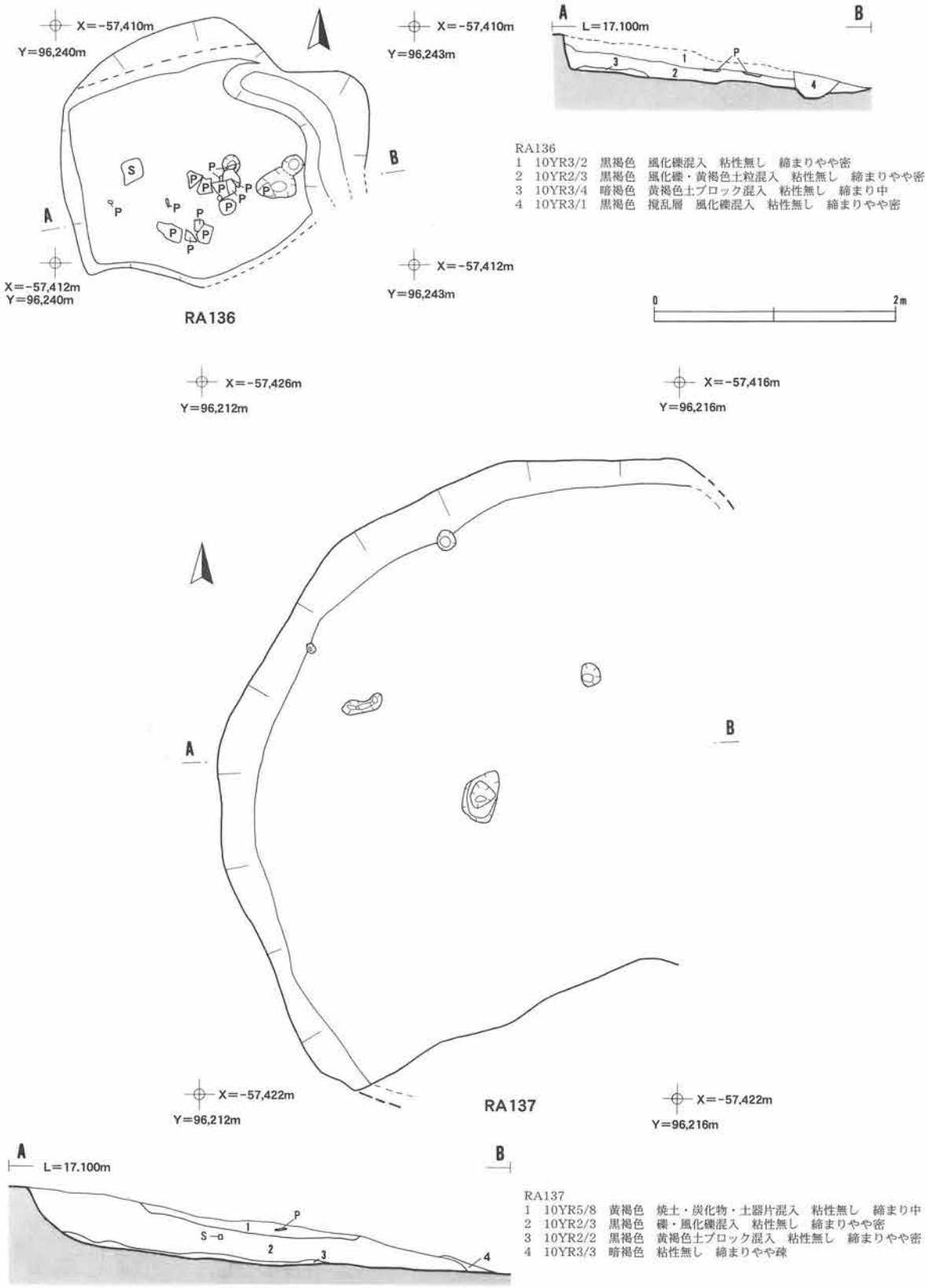
炉は地床炉で40×30cmの範囲に焼土が広がり、北東側に角礫が1個見られる。焼土の厚さは最大4cmである。

出土遺物は埋土から尖底土器片を始め数点の前期土器片が出土している。胎土にはセンイを含む。

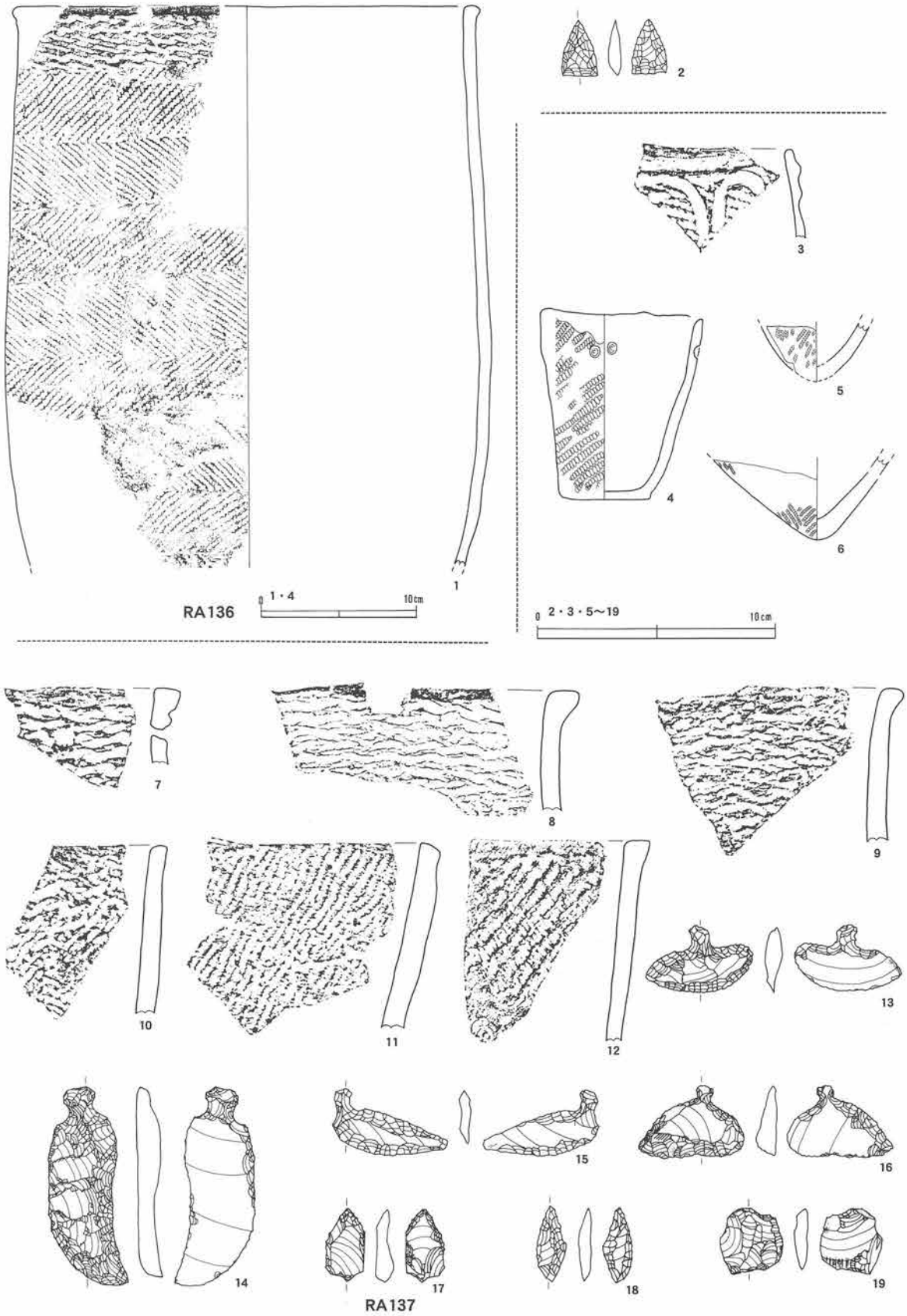
遺構の時期は、縄文時代前期前葉と思われる。

RA139住居跡（第128図：写真図版120・134・135）

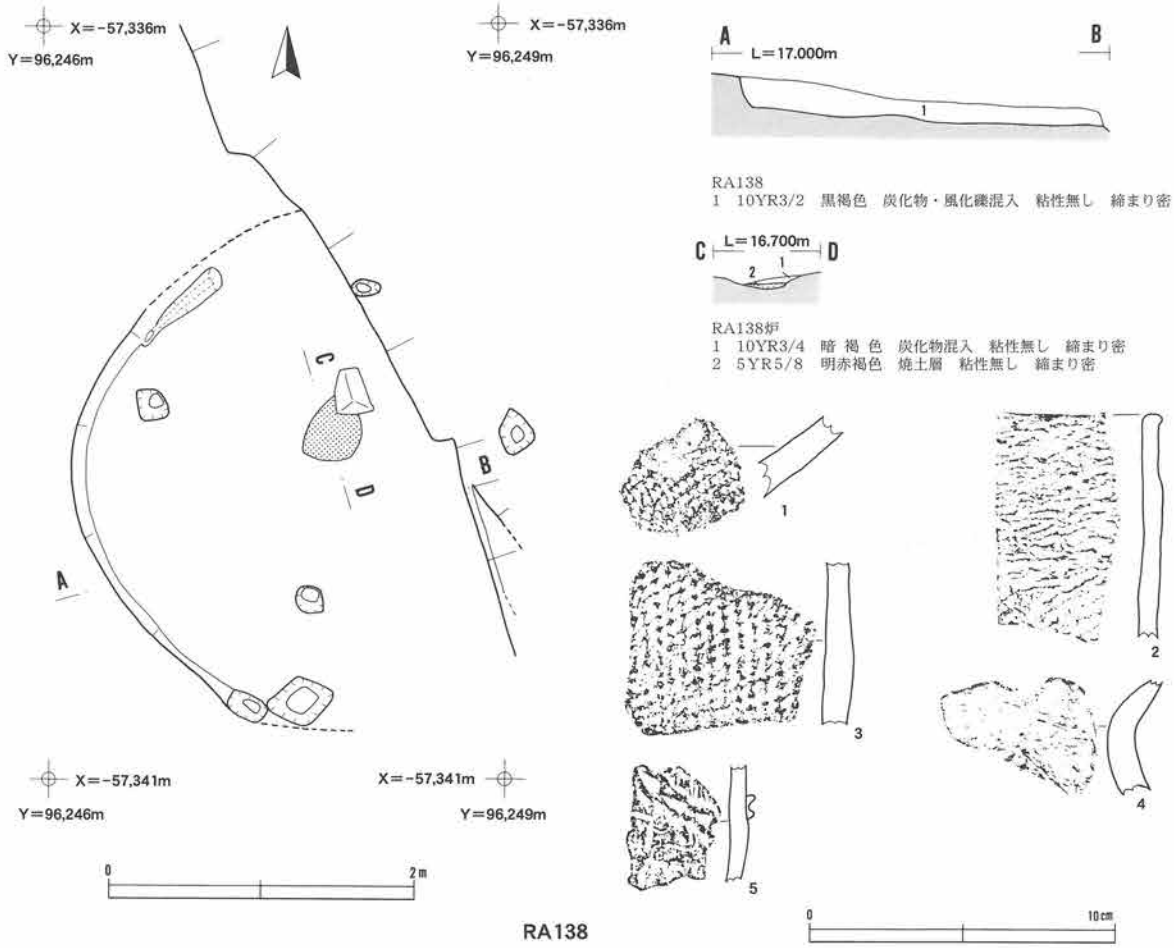
調査地中央付近に位置しⅢ層上面で検出された。平面形は隅丸長方形状を呈し、壁は直立する。規模は長軸2.7m・短軸1.8mで、壁高は約20cmである。埋土は風化礫の混入する暗褐色土を主とし粘性は微弱で締まりはやや疎である。底面はほぼ平坦で、やや締まっている。東側壁際に径15cm・深さ13cmの柱穴状土坑が



第125図 RA136・137住居跡



第126図　RA136・137出土遺物



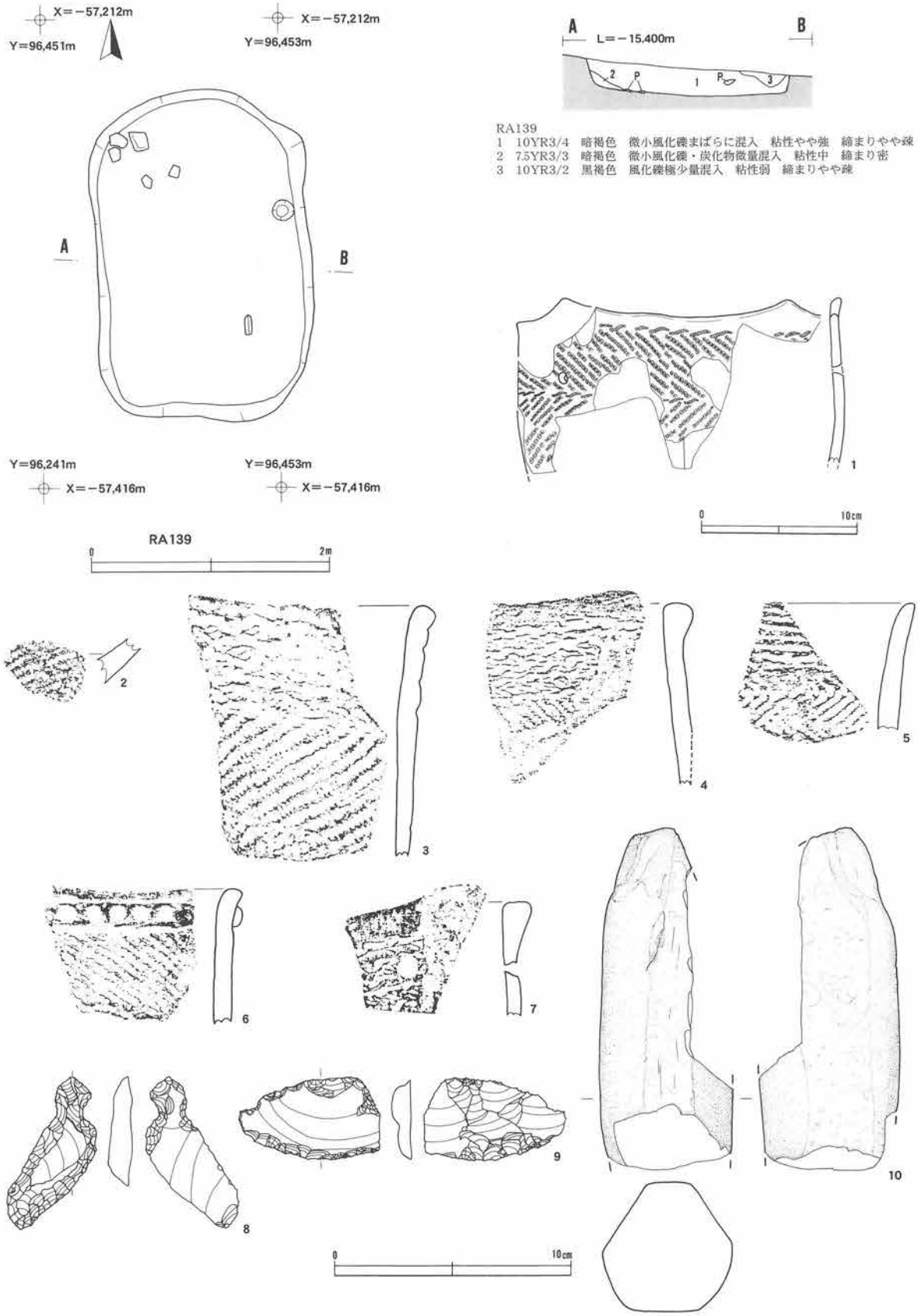
RA138

第127図 RA138住居跡

1基ある。

出土遺物は、北西側の床面や埋土から縄文時代前期の土器片や石器が得られている。128-1は波状口縁の深鉢で、結節のある羽状縄文が施文されている。128-2は尖底土器片である。3～7も前期の土器片で、胎土にセンイを混入している。石器は石匙・削掻器・磨石各1点である。磨石は柱状礫の縁辺に磨面が形成されている。

遺構の時期は、出土土器から縄文時代前期前葉と思われる。



第128図 RA139住居跡

土坑

RD75土坑（第129図：写真図版121）

調査地の南西、RA123の西に位置し、Ⅳ層上面で検出された。南側は調査地外に続くが、平面形は楕円形状を呈しているようである。壁はほぼ直立する。規模は調査部分で長軸1.5m・短軸1.9mで、深さは西側で15cmである。長軸は推定で3m前後と思われる。埋土は上位が黒褐色土、下位が黄褐色土で、双方に風化礫が混入し、締まりはやや密である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はない。

遺構の時期は、検出面や埋土から縄文時代と思われる。

RD52土坑（第129図：写真図版121・135）

調査地の南西、RA523住居跡の西に位置し、Ⅳ層上面で検出された。平面形は楕円形状を呈し、南西側は階段状の段差になるが壁は直立気味である。規模は1.5×1.3m、壁高は西側で約30cmである。埋土は上位が礫を少量含む黒褐色土、下位は風化礫の混入する黄褐色土で構成される。底面は平坦で、南西側が段状になり、少し上がる。

出土遺物は埋土から縄文土器片が少量と石匙1点が得られている。縄文土器片は胎土にセンイを含む縄文時代前期前葉のものである。

遺構の時期も縄文時代前期前葉と思われる。

RD53土坑（第129図：写真図版121・135）

調査地西側中央付近、RA137住居跡の南に位置し、Ⅲ層下位で検出された。斜面上位方向の西側の壁と底面が残存し、東側に隣接するRZ20落とし穴に切られている。平面形は楕円形を呈していたと思われ、壁は傾斜して立ち上がる。規模は長径2.1m・壁高は最大15cmである。埋土は風化礫がまばらに混入する黒色土で構成され、粘性は無く、締まりは中である。底面は平坦で、締まりは密である。

出土遺物は埋土から縄文時代中期の土器片が数点得られている。

遺構の時期は、縄文時代中期と思われる。

RD54土坑（第130図：写真図版121・135）

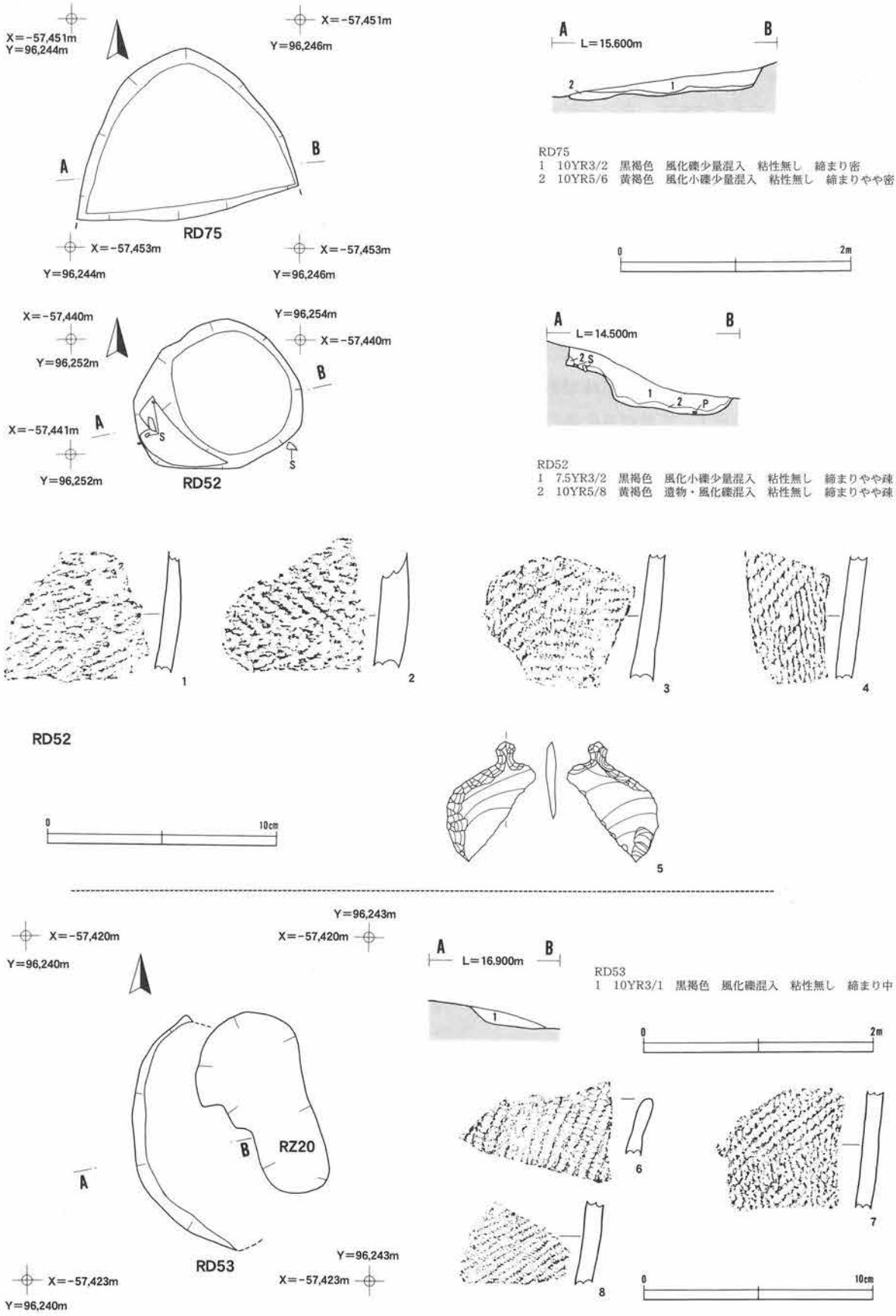
調査地西側中央付近、RA137とRA524住居跡の間に位置し、Ⅳ層上面で検出された。平面形はややいびつな長方形状を呈し、壁は浅く直立気味である。規模は長軸1.9m・短軸1.2m、壁高最大10cmである。埋土は主に風化礫や炭化物の混入する黒褐色土からなり、締まりはやや密である。底面はほぼ平坦で、締まりは密である。

出土遺物は、埋土から、胎土にセンイの混入する縄文時代前期の土器片が出土している。

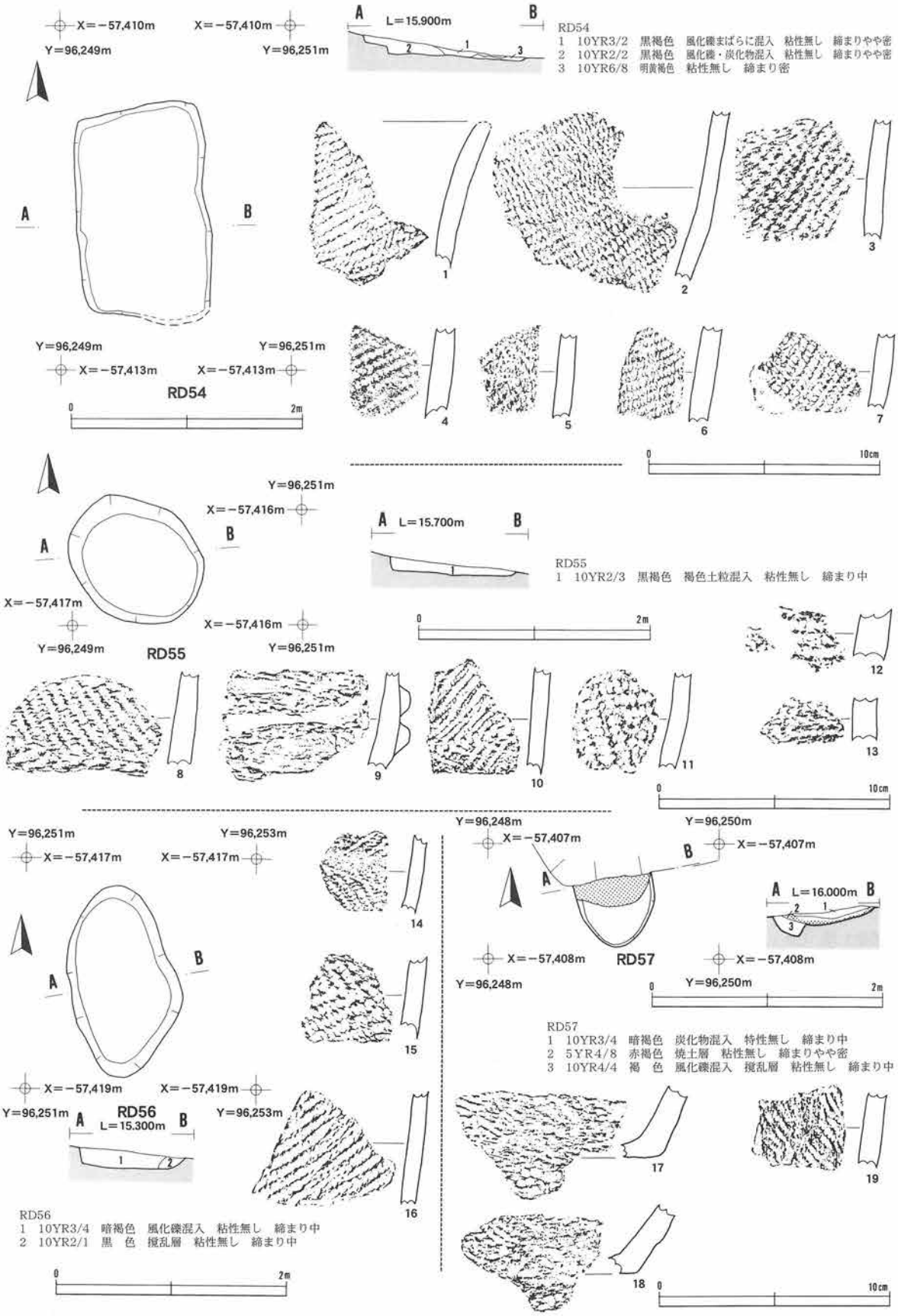
遺構の時期も縄文時代前期と思われる。

RD55土坑（第130図：写真図版122・135）

調査地西側中央付近、RA137とRA524住居跡の間に位置し、Ⅳ層上面で検出された。RD54土坑の南、RD56土坑の北西である。平面形は楕円形状を呈し、壁は直立気味に外傾する。規模は長軸1.2m・短軸1mで、壁高は10cmである。埋土は風化礫の混入する暗褐色土で構成され、締まりは中である。底面はほぼ平



第129図 RD75・52・53土坑



第130図 RD54・55・56・57土坑

坦で、締まりは中である。

出土遺物は、埋土から、胎土にセンイの混入する縄文時代前期の土器片が数点得られている。

遺構の時期も縄文時代前期と思われる。

RD56土坑（第130図：写真図版122・136）

調査地西側中央付近、RA137とRA524住居跡の間に位置し、Ⅳ層上面で検出された。RD55土坑が北西にある。平面形は不整な楕円形で、壁は直立する。規模は長軸1.65m・短軸1mで、深さ10cmである。埋土は褐色土粒の混入する黒褐色土で構成され、締まりは中である。底面は平坦で、締まりは中である。

出土遺物は、埋土から、胎土にセンイの混入する縄文時代前期の土器片が数点得られている。

遺構の時期も縄文時代前期と思われる。

RD57土坑（第130図：写真図版122・136）

調査地西側中央付近、RA524住居跡の西に位置し、二次調査のRA521住居跡の南側壁に検出された。北側は同遺構に切られているため、南側部分しか残存しない。平面形は楕円形状で、底面から壁は緩く湾曲して立ち上がる。残存部の規模は60×70cmで、深さは最大10cmほどである。埋土上位は炭化物の混じる暗褐色土で、北側の下位は焼土層である。底面は北側が焼けて、締まりもやや密である。南側は焼けていない。

出土遺物は、埋土から、胎土にセンイの混入する縄文時代前期の土器片が数点得られている。

遺構の時期も縄文時代前期と思われる。

RD58土坑（第131図：写真図版122・136）

調査地西側の山麓緩斜面に近いところに位置し、Ⅳ層上面で検出された。平面形は楕円形状で、壁はほぼ直立する。底面は斜めで、西側が低い。規模は開口部径60cm×50cmで、深さ約40cmである。埋土は暗褐色土で構成され、締まりは疎である。底面から縄文土器片と焼けた礫が出土している。

また、関連性は不明だが当遺構の東側60cmの所に径25cm・深さ60cmほどの柱穴状土坑がある。

底面から出土した土器片は胎土にセンイの混じる縄文時代前期前葉のものである。

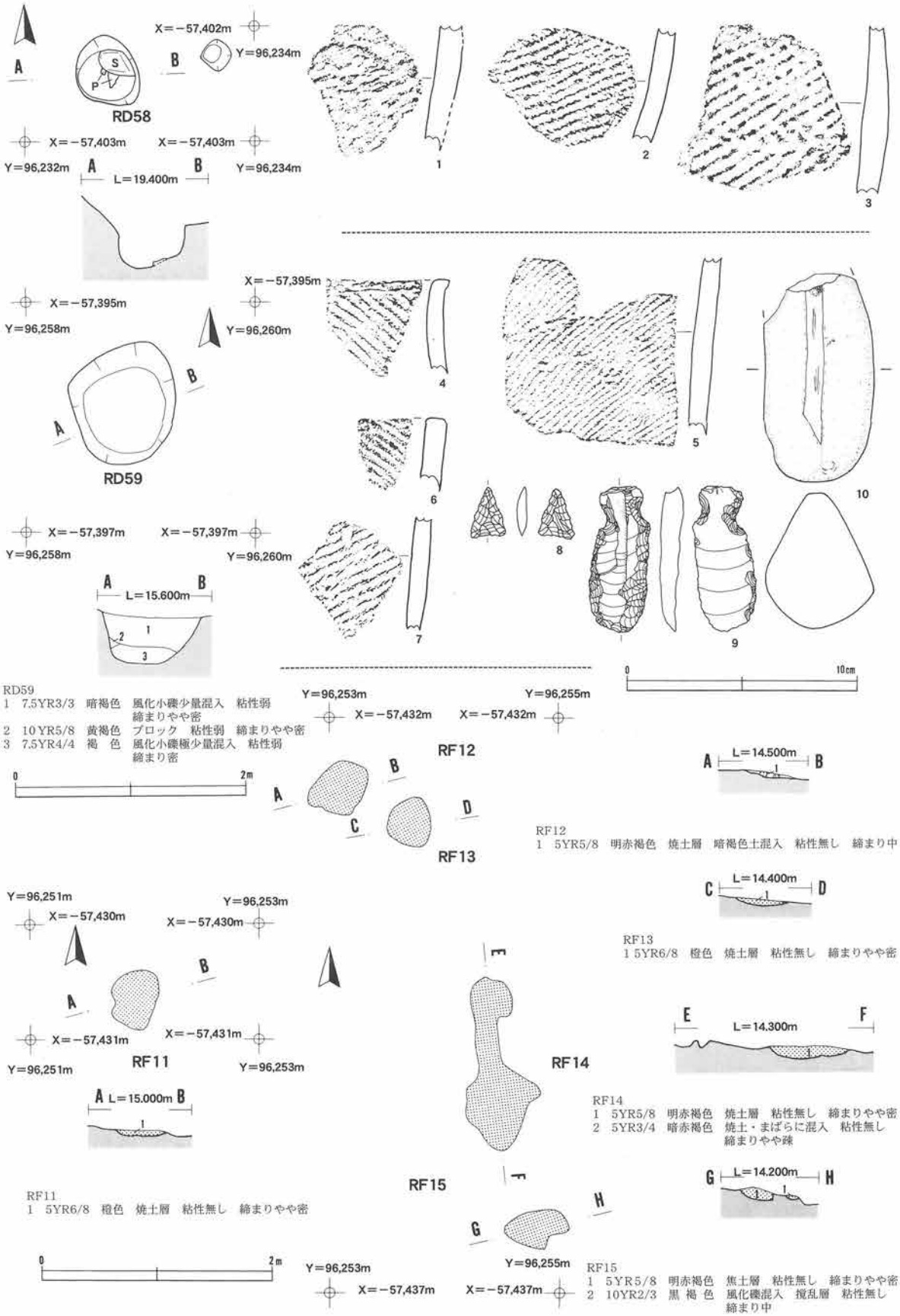
遺構の時期も縄文時代前期前葉と思われる。

RD59土坑（第131図：写真図版123・136）

長方形大型住居跡RA116の南東に位置し、Ⅲ層上位で検出された。平面形は円形を基調とし、壁は内湾気味に外反して立ち上がる。底面はやや湾曲する。規模は、開口部径約90cm・深さ40cmである。埋土は上位が風化礫の混じる暗褐色土、下位が風化礫の混じる褐色土で構成され、締まりは上位がやや密、下位が密である。

出土遺物は、埋土から、縄文土器片が数点と石器3点が得られている。縄文土器片は中期のものである。石器は石鏃・石匙・磨石各1点で、磨石は破損しているが角柱状の礫の縁辺に磨痕が形成されている。

遺構の時期も縄文時代前期と思われる。



第131図 RD58・59土坑、RF11～15焼土遺構

焼土遺構

RF11焼土遺構（第131図；写真図版123）

調査地の南西部に位置しRF12～15と共にⅢ層上位で検出された。焼土の広がりは楕円形状を呈し、石組みや埋設土器は見られない。また、周囲に床面や壁など住居跡の痕跡も確認されなかった。規模は50cm×40cmで、焼土の厚さは最大4cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF12焼土遺構（第131図；写真図版123）

調査地の南西部に位置しRF11～15と共にⅢ層上位で検出された。RF13は30cmほど東に隣接する。焼土の広がりは楕円形状を呈し、石組みや埋設土器は見られない。また、周囲に床面や壁など住居跡の痕跡も確認されなかった。規模は60cm×45cmで、焼土の厚さは最大4cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF13焼土遺構（第131図；写真図版123）

調査地の南西部に位置しRF11～15と共にⅢ層上位で検出された。RF12の30cmほど東に隣接する。焼土の広がりは楕円形状を呈し、石組みや埋設土器は見られない。また、周囲に床面や壁など住居跡の痕跡も確認されなかった。規模は40cm×35cmで、焼土の厚さは最大5cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF14焼土遺構（第131図；写真図版124）

調査地の南西部に位置しRF11～15と共にⅢ層上位で検出された。RF13とRF15の中間付近に位置する。焼土の広がりは不整な帯状で、石組みや埋設土器は見られない。また、周囲に床面や壁など住居跡の痕跡も確認されなかった。規模は長さ1.5m・幅20～60cmで、焼土の厚さは最大10cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF15焼土遺構（第131図；写真図版124）

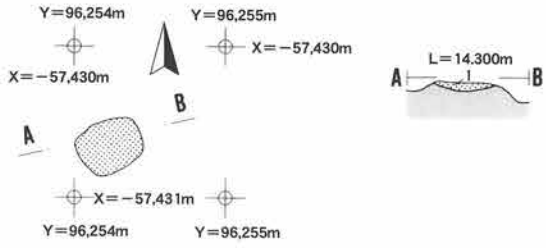
調査地の南西部に位置しRF11～14と共にⅢ層上位で検出された。RF14の50cmほど南に隣接する。一部撹乱を受けているが焼土の広がりは楕円形状を呈し、石組みや埋設土器は見られない。また、周囲に床面や壁など住居跡の痕跡も確認されなかった。規模は55cm×30cmで、焼土の厚さは最大8cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF16焼土遺構（第132図；写真図版124）

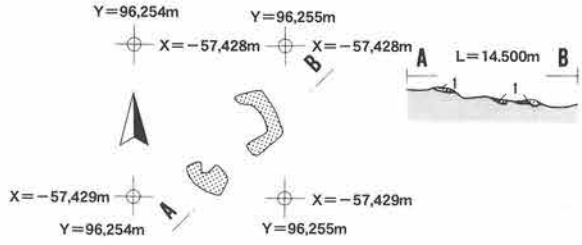
調査地西部中央付近RA135住居跡の南に位置し、Ⅲ層上位で検出された。焼土の広がりは楕円形状で、周囲に柱穴状土坑や壁溝など住居跡の痕跡を示すものは見られない。規模は45×35cmで、焼土の厚さは最大5cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。



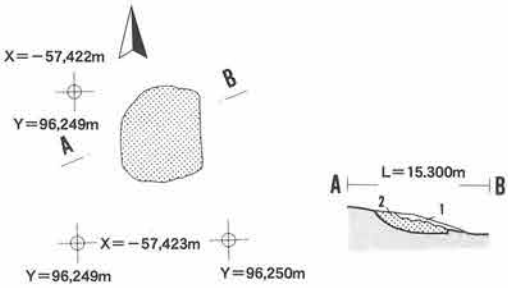
RF16

RF16
1　10YR5/8　明赤褐色　焼土層　粘性無し　締まり中



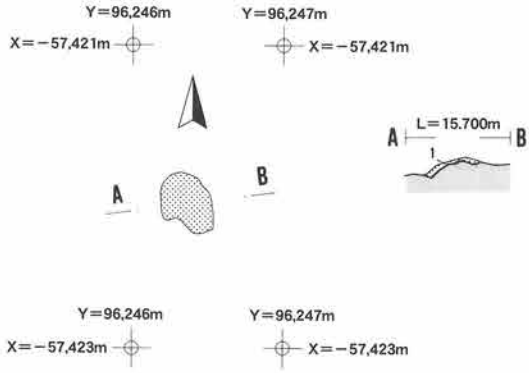
RF17

RF17
1　5YR4/8　赤褐色　焼土層　粘性無し　締まりやや疎



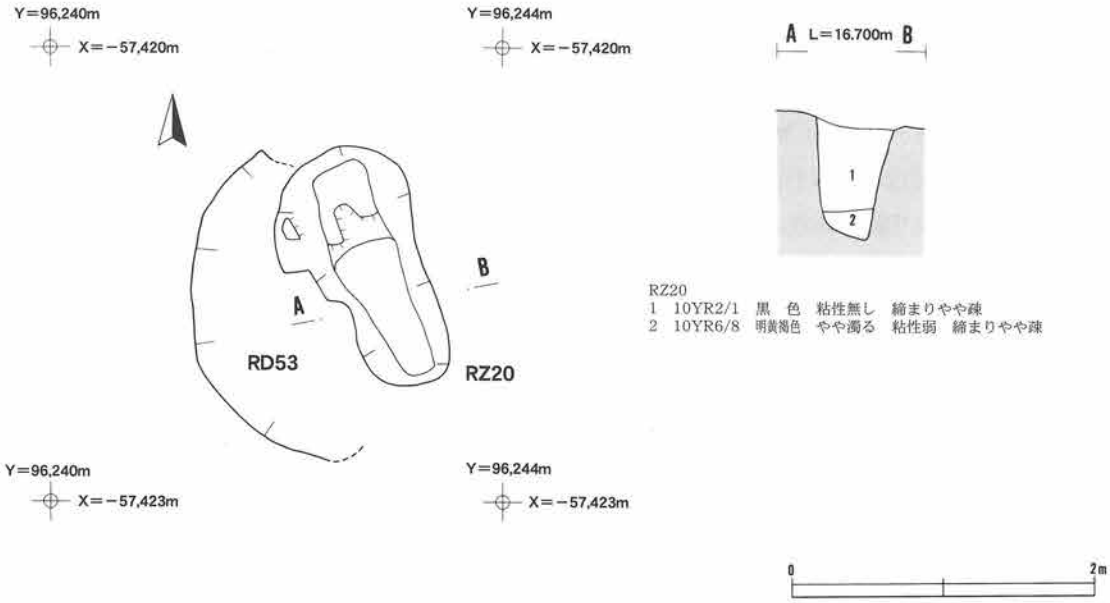
RF18

RF18
1　7.5YR3/3　暗褐色　焼土粒混入　粘性無し　締まりやや疎
2　5YR5/8　明赤褐色　焼土層　粘性無し　締まり中



RF19

RF19
1　5YR4/4　鈍い赤褐色　焼土層　粘性無し　締まりやや疎



RZ20
1　10YR2/1　黒　色　粘性無し　締まりやや疎
2　10YR6/8　明黄褐色　やや濁る　粘性弱　締まりやや疎

第132図　RF16～19焼土、RZ20落とし穴

RF17焼土遺構（第132図；写真図版124）

調査地西部中央付近RA135住居跡の南、RF16の北に位置し、Ⅲ層上位で検出された。焼土の広がりは二つの不整な弧状で、楕円形状のものが削られた可能性もある。周囲には柱穴状土坑や壁溝など住居跡の痕跡を示すものはない。規模は45×25cmと30×15cmで、焼土の厚さは最大2cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF18焼土遺構（第132図；写真図版125）

調査地西部中央付近RA137とRA134の間に位置し、Ⅲ層上位で検出された。焼土の広がりは不整な楕円形で、周囲に柱穴や壁の一部等住居跡の痕跡は見られない。規模は45×35cmで、焼土の厚さは最大8cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

RF19焼土遺構（第132図；写真図版125）

調査地西部中央付近RA137とRA134の間に位置し、Ⅲ層上位で検出された。西側3m付近にはRF18がある。焼土の広がりは不整な楕円形で、周囲に柱穴や壁の一部等住居跡の痕跡は見られない。規模は65×55cmで、焼土の厚さは最大4cmである。

遺構の時期は、伴出遺物はないが、検出層位から縄文時代中期と思われる。

その他の遺構

RZ20落とし穴（第132図；写真図版125）

調査地西側中央付近、RA137住居跡の南にRD53と共にⅢ層中で検出された。短い溝状を呈し、壁は直立気味である。長軸は等高線にほぼ並行し、南北方向を示す。規模は長軸1.7m・短軸0.6～1mで、深さは約70cmである。埋土は主に締まりのない黒色土からなり、底面付近は壁の崩落と思われる明黄褐色土で構成される。底面は一部に段差があり、南に向かって傾斜している。

遺構の時期は、出土遺物はないが、検出面や埋土から縄文時代中期と思われる。

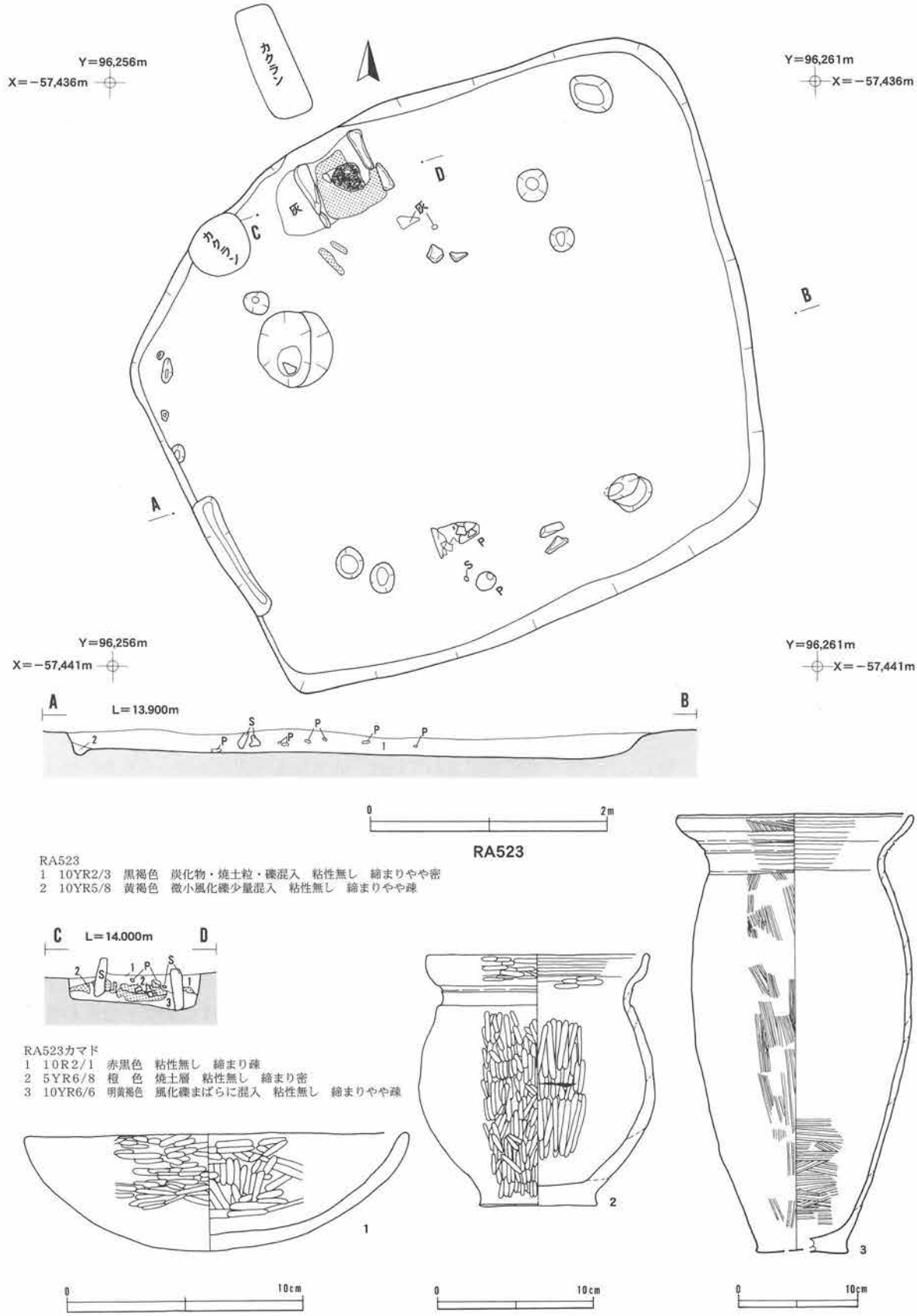
(2) 古代

RA523住居跡（第133・134図：写真図版126・136・137）

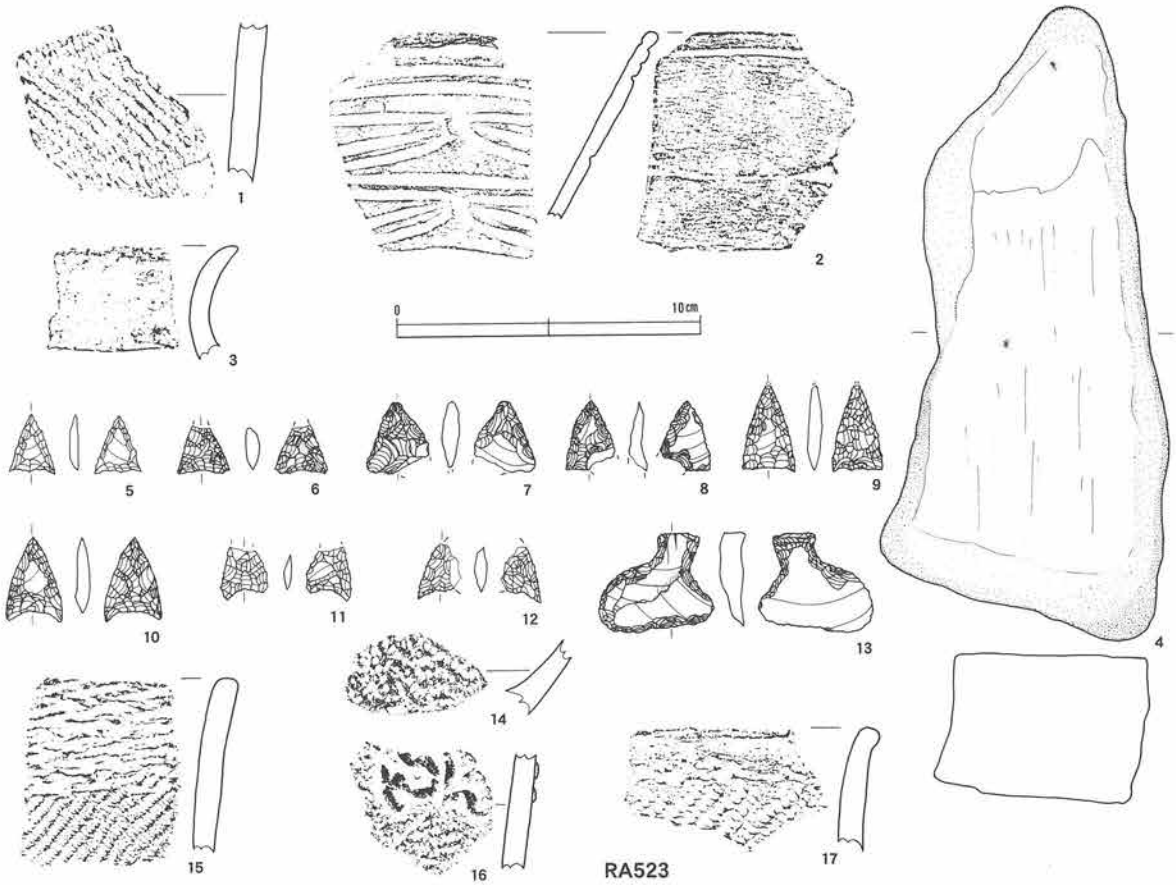
調査地南側の中央付近のⅡ層下位に検出された。縄文時代の住居跡の上位に位置している。また近くに調査開始前に移築した住宅跡があり、それに関連した撹乱も受けている。また、三次調査と四次調査の境界上にあり、三次調査では不整な台形状の平面形で北西壁のやや東寄りにカマドがあるように検出された。四次調査の際に東側を下げ、ややいびつな方形状の平面形を持ち、カマドは北側壁中央にあることが判明した。規模は、南北約4.5m・東西約5mである。壁は直立気味で、検出面からの深さは10～15cmである。埋土は炭化物や焼土・礫の混入する黒褐色土で構成されている。粘性はなく、締まりはやや密である。

床面はほぼ平坦で、南西側に柱穴状土坑が1基、北西側にやや大きな土坑1基がある。規模は、前者は開口部径25cm・深さ20cm、後者は開口部径70cm・深さ60cmほどである。四次調査では床面下から6基の柱穴状土坑が検出され、PP1～PP3・PP5がほぼ対角線上に配置する。規模は開口部径20～30cm・深さ25～30cmである。

西側壁際には長さ1m・深さ5cmの溝があり、埋土は風化礫の混入する黄褐色土である。また、南寄りの



第133図 RA523住居跡



第134図　RA523住居跡出土遺物（2）

床面上に横位の長胴の甕と、倒立した球状の甕が検出されている。四次調査の際は東側から丸底の坏が検出されている。

カマドは検出面に袖の芯にしたブロック状の礫が露出しており、煙道部分は新しい撹乱土坑で破損している。左右の袖はブロック状の礫を芯にして30cmほど埋め込み、褐色土を貼り付け、長さ60cm、袖と袖の間隔は60cmに作られている。焚き口部から煙道にかけては緩く傾斜して上がる。焚き口あるいは燃焼部は焼土が15cmほどの厚さで形成され、上位に炭化物が残る。袖の西側と焚き口手前には灰層のブロックが見られた。

出土遺物は、床面から検出された上記の甕2点・坏1点のほか、埋土から土師器片や縄文土器片が得られている。133-1の坏は丸底の底部から口縁部まで湾曲して連続し、内外に丁寧なミガキが施されている。133-2甕は頚部に小さいが明瞭な段を2段持ち、内外面とも丁寧に磨かれている。133-3は大型の長胴甕で、口縁部が「く」の字に開く形状をしている。頚部に小さな段が3段形成され、内外ともハケメ調整がなされている。133-4は煉瓦状の流紋岩礫から作った砥石で、表裏二面に磨面が形成されている。

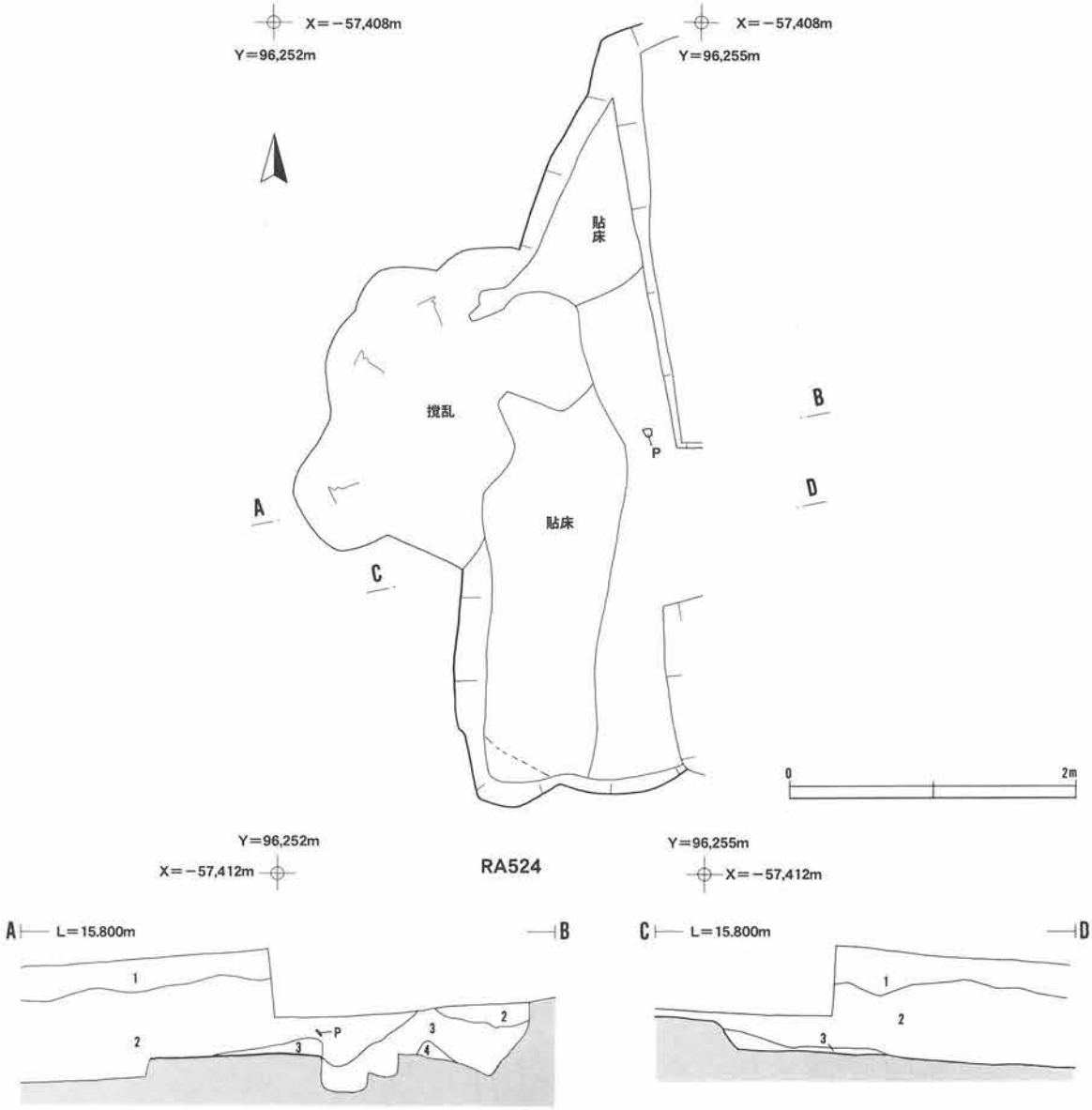
埋土から出土した土器片には134-14・15のように胎土にセンイが混入する縄文時代前期前葉のもの134-16のように粘土紐を貼り付けて文様を表した前期中葉のもの・弥生時代（134-2）などが含まれる。石器は石鏃8点と石匙1点がある。

遺構の時期は、出土遺物やカマドの位置から奈良時代と思われる。

RA524住居跡（第135図：写真図版127）

調査地西側の中央付近のⅡ層下位に検出された。西側は新しい土取り穴による撹乱を受けている。また東側は黒色土中に形成されているようだが、貼り床の痕跡もなく、床面や壁が不明瞭である。大きな撹乱を受けているのかもしれない。そのため西側の壁と床面の一部のみが検出された。西側の壁は長さ約5mが残存し、中央が少し膨らむ。壁高は30～40cmである。床面は貼り床され、平坦で、締まりもやや密であるが、西側壁際が大きく撹乱されている。東側は、一次調査の際に大きく削られているが、残されたベルト断面に貼り床の痕跡は見られない。

埋土からロクロ使用の土師器片や縄文土器片・鉄滓が少量得られている。



RA524
1　10YR3/4　暗褐色　表土層　粘性無し　締まり疎
2　10YR2/1　黒　色　遺物混入　粘性無し　締まり疎
3　10YR2/1　黒　色　明黄褐色土ブロック混入　粘性無し　締まりやや疎
4　10YR4/4　褐　色　黒色土混入　粘性無し　締まり中

第135図　RA524住居跡

遺構の時期は、隅丸方形的な平面形が予測されることから、古代の可能性が高い。

RA525住居跡（第136・137図：写真図版128・137）　＊RA34との関連にも注意

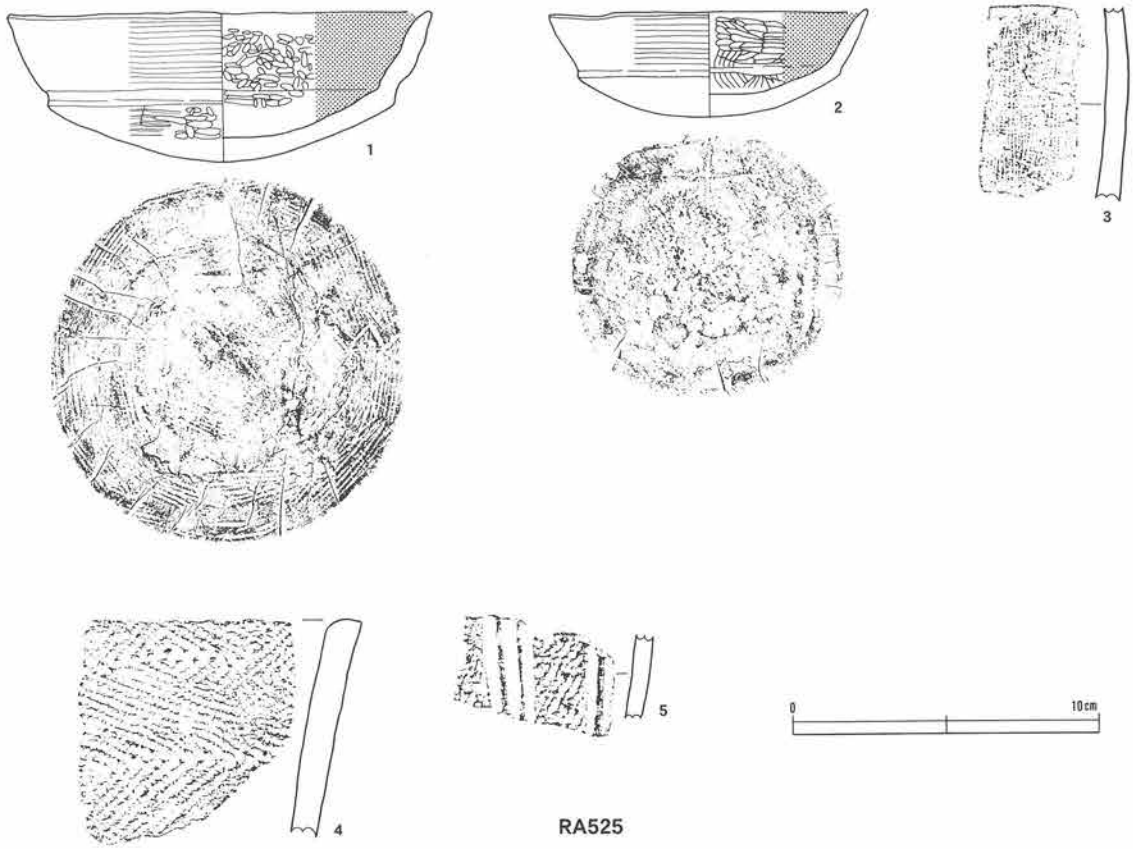
調査地の北側に位置し、縄文時代の長方形大型住居跡RA116の上位に検出された。南側は調査手順の誤りで壁や床は残存せず、北側の煙道部分は移転した住宅の水槽に切られている。東側の壁は住宅の庭で撹乱されているようだが、途中で南西に曲がるものと思われる。北西の角は隅丸となるが、一辺約5.5mの方形になるようである。壁高は検出面から25～30cmである。北西壁の中央にカマドがある。埋土は炭化物や黄褐色土の混じる黒褐色土で構成され、粘性はなく、締まりは疎である。

床面は平坦で、ほぼ対角線上に柱穴が4基検出されている。南側の2基は下位の縄文時代の住居跡に検出されたが、4基の柱穴底面のレベルはほぼ同じである。北側の柱穴は開口部径30～40cmで、深さ約55cmである。

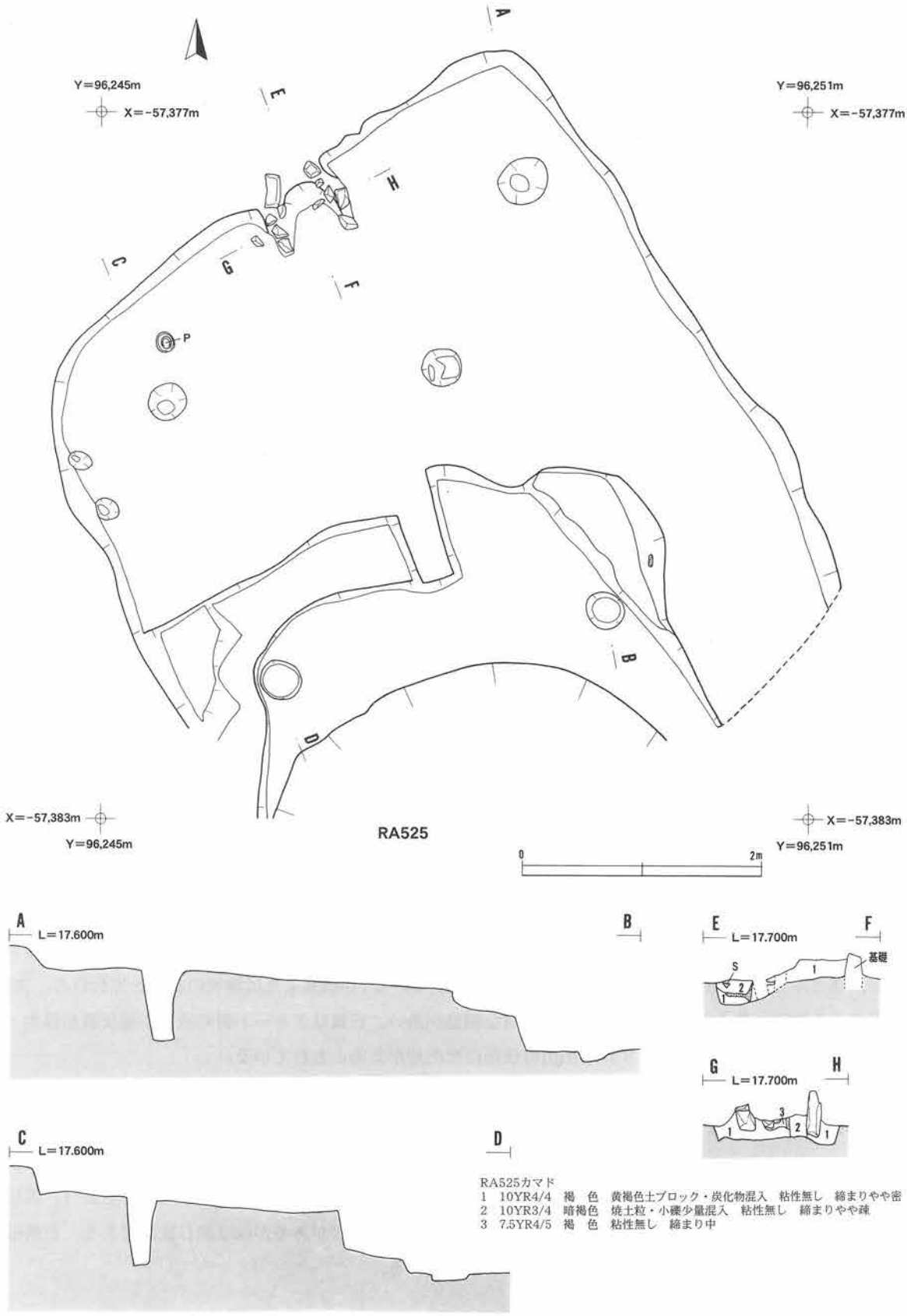
カマド付近も上面が削られているようで、袖に使われた礫が露出している。ブロック状の礫を芯にし褐色土を貼り付けて作られた袖の長さは約40cm。袖と袖の幅は60cmである。焚き口部から煙道部に向かって緩く傾斜して上がるが、煙道部は水槽に切られている。

出土遺物は、カマドの西側の柱穴の近くの床面から坏が2個体重なって検出されている。1個体（136-1）は外側に段のあるやや大きな坏で、丸底で内外面を丁寧に磨き、内面は黒色処理が施されている。底部外側には家のような絵と菱形を連ねたような絵が線刻されている。二個体重なった内側にあったもう1個体（136-2）は1同様外側に段が形成された丸底の小型の坏で、内外面が黒色処理されている。底部外面には「十」字の線刻がされている。その他に埋土から土師器片や縄文時代前期や中期の土器片が出土している。

この遺構の時期は、出土遺物やカマドの位置から奈良時代と思われる。



第136図　RA525住居跡出土遺物



第137図 RA525住居跡

3　遺構外の出土遺物

土器

(1)　縄文時代前期の土器（第138図1～第139図9：写真図版137・138）

復元個体は1点のみである、ほとんどが深鉢形を呈し、口縁部は波状のものもあるが平縁のものが多いようである。胎土にセンイを含み、羽状文や斜縄文・撚糸文・綾絡文などが施文される。口辺部に粘土紐が貼られ連続押圧されたものもある。大木1式相当のものからＳ字状の沈文が連続する大木2b式に相当するものが多く、粘土紐貼り付けによる施文の大木4式の土器片も僅かに見られる。

(2)　縄文時代中期の土器（第139図11～13：写真図版138）

復元個体は1点のみである。深鉢形で、肥厚した口縁に平行線で施文されたり、隆帯と擦り消し帯で文様が施文されるものがある。

(3)　土師器・須恵器（第139図14～17：写真図版138）

14・15は土師器の甕である。14は頸部に小さな段が形成されている。内外面は主にハケメで調整されている。15は底部がやや張り出し胴部は丸く膨らみそうである。外面はナデ、内面はハケメの調整が施されている。16・17は須恵器で、16はロクロの回転切り離し痕が残る。

鉄製品（第139図18～21：写真図版138）

18は挂甲の小札と思われる。隅丸長方形の板状で、札頭はやや斜めになる。寸法は長さ85㎜・幅45㎜・厚さ約2㎜で、径1㎜の孔が7個と6個2列に開けられている。19・20は棒状の製品で、19は角棒状のものに針金が螺旋状に巻かれている。21は火打ち金と思われ、二等辺三角形の板状をし、錆で覆われているが、頂点付近に穿孔がある。

石器

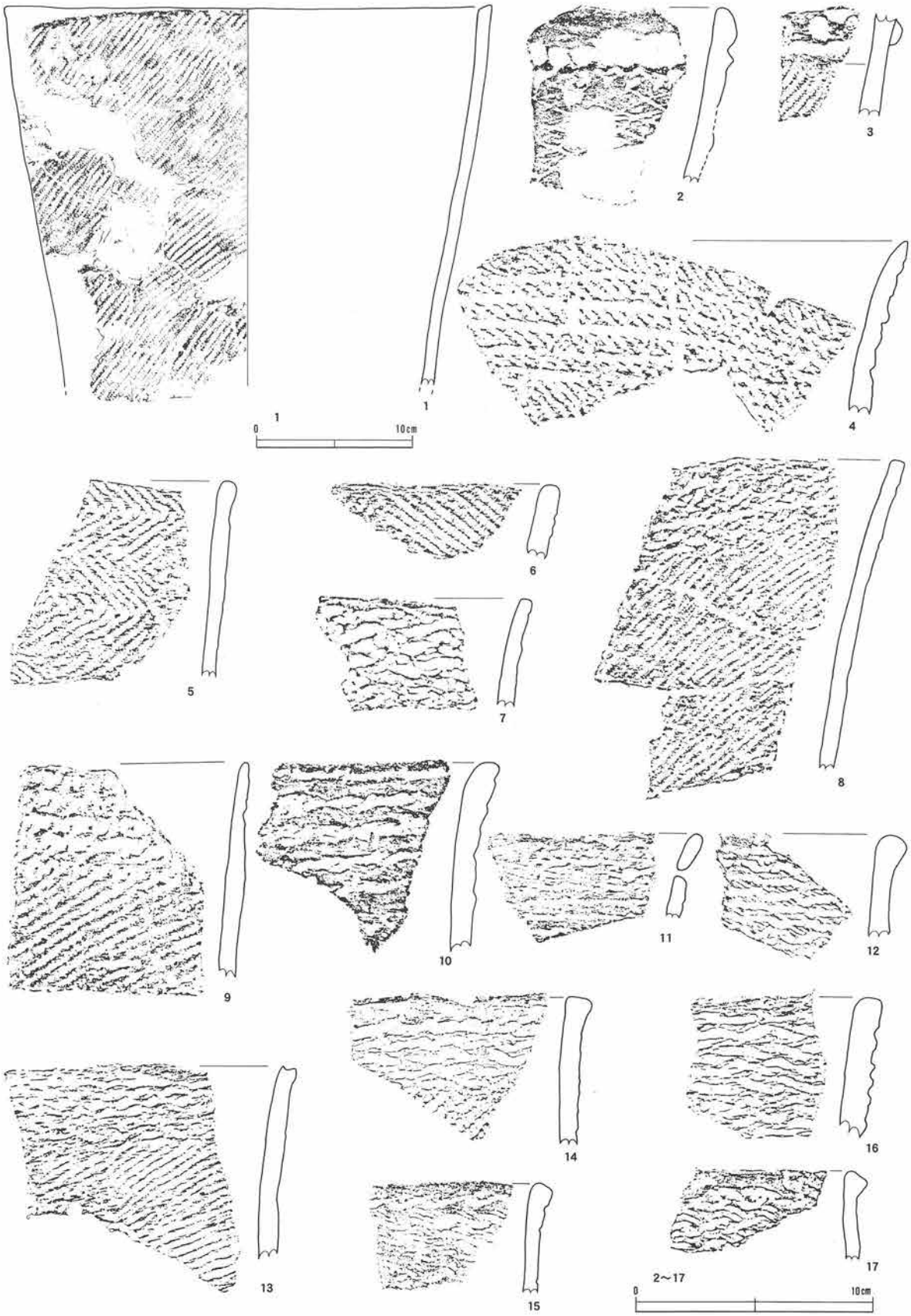
遺構外から出土した石器は石鏃27点、石匙18点、削掻器5点、石槍2点、石箆1点、楔形石器1点、磨石7点、磨製石斧1点である。

(1)　石鏃（第140図1～27：写真図版139）

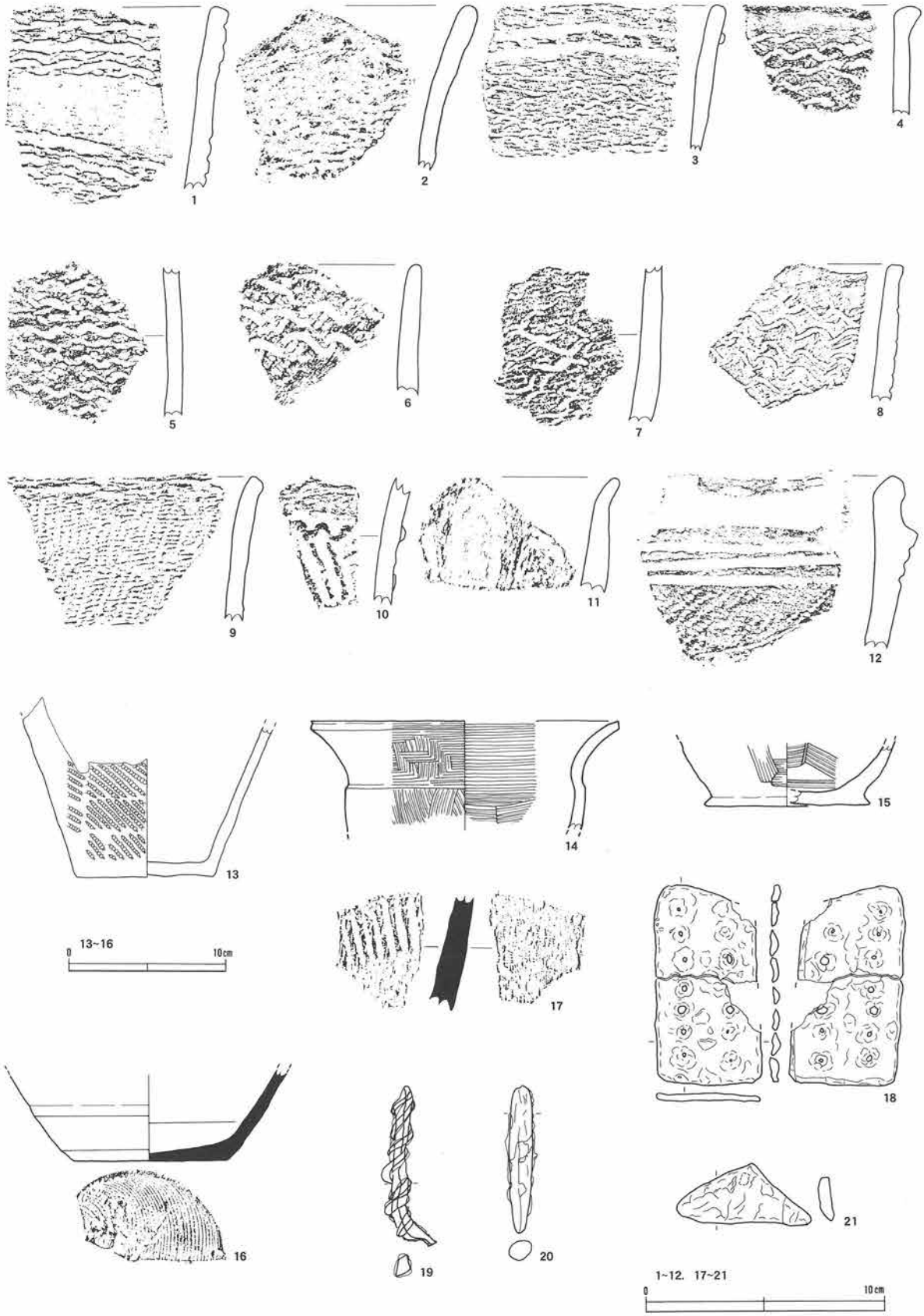
石鏃は遺構内も含めると49点出土している。その過半数の27点が遺構外からの出土である。破損品もあるが、ほとんどが平基か凹基の二等辺三角形状である。24～27が凸基または棒状の石鏃と思われる。また、石鏃のような形に整えただけというような粗雑な調整が多い。石質はチャート質粘板岩や凝灰質粘板岩・粘板岩・赤褐色凝灰岩などで、いずれも山田町西部に産出地があるとされている。

(2)　石匙（第140図28～45：写真図版139・140）

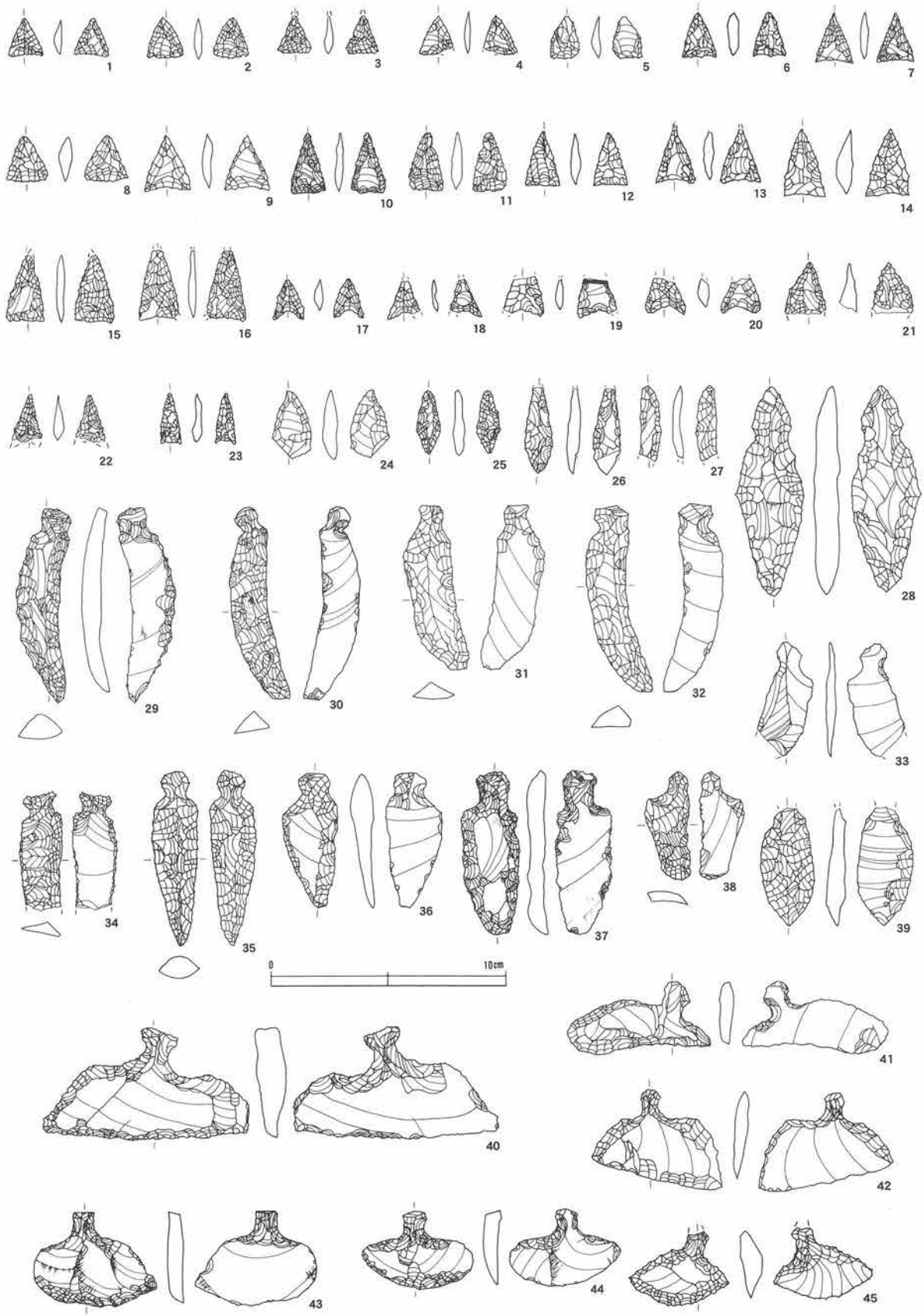
石匙は総数39点出土し、遺構外からは18点出土している。つまみ部が作り出されたものをすべて石鏃としたが、28や35のように両面から剥離調整が施され、刃部の断面が菱形になるようなものもあり、石槍的な機能が想定される。つまみを上にして、縦長のものと横長のものがあるがほぼ同じ比率である。石質は石鏃同様チャート質凝灰岩や凝灰質粘板岩・粘板岩などがある。



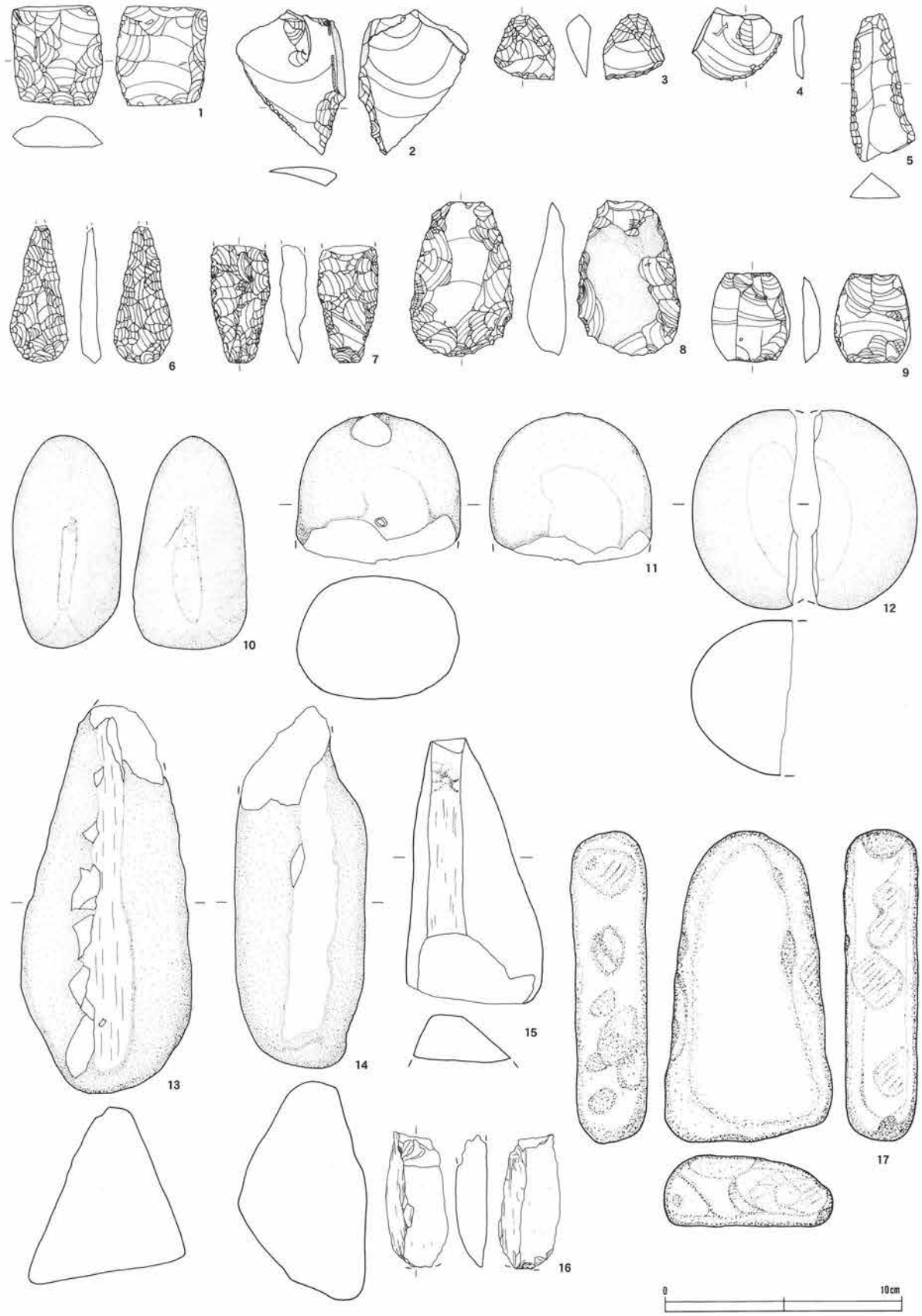
第138図　遺構外出土遺物（土器1）



第139図　遺構外出土遺物（土器2、鉄製品）



第140図　遺構外出土遺物（石器1）



第141図　遺構外出土遺物（石器2）

(3) **削掻器**（第141図1～5：写真図版140）

削掻器は総数9点、遺構外の出土5点である。不定形な剥片の縁辺に刃部加工が施されている。石質は粘板岩やチャート質粘板岩である。

(4) **石槍**（第141図6・7：写真図版140）

石槍は総数3点、遺構外2点の出土である。いずれも破損品である。石材は遺構伴出のものが粘板岩、遺構外のものがチャート質粘板岩・チャート質凝灰岩である。

(5) **石箆**（第141図8：写真図版140）

石箆は1点の出土である。裏側に自然面の残る剥片の表側に急角度の厚い刃部加工がなされている。石質は粘板岩である。

(6) **楔形石器**（第141図9：写真図版140）

総数4点、遺構外1点の出土である。長方形状の剥片の両端に階段状の剥離が形成されている。石質は粘板岩やチャート・凝灰質粘板岩である。

(7) **磨石**（第141図10～15・17：写真図版140）

磨石は総数13点、遺構外7点の出土である。円礫の平坦面に磨面が形成されるものと、角柱状礫の縁辺に磨面の形成されるものがある。磨面の他に敲打痕を伴うものも多い。石質は細粒凝灰岩や安山岩・花崗閃緑岩・半花崗岩・硬砂岩などで、剥片石器同様山田町の周辺で産出するものである。

(8) **磨製石斧**（第141図16：写真図版140）

磨製石斧は総数2点、遺構外1点の出土である。刃部付近の一部のみ残存する破損品である。石質は凝灰岩質粘板岩である。

4　まとめ

今年度の調査は第三次調査となり、980㎡を1カ月間で調査し、縄文時代の住居跡9棟・土坑9基・焼土遺構9カ所・落とし穴1カ所、古代の住居跡3棟を調査した。中でも昨年度と二年度に亘って調査した縄文時代の大型住居跡は、長さ20m・幅6mと東北の大平洋側では最大の規模となり、5期以上の建て替えがなされていたことも明らかになった。調査の途中ではあるが、当地方における縄文時代前期前葉の集落の様子が明らかになってきた。また、前期初頭の尖底土器を伴う住居跡も検出され、縄文時代前期初頭から集落が継続していたことが明らかになった。

古代の住居跡も、昨年度と同様に奈良時代から平安時代にかけてのものが調査された。この地方では他の遺跡からも同時期の住居跡が検出されているが、平地面積の広い当遺跡では一次調査から多くの住居跡が検出され、この地区では規模の大きな集落が継続していたことを窺わせている。

遺物の中で土器は、縄文時代前期初頭から中期中葉・弥生時代・奈良平安時代の土師器・須恵器まであり、それぞれの遺構に伴うものが多かった。中でも縄文時代前期前葉の土器片は遺構数同様に多く、重複する遺

構の撹乱が多かったせいか、他の多くの遺構の埋土にも混入していた。

鉄製品も少量出土している。遺構に搬出しなかったので時代の特定ができなかったが、挂甲の小札が注目される。特に図や写真は載せなかったが、一次・二次調査同様鍛冶滓やフイゴ羽口片も出土しており、鍛冶加工が近くで行われていたようである。

石器は石鏃49点、石槍3点、石匙46点、石錐1点、石箆1点、削掻器13点、楔形石器4点、磨石17点、台石2点、磨製石斧4点、砥石1点・石剣1点の10器種142点の出土である。各器種とも遺構に搬出したものが多く、特に大型住居跡であるRA116住居跡からの出土が多い。埋土からの出土が多いことから大型住居の埋土量や重複する周辺の遺構との関連があるようである。屋内外での各器種の使用状況や保管状況については不明である。今年度の調査の結果だけから見れば、石鏃や石槍が多く、磨石や台石が少なく、生業が狩猟に重点を置いていたかのような感じも受けるが、遺跡の一部の調査結果だけなので今後の検討課題としたい。石材は、各器種とも機能に応じた素材を使用している。いずれの素材も山田町周辺で産出するもので、遺跡から比較的近い所で入手したようである。石器ではないが、剥片が数点まとまって検出された遺構もいくつかあった。

遺構一覧表

縄文時代住居跡

No.	遺構名	平面形（含予測）	規　模	炉	時　期	備　　考
1	RA116	小判形（ロングハウス）	20m×6m	地床炉	前期前葉	1995年度～継続調
2	RA132	隅丸長方形	長さ約6m	不明	中期	西側のみ残存
3	RA133	円形状	直径約2.9m	石囲炉	中期	
4	RA134	楕円形状	3.5m×2.5m	石組み炉	中期	RA135を切る
5	RA135	隅丸方形状	一辺約4.2m	無し	前期	RA134と重複
6	RA136	隅丸長方形状	2.5m×2.1m	無し	前期前葉	南東部残存せず
7	RA137	楕円形状	長径約6m	無し	前期初頭	～前期前葉
8	RA138	円形	直径約3m	地床炉	前期前葉	RA116を切る
9	RA139	隅丸長方形状	2.7m×1.8m	無し	前期前葉	

土坑

No.	遺構名	平面形	断面形	開口部径	深　さ	時　期	備　　考
1	RD75	楕円形状	筒状	1.5m×1.9m	西側15cm	縄文	調査地外に連続
2	RD52	楕円形状	筒状	1.5m×1.3m	西側30cm	前期前葉	西側壁階段状
3	RD53	楕円形	逆台形	長径2.1m	最大15cm	前期	RZ20に切られる
4	RD54	長方形状	筒状	1.9m×1.2m	最大10cm	前期	
5	RD55	楕円形状	筒状	1.2m×1m	10cm	前期	
6	RD56	楕円形状	筒状	1.65m×1m	10cm	前期	
7	RD57	楕円形状	逆台形	0.6m×0.7m	10cm	前期	RA521に切られる
8	RD58	楕円形状	筒状	0.6m×0.5m	40cm	前期前葉	底面北側が焼けている
9	RD59	円形	逆台形	直径約0.9m	40cm	前期	

焼土遺構

No.	遺構名	種　別	形　状	範　　囲	深　さ	時　期	備　　考
1	RF11	焼土	楕円形状	50cm×40cm	4cm	縄文中期	Ⅲ層上位で検出
2	RF12	焼土	楕円形状	60cm×45cm	4cm	縄文中期	Ⅲ層上位で検出
3	RF13	焼土	楕円形状	40cm×35cm	5cm	前期前葉	Ⅲ層上位で検出
4	RF14	焼土	不整帯状	長さ1.5m	4cm	縄文中期	幅20～60cm　Ⅲ層上位で検出
5	RF15	焼土	楕円形状	55cm×30cm	8cm	縄文中期	Ⅲ層上位で検出
6	RF16	焼土	楕円形状	45cm×35cm	5cm	縄文中期	Ⅲ層上位で検出
7	RF17	焼土	不整弧状	45cm×25cm	2cm	縄文中期	二分割、残りは30×15cm
8	RF18	焼土	楕円形状	45cm×35cm	8cm	縄文中期	Ⅲ層上位で検出
9	RF19	焼土	楕円形状	65cm×55cm	8cm	縄文中期	Ⅲ層上位で検出

その他の遺構

No.	遺構名	種　別	形　状	規　　模	深　さ	時　期	備　　考
1	RZ20	落とし穴	溝状	1.7m×0.6m	70cm	縄文中期	

古代住居跡

No.	遺構名	形　状	規　　模	かまど位置	煙　道	時　期	備　　考
1	RA523	方形状	4.5m×5m	北壁	破損	奈良	1996・97二年度調査
2	RA524	方形？	西壁5m	不明	不明	平安？	西側壁のみ残存
3	RA525	方形状	一辺5.5m	北壁	破損	奈良	RA116の上位に検出

土器観察表

単位：cm　＊：破損品

図版No.	写真No.	出土地	層位	器種	時期	器高	口径	最大径	底径	胎土混入物	備考
118－4	129－4	RA116	埋土	鉢	中期中葉	＊4.5	＊19.6	＊21.9		金雲母シャモット	
118－5	129－5	RA116	埋土	深鉢	中期	＊8.5	＊8	＊8		細砂シャモット	
118－6	129－6	RA116	埋土	鉢	前期前葉	＊4		＊12	＊9.6	センイ	
118－7	129－7	RA116	埋土	鉢	中期	＊8		＊12.2	＊10	粗砂シャモット	やや上げ底
118－8	129－8	RA116	埋土	甕	奈良？	＊15.7	＊13.7	＊16.6		細礫	
118－10	129－10	RA116	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
118－11	129－11	RA116	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
118－12	129－12	RA116	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
118－13	129－13	RA116	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
118－14	129－14	RA116	埋土	深鉢	中期中葉						
118－15	129－15	RA116	埋土	深鉢	中期中葉						
118－16	129－16	RA116	埋土	深鉢	前期後葉						
118－17	129－17	RA116	埋土	深鉢	中期中葉						
118－18	129－18	RA116	埋土	深鉢	前期前葉						
118－19	129－19	RA116	埋土	深鉢	中期						
118－20	129－20	RA116	埋土	深鉢	中期						
118－21	129－21	RA116	埋土	深鉢	中期						
120－7	131－7	RA132		深鉢	中期						
121－1	131－8	RA133	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
121－2	131－9	RA133	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
121－3	131－10	RA133	埋土	深鉢	前期前葉	＊15.7	＊27.2	＊27.2		シャモット	補修孔有り
121－4	131－11	RA133	埋土	深鉢	中期後葉	＊10.2				粗砂シャモット	
121－5	131－12	RA133	埋土	深鉢	中期	＊16.5				粗砂シャモット	
121－6	131－13	RA133	埋土	深鉢	前期	＊6.2	＊12.2	＊12.2		粗砂センイ	
121－7	131－14	RA133	埋土	甕	奈良	＊5	＊17.8	＊17.8		粗砂シャモット	
121－8	131－15	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
121－9	131－16	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
121－10	131－17	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
121－11	131－18	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
121－12	131－19	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－1	131－20	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－2	131－21	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－3	131－22	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－4	131－23	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－5	131－24	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－6	132－1	RA133	埋土	深鉢	中期後葉						
122－7	132－2	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－8	132－3	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－9	132－4	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－10	132－5	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
122－11	132－6	RA133	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－1	132－18	RA134	床	深鉢	前期前葉					センイ	
124－2	132－19	RA134	床	深鉢	前期前葉					センイ	
124－3	132－20	RA134	床	深鉢	前期前葉					センイ	
124－4	132－21	RA134	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
124－5	132－22	RA134	埋土	小型鉢	中期	＊6.5		＊9.6	6	粗砂	無文
124－6	133－1	RA134	埋土	深鉢	中期後葉					粗砂	
124－7	133－2	RA134	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－8	133－3	RA134	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－9	133－4	RA134	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－10	133－5	RA134	埋土	深鉢	中期						
124－11	133－6	RA134	埋土	深鉢	中期末葉						
124－12	133－7	RA134	埋土	深鉢	中期末葉						
124－13	133－8	RA134	埋土	深鉢	中期末葉						

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　　考
124－18	133－12	RA135	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－19	133－13	RA135	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－20	133－14	RA135	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
124－21	133－15	RA135	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
126－1	133－20	RA136	埋土	深鉢	前期前葉	＊35.5	＊27.4	＊28.8		センイ	
126－3	133－22	RA137	床	深鉢	中期						
126－4	133－23	RA137	埋土	深鉢	前期前葉	12.2	10.2	10.2	5.4	細礫センイ	
126－5	133－24	RA137	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
126－6	133－25	RA137	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
126－7	133－26	RA137	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
126－8	133－27	RA137	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
126－9	134－1	RA137	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
126－10	134－2	RA137	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
126－11	134－3	RA137	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
126－12	134－4	RA137	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
127－1	134－12	RA138	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
127－2	134－13	RA138	攪乱	深鉢	前期前葉					センイ	
127－3	134－14	RA138	攪乱	深鉢	前期前葉					センイ	
127－4	134－15	RA138	攪乱	深鉢	前期前葉					センイ	
127－5	134－16	RA138	攪乱	深鉢	前期前葉					センイ	
128－1	134－17	RA139	埋土	深鉢	前期前葉	＊10.4	＊20.8	＊20.8		センイ・シャモット	補修孔
128－2	134－18	RA139	埋土	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
128－3	134－19	RA139	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
128－4	134－20	RA139	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
128－5	134－21	RA139	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
128－6	134－22	RA139	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
128－7	134－23	RA139	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
129－1	135－4	RD52		深鉢	前期前葉					センイ	
129－2	135－5	RD52		深鉢	前期前葉					センイ	
129－3	135－6	RD52		深鉢	前期前葉					センイ	
129－4	135－7	RD52		深鉢	前期前葉					センイ	
129－6	135－9	RD53		深鉢	中期						
129－7	135－10	RD53		深鉢	中期						
129－8	135－11	RD53		深鉢	中期						
130－1	135－12	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－2	135－13	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－3	135－14	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－4	135－15	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－5	135－16	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－6	135－17	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－7	135－18	RD54		深鉢	前期前葉					センイ	
130－8	135－19	RD55	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－9	135－20	RD55	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－10	135－21	RD55	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－11	135－22	RD55	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－12	135－23	RD55	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－13	135－24	RD55	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－14	136－1	RD56	埋土	深鉢	中期						
130－15	136－2	RD56	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－16	136－3	RD56	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
130－17	136－4	RD57		深鉢	前期前葉					センイ	
130－18	136－5	RD57		深鉢	前期前葉					センイ	
130－19	136－6	RD57		深鉢	前期前葉					センイ	
131－1	136－7	RD58	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
131－2	136－8	RD58	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	

図版No.	写真No.	出土地	層位	器　種	時　　期	器　高	口　径	最大径	底　径	胎土混入物	備　　考
131－3	136－9	RD58	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
131－4	136－10	RD59		深鉢	前期前葉					センイ	
131－5	136－11	RD59	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
131－6	136－12	RD59	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
131－7	136－13	RD59	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
133－1	136－17	RA523	床	坏	奈良？	4.9	16.3	16.3	丸底	小礫	
133－2	136－18	RA523	床	甕	奈良	16	14.2	15	7.5	金雲母	底部木葉痕
133－3	136－19	RA523	床	甕	奈良	37.4	20.1	20.1	7.8	粗砂	
134－1	136－20	RA523	床	深鉢	前期前葉					センイ	
134－2	136－21	RA523	床	高坏	晩期						
134－3	136－22	RA523	床	深鉢	晩期？						
134－14	137－4	RA523	カマド	深鉢	前期初頭					センイ	尖底破片
134－15	137－5	RA523	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
134－16	137－6	RA523	埋土	深鉢	前期後葉						
134－17	137－7	RA523	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
136－1	137－8	RA525	床	坏	奈良	4.9	14.1	14.1	丸底	細砂	内黒・線刻
136－2	137－9	RA525	床	坏	奈良	3.5	10.6	10.6	丸底		内黒・線刻
136－3	137－10	RA525	床	甕	奈良？						
136－4	137－11	RA525	埋土	深鉢	前期前葉					センイ	
136－5	137－12	RA525	埋土	深鉢	中期中葉						
138－1	137－13	Q12	Ⅲ～Ⅳ	深鉢	前期前葉	＊24.4	＊31	＊31		センイ	
138－2	137－14	Q15	表採	深鉢	前期前葉					センイ	
138－3	137－15	O11	表採	深鉢	前期前葉					センイ	
138－4	137－16	N10	Ⅲ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－5	137－17	S12	Ⅲ～Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－6	137－18	L11	Ⅱ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－7	137－19	北拡張区		深鉢	前期前葉					センイ	
138－8	137－20	P12	Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－9	137－21	P13	Ⅲ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－10	137－22	N13	Ⅱ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－11	137－23	N12	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－12	137－24	Q14	Ⅲ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－13	138－1	S12	Ⅲ～Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－14	138－2	E9	Ⅱ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－15	138－3	M12	Ⅱ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－16	138－4	S12	Ⅲ～Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
138－17	138－5	Q14	Ⅲ	深鉢	前期前葉					センイ	
139－1	138－6	北拡張区		深鉢	前期前葉					センイ	
139－2	138－7	N12	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	前期前葉					センイ	
139－3	138－8	S12	Ⅲ～Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
139－4	138－9	L13	Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
139－5	138－10	L13	Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
139－6	138－11	L13	Ⅳ	深鉢	前期前葉					センイ	
139－7	138－12	L13		深鉢	前期前葉					センイ	
139－8	138－13	Q14		深鉢	前期前葉					センイ	
139－9	138－14	N12		深鉢	前期前葉					センイ	
139－10	138－15	O11		深鉢	前期後葉						
139－11	138－16	N10	Ⅲ	深鉢	中期中葉						
139－12	138－17	O17	表採	深鉢	中期中葉						
139－13	138－18	Q12	Ⅱ	深鉢	中期	＊11.4		＊15.8	8.8	粗砂	
139－14	138－19	S16	表採	甕	奈良	＊6.9	＊19.4	＊19.4		細砂	
139－15	138－20	S16	表採	甕	古代	＊3.5		＊13	＊10.8	細砂	
139－16	138－21		表採	甕	古代	＊3.6		＊11	＊6.6	細砂	須恵器
139－17	138－22	L12	Ⅱ	甕	古代						須恵器

石器一覧表

単位：cm, g　＊：破損品

図版No.	写真図版No.	出土地	層位	器種	完形	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産出地
119－8	130－8	RA116	埋	石鏃	×	＊2.6	＊1.7	0.4	1.4	粘板岩	山田西部・古生界
118－1	129－1	RA116	床	石鏃	○	2	1.2	0.3	0.7	粘板岩	山田西部・古生界
118－2	129－2	RA116	床	石鏃	○	3	1.3	0.5	1.8	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
119－6	130－6	RA116	埋	石鏃	○	2.5	2	0.6	1.9	赤褐色凝灰岩	山田西部・古生界
119－3	130－3	RA116	柱穴	石鏃	○	1.9	1.6	0.3	0.9	粘板岩	山田西部・古生界
119－9	130－9	RA116	埋	石鏃	×	1.4	1.2	0.4	＊0.7	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
119－4	130－4	RA116	埋	石鏃	○	2.4	1.6	0.6	1.5	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
119－2	130－2	RA116	溝	石鏃	○	1.9	1.8	0.6	1.6	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
119－13	130－13	RA116	埋	石鏃	○	2.8	1.8	0.5	2	粘板岩	山田西部・古生界
119－11	130－11	RA116	埋	石鏃	○	1.9	1.4	0.4	0.7	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
119－14	130－14	RA116	埋	石鏃	○	2.7	1.7	0.5	1.6	粘板岩	山田西部・古生界
119－10	130－10	RA116	埋	石鏃	○	1.8	1.1	0.3	0.4	粘板岩	山田西部・古生界
119－7	130－7	RA116	埋	石鏃	○	3.2	1.9	0.5	1.9	チャート質泥岩	山田西部・古生界
119－12	130－12	RA116	埋	石鏃	○	2.2	2.1	0.5	1.9	粘板岩	山田西部・古生界
119－1	130－1	RA116	埋	石鏃	○	1.5	1.9	0.3	0.4	凝灰質泥岩	山田西部・古生界
119－16	130－16	RA116	埋	石鏃	○	2.5	2	0.4	1.5	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
119－15	130－15	RA116	埋	石鏃	×	＊2.3	1.8	0.4	＊3.4	チャート質泥岩	山田西部・古生界
119－17	130－17	RA116	埋	石鏃	×	3.2	1.7	0.5	＊1.9	凝灰質泥岩	山田西部・古生界
119－5	130－5	RA116	埋	石鏃	○	2.1	1.9	0.4	1	凝灰質泥岩	山田西部・古生界
119－26	130－26	RA116	埋	石匙	○	2.5	5.8	0.6	10.1	粘板岩	山田西部・古生界
119－24	130－24	RA116	埋	石匙	○	3.8	1.3	0.5	2.3	チャート	山田西部・古生界
119－25	130－25	RA116	埋	石匙	○	5.6	3	0.9	11.2	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
119－20	130－20	RA116	溝	石匙	○	5.6	3.1	0.9	1.1	粘板岩	山田西部・古生界
119－21	130－21	RA116	埋	石匙	○	5	3.6	0.9	12	粘板岩	山田西部・古生界
119－23	130－23	RA116	埋	石匙	○	5	1.4	0.6	3.2	チャート質泥岩	山田西部・中生界
119－28	130－28	RA116	埋	石匙	×	5	2.1	0.6	＊7.4	チャート質凝灰岩	山田西部・中生界
119－22	130－22	RA116	埋	石匙	×	4	3.6	0.7	＊5.1	チャート質凝灰岩	山田西部・中生界
119－18	130－18	RA116	埋	石匙	○	3.7	5	0.7	9.1	粘板岩	山田西部・古生界
119－27	130－27	RA116	埋	石匙	×	2.6	3.7	0.4	4	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
119－19	130－19	RA116	埋	石匙	○	5.5	4.5	1	14	チャート質凝灰岩	山田西部・中生界
119－33	130－33	RA116	溝	石錐	○	1.6	4.1	0.7	4	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
119－31	130－31	RA116	埋	削掻器	○	2.1	4.1	0.9	6.5	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
119－29	130－29	RA116	埋	削掻器	×	2.2	3.1	0.7	＊1.8	チャート質凝灰岩	山田西部・中生界
119－30	130－30	RA116	埋	削掻器	○	3	4.5	0.7	8.7	粘板岩	山田西部・古生界
119－34	130－34	RA116	埋	削掻器	○	2.1	2.6	0.6	2.7	粘板岩	山田西部・古生界
119－32	130－32	RA116	埋	削掻器	○	2.9	2.3	0.4	1.8	粘板岩	山田西部・古生界
120－3	131－3	RA116	柱穴	磨石(辺)	○	20.6	5.2	3.5	325.1	花崗閃緑岩	山田一帯・白亜系
118－3	129－3	RA116	床	磨石	○	10.2	8.9	4.2	579.6	安山岩	山田・白亜系
120－1	131－1	RA116	埋	磨石・凹石	○	12.6	8.6	9.1	1030	花崗閃緑岩	山田一帯・白亜系
119－37	130－37	RA116	埋	磨石	○	8.8	5.5	4.2	280	花崗閃緑岩	山田一帯・白亜系
120－2	131－2	RA116	埋	磨石敲打石	×	12.1	3.7	＊6.9	＊440	花崗閃緑岩	山田一帯・白亜系
119－38	130－38	RA116	埋	磨石	○	9.6	6.5	5.5	500	凝灰角礫岩	北上山地・中生界
119－36	130－36	RA116	埋	磨製石斧	×	＊6.7	3.8	2.2	＊60	細粒凝灰岩	山田一帯・白亜系
119－35	130－35	RA116	埋	磨製石斧	×	＊5.9	＊3.9	＊1.1	＊36.6	細粒凝灰岩	山田一帯・白亜系
120－4	131－4	RA116	埋	石剣	×	＊26.6	3.5	1.7	＊262	緑色凝灰岩	山田一帯・白亜系
120－5	131－5	RA132	床	石鏃	○	1.8	1.8	0.7	1.7	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
120－6	131－6	RA132	埋	石匙	×	＊3.8	3	0.5	＊5	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
122－12	132－7	RA133	埋	石鏃	×	＊2.3	＊1.8	0.3	＊1.1	粘板岩	山田西部・古生界
122－14	132－9	RA133	埋	石匙	○	2.5	3.2	0.6	4.2	粘板岩	山田西部・古生界
122－13	132－8	RA133	埋	石匙	○	2.3	4.3	0.8	6.9	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
122－15	132－10	RA133	埋	石匙	○	2.6	4.7	0.5	5.4	粘板岩	山田西部・古生界
122－17	132－12	RA133	埋	石匙	○	3.2	5.3	0.9	13.9	粘板岩	山田西部・古生界
122－21	132－16	RA133	炉	削掻器	○	1.4	3.8	0.4	2.2	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
122－20	132－15	RA133	埋	楔形石器	○	3.1	3.8	1	13.4	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界

図版No.	写真図版No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地
122－22	132－17	RA133	埋	磨製石斧	×	＊2.8	＊3	＊1.5	＊14.6	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
124－14	133－9	RA134	埋	石匙	○	3	4.2	0.8	6.6	粘板岩	山田西部・古生界
124－15	133－10	RA134	埋	石匙	○	3.8	4.5	0.7	9.3	赤褐色凝灰岩	山田西部・古生界
124－16	133－11	RA134	埋	楔形石器	○	3.2	2.5	0.8	5.9	粘板岩	山田西部・古生界
124－17	－	RA134	埋	台石？	×	＊8.5	＊9.2	＊6.3	407.2	半花崗岩	山田一帯・白亜系
124－22	133－16	RA135	埋下	石匙	○	5.4	1.7	0.9	7.8	粘板岩	山田西部・古生界
124－23	133－17	RA135	埋下	削掻器	○	1.9	3.5	0.6	3.5	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
124－24	133－18	RA135	埋	磨石(面)	○	10.1	8.3	3.9	550.6	花崗閃緑岩	山田一帯・白亜系
124－25	133－19	RA135	埋	磨石(辺)	×	＊9.8	＊4.8	＊7.6	＊413.2	半花崗岩	山田一帯・白亜系
126－2	133－21	RA136	埋	石鏃	○	2.4	1.5	0.5	1.3	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
126－18	134－10	RA137	？	石鏃	○	3.2	1.2	0.5	1.9	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
126－17	134－9	RA137	埋	石鏃？	○	3	1.9	0.6	3.4	赤褐色凝灰岩	山田西部・古生界
126－13	134－5	RA137	？	石匙	○	2.9	4.7	0.6	5.7	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
126－14	134－6	RA137	？	石匙	○	8.6	2.9	1	27.3	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
126－15	134－7	RA137	埋	石匙	○	2.9	5	0.5	5.5	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
126－16	134－8	RA137	埋	石匙	○	3.1	4.5	0.7	9.3	粘板岩	山田西部・古生界
126－19	134－11	RA137	？	楔形石器	○	2.7	2.6	0.7	4.6	粘板岩	山田西部・古生界
128－8	135－1	RA139	埋	石匙	○	6.7	2.6	0.9	16.6	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
128－9	135－2	RA139	埋	削掻器	○	3.4	6	0.9	19.5	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
128－10	135－3	RA139	埋	磨石(辺)	×	＊14.5	＊6	53	460.5	硬砂岩	山田西部・古生界
134－10	135－29	RA523	埋	石鏃	○	2.7	1.9	0.5	1.9	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
134－9	136－28	RA523	埋	石鏃	○	2.8	1.7	0.5	1.7	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
134－5	136－24	RA523	埋	石鏃	○	2	1.6	0.3	0.7	粘板岩	山田西部・古生界
134－12	137－2	RA523	埋	石鏃	×	＊1.8	＊1.3	0.5	0.8	粘板岩	山田西部・古生界
134－7	136－26	RA523	埋	石鏃	×	＊2.4	＊2	0.6	2.2	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
134－11	137－1	RA523	埋	石鏃	×	＊1.7	1.5	0.3	0.9	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
134－6	136－25	RA523		石鏃	×	＊1.6	1.7	0.4	0.7	粘板岩	山田西部・古生界
134－8	136－27	RA523	埋	石鏃	×	＊2.3	1.7	0.5	＊1.6	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
134－13	137－3	RA523	埋	石匙	○	3.3	3.7	0.7	7.8	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
134－4	136－23	RA523	床	砥石	○	20	9.3	5	1272.3	流紋岩	船越半島・古第三系
129－5	135－8	RD52	埋	石匙	○	2.5	5.2	0.6	7.9	粘板岩	山田西部・古生界
131－8	136－14	RD59	埋	石鏃	○	2.1	1.5	0.4	1.1	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
131－9	136－15	RD59	埋	石匙	○	6.3	2.6	0.9	16.5	粘板岩	山田西部・古生界
131－10	136－16	RD59	埋	磨石(辺)	×	＊9.2	4.8	5.9	404.9	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
140－8	139－8	？	？	石鏃？	○	1.9	1.9	0.5	1.2	粘板岩	山田西部・古生界
140－18	139－18	？	？	石鏃	×	＊2.1	＊1.3	0.2	＊0.3	粘板岩	山田西部・古生界
140－5	139－5	？	？	石鏃	×	1.8	＊1.3	0.4	＊0.6	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－1	139－1	？	？	石鏃	○	1.6	1.5	0.3	0.6	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－25	139－25	N09	？	石鏃	○	2.7	1	0.4	1.2	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－4	139－4	N11	？	石鏃	×	＊1.8	＊1.3	0.3	＊0.4	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－22	139－22	N09	？	石鏃	×	＊2	＊1.3	0.4	＊0.7	赤褐色凝灰岩	山田西部・古生界
140－13	139－13	Q13	？	石鏃	○	2.3	1.7	0.5	1.3	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－12	139－12	？	？	石鏃	○	2.3	1.4	0.4	0.9	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－2	139－2	？	？	石鏃	○	1.7	1.5	0.3	0.8	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－21	139－21	？	？	石鏃？	○	2.5	1.8	0.7	2	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－24	139－24	O10	Ⅲ	石鏃	○	2.9	1.6	0.6	2.8	チャート	山田西部・古生界
140－26	139－26	S11	Ⅲ	石鏃	×	＊3.7	1.2	0.5	1.9	粘板岩	山田西部・古生界
140－3	139－3	O11	Ⅲ	石鏃	○	1.6	1.3	0.3	0.5	チャート	山田西部・古生界
140－7	139－7	？	？	石鏃	○	2.1	1.5	0.3	0.7	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－11	139－11	？	？	石鏃	×	2.5	＊1.5	0.5	1.4	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－6	139－6	？	？	石鏃	○	2	1.8	0.4	1	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－19	139－19	？	？	石鏃	×	＊1.6	＊1.7	0.4	＊0.8	粘板岩	山田西部・古生界
140－16	139－16	？	？	石鏃	×	＊2.9	＊1.7	0.3	＊1.5	粘板岩	山田西部・古生界
140－27	139－27	N10	Ⅲ	石鏃	○	3.2	0.9	0.5	1.2	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－23	139－23	？	？	石鏃	○	2.2	0.9	0.3	0.6	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界

図版No.	写真図版No.	出土地	層位	器　種	完形	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	産　出　地
140－20	139－20	P12	Ⅳ	石鏃	×	＊1.5	1.7	0.5	＊1	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－10	139－10	?	?	石鏃	○	2.6	1.5	0.3	1	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－14	139－14	?	?	石鏃	○	2.9	1.7	0.7	2.3	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－9	139－9	G11	Ⅱ	石鏃	○	2.4	1.9	0.4	1.6	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－15	139－15	L12	Ⅱ	石鏃	○	2.8	1.7	0.4	1.6	粘板岩	山田西部・古生界
140－17	139－17	I10	?	石鏃	○	1.7	1.3	0.3	0.5	チャート	山田西部・古生界
122－19	132－14	RA133	?	石槍	○	11.8	3.6	0.9	36	粘板岩	山田西部・古生界
141－7	140－11	P12	Ⅳ	石槍？	×	＊5.1	2.6	1.1	＊13.8	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
141－6	140－10	?	?	石槍	×	＊5.9	2.4	0.9	＊12.2	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－28	139－28	S12	?	石匙	○	8.8	2.8	1.1	25.5	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－30	139－30	?	?	石匙	○	8.2	1.6	0.9	12.5	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－35	139－35	?	?	石匙	○	7.3	2	1	12.8	粘板岩	山田西部・古生界
140－34	139－34	N11		石匙	×	＊5.1	1.9	0.6	＊6.8	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－43	140－2	?	?	石匙	○	4	5.3	0.8	12.9	粘板岩	山田西部・古生界
140－38	139－38	?	?	石匙	○	4.6	2	0.6	5.9	粘板岩	山田西部・古生界
140－31	139－31	P13	Ⅲ	石匙	○	7.1	2.1	0.9	10.9	粘板岩	山田西部・古生界
140－40	139－40	O10	Ⅲ	石匙	○	4.9	8.8	1.2	38.5	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－29	139－29	O10	Ⅲ	石匙	○	8.3	1.9	0.9	14.1	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－32	139－32	M08	Ⅲ	石匙	○	8.1	1.8	1	13.8	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－36	139－36	Q13	Ⅲ	石匙	○	5.7	2.4	1	11.4	粘板岩	山田西部・古生界
140－41	139－41	Q13	Ⅲ	石匙	○	2.6	6.1	0.8	10.1	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
122－18	132－13	P13	?	石匙	○	8.5	2.4	0.9	17.3	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
122－16	132－11	P13	?	石匙	○	5.6	3	0.6	8.9	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
140－39	139－39	?	?	石匙	×	＊4.9	2.3	0.8	＊8.6	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－45	140－4	?	?	石匙	○	3.3	4.2	0.9	7.7	粘板岩	山田西部・古生界
140－33	139－33	N10	Ⅲ	石匙	○	4.7	2	0.4	3.4	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
140－37	139－37	N10	Ⅲ	石匙	○	7	2.4	0.7	14.8	チャート	山田西部・古生界
140－42	140－1	N10	Ⅲ	石匙	○	3.6	5.7	0.7	1.11111	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
140－44	140－3	M11	Ⅱ	石匙	○	3.3	4.7	0.7	6.4	チャート質凝灰岩	山田西部・古生界
141－8	140－12	N10	Ⅱ	石箆	○	6.6	4.3	1.7	51.4	粘板岩	山田西部・古生界
141－2	140－6	T11	?	削掻器	○	4.5	5.9	1.1	21.2	粘板岩	山田西部・古生界
141－4	140－8	L11	?	削掻器	○	3.2	3.5	0.8	5.2	チャート質粘板岩	山田西部・古生界
141－5	140－9	J19	?	削掻器	○	6.2	2.7	1.1	16.4	粘板岩	山田西部・古生界
141－1	140－5	P13	Ⅲ	削掻器	○	＊4.3	3.8	1.3	27.6	粘板岩	山田西部・古生界
141－3	140－7	G11	Ⅱ	削掻器	○	2.7	2.7	1	5.3	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界
141－9	140－13	N10	Ⅲ	楔形石器	○	3.8	3.3	1.1	16.1	チャート	山田西部・古生界
141－12	140－16	排土	?	磨石	×	＊8.5	＊6.5	＊4.6	＊327.3	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
141－15	140－19	?	?	磨石	×	＊11.7	＊5.8	＊3.7	＊160.4	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
141－11	141－15	N12	Ⅳ	磨石	×	＊6.4	＊7.1	5.2	374.7	安山岩	山田西部・古生界
141－10	140－14	P12	Ⅲ	磨石(辺)	○	9.1	4.4	5.2	264.5	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
141－17	140－21	P13?	?	磨石？	○	13.3	3	7.1	496.5	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
141－13	140－17	?	?	磨石(辺)	○	17.6	7.6	9.2	1153.8	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
141－14	140－18	?	?	磨石(辺)	×	＊15.6	5.8	8.8	1016.6	細粒凝灰岩	山田西部・古生界
141－16	140－20	Q14	Ⅲ	磨製石斧	×	＊5.8	＊2.8	＊1.3	＊24.5	凝灰質粘板岩	山田西部・古生界

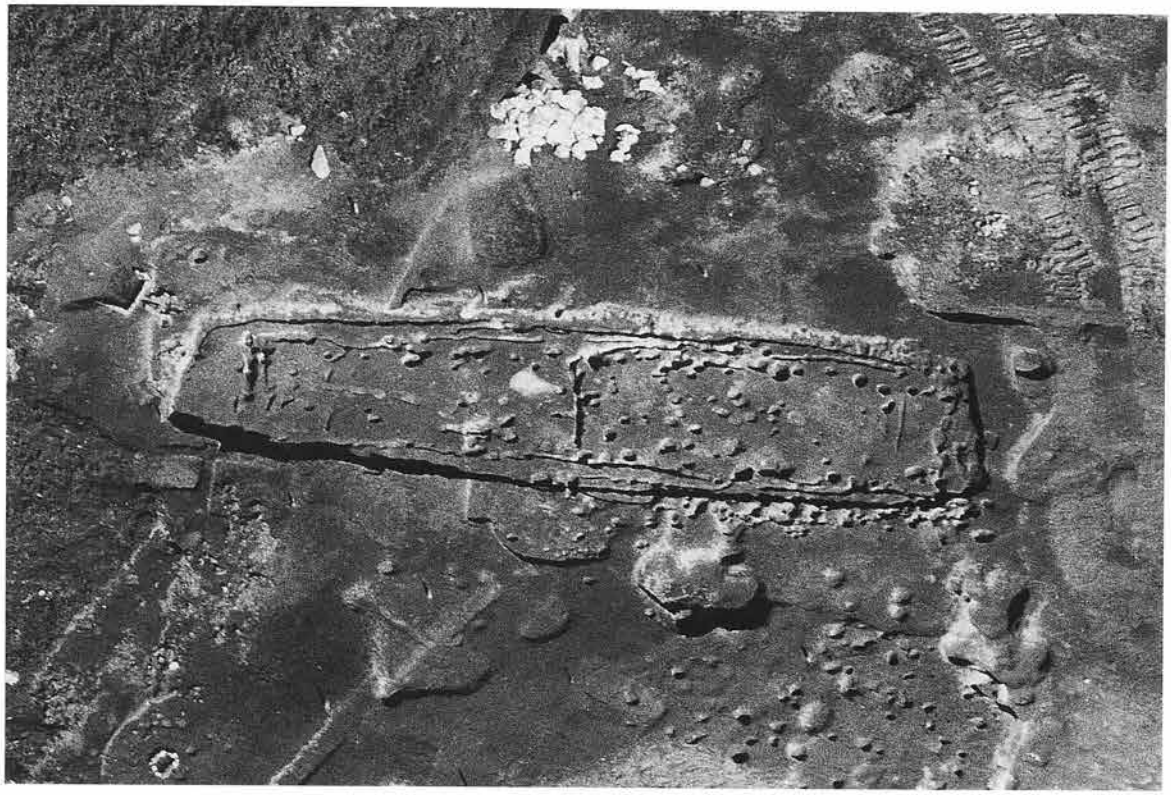
鉄製品一覧表

方量　単位：cm・g

No.	図　　版	写真図版	器　種	出土地	層位	長　さ	幅	厚　さ	重　量	備　　考
1	118－9	129－9	釘状	RA116	埋土	5.3	1.1	0.7	9.01	
2	139－18	138－23	小札	Q15	表採	8.5	4.6	0.4	29.33	
3	139－19	138－24	棒状	J19	排土	6.8	1.2	0.8	14.2	
4	139－20	138－25	棒状	M16	表採	6.2	1.1	0.8	20.66	
5	139－21	138－26	火打ち金		表採	2.6	5.7	0.5	13.8	

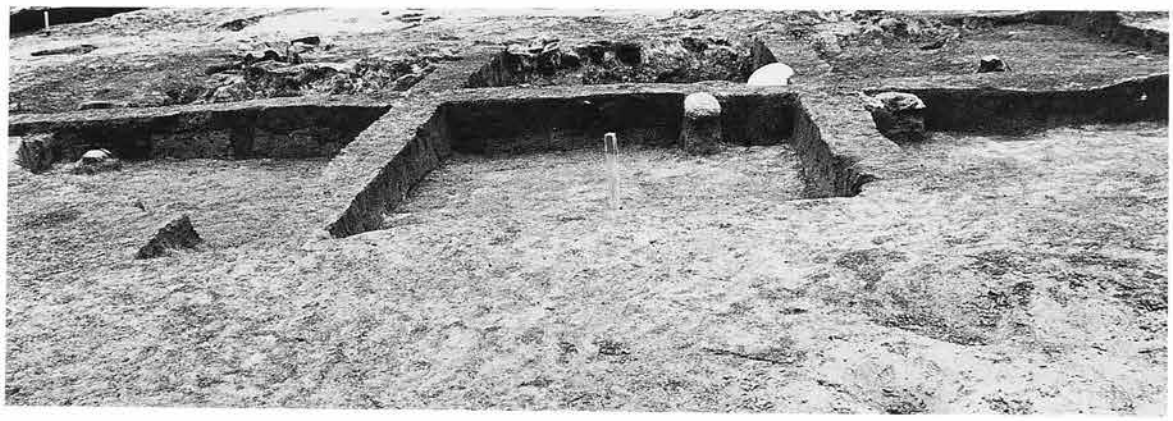
写　真　図　版

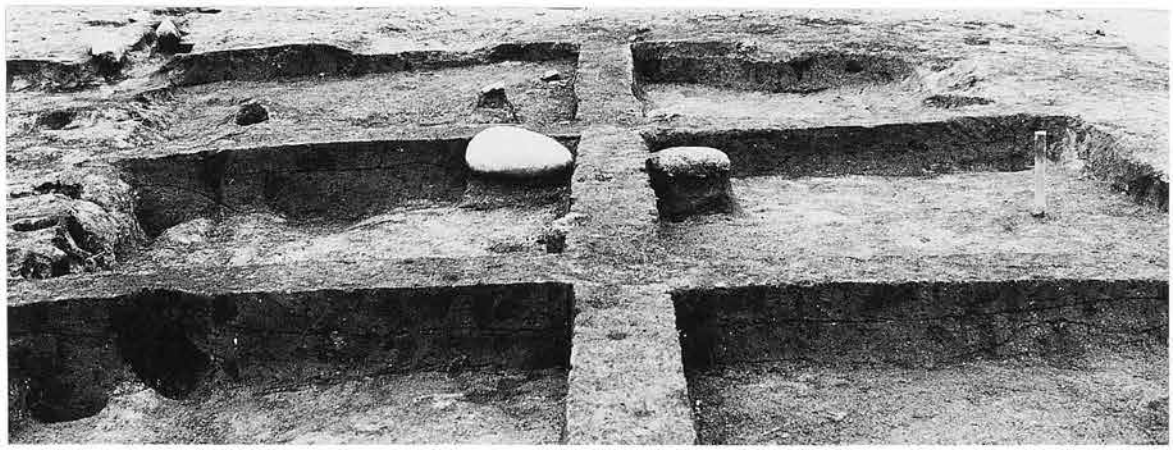
調査区全景



RA116住居跡

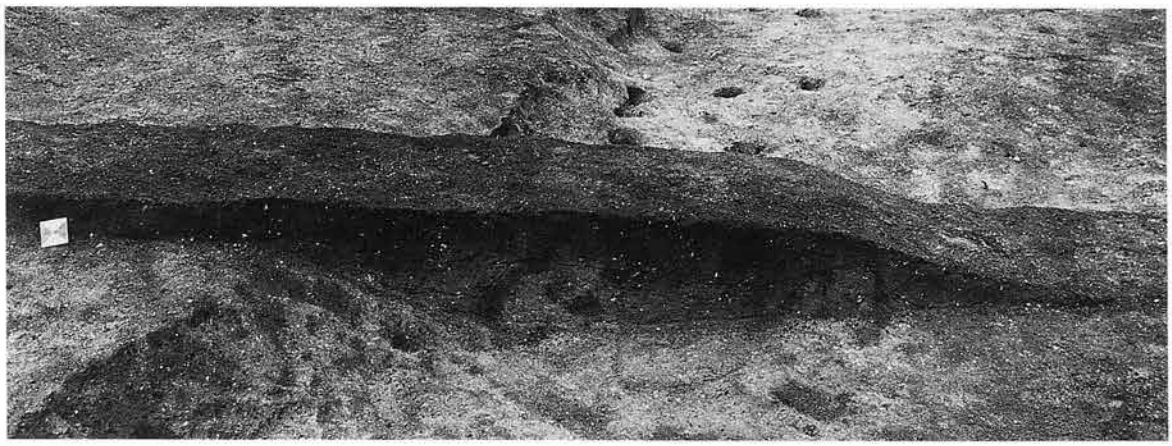
写真図版111　調査区全景、RA116住居跡





写真図版112　RA116住居跡埋土断面

全　景



埋土断面

写真図版113　RA132住居跡

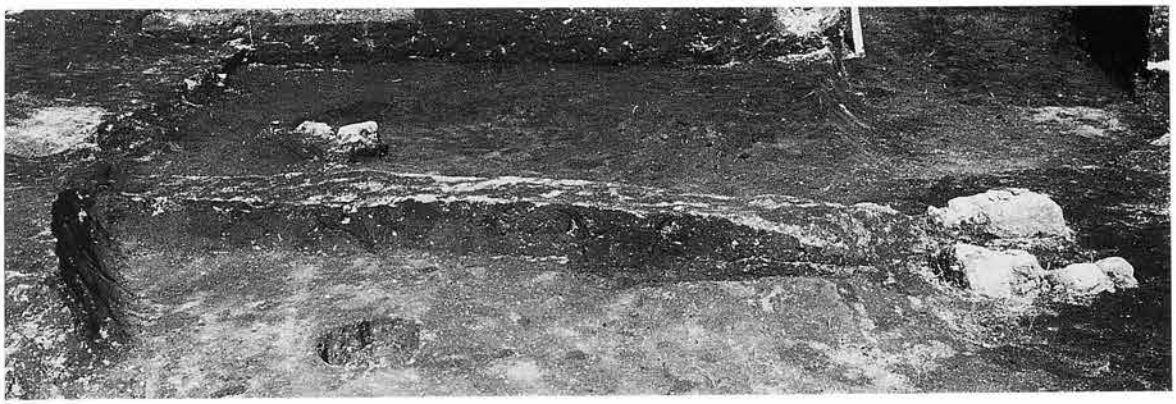
全　景

埋土断面

炉断面

写真図版114　RA133住居跡

全　景



埋土断面

炉断面

写真図版115　RA134住居跡

全　景

埋土断面

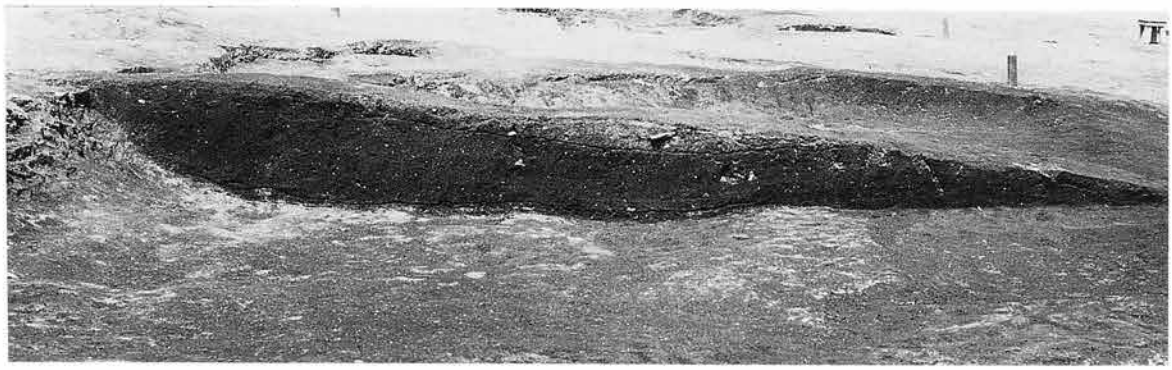
写真図版116　RA135住居跡

全　景

埋土断面

写真図版117　RA136住居跡

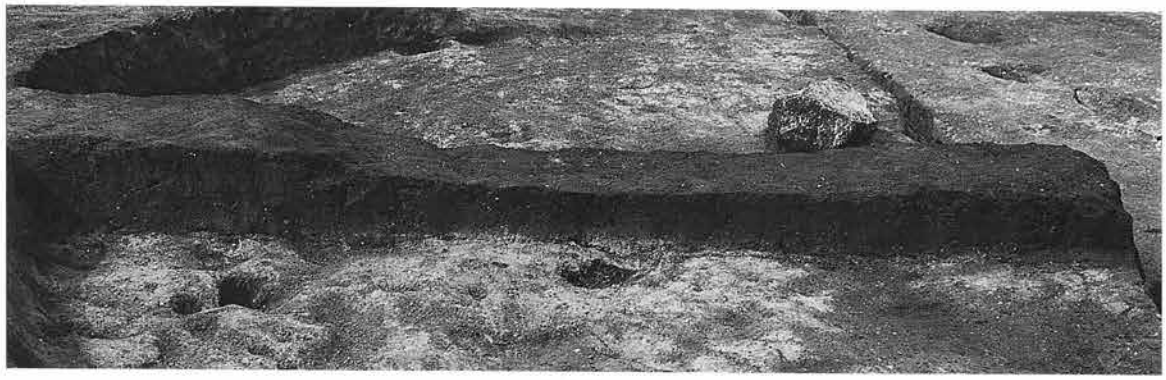
全　景



埋土断面

写真図版118　RA137住居跡

全　景



埋土断面

炉断面

写真図版119　RA138住居跡

全　景

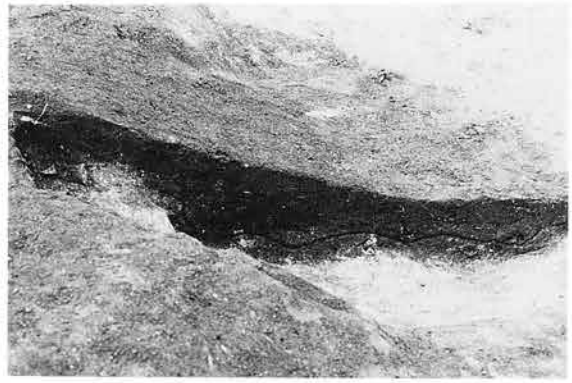
埋土断面

写真図版120　RA139住居跡

RD75全景

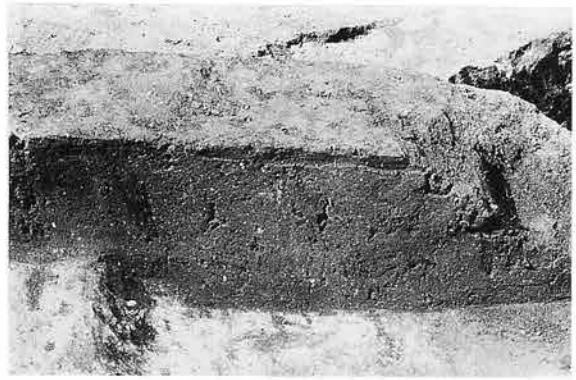
RD75埋土断面

RD52全景



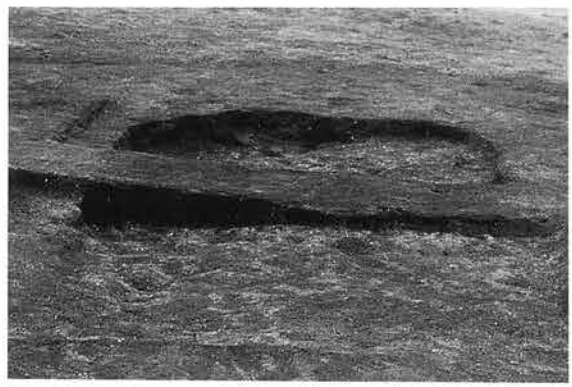
RD52埋土断面

RD53全景



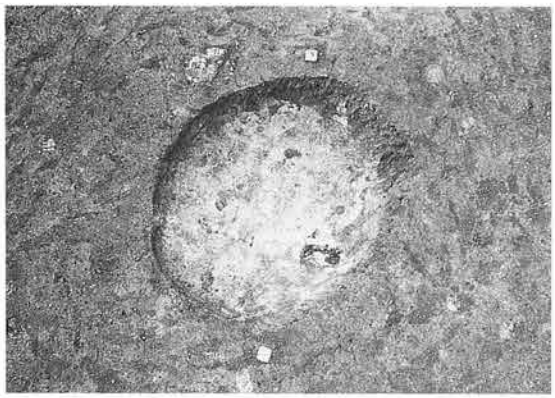
RD53埋土断面

RD54全景

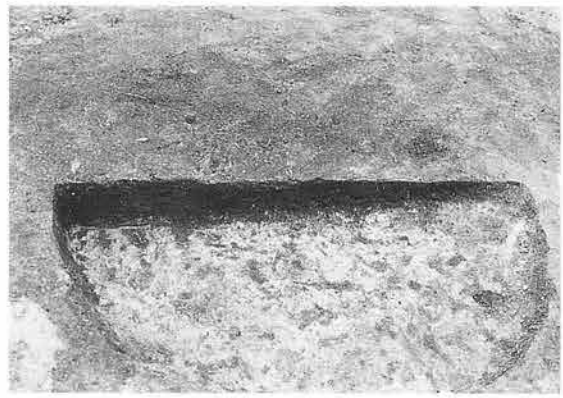


RD54埋土断面

写真図版121　RD75・52～54土坑

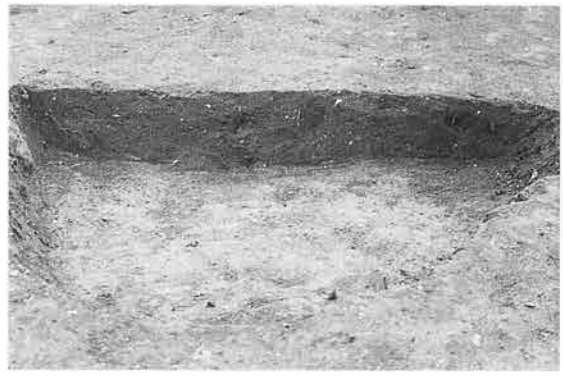


RD55全景



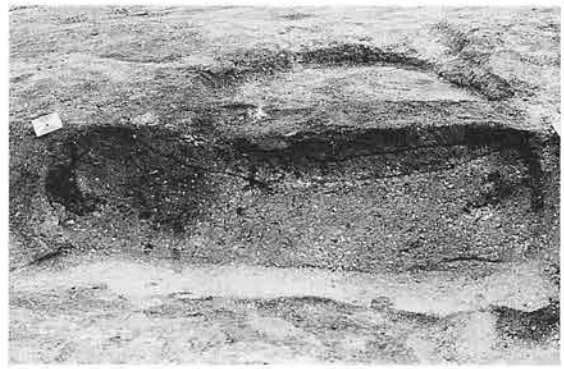
RD55埋土断面

RD56全景

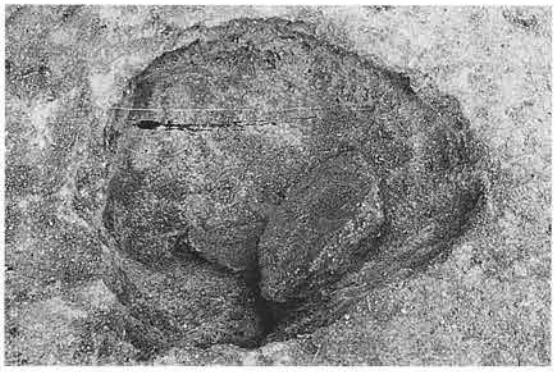


RD56埋土断面

RD57全景

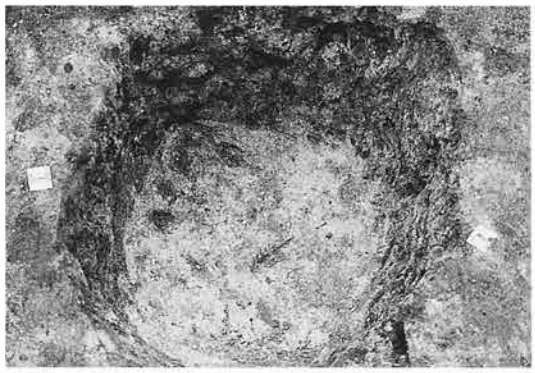


RD57埋土断面

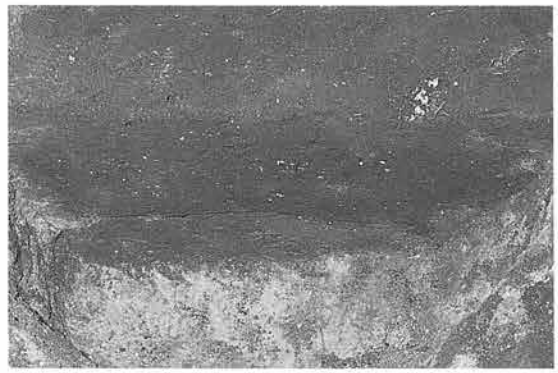


RD58全景

写真図版122　RD55～58土坑



RD59全景

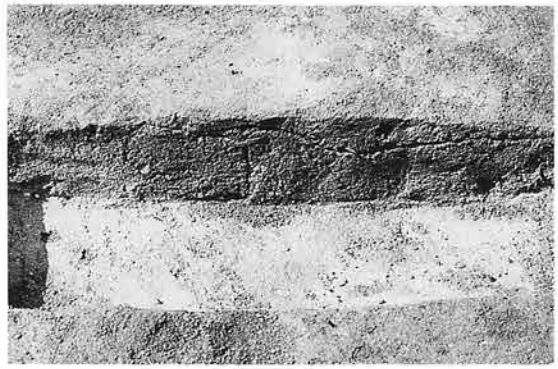


RD59埋土断面

RF11全景

RF11断面

RF12全景



RF12断面

RF13全景

RF13断面

写真図版123　RD59土坑、RF11～13焼土遺構

RF14全景

RF14断面

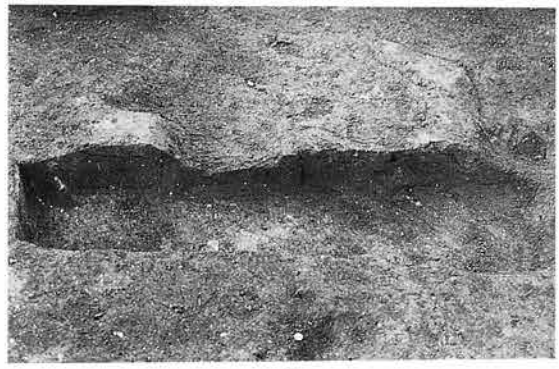
RF15全景

RF15断面

RF16全景

RF16断面

RF17全景



RF17断面

写真図版124　RF14～17焼土遺構

RF18全景

RF18断面

RF19全景

RF19断面

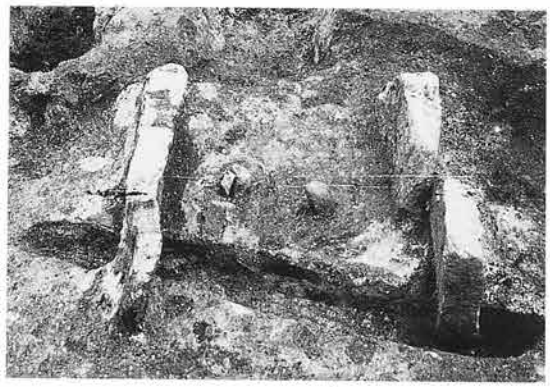
RZ20全景

RZ20埋土断面

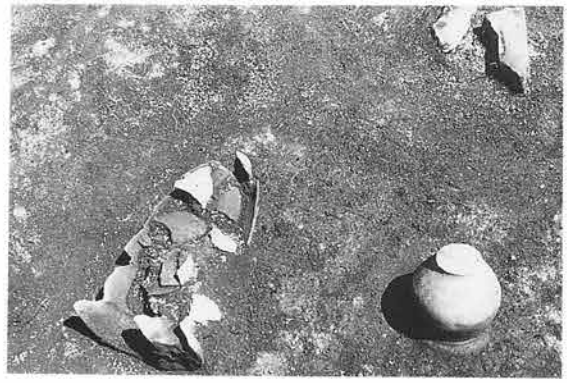
写真図版125　RF18・19焼土遺構、RZ20落とし穴

全　景

埋土断面



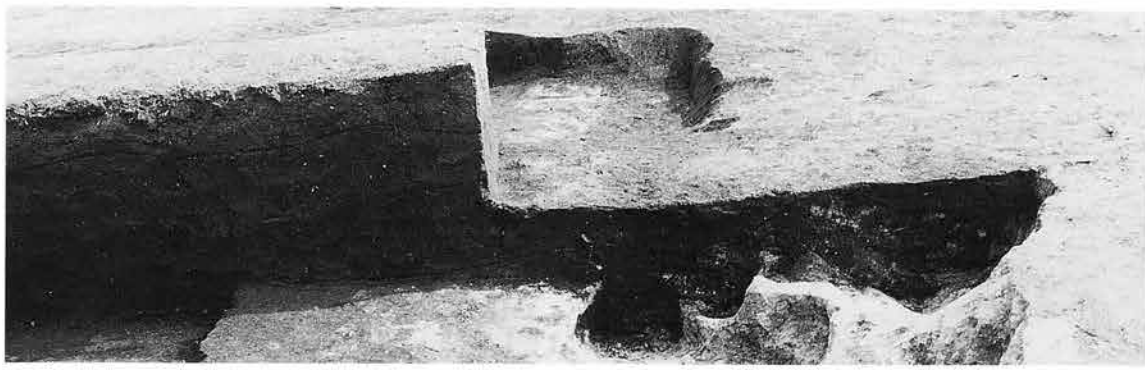
カマド袖断面



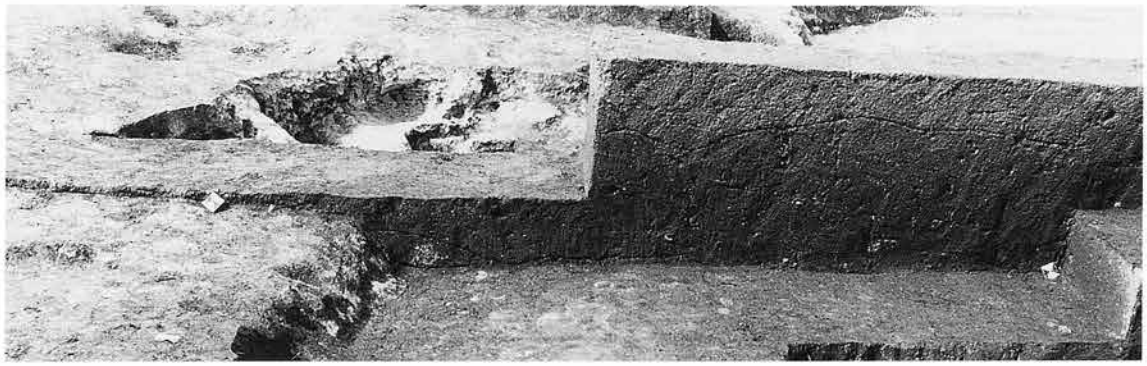
遺物出土状況

写真図版126　RA523住居跡

全　景



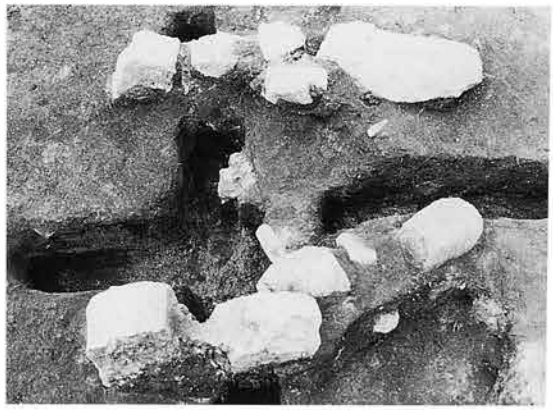
埋土断面



埋土断面

写真図版127　RA524住居跡

全　景

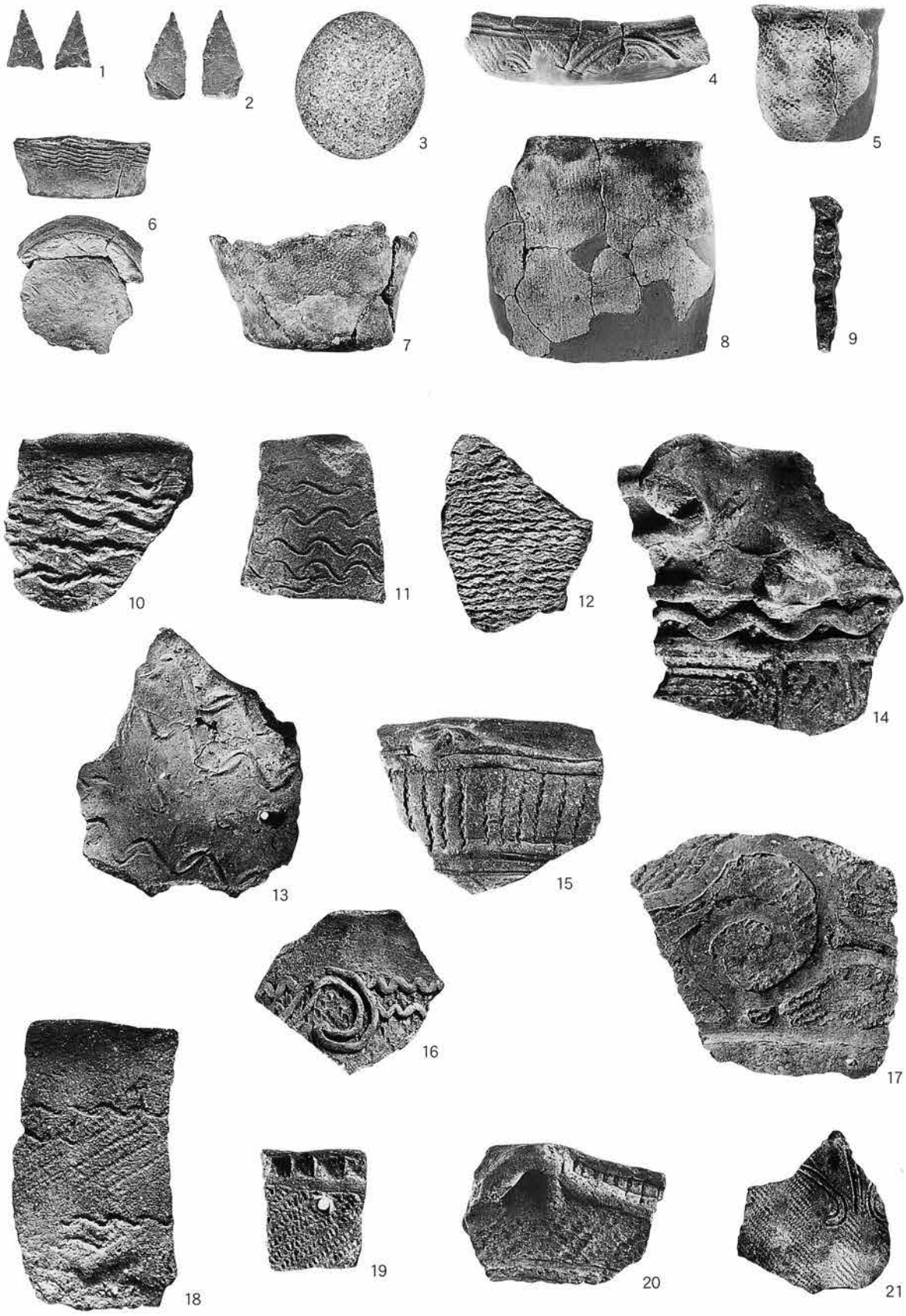


カマド断面

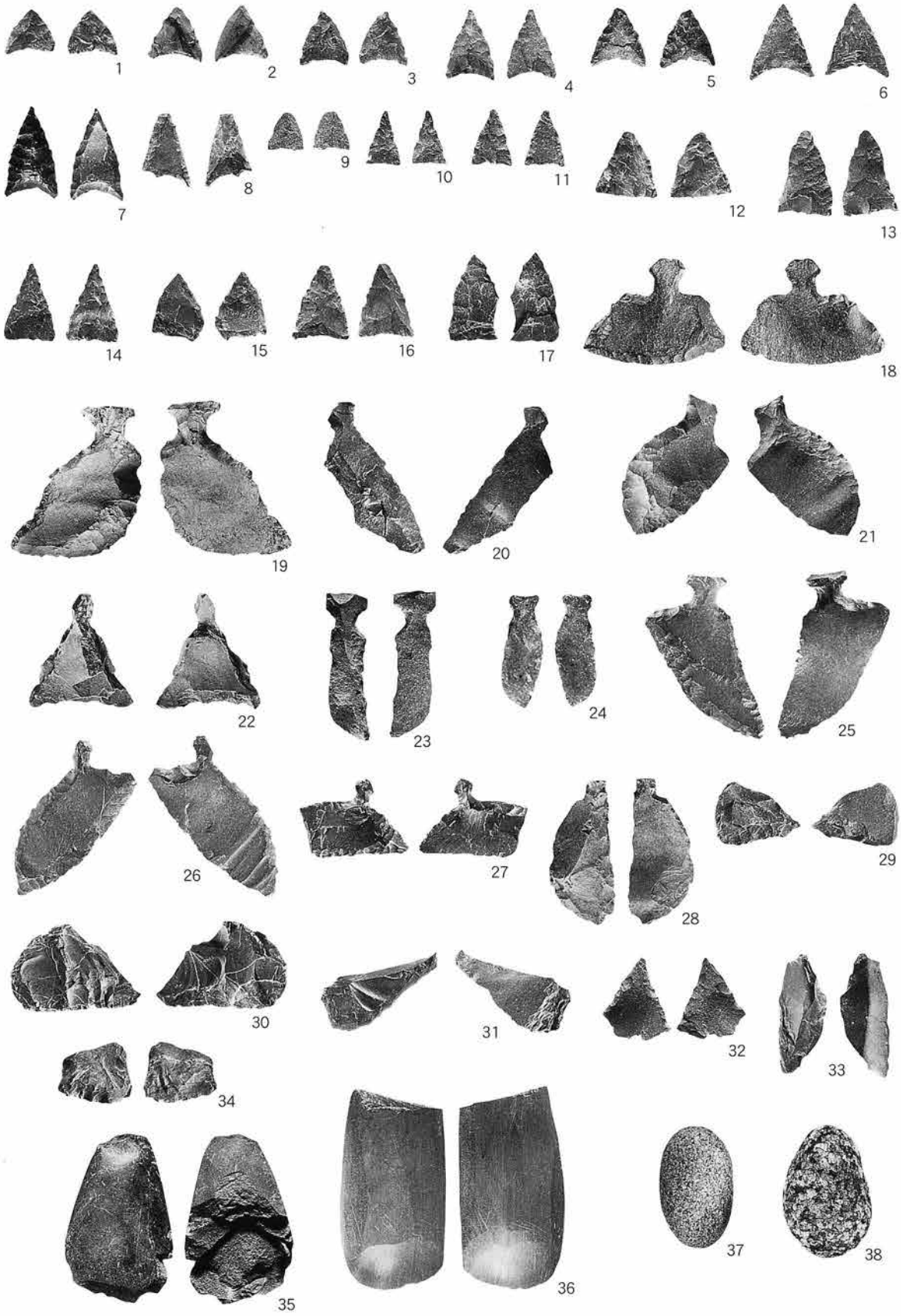
カマド断面

遺物出土状況

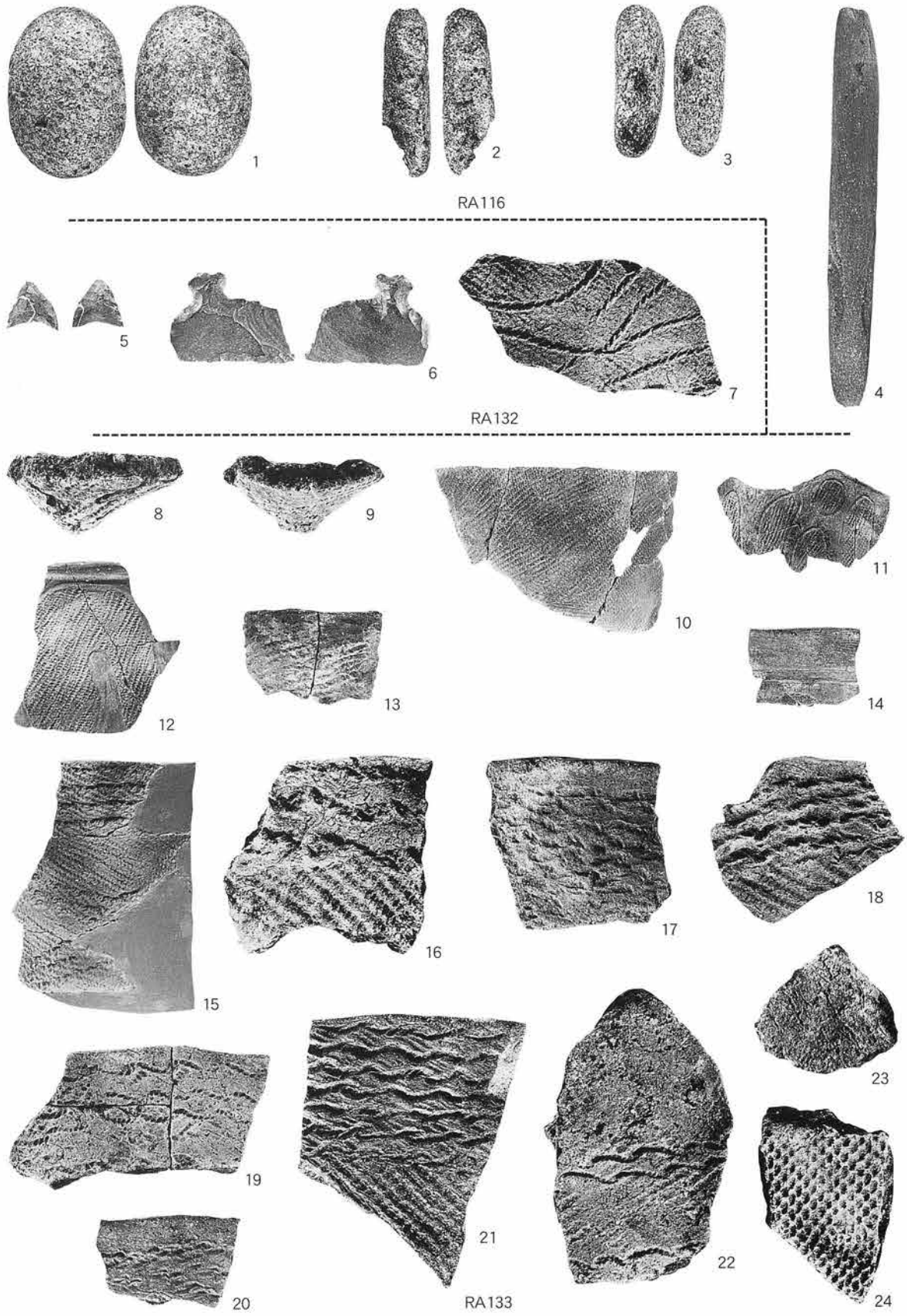
写真図版128　RA525住居跡



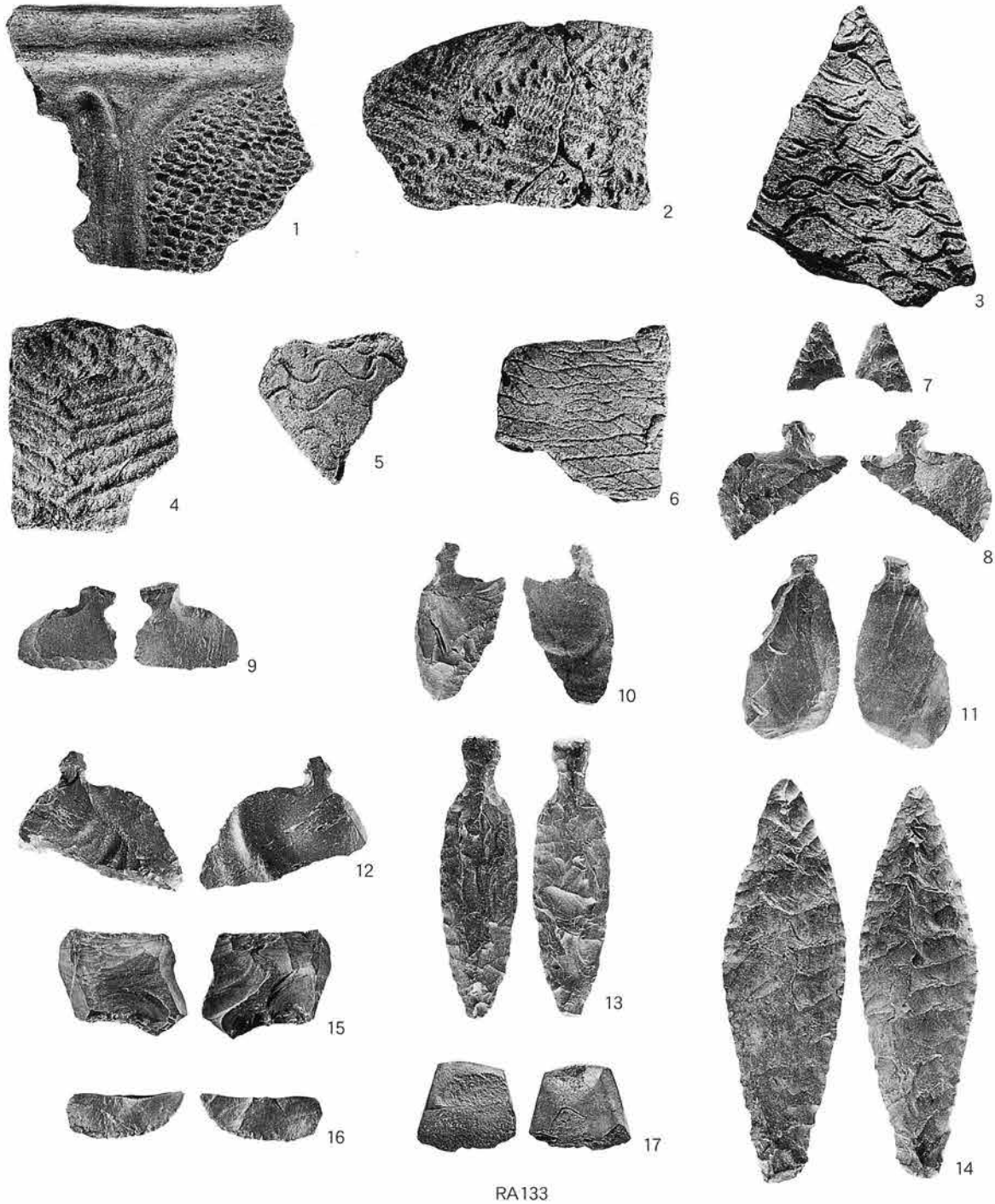
写真図版129　RA116住居跡出土遺物（1）



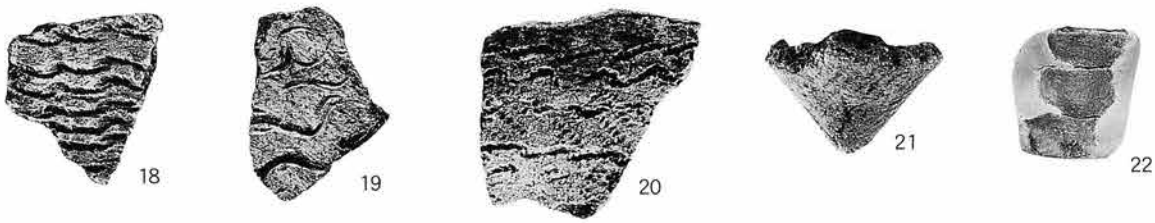
写真図版130　RA116住居跡出土遺物（2）



写真図版131　RA116・132・133住居跡出土遺物

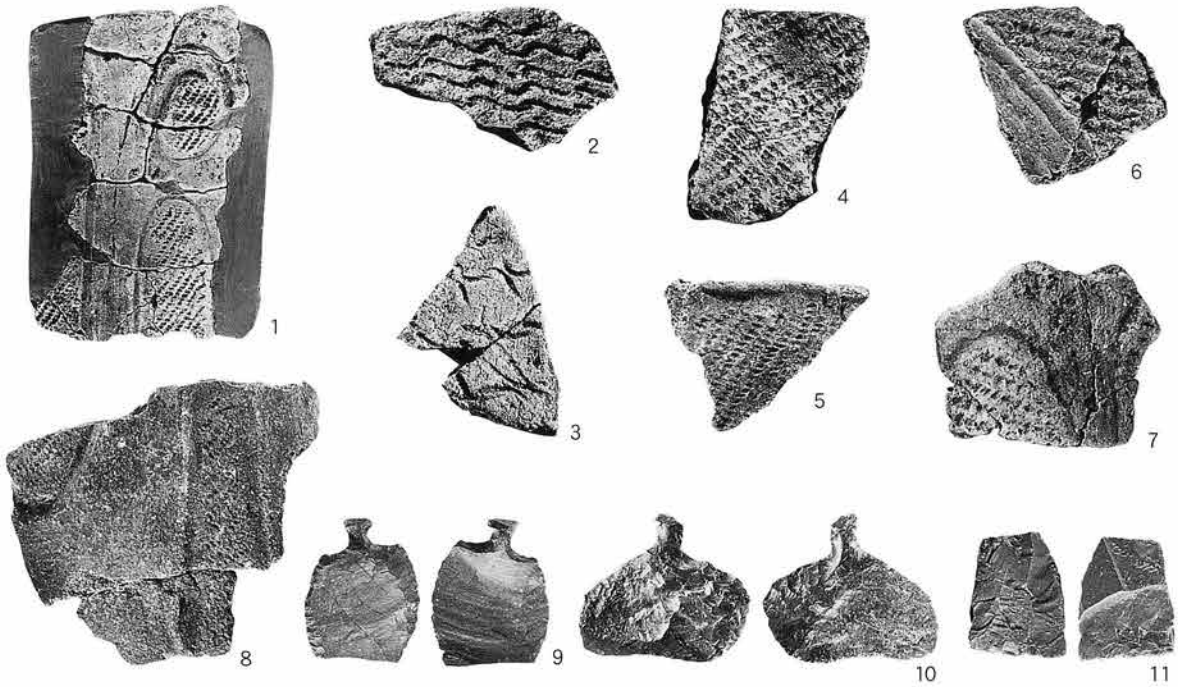


RA133

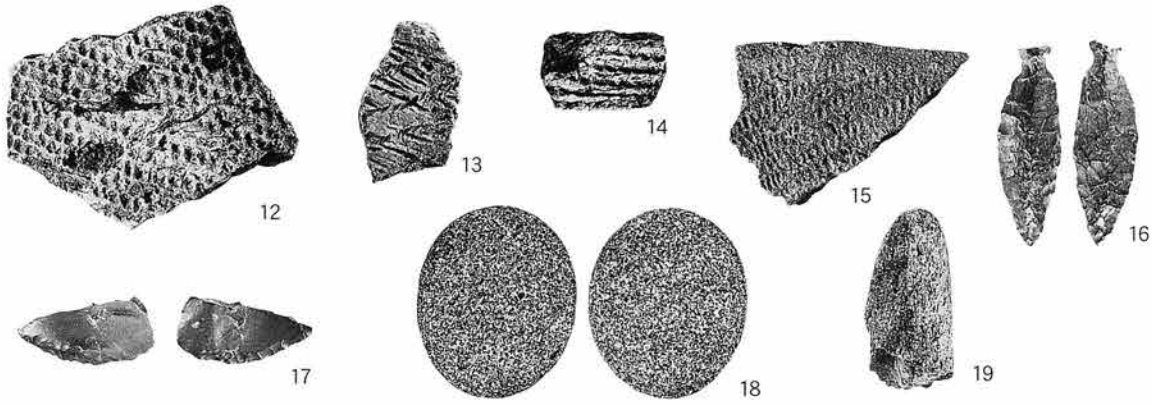


RA134

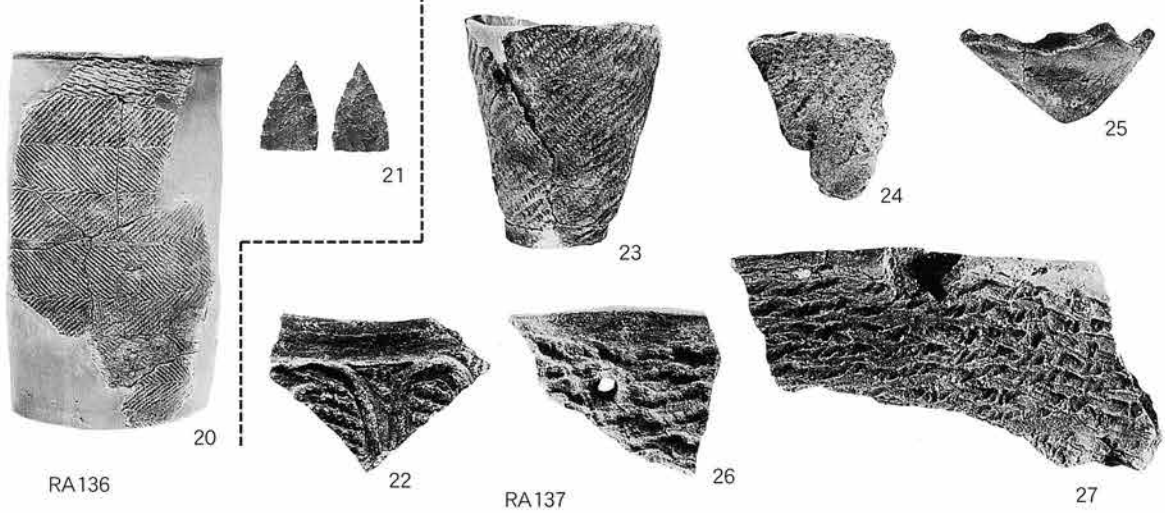
写真図版132　RA133・134住居跡出土遺物



RA134



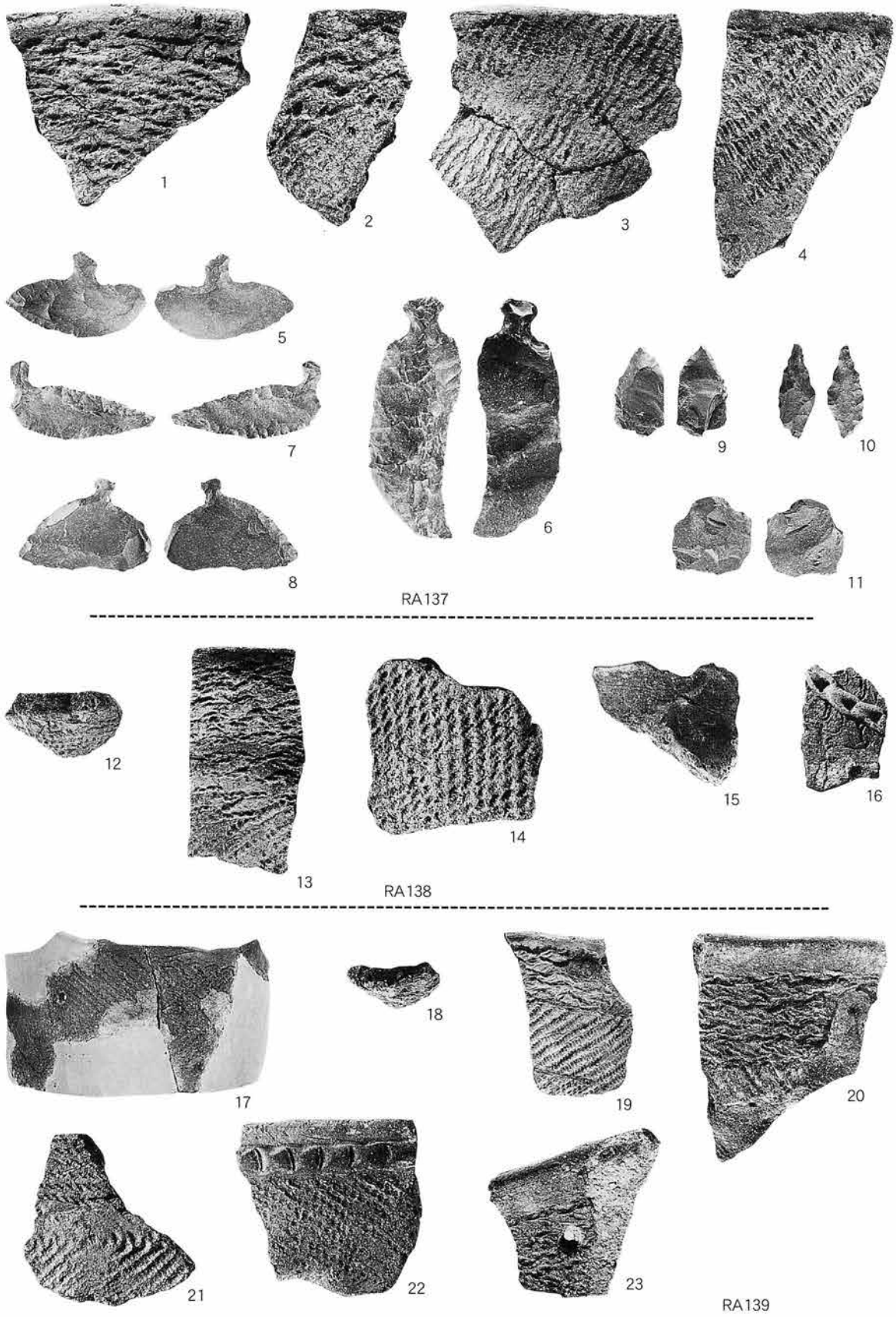
RA135



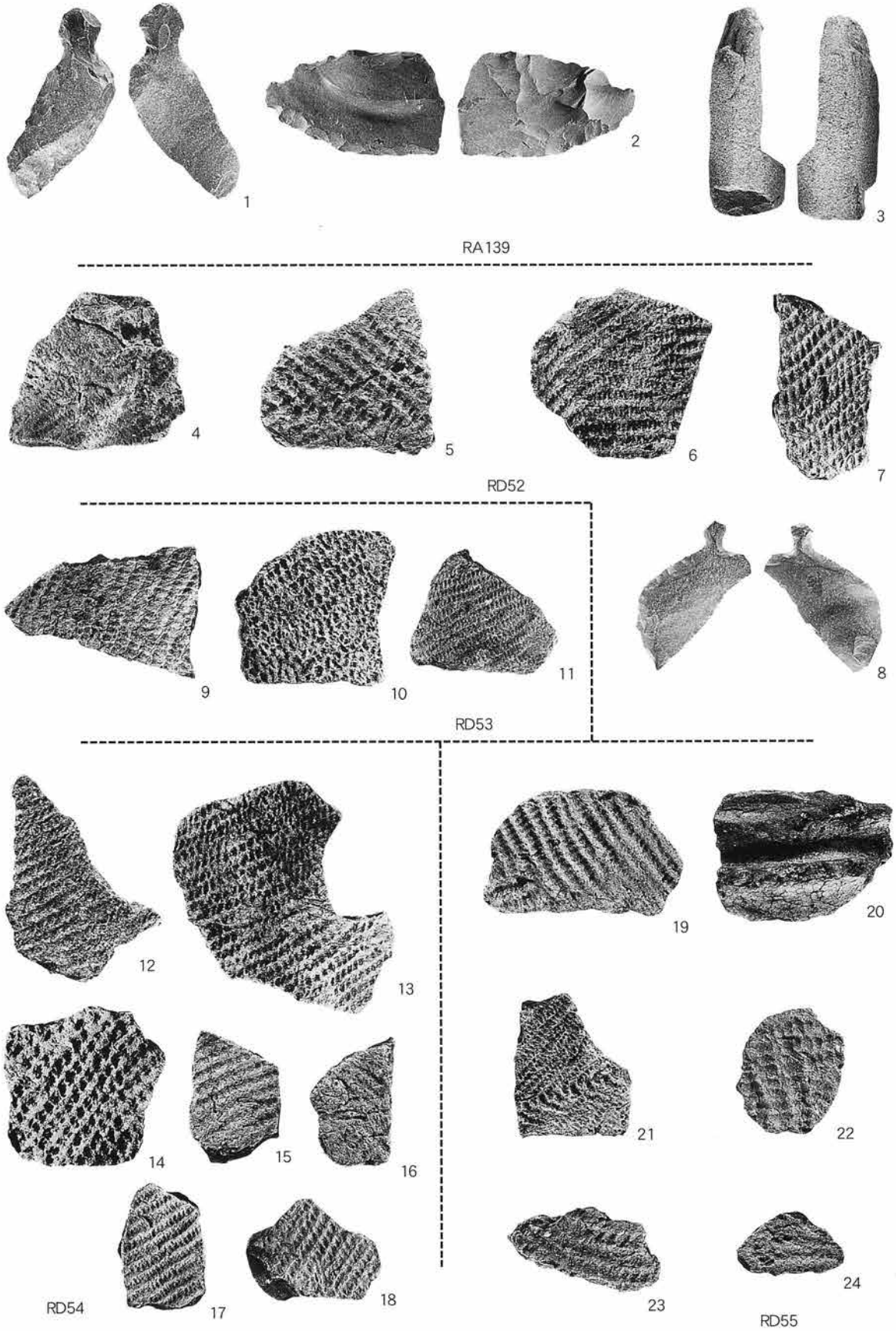
RA136

RA137

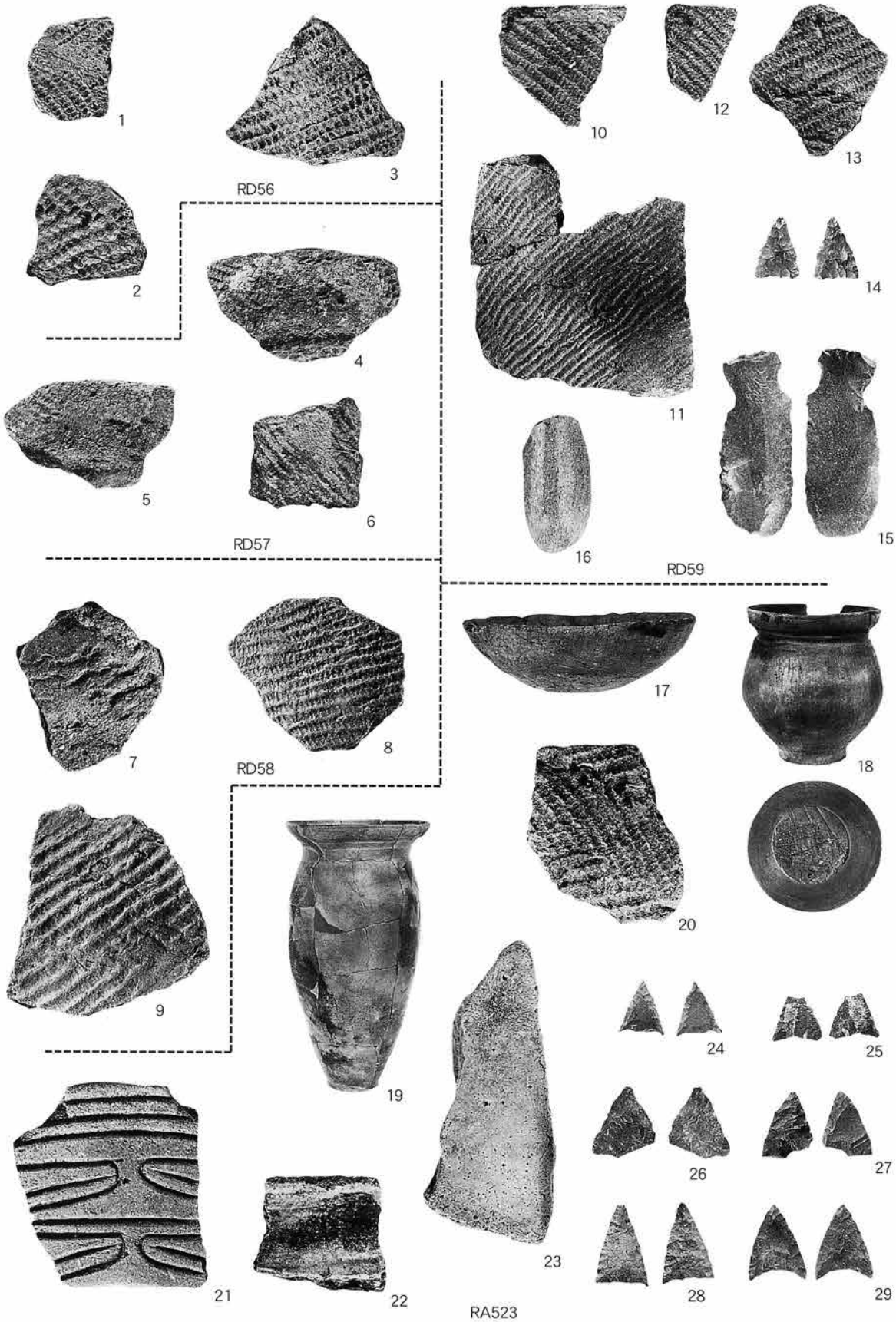
写真図版133　RA134～137住居跡出土遺物



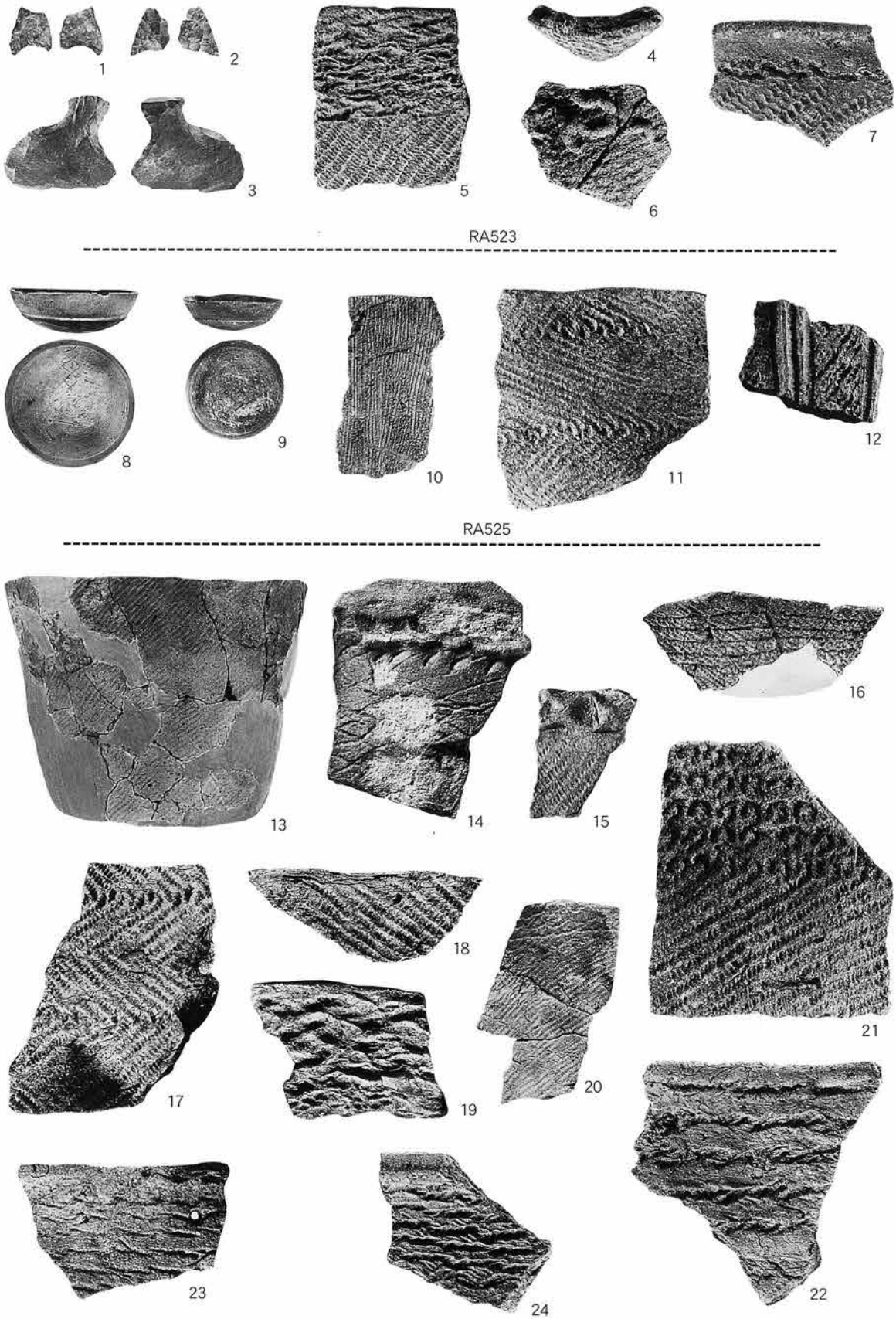
写真図版134　RA137～139住居跡出土遺物



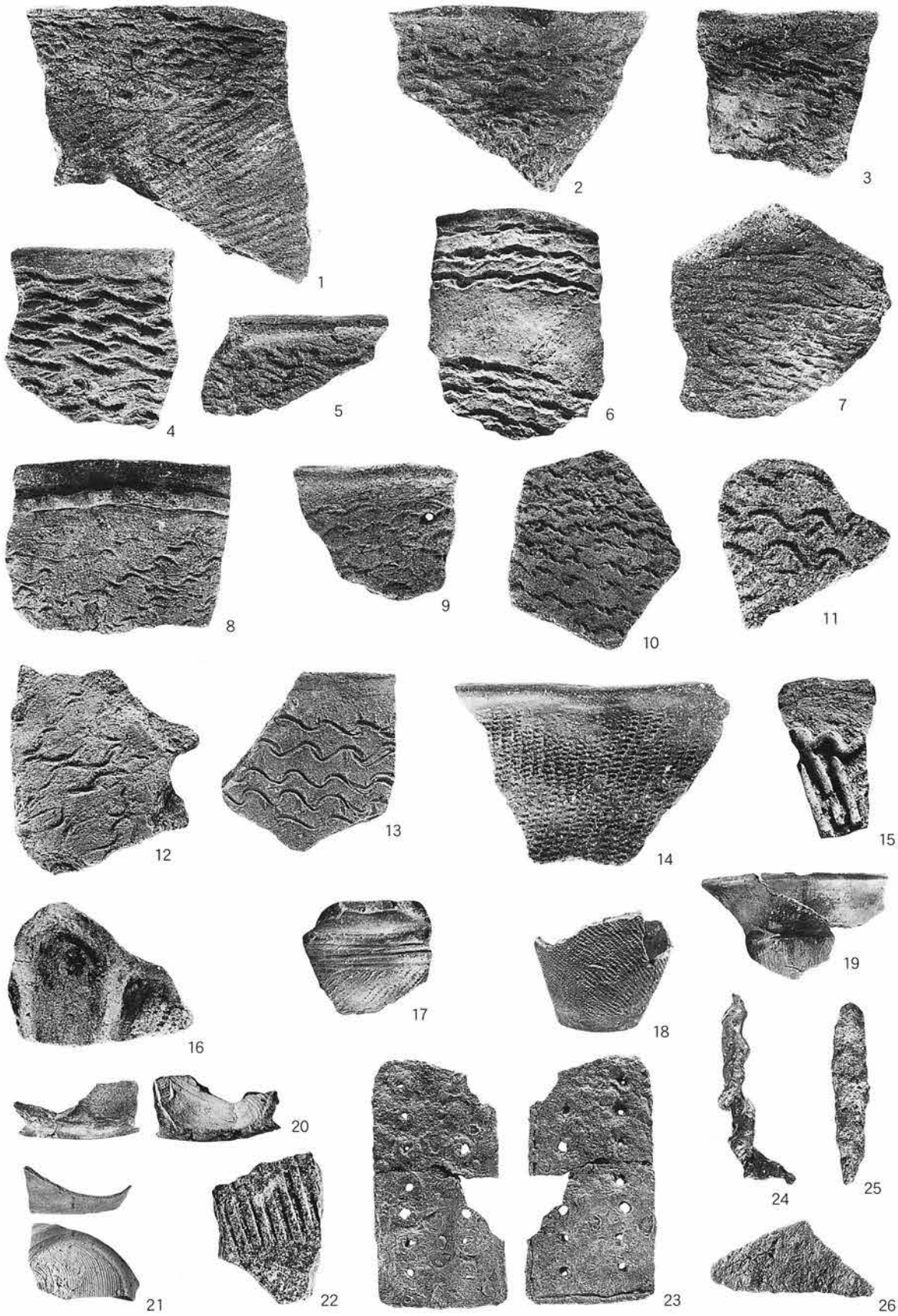
写真図版135　RA139住居跡、RD52～55土坑出土遺物



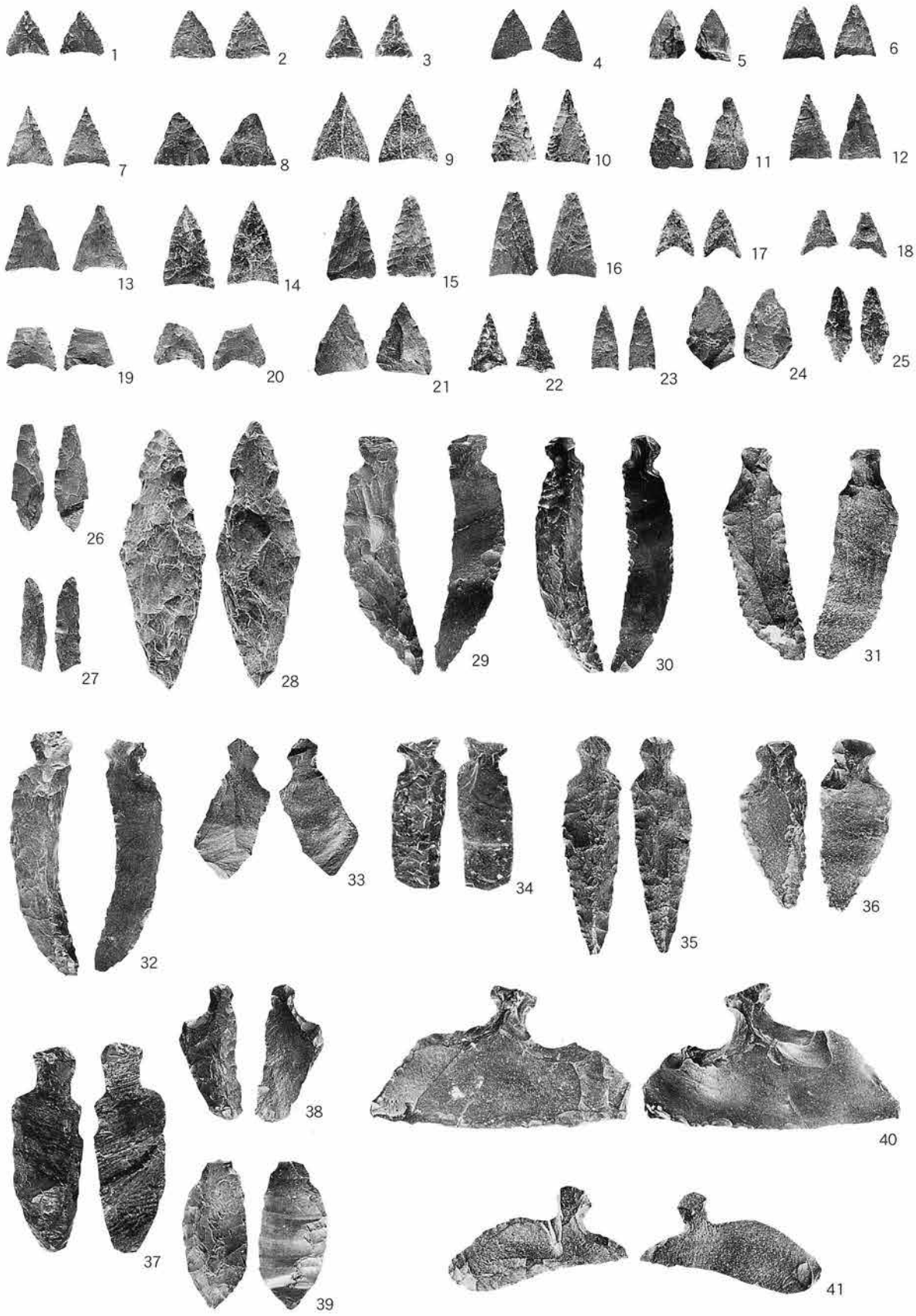
写真図版136　RD56～59土坑、RA523住居跡出土遺物



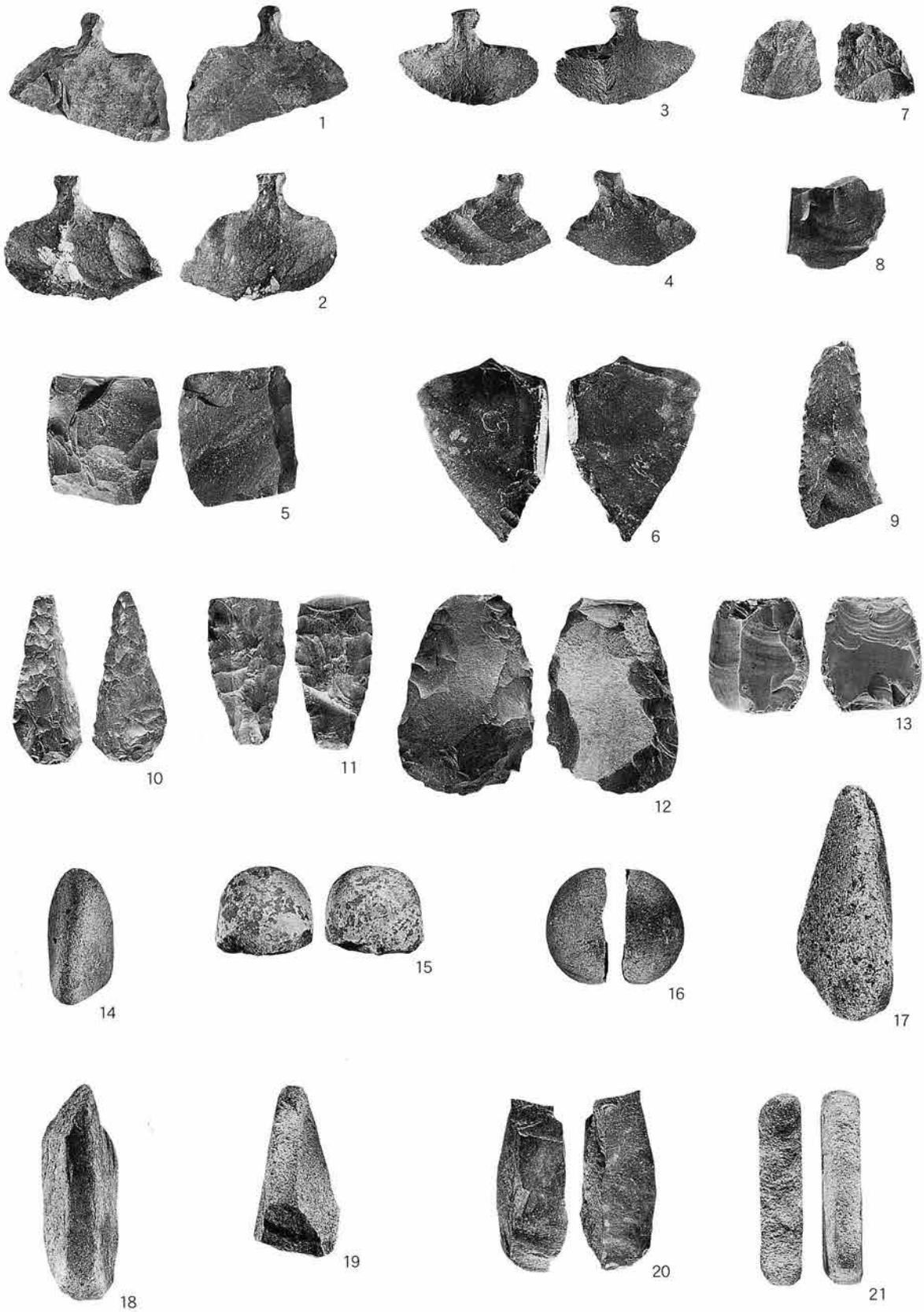
写真図版137　RA523・525住居跡、遺構外出土遺物



写真図版138　遺構外出土遺物（2）



写真図版139　遺構外出土遺物（3）



写真図版140　遺構外出土遺物（4）

報告書抄録

ふりがな	さわだいちいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書
副書名	三陸自動車道（山田道路）関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第318集
編著者名	佐々木清文　千葉正彦　星　雅之
編集機関	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185　TEL 019-638-9001 FAX 019-638-8563
発行年月日	2000年３月31日

ふりがな	さわだいちいせき
所収遺跡名	沢田Ⅰ遺跡
ふりがな	いわてけんしもへいぐんやまだちょうやまだ
所在地	岩手県下閉伊郡山田町山田4地割10ほか
コード	市町村　03482　　遺跡番号
北緯	39°28′39″
東経	141°57′9″
調査期間	19940801～19941111、19950615～19950804、19960801～19960830、19970407～19971113
調査面積	11,680㎡
調査原因	道路建設にかかる事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沢田Ⅰ遺跡	集落	縄文 弥生 奈良 平安	縄文住居　120 弥生住居　7 古代住居　44 土坑　132 落し穴　3 焼土　23 木炭窯　2 溝跡　3 鍛冶工房　1	縄文土器　63箱 石器　835点 土師器・須恵器　30箱 鉄製品　50点 鉄滓　30kg 羽口　20点	縄文時代前期～平安時代の遺構が重複

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所　　長　佐藤　　基
副所長　伊藤直司

〔管理課〕

課　　長　川浪清徳
主　　査　立花多加志
主　　事　日影睦夫

〔調査第一課〕

課　　長　小田野哲憲
課長補佐　佐々木清文
主任文化財専門調査員　酒井宗孝
〃　小山内　透
文化財専門調査員　中田　迪
〃　吉田　充
〃　鎌田　勉
〃　小笠原健一郎
〃　鳥居達人
〃　濱田　宏
〃　佐々木進悦
〃　安藤由紀夫
〃　木戸口俊子
〃　小野寺正之
〃　阿部勝則
〃　千葉正彦
〃　羽柴直人
〃　高木　晃
〃　佐藤淳一
〃　菅原靖男
〃　半澤武彦
〃　朝倉雄大
〃　菊池貴広
〃　村上　拓
〃　本多準一郎
〃　中村直美
〃　丸山浩治
期限付専門職員　佐藤綾子
〃　平　めぐみ
〃　北田　勲
〃　江藤　敦
〃　小林弘卓
〃　小原広幸
嘱　　託　藤島恵子
〃　新田トヨ
〃　佐々木光重

〔調査第二課〕

課　　長　高橋　與右衛門
課長補佐　中川重紀
主任文化財専門調査員　高橋義介
文化財専門調査員　古舘貞身
〃　阿部眞澄
〃　松尾芳幸
〃　小原眞一
〃　工藤　徹
〃　前田　稔
〃　金子佐知子
〃　岩渕　計
〃　早坂　悟
〃　佐々木　務
〃　晴山雅光
〃　星　雅之
〃　佐々木　琢
〃　杉沢昭太郎
〃　溜　浩二郎
〃　北村忠昭
〃　金子昭彦
期限付専門職員　鈴木　聡
〃　平澤里香
〃　布谷義彦
〃　山口俊規
〃　熊谷佳恵
〃　吉田里和
〃　藤原賢徳
〃　吉川　徹

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集
沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書第１分冊
三陸縦貫自動車道（山田道路）関連遺跡発掘調査
印刷　平成12年３月27日
発行　平成12年３月31日
発行　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11-185
電　話　(019) 638-9001
ＦＡＸ　(019) 638-8563
印刷　㈱　杜　陵　印　刷
〒020-0122　盛岡市みたけ二丁目22-50
電　話　(019) 641-8000
ＦＡＸ　(019) 641-8085

©（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000